

JP1 Version 9

**JP1/NETM/DM 運用ガイド 2 (Windows(R)
用)**

手引・操作書

3020-3-S82-80

対象製品

- P-2642-1194 JP1/NETM/DM Manager 09-51 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP Professional , Windows 2000) *
- P-2642-1394 JP1/NETM/DM Client 09-51 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP , Windows 2000 , Windows NT 4.0 , Windows Me , Windows 98) *
- P-2642-2394 JP1/NETM/DM Client - Base 09-51 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP , Windows 2000 , Windows NT 4.0 , Windows Me , Windows 98) *
- P-F2642-23941 JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature 09-51 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP , Windows 2000 , Windows NT 4.0 , Windows Me , Windows 98) *
- P-F2642-23942 JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature 09-51 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP , Windows 2000 , Windows NT 4.0 , Windows Me , Windows 98) *
- P-F2642-23943 JP1/NETM/DM Client - Remote Control Feature 09-51 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP , Windows 2000 , Windows NT 4.0 , Windows Me , Windows 98) *
- P-2A42-1194 JP1/NETM/DM Manager 09-51 (適用 OS : Windows 8 , Windows Server 2012 , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Vista) *
- P-2C42-1394 JP1/NETM/DM Client 09-51 (適用 OS : Windows 8 , Windows Server 2012 , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Vista) *
- P-2C42-2394 JP1/NETM/DM Client - Base 09-51 (適用 OS : Windows 8 , Windows Server 2012 , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Vista) *
- P-F2C42-23941 JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature 09-51 (適用 OS : Windows 8 , Windows Server 2012 , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Vista) *
- P-F2C42-23942 JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature 09-51 (適用 OS : Windows 8 , Windows Server 2012 , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Vista) *
- P-F2C42-23943 JP1/NETM/DM Client - Remote Control Feature 09-51 (適用 OS : Windows 8 , Windows Server 2012 , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Vista) *
- P-1B42-2J71 JP1/NETM/DM NNM 連携機能 07-00 (適用 OS : HP-UX)
- P-2642-1C74 JP1/NETM/DM Internet Gateway 07-00 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP Professional , Windows 2000 , Windows NT Server 4.0)
- P-2642-1D74 JP1/NETM/DM HTTP Gateway 07-00 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP , Windows 2000 , Windows NT 4.0 , Windows Me , Windows 98)
- P-2842-1384 JP1/NETM/DM Client 08-00 (適用 OS : Windows Server 2003 (IPF))
- P-9T42-1371 JP1/NETM/DM Client 07-00 (適用 OS : Windows CE .NET 4.1)

*印の製品は、ISO9001 および TickIT の認証を受けた品質マネジメントシステムで開発されました。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Acrobat は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

BitLocker は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Bluetooth は、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。

Citrix XenApp は、Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Compaq は、米国 Compaq Computer Corporation の商標です。

DEC は、米国 Digital Equipment Corp. の商標です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P. のオペレーティングシステムの名称です。

i486 は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
InstallShield は、Macrovision Corporation の米国および / または他の国における登録商標または商標です。
Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Access は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft .NET は、お客様、情報、システムおよびデバイスを繋ぐソフトウェアです。
Microsoft Internet Information Server は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
Microsoft Internet Information Services は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
Microsoft Office は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft および SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Windows Sockets は、米国 Microsoft Corporation が開発したプログラミングインタフェースの仕様の名称です。
MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Netscape(R) Communicator は、Netscape Communications Corporation の商標です (一部の国では、登録商標となっていない)。
ODBC は、米国 Microsoft Corporation が提唱するデータベースアクセス機構です。
Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
PowerPC は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。
Visual C++ は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Visual Test は、米国 Rational Software Corporation の商品名称です。
Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
秘文は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。
その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

発行

2013 年 2 月 3020-3-S82-80

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2013, Hitachi, Ltd.

Copyright, patent, trademark, and other intellectual property rights related to the "TMEng.dll" file are owned exclusively by Trend Micro Incorporated.

変更内容

変更内容 (3020-3-S79-80 , 3020-3-S80-80 , 3020-3-S81-80 , 3020-3-S82-80) JP1/NETM/DM 09-51

追加・変更内容	変更箇所
<p>適用 OS に Windows 8 および Windows Server 2012 を追加した。</p>	<p>導入：はじめに, 1.3.6, 2.2.1, 2.2.2, 2.5.2, 2.5.3, 2.5.4, 2.5.5, 2.5.6, 2.5.8, 2.7.1, 2.7.2, 2.7.6, 2.13.3, 2.13.7, 2.14.5, 5.1.5, 6.6.1, 付録 A.2, 付録 C.23, 付録 C.61, 付録 C.62, 付録 F</p> <p>構築：はじめに, 1.1.1, 1.1.2, 2.1.4, 2.1.6, 2.1.25, 3.1.4, 3.1.16, 3.2.4, 4.6, 5.4, 6.3, 7.4.1, 7.4.5, 7.5.1, 9.5.2, 10.6.2, 10.10, 10.11, 11.1.1, 11.1.2, 付録 B, 付録 H</p> <p>運用 1：はじめに, 2.2.3, 2.2.5, 2.2.9, 2.2.10, 3.1.2, 3.2.2, 6.2.6, 6.2.10, 6.5.3, 6.6.4, 11.1.2, 11.7, 付録 F</p> <p>運用 2：はじめに, 1.1.1, 4.26.20, 4.28, 6.7.4, 6.7.7, 7.2.1, 付録 A, 付録 A.1, 付録 A.2, 付録 A.3, 付録 A.4, 付録 A.5, 付録 A.6, 付録 E.1, 付録 E.2, 付録 E.3, 付録 E.4, 付録 I</p>
<p>リレーショナルデータベースのプログラムに, Microsoft SQL Server 2012 を使用できるようにした。</p>	<p>導入：2.6.5, 5.2.8, 5.4.2</p> <p>構築：7.1.1, 7.3.2, 7.5.4, 7.6, 11.1.1, 11.1.2, 付録 A.2, 付録 F</p> <p>運用 2：6.3.2</p>
<p>ソフトウェア情報として取得できるウィルス対策製品を追加した。</p>	<p>導入：2.2.2(1)</p>

(凡例)

導入：マニュアル「JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」

構築：マニュアル「JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)」

運用 1：マニュアル「JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」

運用 2：マニュアル「JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 2(Windows(R) 用)」

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、JP1/NETM/DM のシステム運用方法について説明したものです。

このマニュアルでは、他の製品と JP1/NETM/DM との連携、およびトラブルが発生したときの対処方法について説明しています。また、Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client、および Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の機能についても説明しています。

なお、このマニュアルを含め、Windows 版 JP1/NETM/DM のマニュアルには次の 7 冊があります。各マニュアルの目的を次に示しますので、必要に応じてお読みください。

JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R) 用)

最初にお読みいただくマニュアルです。

JP1/NETM/DM の概要や機能、代表的な構築例および使用例を紹介しています。また、JP1/NETM/DM を導入するための手順や、あらかじめ検討しておく必要があることについても説明しています。

JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)

JP1/NETM/DM のインストール・セットアップの手順、データベースの構築、およびシステム構成の管理方法について説明しています。

JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)

ソフトウェアの配布、インベントリ情報の取得および管理、ファイルの収集など、配布管理システムの各機能の詳細と操作方法を説明しています。また、クライアントの操作方法についても説明しています。

JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 2(Windows(R) 用)

他の製品と JP1/NETM/DM との連携、およびトラブルが発生したときの対処方法について説明しています。また、Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client、および Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の機能についても説明しています。

JP1 Version 9 JP1/NETM/DM Automatic Installation Tool ガイド (Windows(R) 用)

他社ソフトウェアをパッケージングするときに使用する AIT ファイルやレコーダファイルの作成方法を説明しています。

JP1 Version 9 JP1/NETM/DM Administrator Kit

JP1/NETM/DM Client を自動的にインストールするために使用する JP1/NETM/DM Administrator Kit について説明しています。

JP1 Version 9 JP1/NETM/Remote Control

JP1/NETM/Remote Control および JP1/NETM/DM のリモートコントロール機能について説明しています。

対象読者

このマニュアルは、次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。

- JP1/NETM/DM を利用してソフトウェアの配布や資産情報を収集・管理する管理者の方
- Microsoft Windows の操作に関する基本的な知識をお持ちの方
- ネットワークに関する基本的な知識をお持ちの方

関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R) 用) (3020-3-S79)

- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用) (3020-3-S80)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用) (3020-3-S81)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM Automatic Installation Tool ガイド (Windows(R) 用) (3020-3-S83)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM Administrator Kit (3020-3-S84)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/Remote Control (3020-3-S87)
- JP1 Version 6 JP1/NETM/DM Manager (3000-3-841)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM Client(UNIX(R) 用) (3020-3-S85)
- JP1 Version 5 統合ネットワーク管理システム / ソフトウェア配布管理支援 / ワークステーション JP1/NETM/DM/W (3000-3-817)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド (3020-3-S76)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド (3020-3-S77)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド (3020-3-S78)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/Client Security Control (3020-3-S71)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/Audit 構築・運用ガイド (3020-3-S90)
- JP1 Version 10 JP1/Audit Management - Manager 構築・運用ガイド (3021-3-165)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 解説 (3020-3-K21)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド (3020-3-K22)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド (3020-3-K24)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス (3020-3-K25)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド (3020-3-K27)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ (3020-3-K28)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 入門 (3020-3-S01)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド (3020-3-S02)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)(3020-3-S03)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (業務設計編)(3020-3-S04)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド (3020-3-S07)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング (3020-3-S08)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド (3020-3-S09)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1 (3020-3-S10)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 2 (3020-3-S11)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 連携ガイド (3020-3-S12)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 1 (3020-3-S13)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 2 (3020-3-S14)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 入門 (3021-3-101-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド (3021-3-102-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)(3021-3-103-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (業務設計編)(3021-3-104-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド (3021-3-107-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング (3021-3-108-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド (3021-3-109-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1 (3021-3-110-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 2 (3021-3-111-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 連携ガイド (3021-3-112-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 1 (3021-3-113-01)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 2 (3021-3-114-01)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3020-3-R77)

- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド (3020-3-R78)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3021-3-008)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド (3021-3-009)
- JP1 Version 9 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-R71)
- JP1 Version 9 JP1/Base メッセージ (3020-3-R72)
- JP1 Version 9 JP1/Base 関数リファレンス (3020-3-R73)
- JP1 Version 10 JP1/Base 運用ガイド (3021-3-001)
- JP1 Version 10 JP1/Base メッセージ (3021-3-002)
- JP1 Version 10 JP1/Base 関数リファレンス (3021-3-003)
- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド (3020-3-L01)
- JP1 Version 9 JP1/ 秘文 セットアップガイド (管理者用)(3020-3-T32)
- JP1 Version 10 JP1/ 秘文 セットアップガイド (管理者用)(3021-3-192)
- HiRDB Version 8 メッセージ (3020-6-358)
- 帳票作成機能 EUR EUR 帳票設計 (3020-7-481)
- 帳票作成機能 EUR EUR 帳票出力 (3020-7-483)
- 帳票作成機能 EUR EUR Print Service 帳票出力 (3020-7-484)

このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、JP1/NETM/DM 関連製品の名称を次のように表記します。

表記	製品名称
64 ビット版 JP1/NETM/DM Client	Windows Server 2003 (IPF) 対応 JP1/NETM/DM Client
	Windows Server 2003 (IPF) 対応 JP1/NETM/DM Client Light Edition
64 ビット版 JP1/NETM/Remote Control Agent	Windows Server 2003 (IPF) 対応 JP1/NETM/Remote Control Agent
HTTP Gateway	JP1/NETM/DM HTTP Gateway
Internet Gateway	JP1/NETM/DM Internet Gateway
JP1/NETM/Client Security Control または JP1/NETM/CSC	JP1/NETM/Client Security Control - Agent
	JP1/NETM/Client Security Control - Manager
JP1/NETM/DM	JP1/NETM/DM Client
	JP1/NETM/DM Client
	JP1/NETM/DM Client - Base
	JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature
	JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature
JP1/NETM/Remote Control	JP1/NETM/DM Client - Remote Control Feature
	JP1/NETM/DM Manager
JP1/NETM/Remote Control	JP1/NETM/Remote Control Agent
	JP1/NETM/Remote Control Manager
JP1/Remote Control	JP1/Remote Control Agent
	JP1/Remote Control Manager
MS-DOS	Microsoft(R) MS-DOS(R)
Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client	Windows 8, Windows Server 2012, Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista 対応の JP1/NETM/DM Client

表記	製品名称
Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client - Base	Windows 8, Windows Server 2012, Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista 対応の JP1/NETM/DM Client - Base
Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client	Windows CE .NET 4.1 対応の JP1/NETM/DM Client

そのほかの製品名称, および名称について次のように表記します。

表記	製品名称および名称	
AMT	Intel Active Management Technology	
EUR	EUR : イーユーアール Print Service	
	EUR : イーユーアール Professional Edition	
	EUR : イーユーアール Viewer	
HP NNM	HP Network Node Manager Software バージョン 6 以前	
	HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前	
InstallShield	InstallShield(R)	
Itanium 2	Intel Itanium(R) 2 プロセッサ	
JP1/AJS	JP1/Automatic Job Management System 2	
	JP1/Automatic Job Management System 3	
JP1/NETM/Audit Manager	JP1/NETM/Audit Manager	
	JP1/Audit Management - Manager	
JP1/Cm2/SSO ¹	JP1/Cm2/SSO ¹	
	JP1/PFM/SSO	
	JP1/SSO	
JP1/Cm2 または JP1/Cm2/NNM ²	JP1/Cm2/NNM ²	
	JP1/Cm2/NNM 250	JP1/Cm2/Network Node Manager 250 バージョン 6
		JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョン 8
	JP1/Cm2/NNM Enterprise	JP1/Cm2/Network Node Manager Enterprise バージョン 6
JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8		
JP1/IM	JP1/IM - Manager	
	JP1/IM - View	
JP1/ 秘文	JP1/ 秘文 CG Pro	
	JP1/ 秘文 IC	
	JP1/ 秘文 IF	
	JP1/ 秘文 IF Mail Option	
	JP1/ 秘文 IS	
Linux	Linux(R)	

表記				製品名称および名称
MBSA				Microsoft(R) Baseline Security Analyzer
Microsoft Internet Explorer				Microsoft(R) Internet Explorer
				Windows(R) Internet Explorer(R)
Microsoft Internet Information Services				Microsoft(R) Internet Information Services 6.0
				Microsoft(R) Internet Information Services 7.0
Microsoft SQL Server				Microsoft(R) SQL Server(R) 7.0
				Microsoft(R) SQL Server(R) 2000
				Microsoft(R) SQL Server(R) 2005
				Microsoft(R) SQL Server(R) 2008
				Microsoft(R) SQL Server(R) 2012
Oracle				Oracle8i
				Oracle9i
Pentium				Intel Pentium(R)
Visual Test				Visual Test 4.0
				Visual Test 6.0
Windows	Windows 98			Microsoft(R) Windows(R) 98 Operating System
	Windows Me			Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition Operating System
	Windows NT	Windows 2000	Windows 2000 Advanced Server	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System
			Windows 2000 Datacenter Server	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Datacenter Server Operating System
			Windows 2000 Professional	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System
			Windows 2000 Server	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
	Windows 7			Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
				Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
				Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
	Windows 8			Microsoft(R) Windows(R) 8
				Microsoft(R) Windows(R) 8 Enterprise
				Microsoft(R) Windows(R) 8 Pro
	Windows NT 4.0	Windows NT Server 4.0	Windows NT Server 4.0	Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version4.0
			Windows NT Workstation 4.0	Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation Operating System Version4.0
	Windows Server 2003 3	Windows Server 2003 3	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition

表記		製品名称および名称	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition	
		Windows Server 2003 (IPF)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
		Windows Server 2003 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition	
	Windows Server 2008 ₄	Windows Server 2008 ₄	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(R)
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(R)
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(R)
		Windows Server 2008 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard		
Windows Server 2012		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard	
Windows Vista		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business	
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise	

表記		製品名称および名称
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
	Windows XP	Windows XP Home Edition Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System
	Windows XP Professional	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System
Windows 95		Microsoft(R) Windows(R) 95 Operating System
Windows CE		Microsoft(R) Windows(R) CE Operating System
WSUS	WSUS 2.0	Microsoft(R) Windows Server(R) Update Services 2.0
	WSUS 3.0	Microsoft(R) Windows Server(R) Update Services 3.0
WUA		Windows(R) Update Agent 2.0
		Windows(R) Update Agent 3.0
秘文	秘文 FDE	秘文 AE Full Disk Encryption
	秘文 IC	秘文 AE Information Cypher
	秘文 IF	秘文 AE Information Fortress
	秘文 IF Mail Option	秘文 AE IF Mail Option
	秘文 IS	秘文 AE Information Share

注 1

JP1/PFM/SSO または JP1/SSO を併記している場合は、JP1/Cm2/SSO に JP1/PFM/SSO および JP1/SSO は含まれません。

注 2

JP1/Cm2/NNM 250 または JP1/Cm2/NNM Enterprise を併記している場合は、JP1/Cm2/NNM に JP1/Cm2/NNM 250 および JP1/Cm2/NNM Enterprise は含まれません。

注 3

Windows Server 2003 (IPF) または Windows Server 2003 (x64) を併記している場合は、Windows Server 2003 に Windows Server 2003 (IPF) および Windows Server 2003 (x64) は含まれません。

注 4

Windows Server 2008 R2 を併記している場合は、Windows Server 2008 に Windows Server 2008 R2 は含まれません。

このマニュアルで使用している英略語

このマニュアルで使用している主な英略語を次に示します。

英略語	正式名称
API	Application Programming Interface
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
BIOS	Basic Input/Output System
BOM	Byte Order Mark
CD-ROM	Compact Disc Read Only Memory
CF	CompactFlash
CGI	Common Gateway Interface
CPU	Central Processing Unit
CSV	Comma Separated Values

英略語	正式名称
DB	Database
DBMS	Database Management System
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
DLL	Dynamic Linking Library
DNS	Domain Name System
DVD	Digital Versatile Disk
FD	Floppy Disk
GDI	Graphic Device Interface
GUI	Graphical User Interface
HD	Hard Disk
HTML	Hypertext Markup Language
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
I/O	Input/Output
ID	Identifier
IDE	Integrated Drive Electronics
IE	Internet Explorer
IEEE 1394	Institute of Electrical and Electronic Engineers 1394
IP	Internet Protocol
IPF	Itanium(R) Processor Family
JIS	Japanese Industrial Standards
LAN	Local Area Network
MIME	Multipurpose Internet Mail Extension
MS-DOS	Microsoft Disk Operating System
NIC	Network Interface Card
ODBC	Open Database Connectivity
OS	Operating System
PC	Personal Computer
PDA	Personal Digital Assistant
PKI	Public Key Infrastructure
PP	Program Product
RDB	Relational Database
RDBMS	Relational Database Management System
RISC	Reduced Instruction Set Computer
SD	Secure Digital
SMBIOS	System Management Basic Input/Output System
SOL	Serial Over LAN
SSID	Service Set ID
TCP	Transmission Control Protocol
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
UDP	User Datagram Protocol

英略語	正式名称
UNC	Universal Naming Convention
URL	Uniform Resource Locator
USB	Universal Serial Bus
UTC	Coordinated Universal Time
UUID	Universally Unique Identifier
VRAM	Video Random Access Memory
WAN	Wide Area Network
WINS	Windows Internet Name Service
WMI	Windows Management Instrumentation
WS	Workstation
WWW	World Wide Web

マニュアル間の参照指示について

マニュアル「JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」、「JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)」、「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」、「JP1/NETM/DM 運用ガイド 2(Windows(R) 用)」または「JP1/NETM/DM Automatic Installation Tool ガイド (Windows(R) 用)」間で、相互にマニュアルを参照していただく場合、次の形式で参照指示しています。

『AA については、マニュアル「BBB」の「n.n.n XXXXX」を参照してください。』

AA

参照していただく項目です。

BBB

参照先マニュアルの略称です。マニュアル名称の共通部分（「JP1/NETM/DM」および「(Windows(R) 用)」の部分）を省略しています。省略されている部分を補ってお読みください。

n.n.n

参照先の章・節・項番号です。(1) や (a) などの括弧付き項番が付く場合もあります。

XXXXX

参照先の標題（見出し）です。

マニュアルで使用している記号

このマニュアルで使用している記号を次のように定義します。

記号	意味
[]	ウィンドウ、ダイアログボックス、タブ、パネル、メニュー、ボタン、アイコン、グループ、フォルダ、およびキーの名称を示す。
「 」	画面上の文字列、記号、およびジョブの名称を示す。
[A] - [B]	メニューを連続して選択することを示す。 (例) [ファイル] - [新規作成] 上記の例では、[ファイル] メニューを選択して、プルダウンメニューから [新規作成] を選択することを示す。
[X] + [Y]	キーを同時に押すことを示す。 (例) [Ctrl] + [C] キー 上記の例では、[Ctrl] キーと [C] キーを同時に押すことを示す。
斜体文字	可変の値を示す。 (例) 日付は YYYYYMMDD の形式で指定する。

文法で使用している記号

文法で使用している記号を次のように定義します。

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示す。 (例) A B C は、「A、B または C」を示す。
{ } (波括弧)	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず 1 組の項目を選択する。項目の区切りは で示す。 (例) {A B C} は「A、B または C のどれかを指定する」ことを示す。
[] (角括弧)	この記号で囲まれている項目は任意に指定できる(省略してもよい)。複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択する。 (例) [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示す。[B C] は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示す。
... (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できる。項目と項目の間は、一つ以上のスペースで区切る。 (例) A... は「A のあとに A を必要個数指定できる」ことを示す。
<u> </u> (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムが採る標準値を示す。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効である。 (例) [<u>A</u> B] はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したと見なすことを示す。

図中で使用している記号

このマニュアルの図中で使用している記号を、次のように定義します。

●PCまたはWS



●ノート型PC



●サーバ



●プログラム



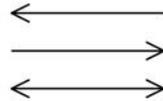
●ファイル



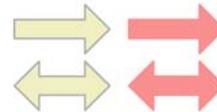
●リレーショナルデータベース



●制御の流れ



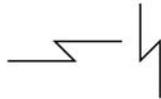
●データの流れ



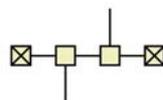
●入出力の動作



●通信回線



●ネットワーク LAN



●ネットワーク WAN



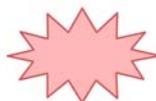
●モデム



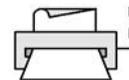
●CD-ROM



●トラブル



●ファクシミリ



マニュアルの使用方法

- このマニュアルでは、特に記載がない場合、接続先の JP1/NETM/DM 製品のバージョンを、Windows 版は 09-51、UNIX 版 JP1/NETM/DM Manager は 06-75、UNIX 版 JP1/NETM/DM Client は 09-00 と仮定してい

ます。接続先システムが上記より前のバージョンの JP1/NETM/DM 製品を使用している場合、そのバージョンがサポートする機能だけを実現できます。

- UNIX 版 JP1/NETM/DM との用語差異および機能差異については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「付録 D.3 Windows 版 JP1/NETM/DM と UNIX 版 JP1/NETM/DM の用語差異および機能差異」を参照してください。
- Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client との機能差異については、「付録 A Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client の機能」を参照してください。
- 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client との機能差異については、「付録 B 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の機能」を参照してください。
- Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client との機能差異については、「付録 C Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の機能」を参照してください。

HTML ヘルプについて

JP1/NETM/DM では、次に示す HTML ヘルプを提供しています。

JP1/NETM/DM のヘルプ (JP1/NETM/DM Manager, JP1/NETM/DM Client (中継システム), および JP1/NETM/DM Client - Base (中継システム) 用)

JP1/NETM/DM のヘルプの内容は、次のマニュアルを統合したものです。

- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R) 用)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R) 用)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 2 (Windows(R) 用)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM Automatic Installation Tool ガイド (Windows(R) 用)

JP1/NETM/DM Client のヘルプ (JP1/NETM/DM Client (クライアント) および JP1/NETM/DM Client - Base (クライアント) 用)

JP1/NETM/DM Client のヘルプの内容は、上記のマニュアルからクライアントの説明を抜粋したものです。

これらの HTML ヘルプでは、検索したい項目を HTML ヘルプの全文から検索できます。

JP1/NETM/DM の各ウィンドウの [ヘルプ] メニューや各ダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンから、HTML ヘルプを起動できます。HTML ヘルプは、Microsoft Internet Explorer 5.01 以降がインストールされている PC で参照してください。

KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

目次

1	JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理する	1
1.1	JP1/Base と連携する場合のシステム構成	2
1.1.1	必要なプログラム	2
1.1.2	システム構成	2
1.2	JP1 ユーザに設定できる権限と機能差異	4
1.2.1	設定できる権限	4
1.2.2	ユーザ認証が必要になる機能	4
1.2.3	使用できる操作の差異	5
1.2.4	リモートインストールマネージャの差異	6
1.2.5	CSV 出力クティリティの差異	7
1.2.6	実行できるジョブの差異	7
1.2.7	実行できるコマンドの差異	8
1.3	JP1 ユーザの設定方法	10
1.3.1	JP1/NETM/DM の運用を開始するまでの流れ	10
1.3.2	認証サーバでのユーザ設定	10
1.3.3	コマンドを実行するための設定	11
1.3.4	JP1/IM との権限の共有	12
2	JP1/IM から JP1/NETM/DM を管理する	13
2.1	JP1/IM から JP1/NETM/DM を起動する	14
2.1.1	リモートインストールマネージャの起動	14
2.1.2	リモートコントロールマネージャの起動	16
2.2	JP1/IM へ JP1 イベントを通知する	17
2.2.1	JP1 イベントの種類	17
2.2.2	JP1 イベントの属性	18
3	JP1/Cm2 または HP NNM から JP1/NETM/DM を管理する	23
3.1	JP1/Cm2/NNM または HP NNM と連携する場合のシステム構成	24
3.1.1	システム構成	24
3.1.2	ソフトウェア構成	25
3.1.3	JP1/Cm2 連携機能を使用する場合の注意事項	28
3.2	JP1/NETM/DM のシンボルを確認する	29
3.2.1	シンボルの確認方法	29
3.2.2	JP1/NETM/DM のシンボル	31
3.3	JP1/Cm2/NNM または HP NNM からインベントリ情報を確認する	34
3.3.1	インベントリ情報の確認	34
3.3.2	インベントリ情報の表示例	35
3.4	JP1/Cm2/NNM または HP NNM からジョブの実行状態を確認する	38

3.4.1	ノードサブマップからの確認	38
3.4.2	ステータス・イベントブラウザからの確認	40

4

コマンド		41
4.1	JP1/AJS と連携した自動運用の概要	43
4.2	コマンドの種類と入出力情報	46
4.2.1	コマンドの種類	46
4.2.2	コマンド実行時の入出力情報	48
4.2.3	コマンドのエラー情報の確認方法	49
4.2.4	コマンドの入力形式	49
4.3	コマンドの説明形式	51
4.4	dcmcoll.exe (ファイルの収集)	53
4.5	dcmcsvu.exe (CSV 出力)	61
4.6	dcmdice.exe (ソフトウェアインベントリ辞書のエクスポート)	66
4.7	dcmdici.exe (ソフトウェアインベントリ辞書のインポート)	69
4.8	dcmgpmnt.exe (あて先グループへのポリシーの一括反映)	73
4.9	dcmhstwo.exe (JP1/NETM/DM 未導入ホストの検出)	75
4.10	dcminst.exe (ジョブの作成, 実行)	77
4.11	dcmjbrm.exe (ジョブの削除)	83
4.12	dcmjexe.exe (ジョブの実行)	86
4.13	dcmmonrst.exe (稼働情報のデータベースへの格納)	89
4.14	dcmpack.exe (パッケージングの実行)	95
4.15	dcmpkget.exe (パッケージのバックアップの取得)	102
4.16	dcmpkput.exe (パッケージのバックアップからの復元)	106
4.17	dcmpkrm.exe (パッケージの削除)	108
4.18	dcmrmgen.exe (ジョブ定義の削除)	110
4.19	dcmrtry.exe (ジョブの再実行)	113
4.20	dcmstat.exe (ジョブの実行状況の取得)	116
4.21	dcmstdiv.exe (オフラインマシン情報の入力)	120
4.22	dcmstsw.exe (ジョブの実行状況の監視)	122
4.23	dcmsusp.exe (ファイル転送の中断と再開)	126
4.24	dcmuidi.exe (ユーザインベントリの一括入力)	130
4.25	dcmwsus.exe (WSUS の同期実行)	133
4.26	パラメタファイルの作成	137
4.26.1	タグの種類	137
4.26.2	パラメタファイルの形式	137
4.26.3	タグの指定方法	138
4.26.4	FILE_COLLECTION (収集するファイルの指定)	139
4.26.5	FILE_PROPERTIES (ファイルアクセス権の復元の指定)	139
4.26.6	INSTALLATION_METHOD (インストールモードの指定)	140
4.26.7	JOB_ATTRIBUTE (ジョブの属性設定)	141

4.26.8	JOB_CLIENT_CONTROL (クライアント制御の指定)	142
4.26.9	JOB_DESTINATION (あて先の指定)	143
4.26.10	JOB_DESTINATION_ID (IDの指定)	145
4.26.11	JOB_SCHEDULE (ジョブのスケジュールの指定)	146
4.26.12	JOB_SPLIT_DELIVERY (パッケージの分割配布の指定)	147
4.26.13	OPTION (オプションの指定)	148
4.26.14	OUTPUT_CONSTRAINTS (出力する情報の設定)	150
4.26.15	PACKAGING_INFORMATION (パッケージ属性情報の設定)	174
4.26.16	PACKAGING_SOURCE (パッケージングするファイルの指定)	176
4.26.17	SCHEDULE (リモートインストールのスケジュール指定)	177
4.26.18	SCRIPTS (インストールスクリプトの指定)	179
4.26.19	SOFTWARE_CONDITIONS (ソフトウェア条件の指定)	179
4.26.20	SYSTEM_CONDITIONS (システム条件の指定)	180
4.26.21	USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS (外部プログラムの指定)	183
4.27	予約語の指定方法	189
4.27.1	JP1/NETM/DMのコマンドで使用できる予約語	189
4.27.2	予約語を使用する場合の注意事項	189
4.27.3	予約語の使用例	190
4.28	レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作	193
5	システムのメンテナンス	195
5.1	システムの設定変更	196
5.1.1	配布管理システムのチューニング項目の設定変更	196
5.1.2	クラスタシステムの設定変更	196
5.2	データベースのメンテナンス	198
5.2.1	Embedded RDBのメンテナンス	198
5.2.2	Microsoft SQL ServerまたはOracleのメンテナンス	202
5.2.3	Asset Information Manager Limitedのデータベースのメンテナンス	204
5.2.4	クラスタシステム環境でのデータベースのメンテナンス	206
5.3	システムのバックアップと復元	209
5.3.1	JP1/NETM/DM Managerの手動バックアップ	209
5.3.2	JP1/NETM/DM Managerの自動バックアップ	212
5.3.3	JP1/NETM/DM Client (中継システム)のバックアップ	215
5.3.4	JP1/NETM/DM Client (クライアント)のバックアップ	216
5.3.5	JP1/NETM/DM Managerの復元	217
5.3.6	JP1/NETM/DM Client (中継システム)の復元	218
5.3.7	JP1/NETM/DM Client (クライアント)の復元	219
5.3.8	クラスタシステムのバックアップと復元	220
5.3.9	システムのバックアップと復元に使用するコマンド	221
5.4	運用上のメンテナンス	229
5.4.1	クラスタシステム環境での配布管理システムの起動と停止	229
5.4.2	不要な情報削除によるメンテナンス	230

6	トラブルシューティング	233
6.1	トラブル発生時の対処方法	234
6.2	ジョブのトラブルシューティング	235
6.2.1	エラージョブの詳細情報を確認する方法	235
6.2.2	エラージョブを効率的に確認する方法	236
6.2.3	保守コード一覧	237
6.3	JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の トラブルシューティング	247
6.3.1	ログファイルの確認	247
6.3.2	正常に動作しないときの対処	253
6.4	JP1/NETM/DM Client (クライアント) のトラブルシューティング	259
6.4.1	ログファイルの確認	259
6.4.2	正常に動作しないときの対処	264
6.5	インターネットオプションのトラブルシューティング	268
6.5.1	ログファイルの確認	268
6.5.2	HTTP Gateway のイベントログメッセージ	269
6.6	Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のトラブルシューティング	270
6.6.1	ジョブを実行した場合のエラーコード一覧	270
6.6.2	Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client が正常に動作しないときの対処	275
6.7	Asset Information Manager Limited のトラブルシューティング	276
6.7.1	トラブルシューティングの流れ	276
6.7.2	トラブル要因の特定	277
6.7.3	Asset Information Manager Limited のトランザクション	281
6.7.4	Asset Information Manager Limited のトラブルの主な要因と対処	281
6.7.5	Web サーバのトラブルの主な要因と対処	285
6.7.6	DBMS のトラブルの主な要因と対処	286
6.7.7	Web ブラウザのトラブルの主な要因と対処	289
6.7.8	配布管理システムとの連携時のトラブルの主な要因と対処	291
6.7.9	配布管理システムとの連携時のトラブルの主な要因と対処	295
6.7.10	トラブルの回復	296
6.8	保守資料の採取	298
6.8.1	ログ情報の採取	298
6.8.2	JP1/NETM/DM の設定情報の採取	298
6.8.3	JP1/NETM/DM のトラブル情報の採取	299
6.8.4	「Asset Information Manager Limited」のトラブル情報の採取	299
6.8.5	ディレクトリ情報の採取	300
6.8.6	通信設定の情報の採取	300
6.8.7	WMI 情報の採取	300

7

メッセージ	303
7.1 イベントログメッセージ一覧	304
7.1.1 JP1/NETM/DM Manager のイベントログメッセージ	304
7.1.2 JP1/NETM/DM Client (中継システム) のイベントログメッセージ	314
7.1.3 JP1/NETM/DM Client (クライアント) のイベントログメッセージ	320
7.1.4 監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処	321
7.2 クライアントの基本ログメッセージ一覧	334
7.2.1 USER_CLT.LOG ファイルの形式	334
7.2.2 メッセージの説明形式	335
7.2.3 メッセージ一覧	335

付録

付録 A Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client の機能	359
付録 A.1 システム構成	360
付録 A.2 ハードウェアに関する見積もり	361
付録 A.3 使用できるコンポーネントと機能差異	362
付録 A.4 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のインストール	363
付録 A.5 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のセットアップ	365
付録 A.6 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client を使用するときの注意事項	365
付録 B 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の機能	368
付録 B.1 システム構成	368
付録 B.2 ハードウェアに関する見積もり	369
付録 B.3 使用できるコンポーネントと機能差異	370
付録 B.4 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール	371
付録 B.5 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール内容の変更	385
付録 B.6 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のアンインストール	386
付録 C Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の機能	389
付録 C.1 サポートするハードウェアと OS	389
付録 C.2 接続できる上位システムのバージョン	389
付録 C.3 メモリおよびディスク占有量	389
付録 C.4 サポートする機能一覧	391
付録 C.5 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のインストール	401
付録 C.6 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のアンインストール	411
付録 C.7 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client を使用する	411
付録 C.8 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client でのマルチポーリング	412
付録 D セキュリティ PC へのリモートインストール	415
付録 D.1 セキュリティ PC へのリモートインストールに必要な条件	415
付録 D.2 セキュリティ PC へのリモートインストールの流れ	415
付録 D.3 アップデートデータをパッケージングする	416

付録 D.4	セキュリティ PC だけを含めたあて先グループを作成する	417
付録 D.5	アップデートデータをリモートインストールするジョブを実行する	418
付録 E	秘文連携機能を使用した JP1/ 秘文および秘文の管理	421
付録 E.1	秘文連携機能を使用する前に	421
付録 E.2	インストール済み秘文製品の詳細情報の取得	423
付録 E.3	秘文製品のインストールチェック	428
付録 E.4	秘文製品のインストール	433
付録 E.5	秘文製品の内部ログの収集	438
付録 F	EUR を使ったインベントリ管理帳票の作成	441
付録 F.1	EUR と JP1/NETM/DM の連携	441
付録 F.2	EUR 連携の動作環境	442
付録 F.3	EUR を使った帳票の作成方法	444
付録 F.4	帳票フォームのカスタマイズ	449
付録 G	監査ログの出力	453
付録 G.1	監査ログに出力される事象の種別	453
付録 G.2	監査ログの保存形式	453
付録 G.3	監査ログの出力形式	453
付録 G.4	監査ログを出力するための設定	459
付録 H	各バージョンの変更内容	460
付録 I	用語解説	476

索引

489

1

JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理する

JP1/Base と連携することで、JP1/Base のユーザ管理機能を利用して JP1/NETM/DM を使用する JP1 ユーザを管理できます。

この章では、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM を使用する JP1 ユーザを管理する方法や、JP1 ユーザに設定できる操作権限について説明します。

1.1 JP1/Base と連携する場合のシステム構成

1.2 JP1 ユーザに設定できる権限と機能差異

1.3 JP1 ユーザの設定方法

1.1 JP1/Base と連携する場合のシステム構成

JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理するために必要なプログラムおよびシステム構成について説明します。

1.1.1 必要なプログラム

JP1/Base と連携する場合、次に示すバージョンの JP1/NETM/DM と JP1/Base を使用してください。

JP1/NETM/DM Manager 08-10 以降

JP1/Base 08-10 以降

注 Windows Server 2012、Windows Server 2008 版の JP1/NETM/DM Manager を使用する場合、JP1/Base 08-50 以降を使用してください。

1.1.2 システム構成

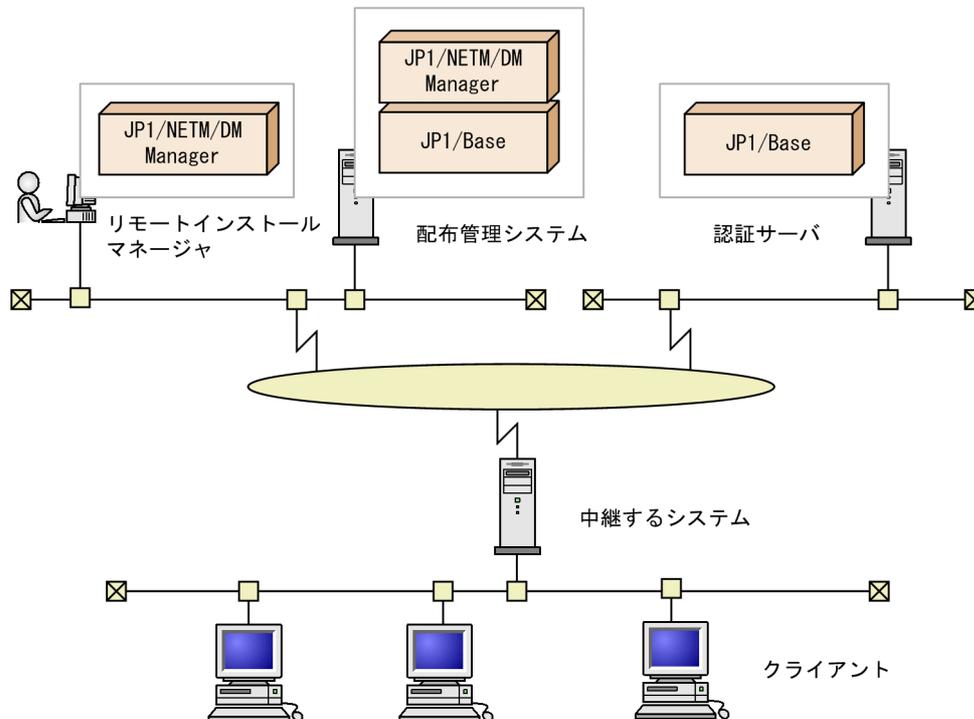
ここでは、JP1/Base と連携する場合に必要なシステム構成について説明します。

(1) システム構成に必要な条件

JP1/Base と連携する場合、システム内にユーザ認証用の JP1/Base のサーバ（認証サーバ）が構築されている必要があります。また、JP1/NETM/DM Manager の「サーバ本体機能」がインストールされているコンピュータにも、JP1/Base がインストールされている必要があります。

JP1/Base と連携する場合のシステム構成を次の図に示します。

図 1-1 JP1/Base と連携する場合のシステム構成



! 注意事項

ユーザ管理機能を使用する場合、JP1/NETM/DM Manager の「サーバ本体機能」がインストールされているコンピュータに JP1/Base がインストールされていないときは、ユーザ認証が実行できないため、JP1/NETM/DM を起動できなくなるおそれがあります。

JP1/Base のインストール方法および認証サーバの構築方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(2) システム内で JP1/NETM/DM のバージョンや OS が混在している場合の注意事項

JP1/Base と連携している JP1/NETM/DM Manager を対象に、バージョン 08-02 以前の JP1/NETM/DM から次の操作はできません。

- パッケージまたは dcmpack コマンドによるパッケージング
- リモートインストールマネージャの「中継システムのパッケージ削除」機能からのパッケージ削除

JP1/Base と連携している JP1/NETM/DM Manager を対象に、UNIX 版の JP1/NETM/DM のパッケージ（資源登録システム）でパッケージング（資源登録）をする場合は、「パスワード」に JP1/NETM/DM のデータベースのパスワードを指定してください。

UNIX 版の JP1/NETM/DM のパッケージの場合は、JP1/Base に登録されている JP1 ユーザのパスワードではパッケージングできません。

1.2 JP1 ユーザに設定できる権限と機能差異

ここでは、JP1/NETM/DM の JP1 ユーザに設定できる権限と、権限ごとに使用できる機能の差異について説明します。

1.2.1 設定できる権限

JP1 ユーザに設定できる権限は 6 種類あります。設定できる権限の種類と JP1/Base で設定する権限名 (JP1 権限レベル)、および各権限の概要を次の表に示します。

表 1-1 JP1 ユーザに設定できる権限

項番	種別	JP1 権限レベル	概要
1	システム管理者	JP1_DM_Admin	JP1/NETM/DM のすべての機能を使用できる権限です。JP1/NETM/DM システム全体を管理する管理者に設定します。
2	配布管理ユーザ	JP1_DM_Deploy	ソフトウェアの配布やパッケージングなどができる権限です。配布管理業務を行う管理者に設定します。
3	資産管理ユーザ	JP1_DM_Inventory	インベントリ情報の収集、集計、印刷などができる権限です。資産管理業務を行う管理者に設定します。
4	収集管理ユーザ	JP1_DM_Collect	クライアントのファイルをリモートコレクトできる権限です。収集管理業務を行う管理者に設定します。
5	システム監視ユーザ	JP1_DM_Observe	クライアントの稼働状況を監視できる権限です。クライアントでの不正操作を監視する管理者に設定します。
6	参照ユーザ	JP1_DM_Guest	データの参照だけが許可された権限です。ジョブの実行やインベントリ情報の集計はできません。

JP1 ユーザの種別は JP1/Base でユーザを設定するときに指定します。JP1/Base での設定については、「1.3.2 認証サーバでのユーザ設定」を参照してください。

1.2.2 ユーザ認証が必要になる機能

JP1/Base のユーザ管理機能を利用する場合、次の機能を使用するときに JP1 ユーザによるユーザ認証が必要になります。

リモートインストールマネージャ

パッケージャ

インベントリビューア

アンアーカイバ

CSV 出力ユティリティ

コマンド

権限ごとに使用できる機能の差異を次の表に示します。

表 1-2 権限ごとに使用できる機能の差異

機能	権限					
	システム管理者	配布管理ユーザ	資産管理ユーザ	収集管理ユーザ	システム監視ユーザ	参照ユーザ
リモートインストールマネージャ						
パッケージャ			×	×	×	×
インベントリビューア				×	×	×
アンアーカイバ		×	×		×	×
CSV 出力ユティリティ						
コマンド		×	×	×	×	×

(凡例) : 使用できる × : 使用できない

1.2.3 使用できる操作の差異

権限ごとに使用できる操作の差異を次の表に示します。

表 1-3 権限ごとに使用できる操作の差異

操作	権限					
	システム管理者	配布管理ユーザ	資産管理ユーザ	収集管理ユーザ	システム監視ユーザ	参照ユーザ
システム構成情報の作成・削除		×	×	×	×	×
システム構成情報の参照						
あて先の作成・削除						×
あて先の参照						
ID の作成・削除						×
ID の参照						
あて先グループおよび ID の自動メンテナンス						×
JP1/NETM/DM 未導入ホストの検索		×	×	×	×	×
ソフトウェアの配布			×	×	×	×
キャビネットの作成			×	×	×	×
システム情報の取得				×	×	×
ソフトウェア情報の取得				×	×	×
ユーザインベントリ情報の取得				×	×	×
ユーザインベントリ項目の作成		×		×	×	×
レジストリ取得項目の作成				×	×	×
ソフトウェアインベントリ辞書の編集				×	×	×
ソフトウェア検索リストの編集				×	×	×
ファイルの収集		×	×		×	×
ソフトウェアの稼働監視, 稼働情報の取得		×	×	×		×

1. JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理する

操作	権限					
	システム 管理者	配布管理 ユーザ	資産管理 ユーザ	収集管理 ユーザ	システム監 視ユーザ	参照ユー ザ
メッセージの送信		×	×	×		×
プロセスの監視		×	×	×		×
稼働情報の参照		×	×	×		×
オフラインマシンからのインベ ントリ情報と稼働情報の取得				×	×	×
WSUS 連携機能の利用			×	×	×	×
バンドル版の JP1/NETM/DM Client の管理						
リモートコントロール機能の利用						
更新プログラムの管理			×	×	×	×

(凡例) : 使用できる × : 使用できない

注 Windows のタスクスケジューラでのタスクの実行は、ユーザ管理機能の対象外です。

1.2.4 リモートインストールマネージャの差異

リモートインストールマネージャはすべての権限で使用できます。ただし、設定された権限によって、使用できる機能が異なります。リモートインストールマネージャで使用できる機能の差異について説明します。

(1) ウィンドウ

権限ごとに表示できるウィンドウが異なります。表示できるウィンドウの差異を次の表に示します。

表 1-4 表示できるウィンドウの差異

ウィンドウ	権限					
	システム 管理者	配布管理 ユーザ	資産管理 ユーザ	収集管理 ユーザ	システム監 視ユーザ	参照ユー ザ
[システム構成] ウィンドウ						
[あて先] ウィンドウ						
[パッケージ] ウィンドウ			×	×	×	×
[ジョブ定義] ウィンドウ						×
[ジョブ実行状況] ウィンドウ						
[管理情報リスト] ウィンドウ				×	×	×
[ディレクトリ情報] ウィンドウ						

(凡例) : 表示できる × : 表示できない

(2) メニュー

権限ごとに使用できるメニューが異なります。使用できる機能・操作に従って、使用できないメニューは非活性になります。右クリックから表示されるメニューも、使用できる機能・操作に従って非活性になります。

1.2.5 CSV 出力ユーティリティの差異

CSV ユティリティはすべての権限で使用できます。ただし、権限によって集計に使用できるテンプレートが異なります。使用できるテンプレートの差異を次の表に示します。

表 1-5 使用できるテンプレートの差異

テンプレート名	権限					
	システム管理者	配布管理ユーザ	資産管理ユーザ	収集管理ユーザ	システム監視ユーザ	参照ユーザ
あて先属性						
パッケージ属性			×	×	×	×
パッケージ内容			×	×	×	×
システム情報						
ユーザ資産情報				×	×	×
インストール済みパッケージ情報				×	×	×
ジョブ実行状況						
レジストリ取得項目				×	×	×
ユーザ管理情報				×	×	×
ソフトウェアインベントリ				×	×	×
ライセンス情報				×	×	×
Microsoft Office 製品				×	×	×
ウィルス対策製品				×	×	×
起動抑止履歴		×	×	×		×

(凡例) : 使用できる × : 使用できない

使用できない項目は、CSV 出力ユーティリティでのテンプレート選択時には表示されません。

1.2.6 実行できるジョブの差異

権限によって実行できるジョブが異なります。権限が「参照ユーザ」の場合、ジョブを実行できません。実行できるジョブの差異を次の表に示します。

表 1-6 実行できるジョブの差異

ジョブ種別	権限					
	システム管理者	配布管理ユーザ	資産管理ユーザ	収集管理ユーザ	システム監視ユーザ	参照ユーザ
パッケージのインストール			×	×	×	×
中継システムまでのパッケージ転送			×	×	×	×
中継システムのパッケージ一括削除			×	×	×	×
リモートコレクト		×	×		×	×
中継までのリモートコレクト		×	×		×	×
中継サーバからのコレクトファイル収集		×	×		×	×

1. JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理する

ジョブ種別	権限					
	システム管理者	配布管理ユーザ	資産管理ユーザ	収集管理ユーザ	システム監視ユーザ	参照ユーザ
中継サーバのコレクトファイル削除		×	×		×	×
クライアントユーザによるインストール			×	×	×	×
システム情報の取得				×	×	×
ソフトウェア情報の取得				×	×	×
ユーザインベントリ情報の取得				×	×	×
レジストリ取得項目の転送				×	×	×
ユーザインベントリ情報の転送				×	×	×
システム構成情報の取得		×	×	×	×	×
中継サーバからの結果通知保留		×	×	×	×	×
中継サーバの結果通知の保留解除		×	×	×	×	×
ファイル転送の中断			×	×	×	×
ファイル転送の再開			×	×	×	×
メッセージの通知		×	×	×		×
ソフトウェア稼働監視の制御		×	×	×		×
ソフトウェア稼働情報の取得		×	×	×		×

(凡例) : 実行できる × : 実行できない

実行できないジョブは、[ジョブ定義の新規作成] ダイアログボックスには表示されません。

1.2.7 実行できるコマンドの差異

コマンドは、システム管理者権限だけで実行できます。

なお、コマンドを使用するためには、コマンドを実行するコンピュータにユーザ認証用の環境変数を設定しておく必要があります。環境変数の設定については、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」を参照してください。

実行できるコマンドの差異を次の表に示します。

表 1-7 実行できるコマンドの差異

コマンド名	機能	権限					
		システム管理者	配布管理ユーザ	資産管理ユーザ	収集管理ユーザ	システム監視ユーザ	参照ユーザ
dcmnst.exe	ジョブの作成, 実行		×	×	×	×	×
dmcoll.exe	ファイルの収集		×	×	×	×	×
dcmsusp.exe	ファイル転送の中断と再開		×	×	×	×	×
dcmjexe.exe	ジョブの実行		×	×	×	×	×
dcmrtry.exe	ジョブの再実行		×	×	×	×	×
dcmjbrm.exe	ジョブの削除		×	×	×	×	×

コマンド名	機能	権限					
		システム管理者	配布管理ユーザ	資産管理ユーザ	収集管理ユーザ	システム監視ユーザ	参照ユーザ
dcmrmgen.exe	ジョブ定義の削除		×	×	×	×	×
dcmstat.exe	ジョブの実行状況の取得		×	×	×	×	×
dcmstsw.exe	ジョブの実行状況の監視		×	×	×	×	×
dcmcsvu.exe	CSV 出力		×	×	×	×	×
dcmuidi.exe	ユーザインベントリの一括入力		×	×	×	×	×
dcmdice.exe	ソフトウェアインベントリ辞書のエクスポート		×	×	×	×	×
dcmdici.exe	ソフトウェアインベントリ辞書のインポート		×	×	×	×	×
dcmpack.exe	パッケージの実行		×	×	×	×	×
dcmpkrm.exe	パッケージの削除		×	×	×	×	×
dcmpkget.exe	パッケージのバックアップの取得		×	×	×	×	×
dcmpkput.exe	パッケージのバックアップからの復元		×	×	×	×	×
dcmgpmnt.exe	あて先グループへのポリシーの一括反映		×	×	×	×	×
dcmhstwo.exe	JP1/NETM/DM 未導入ホストの検出		×	×	×	×	×
dcmmonrst.exe	稼働情報のデータベースへの格納		×	×	×	×	×
dcmwsus.exe	WSUS の同期実行		×	×	×	×	×
dcmadsync.exe	ディレクトリ情報取得		×	×	×	×	×
dcmstdiv.exe	オフラインマシン情報の入力		×	×	×	×	×

(凡例) : 実行できる × : 実行できない

1.3 JP1 ユーザの設定方法

JP1/NETM/DM を使用する JP1 ユーザを設定して運用を開始するまでの流れや、JP1 ユーザの設定方法などについて説明します。

1.3.1 JP1/NETM/DM の運用を開始するまでの流れ

ユーザ管理機能を使用する場合の、JP1/NETM/DM の運用を開始するまでの流れを次に示します。

1. JP1/NETM/DM Manager をインストールする（配布管理システムを構築する）。
JP1/NETM/DM Manager と同じコンピュータに JP1/Base をインストールします。
2. JP1/Base をインストールする（認証サーバを構築する）。
JP1/Base のインストール方法および認証サーバの構築方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。
なお、配布管理システムと認証サーバのインストール順序は、どちらが先でもかまいません。
3. JP1/Base をセットアップする。
JP1/NETM/DM Manager と同じコンピュータにインストールした JP1/Base をセットアップします。
接続先の認証サーバを指定します。
4. 認証サーバで JP1/NETM/DM のユーザを設定する。
認証サーバに JP1/NETM/DM を使用する JP1 ユーザを設定します。JP1 ユーザを設定する方法については、「1.3.2 認証サーバでのユーザ設定」を参照してください。
5. JP1/NETM/DM をセットアップする。
JP1/NETM/DM をセットアップします。
6. JP1/NETM/DM の運用を開始する。
認証した JP1 ユーザの権限に従って、JP1/NETM/DM を操作します。

1.3.2 認証サーバでのユーザ設定

認証サーバで JP1/NETM/DM を使用する JP1 ユーザを設定します。JP1 ユーザの設定方法の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

認証サーバに JP1 ユーザの登録が完了したら、JP1 ユーザに JP1/NETM/DM を使用する権限を設定します。

図 1-2 [JP1 資源グループ詳細] ダイアログボックス



JP1 資源グループには、「JP1_NETM_DM」を指定します。

次に、JP1 資源グループに対する JP1 権限レベルを設定します。JP1 権限レベルは、次の表に示す値を指定します。JP1 権限レベルと権限の種別の対応を次の表に示します。

表 1-8 JP1 権限レベルと権限の種別の対応

項番	JP1 権限レベル	権限の種別
1	JP1_DM_Admin	システム管理者
2	JP1_DM_Deploy	配布管理ユーザ
3	JP1_DM_Inventory	資産管理ユーザ
4	JP1_DM_Collect	収集管理ユーザ
5	JP1_DM_Observe	システム監視ユーザ
6	JP1_DM_Guest	参照ユーザ

なお、一つの JP1 ユーザに複数の JP1 権限レベルを設定することもできます。例えば、配布管理ユーザとシステム監視ユーザの JP1 権限レベルを設定した場合、その JP1 ユーザは両方の権限で JP1/NETM/DM を使用できるようになります。

1.3.3 コマンドを実行するための設定

ユーザ管理機能を利用している場合に JP1/NETM/DM のコマンドを実行するときは、コマンドを実行するコンピュータに、システムの環境変数を登録しておく必要があります。

環境変数に設定する内容を次に示します。

設定項目	内容
変数名	NETM_USERID
変数値	JP1/NETM/DM のコマンドを実行する権限を持った JP1 ユーザ名

なお、パスワードは設定不要です。

また、ユーザ管理機能を利用している場合に、JP1/AJS やユーザプログラムなどから JP1/NETM/DM のコマンドを実行するときも、コマンドの実行を要求するコンピュータに環境変数の設定が必要です。

JP1/NETM/DM のコマンドの実行時に、ユーザ管理機能によるエラーが発生した場合のリターンコードおよび対処を次に示します。

コード	意味	対処
41	環境変数 NETM_USERID にユーザが指定されていない、または JP1/Base からユーザ権限の取得に失敗した。	環境変数 NETM_USERID を確認してください。または、JP1/Base が停止していないかどうか確認してください。
42	環境変数 NETM_USERID に指定されたユーザにコマンドを実行する権限がない。	環境変数 NETM_USERID にコマンドを実行する権限があるユーザを指定してください。
43	環境変数 NETM_USERID に指定されたユーザは、JP1/Base に登録されていない。	環境変数 NETM_USERID に JP1/Base に登録されているユーザを指定してください。

1.3.4 JP1/IM との権限の共有

JP1/NETM/DM と連携して JP1/IM を利用している場合、JP1/IM と JP1/NETM/DM の両方の操作権限を設定した JP1 ユーザを設定できます。

JP1/IM を利用する JP1 ユーザの権限に JP1/NETM/DM の JP1 権限レベルを追加することで、ユーザ管理機能を利用している場合でも、JP1/IM から JP1/NETM/DM を起動できます。これによって、JP1/IM と JP1/NETM/DM のユーザをあわせて管理できます。

JP1/IM と連携した JP1/NETM/DM の管理については、「2. JP1/IM から JP1/NETM/DM を管理する」を参照してください。

2

JP1/IM から JP1/NETM/DM を管理 する

JP1/IM から JP1/NETM/DM のリモートインストールマネージャを表示できます。また、JP1/NETM/DM で実行したジョブの結果などを JP1/IM に通知し、JP1/IM から JP1/NETM/DM の管理ができます。

この章では、JP1/IM から JP1/NETM/DM を管理する方法について説明します。

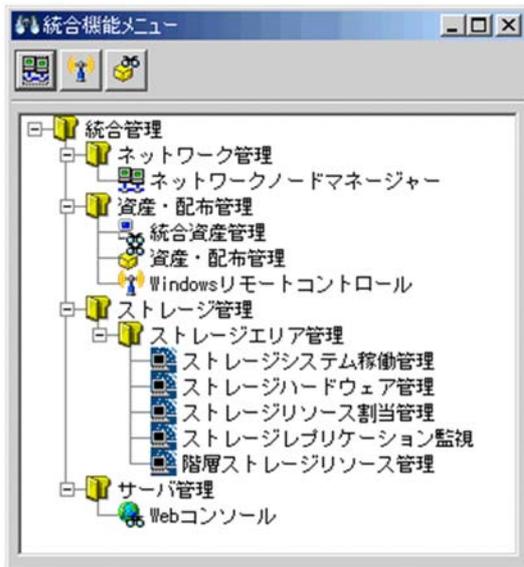
2.1 JP1/IM から JP1/NETM/DM を起動する

2.2 JP1/IM へ JP1 イベントを通知する

2.1 JP1/IM から JP1/NETM/DM を起動する

JP1/IM の JP1/IM - View には、JP1/IM から起動できるプログラムを選択する画面 ([統合機能メニュー] 画面) があります。この [統合機能メニュー] 画面から JP1/NETM/DM の機能を起動できます。[統合機能メニュー] 画面の表示例を次に示します。

図 2-1 [統合機能メニュー] 画面



[統合機能メニュー] 画面からは、リモートインストールマネージャおよびリモートコントロールマネージャを起動できます。

JP1/IM の機能および操作方法の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」を参照してください。

2.1.1 リモートインストールマネージャの起動

(1) リモートインストールマネージャを起動するための環境設定

[統合機能メニュー] 画面からリモートインストールマネージャを起動するには、定義ファイルを使って環境を設定する必要があります。

次の二つの定義ファイルを、それぞれ格納ディレクトリから JP1/IM - View のインストール先ディレクトリにコピーしてください。

HITACHI_JP1_NETM_APP.conf

実行するアプリケーションの所在を定義するファイルです。

- 格納ディレクトリ
JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリ ¥conf¥appexecute¥jp
- コピー先
JP1/IM - View のインストール先ディレクトリ ¥conf¥appexecute¥ja

HITACHI_JP1_NETM_FTREE.conf

[統合機能メニュー] 画面の機能ツリーに表示するメニューを定義するファイルです。

- 格納ディレクトリ

JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリ ¥conf¥function¥jp

- コピー先

JP1/IM - View のインストール先ディレクトリ ¥conf¥function¥ja

(2) 起動方法

(1) で説明した環境設定を完了したあとで、[統合機能メニュー] 画面から [資産 / 配布管理] を選択すると、リモートインストールマネージャを起動できます。

リモートインストールマネージャを起動すると、[JP1/NETM/DM ログオン] ダイアログボックスが表示されます。

図 2-2 [JP1/NETM/DM ログオン] ダイアログボックス



「JP1/NETM/DM サーバ名」には、配布管理システムのホスト名を入力します。また、「管理者ユーザ ID」および「パスワード」には、JP1/NETM/DM のデータベースにアクセス権のあるユーザ ID およびパスワードを入力します。

なお、リモートインストールマネージャを、Administrator 権限を持たないユーザが利用する場合は、JP1/NETM/DM Manager をインストールしたディレクトリ下の、RMTINS および SERVER ディレクトリ以下のすべてのサブディレクトリについて、書き込み権限を持っているかどうかを確認してください。

(a) [JP1/NETM/DM ログオン] ダイアログボックスの非表示

JP1/IM は、起動時にサーバへログオンしています。JP1/IM からリモートインストールマネージャを起動する場合にも、再度サーバへログオンを要求されます。この手間を省略するために、[JP1/NETM/DM ログオン] ダイアログボックスを表示させないように設定できます。

[JP1/NETM/DM ログオン] ダイアログボックスの「次回このダイアログを表示しない」のチェックボックスをオンにしてください。こうすることで、次に JP1/IM からリモートインストールマネージャを起動したときにはダイアログボックスは表示されず、自動的にサーバへログオンされます。このときの接続先は、前回リモートインストールマネージャが接続したサーバとなります。

(b) 接続先サーバの変更

リモートインストールマネージャの接続先は、起動時に [JP1/NETM/DM ログオン] ダイアログボックスで設定できます。しかし、[JP1/NETM/DM ログオン] ダイアログボックスの非表示が設定されている場合、自動的に前回と同じサーバに接続され、任意のサーバを設定できません。このような場合に任意の

2. JP1/IM から JP1/NETM/DM を管理する

サーバに接続するには、リモートインストールマネージャの [オプション] メニューから [接続先の設定] を選択してください。[JP1/NETM/DM 接続先の設定] ダイアログボックスが表示されるので、配布管理システムのホスト名、JP1/NETM/DM のデータベースにアクセス権のあるユーザ ID およびパスワードを入力してください。

次回 JP1/IM からリモートインストールマネージャを起動したときから、ここで設定したサーバに接続されます。

(3) JP1/NETM/DM がユーザ管理機能を使用している場合の注意事項

JP1/NETM/DM がユーザ管理機能を使用している環境で、JP1/IM と連携する場合の注意事項を次に示します。

JP1/IM の [統合機能メニュー] 画面からリモートインストールマネージャを起動する場合、認証サーバでユーザ認証を行うようにしてください。JP1/IM と JP1/NETM/DM Manager が異なった認証サーバでユーザ認証を行っている場合、無効なユーザ認証情報と判定され接続エラーとなります。

JP1/IM の [統合機能メニュー] 画面からリモートインストールマネージャを起動した場合、リモートインストールマネージャを終了するよりも先に JP1/IM からログアウトすると、リモートインストールマネージャからインベントリビューアおよび CSV 出力ユティリティを起動できなくなります。そのため、必ずリモートインストールマネージャを先に終了してください。JP1/IM から先にログアウトしてしまった場合は、リモートインストールマネージャを再起動してください。

2.1.2 リモートコントロールマネージャの起動

JP1/IM - View の [統合機能メニュー] 画面の [リモートコントロール] から [リモートコントロール] を選択すると、リモートコントロールマネージャを起動できます。リモートコントロール機能の詳細については、マニュアル「JP1/NETM/Remote Control」を参照してください。

2.2 JP1/IM へ JP1 イベントを通知する

JP1/Base のイベントサービス機能を使用して、JP1/NETM/DM で実行したジョブの実行結果などを JP1/IM に通知できます。JP1/IM では JP1/IM - View の [イベントコンソール] 画面で、JP1/NETM/DM から通知された JP1 イベントを確認できます。

なお、JP1 イベントを JP1/IM に通知する場合、配布管理システムでは、リレーショナルデータベースを使用する必要があります。JP1 イベントの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

2.2.1 JP1 イベントの種類

JP1/NETM/DM が JP1/IM に通知する JP1 イベントについて次に説明します。どの JP1 イベントを JP1/IM に通知するかは、JP1/NETM/DM Manager または JP1/NETM/DM Client (中継システム) のセットアップの、[イベントサービス] パネルで設定してください。

なお、次の JP1 イベントを通知する場合、必要な設定があります。

- 稼働監視不正デバイス接続アラートイベント
- 稼働監視操作履歴削除アラートイベント
- 稼働監視ソフトウェア起動抑止アラートイベント
- 稼働監視印刷抑止アラートイベント

連携する JP1/IM のバージョンが 09-10 以前のときは、イベントの拡張属性の詳細情報を表示するために、JP1/NETM/DM の定義ファイルを JP1/IM のインストール先ディレクトリに格納する必要があります。

JP1/NETM/DM の定義ファイル

JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリ
 ¥JP1¥base_attr¥hitachi_jp1_netmdm_nt_base_attr_¥ja.conf

JP1/IM への格納先

JP1/IM -Manager (Console) のインストール先ディレクトリ ¥conf¥console¥attribute

(1) ジョブ完了イベント

ジョブが完了したときに、実行結果を通知する JP1 イベントです。JP1 イベントとしてジョブの実行結果を通知できるのは、次のジョブです。

- パッケージのインストール
- 中継システムまでのパッケージ転送
- リモートコレクト
- 中継までのリモートコレクト
- 中継サーバからのコレクトファイル収集
- クライアントユーザによるインストール

(2) 指令完了イベント

指令の実行結果をクライアントから通知されたときに、指令の実行結果を通知する JP1 イベントです。指令とは、ジョブの最小単位で、あて先またはパッケージごとに配布管理システムで作成されます。例えば、二つのあて先に対して二つのパッケージを配布するジョブを実行した場合、四つの指令が作成されます。

実行結果を通知できる指令のジョブは、「(1) ジョブ完了イベント」で示すジョブと同じです。

(3) サーバダウンイベント

配布管理システムに異常が発生したことを通知する JP1 イベントです。

(4) 中継ダウンイベント

中継システムに異常が発生したことを通知する JP1 イベントです。

(5) クライアントアラートイベント

クライアントからアラート情報を受信したことを通知する JP1 イベントです。

(6) 稼働監視不正デバイス接続アラートイベント

操作が抑止されているデバイスが、クライアント PC に接続されたことを通知する JP1 イベントです。

稼働監視不正デバイス接続アラートイベントの拡張属性の詳細情報については、「2.2.2 JP1 イベントの属性」を参照してください。

(7) 稼働監視操作履歴削除アラートイベント

クライアントで操作履歴が消失したことを通知する JP1 イベントです。なお、この JP1 イベントが通知された場合は、稼働監視機能が正常に動作していないおそれがあります。そのため、「ソフトウェア稼働監視の制御」ジョブを再実行してください。ジョブの実行方法の詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「8. ジョブを管理する」を参照してください。

稼働監視操作履歴削除アラートの拡張属性の詳細情報については、「2.2.2 JP1 イベントの属性」を参照してください。

(8) 稼働監視ソフトウェア起動抑止アラートイベント

クライアントでソフトウェアの起動が抑止されたことを通知する JP1 イベントです。

稼働監視ソフトウェア起動抑止アラートイベントの拡張属性の詳細情報については、「2.2.2 JP1 イベントの属性」を参照してください。

(9) 稼働監視印刷抑止アラートイベント

クライアントで印刷操作が抑止されたことを通知する JP1 イベントです。

稼働監視印刷抑止アラートイベントの拡張属性の詳細情報については、「2.2.2 JP1 イベントの属性」を参照してください。

2.2.2 JP1 イベントの属性

JP1 イベントの属性には、基本属性と拡張属性があります。また、指令完了イベント、クライアントアラートイベント、稼働監視不正デバイス接続アラートイベント、および稼働監視操作履歴削除アラートでは、拡張属性の詳細情報を JP1/IM に通知します。拡張属性の詳細情報は、JP1/IM - View の [イベントコンソール] 画面で確認できます。

JP1 イベントの基本属性を表 2-1、JP1 イベントの拡張属性を表 2-2、指令完了イベントの拡張属性の詳細情報を表 2-3、クライアントアラートイベントの拡張属性の詳細情報を表 2-4、稼働監視不正デバイス接続アラートイベントの拡張属性の詳細情報を表 2-5、稼働監視操作履歴削除アラートの拡張属性の詳細情報を表 2-6、稼働監視ソフトウェア起動抑止アラートイベントの拡張属性の詳細情報を表 2-7、および稼働監視印刷抑止アラートイベントの拡張属性の詳細情報を表 2-8 に示します。

表 2-1 JP1 イベントの基本属性

JP1 イベント名称		イベント ID	メッセージ
指令完了イベント	正常終了	00010402	xxx (指令番号) の指令が正常終了しました
	エラー終了	00010403	xxx (指令番号) の指令が異常終了しました
ジョブ完了イベント	正常終了	00010406	xxx (ジョブ名) が正常終了しました
	エラー終了	00010407	xxx (ジョブ名) が異常終了しました
サーバダウンイベント		00010401	/HITACHI/JP1/NETM/DM Manager が異常終了しました
中継ダウンイベント		00010101	/HITACHI/JP1/NETM/DM SubManager が異常終了しました
クライアントアラートイベント	00010410 または 00010110		クライアント (xxx) は、危険な状態 (yyy) です
	00010411 または 00010111		クライアント (xxx) は、警告 (yyy) を通知しました
	00010412 または 00010112		クライアント (xxx) は、正常 (yyy) になりました
稼働監視不正デバイス接続アラート イベント	00010420		クライアント (xxx) は、ユーザー (yyy) のデバイス (zzz) 接続の抑止に失敗しました
	00010421		クライアント (xxx) は、ユーザー (yyy) のデバイス (zzz) 接続を抑止しました
稼働監視操作履歴削除アラート		00010422	クライアント (xxx) で、操作履歴ファイルが削除されたた め、yyy ~ zzz (情報を消失した期間) の操作履歴が失われ ました
稼働監視操作ソフトウェア起動抑止 アラートイベント		00010423	クライアント (xxx) は、ユーザー (yyy) の製品 (zzz) の 起動を抑止しました
稼働監視印刷抑止アラートイベント		00010424	クライアント (xxx) は、ユーザー (yyy) の印刷を抑止しま した

注 JP1/NETM/DM Manager の場合は 000104XX, JP1/NETM/DM Client (中継システム) の場合は 000101XX の
イベント ID となります。XX は変数です。

表 2-2 JP1 イベントの拡張属性

属性名	意味	属性値
SERVERITY	重大度	システムに対する重大度 (Emergence, Alert, Critical, Error, Warning, Notice, Information, Debug)
USER_NAME	ユーザ名	実行ユーザ
JP1_SOURCEHOST	発生元ホスト 名	JP1 イベントを発行する契機となる事象が発生したホスト名
PRODUCT_NAME	PP 名	/HITACHI/JP1/NETMDM
OBJECT_TYPE	オブジェクト タイプ	JP1 イベントの発生した階層 (JOB, JOBNET, ACTION, ACTIONFLOW, DMJOB, COMMAND, PACKAGE, CLIENTALERT, DM_MONITORING_ALERT)
OBJECT_NAME	オブジェクト 名	JP1 イベントの発生個所の名称 (ジョブ番号, 指令番号, パッケージ名, アラートコード, ユーザ名)
ROOT_OBJECT_TYPE	登録名タイプ	登録名の種別 (OBJECT_TYPE と同じ)

2. JP1/IM から JP1/NETM/DM を管理する

属性名	意味	属性値
ROOT_OBJECT_NAME	登録名	登録実行単位となる名称 (ジョブ番号, 指令番号, パッケージ名)
OBJECT_ID	オブジェクト ID	統合システム内で一意に識別できる文字列(ジョブ番号, 指令番号)
OCCURRENCE	事象種別	発生した事象の種別 (START, END, CREATE, DESTROY, MODIFY, SUBMIT, UNSUBMIT, PAUSE, RELEASE, RESTART, EXCEPTION, ALERT, ALERT_CLEAR, SUPPRESS など)
START_TIME	開始時刻	実行開始時刻(1970/01/01 00:00:00 からの秒数)
END_TIME	終了時刻	実行終了時刻(1970/01/01 00:00:00 からの秒数)
RESULT_CODE	終了コード	終了コード

表 2-3 指令完了イベントの拡張属性の詳細情報

属性名	内容
S1	ジョブ名
S2	ジョブ番号
S3	ジョブ種別 「D」: パッケージのインストール 「M」: 中継システムまでのパッケージ転送 「G」: リモートコレクト 「S」: 中継までのリモートコレクト 「A」: 中継サーバからのコレクトファイル収集 「J」: クライアントユーザによるインストール
S4	指令番号
S5	保守コード
S6	経路情報
P1	パッケージ名
P2	パッケージ識別 ID
P3	パッケージのバージョン
P4	パッケージの世代番号
P5	キャビネット識別 ID
P6	パッケージコード 「D」: PC からパッケージングしたパッケージ 「C」: WS からパッケージングしたパッケージ

表 2-4 クライアントアラートイベントの拡張属性の詳細情報

属性名	内容
A1	アラートコード
A2	ホスト名
A3	IP アドレス

表 2-5 稼働監視不正デバイス接続アラートイベントの拡張属性の詳細情報

属性名	内容
O1	実行時間

属性名	内容
O2	IP アドレス
O3	ホスト名
O4	適用済み稼働監視ポリシー
O5	適用済み稼働監視ポリシーのバージョン
O6	接続名
O7	種別デバイスインスタンス ID ¹
O8	コントローラデバイスインスタンス ID ²
O9	デバイス種別

注 1

デバイスの種別（ディスクドライブや DVD/CD-ROM ドライブなど）配下のデバイスインスタンス ID です。

注 2

デバイスのコントローラ配下のデバイスインスタンス ID です。

表 2-6 稼働監視操作履歴削除アラートイベントの拡張属性の詳細情報

属性名	内容
O1	実行時間
O2	IP アドレス
O3	ホスト名
O4	適用済み稼働監視ポリシー
O5	適用済み稼働監視ポリシーのバージョン
O10	情報を消失した期間の開始日時
O11	情報を消失した期間の終了日時

表 2-7 稼働監視ソフトウェア起動抑止アラートイベントの拡張属性の詳細情報

属性名	内容
O1	実行時間
O2	IP アドレス
O3	ホスト名
O4	適用済み稼働監視ポリシー
O5	適用済み稼働監視ポリシーのバージョン
O12	製品名
O13	製品バージョン
O14	ファイル名
O15	ファイルのバージョン
O16	プログラムの起動アカウント

表 2-8 稼働監視印刷抑止アラートイベントの拡張属性の詳細情報

属性名	内容
O1	実行時間

2. JP1/IM から JP1/NETM/DM を管理する

属性名	内容
02	IP アドレス
03	ホスト名
04	適用済み稼働監視ポリシー
05	適用済み稼働監視ポリシーのバージョン
017	ドキュメント名
018	使用プリンタ名

3

JP1/Cm2 または HP NNM から JP1/NETM/DM を管理する

バージョン 8 以前の JP1/Cm2 またはバージョン 7.5 以前の HP NNM の監視画面で、JP1/NETM/DM のインベントリ情報やジョブの実行状況を管理できます。この機能を JP1/Cm2 連携機能といいます。この章では、JP1/Cm2 連携機能の使用方法について説明します。

3.1 JP1/Cm2/NNM または HP NNM と連携する場合のシステム構成

3.2 JP1/NETM/DM のシンボルを確認する

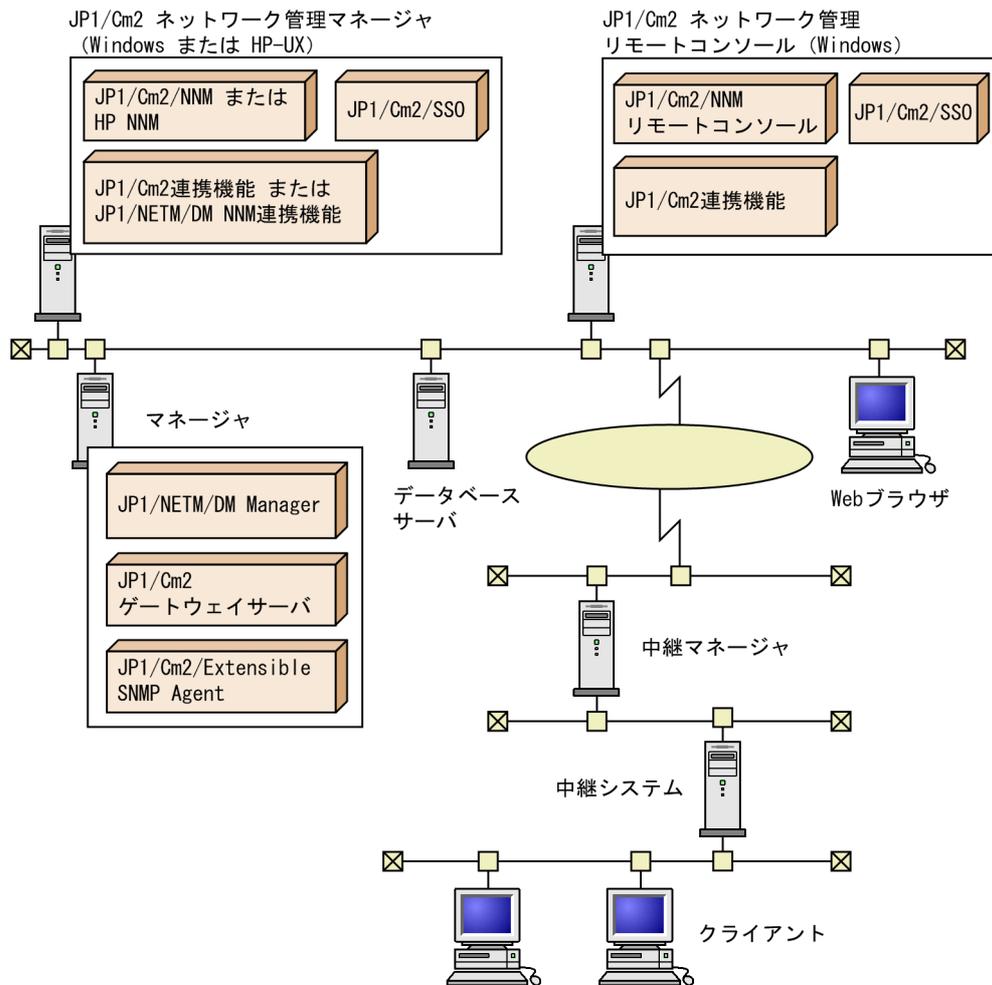
3.3 JP1/Cm2/NNM または HP NNM からインベントリ情報を確認する

3.4 JP1/Cm2/NNM または HP NNM からジョブの実行状態を確認する

3.1 JP1/Cm2/NNM または HP NNM と連携する場合のシステム構成

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM と連携する場合のシステム構成、およびソフトウェア構成を次の図に示します。

図 3-1 JP1/Cm2/NNM または HP NNM と連携する場合のシステム構成



注 JP1/Cm2連携機能はWindows用、JP1/NETM/DM NNM連携機能はHP-UX用のプログラムです。

3.1.1 システム構成

配布管理システムと JP1/Cm2 ネットワークノードマネージャは、同一のネットワーク内に配置してください。配布管理システムと JP1/Cm2 ネットワークノードマネージャを同一の PC に設定することもできます。

(1) Web インターフェース機能を使用する場合

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM の Web インターフェース機能を使用して、Web ブラウザから JP1/NETM/DM の情報を管理できます。Web ブラウザから JP1/

NETM/DM の管理情報を表示する場合、JP1/Cm2 連携機能のセットアップ時に指定したポート番号を使用して配布管理システムの情報を取得します。

(2) JP1/Cm2/NNM または HP NNM リモートコンソールを使用する場合

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM のリモートコンソール機能を使用すると、JP1/Cm2 ネットワークノードマネージャとは別の PC で JP1/Cm2/NNM または HP NNM の情報を参照できます。リモートコンソール機能を使用する場合の注意事項を次に示します。

- JP1/Cm2/NNM または HP NNM のリモートコンソールは、配布管理システムと同一のネットワーク内に配置してください。
- リモートコンソールの PC に「JP1/Cm2 連携機能」をインストールする必要があります。JP1/Cm2 ネットワークノードマネージャにインストールした「JP1/Cm2 連携機能」と同じドライブ、およびディレクトリに「JP1/Cm2 連携機能」をインストールしてください。

3.1.2 ソフトウェア構成

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM と連携する場合に必要なソフトウェアを次に示します。

JP1/Cm2/NNM または HP NNM

TCP/IP ネットワークの構成や障害などを管理するプログラムです。JP1/NETM/DM の構成や障害も管理されます。連携できる JP1/Cm2/NNM を次に示します。

- Windows 版 JP1/Cm2/NNM
- HP-UX 版 JP1/Cm2/NNM
- HP NNM

以降、特に断らないかぎり、JP1/Cm2/NNM と HP NNM を合わせて JP1/Cm2/NNM と呼びます。

JP1/Cm2/NNM リモートコンソール

JP1/Cm2/NNM の情報を JP1/Cm2 ネットワークノードマネージャとは別の PC で参照する場合に使用する、JP1/Cm2/NNM のコンポーネントです。JP1/NETM/DM では、Windows 版 JP1/Cm2/NNM のリモートコンソール機能と連携できますが、HP-UX 版 JP1/Cm2/NNM (または HP NNM) のリモートコンソール機能とは連携できません。

JP1/Cm2/SSO

シンボルの追加要求を監視するプログラムです。

JP1/Cm2 連携機能

JP1/Cm2/NNM (Windows 版) から JP1/NETM/DM Manager の管理情報にアクセスする、JP1/NETM/DM Manager のコンポーネントです。

JP1/NETM/DM NNM 連携機能

JP1/Cm2/NNM (HP-UX) から JP1/NETM/DM Manager の管理情報にアクセスするプログラムです。JP1/NETM/DM NNM 連携機能のインストール、およびセットアップの方法については、マニュアル「構築ガイド」の「付録 D HP-UX JP1/NETM/DM NNM 連携機能のインストールとセットアップ」を参照してください。

JP1/Cm2 連携ゲートウェイサーバ

JP1/Cm2/NNM から JP1/NETM/DM Manager の管理情報にアクセスするときのゲートウェイ機能を提供する、JP1/NETM/DM Manager のコンポーネントです。

3. JP1/Cm2 または HP NNM から JP1/NETM/DM を管理する

JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent

JP1/NETM/DM Manager からのシンボルの追加を、JP1/Cm2/SSO へ連絡するプログラムです。
 JP1/Cm2/NNM と配布管理システムを同一 PC に設定する場合は必要ありません。
 配布管理システムとリモートインストールマネージャを別の PC で使用している場合は、リモートインストールマネージャの PC に JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent が必要です。

JP1/Cm2/NNM Web インターフェース

JP1/Cm2/NNM の情報を Web ブラウザ上で参照する場合に使用する、JP1/Cm2/NNM のコンポーネントです。

Windows 版 JP1/Cm2/NNM または HP NNM との連携に必要なソフトウェアを表 3-1 に、また HP-UX 版 JP1/Cm2/NNM または HP NNM との連携に必要なソフトウェアを表 3-2 に示します。

表 3-1 Windows 版 JP1/Cm2/NNM または HP NNM との連携に必要なソフトウェア

JP1/Cm2 連携機能に必要なシステム		必要なソフトウェア
配布管理システム		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント 「サーバ」および「JP1/Cm2 連携ゲートウェイサーバ」
		JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent 08-00 以降
		JP1/Cm2/Extensible Agent 02-04 以降
JP1/Cm2/NNM ネットワーク管理 マネージャ	JP1/Cm2/NNM 08-00 と 連携する場合	JP1/Cm2/NNM 08-00
		JP1/Cm2/SSO 08-00
		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント「JP1/Cm2 連携機能」
	JP1/Cm2/NNM 07-10 と 連携する場合	JP1/Cm2/NNM 07-10
		JP1/PFM/SSO 07-10 または JP1/PFM/SSO 07-50
		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント「JP1/Cm2 連携機能」
	JP1/Cm2/NNM 07-00 と 連携する場合	JP1/Cm2/NNM 07-00
		JP1/PFM/SSO 07-00
		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント「JP1/Cm2 連携機能」
	JP1/Cm2/NNM 06-71 と 連携する場合	JP1/Cm2/NNM 250 06-71 または JP1/Cm2/NNM Enterprise 06-71
		JP1/SSO 06-71
		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント「JP1/Cm2 連携機能」
	JP1/Cm2/NNM 06-51 と 連携する場合	JP1/Cm2/NNM 250 06-51 または JP1/Cm2/NNM Enterprise 06-51
		JP1/SSO 06-51
		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント「JP1/Cm2 連携機能」
	JP1/Cm2/NNM 06-50 と 連携する場合	JP1/Cm2/NNM 250 06-50 または JP1/Cm2/NNM Enterprise 06-50
		JP1/SSO 06-50
		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント「JP1/Cm2 連携機能」
	JP1/Cm2/NNM 06-00 と 連携する場合	JP1/Cm2/NNM 250 06-00 または JP1/Cm2/NNM Enterprise 06-00

JP1/Cm2 連携機能に必要なシステム		必要なソフトウェア
		JP1/SSO 06-00
		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント「JP1/Cm2 連携機能」
	HP NNM 6.1 と連携する 場合	HP NNM 6.1
		JP1/SSO 06-00
		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント「JP1/Cm2 連携機能」
Web ブラウザ		Microsoft Internet Explorer 6.0, 5.5, または 5.01

注

配布管理システムと JP1/Cm2/NNM を同じ PC に設定する場合は不要です。

表 3-2 HP-UX 版 JP1/Cm2/NNM または HP NNM との連携に必要なソフトウェア

JP1/Cm2 連携機能に必要なシステム		必要なソフトウェア
配布管理システム		JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント 「サーバ」および「JP1/Cm2 連携ゲートウェイサーバ」
		JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent 07-00 以降
		JP1/Cm2/Extensible Agent 05-00 以降
JP1/Cm2/NNM ネットワーク管理マネージャ (HP-UX10.20,11.0,11i)	JP1/Cm2/NNM 07-00 と連携する場合	JP1/Cm2/NNM 07-00
		JP1/PFM/SSO 07-00
		JP1/NETM/DM NNM 連携機能 07-00
	JP1/Cm2/NNM 06-51 と連携する場合	JP1/Cm2/NNM 250 06-51 または JP1/Cm2/NNM Enterprise 06-51
		JP1/SSO 06-51
		JP1/NETM/DM NNM 連携機能 06-52
	HP NNM 6.2 と連携する場合	HP NNM 6.2
		JP1/SSO 06-51
		JP1/NETM/DM NNM 連携機能 06-52
	JP1/Cm2/NNM 06-50 と連携する場合	JP1/Cm2/NNM 250 06-50 または JP1/Cm2/NNM Enterprise 06-50
		JP1/SSO 06-51
		JP1/NETM/DM NNM 連携機能 06-51 以降
JP1/Cm2/NNM ネットワーク管理マネージャ (HP-UX10.20,11.0)	JP1/Cm2/NNM 06-00 と連携する場合	JP1/Cm2/NNM 250 06-00 または JP1/Cm2/NNM Enterprise 06-00
		JP1/SSO 06-00
		JP1/NETM/DM NNM 連携機能 06-00 以降
	HP NNM 6.1 と連携する場合	HP NNM 6.1

3. JP1/Cm2 または HP NNM から JP1/NETM/DM を管理する

JP1/Cm2 連携機能に必要なシステム	必要なソフトウェア
	JP1/SSO 06-00
	JP1/NETM/DM NNM 連携機能 06-00 以降
Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 6.0, 5.5, または 5.01

注

配布管理システムと JP1/Cm2/NNM を同じ PC に設定する場合は不要です。

3.1.3 JP1/Cm2 連携機能を使用する場合の注意事項

JP1/Cm2 連携機能を使用する場合の注意事項を次に示します。

JP1/NETM/DM が、JP1/Base と連携してユーザ管理機能を使用している場合、JP1/Cm2 連携機能は利用できません。

SNMP トラップのエージェントアドレスを有効にするために、JP1/Cm2/NNM の ovtrapd プロセスの起動オプションに「-w」を指定して、WinSNMP を使用しない環境にする必要があります。次の手順で起動オプションに「-w」を指定してください。

1. JP1/Cm2/NNM のウィンドウをすべて閉じる。
2. JP1/Cm2/NNM のサービスを停止する。
3. MS-DOS プロンプトから次のコマンドを実行する (JP1/Cm2/NNM を C ドライブにインストールしている場合の例)。

```
cd C:\¥OpenView¥lrf
ovdelobj ovtrapd.lrf
notepad ovtrapd.lrf (メモ帳を起動)
```

4. メモ帳で開いた ovtrapd.lrf ファイルの最終行に「-W」オプションを追加し、保存する。「-w」は、次に示すように「pmd」と「OVs_WELL_BEHAVED」の間に追加してください。

```
OVs_YES_START:pmd:-W:OVs_WELL_BEHAVED::
```

5. MS-DOS プロンプトから、引き続き次のコマンドを実行する。

```
ovaddobj ovtrapd.lrf
```

6. JP1/Cm2/NNM のサービスを開始する。

JP1/Cm2/NNM のサービスを開始する前に、[コントロールパネル]の[管理ツール]-[サービス]から「SNMP Trap Service」を停止してください。

JP1/Cm2/NNM 07-00 と連携する場合は、JP1/Cm2/NNM のサービスを開始する前に、次のコマンドを実行してください。

```
nnmDependency.exe -unset
```

マップを正常に表示するために、JP1/Cm2/NNM の IP Map の設定で、「固定サブマップ・レベル (オンデマンド・サブマップ)?」を「All Levels」に設定しておいてください。IP Map は、JP1/Cm2/NNM の [マップ] メニューの [プロパティ] で設定します。

3.2 JP1/NETM/DM のシンボルを確認する

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM のノードマップ画面で表示されるシンボルから、JP1/NETM/DM の構成を確認できます。

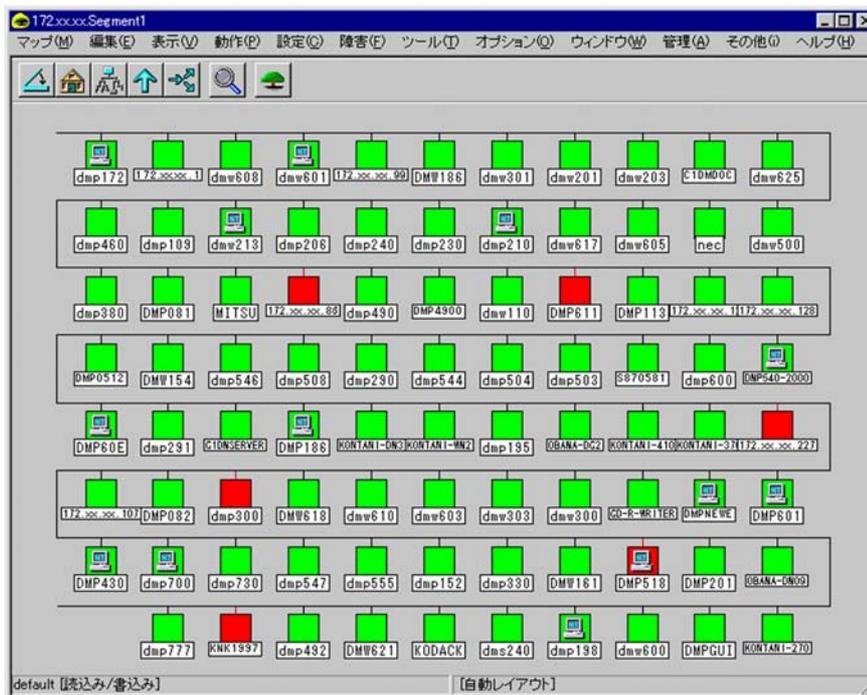
3.2.1 シンボルの確認方法

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM で JP1/NETM/DM のシンボルを確認する方法について説明します。この節では、JP1/Cm2/NNM または HP NNM を「NNM」と呼びます。

(1) NNM のマップ画面を使用する場合

ノードマップ画面に表示されているノードシンボルをダブルクリックすると、選択したノードのサブマップが表示されます。次に、ネットワーク・プレゼンタ画面およびノードサブマップ画面の例を示します。

図 3-2 ネットワーク・プレゼンタ画面（NNM のマップ画面を使用する場合）



3. JP1/Cm2 または HP NNM から JP1/NETM/DM を管理する

図 3-3 ノードサブマップ画面（NNM のマップ画面を使用する場合）



「NETM/DM:Client」または「NETM/DM:SubManager」のシンボルを選択し、メニューの [管理] - [JP1/NETM/DM の管理] から表示されるメニューを選択すると、インベントリ情報やジョブの実行状態を確認できます。

(2) Web ブラウザを使用する場合

Web ブラウザでは、ネットワーク・プレゼンタ画面の一覧表示エリア、または内容表示エリアに表示されているノードシンボルをダブルクリックすると、選択したノードのサブマップが表示されます。次に、ネットワーク・プレゼンタ画面およびノードサブマップ画面の例を示します。

図 3-4 ネットワーク・プレゼンタ画面（Web ブラウザを使用する場合）

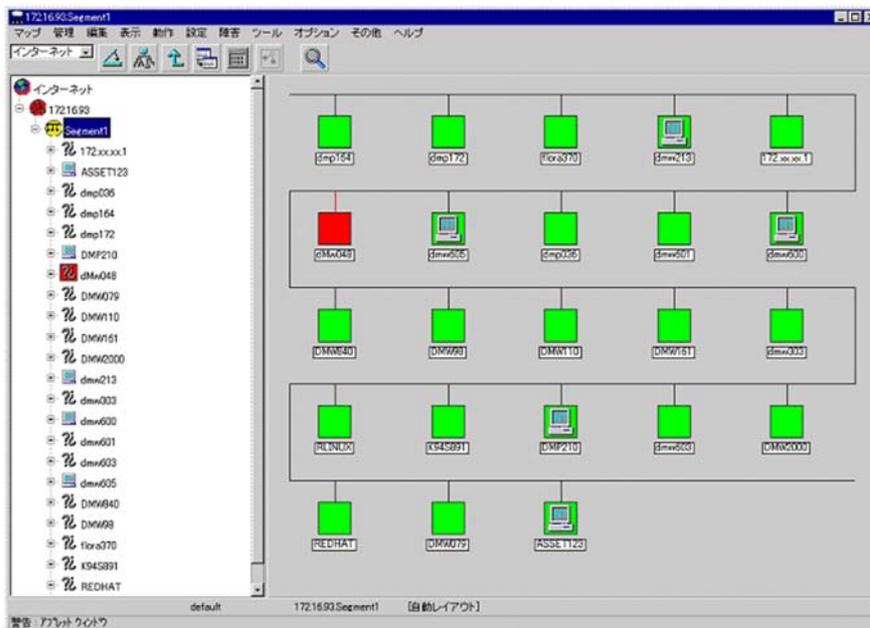
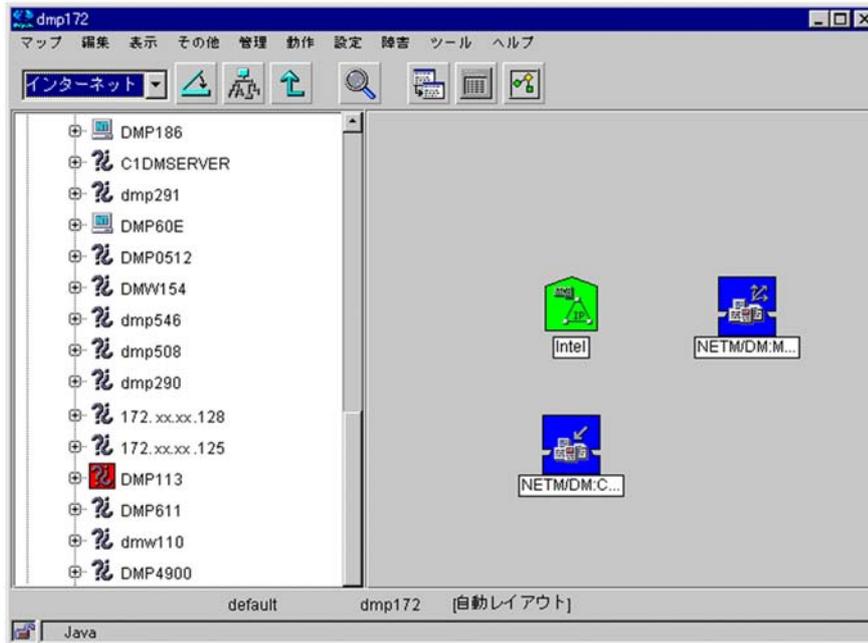


図 3-5 ノードサブマップ画面 (Web ブラウザを使用する場合)



「NETM/DM:Client」または「NETM/DM:SubManager」のシンボルを選択し、メニューの [管理] - [JP1/NETM/DM の管理] から表示されるメニューを選択すると、インベントリ情報やジョブの実行状態を確認できます。

3.2.2 JP1/NETM/DM のシンボル

(1) シンボルの種類

JP1/NETM/DM の各システムは、次のシンボルで NNM に表示されます。

図 3-6 マネージャまたは中継マネージャのシンボル



図 3-7 中継システムのシンボル



図 3-8 クライアントのシンボル



(2) シンボルの追加，削除のタイミング

(a) 追加のタイミング

マネージャのシンボルは、JP1/NETM/DM Manager のサービスが起動したときに表示されます。中継システムおよびクライアントのシンボルは、システム構成に追加された時点で表示されます。

マネージャが階層化されたシステム構成の場合、マネージャの配下の中継マネージャがシステム構成に追加された時点から NNM に表示されます。

(b) 削除のタイミング

中継システムおよびクライアントのシンボルは、システム構成から削除された時点で、削除されます。

マネージャが階層化されたシステム構成の場合、マネージャ配下の中継マネージャがシステム構成から削除された時点で NNM の表示からも削除されます。

NNM の [管理] メニューから [JP1/NETM/DM の管理] - [シンボルの全削除] を選択すると、JP1/NETM/DM のすべてのシンボルを一括して削除できます。ただし、NNM の画面上で追加した JP1/NETM/DM のシンボルは削除されません。

Web ブラウザを使用する場合、シンボルの一括削除は実行できません。

(3) エラー発生時のシンボルへの反映

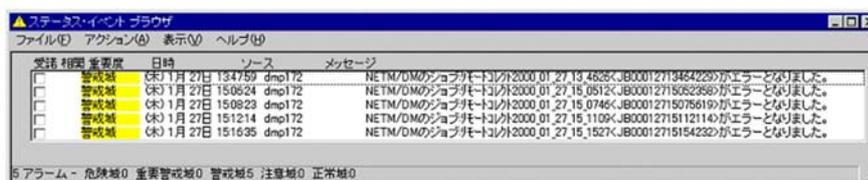
エラーが発生したホストのシンボルは、表示される色が変わります。エラーが発生していない状態では、緑色で表示されていますが、エラーが発生した場合は黄色で表示されます。シンボルの表示を正常の状態（緑色）に戻すには、NNMの[管理]メニューから[JP1/NETM/DMの管理] - [シンボルの初期化]を選択します。

Webブラウザを使用する場合、シンボルの初期化は実行できません。

(a) エラー発生の確認方法

JP1/NETM/DMのホストでエラーが発生し、シンボルの表示状態が変更されると、NNMのステータス・イベントブラウザ、またはアプリケーション警報イベントブラウザで確認できます。JP1/NETM/DMでエラーが発生した場合の、ステータス・イベントブラウザでの表示例を次に示します。

図 3-9 JP1/NETM/DMでエラーが発生した場合のステータス・イベントブラウザでの表示例



「ソース」には、JP1/NETM/DM Managerのホスト名が表示されます。「メッセージ」には、次の形式でエラーになったジョブが表示されます。

NETM/DMのジョブ：ジョブ名<ジョブID>がエラーとなりました。

(b) JP1/NETM/DMがNNMに通知する情報

JP1/NETM/DMはジョブがエラーになると、次の表に示す情報をNNMに通知(トラップ)します。

表 3-3 JP1/NETM/DMがNNMに通知する情報

通知する情報の項目	内容
トラップ名	Netmdm_Sts_job
イベント・カテゴリ	ステータス・イベント
企業ID (netmdm)	.1.3.6.1.4.1.116.7.20
固有トラップ番号	1
重要度	警戒域
変数 \$3	エラーとなったジョブの名称
変数 \$4	エラーとなったジョブのID

企業ID (.1.3.6.1.4.1.116.7.20) はJP1/NETM/DM固有になっているため、JP1/NETM/DMのジョブ発生に対し、NNMの自動アクションを設定することもできます。

3.3 JP1/Cm2/NNM または HP NNM からインベントリ情報を確認する

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM から JP1/NETM/DM Manager が管理しているインベントリ情報を確認する方法について説明します。この節では、JP1/Cm2/NNM または HP NNM を「NNM」と呼びます。

なお、オフラインマシンのインベントリ情報は、NNM で確認できません。

3.3.1 インベントリ情報の確認

(1) インベントリ情報の確認方法

インベントリ情報の確認方法を次に示します。

1. NNM でインベントリ情報を確認したいシンボルを選択する。
2. [管理] メニューから [JP1/NETM/DM の管理] - [資産情報の表示] を選択し、確認するインベントリ情報を選択する。
JP1/NETM/DM Inventory Viewer が表示されて、選択したインベントリ情報が確認できます。

(2) JP1/NETM/DM Inventory Viewer の構成

JP1/NETM/DM Inventory Viewer の構成について次に示します。

図 3-10 JP1/NETM/DM Inventory Viewer の構成



メニューバー
ファイル

JP1/NETM/DM Inventory Viewer を閉じます。

表示

確認するインベントリ情報の種類を選択したり、インベントリ情報を最新の状態に変更したりできます。

ヘルプ

JP1/NETM/DM のバージョン情報を表示します。

ツールバー

-  : ソフトウェア情報を表示します。
-  : システム情報を表示します。
-  : ユーザインベントリ情報を表示します。
-  : レジストリ情報を表示します。
-  : インベントリ情報を最新の状態に更新します。

情報表示部

選択されたインベントリ情報を表示します。

ステータスバー

表示ノードには、情報を表示している中継システムまたはクライアントの名称（ホスト名または IP アドレス）を表示します。

メッセージには、ツールバーの意味や入力項目に対する説明メッセージを表示します。

3.3.2 インベントリ情報の表示例

(1) ソフトウェア情報

ソフトウェア情報の表示例を次に示します。

図 3-11 ソフトウェア情報の表示例



パッケージ名	識別 ID	状態	新バージョン	新世代番号	旧バージョン	旧世代番号	インストール日時
Microsoft ACCESS	ACCESS	正常終了	700	0000			2002/11/15 18:03:2
Adobe Acrobat Reader	ACROBAT-RE	正常終了	40000	0000			2002/11/15 18:03:4
Groupmax Form Client	GMX3-FRM9	正常終了	0310/A	0000			2002/11/15 18:03:1
Groupmax Scheduler Client	GMX3-SCL9	正常終了	0310/B	0000			2002/11/15 18:03:1
Groupmax Client Version 5	GMX5-IDS9	正常終了	0500/A	0000			2002/11/15 18:03:1
Groupmax Address Client Ve	GMX5-IDS9/AC	正常終了	0500	0000			2002/11/15 18:03:1
Groupmax Document Manag	GMX5-IDS9/DI	正常終了	0500	0000			2002/11/15 18:03:1
Groupmax Agent Client Versi	GMX5-IDS9/GI	正常終了	0500	0000			2002/11/15 18:03:1
Groupmax Integrated Desкто	GMX5-IDS9/ID	正常終了	0500/A	0000			2002/11/15 18:03:1
Groupmax Mail Client Versior	GMX5-IDS9/MI	正常終了	0500	0000			2002/11/15 18:03:1
Groupmax Workflow Client Vi	GMX5-IDS9/WI	正常終了	0500/A	0000			2002/11/15 18:03:1
Microsoft Office	MICROSOFT-O	正常終了	803612	0000			2002/11/15 18:03:4
インターネット エクスプロー	MS-IEEXPLORE	正常終了	472311	0000			2002/11/15 18:03:4
Internet Information Server	MS-IIS	正常終了	400	0000			2002/11/15 18:04:1
Microsoft Schedule+	MS-SCHEDUL	正常終了	70	0000			2002/11/15 18:03:2
Microsoft SQL Server	MS-SQLSERV	正常終了	650201	0000			2002/11/15 18:03:2
Microsoft Visual C++ 4.2	MS-VISUAL-C-	正常終了	0402	0000			2002/11/15 18:03:2
Microsoft Visual SourceSafe	MS-VISUAL-S	正常終了	050000	0000			2002/11/15 18:03:4
Netscape Communicator 4.5	NETSCAPE	正常終了	0450	0000			2002/11/15 18:03:4

配布管理システムで取得したインストール済みのソフトウェアの情報を参照できます。ただし、「ファイルを検索」、「Microsoft Office 製品を検索」、または「ウィルス対策製品を検索」で取得したソフトウェア情報は参照できません。参照できるソフトウェア情報の詳細については、マニュアル「導入・設計ガイド」

3. JP1/Cm2 または HP NNM から JP1/NETM/DM を管理する

の「2.2.2 ソフトウェア情報の取得」を参照してください。

(2) システム情報

システム情報の表示例を次に示します。

図 3-12 システム情報の表示例



システム情報項目	値
CPU種別	Intel Pentium II
コプロセッサ	あり
実メモリ容量	256 MB
CPUクロック数	300 MHz
製造元	HITACHI
モデル	FLORA 370 TS4
所有者名	ソフトウェア開発本部
会社名	日立製作所
コンピュータ名	DMP210
ドメイン種別	スタンドアロンサーバ
OS	WindowsNT Server
OSバージョン	0400
OSサブバージョン	Service Pack 6
クライアントバージョン	JP1/NETM/DM Client 0700
Aドライブ (ハードディスク)	空き容量 430 MB, 全ディスク容量 4133 MB
Cドライブ (ハードディスク)	空き容量 780 MB, 全ディスク容量 2000 MB
Dドライブ (ハードディスク)	
Eドライブ (CD-ROM)	
Fドライブ (ハードディスク)	空き容量 58 MB, 全ディスク容量 2117 MB
利用可能ユーザーメモリ容量	277 MB
利用可能システムリソース容量	284560 KB
ビデオドライバ	AccelERO.MX 3D Video Accelerator

システム情報には、「CPU 種別」、「OS バージョン」などがあります。参照できるシステム情報の項目については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「2.2.1 システム情報の取得」を参照してください。

(3) ユーザインベントリ情報

配布管理システムで管理しているユーザインベントリ情報を参照できます。ユーザインベントリ情報の表示例を次に示します。

図 3-13 ユーザインベントリ情報の表示例



ユーザ資産情報項目	値
ハードウェア装置番号	R11403
管理者	
部署名	sDC2
設置場所	(内) 新館1F
内線番号	3474
メールアドレス	
ユーザインベントリ情報転送日時	2003/08/09 12:05:37

(4) レジストリ情報

配布管理システムで管理しているレジストリ情報を参照できます。レジストリ情報の表示例を次に示します。

3.4 JP1/Cm2/NNM または HP NNM からジョブの実行状態を確認する

バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM から、JP1/NETM/DM のジョブの実行状態を確認する方法について説明します。ジョブの実行状態は、JP1/Cm2/NNM または HP NNM のノードサブマップ、またはステータス・イベントブラウザから確認できます。この節では、JP1/Cm2/NNM または HP NNM を「NNM」と呼びます。

NNM では次のジョブを確認できません。

- 「ファイル転送の中断」、「ファイル転送の再開」、「ソフトウェア稼働監視の制御」および「ソフトウェア稼働情報の取得」ジョブ
- 実行状態が削除中のジョブ

また、ジョブの実行状態の表示には次の制限があります。

- 「中断中」および「再開中」にはなりません。
- 起動失敗要因は細分化されません。

3.4.1 ノードサブマップからの確認

(1) 確認方法

ノードサブマップからジョブの実行状態を確認する方法を次に示します。

1. NNM のノードサブマップで、ジョブの実行状態を確認したいシンボルを選択する。
2. [管理] メニューから [JP1/NETM/DM の管理] - [ジョブ情報の表示] を選択する。
JP1/NETM/DM Job Viewer が表示されます。
3. メニューの [表示] - [表示ステータス] で、表示させるジョブの実行状態を選択する。
選択した実行状態のジョブが表示されます。ジョブの実行状態は、ツールバーのボタンから選択することもできます。
表示されているジョブ情報をダブルクリックすると、ジョブの詳細情報を確認できます。

(2) JP1/NETM/DM Job Viewer の構成

JP1/NETM/DM Job Viewer の構成を次に示します。

図 3-15 JP1/NETM/DM Job Viewer の構成



メニューバー

[ファイル] メニュー

JP1/NETM/DM Job Viewer を閉じたり、ジョブの詳細情報を確認したりできます。

[表示] メニュー

確認するジョブの実行状態の種類を選択したり、ジョブ情報を最新の状態に変更したりできます。

[ヘルプ] メニュー

JP1/NETM/DM のバージョン情報を表示します。

ツールバー



緑色：正常終了のジョブを表示します。

白色：未実行のジョブを表示します。

黄色：インストール待ちのジョブを表示します。

赤色：エラーのジョブを表示します。



ジョブの実行状態の情報を最新の状態に更新します。



ジョブの詳細情報を表示します。

情報表示部

選択された実行状態のジョブを表示します。

ステータスバー

表示ノードには、情報を表示している中継システムまたはクライアントのホスト名（または IP アドレス）を表示します。

メッセージには、ツールバーの意味や入力項目に対する説明メッセージを表示します。

3.4.2 ステータス・イベントブラウザからの確認

JP1/NETM/DM Job Viewer は、NNM のステータス・イベントブラウザから表示させることもできます。ステータス・イベントブラウザからジョブの実行状態を確認する方法を次に示します。なお、Web ブラウザを使用する場合、ステータス・イベントブラウザから JP1/NETM/DM Job Viewer を表示させることはできません。

1. ステータス・イベントブラウザに表示されている JP1/NETM/DM のジョブのエラー発生を示すイベントを選択し、メニューの [アクション] - [アクションの実行] を選択する。
[ステータス・イベントでのアクションの実行] ダイアログボックスが表示されます。

図 3-16 [ステータス・イベントでのアクションの実行] ダイアログボックス



2. 「アクション」の「NETM/DM ジョブ情報表示」を選択し [実行] ボタンをクリックする。
JP1/NETM/DM Job Viewer が表示されます。JP1/NETM/DM Job Viewer には、ステータス・イベントブラウザで選択したジョブの詳細情報だけが表示されます。

4

コマンド

この章では、関連プログラムである JP1/AJS と連携して、ジョブの実行やパッケージングなどの機能を自動化する方法について説明します。また、JP1/NETM/DM のコマンドについて、文法など使い方を説明します。

-
- 4.1 JP1/AJS と連携した自動運用の概要

 - 4.2 コマンドの種類と入出力情報

 - 4.3 コマンドの説明形式

 - 4.4 dcmcoll.exe (ファイルの収集)

 - 4.5 dcmcsvu.exe (CSV 出力)

 - 4.6 dcmdice.exe (ソフトウェアインベントリ辞書のエクスポート)

 - 4.7 dcmdici.exe (ソフトウェアインベントリ辞書のインポート)

 - 4.8 dcmgpmnt.exe (あて先グループへのポリシーの一括反映)

 - 4.9 dcmhstwo.exe (JP1/NETM/DM 未導入ホストの検出)

 - 4.10 dcminst.exe (ジョブの作成, 実行)

 - 4.11 dcmjbrm.exe (ジョブの削除)

 - 4.12 dcmjexe.exe (ジョブの実行)

 - 4.13 dcmmonrst.exe (稼働情報のデータベースへの格納)

 - 4.14 dcmpack.exe (パッケージングの実行)

 - 4.15 dcmpkget.exe (パッケージのバックアップの取得)

 - 4.16 dcmpkput.exe (パッケージのバックアップからの復元)

 - 4.17 dcmpkrm.exe (パッケージの削除)

 - 4.18 dcmrmgen.exe (ジョブ定義の削除)

 - 4.19 dcmrtry.exe (ジョブの再実行)

 - 4.20 dcmstat.exe (ジョブの実行状況の取得)

4. コマンド

-
- 4.21 dcmstdiv.exe (オフラインマシン情報の入力)

 - 4.22 dcmstsw.exe (ジョブの実行状況の監視)

 - 4.23 dcmsusp.exe (ファイル転送の中断と再開)

 - 4.24 dcmuidi.exe (ユーザインベントリの一括入力)

 - 4.25 dcmwsus.exe (WSUS の同期実行)

 - 4.26 パラメタファイルの作成

 - 4.27 予約語の指定方法

 - 4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作
-

4.1 JP1/AJS と連携した自動運用の概要

JP1/NETM/DM では、パッケージングやリモートインストールなど、幾つかの機能をコマンドで提供しています。このコマンドを JP1/AJS と組み合わせることで、さまざまな機能を自動運用させることができます。

この節では、JP1/AJS を使用した、JP1/NETM/DM の自動運用の事例を紹介します。紹介する事例は次の三つです。

ファイルの更新を検知して自動的にリモートインストールする。

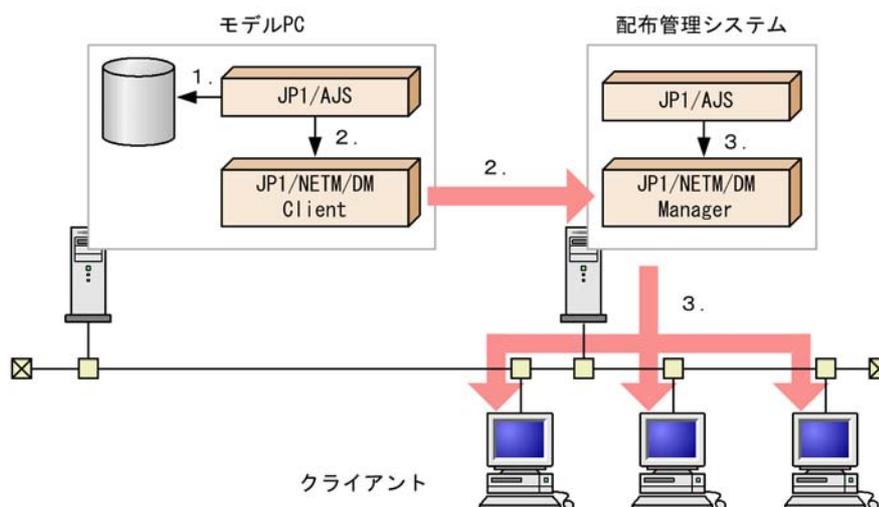
リモートインストールのエラーを検知しリトライする。

各拠点のファイルを収集し、加工して再配布する。

(1) ファイルの更新を検知して自動的にリモートインストールする

データの更新を監視するためのモデルとなる PC を用意しておき、特定のフォルダまたはファイルの更新を契機に、自動でデータのパッケージングおよびリモートインストールを実行できます。処理の概要を次の図に示します。

図 4-1 ファイルの更新を検知して自動的にリモートインストールする運用



次の 1～3 の処理を JP1/AJS に定義する

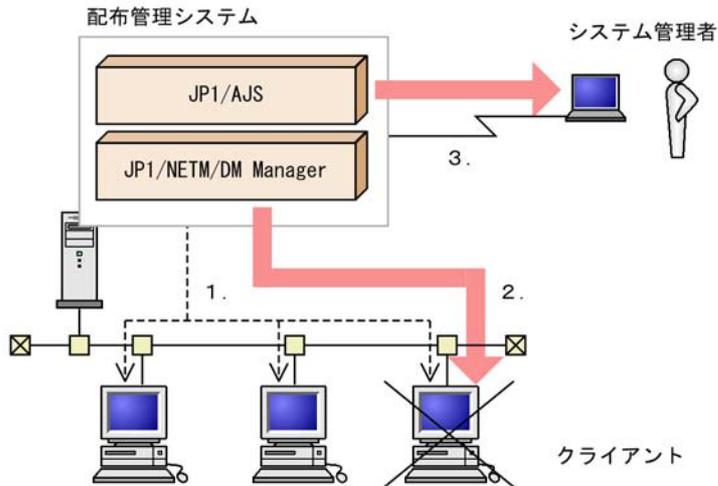
1. モデルPC上のJP1/AJSが、特定のファイルまたはフォルダを監視する
2. ファイルの更新を感じたときに、JP1/NETM/DM Clientのdcmpackコマンドを実行し、変更のあったデータを配布管理システムにパッケージングする
3. 配布管理システムのJP1/AJSが、JP1/NETM/DM Manager のdcmnstコマンドを実行し、パッケージングされたデータを各クライアントにリモートインストールする

この例では、管理者は配布対象のファイルを特定の PC の、特定のフォルダに格納するだけで、管理対象となるすべてのクライアントのデータを更新できます。また、すべての操作を自動化することで、配布するファイルの間違いや誤操作を防止できます。

(2) リモートインストールのエラーを検知しリトライする

JP1/NETM/DM でのリモートインストールの結果を監視し、リモートインストールが失敗した PC だけにデータを再度転送したり、リモートインストールが失敗したことをメールで管理者に連絡したりする一連の業務を自動化できます。処理の概要を次の図に示します。

図 4-2 リモートインストールのエラーを検知しリトライする運用



次の1～3の処理をJP1/AJSに定義する

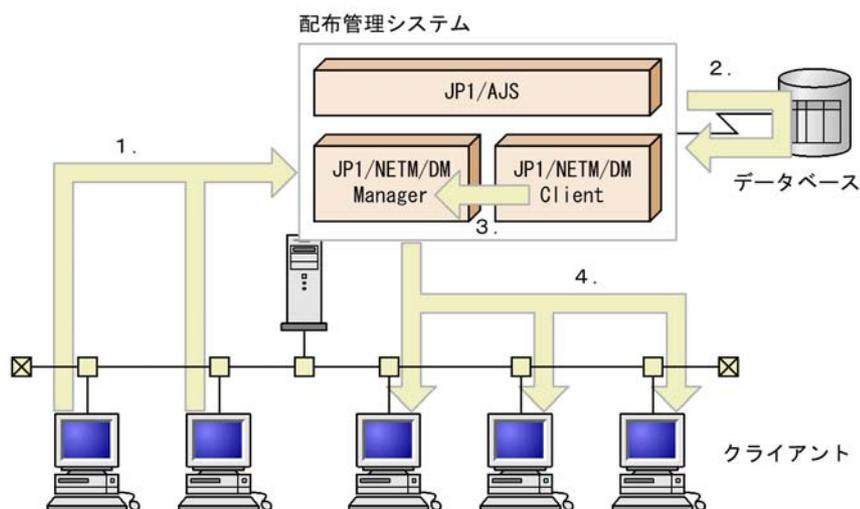
1. JP1/NETM/DM Managerからdcmstatコマンドを実行し、リモートインストールのジョブの実行状況を取得する
2. 配布が失敗したクライアントに対し、dcmrtryコマンドを実行し、ジョブを再実行する
3. 配布が失敗したことを知らせるメールをJP1/AJSがシステム管理者に送付する

この例ではエラーを契機に次の処理を実行させていますが、エラーではなく、リモートインストールが正常に完了したのを契機に別の処理を実行させることもできます。

(3) 各拠点のファイルを収集し、加工して再配布する

JP1/NETM/DMのファイル収集機能を利用して各拠点のファイルを収集し、サーバ側でデータを加工したりデータベースを更新したりできます。また、加工したデータを再び各クライアントに転送し、最新のデータに置き換えることもできます。処理の概要を次の図に示します。

図 4-3 各拠点のファイルを収集し、加工して再配布する運用



次の1～4の処理をJP1/AJSに定義する

1. JP1/NETM/DM Managerのdcmcollコマンドを実行して、クライアントの特定のフォルダまたはファイルのデータを収集する
2. データの加工やデータベースの更新処理をするスクリプトを、配布管理システムで実行する
3. JP1/NETM/DM Clientのdcmpackコマンドを実行し、最新のデータをパッケージングする
4. JP1/NETM/DM Managerのdcminstコマンドを実行し、データを各クライアントに配布する

4.2 コマンドの種類と入出力情報

この節では、JP1/NETM/DM のコマンドの種類、およびコマンド実行時の入出力情報について説明します。

4.2.1 コマンドの種類

JP1/NETM/DM のコマンドの種類と、それぞれのコマンドが JP1/NETM/DM Manager または JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行できるかどうかを、コマンドの目的別に示します。

(1) ジョブの作成や実行に関連するコマンド

このコマンドは、JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリの更新権限を持ったユーザが実行できます。

表 4-1 ジョブの作成や実行に関連するコマンド

機能	コマンド名	JP1/NETM/DM Manager	JP1/NETM/DM Client (中継システム)	参照先
リモートインストール関連のジョブを作成、実行します。作成、実行できるジョブは次の 4 種類です。 <ul style="list-style-type: none"> • パッケージのインストール • 中継システムまでのパッケージ転送 • 中継システムのパッケージ一括削除 • クライアントユーザによるインストール 	deminst.exe			4.10
リモートコレクト関連のジョブを作成、実行します。作成、実行できるジョブは次の 4 種類です。 <ul style="list-style-type: none"> • リモートコレクト • 中継までのリモートコレクト • 中継サーバからのコレクトファイル収集 • 中継サーバのコレクトファイル削除 また、収集したアーカイブファイルを復元します。	demcoll.exe			4.4
ファイル転送を中断、または再開します。	demsusp.exe		x	4.23
配布管理システムで定義されているジョブを実行します。	demjexe.exe			4.12
ジョブを再実行します。	demrtry.exe			4.19
実行したジョブを削除します。	demjbrm.exe			4.11
ジョブの定義を削除します。	demrmgen.exe			4.18
ジョブの実行状況を取得します。	demstat.exe			4.20
ジョブの実行状況を監視し、状況に応じて外部プログラムを起動します。	demstsw.exe			4.22

(凡例) : 実行できる x : 実行できない

(2) インベントリ情報の管理に関するコマンド

このコマンドは、ODBC システムデータソースの更新権限を持ったユーザが実行できます。

表 4-2 インベントリ情報の管理に関するコマンド

機能	コマンド名	JP1/NETM/DM Manager	JP1/NETM/DM Client (中継シス テム)	参照先
クライアントのインベントリ情報を CSV 形式ファイルまたはパラメタファイル形式で出力します。	dcmcsvu.exe		×	4.5
複数のユーザインベントリを CSV 形式ファイルから一括して入力します。	dcmuidi.exe		×	4.24
ソフトウェアインベントリ辞書または削除ソフトウェア管理テーブルの情報を、CSV 形式ファイルにエクスポートします。	dcmdice.exe		×	4.6
CSV 形式ファイルに記述されたソフトウェアの情報を、ソフトウェアインベントリ辞書にインポートします。	dcmdici.exe		×	4.7
オフラインマシンで取得したオフラインマシン情報を、配布管理システムに入力します。	dcmstdiv.exe		×	4.21

(凡例) : 実行できる × : 実行できない

(3) パッケージに関するコマンド

このコマンドは、JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリの更新権限を持ったユーザが実行できません。

表 4-3 パッケージに関するコマンド

機能	コマンド名	JP1/NETM/DM Manager	JP1/NETM/DM Client (中継シス テム)	参照先
ユーザデータ、ユーザプログラムをパッケージングします。	dcmpack.exe			4.14
キャビネットからパッケージを削除します。	dcmpkrm.exe			4.17
パッケージのバックアップを取得します。	dcmpkget.exe			4.15
パッケージをバックアップから復元します。	dcmpkput.exe			4.16

(凡例)

: 実行できる

: パッケージのコンポーネントをインストールした、JP1/NETM/DM Manager (中継マネージャ)、JP1/NETM/DM Client (中継システム)、および JP1/NETM/DM Client (クライアント) で実行できる

(4) システム構成に関連するコマンド

このコマンドは、ODBC システムデータソースの更新権限を持ったユーザが実行できます。

表 4-4 システム構成に関連するコマンド

機能	コマンド名	JP1/NETM/DM Manager	JP1/NETM/DM Client (中継シス テム)	参照先
作成したポリシーを一括反映し、登録されているホストをあて先グループに振り分けます。	dcmgpmnt.exe		×	4.8
JP1/NETM/DM がインストールされていないホストを検出します。	dcmhstwo.exe		×	4.9

4. コマンド

(凡例) :実行できる x:実行できない

(5) ソフトウェアの稼働監視に関連するコマンド

このコマンドは、ODBC システムデータソースの更新権限を持ったユーザが実行できます。

表 4-5 ソフトウェアの稼働監視に関連するコマンド

機能	コマンド名	JP1/NETM/DM Manager	JP1/NETM/DM Client (中継システム)	参照先
JP1/NETM/DM で取得した抑止履歴および操作履歴を、[操作ログ一覧]ウィンドウで管理するためのデータベーステーブルに格納します。	demmonrst.exe		x	4.13

(凡例) :実行できる x:実行できない

(6) クライアントの管理に関連するコマンド

このコマンドは、ODBC システムデータソースの更新権限を持ったユーザが実行できます。

表 4-6 クライアントの管理に関連するコマンド

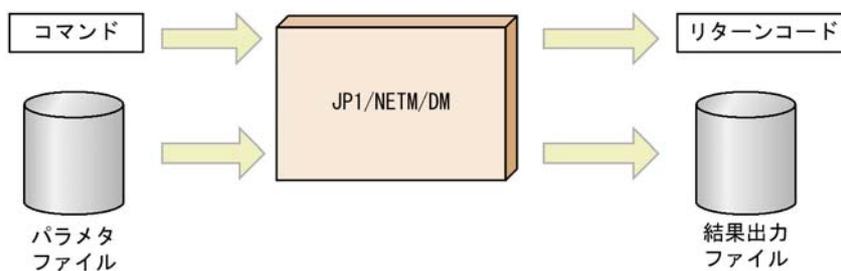
機能	コマンド名	JP1/NETM/DM Manager	JP1/NETM/DM Client (中継システム)	参照先
階層化した WSUS サーバと連携する場合に、最上位の WSUS サーバと下位の WSUS サーバを同期させます。	demwsus.exe		x	4.25

(凡例) :実行できる x:実行できない

4.2.2 コマンド実行時の入出力情報

コマンドの実行時の入出力情報を次の図に示します。

図 4-4 コマンド実行時の入出力情報



(1) 入力情報

コマンド実行時は、実行条件や、実行させるジョブの詳細な内容を、コマンドの引数およびパラメタファイルで指定します。コマンドの引数とパラメタファイルのどちらでも指定できる項目と、どちらかを指定できる項目があります。

コマンド

実行させるコマンドおよび引数を入力します。引数では、パラメタファイルや結果出力ファイルの名称を指定するほか、ジョブのさまざまな実行条件を定義できます。

パラメタファイル

リモートインストールのあとで先やインストール条件など、ジョブ実行時に必要な情報を記述するファイルです。パラメタファイルの作成方法については、「4.26 パラメタファイルの作成」を参照してください。コマンド実行後に出力された結果出力ファイルを、別のコマンドでパラメタファイルとして入力することもできます。

(2) 出力情報

コマンドの実行結果は、次の情報で確認できます。

リターンコード

コマンドの実行結果が、リターンコードとして返却されます。

結果出力ファイル

コマンド実行時に指定した結果出力ファイルに、コマンドの実行結果が出力されます。ジョブを作成、実行したコマンドの結果出力ファイルは、ジョブの実行状況を取得したり、ジョブを再実行したりするコマンドを実行するときのパラメタファイルとして使用できます。

(3) 注意事項

Windows のタスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドを実行する場合、コマンド実行ユーザにアクセス権のないネットワークドライブなどのディレクトリ、ファイルにパラメタファイル、結果出力ファイルを指定しないよう注意してください。

4.2.3 コマンドのエラー情報の確認方法

コマンドがエラーになった場合、Windows NT のイベントビューアでイベントログを確認できます。

イベントビューアのソース欄に「Netmdm Utility」と表示されるイベントを確認してください（イベント ID は、1 ~ 2018）。イベントの詳細情報では、コマンド名、エラー原因の詳細が確認できます。次に、詳細情報の表示例を示します。

```
dcmpack.exe /i C:¥dmbat¥in.txt /k*****
パラメタファイルに不正な値が含まれています :L.23
```

この詳細情報は、パラメタファイル（C:¥dmbat¥in.txt）の 23 行目に誤りがあることを示しています。指定したパスワードは、「*****」と表示されます。

4.2.4 コマンドの入力形式

JP1/NETM/DM のコマンドは次の形式で指定してください。

コマンド名 /引数1 [値1] [/引数2 [値2] ...]

- 引数は、「/」と英字で指定します。
- 「/」で始まる文字列はすべて引数として解釈されるため、値には「/」で始まる文字列は指定できません。
- コマンド名と引数、引数と値の間には、それぞれ一つ以上のスペースが必要です。
- 値がスペースまたは MS-DOS の制御文字を含む場合は、値を「"」で囲んで指定してください。「"」で囲まれた文字列は MS-DOS の仕様に従って解析されます。「"」で囲まれた中に「"」を文字として指定する場合は、「¥"」と指定します。

4. コマンド

(例)

```
dcmpack.exe /b "dcmpack /i ¥"C:¥dev 1¥parameter file1.txt¥" /i "C:¥dev  
2¥parameter file2.txt"
```

4.3 コマンドの説明形式

この章では、パラメタファイルを使用できるコマンドについては、パラメタファイルの使用を前提に説明します。パラメタファイルとコマンドの引数のどちらでも指定できる項目は、パラメタファイル中で指定する項目として説明します。なお、同じ内容をコマンドの引数を使って指定する場合については、各コマンドの「パラメタファイルを使用しない場合のコマンド形式」を参照してください。

パラメタファイルには、コマンド実行時に必要なパラメタを内容別のタグで分けて記述します。パラメタファイルを作成するには、まず設定するパラメタに対応するタグをパラメタファイルの指定内容の表で確認したあと、そのタグの指定方法を「4.26.3 タグの指定方法」で調べてください。タグの種類やパラメタファイルの形式については、「4.26 パラメタファイルの作成」を参照してください。

パラメタファイルとコマンドの引数の両方を指定した場合は、コマンドの引数で指定した内容が有効となり、パラメタファイルでの指定は無視されます。ただし、dcmpkget コマンドの場合は、一部パラメタファイルの定義が有効になる場合があります。dcmpkget コマンドの詳細は、「4.15 dcmpkget.exe (パッケージのバックアップの取得)」を参照してください。

各コマンドで説明する内容を、次に示します。

機能

コマンドの機能を示します。

形式

コマンドを指定するときの文法を示します。[] で囲まれている引数は省略できます。パラメタファイルを使用できるコマンドについては、パラメタファイルの使用を前提に示しています。

形式の例

```
dcmXXXX.exe [/A] [/B]
/i パラメタファイル1 [パラメタファイル2]
```

上記の形式では、「/i パラメタファイル1」以外の引数は省略できます。また、パラメタファイルは二つまで指定できます。

引数

「形式」で示した各引数について説明します。ここで説明する引数は、パラメタファイルでは指定できない引数です。

パラメタファイルの指定内容とコマンド引数との対応

コマンドで使用するパラメタファイルの指定内容を表で示します。また、パラメタファイルの内容をコマンドの引数を使っても指定できる場合は、各パラメタとコマンド引数の対応も示します。

パラメタファイルに指定する内容の詳細、および省略時のデフォルト値については、「4.26 パラメタファイルの作成」を参照してください。パラメタファイルとコマンドの引数の両方を指定した場合は、コマンドの引数で指定した内容が有効となり、パラメタファイルでの指定は無視されます。パラメタファイルの内容が引数で指定できないコマンドでは、見出しは「パラメタファイルの指定内容」です。

パラメタファイルを使用しない場合のコマンド形式

パラメタファイルを使用しないで、コマンド引数だけを使用して指定する場合のコマンド形式を示します。| (ストローク) で区切られた項目は、そのうちのどれか一つを指定することを示します。

形式の例

```
dcmXXXX.exe [/A|/B]
/j ジョブ名称 [/1 ジョブ格納フォルダパス]
```

上記の形式では、「/j ジョブ名称」以外の引数は省略できます。また、「/A」または「/B」を指定で

4. コマンド

きます。

パラメタファイルの内容を引数で指定できないコマンド，およびパラメタファイルを使用できないコマンドについては，この項目はありません。

リターンコード

コマンド実行時のリターンコードを示します。

注意事項

コマンドの注意事項がある場合に説明します。

実行例

コマンドの実行方法を，実際の例を挙げて説明します。

4.4 dcmcoll.exe (ファイルの収集)

ファイルを収集する dcmcoll コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

このコマンドで実行したジョブは、配布管理システムの [ジョブ実行状況] ウィンドウで実行結果を確認できます。

(1) 機能

次に示す、リモートコレクトに関連するジョブを作成、実行します。

- リモートコレクト
- 中継までのリモートコレクト (JP1/NETM/DM Manager だけ)
- 中継サーバからのコレクトファイル収集 (JP1/NETM/DM Manager だけ)
- 中継サーバのコレクトファイル削除 (JP1/NETM/DM Manager だけ)

また、収集したアーカイブファイルを復元します。

JP1/NETM/DM Client (中継システム) では、「リモートコレクト」ジョブの作成、実行とアーカイブファイルの復元だけができます。

なお、JP1/NETM/DM Client (中継システム) では、一つ下の階層までしかジョブを実行できません。

(2) 形式

```
dcmcoll.exe [処理キー] [/G] [/Z] [/s]
             /i パラメタファイル1 [パラメタファイル2]
             /o 結果出力ファイル名
             [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

処理キー

実行するジョブの種類を指定するキーです。コマンド名の直後に、次に示す五つの処理キーのうち一つを指定してください。省略した場合は、「NETM_COLLECT」が仮定されます。

- NETM_COLLECT

「リモートコレクト」ジョブを実行します。パラメタファイル (またはコマンドの引数) で、あて先、収集するファイル、および収集したファイルの格納先ディレクトリを指定してください。JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定できます。
- NETM_COLTOS

「中継までのリモートコレクト」ジョブを実行します。パラメタファイル (またはコマンドの引数) で、あて先、収集するファイル、および収集したファイルの格納先ディレクトリを指定してください。JP1/NETM/DM Manager でだけ指定できます。JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定するとエラーになります。
- NETM_COLTOM

「中継サーバからのコレクトファイル収集」ジョブを実行します。パラメタファイル (またはコマンドの引数) で、あて先 (中継システム) を指定してください。JP1/NETM/DM Manager でだけ指定できます。JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定するとエラーになります。
- NETM_COLRESET

「中継サーバのコレクトファイル削除」ジョブを実行します。パラメタファイル (またはコマンドの引数) で、あて先 (中継システム) を指定してください。

4. コマンド

JP1/NETM/DM Manager でだけ指定できます。JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定するとエラーになります。

- NETM_UNARC

収集したアーカイブファイル (拡張子が dmz のファイル) を復元します。パラメタファイル (またはコマンドの引数) で、復元するファイルの名称と格納されているディレクトリ、復元先のディレクトリを指定してください。

JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定できます。

/G

処理キーが「NETM_UNARC」の場合に、復元先として指定したディレクトリ下に、復元したファイルを直接格納します。「NETM_UNARC」以外の場合は、指定しても無視されます。

/G を指定しない場合は、復元後の格納先として指定したディレクトリ下に、あて先のホスト名と同じ名称のディレクトリが自動で作成されます。

あて先を区別する必要がある場合は、指定しないでください。

/Z

処理キーが「NETM_UNARC」の場合に、ファイルの復元と同時にアーカイブファイルを削除します。アーカイブファイルが格納されていたディレクトリは削除されません。

「NETM_UNARC」以外の場合は、指定しても無視されます。

/s

ジョブを作成後、実行しないで保存します。処理キーが「NETM_UNARC」の場合は、指定しても無視されます。

この引数を指定してコマンドを実行したときの結果出力ファイルには、ジョブ番号が出力されません。

/i

使用するパラメタファイルのフルパスを、一つまたは二つ指定します。二つ指定する場合は間をスペースで区切ってください。三つ以上指定するとコマンドは失敗します。

パラメタファイルを二つ指定すると、JP1/NETM/DM は、それぞれのパラメタファイルの内容を連結して解釈します。あて先に関する情報と、収集・復元に関する情報を別のパラメタファイルに定義しておく、どちらかを変更してコマンドを再実行する場合に便利です。

不要なパラメタは無視されるので、ファイルを収集する場合と復元する場合とで、パラメタファイルを共用できます。両方のファイルに同じパラメタを指定した場合は、エラーとなります。

/o

結果出力ファイルのフルパスを指定します。

処理キーが「NETM_UNARC」の場合は、指定しても無視されます。それ以外の場合は必ず指定してください。

コマンドが正常終了すると、指定した結果出力ファイルに次の項目が出力されます。結果出力ファイルがすでに存在する場合は上書きされます。

- ジョブ名称
- ジョブ番号
- ジョブ格納フォルダパス

ジョブ番号 (jobno の値) は、開始されたジョブを識別する番号です。このジョブを削除したり実行状況を確認したりする場合は、jobno の値をパラメタファイルに記述してください。

引数に /s を指定した場合、ジョブ番号は出力されません。

/s を指定した場合の結果出力ファイルは、そのまま dcmjexe コマンドのパラメタファイルとして使用できます。また、/s を指定しなかった場合の結果出力ファイルは、dcmjbrm コマンド、dcmrtry コマンド、dcmstat コマンド、および dcmstsw コマンドのパラメタファイルとして使用できます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容とコマンド引数との対応

このコマンドで使用するパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することもできます。パラメタファイルの指定内容と、コマンドの引数との対応を次の表に示します。

表 4-7 パラメタファイルとコマンドの引数の対応 (dcmcoll コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
JOB_DESTINATION	directory_com	ディレクトリ情報 (コンピュータの階層)	1 2	/dc 値
	directory_group	ディレクトリ情報 (グループの階層)	1 2	/dg 値
	directory_ou	ディレクトリ情報 (組織単位 (OU) の階層)	1 2	/do 値
	group	あて先グループ名	1 2	/g 値
	host_name	ホスト名	1 2	/h 値
	lower_clients	すべてのあて先指定の有無	×	-
JOB_DESTINATION_ID	destination_id	ID 名	1	/X 値
FILE_COLLECTION	source_path	収集ファイル名	3	/y 値
	dmz_path	収集後の格納先フォルダ (収集時) , または復元対象ファイル / フォルダ (復元時)	4	/z 値

4. コマンド

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
	unarc_path	復元後の格納先フォルダ	5	/r 値
JOB_ATTRIBUTE	job_generator	ジョブ名称	6	/j 値
	jobno	ジョブ番号	×	-
	job_folder	ジョブ格納フォルダパス		/l 値
	unsuspended	中断中の配布の有無	×	-
JOB_SCHEDULE	job_entry_date	ジョブの登録日時	7	/jst 値
	job_execution_date	ジョブの実行日時	7	/jsx 値
	job_expiration_date	ジョブの実行期限	7	/jsp 値
SCHEDULE	expiration_date	中継システムでのパッケージ保管期限	×	-
	expiration_days	中継システムでのパッケージ保管日数	×	-
	installation_date_and_time	インストール日時	×	-
	installation_timing	インストール（収集）タイミング		/tS または /tN
OPTION	compress	圧縮の有無		/uY または /uN
	compress_type	圧縮方法	×	-
	restore	バージョンアップ時のリストア対象の有無	×	-
	encipher	暗号化の有無	×	-
	reboot	インストール後のコンピュータ再起動	×	-
	processing_dialog	インストール時の処理中ダイアログの表示	×	-
USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS	external_program_executed_before_installation	インストール（収集）前起動外部プログラム		/b 値
	external_program_executed_after_installation	インストール（収集）後起動外部プログラム		/a 値
	external_program_error_handler	インストール（収集）エラー時起動外部プログラム	8	/e 値
	external_program_handler	起動外部プログラム	×	-
	exit	外部プログラム処理結果の通知方式	×	-
	action	処理結果エラー時の取り扱い	×	-
	wait	監視方式	×	-
	timeout	監視時間	×	-
	wait_code	監視コード	×	-

（凡例）

：必ず指定する ：省略できる ×：不要（指定しても無視される）

- : コマンドの引数では指定できない

注 1

JOB_DESTINATION と JOB_DESTINATION_ID は同時に指定できません。また、/g、/h、/dc、/dg、および/do は /X と同時に指定できません。必ずどちらかを指定してください。

なお、処理キーが「NETM_COLTOM」または「NETM_COLRESET」の場合は、あて先として指定できる ID は、ID 管理中継として登録された ID だけです。

処理キーが「NETM_UNARC」の場合は、指定しても無視されます。

注 2

group および host_name (/g および /h) と、directory_com、directory_group、および directory_ou (/dc、/dg および /do) は同時に指定できません。ただし、group と host_name (/g と /h) は同時に指定してもかまいません。

また、directory_com、directory_group、および directory_ou (/dc、/dg および /do) は、組み合わせに関係なく同時に指定してもかまいません。

注 3

処理キーが「NETM_COLLECT」および「NETM_COLTOS」の場合に必ず指定してください。

注 4

処理キーが「NETM_COLLECT」、「NETM_COLTOS」、および「NETM_UNARC」の場合に必ず指定してください。

注 5

処理キーが「NETM_UNARC」の場合に必ず指定してください。

注 6

job_generator (または /j) の指定を省略した場合、ジョブ名称として「処理キー + ジョブの実行日時」が自動的に設定されます。このため、同じ処理キーのコマンドを同時に複数実行すると、ジョブ名称が重複しジョブが正しく実行されないことがあります。同じ処理キーのコマンドを同時に複数実行する場合は、job_generator (または /j) で、異なるジョブ名称を指定することをお勧めします。

注 7

処理キーが「NETM_UNARC」の場合は、指定しても無視されます。

注 8

UNIX クライアントからファイルを収集する場合は指定できません。

(5) パラメタファイルを使用しない場合のコマンド形式

パラメタファイルを使用しないで引数だけで指定する場合の、コマンドの形式を次に示します。

クライアントからファイルを収集する場合

```
dcmcoll.exe {[NETM_COLLECT]|NETM_COLTOS} [/s]
             {[/g あて先グループ名] [/h ホスト名]}
             [/dc コンピュータの階層] [/dg グループの階層]
             [/do 組織単位 (OU) の階層]
             /X ID名}
/y 収集ファイル名 /z 収集ファイル格納フォルダパス
[/j ジョブ名称] [/l ジョブ格納フォルダパス]
[/jst ジョブの登録日時] [/jsx ジョブの実行日時]
[/jsp ジョブの実行期限]
[{/tS|/tN}] [ {/uY|/uN}]
[/b ファイル収集前起動外部プログラム]
[/a ファイル収集後起動外部プログラム]
[/e ファイル収集エラー時起動外部プログラム]
[/o 結果出力ファイル名]
[/LC {ON|OFF}]
```

中継サーバからコレクトファイルを収集する、または中継システム上のコレクトファイルを削除する場合

```
dcmcoll.exe {NETM_COLTOM|NETM_COLRESET} [/s]
             {[/g あて先グループ名] [/h ホスト名]}/X ID名}
[/j ジョブ名称] [/l ジョブ格納フォルダパス]
[/jst ジョブの登録日時] [/jsx ジョブの実行日時]
```

4. コマンド

```
[/jsp ジョブの実行期限]
[/o 結果出力ファイル名]
[/LC {ON|OFF}]
```

ファイルを復元する場合

```
dcmcoll.exe NETM_UNARC [/G] [/Z]
/z 復元対象ファイルまたはフォルダ
/r 復元後の格納先
[/LC {ON|OFF}]
```

(6) リターンコード

dcmcoll コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	配布管理システムがジョブを開始した。 または、アーカイブファイルの復元が正常終了した。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式に誤りがある。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	コマンドの引数またはパラメタファイルに不正な値が指定されている。	コマンドの引数またはパラメタファイルの設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
4	結果出力ファイルをオープンできない。	結果出力ファイルの指定を確認してください。
5	クライアント、配布管理システム間の通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで、通信環境の設定を確認してください。
7	一つ以上のアーカイブファイルの復元に失敗した。	アーカイブファイルのパスを確認してください。 復元ファイルのフルパス(「復元後の格納先ディレクトリ」+「作成ディレクトリ」(「アーカイブファイルの格納先ディレクトリ」)+「復元後のファイル名またはディレクトリ名」)が半角 259 文字を超えているおそれがあります。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(7) 注意事項

あて先および収集ファイルの指定数について

- パラメタファイルで指定する場合は、dcmcoll コマンド 1 回の実行につき、あて先 (ホスト・あて先グループ・ID) またはディレクトリ情報 (組織単位 (OU) の階層・グループの階層・コンピュータの階層) は、それぞれ 200 個まで指定できます。また、あて先 200 個に対し、収集するファイルまたはディレクトリは 100 個まで指定できます。
- あて先および収集ファイルをコマンドの引数で指定する場合は、それぞれ 1 個しか指定できません。
- パラメタファイルであて先および収集ファイルを複数指定している場合でも、同じ項目をコマンドの引数で指定すると、すべて無効となります。

あて先の経路について

あて先の経路を指定できます。同一のあて先を別の経路で複数指定すると、1 番目の定義だけが有効になります。

中継システムあてのジョブについて

「中継サーバからのコレクトファイル収集」ジョブおよび「中継サーバのコレクトファイル削除」ジョブは、あて先として中継システムを指定するジョブです。このジョブのあて先にクライアントを指定す

ると、エラーまたは実行中のままとなります。

収集先および復元先のディレクトリについて

- ファイルを収集するときは、収集先として指定したディレクトリ下に、あて先のホスト名と同じ名称のディレクトリが自動的に作成されます。ファイルは収集時にアーカイブされ、拡張子が「.dmz」のアーカイブファイルとして、各ホスト名のディレクトリ下に格納されます。
- アーカイブファイルを復元するときは、収集時と同様に、復元先として指定したディレクトリ下に、ホスト名と同じ名称のディレクトリが自動的に作成されます。ただし、一度に複数のアーカイブファイルを復元する場合、別々のアーカイブファイルに同じ名称のファイルが存在すると、ファイルが上書きされてしまいます。同じ名称のファイルが含まれる複数のアーカイブファイルを復元する場合は、別の復元先ディレクトリを指定した `dmcoll` コマンドを実行してください。
- 復元時、コマンドの引数に `/G` を指定すると、復元先として指定したディレクトリ下に、直接ファイルが展開されます。複数のあて先から収集したファイルを一度に復元すると、すべて上書きされ、あて先ごとに区別できません。アーカイブファイルを一つだけ復元する場合は、`/G` を使用してください。
- 復元時、コマンドの引数に `/G` を指定しない場合、復元後の格納先として指定したディレクトリ下に、あて先のホスト名と同じ名称のディレクトリが自動的に作成されます。ただし、`/z` または「`FILE_COLLECTION`」タグの `dmz_path` パラメタに、復元対象ファイルを格納しているディレクトリを指定したときは、ディレクトリは作成されず、直接ファイルが展開されます。復元したファイルをあて先ごとに区別する必要がある場合は、`/z` または「`FILE_COLLECTION`」タグの `dmz_path` パラメタに、ファイル収集時に指定したディレクトリをそのまま指定してください。

ジョブ格納フォルダパスの指定について

ジョブ格納フォルダパスに [ジョブ定義] ウィンドウで定義されていないフォルダを指定してコマンドを実行した場合、指定されたフォルダが作成されます。作成されたジョブ格納フォルダは、実行後も削除されずに残ります。使用しない場合は、ジョブが完了したら削除してください。

パラメタファイルを使用しない場合の注意事項

- 収集先が WS (UNIX システム) の場合は、収集先ディレクトリのドライブには任意のドライブを指定してください。ただし、収集時には、指定されたドライブは無視され、ディレクトリの指定に従って収集されます。次の場合、`c:` は無視されます。

指定例：`c:/user/tmp`

なお、ディレクトリの区切りに「¥」を使用するときは、ドライブの指定は不要です。

指定例：`¥user¥tmp`

外部プログラムの指定について

- 収集先が WS (UNIX システム) で外部プログラムを指定する場合は、パラメタファイルを使用してコマンドを実行してください。

リモートコレクトのジョブ実行時、およびアーカイブファイルの復元時の注意事項

マニュアル「運用ガイド 1」の「5.1.4 リモートコレクト実行時の注意事項」を参照してください。

(8) 実行例

JP1/NETM/DM Client (クライアント) が稼働するホスト `dmp491` および `dmp492` から、`C:¥temp` 下のディレクトリ「`SD 障害 .dir`」,「`SD 障害 2.dir`」, および「`SD 障害 3.dir`」のファイルを収集する例を次に示します。クライアントの起動を契機に収集を開始し、収集前、収集後、および収集エラー時に外部プログラムを起動するよう指定しています。

(a) パラメタファイルの作成

ホストと収集ファイルの属性をパラメタファイルに次のように記述し、パラメタファイルを任意の名称で保存します。

4. コマンド

```
** dcmcoll Parameter File Sample

JOB_DESTINATION{
host_name=dmp492.soft.hitachi.co.jp
host_name=dmp491
group = ¥grp¥gname1
group = ¥grp¥gname2;¥grp¥gname3
}
SCHEDULE{
installation_timing = S
}
OPTION{
compress=Y
}
USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS{
external_program_executed_before_installation = "C:¥test B.exe"
external_program_executed_after_installation = C:¥testA.exe -x "a aa"
external_program_error_handler = "C:¥test E.exe"
}
FILE_COLLECTION{
source_path= C:¥temp¥SD障害.dir
source_path= C:¥temp¥SD障害2.dir;C:¥temp¥SD障害3.dir
dmz_path= C:¥temp¥収集
}
```

(b) コマンドの実行

作成したパラメタファイルを C:¥Dmbat¥dcmcoll.txt に保存し、結果出力ファイルを C:¥Dmbat¥out.txt に取得する場合は、次のように指定します。

```
dcmcoll.exe /i C:¥Dmbat¥dcmcoll.txt /o C:¥Dmbat¥out.txt /j temp収集
```

(c) 結果出力ファイルの確認

コマンドが正常終了すると、ジョブのジョブ名称、ジョブ番号、ジョブ格納フォルダパスが、C:¥Dmbat¥out.txt に次のよう出力されます。

```
JOB_ATTRIBUTE{
job_generator= NETM_COLLECT_03_12_11_13_34_36
jobno= JB03121113315383
job_folder= ¥
}
```

4.5 dcmcsvu.exe (CSV 出力)

インベントリ情報を CSV 形式ファイルまたはパラメタファイル形式で出力する dcmcsvu コマンドについて説明します。

(1) 機能

ローカルホスト上の配布管理システムに接続し、その時点のインベントリ情報を CSV 形式ファイルまたはパラメタファイルの形式で出力します。また、JP1/NETM/DM 未導入ホストの検出結果、およびネットワーク上のホストの探索結果を CSV 形式ファイルで出力することもできます。なお、Unicode の CSV 形式ファイルで出力することもできます。ただし、Unicode の CSV 形式ファイルのエンコーディングは UTF-8 だけです。

出力する情報は、JP1/NETM/DM が提供するテンプレートを使って指定します。インベントリ情報を出力するテンプレートは、CSV 出力ユティリティで使用するテンプレートと同じです。指定したテンプレートに含まれる項目（テンプレート中の列）について、情報が出力されます。また、パラメタファイルを使用した場合は、出力項目の詳細設定や出力内容の絞り込みもできます。

なお、JP1/NETM/DM 未導入ホストの情報を出力する場合、検出対象外に指定されているホストの情報は出力できません。

(2) 形式

```
dcmcsvu.exe /i パラメタファイル名 /o 結果出力ファイル名 [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/i

コマンドに指定するパラメタファイルのフルパスを指定してください。

/o

結果出力ファイルのフルパスを指定してください。フルパスで指定しない場合は、カレントディレクトリに結果出力ファイルが作成されます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM

4. コマンド

Manager)」を参照してください。

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容とコマンド引数の対応

このコマンドで使用するパラメタファイルの内容のうち、出力に使用するテンプレートと出力ファイルの形式は、コマンドの引数でも指定できます。パラメタファイルの指定内容と、コマンドの引数との対応を次の表に示します。

表 4-8 パラメタファイルの指定内容とコマンドの引数の対応 (dcmcsvu コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
OUTPUT_CONSTRAINT S	template	出力に使用するテンプレート		テンプレートキー
	format	出力ファイルの形式	1	/par または /csv
	group_membership	所属グループ	2	-
	row	出力したい項目 (列)	3	-
	condition	比較条件		-
	unicode	Unicode の CSV 形式ファイル出力の有無	4 5	/uniY または /uniN

(凡例)

- : 必ず指定する ○ : 省略できる
- : コマンドの引数では指定できない

注 1

指定を省略した場合は、CSV 形式ファイルで出力されます。

注 2

JP1/NETM/DM 未導入ホストの検出結果を出力する場合に指定しても無視されます。

注 3

「row」パラメタは、CSV 形式ファイルで出力する場合だけ有効です。パラメタファイル形式で出力する場合は、「row」パラメタを指定しても無視されます。

注 4

Unicode の CSV 形式ファイルを出力するには、次に示す条件をすべて満たす必要があります。

- JP1/NETM/DM Manager で実行している。
- JP1/NETM/DM で次に示すリレーショナルデータベースを使用している。
 - Microsoft SQL Server 2005 以降
- 次のテンプレートのどれかを指定している。
 - システム情報
 - インストール済みパッケージ情報
 - レジストリ取得項目
 - Microsoft Office 製品
 - ウィルス対策製品

注 5

指定を省略した場合は、Unicode の CSV 形式ファイルを出力するためのレジストリの設定が有効となります。Unicode の CSV 形式ファイルを出力するレジストリを設定した場合、指定を省略すると Unicode の CSV 形式ファイルが出力されます。このレジストリの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」を参照してください。

(5) パラメタファイルを使用しない場合のコマンド形式

パラメタファイルを指定しないで引数だけで指定する場合の、コマンドの形式を次に示します。

```
dcmcsvu.exe テンプレートキー [/par|/csv] [/uniY|/uniN]
           /o 結果出力ファイル名 [/LC {ON|OFF}]
```

指定できるテンプレートキーについては、「4.26.14 OUTPUT_CONSTRAINTS (出力する情報の設定)」の「表 4-23 出力ファイル形式と指定できるテンプレート」を参照してください。各テンプレートで出力できる項目は、CSV 出力ユティリティを使って CSV 形式ファイルを出力する場合と同じです。出力される項目の詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「9.1.1 CSV 形式ファイルに出力できる項目」を参照してください。

出力ファイルの形式は、パラメタファイルでは、format=par (または csv) と指定しますが、コマンド引数の場合は dcmcsvu.exe /par (または /csv) と最初に「/」(スラッシュ)を付けて指定するので、注意してください。

Unicode の CSV 形式ファイルの出力は、パラメタファイルでは、unicode=Y (または N) と指定しますが、コマンド引数の場合は dcmcsvu.exe /uniY (または /uniN) となりますので、注意してください。

なお、コマンド引数を使った場合は、出力項目の詳細設定や出力内容の絞り込みはできません。

(6) リターンコード

dcmcsvu コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	出力が成功した。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式に誤りがある。	ファイルのパスまたはファイルの形式を確認してください。
2	コマンドの引数またはパラメタファイルに不正な値が指定されている。	コマンドの引数またはパラメタファイルの設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続またはアクセス時にエラーが発生した。	配布管理システム、データベースサーバが動作しているか、またはその設定に誤りがないか確認してください。
4	結果出力ファイルをオープンできない。	結果出力ファイルの状態を確認してください。結果出力ファイルがすでにほかのアプリケーションによって開かれているか、容量不足のおそれがあります。
5	動作環境が不正である。	配布管理システムまたはデータベースサーバの動作環境に誤りがないか確認してください。
10	/par を指定している場合で、該当するデータが多過ぎてパラメタファイルに記述できる行数を超えたため、出力に失敗した。	該当データの内容を確認し、出力する情報の絞り込みをしてください。
11	該当するデータがない。出力ファイルを作成しない。	なし。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

4. コマンド

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(7) 実行例 1

転送されたジョブの「実行状態」が「インストール/収集待ち」で、「ジョブあて先名」が「dmp4*」であるホストのジョブ実行状況の情報を、パラメタファイル形式で JOB_DESTINATION タグに出力する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

パラメタファイルを次のように作成し、任意の名称で保存します。

```
OUTPUT_CONSTRAINTS{
template = J_STAT
condition = result=インストール/収集待ち AND dstname = dmp4* ;
}
```

「インストール/収集待ち」の実行状態は、「ステータス」項目を使っても同様に絞り込めます。「ステータス」で絞り込む場合は、保守コードの左から 6 けたを「status=2000B0」のように指定してください。

(b) コマンドの実行

作成したパラメタファイルを C:¥temp¥in.txt に保存し、結果出力ファイルを C:¥temp¥parmjob.txt に取得する場合は、次のように指定します。

```
dcmcsvu.exe /i C:¥temp¥in.txt /o C:¥temp¥parmjob.txt /par
```

(c) 結果出力ファイルの確認

コマンドが正常終了すると、パラメタファイル形式の JOB_DESTINATION タグの情報が C:¥temp¥parmjob.txt に次のように出力されます。

```
JOB_DESTINATION {
host_name = dmp410; dmp4200; dmp4system
}
```

(8) 実行例 2

転送されたジョブの実行状態が「インストール/収集待ち」で、「ジョブあて先名」が「dmp4*」であるホストについて、「ジョブ名称」、「サーバ側実行日時」、および「ジョブあて先名」の情報だけを CSV 形式ファイルに出力する例を次に示します。この例では、ジョブの実行状態を絞り込むのに、「実行状態」項目ではなく「ステータス」項目を使っています。

(a) パラメタファイルの作成

パラメタファイルを次のように作成し、任意の名称で保存します。

```
OUTPUT_CONSTRAINTS{
template = J_STAT
row = jname; execdate; dstname
condition = status=2000B0 AND dstname = dmp4* ;
}
```

(b) コマンドの実行

作成したパラメタファイルを C:¥temp¥in.txt に保存し、結果出力ファイルを C:¥temp¥jobout.csv に取得する場合は、次のように指定します。

```
dcmcsvu.exe /i C:¥temp¥in.txt /csv /o C:¥temp¥jobout.csv
```

(9) 実行例 3

「実メモリ容量」が 256 メガバイト以上で、あて先グループ A またはあて先グループ B に属するホストのシステム情報を、CSV 形式ファイルに出力する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

パラメタファイルを次のように作成し、任意の名称で保存します。

```
OUTPUT_CONSTRAINTS{
template = SYS_INFO
condition = ram >= 256;
group_membership = ¥A;¥B;
}
```

(b) コマンドの実行

作成したパラメタファイルを C:¥temp¥in.txt に保存し、結果出力ファイルを C:¥temp¥system.csv に取得する場合は、次のように指定します。

```
dcmcsvu.exe /i C:¥temp¥in.txt /csv /o C:¥temp¥system.csv
```

(10) 実行例 4

「パッケージ名称」が「*OFFICE」で、「新バージョン」の一けた目の値が 6 以下のパッケージがインストールされているホストについて、インストール済みパッケージ情報を CSV 形式ファイルに出力する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

パラメタファイルを次のように作成し、任意の名称で保存します。

```
OUTPUT_CONSTRAINTS{
template = INSTLD_PKG
condition = pname = *OFFICE;
condition = newer < 6;
}
```

(b) コマンドの実行

作成したパラメタファイルを C:¥temp¥in.txt に保存し、結果出力ファイルを C:¥temp¥inspack.csv に取得する場合は、次のように指定します。

```
dcmcsvu.exe /i C:¥temp¥in.txt /csv /o C:¥temp¥inspack.csv
```

4.6 dcmdice.exe (ソフトウェアインベントリ辞書のエクスポート)

ソフトウェアインベントリ辞書をエクスポートする dcmdice コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで実行できます。なお、このコマンドでは、パラメタファイルを使用しません。

(1) 機能

ローカルホスト上の配布管理システムに接続し、ソフトウェアインベントリ辞書または削除ソフトウェア管理テーブルの情報を、CSV 形式ファイルに出力します。dcmdice コマンドで出力した CSV 形式ファイルは、表計算ソフトなどで編集し、dcmdici コマンドで、ソフトウェアインベントリ辞書にインポートできます。

CSV 形式ファイルには、ソフトウェアごとに、次の情報が出力されます。

管理フラグ、ソフトウェア名称、ソフトウェアバージョン、会社名、言語、パス名、ファイル名、ファイルバージョン、ファイルサイズ、更新日時、検索日時、説明、所有ライセンス数、警告ライセンス数、更新日時 (UTC)

注 更新日時 (UTC) は、コマンドを実行した配布管理システムのローカル時間に変換されて出力されます。

(2) 形式

```
dcmdice.exe /of 結果出力ファイル名 [/ol 最大行数] [/mf管理フラグ]
                [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/of

ソフトウェアインベントリ辞書の情報を出力するファイルをフルパスで指定してください。csv 以外の拡張子も指定できます。

/ol

1 ファイルに出力する最大行数を指定します。指定できる値は 100 ~ 65,535 です。指定した行数を超えると、別のファイルに出力されます。複数のファイルが出力される場合、ファイル名には連番が付けられます。例えば、結果出力ファイル名を dictionary.csv と指定した場合、dictionary2.csv、dictionary3.csv、・・・というファイル名が付けられます。この引数を省略した場合、ファイルは分割されず、1 ファイルに出力されます。

/mf

特定の種類のソフトウェアだけを CSV 形式ファイルに出力したい場合に、ソフトウェアの種類に対応した管理フラグを指定します。次に示す管理フラグを一つだけ指定してください。なお、「/mf」と管理フラグの間にスペースは不要です。

- I
新規ソフトウェア
- E
管理対象ソフトウェア
- U
管理対象外ソフトウェア
- H

保留ソフトウェア

- D
ソフトウェアインベントリ辞書から削除され、削除ソフトウェア管理テーブルに登録されているソフトウェア

この引数を省略した場合、ソフトウェアインベントリ辞書上のすべてのソフトウェア情報が出力されません。削除ソフトウェア管理テーブルに登録されているソフトウェア情報は出力されません。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON
Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。
- OFF
Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」を参照してください。

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) リターンコード

dcmdice コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	ファイルの出力が成功した。	なし。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
4	出力ファイルをオープンできない。	出力ファイルの指定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。システムエラー、処理が拒否された、ソフトウェアインベントリ辞書または削除ソフトウェア管理テーブルにデータがなかったなどが考えられます。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(5) 実行例

ソフトウェアインベントリ辞書の情報を C:\temp\dice.csv に出力し、10,000 行を超えたら別ファイル

4. コマンド

(C:¥temp¥dice2.csv) に出力する場合は、次のように指定します。

```
dcmdice.exe /of C:¥temp¥dice.csv /ol 10000
```

削除ソフトウェア管理テーブルの情報だけを C:¥temp¥dice.csv に出力する場合は、次のように指定します。

```
dcmdice.exe /of C:¥temp¥dice.csv /mfD
```

4.7 dcmdici.exe (ソフトウェアインベントリ辞書のインポート)

ソフトウェアインベントリ辞書をインポートする dcmdici コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで実行できます。なお、このコマンドでは、パラメタファイルを使用しません。

(1) 機能

ローカルホスト上の配布管理システムに接続し、CSV 形式ファイルに記述されたソフトウェア情報をソフトウェアインベントリ辞書にインポートします。dcmdice コマンドで出力した CSV 形式ファイルを表計算ソフトなどで編集し、dcmdici コマンドで、ソフトウェアインベントリ辞書にインポートします。

インポートする CSV 形式ファイルには、ソフトウェアごとに、次の表に示す情報を順に入力しておく必要があります。インポート時のキー項目は、「ファイル名」、「ファイルサイズ」、および「更新日時」です。キー項目の情報を変更してインポートを実行すると、別のソフトウェアとして扱われます。

表 4-9 CSV 形式ファイルで指定できる値

項目	指定できる値	必須
管理フラグ	I, E, U, H, D, または F。 各管理フラグの意味は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> • I 新規ソフトウェア • E 管理対象ソフトウェア • U 管理対象外ソフトウェア • H 保留ソフトウェア • D 削除ソフトウェア管理テーブルに登録されているソフトウェア • F 削除ソフトウェア管理テーブルから削除するソフトウェア 	-
ソフトウェア名称	50 文字以内の文字列。	-
ソフトウェアバージョン	50 文字以内の文字列。	-
会社名	50 文字以内の文字列。	-
言語	Windows のロケール識別子 (LCID) の下 4 けた。 ただし、[ソフトウェアインベントリ辞書編集] ダイアログボックスに、指定した LCID に対応する言語がない場合、「ニュートラル」と表示される。また、「0400」を指定すると、[ソフトウェアインベントリ辞書編集] ダイアログボックスでは「規定の言語」と表示される。	-
パス名	255 文字以内の文字列。 ソフトウェアインベントリ辞書にすでに登録されているソフトウェアの場合、CSV 形式ファイルでパス名を変更してインポートしても、ソフトウェアインベントリ辞書のパス名は変更されない。	
ファイル名	255 文字以内の文字列。	
ファイルバージョン	50 文字以内の文字列。	-
ファイルサイズ	0 以上の整数。単位はバイト。	
更新日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式の年月日時分秒。指定できる日時の範囲は、1970/01/01 00:00:00 ~ 2037/12/31 23:59:59。	

4. コマンド

項目	指定できる値	必須
検索日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式の年月日時分秒。指定できる日時の範囲は、1970/01/01 00:00:00 ~ 2037/12/31 23:59:59。 ソフトウェアインベントリ辞書にすでに登録されているソフトウェアの場合、CSV 形式ファイルで検索日時を変更してインポートしても、ソフトウェアインベントリ辞書の検索日時は変更されない。	-
説明	50 文字以内の文字列。	-
所有ライセンス数	0 ~ 99,999,999 の整数。	-
警告ライセンス数	0 ~ 99,999,999 の整数。 所有ライセンス数より値が大きい場合は、エラーになる。	-
更新日時 (UTC)	YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式の年月日時分秒。指定できる日時の範囲は、1970/01/01 00:00:00 ~ 2037/12/31 23:59:59。 ローカル時間を指定する。ここで指定した日時は、UTC 時間に変換されてインポートされる。	-

(凡例) : 必ず指定する - : 値を省略できる

各ソフトウェア情報のインポート時の処理は、インポートする前のソフトウェアインベントリ辞書への登録状態と、インポートするソフトウェア情報の管理フラグによって異なります。インポート時の処理を次の表に示します。

表 4-10 インポート時の処理

インポート前の登録状態	インポートするソフトウェア情報の管理フラグ	インポート時の処理
削除ソフトウェア管理テーブルに登録されている。	I, E, U, H, D	無視される。
	F	削除ソフトウェア管理テーブルから削除される。
ソフトウェアインベントリ辞書に登録されている。	I, E, U, H	ソフトウェアインベントリ辞書にインポートされ、情報に変更があれば、更新される。
	D	インポート前に管理対象外ソフトウェアであった場合だけ、ソフトウェアインベントリ辞書から削除され、削除ソフトウェア管理テーブルに登録される。各ホストのソフトウェアインベントリ情報からも削除される。 引数に /f を指定した場合は、すべての管理フラグのソフトウェアに対して、同様の処理が行われる。
	F	無視される。
削除ソフトウェア管理テーブルとソフトウェアインベントリ辞書の両方に登録されていない。	I, E, U, H	ソフトウェアインベントリ辞書に追加される。
	D	無視される。 引数に /f を指定した場合は、削除ソフトウェア管理テーブルに登録される。
	F	無視される。

(2) 形式

```
dcmdici.exe /if 入力ファイル名 [/f]
                [/dF 出力ファイル名1] [/nf 出力ファイル名2]
                [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/if

ソフトウェアインベントリ辞書にインポートする CSV 形式ファイルをフルパスで指定してください。
csv 以外の拡張子も指定できます。

/f

ソフトウェアインベントリ辞書に登録されているソフトウェアを、管理フラグ D を指定してインポートした場合、ソフトウェアインベントリ辞書から削除し、削除ソフトウェア管理テーブルに登録します。また、ソフトウェアインベントリ辞書に登録されていないソフトウェアを、管理フラグ D を指定してインポートした場合、削除ソフトウェア管理テーブルに登録します。

この引数を省略した場合、管理フラグ D を指定してインポートしたとき、削除対象になるのは、ソフトウェアインベントリ辞書に管理フラグ U で登録されているソフトウェアだけです。

/df

削除ソフトウェア管理テーブルに登録されているため、ソフトウェアインベントリ辞書に追加されなかったソフトウェアの情報を出力します。ただし、削除ソフトウェア管理テーブルに登録されているソフトウェアを、管理フラグ D を指定してインポートした場合、ソフトウェア情報は出力されません。対象行を出力するファイルのフルパスを指定してください。csv 以外の拡張子も指定できます。なお、対象行がない場合、この引数を指定しても、ファイルは出力されません。

/nf

ソフトウェアインベントリ辞書に管理フラグ I, E, または H で登録されているソフトウェアを、管理フラグ D を指定してインポートした場合、削除されなかった行を出力します。また、ソフトウェアインベントリ辞書と削除ソフトウェア管理テーブルの両方に登録されていないソフトウェアを、管理フラグ D を指定してインポートした場合も、対象行を出力します。

対象行を出力するファイルのフルパスを指定してください。csv 以外の拡張子も指定できます。なお、対象行がない場合、この引数を指定しても、ファイルは出力されません。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」を参照してください。

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) リターンコード

dcmdici コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

4. コマンド

コード	意味	対処
0	インポートが成功した。または、ソフトウェアインベントリ辞書または削除ソフトウェア管理テーブルに変更がなかった。	なし。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
4	入力ファイルまたは出力ファイルをオープンできない。	入力ファイルまたは出力ファイルの指定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。システムエラー、処理が拒否されたなどが考えられます。
15	ほかのプロセスがデータベースを更新中。	しばらく待って再実行してください。または更新中のプロセスを確認してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(5) 注意事項

ソフトウェアインベントリ辞書をインポートするときは、ソフトウェアインベントリ辞書をエクスポートした配布管理システムと同じタイムゾーンで実行してください。エクスポート時とインポート時のタイムゾーンが異なる場合、インポート時に更新日時が正しく取得されないため、ソフトウェア情報が正しく管理できなくなります。

(6) 実行例

CSV 形式ファイル C:\temp\dici.csv をインポートし、管理フラグ D を指定してインポートしたソフトウェアのうち削除されないものを C:\temp\deldbn.csv ファイルに出力するには、次のように指定します。

```
dcmdici.exe /if C:\temp\dici.csv /nf C:\temp\deldbn.csv
```

CSV 形式ファイル C:\temp\dici.csv をインポートし、管理フラグ D を指定してインポートしたソフトウェアを、ソフトウェアインベントリ辞書での管理フラグに関係なく削除するには、次のように指定します。

```
dcmdici.exe /if C:\temp\dici.csv /f
```

CSV 形式ファイル C:\temp\dici.csv をインポートし、削除ソフトウェア管理テーブルに登録されているためにソフトウェアインベントリ辞書に追加されないソフトウェアの情報を C:\temp\deldb.csv ファイルに出力するには、次のように指定します。

```
dcmdici.exe /if C:\temp\dici.csv /df C:\temp\deldb.csv
```

4.8 dcmgpmnt.exe (あて先グループへのポリシーの一括反映)

あて先グループにポリシーを一括反映する dcmgpmnt コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで実行できます。なお、このコマンドでは、パラメタファイルを使用しません。

(1) 機能

ローカルホスト上の配布管理システム (JP1/NETM/DM Manager) に接続し、作成したポリシーに従って、登録されているホストを一括してあて先グループに振り分けます。

(2) 形式

```
dcmgpmnt.exe [処理キー] [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

処理キー

あて先グループに一括反映するポリシーの種別を指定するキーです。コマンド名の直後に、次に示す処理キーのうち一つ以上を指定してください。省略した場合は、「NETM_ALLGROUP」が仮定されます。

- NETM_ALLGROUP
すべてのポリシーをあて先グループに一括反映します。
- NETM_IPSCOPE
種別が「IP アドレス」のポリシーをあて先グループに一括反映します。
- NETM_OSTYPE
種別が「OS 種別」のポリシーをあて先グループに一括反映します。
- NETM_USERINV
種別が「ユーザインベントリ項目」のポリシーをあて先グループに一括反映します。

「NETM_IPSCOPE」、「NETM_OSTYPE」および「NETM_USERINV」は、任意に組み合わせて指定できます。組み合わせる場合は間をスペースで区切ってください。なお、次のように指定した場合は、リターンコード「2」のエラーとなります。

- 「NETM_ALLGROUP」とそれ以外の処理キーを組み合わせで指定した場合
- 同じ処理キーを重複して指定した場合

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON
Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。
- OFF
Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるた

4. コマンド

め、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」を参照してください。

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) リターンコード

dcmgpmnt コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	正常終了、または該当ホストなし。	なし。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。
15	ほかのプロセスがデータベースを更新している。	しばらく待ってからコマンドを再実行してください。または更新中のプロセスを確認してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(5) 実行例

種別が「IP アドレス」および「ユーザインベントリ項目」のポリシーをあて先グループに一括反映する例を次に示します。

```
dcmgpmnt.exe NETM_IPSCOPE NETM_USERINV
```

4.9 dcmhstwo.exe (JP1/NETM/DM 未導入ホストの検出)

JP1/NETM/DM 未導入ホストを検出する dcmhstwo コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで実行できます。なお、このコマンドでは、パラメタファイルを使用しません。

(1) 機能

JP1/NETM/DM 未導入ホストを検出します。

指定したネットワーク構成情報ファイルに記述されているホストのうち、ローカルホスト上の配布管理システムに登録されていない MAC アドレスを持つホストを、JP1/NETM/DM 未導入ホストとして検出します。検出結果は、配布管理システムのデータベースに格納されます。

ネットワーク構成情報ファイルの作成方法については、マニュアル「構築ガイド」の「9.7.8 ネットワーク構成情報ファイルの作成」を参照してください。

(2) 形式

```
dcmhstwo.exe /if ネットワーク構成情報ファイル [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/if

ネットワーク構成情報ファイルをフルパスで指定してください。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」を参照してください。

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) リターンコード

dcmhstwo コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

4. コマンド

コード	意味	対処
0	正常終了	なし。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
4	ネットワーク構成情報ファイルをオープンできない。	ファイルのパスを確認してください。
5	クライアント，配布管理システム間の通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで，通信環境の設定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

また，JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は，「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(5) 実行例

C:\temp フォルダ下に保存されているネットワーク構成情報ファイル「netcomp.csv」を読み込んで，JP1/NETM/DM 未導入ホストを検出する例を次に示します。

```
dcmhstwo.exe /if C:\temp\netcomp.csv
```

4.10 dcminst.exe (ジョブの作成, 実行)

ジョブを作成, 実行する dcminst コマンドについて説明します。このコマンドは, JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

このコマンドで実行したジョブは, 配布管理システムの [ジョブ実行状況] ウィンドウで実行結果を確認できます。

(1) 機能

次に示す, リモートインストール関連のジョブを作成, 実行します。

- パッケージのインストール
- 中継システムまでのパッケージ転送 (JP1/NETM/DM Manager だけ)
- 中継システムのパッケージ一括削除 (JP1/NETM/DM Manager だけ)
- クライアントユーザによるインストール

JP1/NETM/DM Client (中継システム) では, 「パッケージのインストール」ジョブと「クライアントユーザによるインストール」ジョブだけが作成, 実行できます。

なお, JP1/NETM/DM Client (中継システム) では, 一つ下の階層までしかジョブを実行できません。

(2) 形式

```
dcminst.exe [処理キー] [/f] [/s]
             /i パラメタファイル1 [パラメタファイル2]
             /o 結果出力ファイル名
             [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

処理キー

実行するジョブの種類を指定するキーです。コマンド名の直後に, 次に示す四つの処理キーのうち一つを指定してください。省略した場合は, 「NETM_INSTALL」が仮定されます。

- NETM_INSTALL
「パッケージのインストール」ジョブを実行します。パラメタファイル (またはコマンドの引数) で, インストールするパッケージおよびあて先を指定してください。
JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定できます。
- NETM_STORE
「中継システムまでのパッケージ転送」ジョブを実行します。パラメタファイル (またはコマンドの引数) で, パッケージおよびあて先 (中継システムのクライアント機能) を指定してください。
JP1/NETM/DM Manager でだけ指定できます。JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定するとエラーになります。
- NETM_DELETE
「中継システム上のパッケージ一括削除」ジョブを実行します。パラメタファイル (またはコマンドの引数) で, あて先 (中継システムのクライアント機能) を指定してください。
JP1/NETM/DM Manager でだけ指定できます。JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定するとエラーになります。
- NETM_USERINST
「クライアントユーザによるインストール」ジョブを実行します。パラメタファイル (またはコマンドの引数) で, インストールするパッケージおよびあて先を指定してください。
JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定できます。

/f

4. コマンド

インストール対象として指定したパッケージがあて先のクライアントにインストール済みの場合に、上書きしてインストールします。この引数を指定しない場合は、インストール済みのパッケージは上書きしないで正常終了します。

処理キーが「NETM_DELETE」の場合は、指定しても無視されます。

/s

ジョブを作成後、実行しないで保存します。

この引数を指定してコマンドを実行したときの結果出力ファイルには、ジョブ番号が出力されません。

/i

使用するパラメタファイルのフルパスを、一つまたは二つ指定します。二つ指定する場合は間をスペースで区切ってください。三つ以上指定するとコマンドは失敗します。

パラメタファイルを二つ指定すると、JP1/NETM/DM は、それぞれのパラメタファイルの内容を連結して解釈します。あて先とパッケージとを別のパラメタファイルに定義しておくと、パッケージだけを変更して同じクライアントに再配布したり、同じパッケージを別のあて先に配布したりできて便利です。この場合、dcmpack コマンドの結果出力ファイルを、パッケージの属性を指定したパラメタファイルとして使用できます。

/o

結果出力ファイルのフルパスを指定してください。コマンドが正常終了すると、指定した結果出力ファイルに次の項目が出力されます。結果出力ファイルがすでに存在する場合は上書きされます。

- ジョブ名称
- ジョブ番号
- ジョブ格納フォルダパス

ジョブ番号 (jobno の値) は、開始されたジョブを識別する番号です。このジョブを削除したり、実行状況を確認したりする場合は、jobno の値をパラメタファイルに記述してください。なお、コマンドの引数に /s を指定した場合、ジョブ番号は出力されません。

/s を指定した場合の結果出力ファイルは、そのまま dcmjexe コマンドおよび dcmrmgen コマンドのパラメタファイルとして使用できます。また、/s を指定しなかった場合の結果出力ファイルは、dcmjbrm コマンド、dcmrtry コマンド、dcmstat コマンド、および dcmstsw コマンドのパラメタファイルとして使用できます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON
Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。
- OFF
Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容とコマンド引数との対応

このコマンドで使用するパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することもできます。パラメタファイルの指定内容と、コマンドの引数との対応を次の表に示します。

表 4-11 パラメタファイルとコマンドの引数の対応 (dcmnst コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
JOB_DESTINATION	directory_com	ディレクトリ情報 (コンピュータの階層)	1 2	/dc 値
	directory_group	ディレクトリ情報 (グループの階層)	1 2	/dg 値
	directory_ou	ディレクトリ情報 (組織単位 (OU) の階層)	1 2	/do 値
	group	あて先グループ名	1	/g 値
	host_name	ホスト名	1	/h 値
	lower_clients	すべてのあて先指定の有無	1 3	-
JOB_DESTINATION_ID	destination_id	ID 名	1	/X 値
PACKAGING_INFORMATION ⁴	package_name	パッケージ名		/p 値
	package_id	パッケージ識別 ID		/I 値
	version_revision	バージョン / リビジョン		/v 値
	generation	世代番号		/G 値
	cabinet_name	キャビネット名		/c 値
	cabinet_id	キャビネット識別 ID		/C 値
	package_code	コード種別		/KW または /KP
JOB_ATTRIBUTE	job_generator	ジョブ名称	5	/j 値
	jobno	ジョブ番号	x	-
	job_folder	ジョブ格納フォルダパス		/l 値
	unsuspended	中断中の配布の有無	6	/uns 値
JOB_SCHEDULE	job_entry_date	ジョブの登録日時		/jst 値
	job_execution_date	ジョブの実行日時		/jsx 値
	job_expiration_date	ジョブの実行期限		/jsp 値
JOB_SPLIT_DELIVERY ⁶	split_size	分割サイズ		/sds 値
	wait_time	転送休止時間		/sdt 値

4. コマンド

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの 引数
タグ	パラメタ			
JOB_CLIENT_CONTROL	client_wake_up	クライアントの起動の有無		/WWU
	client_shutdown	クライアントのシャットダウンの有無		/WUS

(凡例)

：必ず指定する ：省略できる x：不要(指定しても無視される)

-：コマンドの引数では指定できない

注 1

JOB_DESTINATION と JOB_DESTINATION_ID は同時に指定できません。また、/g、/h、/dc、/dg、および/do は /X と同時に指定できません。必ずどちらかだけを指定してください。

なお、処理キーが「NETM_STORE」または「NETM_DELETE」の場合、ID は指定できません。

注 2

group および host_name (/g および /h) と、directory_com および directory_ou (/dc および /do) は同時に指定できません。ただし、group および host_name (/g および /h) は同時に指定してもかまいません。また、directory_com、directory_group、および directory_ou (/dc、/dg、および /do) は、組み合わせに関係なく同時に指定してもかまいません。

なお、directory_com、directory_group、および directory_ou (/dc、/dg、および /do) と同時に lower_clients を指定しても、すべてのあて先指定は無視されます。

注 3

JP1/NETM/DM Client (中継システム) の場合は指定できません。

注 4

このコマンドでは、PACKAGING_INFORMATION タグのパラメタに予約語を使用できません。

注 5

job_generator (または /j) の指定を省略した場合、ジョブ名称として「処理キー+ジョブの実行日時」が自動的に設定されます。このため、同じ処理キーのコマンドを同時に複数実行すると、ジョブ名称が重複しジョブが正しく実行されないことがあります。同じ処理キーのコマンドを同時に複数実行する場合は、job_generator (または /j) で、異なるジョブ名称を指定することをお勧めします。

注 6

JOB_ATTRIBUTE の unsuspending および JOB_SPLIT_DELIVERY は同時に指定できません。

(5) パラメタファイルを使用しない場合のコマンド形式

パラメタファイルを使用しないで引数だけで指定する場合の、コマンドの形式を次に示します。

```
dcminst.exe [処理キー] [/f] [/s]
             {[ /g あて先グループ名] [/h ホスト名]}
             {[ /dc コンピュータの階層] [/dg グループの階層]}
             {[ /do 組織単位 (OU) の階層]}
             /X ID名}
             /p パッケージ名 /I パッケージ識別ID
             /v バージョン・リビジョン /G 世代番号
             /c キャビネット名 /C キャビネット識別ID
             [{ /KW | /KP}]
             [/j ジョブ名称] [/l ジョブ格納フォルダパス]
             [/uns 中断中の配布の有無]
             [/jst ジョブの登録日時] [/jsx ジョブの実行日時]
             [/jsp ジョブの実行期限]
             [/sds 分割サイズ] [/sdt 転送休止時間]
             [/WWU クライアントの起動の有無]
             [/WUS クライアントのシャットダウンの有無]
             /o 結果出力ファイル名
```

[/LC {ON|OFF}]

(6) リターンコード

dcminst コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	配布管理システムがジョブを開始した。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式に誤りがある。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	コマンドの引数またはパラメタファイルに不正な値が指定されている。	コマンドの引数またはパラメタファイルの設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
4	結果出力ファイルをオープンできない。	結果出力ファイルの指定を確認してください。
5	クライアント、配布管理システム間の通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで、通信環境の設定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(7) 注意事項

あて先およびパッケージの指定数について

- パラメタファイルで指定する場合、dcminst コマンド 1 回の実行につき、あて先は 200 個まで指定できます。また、パッケージは 100 個まで指定できます。
- あて先およびパッケージをコマンドの引数で指定する場合は、それぞれ 1 個しか指定できません。ただし、あて先の場合、/g および /h は値を「;」で区切ることで、200 個まで指定できます。
- パラメタファイルでパッケージを複数指定している場合でも、同じ項目をコマンドの引数で指定すると、すべて無効となります。

/f の指定について

- 引数に /f を指定すると、すでに同じパッケージがあて先に配布されているかいないかに関係なく、パッケージが送信されます。不要なネットワークトラフィックの増加を避けるには、配布済みのパッケージを上書きする必要がある場合だけ、/f を使用してください。
- 引数に /f を指定すると、バージョンが同じでも内容が異なるソフトウェアを上書きインストールできるため、JP1/NETM/DM のインストールパッケージ情報のバージョン管理ができなくなります。

JOB_ATTRIBUTE タグの job_generator パラメタに指定したジョブ名が既存のジョブ名として存在する場合について

既存のジョブ定義を基にジョブが作成されます。

クライアントの起動の指定について

ホスト識別子を使用している環境で、クライアントの起動の有無を指定する場合は、ジョブのあて先に、あて先グループ名または ID を指定してください。ホスト名を指定すると、クライアントの起動の指定は無視されます。中継システムの場合、クライアントの起動の指定は無条件に無視されます。

ジョブ格納フォルダパスの指定について

ジョブ格納フォルダパスに [ジョブ定義] ウィンドウで定義されていないフォルダを指定してコマンドを実行した場合、指定されたフォルダが作成されます。作成されたジョブ格納フォルダは、実行後も削除されずに残ります。使用しない場合は、ジョブが完了したら削除してください。

4. コマンド

(8) 実行例

JP1/NETM/DM Client (クライアント) が稼働するホスト dmp491 および dmp492 に、Finance Data 2003 5 という名称でパッケージングしたソフトウェアを配布する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

ホストとパッケージの属性をパラメタファイルに次のように記述し、パラメタファイルを任意の名称で保存します。

```
** dcminst Parameter File Sample

JOB_DESTINATION{
host_name=dmp491;dmp492
}
PACKAGING_INFORMATION
{
package_name=Finance Data 2003 5
package_id=FD200305
version_revision=000001
generation=0000
cabinet_name=FCAB01
cabinet_id=F1
package_code=P
}
```

(b) コマンドの実行

作成したパラメタファイルを C:\¥Dmbat¥dcminst.txt に保存し、結果出力ファイルを C:\¥Dmbat¥out.txt に取得する場合は、次のように指定します。

```
dcminst.exe /i C:\¥Dmbat¥dcminst.txt /o C:\¥Dmbat¥out.txt /j 上書きインストール /f
```

(c) 結果出力ファイルの確認

コマンドが正常終了すると、ジョブのジョブ名称、ジョブ番号、ジョブ格納フォルダパスが、C:\¥Dmbat¥out.txt に次のよう出力されます。

```
JOB_ATTRIBUTE{
job_generator= NETM_INSTALL_2003_12_11_13_34_36
jobno= JB03121113315383
job_folder= ¥
}
```

4.11 dcmjbrm.exe (ジョブの削除)

実行したジョブを削除する dcmjbrm コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

実行したジョブをパラメタファイルで指定し、配布管理システムで削除します。

(2) 形式

dcmjbrm.exe /i パラメタファイル名 [/LC {ON|OFF}]

(3) 引数

/i

パラメタファイルのフルパスを指定してください。

dcmcoll コマンド (/s 指定なし), dcminst コマンド (/s 指定なし), dcmjexe コマンド, または dcmsusp コマンド (/s 指定なし) の結果出力ファイルを, パラメタファイルとして使用することもできます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても, コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても, コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると, コマンド処理を強制終了します。

この引数は, 次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に, 有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は, フォアグラウンドプログラムとして実行されるため, 「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは, レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については, 次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお, /LC での指定と, レジストリでの設定の組み合わせで, 動作が異なります。詳細については, 「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容

dcmjbrm コマンドでのパラメタファイルの指定内容を次の表に示します。このコマンドで使用するパラメタファイルの内容は, コマンドの引数で指定することはできません。

4. コマンド

表 4-12 パラメタファイルの指定内容 (dcmjbrm コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの 引数
タグ	パラメタ			
JOB_ATTRIBUTE	job_generator	ジョブ名称	×	-
	jobno	ジョブ番号		-
	job_folder	ジョブ格納フォルダパス	×	-
	unsuspended	中断中の配布の有無	×	-

(凡例)

- : 必ず指定する × : 不要 (指定しても無視される)
- : コマンドの引数では指定できない

(5) リターンコード

dcmjbrm コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	ジョブが削除された, または指定されたジョブがない。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない, またはファイル形式が不正。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	パラメタファイルに不正な値が指定されている。	パラメタファイルの値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
5	クライアント, 配布管理システム間の通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで, 通信環境の設定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

また, JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は, 「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(6) 注意事項

パラメタファイルには, dcmcoll コマンド (/s 指定なし), dcminst コマンド (/s 指定なし), dcmjexe コマンド, または dcmsusp コマンド (/s 指定なし) の結果出力ファイルに出力されたジョブ番号を指定してください。

削除するジョブのジョブ番号が不明な場合は, dcmjbrm コマンドは実行できません。配布管理システムの [ジョブ実行状況] ウィンドウで, 該当するジョブ名のジョブを削除してください。

(7) 実行例

dcmjexe コマンドで実行した, 「伝票ファイル 0001 収集」ジョブを削除する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

dcmjexe コマンドの結果出力ファイルに出力されたジョブ番号を, 次のようにパラメタファイルに指定します。

なお, dcmjexe コマンドの結果出力ファイルが保存されていれば, このファイルをパラメタファイルとして指定できます。

```
** dcmjexe output->dcmjbrm input
```

```
JOB_ATTRIBUTE{  
job_generator= 伝票ファイル0001収集  
jobno= JB03121113315383  
job_folder= ¥バッチ定義  
}
```

(b) コマンドの実行

dcmjexe コマンドを実行したときの、結果出力ファイルが C:¥Dmbat¥out.txt に保存されている場合、コマンドは次のように指定してください。

```
dcmjbrm.exe /i C:¥Dmbat¥out.txt
```

4.12 dcmjexe.exe (ジョブの実行)

ジョブを実行する dcmjexe コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

パラメタファイルに定義されたジョブを実行します。実行するジョブは、JOB_ATTRIBUTE タグで一つだけ指定できます。

(2) 形式

```
dcmjexe.exe /i パラメタファイル名 /o 結果出力ファイル名 [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/i

パラメタファイルのフルパスを指定してください。

dcmcoll コマンド (/s 指定あり), deminst コマンド (/s 指定あり), または dcmsusp コマンド (/s 指定あり) の結果出力ファイルを、パラメタファイルとして使用することもできます。

/o

結果出力ファイルのフルパスを指定してください。コマンドが正常終了すると、指定した結果出力ファイルに次の項目が出力されます。結果出力ファイルがすでに存在する場合は上書きされます。

- ジョブ名称
- ジョブ番号
- ジョブ格納フォルダパス

ジョブ番号 (jobno の値) は、ジョブを識別する番号です。このジョブを削除したり、実行状況を確認したりする場合は、jobno の値をパラメタファイルに指定してください。結果出力ファイルを、demjbrm コマンド、dcmrtry コマンド、dcmstat コマンド、および dcmstsw コマンドのパラメタファイルとして使用することもできます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON
Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。
- OFF
Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合

マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」

- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容とコマンド引数との対応

このコマンドはパラメタファイルの使用は必須ですが、パラメタファイルの内容の一部は、コマンドの引数でも指定できます。パラメタファイルの指定内容と、コマンドの引数との対応を次の表に示します。

表 4-13 パラメタファイルとコマンドの引数の対応 (dcmjexe コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
JOB_ATTRIBUTE	job_generator	ジョブ名称		-
	jobno	ジョブ番号	x	-
	job_folder	ジョブ格納フォルダパス		-
	unsuspended	中断中の配布の有無	x	-
JOB_SCHEDULE	job_entry_date	ジョブの登録日時		/jst 値
	job_execution_date	ジョブの実行日時		/jsx 値
	job_expiration_date	ジョブの実行期限		/jsp 値

(凡例)

- : 必ず指定する ◯ : 省略できる x : 不要 (指定しても無視される)
- : コマンドの引数では指定できない

注

省略した場合は、ルートフォルダ以下のすべてのフォルダまたはファイルを検索してジョブを実行します。

(5) パラメタファイルの内容を引数で指定した場合のコマンド形式

ジョブの登録日時、ジョブの実行日時、およびジョブの実行期限をコマンド引数で指定した場合のコマンドの形式を次に示します。

```
dcmjexe.exe /i パラメタファイル名 /o 結果出力ファイル名
                [/jst ジョブの登録日時] [/jsx ジョブの実行日時]
                [/jsp ジョブの実行期限] [/LC {ON|OFF}]
```

(6) リターンコード

dcmjexe コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	配布管理システムがジョブを開始した。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式が不正。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	パラメタファイルに不正な値が指定されている。	パラメタファイルの値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。

4. コマンド

コード	意味	対処
4	結果出力ファイルをオープンできない。	<ul style="list-style-type: none">結果出力ファイルの指定を確認してください。ジョブが開始されている場合があります。ジョブの実行状況を確認してください。
5	クライアント、配布管理システム間の通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで、通信環境の設定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(7) 実行例

配布管理システムのフォルダ「バッチ定義」に保存されている「伝票ファイル0001収集」ジョブを実行する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

実行するジョブが保存されているフォルダ、およびジョブ名をパラメタファイルに次のように記述し、パラメタファイルを任意の名称で保存します。

```
** dcmjexe Parameter File Sample  
  
JOB_ATTRIBUTE{  
job_generator= 伝票ファイル0001収集  
job_folder= ¥バッチ定義  
}
```

(b) コマンドの実行

パラメタファイルを C:¥Dmbat¥dcmjexe.txt に保存し、結果出力ファイルを C:¥Dmbat¥out.txt に取得する場合は、次のように指定します。

```
dcmjexe.exe /i C:¥Dmbat¥dcmjexe.txt /o C:¥Dmbat¥out.txt
```

(c) 結果出力ファイルの内容

コマンドが正常終了すると、開始されたジョブのジョブ名称、ジョブ番号、およびジョブ格納フォルダパス（実行したジョブのフォルダ）が C:¥Dmbat¥out.txt に次のよう出力されます。

```
JOB_ATTRIBUTE{  
job_generator= 伝票ファイル0001収集  
jobno= JB03121113315383  
job_folder= ¥バッチ定義  
}
```

4.13 dcmmonrst.exe (稼働情報のデータベースへの格納)

JP1/NETM/DM で取得した稼働情報 (抑止履歴および操作履歴) を、データベースに格納する dcmmonrst コマンドについて説明します。データベースに格納することで、稼働情報を [操作ログ一覧] ウィンドウから管理できます。

このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで実行できます。ただし、セットアップの [稼働監視] パネルで「稼働監視履歴を JP1/NETM/DM のデータベースに格納する」チェックボックスをオフにしている場合は、実行できません。

(1) 機能

JP1/NETM/DM で取得した抑止履歴および操作履歴を、[操作ログ一覧] ウィンドウで管理できるようにするために、netmdm_monitoring_security テーブルに格納します。

dcmmonrst コマンドでは、操作履歴退避ディレクトリに退避された操作履歴もあわせて、指定した期間の稼働情報をデータベースに格納できます。そのため、セットアップで指定した保存日数を経過してデータベースから削除された稼働情報など、過去の稼働情報を [操作ログ一覧] ウィンドウで参照し直せます。

稼働情報を自動で格納している場合

セットアップの [稼働監視] パネルで次に示す設定にしている場合、dcmmonrst コマンドを実行すると保存日数を経過した稼働情報をデータベースに格納できます。

- 「稼働監視履歴を保存する」チェックボックスをオン
- 「稼働監視履歴を JP1/NETM/DM のデータベースに格納する」チェックボックスをオン
- 「自動格納する」チェックボックスをオン

dcmmonrst コマンドを実行すると、格納されたデータベースの情報が保持され、以降、格納の定期実行は行われません。コマンドでの稼働情報の格納は実行できます。

この状態を解除するには、引数に /r を指定した dcmmonrst コマンドを実行してください。保持された状態が解除され、格納の定期実行が行われるようになります。引数に /r を指定した dcmmonrst コマンドの実行時に、セットアップで指定した保存日数を経過した稼働情報は、データベースから削除されます。そのため、引数に /r を指定した dcmmonrst コマンドは、稼働情報の格納の完了後、[操作ログ一覧] ウィンドウで操作ログを確認してから実行してください。

引数に /c を指定してコマンドを実行すると、データベースに格納されている稼働情報を削除できません。なお、データベースの情報が保持されている状態で稼働情報を削除しても、保持された状態は解除されません。

定期実行またはコマンドによる稼働情報の格納・削除中に、引数に /r を指定した dcmmonrst コマンドを実行すると、稼働情報の格納・削除を中止できます。中止した場合、セットアップで指定した保存日数を経過した稼働情報は、データベースから削除されます。なお、定期実行による格納を中止した場合、次の定期実行時に格納が再開されます。コマンドによる格納・削除を中止した場合、次のコマンドによる格納・削除は通常どおりに実行されます。なお、「Remote Install Server」サービスを再起動すると、引数に /r を指定した dcmmonrst コマンドを実行しなくても、保持された状態が解除され、格納の定期実行が行われるようになります。これによって、保存日数を経過した稼働情報はデータベースから削除されます。

引数に /s を指定した dcmmonrst コマンドを実行して稼働情報を格納する場合、引数に /n を指定すると処理状況が出力されます。

稼働情報を手動で格納する場合

セットアップの [稼働監視] パネルで次に示す設定にしている場合、引数に /x を指定して

4. コマンド

dcmmmonrst コマンドを実行すると稼働情報をデータベースに格納できます。

- 「稼働監視履歴を保存する」チェックボックスをオン
- 「稼働監視履歴を JP1/NETM/DM のデータベースに格納する」チェックボックスをオン
- 「操作履歴を格納ディレクトリから圧縮して退避する」ラジオボタンを選択
- 「自動格納する」チェックボックスをオフ

なお、この場合、格納した稼働情報は、引数に /c を指定した dcmmmonrst コマンドで削除しないかぎりデータベースに蓄積されます。

また、一度データベースに格納された稼働情報は、次回からはコマンドを実行しても格納されません。ただし、引数 /z を指定して dcmmmonrst コマンドを実行すると、データベースに格納したことのある稼働情報を再度格納できるようになります。

引数に /x を指定した dcmmmonrst コマンドを実行して稼働情報を格納する場合、引数に /n を指定すると処理状況が出力されます。

(2) 形式

自動で格納している場合で保存日数を経過した稼働情報を格納するとき

```
dcmmmonrst.exe [/h 接続先] [/u 管理者ユーザID]
                [/p パスワード] /s 開始日
                [/e 終了日] [/d 操作履歴退避ディレクトリ]
                { [/H ホスト名] | [/I IPアドレス] }
                [/n 出力単位数]
```

データベースの保持状態を解除する場合、または格納を中止する場合

```
dcmmmonrst.exe [/h 接続先] [/u 管理者ユーザID]
                [/p パスワード] /r
```

手動で格納する場合に稼働情報を格納するとき

```
dcmmmonrst.exe [/h 接続先] [/u 管理者ユーザID]
                [/p パスワード] /x [/d 操作履歴退避ディレクトリ]
                [/s 開始日] [/e 終了日]
                { [/H ホスト名] | [/I IPアドレス] }
                [/n 出力単位数]
```

一度格納した稼働情報を再度格納できるようにする場合

```
dcmmmonrst.exe [/h 接続先] [/u 管理者ユーザID]
                [/p パスワード] /z [/d 操作履歴退避ディレクトリ]
                { [/H ホスト名] | [/I IPアドレス] }
```

データベースに格納された稼働情報を削除する場合

```
dcmmmonrst.exe [/h 接続先] [/u 管理者ユーザID]
                [/p パスワード] /c 削除日
```

(3) 引数

/h

接続先の配布管理システムのホスト名または IP アドレスを半角 64 文字以内で指定します。省略した場合は、「localhost」が設定されます。

/u

接続するデータベースの管理者ユーザ ID を半角 30 文字以内で指定します。省略した場合は、セットアップの [データベース環境] パネルで指定されている管理者ユーザ ID が設定されます。

/p

接続するデータベースのパスワードを半角 30 文字以内で指定します。パスワードが設定されていない場合は省略できます。

/s

データベースへの格納の開始点となる日付を指定します。ここで指定した日付以降の稼働情報が、データベースに格納されます。

引数 /x を指定した場合、ここで指定した日付以降に操作履歴格納ディレクトリから操作履歴退避ディレクトリに退避された稼働情報のうち、データベースに未格納の稼働情報がデータベースに格納されます。

日付は、YYYYMMDD の形式で、YYYY は西暦、MM は月、DD が日を示すように指定してください。指定できる日付の範囲は、1980 年 1 月 1 日 ~ 2099 年 12 月 31 日です。

なお、引数 /x を指定した場合は省略できます。省略したときは、操作履歴格納ディレクトリ内の稼働情報がデータベースに格納され、格納が完了した稼働情報は、操作履歴退避ディレクトリに退避されません。

/e

データベースへの格納の終点となる日付を指定します。ここで指定した日付までの稼働情報が、データベースに格納されます。省略した場合は、最新の日付までの稼働情報が、データベースに格納されません。

引数 /x を指定した場合、ここで指定した日付以前に操作履歴格納ディレクトリから操作履歴退避ディレクトリに退避された稼働情報のうち、データベースに未格納の稼働情報がデータベースに格納されません。

日付は、YYYYMMDD の形式で、YYYY は西暦、MM は月、DD が日を示すように指定してください。指定できる日付の範囲は、1980 年 1 月 1 日 ~ 2099 年 12 月 31 日です。

なお、引数 /s で指定した日付よりも前の日付を指定した場合はエラーとなります。また、引数 /s で指定した日付と同じ日付を指定した場合は、その日付の稼働情報だけが格納されます。

/d

セットアップで指定したディレクトリ以外の操作履歴退避ディレクトリから、稼働情報をデータベースに格納する場合に指定します。ただし、インストール時に指定した操作履歴格納ディレクトリの稼働情報はデータベースに格納されません。操作履歴退避ディレクトリのパスは、半角で 127 文字（全角で 63 文字）以内で指定してください。省略した場合は、セットアップで指定した操作履歴退避ディレクトリが設定されます。

操作履歴退避ディレクトリに共有ディレクトリを指定している場合

UNC パスで指定してください。ネットワークドライブの認証情報は、[ネットワーク接続情報の設定] ダイアログボックスまたは [ネットワーク接続] タブで入力した情報が設定されます。

/H

ホスト名を指定して稼働情報をデータベースに格納したい場合に、ホスト名を指定します。大文字と小文字は区別されません。

/I

IP アドレスを指定して稼働情報をデータベースに格納したい場合に、IP アドレスを指定します。

/n

稼働情報をデータベースに格納する場合、次の処理状況を標準出力に出力したいときに指定します。なお、() 内は出力される処理状況の単位を示しています。

- 操作履歴格納ディレクトリ内の稼働情報の格納処理（ディレクトリ）
- 操作履歴退避ディレクトリ内の稼働情報の格納処理（ディレクトリ）
- 引数 /d で指定された操作履歴退避ディレクトリ内の稼働情報の格納処理（ディレクトリ）
- データベースに格納されている抑止履歴の格納処理（ホスト）

処理状況を出力する単位数（格納処理の対象ディレクトリ数およびホスト数）を 1 ~ 10,000 で指定します。出力する単位数の目安は、格納処理の対象ホスト数の 5 ~ 20% です。なお、指定した値が格納処理の対象ディレクトリ数およびホスト数より少ない場合は、最終結果だけを出力します。

4. コマンド

/r

セットアップの [稼働監視] パネルで次に示す設定にしている場合 (稼働情報をデータベースに自動で格納している場合), データベースにコマンドで格納された稼働情報の保持状態を解除します。また、データベースへの稼働情報の格納、およびデータベースからの稼働情報の削除を中止します。

このとき、セットアップで設定されている保存日数を経過した稼働情報はデータベースから削除されま

す。

- 「稼働監視履歴を保存する」チェックボックスをオン
- 「稼働監視履歴を JP1/NETM/DM のデータベースに格納する」チェックボックスをオン
- 「自動格納する」チェックボックスをオン

/x

セットアップの [稼働監視] パネルで次に示す設定にしている場合 (稼働情報をデータベースに手動で格納する場合) に有効です。

- 「稼働監視履歴を保存する」チェックボックスをオン
- 「稼働監視履歴を JP1/NETM/DM のデータベースに格納する」チェックボックスをオン
- 「操作履歴を格納ディレクトリから圧縮して退避する」ラジオボタンを選択
- 「自動格納する」チェックボックスをオフ

稼働情報をデータベースに格納するときに指定します。格納された稼働情報は、引数に /c を指定した demmonrst コマンドで削除しないかぎりデータベースに蓄積されます。一度格納したことのある稼働情報は格納されません。

コマンドを実行すると、操作履歴格納ディレクトリ内の稼働情報がデータベースに格納され、格納が完了した稼働情報は、操作履歴退避ディレクトリに退避されます。

引数 /s および引数 /e で、データベースに格納する稼働情報の日付の範囲を指定した場合、操作履歴退避ディレクトリ内の対象となる稼働情報のうち、未格納の稼働情報だけがデータベースに格納されま

す。

引数 /d で操作履歴退避ディレクトリを指定した場合、操作履歴退避ディレクトリ内の稼働情報のうち、未格納の稼働情報だけがデータベースに格納されます。

この引数を指定して demmonrst コマンドを実行する場合、対象とする操作履歴退避ディレクトリに書き込み権限があることを事前に確認してください。

/z

引数 /x を指定した demmonrst コマンドで操作履歴退避ディレクトリからデータベースに格納した稼働情報を、再度格納できるようにする場合に指定します。

この引数を指定して demmonrst コマンドを実行する場合、対象とする操作履歴退避ディレクトリに書き込み権限があることを事前に確認してください。また、稼働情報を再度データベースに格納する際には、すでに格納されている稼働情報を事前にデータベースから削除しておいてください。削除されていない稼働情報は、重複して格納されます。

/c

データベースに格納された稼働情報から、指定した日付以前の稼働情報を削除します。日付は、YYYYMMDD の形式で、1980 年 1 月 1 日 ~ 2099 年 12 月 31 日の範囲で指定します。

注 引数として /H および /I を省略した場合、すべてのホストの稼働情報がコマンドの実行対象になります。

(4) リターンコード

demmonrst コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	退避データのリストア、解除、または削除が完了した。	なし。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムの稼働状態を確認してください。
5	配布管理システムとの通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで、通信環境の設定を確認してください。
7	退避ディレクトリに指定したディレクトリが存在しない、またはアクセス権がない。	指定したパスを確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。
13	ログイン名またはパスワードに誤りがある。	ログイン名またはパスワードの指定を確認してください。
15	データベースにデータを格納中、またはデータベースからデータを削除中。	再度コマンドを実行してください。
20	引数に /r を指定した dcmmnrst コマンドを実行したため、データベースへの格納または削除が中止された。	なし。
21	<ul style="list-style-type: none"> 引数 /x または引数 /z を指定した dcmmnrst コマンドを実行した場合に、指定した操作履歴退避ディレクトリが存在しない。 引数 /x または引数 /z を指定した dcmmnrst コマンドを実行した場合に、指定した操作履歴退避ディレクトリに書き込み権限がない。 	書き込み権限がある操作履歴退避ディレクトリを指定してください。
22	現在のサーバセットアップの設定内容では、コマンドの引数に指定したオプションを実行できない。	イベントログを参照し、サーバセットアップの設定およびコマンドの引数に指定したオプションを確認してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(5) 注意事項

データベースに格納されている稼働情報のうち最も新しい日付よりも、二日以上先の日付を開始点として格納を実行した場合、データベースに格納されている情報と、新規に格納した情報との間に、稼働情報が存在しない日付ができてしまいます。この場合、稼働情報が存在しない日付が保存日数を経過するまで、その日付の情報が追加できなくなるおそれがあります。

最新の稼働情報を格納する場合は、次の手順でコマンドを実行してください。

1. dcmmnrst.exe /s 現在の日付 - 保存日数 + 1 を実行する。
2. dcmmnrst.exe /r を実行する。

次に示す場合は、引数に /r を指定した dcmmnrst コマンドを実行して、稼働情報の保持状態をいったん解除してから稼働情報を格納し直してください。

- dcmmnrst コマンドを実行して稼働情報をデータベースに格納したあと、再度稼働情報を格納するとき
- データベースへの稼働情報の格納に失敗したあとで、再度稼働情報を格納するとき

クライアントからの稼働情報の受信と、データベースへの稼働情報の格納が同じタイミングで実行された場合、それぞれの処理に時間が掛かるときがあります。そのため、クライアントからの稼働情報の受信と、データベースへの稼働情報の格納が異なるタイミングで実行されるように、それぞれの実行時間

4. コマンド

を設定してください。

稼働情報の量によっては、データベースへの格納に時間が掛かる場合があります。取得した履歴の内容やシステムの環境にもよりますが、クライアント 1 台当たりの、1 日分の稼働情報の格納に掛かる時間は、10 秒を目安にしてください。

コマンドの引数に予約語は指定できません。

08-52 以前の JP1/NETM/DM Manager からアップグレードする場合、ソフトウェア稼働監視履歴データベースファイルに十分な容量を割り当てて、データベースもアップグレードしてください。

Embedded RDB 環境で稼働情報を手動で格納する場合は、dcmmmonrst コマンドでデータベースから稼働情報を削除したあとで、netmdb_reclaim.bat コマンドを実行して領域を解放してください。

netmdb_reclaim.bat コマンドの詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「6.6.5 操作ログの削除」を参照してください。

稼働情報を自動でデータベースに格納する設定から、手動で格納する設定に変更した場合、引数に /x を指定した dcmmmonrst コマンドを実行して稼働情報をデータベースに格納する前に、引数に /c を指定した dcmmmonrst コマンドを実行して、データベース内の稼働情報を削除してください。

データベースに稼働情報を蓄積して格納する場合、引数に /x を指定した dcmmmonrst コマンドを定期的に行って、稼働情報をデータベースに格納してください。定期的に dcmmmonrst コマンドを実行しないと、稼働情報が操作履歴退避ディレクトリに退避されません。

操作履歴のファイルサイズが 20MB を超えた場合、イベントログに警告メッセージが出力されます。また、ファイルサイズが 30MB を超える操作履歴が格納されている場合、エラーが発生して処理が停止したときは、処理中のクライアントの格納データが一部重複することがあります。

引数に /n を指定した dcmmmonrst コマンドを実行して処理状況を標準出力に出力する場合、処理状況を出力しないときより時間が掛かることがあります。そのため、処理状況を確認する必要がある場合だけ、引数に /n を指定してください。

引数に /n を指定した dcmmmonrst コマンドを実行して処理状況を標準出力に出力する場合、データベースに稼働情報を格納している間に、新しい稼働情報がアップロードされることがあります。このとき、アップロードされた稼働情報がデータベースに格納され、処理が完了したディレクトリ数およびホスト数だけが増加することがあります。

(6) 実行例

dcmmmonrst コマンドを使用する場合の例を次に示します。

自動で格納している場合で保存日数を経過した稼働情報を格納するとき

```
dcmmmonrst.exe /p p@ssw0rd /s 20070801
```

データベースの保持状態を解除する場合

```
dcmmmonrst.exe /p p@ssw0rd /r
```

手動で格納する場合に稼働情報を格納するとき

```
dcmmmonrst.exe /p p@ssw0rd /x /d D:¥backup
```

一度格納した稼働情報を再度格納できるようにする場合

```
dcmmmonrst.exe /p p@ssw0rd /z /d D:¥backup
```

データベースに格納された稼働情報を削除する場合

```
dcmmmonrst.exe /p p@ssw0rd /c 20071130
```

4.14 dcmpack.exe (パッケージングの実行)

ユーザデータまたはユーザプログラムのパッケージングを実行する dcmpack コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager (中継マネージャ)、JP1/NETM/DM Client (中継システム)、および JP1/NETM/DM Client (クライアント) の、パッケージングをインストールした環境で実行できます。

(1) 機能

配布管理システム (JP1/NETM/DM Manager または JP1/NETM/DM Client (中継システム)) に、ユーザデータまたはユーザプログラムをパッケージングします。

プログラムプロダクトはパッケージングできません。

(2) 形式

```
dcmpack.exe [/k パスワード]
             /i パラメタファイル名 [/o 結果出力ファイル名]
             [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/k

配布管理システムへ、ソフトウェアをパッケージングするためのパスワードを指定します。

Windows の配布管理システムにパッケージングする場合

配布管理システムでリレーショナルデータベースを作成したときに指定したパスワードを指定してください。

UNIX の配布管理システムにパッケージングする場合

UNIX の配布管理システムの資源アップロードパスワードを指定してください。

/i

パラメタファイルのフルパスを指定してください。

/o

結果出力ファイルのフルパスを指定してください。コマンドが正常終了すると、指定した結果出力ファイルに、作成したパッケージの属性情報が書き込まれます。この結果出力ファイルは、dcmnst コマンド、dcmpkget コマンド、および dcmpkrm コマンドのパラメタファイルとして使用できます。

省略した場合、結果出力ファイルは作成されません。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

4. コマンド

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」
- JP1/NETM/DM Client (クライアント) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「6.3 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (クライアント))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容とコマンド引数との対応

このコマンドで使用するパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することもできます。パラメタファイルの指定内容と、コマンドの引数との対応を次の表に示します。

表 4-14 パラメタファイルとコマンドの引数の対応 (dcmpack コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
PACKAGING_SOURCE	file_path	パッケージ対象ファイル名		/P 値
	base_fullpath	パッケージ基準ディレクトリパス		/B 値
PACKAGING_INFORMATION	package_name	パッケージ名		/p 値
	package_id	パッケージ識別 ID		/I 値
	version_revision	バージョン / リビジョン		/v 値
	generation	世代番号		/G 値
	cabinet_name	キャビネット名		/c 値
	cabinet_id	キャビネット識別 ID		/C 値
	package_code	コード種別	×	-
SYSTEM_CONDITIONS	directory	インストール先ディレクトリ		/D 値
	condition	システム条件	1 2	/O 値
SOFTWARE_CONDITIONS	condition	ソフトウェア条件	1 2	/l 値
FILE_PROPERTIES	permission	ファイルアクセス権の復元		/qY または /qN ³
SCHEDULE	expiration_date	中継システムでのパッケージ保管期限		/x 値
	expiration_days	中継システムでのパッケージ保管日数		/ed 値
	installation_date_and_time	インストール日時		/d 値

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
	installation_timing	インストールタイミング		/tS または /tN
INSTALLATION_METHOD	installation_mode	インストールモード		/mB または /mG
OPTION	compress	圧縮の有無		/uY または /uN
	compress_type	圧縮方法		/ctN または /ctH ₄
	restore	バージョンアップ時のリストア対象の有無		/RY または /RN
	encipher	暗号化の有無	5	/encY または /encN
	reboot	インストール後のコンピュータ再起動		/reboot
	processing_dialog	インストール時の処理中ダイアログの表示	1	/procS, /procY, または /procN
USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS	external_program_executed_before_installation ₆	インストール前起動外部プログラム		/b 値
	external_program_executed_after_installation	インストール後起動外部プログラム		/a 値
	external_program_error_handler ₇	インストールエラー時起動外部プログラム		/e 値
	external_program_handler	起動外部プログラム	x	-
	exit ₇	外部プログラム処理結果の通知方式		/rbR, /rbM, /raR, /raM, /reR, または /reM
	action ₇	処理結果エラー時の取り扱い		/ybC, /ybS, /yaC, または /yaS
	wait ₇	監視方式		/wbU, /wbT, /wbG, /waU, /waT, /waG, /weU, または /weY
	timeout	監視時間	8	/n 値
	wait_code	監視コード	x	-
SCRIPTS	installation_script	インストールスクリプトのパス	1 9	/Z 値

(凡例)

: 必ず指定する : 省略できる x : 不要 (指定しても無視される)
- : コマンドの引数では指定できない

注 1

UNIX のクライアントへ配布するパッケージの場合は指定できません。

注 2

システム条件とソフトウェア条件を複数指定すると、すべての条件を満たす場合にインストールされます。コマンドの引数で指定する場合、/O と /I は、合計 10 個まで指定できます。

注 3

4. コマンド

UNIX のクライアントへ配布するパッケージの場合、「/qN」を指定してください。

注 4

UNIX のクライアントへ配布するパッケージを圧縮する場合、「/ctN」を指定してください。

注 5

このパラメタを指定する場合は、JP1/NETM/DM Encryption Option のインストールが必要です。

注 6

UNIX のクライアントへ配布するパッケージの場合、SCHEDULE タグの installation_date_and_time パラメタと同時に指定すると、このパラメタは無視されます。

注 7

UNIX のクライアントへ配布するパッケージの場合、パラメタを指定しても無視されます。

注 8

wait で U を指定した場合（コマンドの引数で /wbU、/waU、/weU を指定した場合は、指定しても無視されません。

注 9

この項目を指定した場合、SYSTEM_CONDITIONS タグ、SOFTWARE_CONDITIONS タグ、および USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS タグに該当する情報はすべて無視されます。

(5) パラメタファイルを使用しない場合のコマンド形式

パラメタファイルを使用しないで引数だけで指定する場合の、コマンドの形式を次に示します。

```
dcmpack.exe [/k パスワード]
            [/P パッケージ対象ファイル名]
            /B パッケージ基準ディレクトリパス
            /p パッケージ名 /I パッケージ識別ID
            /v バージョン・リビジョン /G 世代番号
            /c キャビネット名 /C キャビネット識別ID
            [/D インストール先ディレクトリ]
            [/O システム条件] [/l ソフトウェア条件]
            [{/qY|/qN}] [ /x 中継システムでのパッケージ保管期限]
            [/ed 中継システムでのパッケージ保管日数]
            [/d インストール日時] [{/tS|/tN}] [{/mB|/mG}]
            [{/uY|/uN}] [{/RY|/RN}] [{/encY|/encN}]
            [/reboot] [{/procS|/procY|/procN}]
            [/b インストール前起動外部プログラム [{/rbR|/rbM}]
            [{/ybC|/ybS}] [{/wbU|/wbT|/wbG}] [/n 監視時間]]
            [/a インストール後起動外部プログラム [{/raR|/raM}]
            [{/yaC|/yaS}] [{/waU|/waT|/waG}] [/n 監視時間]]
            [/e インストールエラー時起動外部プログラム
            [{/reR|/reM}] [{/weU|/weY}] [/n 監視時間]]
            [/Z インストールスクリプトのパス]
            [/o 結果出力ファイル名]
            [ /LC {ON|OFF}]
```

(6) リターンコード

dcmpack コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	正常終了した。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式が不正。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	コマンドの引数またはパラメタファイルに不正な値が指定されている。	コマンドの引数またはパラメタファイルの設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	パッケージングを実行する PC の設定内容または通信環境を確認してください。

コード	意味	対処
4	結果出力ファイルを作成できなかった、または予約語を使用したバージョン・リビジョンおよび世代番号の自動カウントアップに失敗した。ただしパッケージの登録には成功した。	パッケージングするファイルを指定したパスを確認してください。
5	配布管理システムとの接続に失敗した。	配布管理システムまたはリレーショナルデータベースが停止していないか確認してください。
6	配布管理システムとのデータ送受信に失敗した。	通信環境を確認してください。
7	次のどちらかを意味する。 <ul style="list-style-type: none"> パッケージング対象のファイルまたはディレクトリがない。 パッケージ対象のファイルまたはディレクトリ数が上限値を超過した。 	<ul style="list-style-type: none"> パッケージングするファイルまたはディレクトリを指定したパスを確認してください。 パッケージ対象のファイルまたはディレクトリ数を減らしてください。
9	パッケージング対象のパッケージはすでにパッケージングされている。	次の項目のうち、どれか一つを変更して再度パッケージングしてください。 <ul style="list-style-type: none"> キャビネット識別 ID パッケージ識別 ID バージョン番号 世代番号
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。
13	パスワードに誤りがある。	パスワードの指定を確認してください。
14	バージョン・リビジョンまたは世代番号を自動カウントアップした結果、指定できる最大けた数を越えたため、パッケージの登録に失敗した。	バージョン・リビジョンおよび世代番号の予約語の設定を確認してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(7) 注意事項

キャビネットの指定について

- パラメタファイルまたはコマンドの引数で存在しないキャビネット識別 ID を指定した場合、新規にキャビネットが作成されます。
- キャビネット識別 ID とキャビネット名が異なる組み合わせで複数指定された場合は、二つ目以降のパッケージはキャビネット識別 ID で指定されたキャビネットに格納されます。エラーにはなりません。

パッケージの指定数について

パラメタファイルで指定する場合、コマンドの引数で指定する場合ともに、dcmpack コマンド 1 回の実行につき、1 個のパッケージを指定できます。

バージョン・リビジョンおよび世代番号の自動カウントアップについて

予約語を使用することで、バージョン・リビジョンおよび世代番号を自動的にカウントアップさせる運用ができます。この場合、パラメタファイルからの指定とコマンドの引数からの指定では、次のように動作が異なります。

パラメタファイルから指定した場合

dcmpack コマンド実行時にカウントアップの初期値が更新され、パラメタファイル上に書き込まれます。同じパラメタファイルを使用して再度実行すると、続きの値からカウントアップが開始されます。

コマンドの引数から指定した場合

dcmpack コマンドを実行しても、カウントアップの初期値は更新されません。コマンドを実行するたびに、初期値からカウントアップされます。

4. コマンド

dcmpack コマンドの接続先について

レジストリの HKEY_LOCAL_MACHINE の更新権限を持つユーザでパッケージを起動し、接続したサーバが接続先となります。接続先を変更する場合は、レジストリ HKEY_LOCAL_MACHINE の更新権限を持つユーザでパッケージを起動し、接続先を変更したあとで、dcmpack コマンドを実行してください。

パラメタファイルを使用しない場合の注意事項

- 外部プログラムには、スペースが含まれるパスを指定しないでください。
- 配布先が WS (UNIX システム) の場合は、外部プログラムの格納先ディレクトリ、インストール先ディレクトリのドライブには任意のドライブを指定してください。ただし、配布時には、指定されたドライブは無視され、ディレクトリの指定に従って配布されます。次の場合、c: は無視されます。

指定例：c:/user/tmp

なお、ディレクトリの区切りに「¥」を使用するときは、ドライブの指定は不要です。

指定例：¥user¥tmp

インストールスクリプトファイルを使用する場合の注意事項

- dcmpack コマンドでは、パラメタファイルの SCRIPTS タグの指定で取り込まれたインストールスクリプトファイルの文法をチェックしません。
- インストールスクリプトファイルを使用すると、システム条件 (インストール先ディレクトリを除く)、ソフトウェア条件、および外部プログラム起動の指定は無効になります。

インストールスクリプトファイルを使用しない場合の注意事項

インストールスクリプトファイルを使用しない場合、システム条件、ソフトウェア条件、および外部プログラム起動の指定を同時に指定すると、外部プログラムの起動が、インストールスクリプトファイルに記述されます。ただし、外部プログラムの結果通知方式、処理結果エラー時の取り扱い、監視方式、および監視時間の指定は無効になります。

パッケージを新規インストールした場合の注意事項

パッケージを新規にインストールした場合、dcmpack コマンドを実行する前にパッケージを起動してサーバを指定してください。

バックグラウンドインストールモードの注意事項

バックグラウンドインストールモードでは、インストール先ディレクトリにネットワークドライブを指定しないでください。

(8) 実行例

C:¥Finance¥data0401 ディレクトリ下にあるファイルを、次のようにパッケージングする例を次に示します。

- パッケージ名
Finance Data 2003 4
- 保管先のキャビネット名
FCAB01

(a) パラメタファイルの作成

パラメタファイルを次のように作成します。

```
** dcmpack Parameter File Sample

PACKAGING_SOURCE{
file_path=FD200304.dat
base_fullpath= C:¥Finance¥data0401
}
PACKAGING_INFORMATION
{
```

```
package_name=Finance Data 2003 4
package_id=FD200304
version_revision=000001
generation=0000
cabinet_name=FCAB01
cabinet_id=F1
package_code=P
}
SYSTEM_CONDITIONS{
condition=H:c>300
condition=C = PowerPC
directory=C:¥Finance
}
USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS
{
external_program_executed_after_installation = C:¥Dmbat¥app¥normal_exit.exe
}
```

(b) コマンドの実行

パラメタファイルを C:¥Dmbat¥para.txt に保存した場合、コマンドは次のように実行してください。

```
dcmpack.exe /i C:¥Dmbat¥para.txt
```

4.15 dcmpkget.exe (パッケージのバックアップの取得)

パッケージのバックアップを取得する dcmpkget コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

指定したパッケージのバックアップを作成します。

(2) 形式

```
dcmpkget.exe /i パラメタファイル /o 出力先ディレクトリ
                [/of 結果出力ファイル名]
                [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/i

パラメタファイルのフルパスを指定します。

dcmpkget コマンドの結果出力ファイル名を、パラメタファイルとして使用することもできます。ただし、PACKAGING_INFORMATION タグ内の package_name は無視されます。

/o

出力先ディレクトリのフルパスを指定します。指定したディレクトリが存在しない場合は、自動的に作成されます。出力先ディレクトリにネットワークドライブは指定できません。

/of

出力先ディレクトリに作成するバックアップファイル名を指定してください。省略すると、「dcmpkget」になります。ここで指定したファイル名にパッケージ属性(「パッケージ種別」、「キャビネット識別 ID」、「パッケージ識別 ID」、「バージョン」、および「世代番号」)を付加したものが、バックアップファイル名となり、「.DPF」、「.SCI」、および「.PKG」の拡張子を持つ三つのファイルが作成されます。なお、「バージョン」に「/」が含まれている場合は、「\$」に置き換えられて、ファイル名が作成されます。

バックアップファイル名は、半角で 256 文字 (全角で 128 文字) まで指定できます。パッケージ属性を付加したときに、この文字数を超えると、最大文字数に収まるように、指定したファイル名は短縮されます。

/of には、予約語「¥CY」、「¥CM」、「¥CD」、「¥CH」、「¥CN」、「¥CS」、「¥VERSION」、および「¥PKGID」を使用できます。「¥VERSION」および「¥PKGID」は一つ目のパッケージ定義を参照し、定義がなければ無視されます。予約語については「4.27 予約語の指定方法」を参照してください。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容とコマンド引数との対応

このコマンドで使用するパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することもできます。パラメタファイルの指定内容と、コマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタファイルとコマンドの引数の両方を指定した場合は、コマンドの引数で指定した内容が有効となり、パラメタファイルでの指定は無視されます。ただし、コマンドの引数で一部のパッケージ属性だけを指定した場合は、パラメタファイルの PACKAGING_INFORMATION タグ内の、一つ目のパッケージ情報だけが有効になります。

表 4-15 パラメタファイルとコマンドの引数の対応 (dcmpkget コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
PACKAGING_INFORMATION 1	package_name	パッケージ名	×	-
	package_id	パッケージ識別 ID	2	/I 値
	version_revision	バージョン / リビジョン	2	/v 値
	generation	世代番号	2	/G 値
	cabinet_name	キャビネット名	×	-
	cabinet_id	キャビネット識別 ID		/C 値
	package_code	コード種別		/KW または /KP

(凡例)

- : 必ず指定する : 省略できる × : 不要 (指定しても無視される)
- : コマンドの引数では指定できない

注 1

このコマンドでは、PACKAGING_INFORMATION タグのパラメタに予約語を使用できません。

注 2

キャビネット識別 ID だけを指定する場合は、省略できます。その場合、キャビネット内にあるすべてのパッケージが対象となります。

4. コマンド

(5) パラメタファイルを使用しない場合のコマンド形式

パラメタファイルを使用しないで引数だけで指定する場合の、コマンドの形式を次に示します。

```
dcmpkget.exe /I パッケージ識別ID /v バージョン・リビジョン /G 世代番号  
/C キャビネット識別ID [/KW|/KP] /o 出力先ディレクトリ  
[/of 結果出力ファイル名] [/LC {ON|OFF}]
```

(6) リターンコード

dcmpkget コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	ファイルの出力が成功した。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式に誤りがある。	パラメタファイルのパスまたは記述形式を確認してください。
2	コマンドの引数またはパラメタファイルに不正な値が指定されている。	コマンドの引数またはパラメタファイルの設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	<ul style="list-style-type: none">配布管理システムのバージョンを確認してください。ジョブの実行状況を確認してください。
4	指定したパッケージが存在しない。	<ul style="list-style-type: none">配布管理システムにパッケージが存在することを確認してください。ジョブの実行状況を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。
14	結果出力ファイルまたはディレクトリを作成できない。	出力先ディレクトリおよび結果出力ファイルのパスを確認してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(7) 注意事項

複数のパッケージを指定して、このコマンドを実行したとき、指定したパッケージが存在しなければ、そのパッケージのバックアップ処理はスキップし、それ以降のパッケージのバックアップを続行します。その際、dcmpkget コマンドはリターンコード 4 を返します。

複数のパッケージを指定して、このコマンドを実行したとき、途中でパッケージのバックアップに失敗すると、dcmpkget コマンドは、パッケージのバックアップを中止します。その際、それまでに作成されたバックアップファイルはすべて削除され、障害発生時のリターンコードを返します。

スクリプトファイルを指定しないで作成した UNIX 版のパッケージをバックアップした場合、SCI ファイルは出力されません。

(8) 実行例

キャビネット識別 ID 「01」のキャビネットにある、パッケージ識別 ID 「0100」、バージョン/リビジョン「0100」、世代番号「0000」のパッケージのバックアップを取得する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

バックアップを取得するパッケージおよびキャビネットを、パラメタファイルに次のように記述し、パラメタファイルを任意の名称で保存します。

```
** dcmpkget Parameter File Sample  
PACKAGING_INFORMATION{
```

```
package_id=0100  
version_revision=0100  
generation=0000  
cabinet_id=01  
package_code=P  
}
```

(b) コマンドの実行

パラメタファイルを C:¥Dmbat¥dcmpkget.txt に保存し、バックアップを C:¥Dmbat¥backup に取得する場合は、次のように指定します。

```
dcmpkget.exe /i C:¥Dmbat¥dcmpkget.txt /o C:¥Dmbat¥backup /of BackupFile
```

4.16 dcmpkput.exe (パッケージのバックアップからの復元)

パッケージをバックアップから復元する dcmpkput コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。なお、このコマンドでは、パラメタファイルを使用しません。

(1) 機能

バックアップファイルからパッケージを復元し、指定したキャビネットに保管します。

(2) 形式

```
dcmpkput.exe [/C キャビネット識別ID] /i 入力先ディレクトリ
              [/of 入力ファイル名] [/f] [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/C

バックアップから復元したパッケージを保管するキャビネットの識別 ID を指定します。指定したキャビネットが存在しない場合は、自動的に作成されます。キャビネット識別 ID を指定しない場合は、元のキャビネットに保管されます。

/i

dcmpkget コマンドで指定した出力先ディレクトリのフルパスを指定します。入力先ディレクトリにネットワークドライブは指定できません。

/of

dcmpkget コマンドで作成したバックアップファイル名を指定します。/of にはワイルドカード (*) が使用できます。省略すると「dcmpkget」で始まるすべてのバックアップファイルを対象にします。

/i で指定したディレクトリに、複数のバックアップファイルが存在している場合、以下のような指定方法で、ディレクトリ下のすべてのバックアップファイルを指定することもできます。

```
dcmpkput.exe /i C:¥temp¥pkg /of *
```

/f

指定したキャビネットに同じパッケージがあった場合に上書きします。この引数を指定しない場合は、上書きしないで、リターンコード 5 を返します。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) リターンコード

dcmpkput コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	パッケージの復元が成功した。	なし。
1	dcmpkget コマンドの結果出力ファイルをオープンできない、またはファイル形式に誤りがある。	結果出力ファイルのパス、またはファイル形式を確認してください。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
4	指定したバックアップファイルが存在しない。	バックアップファイルのパスを確認してください。
5	すでにパッケージが存在する、またはキャビネットにこれ以上のパッケージを登録できない。	キャビネット内のパッケージ名、およびパッケージ数を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(5) 注意事項

複数のパッケージを指定してこのコマンドを実行したとき、途中でパッケージの復元に失敗すると、dcmpkput コマンドはパッケージの復元処理を中止します。その際、障害発生時のリターンコードを返します。

UNIX 版パッケージのバックアップを復元する場合、復元先にはキャビネット種別が WS 用の、既存のキャビネットを指定してください。キャビネット種別が PC 用のとき、およびキャビネットが存在しないときは復元できません。

(6) 実行例

dcmpkget コマンドで取得したバックアップファイルからパッケージを復元する例を次に示します。

C:\¥Dmbat¥backup に取得したすべてのバックアップファイルを、キャビネット識別 ID「01」のキャビネットに復元する場合は、次のように指定します。

```
dcmpkput.exe /C 01 /i C:\¥Dmbat¥backup /of *
```

4.17 dcmpkrm.exe (パッケージの削除)

パッケージを削除する dcmpkrm コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

配布管理システムのキャビネットから、パッケージを削除します。

(2) 形式

dcmpkrm.exe /i パラメタファイル名 [/LC {ON|OFF}]

(3) 引数

/i

使用するパラメタファイルのフルパスを指定してください。

dcmpkrm コマンドの結果出力ファイルを、パラメタファイルとして使用することもできます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容

dcmpkrm コマンドでのパラメタファイルの指定内容を次の表に示します。このコマンドで使用するパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することはできません。

表 4-16 パラメタファイルの指定内容 (dcmpkrm コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの 引数
タグ	パラメタ			
PACKAGING_INFORMATION	package_name	パッケージ名	×	-
	package_id	パッケージ識別 ID		-
	version_revision	バージョン / リビジョン		-
	generation	世代番号		-
	cabinet_name	キャビネット名	×	-
	cabinet_id	キャビネット識別 ID		-
	package_code	コード種別		-

(凡例)

- ：必ず指定する × : 不要 (指定しても無視される)
- : コマンドの引数では指定できない

注

このコマンドでは、PACKAGING_INFORMATION タグのパラメタに予約語を使用できません。

(5) リターンコード

dcmpkrm コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	正常終了した。	なし。
1	パラメタファイルがない、またはファイル形式が不正。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	パラメタファイルに不正な値が指定されている。	パラメタファイルの値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	パッケージの削除を実行する PC の設定内容または通信環境を確認してください。
5	クライアント、配布管理システム間の通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで、通信環境の設定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

4.18 dcmrmgen.exe (ジョブ定義の削除)

ジョブ定義を削除する dcmrmgen コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

パラメタファイルに指定されたジョブ定義を削除します。

(2) 形式

```
dcmrmgen.exe /i パラメタファイル名 [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/i

パラメタファイルのフルパスを指定してください。

dcminst コマンド (/s 指定あり) の結果出力ファイルを、パラメタファイルとして使用することもできます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容とコマンド引数との対応

このコマンドで使用するパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することもできます。パラメタファイルの指定内容と、コマンドの引数との対応を次の表に示します。

表 4-17 パラメタファイルとコマンドの引数の対応 (dcmrmgen コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
JOB_ATTRIBUTE	job_generator ¹	ジョブ名称	2	/j
	jobno	ジョブ番号	×	-
	job_folder	ジョブ格納フォルダパス	2	/f
	unsuspended	中断中の配布の有無	×	-

(凡例)

：必ず指定する ×：不要 (指定しても無視される)

-：コマンドの引数では指定できない

注 1

複数のジョブ名称を指定する場合は、ジョブ名称を「;」で区切ってください。

注 2

パラメタファイルの指定では、job_generator および job_folder のどちらかまたは両方を指定します。

job_generator および job_folder の両方が指定された場合は、指定したフォルダ下を検索し、最初に検出したジョブ定義を削除します。

job_generator だけを指定した場合は、ルートフォルダ下が検索対象となります。job_folder だけを指定した場合は、job_folder で指定したフォルダ下のすべてのジョブ定義を、フォルダごと削除します。

コマンド引数で指定する場合は、/j と /f の両方を指定する必要があります。

(5) パラメタファイルを使用しない場合のコマンド形式

パラメタファイルを指定しないで引数だけで指定する場合の、コマンドの形式を次に示します。

```
dcmrmgen.exe /j ジョブ名称 /f ジョブ格納フォルダパス [/LC {ON|OFF}]
```

「/j ジョブ名称」に複数のジョブ名称を指定する場合は、ジョブ名称を「;」で区切ってください。

/j (ジョブ名称) と /f (ジョブ格納フォルダパス) は必ず両方指定してください。両方を指定しないとエラーになります。

(6) リターンコード

dcmrmgen コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	ジョブが削除された、または指定されたジョブがない。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式が不正。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	パラメタファイルに不正な値が指定されている。	パラメタファイルの値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

4. コマンド

(7) 注意事項

ルートフォルダだけを指定して、すべてのジョブ格納フォルダとジョブ定義を一括して削除することはできません。

(8) 実行例

配布管理システムのフォルダ「バッチ定義」に保存されている「伝票ファイル0001収集」という名称のジョブを削除する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

削除するジョブ定義が保存されているフォルダ、およびジョブ名称をパラメタファイルに次のように定義し、任意の名称で保存します。

```
** dcmjexe Parameter File Sample

JOB_ATTRIBUTE{
job_generator= 伝票ファイル0001収集
job_folder= ¥バッチ定義
}
```

(b) コマンドの実行

パラメタファイルを C:¥Dmbat¥dcmjexe.txt に保存した場合、コマンドは次のように実行してください。

```
dcmrmgen.exe /i C:¥Dmbat¥dcmjexe.txt
```

4.19 dcmrtry.exe (ジョブの再実行)

ジョブを再実行する dcmrtry コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

配布管理システムで、パラメタファイルに指定されたジョブを再実行します。

(2) 形式

```
dcmrtry.exe [再実行対象キー]
             /i パラメタファイル名 /o 結果出力ファイル名
             [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

再実行対象キー

再実行するジョブの実行状態を指定します。キーは、コマンド名の直後に指定してください。

「ERROR」、「WAIT」、および「PENDING」は、任意に組み合わせて指定できます。組み合わせて指定する場合は、キーとキーの間をスペースで区切ってください。省略した場合は「ERROR」が仮定されます。

- ERROR
エラーになったジョブを再実行します。
- WAIT
実行待ちのジョブを再実行します。
- PENDING
一時的に通信エラーになったジョブを再実行します。

/i

パラメタファイルのフルパスを指定してください。

demcoll コマンド (/s 指定なし)、deminst コマンド (/s 指定なし)、dcmjexe コマンド、または dcmsusp コマンド (/s 指定なし) の結果出力ファイルを、パラメタファイルとして使用することもできます。

/o

結果出力ファイルのフルパスを指定してください。コマンドが正常終了すると、結果出力ファイルには指定したパラメタファイルと同じ内容が出力されます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON
Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。
- OFF
Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

4. コマンド

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容

dcmrtry コマンドでのパラメタファイルの指定内容を次の表に示します。このコマンドで使用するパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することはできません。

表 4-18 パラメタファイルの指定内容 (dcmrtry コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
JOB_ATTRIBUTE	job_generator	ジョブ名称	×	-
	jobno	ジョブ番号		-
	job_folder	ジョブ格納フォルダパス	×	-
	unsuspended	中断中の配布の有無	×	-

(凡例)

- : 必ず指定する × : 不要 (指定しても無視される)
- : コマンドの引数では指定できない

(5) リターンコード

dcmrtry コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	ジョブの再実行が開始された。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式が不正。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	パラメタファイルに不正な値が指定されている。	パラメタファイルの値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
4	結果出力ファイルをオープンできない。	結果出力ファイルの指定を確認してください。
5	クライアント、配布管理システム間の通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで、通信環境の設定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(6) 注意事項

パラメタファイルには、dcmcoll コマンド (/s 指定なし)、dcminst コマンド (/s 指定なし)、dcmjexe コマンド、または dcmsusp コマンド (/s 指定なし) の結果出力ファイルに出力されたジョブ番号を指定してください。

再実行するジョブのジョブ番号が不明な場合、dcmrtry コマンドは実行できません。配布管理システムの [ジョブ実行状況] ウィンドウで、該当するジョブ名のジョブを再実行してください。

(7) 実行例

dcminst コマンドで実行したジョブのうち、実行待ちまたはエラーになったジョブを再実行する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

dcminst コマンドの結果出力ファイルに出力されたジョブ番号を、次のようにパラメタファイルに指定します。

なお、dcminst コマンドの結果出力ファイルが保存されている場合は、このファイルをパラメタファイルとして指定できます。

```
JOB_ATTRIBUTE{
job_generator= NETM_INSTALL_2003_12_11_13_34_36
jobno= JB03121113315383
job_folder= ¥
}
```

(b) コマンドの実行

dcminst コマンドを実行したときの、結果出力ファイルが C:¥Dmbat¥out.txt に保存されている場合、コマンドは次のように指定してください。

```
dcmrtry.exe WAIT ERROR /i C:¥Dmbat¥out.txt /o C:¥temp¥retryout.txt
```

4.20 dcmstat.exe (ジョブの実行状況の取得)

ジョブの実行結果を取得する dcmstat コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

配布管理システムで、パラメタファイルに指定されたジョブの実行状態を取得します。ジョブの実行状況は、リターンコードで判別します。

ジョブの実行状態	リターンコード
ジョブがすべて正常終了した。	0
一部のジョブがエラーとなった。	30
ジョブは実行中。	31
ジョブは実行中で、一部のジョブがエラーとなっている。	32
ジョブは削除中で、一部のジョブが削除完了待ちとなっている。	33

JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで、ジョブの実行状態を指定して、その実行状態にあるホストの数を調べます。リターンコードの値から 10,000 を引いた値が、指定した実行状態にあるホストの数です。

(2) 形式

dcmstat.exe [ジョブ実行状態] /i パラメタファイル名 [/LC {ON|OFF}]

(3) 引数

ジョブ実行状態

特定の実行状態にあるホストの数を調べる場合に、ジョブの実行状態を指定します。下記の引数の中から一つ以上を、コマンド名の直後に指定してください。指定したジョブ実行状態にあるホストの総数に 10,000 を足した数がリターンコードとして返ります。この引数はローカルホスト上の配布管理システムだけで指定できます。JP1/NETM/DM Client (中継システム) の場合にジョブ実行状態を指定すると、エラーとなり、リターンコード 3 が返ります。

指定できるジョブ実行状態を次の表に示します。

ジョブ実行状態	説明
TRANS_WAIT	配布管理システムで転送待ち状態。
TRANSMITTED	クライアントへ転送中または実行中。
REGISTERED	ID ジョブを ID 管理中継へ転送中。
CLT_NOTREADY	起動に失敗した。
CLT_SERVICE_OFF	JP1/NETM/DM が停止しているため、起動に失敗した。
CLT_POWER_OFF	PC の電源がオフのため、起動が失敗した。
CLT_NETWORK_ERR	ネットワーク障害などの理由のため、起動が失敗した。
SUSPENDED	中継で中断指示があった。
INST_WAIT	インストールまたは収集待ち。
HOLD_EXEC	ジョブが保留された。
REJECTED	インストールが拒否された。

ジョブ実行状態	説明
ID_NOPKG	ID ジョブで中継保管パッケージが削除された。
CANCEL	クライアントでジョブがキャンセルされた。
CONNECT_ERROR	通信エラーが発生した。
ERROR	ジョブ実行エラーが発生した。
DELETING	中継するシステムまたはクライアントでジョブを削除中。

注

JP1/NETM/DM Manager のセットアップで、[サーバカスタマイズオプション] パネルの「起動失敗要因を細分化する」チェックボックスがオンの場合に指定できます。ただし、「CLT_NOTREADY」と同時に指定しても無視されます。

なお、チェックボックスがオフの場合は、これらの引数を指定しても、ホストの総数にカウントされません。ジョブ実行状態を指定しなかった場合は、パラメタファイルで指定したジョブの実行状態を調べ、実行状態に対応するリターンコード (0 ~ 33) を返します。

/i

パラメタファイルのフルパスを指定してください。

demcoll コマンド (/s 指定なし)、deminst コマンド (/s 指定なし)、dcmjexe コマンド、または demsusp コマンド (/s 指定なし) の結果出力ファイルを、パラメタファイルとして使用することもできます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

• ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

• OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」
- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合
マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

4. コマンド

(4) パラメタファイルの指定内容

demstat コマンドでのパラメタファイルの指定内容を次の表に示します。このコマンドで使用するパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することはできません。

表 4-19 パラメタファイルの指定内容 (demstat コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
JOB_ATTRIBUTE	job_generator	ジョブ名称	x	-
	jobno	ジョブ番号		-
	job_folder	ジョブ格納フォルダパス		-
	unsuspended	中断中の配布の有無	x	-

(凡例)

: 必ず指定する : 省略できる x : 不要 (指定しても無視される)
 - : コマンドの引数では指定できない

注

省略した場合は、ルートフォルダ以下のすべてのフォルダまたはファイルを検索して、ジョブの実行状況を表示します。

(5) リターンコード

demstat コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	ジョブがすべて正常終了した。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式が不正。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	パラメタファイルに不正な値が指定されている。	パラメタファイルの値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。または、JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行状態を指定した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。実行状態を指定した場合は、配布管理システムが JP1/NETM/DM Manager かどうか確認してください。
5	クライアント、配布管理システム間の通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで、通信環境の設定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。
30	少なくとも一部のジョブがエラーになった。	なし。
31	ジョブは実行中で、エラーのジョブは検知されていない。	なし。
32	ジョブは実行中で、一部のジョブがエラーとなっている。	なし。
33	ジョブは削除中で、一部のジョブが削除完了待ちとなっている。	なし。

また、ジョブの実行状態を指定した場合は、指定したジョブの実行状態にあるホストの総数 +10,000 がリターンコードとして返ります。

JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(6) 注意事項

パラメタファイルには、dcmcoll コマンド (/s 指定なし)、dcminst コマンド (/s 指定なし)、dcmjexe コマンド、または dcmsusp コマンド (/s 指定なし) の結果出力ファイルに出力されたジョブ番号を指定してください。

実行状況を取得するジョブのジョブ番号が不明な場合、dcmstat コマンドは実行できません。配布管理システムの [ジョブ実行状況] ウィンドウで、該当するジョブ名の実行状況を確認してください。

(7) 実行例

dcmjexe コマンドで実行した「伝票ファイル 0001 収集」ジョブの実行状況を取得する例を次に示します。

(a) パラメタファイルの作成

dcmjexe コマンドの結果出力ファイルに出力されたジョブ番号を、次のようにパラメタファイルに指定します。

なお、dcmjexe コマンドの結果出力ファイルが保存されていれば、このファイルをパラメタファイルとして指定できます。

```
** dcmjexe output -> dcmstat input

JOB_ATTRIBUTE{
job_generator= 伝票ファイル0001収集
jobno= JB03121113315383
job_folder= ¥バッチ定義
}
```

(b) コマンドの実行

dcmjexe コマンドを実行したときの結果出力ファイルが、C:¥Dmbat¥out.txt に保存されている場合、次のようにコマンドを指定してください。

```
dcmstat.exe /i C:¥Dmbat¥out.txt
```

dcmstat コマンドを実行すると、特定の状態のホスト数を調査できます。例えば、起動失敗のホスト数、および中断指示があったホスト数を調べる場合は、次のように指定してください。

```
dcmstat.exe CLT_NOTREADY SUSPENDED /i C:¥Dmbat¥out.txt
```

4.21 dcmstdiv.exe (オフラインマシン情報の入力)

オフラインマシン情報を入力する dcmstdiv コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

オフラインマシンで取得したオフラインマシン情報ファイルを、配布管理システムに入力します。

(2) 形式

```
dcmstdiv.exe /d オフラインマシン情報ファイル格納ディレクトリ
              [/o 結果出力ファイル名]
```

(3) 引数

/d

オフラインマシン情報ファイルが格納されているディレクトリのフルパスを指定します。ここで指定したディレクトリ内のオフラインマシン情報ファイルの内容が、配布管理システムに入力されます。

/o

結果出力ファイルのフルパスを指定します。指定した結果出力ファイルに実行結果が、オフラインマシン情報ファイルごとに出力されます。省略した場合、結果出力ファイルは作成されません。

(4) リターンコード

dcmstdiv コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	正常終了した。	なし。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムの稼働状態を確認してください。
4	結果出力ファイルをオープンできない。	結果出力ファイルの指定を確認してください。
5	配布管理システムとの接続中にエラーが発生した。	配布管理システムの稼働状態を確認してください。
7	オフラインマシン情報ファイル格納ディレクトリに指定したディレクトリが存在しない、またはアクセス権がない。	指定したパスを確認してください。
11	オフラインマシン情報ファイルが存在しない。	指定したパスを確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。
15	入力がスキップされたオフラインマシン情報ファイルが存在した。	結果出力ファイルおよびイベントログを参照してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(5) 注意事項

同じオフラインマシンのオフラインマシン情報ファイルが複数ある場合、ファイル名の昇順で配布管理システムに入力されるため、最新の情報を古い情報で書き換えてしまうおそれがあります。これを防ぐため、ファイル名に取得日時などを付与してください。

オフラインマシンをオンラインにする場合や、dcmstdiv コマンドを再実行する場合は、入力済みの情

報が配布管理システムに入力されることを防ぐため、入力が完了したオフラインマシン情報ファイルを削除してください。

dcmstdiv コマンドの実行中は、引数 /d に指定したディレクトリにアクセスしないでください。

(6) 実行例

A:¥ フォルダ下に保存されているオフラインマシン情報ファイルを読み込んで、JP1/NETM/DM に入力する例を次に示します。

```
dcmstdiv.exe /d A:¥ /o C:¥Dmbat¥out.txt
```

4.22 dcmstsw.exe (ジョブの実行状況の監視)

ジョブの実行状況を監視する dcmstsw コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

配布管理システムで、パラメタファイルまたはコマンドラインに指定されたジョブの実行状況を監視し、指定された実行状況になった場合に、外部プログラムを起動します。

(2) 形式

```
dcmstsw.exe [監視時間間隔] [監視条件] /i パラメタファイル名
            [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

監視時間間隔

ジョブの実行状況を監視する間隔を、秒単位で指定してください。省略した場合は、900 秒 (15 分) が仮定されます。

監視条件

外部プログラムを起動するタイミングを指定します。

- 「ALL」を指定すると、すべてのあて先が指定の実行状況になった場合に、外部プログラムを起動します。
- 指定を省略すると、一つ以上のあて先が指定の実行状況になった場合に、外部プログラムを起動します。

/i

パラメタファイルのフルパスを指定してください。

demcoll コマンド (/s 指定なし)、deminst コマンド (/s 指定なし)、および dcmjexe コマンドの結果出力ファイルを、パラメタファイルとして使用することもできます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON
Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。
- OFF
Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、次の個所を参照してください。

- JP1/NETM/DM Manager で実行する場合

マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」

- JP1/NETM/DM Client (中継システム) で実行する場合

マニュアル「構築ガイド」の「5.4 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Client (中継システム))」

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容とコマンド引数との対応

このコマンドで使用できるパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することもできます。パラメタファイルの指定内容と、コマンドの引数との対応を次の表に示します。

表 4-20 パラメタファイルとコマンドの引数の対応 (dcmstsw コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
JOB_ATTRIBUTE	job_generator	ジョブ名称	×	-
	jobno	ジョブ番号		/jn 値
	job_folder	ジョブ格納フォルダパス	1	/l 値
	unsuspended	中断中の配布の有無	×	-
USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS	external_program_executed_before_installation	インストール (収集) 前起動外部プログラム	×	-
	external_program_executed_after_installation	インストール (収集) 後起動外部プログラム	×	-
	external_program_error_handler	インストールエラー時起動外部プログラム	×	-
	external_program_handler	起動外部プログラム		/ep 値
	exit	外部プログラム処理結果の通知方式	×	-
	action	処理結果エラー時の取り扱い	×	-
	wait	監視方式	×	-
	timeout	最大実行期間	2	/wt 値
	wait_code	監視コード	3	/wc 値

(凡例)

：必ず指定する ：省略できる ×：不要 (指定しても無視される)
-：コマンドの引数では指定できない

注 1

省略した場合は、ルートフォルダ以下のすべてのフォルダまたはファイルを検索して、ジョブの実行状況を監視します。

注 2

監視時間間隔より大きな値を指定してください。省略した場合は、86,400 秒 (1 日) が仮定されます。

注 3

「ジョブ実行状態」または「保守コード」を指定します。ただし、ジョブ実行状態は、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムの場合だけ指定できます。JP1/NETM/DM Client (中継システム) の場合にジョブ実行状態を指

4. コマンド

定すると、エラーとなり、リターンコード 3 を返します。
指定する値の詳細は、「4.26.21 USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS (外部プログラムの指定)」を参照してください。

JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムの場合は、このパラメタの指定を省略できます。省略すると、ジョブ実行エラーの発生を契機に外部プログラムを実行します。

JP1/NETM/DM Client (中継システム) の配布管理システムの場合は省略できません。

(5) パラメタファイルを使用しない場合のコマンド形式

パラメタファイルを使用しないで引数だけで指定する場合の、コマンドの形式を次に示します。

```
dcmstsw.exe [監視時間間隔] [監視条件]
            /jn ジョブ番号 [/l ジョブ格納フォルダパス]
            /ep 起動外部プログラム [/wt 最大実行期間] [/wc 監視コード]
            [/LC {ON|OFF}]
```

(6) リターンコード

dcmstsw コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	正常終了した。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式が不正。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。JP1/NETM/DM Client (中継システム) で監視コードに実行状態を指定した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。監視コードに実行状態を指定した場合は、配布管理システムが JP1/NETM/DM Manager かどうか確認してください。
4	指定された外部プログラムが存在しない。	外部プログラムのパスを確認してください。
5	最大実行期間が経過した。ジョブは終了していない。	ジョブの実行状況を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。システムエラー、コマンドの引数の文法不正、処理が拒否されたなどの原因が考えられます。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(7) 注意事項

パラメタファイルまたはコマンドの引数には、dcmcoll コマンド (/s 指定なし)、dcminst コマンド (/s 指定なし)、または dcmjexe コマンドの結果出力ファイルに出力されたジョブ番号を指定してください。

このコマンドの終了条件は以下のとおりです。

- 外部プログラムを起動したとき
- 最大実行期間に指定した時間を超過したとき
- 監視コードに「NORMAL」以外を指定した場合で、監視しているジョブがすべて正常終了したとき
- 監視しているジョブが削除されたとき
- 配布管理システムが停止したとき

監視するジョブに ID ジョブまたは全あて先ジョブを指定した場合は、監視条件に「ALL」を指定しないでください。「ALL」を指定すると、リターンコード「2」のエラーとなります。

(8) 実行例

ローカルの配布管理システムで実行したジョブすべてが正常終了した際に、外部プログラム「C:¥aaa.exe」を実行する例を次に示します。なお、コマンドの監視時間間隔は5分、最大実行期間は1時間とします。

(a) パラメタファイルの作成

dcmjexe コマンドの結果出力ファイルに出力されたジョブ番号を、次のようにパラメタファイルに指定します。

なお、dcmjexe コマンドの結果出力ファイルが保存されていれば、このファイルをパラメタファイルとして指定できます。

```
** dcmstsw Parameter File Sample
```

```
JOB_ATTRIBUTE{  
job_generator= 伝票ファイル0001収集  
jobno= JB02100720481602  
job_folder= ¥バッチ定義  
}
```

(b) コマンドの実行

dcmjexe コマンドを実行した時の結果出力ファイルが、C:¥DMbat¥para¥.txt に保存されている場合、次のようにコマンドを指定してください。

```
dcmstsw.exe 300 ALL /i C:¥DMbat¥para.txt /ep C:¥aaa.exe /wt 3600 /wc NORMAL
```

4.23 dcmsusp.exe (ファイル転送の中断と再開)

ファイル転送を中断または再開する dcmsusp コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで実行できます。

(1) 機能

ローカルホスト上の配布管理システムに接続し、指定した中継するシステムとその直下のシステム間のファイル転送を中断、再開します。また、接続先の配布管理システムとその直下のシステム間のファイル転送を中断、再開します。

(2) 形式

```
dcmsusp.exe [処理キー] [/s] /i パラメタファイル1 [パラメタファイル2]
           [/o 結果出力ファイル名] [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

処理キー

実行する処理の種類を指定するキーです。コマンド名の直後に、次に示す四つの処理キーのうち一つを指定してください。省略した場合は、「NETM_SUSPEND」が仮定されます。

• NETM_SUSPEND

「ファイル転送の中断」ジョブを実行します。指定した中継するシステムとその直下のシステム間のファイル転送を中断します。パラメタファイル（またはコマンドの引数）で、ジョブのあて先（中継システムのクライアント機能）を指定してください。

• NETM_RESUME

「ファイル転送の再開」ジョブを実行します。指定した中継するシステムとその直下のシステム間のファイル転送を再開します。パラメタファイル（またはコマンドの引数）で、ジョブのあて先（中継システムのクライアント機能）を指定してください。

• NETM_MANSUSP

接続先の配布管理システムとその直下のシステム間のファイル転送を中断します。この処理キーを指定した場合、処理キー以外の引数はすべて無視します。

• NETM_MANRESU

接続先の配布管理システムとその直下のシステム間のファイル転送を再開します。この処理キーを指定した場合、処理キー以外の引数はすべて無視します。

/s

ジョブを作成後、実行しないで保存します。処理キーが「NETM_MANSUSP」または「NETM_MANRESU」の場合は、指定しても無視されます。

ジョブの登録日時、実行日時、および実行期限を指定した場合は、これらのスケジュールも保存します。

/i

使用するパラメタファイルのフルパスを、一つまたは二つ指定します。二つ指定する場合は間をスペースで区切ってください。三つ以上指定するとコマンドは失敗します。

/o

結果出力ファイルのフルパスを指定します。処理キーが「NETM_SUSPEND」または「NETM_RESUME」の場合は、必ず指定してください。処理キーが「NETM_MANSUSP」または「NETM_MANRESU」の場合は、指定しても無視されます。

「NETM_SUSPEND」または「NETM_RESUME」を指定した場合、コマンドが正常終了すると、指定した結果出力ファイルに次の項目が出力されます。結果出力ファイルがすでに存在する場合は上書きされます。

- ジョブ名称
- ジョブ番号
- ジョブ格納フォルダパス

/s を指定した場合の結果出力ファイルは、dcmjexe コマンドのパラメタファイルとして使用することもできます。また、/s を指定しなかった場合の結果出力ファイルは、dcmjbrm コマンド、dcmrtry コマンド、および demstat コマンドのパラメタファイルとして使用することもできます。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」を参照してください。

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) パラメタファイルの指定内容とコマンド引数との対応

このコマンドで使用できるパラメタファイルの内容は、コマンドの引数で指定することもできます。パラメタファイルの指定内容と、コマンドの引数との対応を次の表に示します。

表 4-21 パラメタファイルとコマンドの引数の対応 (dcmsusp コマンド)

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの引数
タグ	パラメタ			
JOB_ATTRIBUTE	job_generator	ジョブ名称	1	/j 値
	jobno	ジョブ番号	x	-
	job_folder	ジョブ格納フォルダパス		/l 値
	unsuspended	中断中の配布の有無	x	-
JOB_DESTINATION	group	あて先グループ名	2	/g 値
	host_name	ホスト名	2	/h 値
	lower_clients	すべてのあて先指定の有無	x	-
JOB_DESTINATION_ID	destination_id	ID 名	2	/X 値

4. コマンド

パラメタファイルの指定内容		内容	指定の有無	コマンドの 引数
タグ	パラメタ			
JOB_SCHEDULE	job_entry_date	ジョブの登録日時		/jst 値
	job_execution_date	ジョブの実行日時		/jsx 値
	job_expiration_date	ジョブの実行期限		/jsp 値

(凡例)

○ : 必ず指定する △ : 省略できる × : 不要 (指定しても無視される)

- : コマンドの引数では指定できない

注 1

job_generator (または /j) の指定を省略した場合、ジョブ名称として「処理キー + ジョブの実行日時」が自動的に設定されます。このため、同じ処理キーのコマンドを同時に複数実行すると、ジョブ名称が重複しジョブが正しく実行されないことがあります。同じ処理キーのコマンドを同時に複数実行する場合は、job_generator (または /j) で、異なるジョブ名称を指定することをお勧めします。

注 2

JOB_DESTINATION と JOB_DESTINATION_ID、/g および /h と /X は、同時に指定できません。どちらかを必ず指定してください。group と host_name (/g と /h) は片方だけでも、両方同時に指定してもかまいません。

(5) リターンコード

dem susp コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	配布管理システムがジョブを開始した。または、配布管理システム自身の中断状態を変更した。	なし。
1	パラメタファイルをオープンできない、またはファイル形式に誤りがある。	パラメタファイルの指定または記述形式を確認してください。
2	コマンドの引数またはパラメタファイルに不正な値が設定されている。	コマンドの引数またはパラメタファイルの設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続でエラーが発生した。	配布管理システムのバージョンを確認してください。
4	結果出力ファイルをオープンできない。	結果出力ファイルの指定を確認してください。
5	クライアント、配布管理システム間の通信に失敗した。	配布管理システムのセットアップで、通信環境の設定を確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。 システムエラー、コマンドの引数の文法不正、または接続先配布管理システムに定義されていない値がパラメタファイルに指定され処理が拒否された、などの原因が考えられます。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(6) 注意事項

JOB_DESTINATION タグの host_name またはコマンド引数の /h の指定時には、次のことに注意してください。

ホスト識別子を使用している環境で、host_name または /h に、ホスト名または IP アドレスを指定した場合は、指定したホスト名または IP アドレスをホスト識別子に引き当ててジョブが実行されます。

host_name または /h に指定した、ホスト名または IP アドレスのノードがシステム構成に存在しない場

合は、指定されたあて先名称でジョブが実行されます。この場合、ジョブが正常終了してもシステム構成にあて先ノードが存在しないため、リモートインストールマネージャなどであて先ノードの中断状態を確認することはできません。

host_name または /h に指定したホスト名または IP アドレスのノードがシステム構成に複数存在する（ホスト識別子の異なる同名ノードが存在する）場合は、該当するすべての中継するシステムに対してジョブが実行されます。同名ノードの一部に対してジョブを実行したい場合は、実行したいあて先をあて先グループとして登録し、そのあて先グループに対してジョブを実行してください。

JOB_ATTRIBUTE タグの job_folder またはコマンド引数の /l の指定時には、次のことに注意してください。

ジョブ格納フォルダパスに [ジョブ定義] ウィンドウで定義されていないフォルダを指定してコマンドを実行した場合、指定されたフォルダが作成されます。作成されたジョブ格納フォルダは、実行後も削除されずに残ります。使用しない場合は、ジョブが完了したら削除してください。

4.24 dcmuidi.exe (ユーザインベントリの一括入力)

CSV 形式ファイルから配布管理システムに複数のユーザインベントリを一括して入力する dcmuidi コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで実行できます。なお、このコマンドでは、パラメタファイルを使用しません。

(1) 機能

ローカルホスト上の配布管理システムに接続し、CSV 形式ファイルで作成した複数のユーザインベントリを一括して入力します。

入力するユーザインベントリは、CSV 出力ユティリティまたは dcmcsvu コマンドで、「ユーザ資産情報」テンプレートを使って出力した CSV 形式ファイルを編集して作成してください。ファイル形式は、「ユーザ資産情報」テンプレートと同じになります。

CSV 形式ファイルの例を次に示します。

```
"ホスト名称","IPアドレス","ホスト識別子","従業員番号","名前","資産番号"
"dmp491","192.168.24.11","#G5H8EURFJ1C54T5CTPPR9MJ1CG","A00001","日立太郎","R11403"
"dmp492","192.168.24.12","#GJ4M9NNNIEVD4380T8F67NJD4HK","A00002","日立花子","7AC004"
```

コマンドを実行すると、あて先を識別する運用キーとして使用しているホスト名、IP アドレス、またはホスト識別子のどれかをキーとして、既存のユーザインベントリと CSV 形式ファイルの内容が比較され、既存のユーザインベントリと一致したホストのユーザインベントリだけが入力されます。

したがって、配布管理システムのシステム構成に登録されていないホストのユーザインベントリを新規に入力することはできません。

(2) 形式

```
dcmuidi.exe /if 入力用のCSV形式ファイル名 [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/if

入力用の CSV 形式ファイル名のフルパスを指定してください。

/LC

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるた

め、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」を参照してください。

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) リターンコード

demuidi コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	正常終了した。該当するホストが存在しなかった。またはユーザインベントリに変更がなかった。	なし。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	配布管理システムへの接続またはアクセス時にエラーが発生した。	配布管理システム、データベースサーバが動作しているか、またはその設定に誤りがないか確認してください。
4	入力用の CSV 形式ファイルのオープンエラーが発生した。	ファイルのパスを確認してください。
12	そのほかのエラーが発生した。	イベントログを参照してください。システムエラー、入力用の CSV 形式ファイルに不正なデータが指定された、または処理が拒否されたなどが考えられます。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(5) 注意事項

demuidi コマンドを使って CSV 形式ファイルからユーザインベントリを入力するときの注意事項を次に示します。

demuidi コマンドを使って CSV 形式ファイルからユーザインベントリを一括入力する前に、実行中の「システム情報の取得」ジョブがないことを確認してください。「システム情報の取得」ジョブの実行中にユーザインベントリを一括入力すると、「システム情報の取得」ジョブで取得した情報がデータベースに反映されることがあります。

配布管理システムでユーザインベントリを一括入力した場合、クライアントの情報も合わせて更新してください。クライアントの情報を更新しないと、「システム情報の取得」ジョブが実行されたとき、クライアントから収集した情報がデータベースに反映されてしまいます。

CSV 形式ファイルの入力時、次の事項はチェックされません。

- 「選択入力」項目の場合、入力した値が選択項目に含まれていること。
- テキスト入力できる文字を限定している項目の場合、入力を許可されていない文字が含まれていないこと。
- 必須入力項目の場合、値が入力されていること。
- 階層化された項目の場合、上位項目の選択項目と下位項目の選択項目が、正しく関連づけられていること。

不適当な値を入力して、クライアント側に転送した場合、クライアントユーザがユーザ情報を入力するとき、その項目は空欄になっています。階層化された項目の場合、上位項目に不適当な値が入力されて

4. コマンド

いたとき、下位項目もすべて空欄になります。

CSV 形式ファイルから不要な情報を削除する場合は、行単位（クライアント単位）で削除してください。また、ホスト名称、IP アドレス、ホスト識別子の列（項目）を削除すると、エラーとなります。

(6) 実行例

入力用の CSV 形式ファイルを C:¥temp フォルダ下に保存した場合、次のように指定します。

```
dcmuidi.exe /if C:¥temp¥dcmuidi.csv
```

4.25 dcmwsus.exe (WSUS の同期実行)

階層化した WSUS と連携している環境で、最上位の WSUS と下位の WSUS を同期させる dcmwsus コマンドについて説明します。このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムで実行できます。なお、このコマンドでは、パラメタファイルを使用しません。

(1) 機能

このコマンドには、次の三つの機能があります。

WSUS を同期させる

JP1/NETM/DM が接続する最上位の WSUS から、WSUS コンピュータグループの構成と更新プログラムの承認状態を、指定した下位の WSUS にコピーします。ただし、WSUS コンピュータグループにはクライアントは登録されません。

また、同期実行時には、最上位の WSUS でダウンロードされた更新プログラムも、下位の WSUS に転送されます。

WSUS コンピュータグループにクライアントを登録する

下位の WSUS で、指定したあて先グループと同名の WSUS コンピュータグループにクライアントを登録します。指定したあて先グループに含まれるクライアントの内、コマンドが実行された WSUS サーバで管理しているクライアントだけが、WSUS コンピュータグループに登録されます。

最上位の WSUS に対してこの機能のコマンドを実行した場合、指定したあて先グループと同名の WSUS コンピュータグループが作成されます。指定したあて先グループに、最上位の WSUS サーバで管理するクライアントが含まれている場合は、作成された WSUS コンピュータグループに登録されます。

WSUS コンピュータグループに登録されたクライアントの一覧を出力する

指定した WSUS コンピュータグループに登録されているクライアントの一覧を、指定したファイルに出力します。

(2) 形式

WSUS を同期させる場合

```
dcmwsus.exe SYNCHRONIZE /w WSUSサーバのURL
                        /o 実行結果の出力ファイルのフルパス
                        [/u ユーザ名][/p パスワード]
                        [/LC {ON|OFF}]
```

WSUS コンピュータグループにクライアントを登録する場合

```
dcmwsus.exe GROUP_CREATE /w WSUSサーバのURL
                          /g あて先グループ名
                          /o 実行結果の出力ファイルのフルパス
                          [/u ユーザ名][/p パスワード]
                          [/LC {ON|OFF}]
```

WSUS コンピュータグループに登録されたクライアントの一覧を出力する場合

```
dcmwsus.exe CLIENT_LIST /w WSUSサーバのURL
                          /g WSUSコンピュータグループ名
                          /o 実行結果の出力ファイルのフルパス
                          [/u ユーザ名][/p パスワード]
                          [/LC {ON|OFF}]
```

(3) 引数

/w

4. コマンド

コマンドの実行対象となる WSUS サーバの URL を 127 文字以内で指定します。指定する URL の形式を次に示します。

`http://WSUS サーバ名[: ポート番号]/ 仮想ディレクトリ名`

`/o`

コマンドの実行結果を出力するファイルのフルパスを指定します。

`/u`

WSUS サーバへの接続時に認証が必要な場合に、ユーザ名を指定します。

`/p`

WSUS サーバへの接続時に認証が必要な場合に、パスワードを指定します。

`/g`

WSUS コンピュータグループにクライアントを登録する場合は、対象となる WSUS コンピュータグループと同名のあて先グループ名を指定します。

クライアントの一覧を出力する場合は、対象となる WSUS コンピュータグループ名を指定してください。

なお、WSUS コンピュータグループにクライアントを登録する場合は、「すべてのコンピュータ」および「割り当てられていないコンピュータ」は指定できません。これらはデフォルトで WSUS に存在するコンピュータグループです。

`/LC`

タスクスケジューラや JP1/AJS を使用してコマンドをバックグラウンドサービスとして実行している場合に Windows をログオフしても、コマンド処理を継続するかどうかを「ON」または「OFF」で指定します。

- ON

Windows をログオフしても、コマンド処理を継続します。

- OFF

Windows をログオフすると、コマンド処理を強制終了します。

この引数は、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合に、有効となります。

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合は、フォアグラウンドプログラムとして実行されるため、「/LC ON」を指定しないでください。

Windows をログオフしてもコマンド処理を継続するかどうかは、レジストリでも設定できます。レジストリでの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」を参照してください。

なお、/LC での指定と、レジストリでの設定の組み合わせで、動作が異なります。詳細については、「4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作」を参照してください。

(4) 注意事項

`/w` オプションで指定した WSUS サーバに接続して、[WSUS コンピュータグループの作成] ダイアログボックスおよび [更新プログラムの承認設定] ダイアログボックスを操作しているときは、その WSUS に対して `dcmwsus` コマンドによる同期とクライアントの登録は実行できません。

`dcmwsus` コマンドが実行中の WSUS に対しては、`dcmwsus` コマンドによる同期とクライアントの登

録は実行できません。

WSUS サーバでは、WSUS コンピュータグループ名の全角と半角、およびひらがなとかたかなの違いが区別されないことがあります（例：「ぐるーぷ」（ひらがな）と「グループ」（全角かたかな）が同じグループ名として扱われてしまう）。そのため、このような組み合わせとなる、あて先グループと WSUS コンピュータグループがある場合、その WSUS コンピュータグループへのクライアントの登録は実行されません。

下位の WSUS に対して GROUP_CREATE を指定して dcmwsus コマンドを実行する場合、事前に SYNCHRONIZE を指定した dcmwsus コマンドを実行して、最上位の WSUS との同期を実行しておいてください。

同期を実行しても下位の WSUS に WSUS コンピュータグループが作成されない場合は、最上位の WSUS の障害やネットワーク障害などが発生しているおそれがあります。次の点を確認して、対処してください。

- 最上位の WSUS サーバの起動状態
- 最上位の WSUS サーバでの障害の有無
- 下位の WSUS での上位 WSUS の指定
- WSUS サーバ間のネットワークの状態

最上位の WSUS から転送されていない更新プログラムが蓄積しないように、WSUS の同期は定期的に行ってください。

上位サーバからダウンロードされていない更新プログラムが大量にあると、同期実行時に大量の更新プログラムがダウンロードされ、コマンドの完了に時間が掛かるおそれがあります。

同期の実行中に再度同期を実行した場合、コマンドは正常終了しますが、同期を実行したタイミングによっては、WSUS コンピュータグループの構成と、更新プログラムの承認設定がコピーされないことがあります。

(5) リターンコード

dcmwsus コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

コード	意味	対処
0	正常終了した。	なし。
2	コマンドの引数に不正な値が指定されている。	コマンドの引数の設定値を確認してください。
3	指定した WSUS サーバ（WSUS 連携機能）に接続できなかった。	WSUS サーバおよび WSUS 連携機能の状態に問題がないか、次の点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • WSUS サーバの URL に誤りがないか • WSUS サーバの起動状態は問題ないか • WSUS サーバに障害は発生していないか • 「WSUS 連携機能」がインストールされているか • Microsoft .Net Frameworks の設定は正しいか • Microsoft .Net Frameworks のバージョンは正しいか • WSUS サーバ間のネットワークの状態は正常か
4	結果出力ファイルをオープンできない。	結果出力ファイルの指定を確認してください。
5	処理中に WSUS サーバ（WSUS 連携機能）との通信エラーが発生した。	WSUS サーバの状態に問題がないか、次の点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • WSUS サーバの起動状態は問題ないか • WSUS サーバに障害は発生していないか • WSUS サーバ間のネットワークの状態は正常か

4. コマンド

コード	意味	対処
6	指定したグループが存在しない、または使用できない文字が含まれている、もしくは指定できる文字数の最大長を超えている。	引数に指定したグループ名を確認してください。
7	コンピュータグループが作成されていない。	最上位の WSUS に、WSUS コンピュータグループが作成されているかを確認してください。作成されている場合は同期を実行してください。作成されていない場合は、最上位の WSUS に WSUS コンピュータグループを作成したあと、同期を実行してください。その後、しばらく待ってからコマンドを再実行してください。
8	WSUS サーバでエラーが発生した。	結果出力ファイルを参照してください。
12	その他のエラーが発生した。	イベントログを参照してください。
13	ユーザ名またはパスワードに誤りがある。	ユーザ名またはパスワードの指定を確認してください。
15	ほかのプロセスが WSUS サーバに対して処理を実行中。	しばらく待ってからコマンドを再実行してください。

また、JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合は、「1.3.3 コマンドを実行するための設定」も合わせて参照してください。

(6) 実行例

WSUS を同期させる場合、WSUS コンピュータグループにクライアントを登録する場合、および WSUS コンピュータグループに登録されたクライアントの一覧を出力する場合の実行例を次に示します。

WSUS を同期させる場合

```
dcmwsus.exe SYNCHRONIZE /w http://wssrv001:80/netmWS /o C:¥temp¥wsussync.txt
```

WSUS コンピュータグループにクライアントを登録する場合

```
dcmwsus.exe GROUP_CREATE /w http://wssrv001:80/netmWS /g グループ1 /o C:¥temp¥wsuscreate.txt
```

WSUS コンピュータグループに登録されたクライアントの一覧を出力する場合

```
dcmwsus.exe CLIENT_LIST /w http://wssrv001:80/netmWS /o C:¥temp¥wsuscltlist.txt
```

4.26 パラメタファイルの作成

パラメタファイルには、コマンド実行時に必要な情報（配布するパッケージやあて先などの情報）を記述します。この情報をタグといいます。実行するコマンドの種類に応じて、必要なタグをパラメタファイルに記述する必要があります。

4.26.1 タグの種類

タグの種類および記述内容を次の表に示します。

表 4-22 タグの種類

項番	タグ	内容
1	FILE_COLLECTION	リモートコレクトするファイルの指定
2	FILE_PROPERTIES	ファイルアクセス権の復元の指定
3	INSTALLATION_METHOD	インストールモードの指定
4	JOB_ATTRIBUTE	ジョブの属性の設定
5	JOB_CLIENT_CONTROL	クライアント制御の指定
6	JOB_DESTINATION	ジョブのあて先（ホスト、あて先グループまたはディレクトリ情報）の指定
7	JOB_DESTINATION_ID	ジョブのあて先（ID）の指定
8	JOB_SCHEDULE	ジョブのスケジュールの指定
9	JOB_SPLIT_DELIVERY	パッケージの分割配布の指定
10	OPTION	オプションの指定
11	OUTPUT_CONSTRAINTS	出力する情報の設定
12	PACKAGING_INFORMATION	パッケージ属性情報の設定
13	PACKAGING_SOURCE	パッケージングするファイルの指定
14	SCHEDULE	リモートインストール、リモートコレクトのスケジュールの指定
15	SCRIPTS	インストールスクリプトの指定
16	SOFTWARE_CONDITIONS	ソフトウェア条件の指定
17	SYSTEM_CONDITIONS	システム条件の指定
18	USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS	外部プログラムの指定

4.26.2 パラメタファイルの形式

パラメタファイルには、複数のタグを記述できます。パラメタファイルの形式を次の図に示します。

図 4-5 パラメタファイルの形式

```

△タグ1△{△改行コード※1
△パラメタ△=△値△改行コード
      :
△パラメタ△=△値△改行コード※2
△}改行コード

△タグ2△{△改行コード※1
△パラメタ△=△値△改行コード
      :
△パラメタ△=△値△改行コード※2
△}改行コード
      :

```

(凡例) △: 0個以上のスペースを示します。

注※1 この改行コードは { の前にも記述できます。

注※2 この改行コードは省略できます。

タグは、複数のステートメントで構成されます。ステートメントとは、左辺に各設定情報を表すパラメタを記述し、右辺に対応する設定値を記述したものです。

パラメタファイル作成の規則、および注意事項を次に示します。

- 1行に複数のステートメントを記述できません。
- 1ステートメントを複数行にわたって記述できません。
- 「{」および「}」は、データの区切り文字として扱われるため、それ以外の記述に使用しないでください。
- 1行の長さは4,096バイト以下です。
- コメントを記述する場合は、コメントの先頭に「*」を付けてください。空行、コメントだけの行は無視されます。
- タグの名称は大文字の英字および「_」で記述してください。また、パラメタの名称は小文字の英字および「_」で記述してください。
- 一つのパラメタファイルに、順不同に必要なタグを記述できます。ただし、同じ名称のタグを二つ以上記述するとファイル形式のエラー（リターンコード「1」）となります。
- JOB_DESTINATION タグと JOB_DESTINATION_ID タグは同時に指定できません。
- SCRIPTS タグを指定した場合、dcmpack コマンドは、SOFTWARE_CONDITIONS タグ、USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS タグ、および SYSTEM_CONDITIONS タグに指定された値を無視します。

4.26.3 タグの指定方法

パラメタファイルでのタグの指定方法について次に説明します。

なお、dmcoll コマンド、dmcsvu コマンド、deminst コマンド、dcmpack コマンド、dcmpkget コマンド、dcmrmgen コマンド、dcmstsw コマンド、および dcmsusp コマンドでは、パラメタファイルで指定する内容をコマンドの引数でも指定できます。ここでは、パラメタと引数との対応もあわせて示します。引数で指定する場合の記述規則はパラメタでの記述規則と同じですが、引数で指定する場合に固有の規則もあります。引数固有の入力規則については「4.2.4 コマンドの入力形式」を参照してください。

パラメタまたはコマンドの引数には予約語を使用できます。予約語の使用方法の詳細については「4.27 予約語の指定方法」を参照してください。

4.26.4 FILE_COLLECTION (収集するファイルの指定)

FILE_COLLECTION タグでは、収集するファイルや収集したファイルの格納先ディレクトリなどを指定します。このタグは、dcmcoll コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
source_path	収集対象ファイル名	/y 収集対象ファイル名
dmz_path	収集後の格納先フォルダ	/z 収集後の格納先フォルダ
unarc_path	復元後の格納先フォルダ	/r 復元後の格納先フォルダ

(1) 形式

```
FILE_COLLECTION{
  source_path=収集するファイルまたはフォルダ
  dmz_path=収集後の格納先フォルダ
  unarc_path=復元後の格納先フォルダ
}
```

(2) 説明

source_path= 収集するファイルまたはフォルダ

収集するファイルまたはフォルダを、256 バイト以下のフルパスで指定します。

複数のファイルまたはフォルダを指定する場合は、各パスを「;」で区切るか、source_path を複数記述してください。source_path は 100 個まで指定できます。

指定値にスペースを含めることもできますが、「;」の前後にスペースを指定するとリターンコード「2」のエラーとなります。また、指定値を「"」で囲って指定しないでください。ただし、コマンドの引数で指定する場合は、スペースを含む指定値は「"」で囲ってください。

dmz_path= 収集後の格納先フォルダ

ファイルを収集する場合 (dcmcoll コマンドの処理キーが「NETM_COLLECT」の場合) は、収集したファイルまたはフォルダの格納先を、256 バイト以下のフルパスで指定します。パスは 1 個だけ指定できます。

アーカイブファイルを復元する場合 (dcmcoll コマンドの処理キーが「NETM_UNARC」の場合) は、復元するアーカイブファイル (拡張子が「dmz」のファイル) またはアーカイブファイルが格納されたフォルダを、256 バイト以下のフルパスで指定します。この場合は、ファイルまたはフォルダを複数指定できます。各パスを「;」で区切るか、dmz_path を複数記述してください。

unarc_path= 復元後の格納先フォルダ

アーカイブファイルを復元する場合 (dcmcoll コマンドの処理キーが「NETM_UNARC」の場合) に、復元したファイルまたはフォルダの格納先を、ドライブからの 256 バイト以下のパスで指定します。パスは 1 個だけ指定できます。

4.26.5 FILE_PROPERTIES (ファイルアクセス権の復元の指定)

FILE_PROPERTIES タグでは、リモートインストールしたファイルまたはディレクトリのアクセス権を復元するかどうかを指定します。このタグは、dcmpack コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

4. コマンド

パラメタ	内容	コマンドの引数
permission	ファイルアクセス権の復元	/qY または /qN

(1) 形式

```
FILE_PROPERTIES{  
  permission=ファイルアクセス権の復元  
}
```

(2) 説明

permission= ファイルアクセス権の復元

インストールしたファイルまたはディレクトリのアクセス権を復元するかどうかを次のどちらかで指定します。

- S

パッケージング元のアクセス権がインストール先に復元されます。

- T

アクセス権を復元しません。インストール先ディレクトリのアクセス権に合わせてファイルが作成されます。

コマンドの引数で指定する場合は、「/q」の直後に「Y」または「N」を指定します。デフォルトは「Y」（復元する）です。UNIX のクライアントへ配布する場合は、「N」（復元しない）を指定してください。

4.26.6 INSTALLATION_METHOD (インストールモードの指定)

INSTALLATION_METHOD タグでは、インストールモードを指定します。

このタグは、dcmpack コマンドで使用します。指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
installation_mode	インストールモード	/mB または /mG

(1) 形式

```
INSTALLATION_METHOD{  
  installation_mode=インストールモード  
}
```

(2) 説明

installation_mode= インストールモード

パッケージのインストールモードを指定します。コマンドの引数で指定する場合は、「/m」の直後に「G」または「B」を指定します。デフォルトは「B」（バックグラウンドインストールモード）です。

- G (GUI インストールモード)

特別なインストーラ（対話形式のインストーラなど）を使用するインストールモードです。インストーラが GUI を持たなくても、グラフィックデバイスインターフェース API を使っている場合は、このモードを使用します。

クライアントが Windows NT の場合、クライアントをインストールしたユーザがログオンしていないとリモートインストールされません。ただし、クライアントが「一般ユーザ権限でのインストール機能」を使用している場合はインストールできます。「一般ユーザ権限でのインストール機能」については、マニュアル「運用ガイド 1」の「11.2.3 Windows NT の一般ユーザ権限でのインストール」を参照してください。

- B (バックグラウンドインストールモード)
特別なインストーラを使用しないインストールモードです。ファイルのコピーだけでインストールが完了する場合に適用します。クライアントをインストールしたユーザがログオンしていなくても、Windows NT が起動していればリモートインストールされます。

4.26.7 JOB_ATTRIBUTE (ジョブの属性設定)

JOB_ATTRIBUTE タグでは、ジョブの属性を指定します。このタグは、dcmcoll コマンド、deminst コマンド、dcmjbrm コマンド、dcmjexe コマンド、dcmrmgen コマンド、dcmrtry コマンド、dcmstat コマンド、dcmstsw コマンド、および dcmsusp コマンドで使用します。

指定できるパラメタの内容、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
job_generator	ジョブ名称	/j ジョブ名称
jobno	ジョブ番号	/jn ジョブ番号
job_folder	ジョブ格納フォルダパス	/l ジョブ格納フォルダパス
unsuspended	中断中の配布の有無	/uns 中断中の配布の有無

(1) 形式

```
JOB_ATTRIBUTE {
  job_generator=ジョブ名称
  jobno=ジョブ番号
  job_folder=ジョブ格納フォルダパス
  unsuspended=中断中の配布の有無
}
```

(2) 説明

job_generator = ジョブ名称

配布管理システムで定義されたジョブの名称を指定します。省略すると「(dcmcoll コマンド、deminst コマンド、または dcmsusp コマンドの) 処理キー + 実行日時」が仮定されます。

dcmjexe コマンドでは必ず指定してください。

jobno = ジョブ番号

配布管理システムが自動的に割り当てるジョブの識別子です。

job_folder = ジョブ格納フォルダパス

配布管理システムのフォルダ名を指定します。ルートを示す「¥」で始めます。フォルダが階層になっている場合は、「¥」で区切って指定してください。4 階層まで指定できます。

フォルダ名の指定例を次に示します。

```
job_folder=¥folder1¥folder2¥folder3¥folder
```

省略した場合、ルートフォルダから指定されたジョブ名称を検索し、最初に見つけたジョブを処理の対象とします。同じ名称のジョブが異なるフォルダに複数ある場合は、ジョブが保存されているフォルダ名を指定してください。

なお、dcmcoll コマンドまたは deminst コマンドで、複数のパラメタファイルを使用する場合は、異なるパラメタファイルに同じフォルダ名が含まれないように指定してください。例えば、次のように指定しないでください。

- パラメタファイル A の指定

4. コマンド

job_folder=¥folder1¥folder2¥folder3

- パラメタファイル B の指定

job_folder=¥folder1¥folder2

unsuspended= 中断中の配布の有無

ファイル転送の中断中でも配布するかどうかを「Y」または「N」で指定します。

Y

ファイル転送の中断中でもパッケージを配布します。

N

ファイル転送の中断中の場合は、配布を中断します。

このパラメタを指定しない場合は、「N」が自動的に設定されます。

なお、このパラメタは dcmint コマンドだけで指定できます。dcmint コマンド以外で指定すると、エラーになります。

(3) 指定できる予約語

このタグで指定できる予約語は、次に示す実行するコマンドの種類によって異なります。

dcmcoll コマンドで指定できる予約語

¥CY, ¥CM, ¥CD, ¥CH, ¥CN, ¥CS, ¥HOST, ¥GROUP, ¥ZDIR

dcmint コマンドで指定できる予約語

¥CY, ¥CM, ¥CD, ¥CH, ¥CN, ¥CS, ¥VERSION, ¥HOST, ¥GROUP, ¥DSTID, ¥PKGID

dcmsusp コマンドで指定できる予約語

¥CY, ¥CM, ¥CD, ¥CH, ¥CN, ¥CS, ¥HOST, ¥GROUP, ¥DSTID

4.26.8 JOB_CLIENT_CONTROL (クライアント制御の指定)

JOB_CLIENT_CONTROL タグでは、クライアントの制御を指定します。このタグは、dcmint コマンドでだけ使用します。ほかのコマンドでは、指定しても無視されます。

指定できるパラメタの内容、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
client_wake_up	クライアントの起動の有無	/WWU
client_shutdown	クライアントのシャットダウンの有無	/WUS

(1) 形式

```
JOB_CLIENT_CONTROL {  
  client_wake_up=クライアントの起動の有無  
  client_shutdown=クライアントのシャットダウンの有無  
}
```

(2) 説明

client_wake_up= クライアントの起動の有無

クライアントを起動するかどうかを「Y」または「N」で指定します。

Y

クライアントを起動します。

N

クライアントを起動しません。

このパラメタを指定しない場合は、「N」が自動的に設定されます。

client_shutdown= クライアントのシャットダウンの有無

クライアントをシャットダウンするかどうかを「Y」または「N」で指定します。

Y

クライアントをシャットダウンします。

N

クライアントをシャットダウンしません。

このパラメタを指定しない場合は、「N」が自動的に設定されます。

4.26.9 JOB_DESTINATION (あて先の指定)

JOB_DESTINATION タグでは、ジョブのあて先を指定します。このタグは、dcmscoll コマンド、dcminst コマンド、および dcmsusp コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
directory_com ^{1 2}	ディレクトリ情報 (コンピュータの階層)	/dc コンピュータの階層
directory_group ^{1 2}	ディレクトリ情報 (グループの階層)	/dg グループの階層
directory_ou ^{1 2}	ディレクトリ情報 (組織単位 (OU) の階層)	/do 組織単位 (OU) の階層
group ²	あて先グループ名	/g あて先グループ名
host_name ²	ホスト名	/h ホスト名
lower_clients	すべてのあて先指定の有無	-

(凡例) - : コマンドの引数では指定できない

注 1

dcmsusp コマンドでは使用できません。

注 2

group および host_name と、directory_com、directory_group および directory_ou は同時に指定できません。ただし、group および host_name は同時に指定してもかまいません。また、directory_com、directory_group、および directory_ou は、組み合わせに関係なく同時に指定してもかまいません。

(1) 形式

```
JOB_DESTINATION{
directory_com=コンピュータの階層
directory_group=グループの階層
directory_ou=組織単位 (OU) の階層
group=あて先グループ名
host_name=ホスト名
lower_clients=すべてのあて先指定の有無
}
```

(2) 説明

directory_com= コンピュータの階層

配布管理システムで取得したディレクトリ情報のコンピュータの階層を指定します。コンピュータの階層の指定例を次に示します。

4. コマンド

```
directory_com=CN=COM001,OU=Hitachi,DC=Domain001,DC=xx,DC=jp
```

複数のコンピュータの階層を指定する場合は、コンピュータの階層を「;」で区切ってください。「directory_com」を複数行記述して、複数のコンピュータの階層を指定することもできます。directory_com は directory_group および directory_ou との合計で 200 個まで指定できます。

directory_group= グループの階層

配布管理システムで取得したディレクトリ情報のグループの階層を指定します。グループの階層の指定例を次に示します。

```
directory_group=XX=Group001,OU=Hitachi,DC=Domain001,DC=xx,DC=jp
```

複数のグループの階層を指定する場合は、グループの階層を「;」で区切ってください。「directory_group」を複数行記述して、複数のグループの階層を指定することもできます。directory_group は、directory_com および directory_ou との合計で 200 個まで指定できます。

directory_ou= 組織単位 (OU) の階層

配布管理システムで取得したディレクトリ情報の組織単位 (OU) の階層を指定します。組織単位 (OU) の階層の指定例を次に示します。

```
directory_ou=OU=Hitachi,DC=Domain001,DC=xx,DC=jp
```

複数の組織単位 (OU) の階層を指定する場合は、組織単位 (OU) 階層を「;」で区切ってください。「directory_ou」を複数行記述して、複数の組織単位 (OU) 階層を指定することもできます。directory_ou は、directory_com および directory_group との合計で 200 個まで指定できます。

group= あて先グループ名

配布管理システムで定義されたあて先グループ名を、ルートからのパスで指定します。あて先グループ名の指定例を次に示します。

```
group=¥group1¥group2¥group
```

複数のあて先グループ名を指定する場合は、あて先グループ名を「;」で区切ってください。「group=」を複数行記述して、複数のあて先グループ名を指定することもできます。group は、host_name との合計で 200 個まで指定できます。

host_name= ホスト名

配布管理システムで定義されたクライアントのホスト名を指定します。ホスト識別子を使用しない場合は、あて先のクライアントのホスト名だけを指定してもジョブは実行されます。ホスト識別子を使用する場合は、あて先を対象のクライアントまでの経路で指定するか、ホスト名ではなくホスト識別子を指定してください。

ホスト識別子の使用の有無に関係なく、あて先を対象のクライアントまでの経路で指定する場合は、次に示すように「¥」で始め、中継システムを「¥」で区切って指定してください。

```
host_name=¥Submanager1¥Submanager2¥Submanager3¥host1
```

また、あて先として中継システムを指定するジョブで、あて先の経路を指定する場合は、次に示すように経路とあて先の両方に中継システムの名称を指定してください。

```
host_name=¥Submanager1¥Submanager1
```

複数のホストを指定する場合は、ホスト名を「;」で区切って指定してください。「host_name=」を複数行記述して、複数のホスト名を指定することもできます。host_name は、group との合計で 200 個

まで指定できます。

なお、クライアントを IP アドレスで管理している場合は、IP アドレスを指定してください。

lower_clients パラメタに「Y」を指定する場合、host_name パラメタには、中継マネージャを指定しません。

lower_clients= すべてのあて先指定の有無

中継マネージャ配下のすべてのクライアントをあて先とするかどうかを「Y」または「N」で指定します。

Y

host_name で指定した中継マネージャ配下のすべてのクライアントをあて先とします。

host_name には複数のホストを指定できますが、中継マネージャ以外は指定できません。また、group を指定しても無視されます。

N

host_name に指定したホスト、および group に指定したあて先グループをジョブのあて先とします。

このパラメタを指定しない場合は、「N」が自動的に設定されます。

このパラメタは、dcmnst コマンド以外は、指定しても無視されます。また、JP1/NETM/DM Client (中継システム) で指定した場合も無視されます。

(3) 注意事項

JOB_DESTINATION タグは、JOB_DESTINATION_ID タグと同時に指定できません。コマンドの引数で指定する場合も、/h、/g、/dc、/dg、および /do は、/X と同時に指定できません。

ホスト識別子を使用し、運用キーをホスト名にしている場合、以下のときは、host_name パラメタを使用できません。

- セットアップの [運用キー] パネルで、アドレス解決の方法を「Windows ネットワークを使用する」に設定しているが、アドレス解決に失敗する。
- セットアップの [運用キー] パネルで、アドレス解決の方法を「JP1/NETM/DM のシステム構成を使用する」に設定している。

4.26.10 JOB_DESTINATION_ID (ID の指定)

JOB_DESTINATION_ID タグでは、ジョブのあて先として ID 名を指定します。このタグは、dcmcoll コマンド、dcmnst コマンド、および dcmsusp コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
destination_id	ID 名	/X ID 名

(1) 形式

```
JOB_DESTINATION_ID{
  destination_id=ID名
}
```

(2) 説明

destination_id=ID 名

作成済みの ID 名を指定します。ID 管理中継を指定して、ID ジョブを実行する中継システムを限定することもできます。ID 管理中継を指定する場合は、「¥」で始めてください。ID 名は、「¥」で始め、

4. コマンド

ID 名の前には「%」を付けてください。

なお、ID 管理中継を指定しない場合は、ID に登録されたすべての ID 管理中継でジョブが実行されません。

ID 名の指定例を次に示します。

```
destination_id=¥dmp202¥%ID0001
```

なお、ID 管理中継名は、各 ID 管理中継の運用キーに従って指定してください。例えば、上位の ID 管理中継の運用キーがホスト名、下位の ID 管理中継の運用キーが IP アドレスの場合は、「¥ホスト名 ¥IP アドレス ¥%ID 名」のように指定します。

複数の ID を指定する場合は、ID 名を「;」で区切って指定してください。「destination_id=」を複数行記述して、複数の ID を指定することもできます。ID は 200 個まで指定できます。

(3) 注意事項

JOB_DESTINATION_ID タグは、JOB_DESTINATION タグと同時に指定できません。コマンドの引数で指定する場合も、/X は、/h、/g、/dc、/dg、および /do と同時に指定できません。

dcmcoll コマンドおよび dcmsusp コマンドでパラメタファイルを使用する場合、ID 管理中継は指定できません。ID 管理中継を指定してこれらのコマンドを実行した場合、エラーになります。

ID 管理中継を指定する場合、あて先の長さは ID 名を含めて 256 バイト以内にしてください。

存在しない中継システムを指定してコマンドを実行した場合、ジョブは作成されますが、実行されません。

4.26.11 JOB_SCHEDULE (ジョブのスケジュールの指定)

JOB_SCHEDULE タグでは、ジョブの登録日時、実行日時、および実行期限のスケジュールを指定します。このタグは、dcmcoll コマンド、dcminst コマンド、dcmjexe コマンド、および dcmsusp コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
job_entry_date	ジョブの登録日時	/jst 値
job_execution_date	ジョブの実行日時	/jsx 値
job_expiration_date	ジョブの実行期限	/jsp 値

(1) 形式

```
JOB_SCHEDULE {  
  job_entry_date=ジョブの登録日時  
  job_execution_date=ジョブの実行日時  
  job_expiration_date=ジョブの実行期限  
}
```

(2) 説明

job_entry_date= ジョブの登録日時

ジョブの登録日時を「YYMMDDhh:mm」の形式で指定します。

YY：西暦年の下 2 けた (00 ~ 36, 70 ~ 99)

MM：月 (01 ~ 12)

DD : 日 (01 ~ 31)

hh : 時 (00 ~ 23)

mm : 分 (00 ~ 59)

このパラメタを省略するとジョブの登録日時はコマンド実行時の日時になります。

`job_execution_date`= ジョブの実行日時

ジョブの実行日時を「*YYMMDDhh:mm*」の形式で指定します。

ジョブの実行日時の値は `job_entry_date` と同じ形式です。

省略した場合、ジョブが即時実行されます。なお、このパラメタを省略できるのは、`job_entry_date` および `job_expiration_date` の両方を省略した場合だけです。

`job_expiration_date`= ジョブの実行期限

ジョブの実行期限を「*YYMMDDhh:mm*」の形式で指定します。

ジョブの実行期限の値は `job_entry_date` と同じ形式です。

省略した場合、ジョブの実行期限は無期限になります。

(3) 注意事項

`job_execution_date` , `job_entry_date` , `job_expiration_date` の指定値は次の条件を満たさない場合、エラーになります。



ジョブの登録日時、実行日時、または実行期限を指定した場合、サーバでジョブ定義が保存されます。保存されたジョブ定義をジョブが作成される前（指定した登録日時以前）に削除するとジョブを作成できなくなります。

ジョブの登録日時、実行日時、または実行期限を指定した場合、存在しないあて先、あて先グループ、または ID を指定してもコマンドは正常終了しますが、ジョブは実行されません。

西暦年の下 2 けたの指定は次の意味になります。

70 ~ 99 : 1900 年代

00 ~ 36 : 2000 年代

4.26.12 JOB_SPLIT_DELIVERY (パッケージの分割配布の指定)

`JOB_SPLIT_DELIVERY` タグでは、パッケージの分割配布を指定します。このタグは、`deminst` コマンドだけで使用します。ほかのコマンドでは、指定しても無視されます。

指定できるパラメタの内容、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
<code>split_size</code>	分割サイズ	<code>/sds</code> 値
<code>wait_time</code>	転送休止時間	<code>/sdt</code> 値

(1) 形式

```
JOB_SPLIT_DELIVERY {
  split_size=分割サイズ
  wait_time=転送休止時間
}
```

(2) 説明

split_size= 分割サイズ

パッケージの分割サイズを 1 ~ 2,097,151 の範囲で指定します。単位はキロバイトです。このパラメタを省略した場合は、1,024 キロバイトが設定されます。

wait_time= 転送休止時間

分割配布の転送休止時間を 1 ~ 1,440 の範囲で指定します。単位は分です。このパラメタを省略した場合は、60 分が設定されます。

4.26.13 OPTION (オプションの指定)

OPTION タグでは、リモートインストール時のオプションを指定します。このタグは、dcmcoll コマンドおよび dcm-pack コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
compress	圧縮の有無	/uY または /uN
compress_type	圧縮方法	/ctN または /ctH
restore	バージョンアップ時のリストア対象の有無	/RY または /RN
encipher	暗号化の有無	/encY または /encN
reboot	インストール後のコンピュータ再起動	/reboot
processing_dialog	インストール時の処理中ダイアログの表示	/procS, /procY, または /procN

(1) 形式

```
OPTION{
  compress=圧縮の有無
  compress_type=圧縮方法
  restore=バージョンアップ時リストア対象の有無
  encipher=暗号化の有無
  reboot=インストール後のコンピュータ再起動
  processing_dialog=インストール時の処理中ダイアログの表示
}
```

(2) 説明

compress= 圧縮の有無

dcm-pack コマンドで使用する場合はソフトウェアを圧縮してパッケージングするかどうか、また dcmcoll コマンドで使用する場合はファイルを圧縮して収集するかどうかを「Y」または「N」で指定します。

コマンドの引数で指定する場合は、「/u」の直後に「Y」または「N」を指定します。このパラメタを指定しない場合は、「N」(圧縮しない)が自動的に設定されます。

• Y

パッケージング時またはファイル収集時に、パッケージまたはファイルを圧縮します。

圧縮されたパッケージは、リモートインストール時に自動的に伸長されます。パッケージを圧縮するとファイル転送は速くなります。また、キャビネット上でパッケージを保管するための容量を節約できます。ただし、パッケージング時やリモートインストール時に、圧縮・伸長処理のための時間が掛かります。

• N

パッケージング時またはファイル収集時に、パッケージまたはファイルを圧縮しません。

compress_type= 圧縮方法

dcmpack コマンドの場合、圧縮方法を「N」(互換モード圧縮)または「H」(高圧縮)で指定します。

dcmcoll コマンドでは指定できません。

コマンドの引数で指定する場合は、「/ct」の直後に「N」または「H」を指定します。このパラメータを指定しない場合は、「N」(互換モード圧縮)が自動的に設定されます。

- N

互換モード圧縮でファイルを圧縮します。05-22 以前のバージョンのクライアント、および UNIX のクライアントにも配布できます。

- H

高圧縮でファイルを圧縮します。互換モード圧縮より、パッケージ容量を削減して圧縮できます。

05-23 以降のバージョンの、Windows のクライアントに配布するとき使用します。05-22 以前のバージョンのクライアント、および UNIX のクライアントには配布できません。

05-22 以前のシステムおよび UNIX のシステムを使用する場合の注意事項は、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.2.8 [オプション] パネル」を参照してください。

restore= バージョンアップ時リストア対象の有無

バージョンアップ時にリストア対象とすることを「Y」または「N」で指定します。dcmcoll コマンドでは指定できません。

コマンドの引数で指定する場合は、「/R」の直後に「Y」または「N」を指定します。このパラメータを指定しない場合は、「N」(リストア対象としない)が自動的に設定されます。

- Y

バージョンアップ時にリストア対象とします。ソフトウェアのバージョンアップ時に、リモートインストール先にある前バージョンのバックアップが取得されます。そして、リモートインストールが失敗したときには、バックアップを基に前バージョンのソフトウェアが復元されます。

- N

バージョンアップ時にリストア対象としません。

encipher= 暗号化の有無

パッケージを登録する場合に、パッケージを暗号化するかどうかを「Y」または「N」で指定します。

dcmcoll コマンドでは指定できません。また、暗号化を指定するには、JP1/NETM/DM Encryption Option のインストールが必要です。

コマンドの引数で指定する場合は、「/enc」の直後に「Y」または「N」を指定します。このパラメータを指定しない場合は、「N」(暗号化しない)が自動的に設定されます。

reboot= インストール後のコンピュータ再起動

パッケージのインストール後にクライアントのコンピュータを自動的に再起動させるかどうかを、「Y」

または「N」で指定します。dcmcoll コマンドでは指定できません。このパラメータを指定しない場合は、「N」(再起動させない)が自動的に設定されます

- Y

パッケージのインストール後に、クライアントで再起動の確認ダイアログボックスが表示されます。クライアントで [OK] ボタンをクリックすると、再起動が開始されます。

- N

パッケージのインストール後に、クライアントのコンピュータを再起動させません。

コマンドの引数で指定する場合、再起動させる場合は「/reboot」を指定し、再起動させない場合は省略します。

自動的に再起動できるコンピュータは、クライアントだけです。クライアントを自動的に再起動させるためには、クライアントのセットアップで [ジョブオプション] パネルの「運用管理者の指示でコンピュータをシャットダウンまたは再起動する」チェックボックスがオンになっている必要があります。

中継マネージャおよび中継システムでは、インストールしたパッケージに再起動が指定されていても自動的に再起動できません。

コンピュータを自動的に再起動させる場合の注意事項と、自動的な再起動ができない場合については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.2.8 [オプション] パネル」を参照してください。

processing_dialog= インストール時の処理中ダイアログの表示

パッケージのインストール時にクライアントで処理中ダイアログを表示させるかどうかを、「SETUP」、「Y」、または「N」で指定します。対象となるのは、ダウンロード中ダイアログとインストール中ダイアログです。demcoll コマンドでは指定できません。

コマンドの引数で指定する場合は、「/proc」の直後に「S」、「Y」、または「N」を指定します。このパラメタを指定しない場合は、「SETUP」(クライアントの設定に従う)が自動的に設定されます(コマンドの引数の場合は「/procS」)。

- SETUP

クライアント側でセットアップの [処理中ダイアログ] パネルに設定した内容に従って、処理中ダイアログの動作を決定します。ダウンロード中ダイアログとインストール中ダイアログで設定が異なる場合も、[処理中ダイアログ] パネルの設定どおり表示します。

- Y

クライアント側でセットアップの [処理中ダイアログ] パネルに設定した内容に関係なく、ダウンロード中ダイアログとインストール中ダイアログを表示します。

- N

クライアント側でセットアップの [処理中ダイアログ] パネルに設定した内容に関係なく、ダウンロード中ダイアログとインストール中ダイアログを非表示にします。

「processing_dialog」パラメタとクライアントセットアップの [処理中ダイアログ] パネルをそれぞれ設定したときの、処理中ダイアログ表示の有無を次の表に示します。

クライアントセットアップの [処理中ダイアログ] パネルの設定	パッケージの「processing_dialog」パラメタの設定		
	SETUP	Y	N
表示する			-
表示しない	-		-

(凡例) : 対象ダイアログを表示する - : 対象ダイアログを表示しない

処理中ダイアログの表示についての注意事項を次に示します。

- 06-71 以前の Windows クライアントでは、パッケージに処理中ダイアログの表示を指定しても無視されます。
- パッケージに処理中ダイアログの表示を指定した場合、インストール中ダイアログを最前面表示するかどうかはクライアントセットアップの設定に従います(非活性の場合も有効です)。

4.26.14 OUTPUT_CONSTRAINTS (出力する情報の設定)

OUTPUT_CONSTRAINTS タグでは、出力する情報の内容と出力範囲を指定します。

OUTPUT_CONSTRAINTS タグは demcsvu コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
template	出力に使用するテンプレート	テンプレートキー
format	出力ファイルの形式	/csv または /par

パラメタ	内容	コマンドの引数
row	出力したい項目 (列)	-
group_membership	所属グループ	-
condition	比較条件	-
unicode	Unicode の CSV 形式ファイル出力有無	/uniY または /uniN

(凡例) - : コマンドの引数では指定できない

出力する情報は、JP1/NETM/DM が提供するテンプレートを使って指定します。このテンプレートは、CSV 出力ユーティリティで使用するテンプレートと同じです。指定したテンプレートに含まれる項目 (テンプレート中の列) について、情報が出力されます。また、テンプレートによっては、次の操作もできます。

- 指定した項目の情報だけを出力する (CSV 形式ファイルで出力する場合だけ有効)。
- 項目の比較条件式やホストの所属グループを指定して、出力する情報を絞り込む。

(1) 形式

```
OUTPUT_CONSTRAINTS{
  template = 出力に使用するテンプレート
  format = 出力ファイルの形式 (csvまたはpar)
  row = 出力したい項目 (列)
  group_membership = 所属グループ
  condition = 比較条件
  unicode = UnicodeのCSV形式ファイル出力の有無 (YまたはN)
}
```

(2) 説明

template= 出力に使用するテンプレート

出力したい内容のテンプレートの、テンプレートキーを一つ指定します。各テンプレートで出力できる項目は、CSV 出力ユーティリティで CSV 形式ファイルを出力する場合と同じです。詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「9.1.1 CSV 形式ファイルに出力できる項目」を参照してください。

CSV 形式ファイルで出力する場合は全テンプレートを指定できますが、パラメタファイル形式で出力する場合は、指定できるテンプレートが限られます。出力ファイル形式と指定できるテンプレートの対応を次の表に示します。

表 4-23 出力ファイル形式と指定できるテンプレート

テンプレートキー	対応するテンプレート	CSV 形式ファイルで出力する場合	パラメタファイル形式で出力する場合
HOST_ATTR	あて先属性		
PKG_INFO	パッケージ属性		
PKG_FILES	パッケージ内容		×
SYS_INFO	システム情報		×
USR_INV	ユーザ資産情報		×
INSTLD_PKG	インストール済みパッケージ情報		
J_STAT	ジョブ実行状況		
REG_DEFS	レジストリ取得項目		×
USER	ユーザ管理情報		×
SOFT_INV	ソフトウェアインベントリ		×
LICENSE	ライセンス情報		×

4. コマンド

テンプレートキー	対応するテンプレート	CSV 形式ファイルで出力する場合	パラメタファイル形式で出力する場合
MS_OFFICE	Microsoft Office 製品		×
VIRUS	ウイルス対策製品		×
NO_CLIENT	JP1/NETM/DM 未導入ホスト情報		×
DISCOVERY_INFO	ホスト探索結果		×
DETER_HIST	起動抑止履歴		×

(凡例) : 指定できる × : 指定できない

注

コマンドを実行する配布管理システムと同じ運用キーのホストの情報が出力されます。異なる運用キーの中継マネージャがある場合、その中継マネージャと配下のホストの情報は出力されません。パラメタファイル形式で出力時に、表 4-23 で「指定できない」となっているテンプレートを指定すると、エラーになります。

format= 出力ファイルの形式

出力するファイルの形式として、次のどちらかを指定します。

csv

インベントリ情報を、CSV 形式ファイルで結果出力ファイルに出力します。

par

インベントリ情報を、パラメタファイルの形式で結果出力ファイルに出力します。パラメタファイル形式で出力する場合、使用するテンプレートによって、出力されるタグの情報が異なります。各テンプレートキーを指定したときに出力されるタグを次の表に示します。

表 4-24 パラメタファイル形式の出力ファイルに出力されるタグ

テンプレートキー	出力されるタグ
HOST_ATTR (あて先属性)	JOB_DESTINATION
PKG_INFO (パッケージ属性)	PACKAGING_INFORMATION
INSTLD_PKG (インストール済みパッケージ情報)	JOB_DESTINATION
J_STAT (ジョブ実行状況)	JOB_DESTINATION

なお、出力ファイルの形式をコマンドの引数とパラメタファイルの両方に指定した場合、コマンドの引数で指定した内容が有効となります。両方とも指定を省略した場合は、「csv」が仮定されます。

row= 出力したい項目 (列)

インベントリ情報を CSV 形式ファイルに出力する場合に、テンプレート中の出力したい項目 (列) を個別に指定します。各項目の間をセミコロン「;」で区切って指定してください。セミコロン前後のスペースは無視されます。形式を次に示します。

row = 項目1;項目2;項目3....

row パラメタの指定を省略した場合は、全項目の情報が出力されます。

row パラメタを使った出力項目の指定が有効になるのは、次のテンプレートを使用してインベントリ情報を CSV 形式ファイルに出力する場合だけです。

- HOST_ATTR (あて先属性)
- SYS_INFO (システム情報)

- INSTLD_PKG (インストール済みパッケージ情報)
- J_STAT (ジョブ実行状況)
- VIRUS (ウィルス対策製品)
- NO_CLIENT (JP1/NETM/DM 未導入ホスト情報)
- DISCOVERY_INFO (ホスト探索結果)

これら以外のテンプレートを使用して CSV 形式ファイルに出力する場合は、特定の項目だけ出力することはできません。その場合、テンプレート中の全項目の情報が出力されます。また、パラメタファイル形式で出力する場合は、「row」パラメタを指定しても無視されます。

row パラメタに指定できる項目を、テンプレートごとに、表 4-25 ~ 表 4-31 に示します。

表 4-25 「row」パラメタに指定できる項目 (HOST_ATTR (あて先属性) テンプレート)

「row」に指定できる項目	説明
host	ホスト名称
ipaddr	IP アドレス
hid	ホスト識別子
macaddr	MAC アドレス
type	タイプ
route	経路
group	所属グループ
holdrep	結果通知の保留
suspended	ファイル転送中断
cmnt	コメント
cdate	作成日時
date	更新日時
pkgupdate	インストールパッケージ情報最終更新日時
syupdate	システム情報最終更新日時
uupdate	ユーザインベントリ情報最終更新日時
rupdate	レジストリ情報最終更新日時
sfupdate	ソフトウェアインベントリ情報最終更新日時
smiupdate	ソフトウェア稼働情報最終更新日時
smpolicy	適用済みソフトウェア稼働監視ポリシーおよび適用済みソフトウェア稼働監視ポリシーバージョン

表 4-26 「row」パラメタに指定できる項目 (SYS_INFO (システム情報) テンプレート)

「row」に指定できる項目	説明
host	ホスト名称
ipaddr	IP アドレス (システム構成のキー項目の値)
hid	ホスト識別子
cpu	CPU タイプ
copr	コプロセッサ
ram	実メモリ容量
memslot	メモリスロットの容量

4. コマンド

「row」に指定できる項目	説明
freephymem	物理メモリの空き容量
totalvirmem	仮想メモリの全容量
freevirmem	仮想メモリの空き容量
pagefile	ページファイルの容量
mtype	マシン種別
clocks	CPU クロック数
extclock	CPU 外部クロック数
processor	プロセッサ数
maker	製造元
model	モデル
muuid	マシン UUID
msernum	マシンシリアルナンバー
biosmaker	BIOS 製造元
biosdate	BIOS リリース日時
biosver	BIOS バージョン
smbiosver	BIOS バージョン (SMBIOS)
amtfmvr	AMT ファームウェアバージョン
pribus	プライマリバス種別
secbus	セカンダリバス種別
os	OS
distribution	Linux のディストリビューション名
ospatch	OS ビルド番号 /OS バッチ情報
osl	OS ライセンス
osv	OS バージョン
ossv	OS サブバージョン
ossernum	OS シリアルナンバー
locale	ロケール
oslang	OS の言語
timezone	現在のタイムゾーン
insdate	OS インストール日時
lastbootdate	最終起動日時
bootdev	ブートデバイス
windir	Windows ディレクトリ
sysdir	システムディレクトリ
wmi	WMI
wininst	Windows Installer
mbsa	MBSA
wua	Windows Update Agent
ie	インターネットエクスプローラバージョン

「row」に指定できる項目	説明
iepatch	IE パッチ情報
domain_wrkgrp	ドメイン/ワークグループ
domain	ドメイン種別
owner	所有者名
org	会社名
pcname	コンピュータ名
comdesc	コンピュータの説明
logonname	ログオンユーザ名
username	ユーザフルネーム
userdesc	ユーザの説明
cltver	クライアントバージョン
disk	ディスク詳細情報 ¹
filesystem	ファイルシステム ²
totalsize	総ディスク容量 ³
hdmodel	ハードディスクのモデル
hdesize	ハードディスクの容量
hdinterface	ハードディスクのインターフェース
hdpartition	ハードディスクのパーティション数
cdrom	CD-ROM ドライブ
umem	利用可能ユーザメモリ容量
sysres	利用可能システムリソース容量
keyboard	キーボード
mouse	マウス
mousenum	マウスのボタン数
monitor	モニタ種別
vdriver	ビデオドライバ
vchip	ビデオチップ
vram	VRAM 容量
display	画面情報
soundmaker	サウンドカード製造元
soundname	サウンドカード製品名
macaddr	MAC アドレス
nwkad	ネットワークアダプタ
defra	デフォルトルータアドレス
subnet	サブネットマスク
ipaddr_inv	IP アドレス (インベントリ情報として取得した値)
pridns	プライマリ DNS サーバアドレス
secdns	セカンダリ DNS サーバアドレス
dhcp	DHCP

4. コマンド

「row」に指定できる項目	説明
dhcpcsv	DHCP サーバアドレス
dhcpeyp	DHCP リース期限日時
dhcpobt	DHCP リース取得日時
wins	WINS サーバアドレス
prtname	プリンタ名
prtdrv	プリンタドライバ
prtpaper	プリンタ用紙サイズ
prtkind	プリンタ種別
prtshare	プリンタ共有名
prtserver	プリンタサーバ名
prtport	プリンタポート
guestaccount	Guest アカウント
weakpassword	脆弱なパスワード ⁴
account	アカウント ⁵
dayupdpass	パスワードを更新してからの経過日数 ⁵
indefinitepass	無期限のパスワード ⁴
autologon	自動ログオンの設定
sharedfolder	共有フォルダ
anonymousrefer	匿名接続の制限
screensaver	スクリーンセーバー
scrpassword	スクリーンセーバー パスワードの保護機能
poweronpass	パワーオンパスワード
winfirewall	Windows ファイアウォールの設定
winautoupdate	Windows 自動更新
needlessrv	不要なサービス
bitlocker	BitLocker の設定情報
driveencryption	ドライブ暗号化情報
turnoffmonitor_ac	モニタの電源を切る (AC)
turnoffmonitor_dc	モニタの電源を切る (DC)
procsthrottle_ac	プロセッサ調整 (AC)
procsthrottle_dc	プロセッサ調整 (DC)
turnoffharddisks_ac	ハードディスクの電源を切る (AC)
turnoffharddisks_dc	ハードディスクの電源を切る (DC)
standby_sleep_ac	システムスタンバイ / スリープ (AC)
standby_sleep_dc	システムスタンバイ / スリープ (DC)
systemhibernate_ac	システム休止状態 (AC)
systemhibernate_dc	システム休止状態 (DC)

注 1

一つのドライブについての情報の総称です。「論理ドライブ」、「デバイス名」、「空き容量」、「全ディスク容量」の項目を含んでいます。「disk」を指定すると、これら四つの情報が出力されます。

注 2

一つのドライブについての情報です。注 1 の「disk」を指定し、さらに「filesystem」を指定した場合に、ディスク詳細情報の項目の一つとして出力されます。

注 3

全ドライブの容量の合計についての総称です。「空き容量合計」、「全ディスク容量合計」(注 1 の各ドライブの「全ディスク容量」の合計)の項目を含んでいます。「totalsize」を指定すると、これら二つの情報が出力されます。

注 4

セミコロンで連結された文字列を対象として条件を指定してください。

注 5

条件を指定した場合は、対象となるすべてのマシンの情報が出力されます。

表 4-27 「row」パラメタに指定できる項目 (INSTLD_PKG (インストール済みパッケージ情報) テンプレート)

「row」に指定できる項目	説明
host	ホスト名称
ipaddr	IP アドレス
hid	ホスト識別子
pname	パッケージ名称
pid	パッケージ識別 ID
install	インストール
newver	新バージョン
newgen	新世代番号
oldver	旧バージョン
oldgen	旧世代番号
date	インストール日時/ソフトウェア検索日時

表 4-28 「row」パラメタに指定できる項目 (J_STAT (ジョブ実行状況) テンプレート)

「row」に指定できる項目	説明
folder	フォルダ名称
jname	ジョブ名称
jattr	ジョブ属性
execdate	サーバ側実行日時
execsch	サーバ側実行予定日時
sduedate	サーバ側実行期限
sregdate	サーバ側登録予定日時
dstname	ジョブあて先名
jtype	ジョブ種別
dexecdate	あて先別ジョブ実行日時
pname	パッケージ名称
pid	パッケージ識別 ID

4. コマンド

「row」に指定できる項目	説明
cabid	キャビネット識別 ID
dmcode	DM 識別コード
pver	バージョン
pgen	世代番号
ceexecdate	クライアント側インストール日時
result	実行状態
status	ステータス

表 4-29 「row」パラメタに指定できる項目 (VIRUS (ウイルス対策製品) テンプレート)

「row」に指定できる項目	説明
host	ホスト名称
ipaddr	IP アドレス
hid	ホスト識別子
sname	ソフトウェア名称
sver	ソフトウェアバージョン
org	会社名
lang	言語
path	パス
size	サイズ
sdate	検索日時
idate	インストール日付
regorg	登録会社名
reguser	登録所有者名
virusver	ウイルス検出エンジンバージョン
vfilever	ウイルス定義ファイルバージョン
vstation	ウイルス検出の常駐 / 非常駐設定
softwareid	ソフトウェア識別 ID

表 4-30 「row」パラメタに指定できる項目 (NO_CLIENT (JP1/NETM/DM 未導入ホスト情報) テンプレート)

「row」に指定できる項目	説明
ipaddr	IP アドレス
type	ノード種別
host	ノード名称
macaddr	MAC アドレス
subnet	サブネットマスク
netaddr	ネットワークアドレス
datetime	検出日時
lastupdate	最終更新日時
cmnt	ノードの説明

表 4-31 「row」パラメタに指定できる項目 (DISCOVERY_INFO (ホスト探索結果) テンプレート)

「row」に指定できる項目	説明
ipaddr	IP アドレス
type	ノード種別
host	ノード名称
macaddr	MAC アドレス
subnet	サブネットマスク
netaddr	ネットワークアドレス
lastupdate	最終更新日時
cmnt	ノードの説明

group_membership= 所属グループ

絞り込みの条件として、情報を出力したいホストの所属グループを指定します。中継マネージャまたは中継システム、あて先グループ、または ID のうち、どれか 1 種類の所属グループを絞り込みに使用します。同じ種類のグループであれば、複数の所属グループも指定できます。複数指定するには、各グループ名をセミコロン「;」で区切るか、group_membership 行を複数記述してください。複数指定した場合は、「OR」条件で連結します。「group_membership」は、次の形式で指定します。

```
group_membership = [中継マネージャまたは中継システム|あて先グループ|ID]
```

中継マネージャまたは中継システム

中継マネージャまたは中継システムの名前を指定します。名前を「¥」で区切ることでパスを指定できます。

あて先グループ

「¥」+ あて先グループ名を指定します。「¥」で区切ることでパスを指定できます。

ID

「¥%」+ID 名を指定します。

「group_membership」パラメタによる絞り込みが指定できるテンプレートは、出力ファイルの形式によって異なります。出力ファイル形式と「group_membership」パラメタを指定できるテンプレートの対応を次の表に示します。

表 4-32 「group_membership」パラメタを指定できるテンプレート

テンプレートキー	対応するテンプレート	CSV 形式ファイルで出力する場合	パラメタファイル形式で出力する場合
HOST_ATTR	あて先属性		
PKG_INFO	パッケージ属性	×	×
PKG_FILES	パッケージ内容	×	-
SYS_INFO	システム情報		-
USR_INV	ユーザ資産情報		-
INSTLD_PKG	インストール済みパッケージ情報		×
J_STAT	ジョブ実行状況	×	×
REG_DEFS	レジストリ取得項目		-
SOFT_INV	ソフトウェアインベントリ		-

4. コマンド

テンプレートキー	対応するテンプレート	CSV 形式ファイルで出力する場合	パラメタファイル形式で出力する場合
LICENSE	ライセンス情報	×	-
USER	ユーザ管理情報		-
MS_OFFICE	Microsoft Office 製品		-
VIRUS	ウイルス対策製品		-
NO_CLIENT	JP1/NETM/DM 未導入ホスト情報	×	-
DISCOVERY_INFO	ホスト探索結果	×	-
DETER_HIST	起動抑止履歴		-

(凡例)

- : 「group_membership」パラメタを指定できる
- × : 「group_membership」パラメタを指定できない
- : パラメタファイル形式の出力では使用できないテンプレート

condition= 比較条件

絞り込みの条件として、各項目の出力対象になる値の範囲を指定します。範囲の指定には、テンプレート中の項目（列）を絞り込みのキーにした比較条件式を使用します。

「condition」パラメタを指定できるテンプレートは、出力ファイルの形式によって異なります。パラメタファイル形式で出力する場合は、使用できるテンプレートに対してはすべて絞り込みができます。出力ファイル形式と「condition」パラメタを指定できるテンプレートの対応を次の表に示します。

表 4-33 「condition」パラメタを指定できるテンプレート

テンプレートキー	対応するテンプレート	CSV 形式ファイルで出力する場合	パラメタファイル形式で出力する場合
HOST_ATTR	あて先属性	×	
PKG_INFO	パッケージ属性	×	
PKG_FILES	パッケージ内容	×	-
SYS_INFO	システム情報		-
USR_INV	ユーザ資産情報	×	-
INSTLD_PKG	インストール済みパッケージ情報		
J_STAT	ジョブ実行状況		
REG_DEFS	レジストリ取得項目	×	-
SOFT_INV	ソフトウェアインベントリ	×	-
LICENSE	ライセンス情報	×	-
USER	ユーザ管理情報	×	-
MS_OFFICE	Microsoft Office 製品	×	-
VIRUS	ウイルス対策製品		-
NO_CLIENT	JP1/NETM/DM 未導入ホスト情報		-
DISCOVERY_INFO	ホスト探索結果		-
DETER_HIST	起動抑止履歴	×	-

(凡例)

- : 「condition」パラメタを指定できる
- × : 「condition」パラメタを指定できない

- : パラメタファイル形式の出力では使用できないテンプレート

注

コマンドでだけ出力内容の絞り込みができます。CSV 出力ユーティリティでは絞り込みできません。

「condition」パラメタは、次の形式で指定します。

```
condition = 比較条件 [{AND|OR} 比較条件 [{AND|OR} 比較条件] ]....
```

条件の組み合わせは、「AND」や「OR」を使って設定します。条件式は「AND」が先に実行されます。例を次に示します。

X AND Y AND Z

X と Y と Z の AND 条件について情報が抽出される。

X AND Y OR Z

X と Y の AND 条件、または Z の条件について情報が抽出される。

X OR Y AND Z

Y と Z の AND 条件、または X の条件について情報が抽出される。

X OR Y OR Z

X, Y, Z のそれぞれの条件について情報が抽出される。

複数の比較条件を指定する場合は、次の点に注意してください。

- 1 行の「condition」ステートメントには、15 個までの比較条件を連結して記述できます。
- 「condition」ステートメントを 2 行以上記述した場合は、それぞれ前の「condition」ステートメントに AND で連結します。
- 「condition」ステートメントは 15 行まで記述できます。

指定できる比較条件の形式を次の表に示します。

表 4-34 比較条件の形式

比較条件	説明
A=X	項目 A の値が条件値 X と等しい。
A<X	項目 A の値が条件値 X 未満である。
A>X	項目 A の値が条件値 X より大きい。
A<=X	項目 A の値が条件値 X 以下である。
A>=X	項目 A の値が条件値 X 以上である。
A<>X	項目 A の値が条件値 X 以外である。
A: X1-X2	項目 A の値が条件値 X1 から X2 の範囲にある。
A: X1, X2, ...Xn	項目 A の値が複数の条件値 X1, X2...Xn のどれかである。
A=[*]X*	項目 A の値が特定の文字列 X を含む。「*」は任意の長さの文字列、「?」は任意の 1 文字 (1 バイト) である。 (例) dmp60?: dmp600, dmp601, dmp602 などの情報が出力される。 dmp?00: dmp100, dmp300, dmp600 などの情報が出力される。 dmp60*: dmp600, dmp6000, dmp60000 などの情報が出力される。
A<>X1-X2	項目 A の値が条件値 X1 から X2 の範囲にない。
A<>X1, X2, ...Xn	項目 A の値が複数の条件値 X1, X2...Xn のどれにも該当しない。

4. コマンド

比較条件	説明
A<>[*]X*	項目 A の値が特定の文字列 X を含まない。「*」は任意の長さの文字列、「?」は任意の 1 文字 (1 バイト) である。 <>dmp60? : dmp600, dmp601, dmp602 など以外の情報が出力される。 <>dmp60* : dmp600, dmp6000, dmp60000 など以外の情報が出力される。

注

- 比較条件中の値 A は、絞り込みのキーに使用する項目を表しています。「condition」パラメタに指定できる項目については、表 4-35 ~ 表 4-44 を参照してください。
- 入力に不足や矛盾があった場合は文法エラーとなり、イベントログにエラーメッセージが出力されます。
- 比較条件中の値と記号 (等号や不等号など) の間には、0 以上のスペースを入れられます。
- ワイルドカードは、比較条件が「A =[*]X*」、「A <>[*]X*」の形式の場合だけ指定できます。それ以外の形式では指定できません。
- ワイルドカードを指定する場合は、条件式の最後に「;」を記述してください。その場合、「*」はコメントではなくワイルドカードとして処理され、「;」以降のデータがコメントとして処理の対象外になります。「;」を指定しない場合、「*」以降がコメントとして処理の対象外になります。
- 条件式中に、「=」「<」「>」「:」「-」「AND」、および「OR」を文字列の値として指定したい場合は、直前に「¥」を付けてください。

(例) ホスト名が「AND」のホストを、条件として指定する

```
host=¥AND
```

「condition」パラメタの条件式に指定できる項目は、CSV 形式ファイルで出力する場合とパラメタファイル形式で出力する場合で異なります。指定できない項目を絞り込み条件に記述した場合エラーとなり、リターンコードの 2 が返ります。

CSV 形式ファイルで出力する場合に「condition」パラメタの条件式に指定できる項目を、テンプレートごとに、表 4-35 ~ 表 4-40 に示します。

表 4-35 CSV 形式ファイルで出力時に「condition」に指定できる項目 (SYS_INFO (システム情報) テンプレート)

項目	説明	条件値および比較条件の設定
host	ホスト名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
ipaddr	IP アドレス (システム構成のキー項目の値)	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。ピリオドの数をチェックしない。
hid	ホスト識別子	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
cpu	CPU タイプ ¹	数字だけのコードで指定する。 指定できる比較条件の形式は「A=X」、「A<>X」、 「A:X1,X2,...Xn」、および「A<>X1,X2,...Xn」。
ram	実メモリ容量	数字だけで指定する (単位: メガバイト)。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
memslot	メモリスロットの容量	数字だけで指定する (単位: メガバイト)。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
freephymem	物理メモリの空き容量	数字だけで指定する (単位: メガバイト)。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。

項目	説明	条件値および比較条件の設定
totalvirmem	仮想メモリの全容量	数字だけで指定する（単位：メガバイト）。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
freevirmem	仮想メモリの空き容量	数字だけで指定する（単位：メガバイト）。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
pagefile	ページファイルの容量	数字だけで指定する（単位：メガバイト）。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
mtype	マシン種別	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
cpuspeed	CPU クロック数	数字だけで指定する（単位：メガヘルツ）。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
extclock	CPU 外部クロック数	数字だけで指定する（単位：メガヘルツ）。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
processor	プロセッサ数	数字だけで指定する（単位：個）。単位の入力不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
maker	製造元	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
model	モデル	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
muuid	マシン UUID	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
msernum	マシンシリアルナンバー	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
biosmaker	BIOS 製造元	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
biosver	BIOS バージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
smbiosver	BIOS バージョン (SMBIOS)	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
amtfmvr	AMT ファームウェアバージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pribus	プライマリバス種別	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
secbus	セカンダリバス種別	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
os	OS 種別 ¹	数字だけのコードで指定する。 指定できる比較条件の形式は「A=X」、「A<>X」、 「A:X1,X2,...Xn」、および「A<>X1,X2,...Xn」。
distribution	Linux のディストリビューション名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
osv	OS バージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
ossernum	OS シリアルナンバー	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
bootdev	ブートデバイス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
windir	Windows ディレクトリ	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
sysdir	システムディレクトリ	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
wmi	WMI	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。

4. コマンド

項目	説明	条件値および比較条件の設定
wininst	Windows Installer	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
mbsa	MBSA	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
wua	Windows Update Agent	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
ie	インターネットエクスプローラバージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
iepatch	IE パッチ情報	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
domain_wrkgrp	ドメイン/ワークグループ	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
domain	ドメイン種別 ¹	数字だけのコードで指定する。 指定できる比較条件の形式は「A=X」、「A<>X」、 「A:X1,X2,...Xn」、および「A<>X1,X2,...Xn」。
owner	所有者名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
org	会社名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pname	コンピュータ名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
comdesc	コンピュータの説明	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
logonname	ログオンユーザ名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
username	ユーザフルネーム	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
userdesc	ユーザの説明	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
client	クライアント ¹	コードで指定する。指定できる比較条件の形式は「A=X」、 「A<>X」、「A:X1,X2,...Xn」、および「A<>X1,X2,...Xn」。
clientv	クライアントバージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
device	デバイス名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
freedisk	空き容量	数字だけで指定する（単位：メガバイト）。単位の入力 は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した 場合、エラーとなる。
dcapa	全ディスク容量	数字だけで指定する（単位：メガバイト）。単位の入力 は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した 場合、エラーとなる。
hdmodel	ハードディスクのモデル	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
hdesize	ハードディスクの容量	数字だけで指定する（単位：メガバイト）。単位の入力 は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した 場合、エラーとなる。
hdinterface	ハードディスクのインターフェイス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
hdpartmention	ハードディスクのパーティション数	数字だけで指定する（単位：個）。単位の入りは不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した 場合、エラーとなる。
cdrom	CD-ROM ドライブ	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
umem	利用可能ユーザメモリ容量	数字だけで指定する（単位：メガバイト）。単位の入り は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した 場合、エラーとなる。

項目	説明	条件値および比較条件の設定
sysres	利用可能システムリソース容量	数字だけで指定する（単位：キロバイト）。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
usp	UNIX スペシャルファイル ²	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
umt	UNIX マウントパス ²	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
keyboard	キーボード	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
mouse	マウス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
mousenum	マウスのボタン数	数字だけで指定する（単位：個）。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
monitor	モニタ種別	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
vdriver	ビデオドライバ	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
vchip	ビデオチップ	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
vram	VRAM 容量	数字だけで指定する（単位：メガバイト）。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
display	画面情報	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
soundmaker	サウンドカード製造元	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
soundname	サウンドカード製品名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
macaddr	MAC アドレス	制限なし。スペースの数をチェックしない。
nwkad	ネットワークアダプタ	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
defra	デフォルトルータアドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
subnet	サブネットマスク	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
ipaddr_inv	IP アドレス（インベントリ情報として取得した値）	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pridns	プライマリ DNS サーバアドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
secdns	セカンダリ DNS サーバアドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
dhcp	DHCP	次に示すコードで指定する。 0：無効 1：有効
dhcpsrv	DHCP サーバアドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
wins	WINS サーバアドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
prtname	プリンタ名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
prtdrv	プリンタドライバ	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
prtpaper	プリンタ用紙サイズ	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
prtkind	プリンタ種別	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
prtshare	プリンタ共有名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
prtserver	プリンタサーバ名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
prtport	プリンタポート	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。

4. コマンド

項目	説明	条件値および比較条件の設定
guestaccount	Guest アカウント	次に示すコードで指定する。 0：無効 1：有効 2：Guest アカウントなし
weakpassword	脆弱なパスワード	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。 脆弱なパスワードなしを条件にする場合は、@None を指定する。
account	アカウント	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
dayupdpass	パスワードを更新してからの経過日数	数字だけで指定する（単位：日）。単位の入力は不要。 「*」または「?」を含めると文法エラーとなる。
indefinitepass	無期限のパスワード	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。 無期限のパスワードなしを条件にする場合は、@None を指定する。
autologon	自動ログオンの設定	次に示すコードで指定する。 0：なし 1：あり
sharedfolder	共有フォルダ	次に示すコードで指定する。 0：なし 1：あり
anonymousrefer	匿名接続の制限	次に示すコードで指定する。 0：有効（匿名接続が制限されている） 1：無効（匿名接続が制限されていない）
screensaver	スクリーンセーバー	次に示すコードで指定する。 0：無効 1：有効
scrpassword	スクリーンセーバー パスワードの保護機能	次に示すコードで指定する。 0：無効 1：有効
poweronpass	パワーオンパスワード	次に示すコードで指定する。 0：設定なし 1：設定あり 2：未実装 3：不明
winfirewall	Windows ファイアウォールの設定	次に示すコードで指定する。 0：無効 1：有効（例外を許可する） 2：有効（例外を許可しない）
winautoupdate	Windows 自動更新	次に示すコードで指定する。 0：無効 1：有効
needlessrv	不要なサービス	次に示すコードで指定する。 0：なし 1：あり
harddiskencryption	ハードディスク暗号化情報	次に示すコードで指定する。 0：なし 1：一部 2：すべて
turnoffmonitor_ac	モニタの電源を切る（AC）	数字だけで指定する（単位：秒）。単位の入力不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。

項目	説明	条件値および比較条件の設定
turnoffmonitor_dc	モニタの電源を切る (DC)	数字だけで指定する (単位: 秒)。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
procsthrottle_ac	プロセッサ調整 (AC)	次に示すコードで指定する。 NONE: なし ADAPTIVE: アダプティブ DEGRADE: デグレード CONSTANT: コンスタント N/A: 不明
procsthrottle_dc	プロセッサ調整 (DC)	次に示すコードで指定する。 NONE: なし ADAPTIVE: アダプティブ DEGRADE: デグレード CONSTANT: コンスタント N/A: 不明
turnoffharddisks_ac	ハードディスクの電源を切る (AC)	数字だけで指定する (単位: 秒)。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
turnoffharddisks_dc	ハードディスクの電源を切る (DC)	数字だけで指定する (単位: 秒)。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
standby_sleep_ac	システムスタンバイ / スリープ (AC)	数字だけで指定する (単位: 秒)。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
standby_sleep_dc	システムスタンバイ / スリープ (DC)	数字だけで指定する (単位: 秒)。単位の入力は不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
systemhibernate_ac	システム休止状態 (AC)	数字だけで指定する (単位: 秒)。単位の入力不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
systemhibernate_dc	システム休止状態 (DC)	数字だけで指定する (単位: 秒)。単位の入力不要。 「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。

注 1

指定できるコードの一覧は、マニュアル「導入・設計ガイド」の「付録 C.23 netmdm_inventry」の各項目の dm_systeminf 値を参照してください。なお、client の項目については、クライアントバージョン (0x21) の dm_exkind 値を参照してください。条件として NETM/DM/P を指定する場合は、スペースではなく、0 を指定してください。

注 2

該当するテンプレートには含まれませんが、「condition」パラメタには指定できます。

表 4-36 CSV 形式ファイルで出力時に「condition」に指定できる項目 (INSTLD_PKG (インストール済みパッケージ情報) テンプレート)

項目	説明	条件値および比較条件の設定
host	ホスト名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
ipaddr	IP アドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。 ピリオドの数をチェックしない。
hid	ホスト識別子	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。

4. コマンド

項目	説明	条件値および比較条件の設定
pname	パッケージ名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pid	パッケージ識別 ID	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
newver	新バージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
newgen	新世代番号	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
oldver	旧バージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
oldgen	旧世代番号	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
date	インストール日時/ソフトウェア検索日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。

注

YYYY (西暦) には、1970 ~ 2038 の値を指定してください。1970 未満の値や 2038 を超える値を指定するとエラーとなり、リターンコードの 2 が返ります。YYYY (西暦) 以外の部分は省略でき、省略した場合は最小値が設定されます。一けたの値を指定する場合は前に 0 を入れて、けた数をそろえてください。不足したけたがあるとエラーになります。日時の指定例を次に示します。

200

エラーになる

2004

2004 年 1 月 1 日 0 時 0 分

2003101

エラーになる

20031010

2003 年 10 月 10 日 0 時 0 分

200401010101

2004 年 1 月 1 日 1 時 1 分

200312312359

2003 年 12 月 31 日 23 時 59 分

なお、これらに比較条件として「A=X」、「A<>X」、「A:X1,X2,...Xn」、「A=[*]X*」、「A<>X1,X2,...Xn」、または「A<>[*]X*」を指定した場合、エラーとなります。

表 4-37 CSV 形式ファイルで出力時に「condition」に指定できる項目 (J_STAT (ジョブ実行状況) テンプレート)

項目	説明	条件値および比較条件の設定
jname	ジョブ名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
execdate	サーバ側実行日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
execsch	サーバ側実行予定日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
sduedate	サーバ側実行期限	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
sregdate	サーバ側登録予定日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
dstname	ジョブあて先名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。階層は「!」または「¥」で表現する。
dexecdate	あて先別ジョブ実行日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。

項目	説明	条件値および比較条件の設定
pname	パッケージ名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pid	パッケージ識別 ID	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
cabid	キャビネット識別 ID	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pver	バージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pgen	世代番号	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
status	ステータス	リモートインストールマネージャの保守コードの先頭 6 文字までを指定できる。「*」や「?」を含む条件も設定できる。「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。比較条件「A:X1-X2」、「A:X1,X2,...Xn」、「A<>X1-X2」、および「A<>X1,X2,...Xn」は設定できない。

注

日時の指定方法および指定例については、表 4-36 を参照してください。

表 4-38 CSV 形式ファイルで出力時に「condition」に指定できる項目（VIRUS（ウイルス対策製品）テンプレート）

項目	説明	条件値および比較条件の設定
host	ホスト名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
ipaddr	IP アドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。ピリオドの数をチェックしない。
hid	ホスト識別子	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
sname	ソフトウェア名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
sver	ソフトウェアバージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
org	会社名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
lang	言語	数字だけのコードで指定する。指定できる比較条件の形式は「A=X」、「A<>X」、「A:X1,X2,...Xn」、および「A<>X1,X2,...Xn」。
path	パス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
size	サイズ	数字だけで指定する（単位：バイト）。単位の入力は不要。「*」、「?」を含めた条件は設定できない。指定した場合、エラーとなる。
sdate	検索日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。 ¹
idate	インストール日付	年月日を YYYYMMDD の形式で、数字だけで指定する。 ²
regorg	登録会社名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
reguser	登録所有者名	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
virusver	ウイルス検出エンジンバージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
vfilever	ウイルス定義ファイルバージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
vstation	ウイルス検出の常駐 / 非常駐設定	次に示すコードで指定する。 0：非常駐 1：常駐

注 1

日時の指定方法および指定例については、表 4-36 を参照してください。

4. コマンド

注 2

日付のフォーマットは YYYYMMDD になります。日付の指定方法は YYYYMMDDhhmm のフォーマットと同じですが、hh および mm の部分を入力するとエラーになります。日時の指定方法については、表 4-36 を参照してください。

表 4-39 CSV 形式ファイルで出力時に「condition」に指定できる項目（NO_CLIENT（JP1/NETM/DM 未導入ホスト情報）テンプレート）

項目	説明	条件値および比較条件の設定
ipaddr	IP アドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。ピリオドの数をチェックしない。
type	ノード種別 ¹	数字だけのコードで指定する。指定できる比較条件の形式は「A=X」、「A<>X」、「A:X1,X2,...Xn」、および「A<>X1,X2,...Xn」。
host	ノード名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
macaddr	MAC アドレス	制限なし。スペースの数をチェックしない。
subnet	サブネットマスク	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
netaddr	ネットワークアドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。ピリオドの数をチェックしない。
datetime	検出日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。 2
lastupdate	説明	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。 2
cmnt	ノードの説明	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。

注 1

指定できるコードについては、マニュアル「導入・設計ガイド」の「付録 C.18 netmdm_host_withoutdm」の dm_nodetype の値を参照してください。

注 2

日時の指定方法および指定例については、表 4-36 を参照してください。

表 4-40 CSV 形式ファイルで出力時に「condition」に指定できる項目（DISCOVERY_INFO（ホスト探索結果）テンプレート）

項目	説明	条件値および比較条件の設定
ipaddr	IP アドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。ピリオドの数をチェックしない。
type	ノード種別 ¹	数字だけのコードで指定する。指定できる比較条件の形式は「A=X」、「A<>X」、「A:X1,X2,...Xn」、および「A<>X1,X2,...Xn」。
host	ノード名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
macaddr	MAC アドレス	制限なし。スペースの数をチェックしない。
subnet	サブネットマスク	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
netaddr	ネットワークアドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。ピリオドの数をチェックしない。
lastupdate	最終更新日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。 2

項目	説明	条件値および比較条件の設定
cmnt	ノードの説明	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。

注 1

指定できるコードについては、マニュアル「導入・設計ガイド」の「付録 C.12 netmdm_discovery_info」の dm_nodetype の値を参照してください。

注 2

日時の指定方法および指定例については、表 4-36 を参照してください。

次に、パラメタファイル形式で出力する場合に「condition」パラメタの条件式に指定できる項目を、テンプレートごとに、表 4-41 ~ 表 4-44 に示します。コマンドを使ってパラメタファイル形式で出力すると、CSV 出力コティリティを使った場合と異なり、「あて先属性」、「パッケージ属性」テンプレートでの絞り込みもできます。

表 4-41 パラメタファイル形式で出力時に「condition」に指定できる項目（HOST_ATTR（あて先属性）テンプレート）

項目	説明	条件値および比較条件の設定
host	ホスト名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
ipaddr	IP アドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。 ピリオドの数をチェックしない。
cmnt	コメント	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
cdate	作成日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
date	更新日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
pkgupdate	インストールパッケージ情報最終更新日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
syupdate	システム情報最終更新日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
uupdate	ユーザインベントリ情報最終更新日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
rupdate	レジストリ情報最終更新日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
sfupdate	ソフトウェアインベントリ情報最終更新日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。

注

日時の指定方法および指定例については、表 4-36 を参照してください。

表 4-42 パラメタファイル形式で出力時に「condition」に指定できる項目（PKG_INFO（パッケージ属性）テンプレート）

項目	説明	条件値および比較条件の設定
pname	パッケージ名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pid	パッケージ識別 ID	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
cabid	キャビネット識別 ID	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。

4. コマンド

項目	説明	条件値および比較条件の設定
dmcode	DM 識別コード	PC または WS を指定する。それ以外を指定するとエラーになる。
pver	バージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pgen	世代番号	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
cabname	キャビネット名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。

注

該当するテンプレートには含まれませんが、「condition」パラメタには指定できます。

表 4-43 パラメタファイル形式で出力時に「condition」に指定できる項目（INSTLD_PKG（インストール済みパッケージ情報）テンプレート）

項目	説明	条件値および比較条件の設定
host	インストール済みホスト名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
ipaddr	インストール済みホスト IP アドレス	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。ピリオドの数をチェックしない。
pname	パッケージ名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pid	パッケージ識別 ID	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
install	インストール	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
newver	新バージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
newgen	新世代番号	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
oldver	旧バージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
oldgen	旧世代番号	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
date	インストール日時 / ソフトウェア検索日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。

注

日時の指定方法および指定例については、表 4-36 を参照してください。

表 4-44 パラメタファイル形式で出力時に「condition」に指定できる項目（J_STAT（ジョブ実行状況）テンプレート）

項目	説明	条件値および比較条件の設定
folder	フォルダ名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
jname	ジョブ名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
jattr	ジョブ属性	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
execdate	サーバ側実行日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
execsch	サーバ側実行予定日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
sduedate	サーバ側実行期限	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。

項目	説明	条件値および比較条件の設定
sregdate	サーバ側登録予定日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
dstname	ジョブあて先名	制限なし。階層は「!」または「¥」で表現する。
jtype	ジョブ種別	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
dexecdate	あて先別ジョブ実行日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
pname	パッケージ名称	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pid	パッケージ識別 ID	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
cabid	キャビネット識別 ID	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
dmcode	DM 識別コード	PC または WS を指定する。それ以外を指定するとエラーになる。
pver	バージョン	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
pgen	世代番号	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
cexecdate	クライアント側インストール日時	年月日時分を YYYYMMDDhhmm の形式で、数字だけで指定する。
result	実行状態	「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。
status	ステータス	リモートインストールマネージャの保守コードの先頭 6 文字までを指定できる。「*」や「?」を含む条件も設定できる。「,」または「>」を含めると文法エラーとなる。比較条件「A:X1-X2」、「A:X1,X2,...Xn」、「A<>X1-X2」、および「A<>X1,X2,...Xn」は設定できない。

注

日時の指定方法および指定例については、表 4-36 を参照してください。

unicode=Unicode の CSV 形式ファイル出力の有無

Unicode の CSV 形式ファイルを出力するかどうかについて、次のどちらかを指定します。

Y

Unicode に変換した CSV 形式ファイルを出力します。ただし、Unicode の CSV 形式ファイルの出力でのエンコーディングは UTF-8 だけです。

なお、次に示す条件をすべて満たす場合に有効となります。

- ・ JP1/NETM/DM Manager で実行している。
- ・ JP1/NETM/DM で次に示すリレーショナルデータベースを使用している。

Microsoft SQL Server 2005 以降

- ・ 次に示す、出力で使用するテンプレートを設定している。

- ・ システム情報
- ・ インストール済みパッケージ情報
- ・ レジストリ取得項目
- ・ Microsoft Office 製品
- ・ ウィルス対策製品

また、「format」パラメタで「par」を指定した場合は、「Y」を指定しても無効となります。

N

Unicode に変換しない CSV 形式ファイルを出力します。

なお、Unicode の CSV 形式ファイル出力の有無をコマンドの引数とパラメタファイルの両方に指定した場合は、エラーとなります。両方とも指定を省略した場合は、Unicode の CSV 形式ファイルを出力

4. コマンド

するためのレジストリ設定が有効となります。このレジストリの設定については、マニュアル「構築ガイド」の「4.6 レジストリの設定 (JP1/NETM/DM Manager)」を参照してください。

また、Unicode で CSV 形式ファイルを出力する場合、変換ルールに従って変換されます。変換ルールは、CSV 出力ユティリティと同じです。詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「9.1.4 Unicode で CSV 形式ファイルを出力する場合の変換ルール」を参照してください。

(3) 注意事項

比較条件や所属グループの指定数が多くなると、DBMS の制限によって RDB アクセスエラーが発生するおそれがあります。その場合は、指定数を減らしてください。

指定数の上限値の例として、ホスト名称の条件を指定する場合の上限値を次の表に示します。

DBMS の種類	バージョン	ホスト名称の条件の指定上限値
Embedded RDB	08-51	255
Microsoft SQL Server	7.0	2,041
Oracle	9i	1,000

注 JP1/NETM/DM Manager のバージョンです。

4.26.15 PACKAGING_INFORMATION (パッケージ属性情報の設定)

PACKAGING_INFORMATION タグでは、パッケージを識別するための情報を設定します。このタグは、deminst コマンド、dcmpack コマンド、dcmpkget コマンド、および dcmpkrm コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
package_name	パッケージ名	/p パッケージ名
package_id	パッケージ識別 ID	/I パッケージ識別 ID
version_revision	バージョン / リビジョン	/v バージョン / リビジョン
generation	世代番号	/G 世代番号
cabinet_name	キャビネット名	/c キャビネット名
cabinet_id	キャビネット識別 ID	/C キャビネット識別 ID
package_code	コード種別	/KW または /KP

(1) 形式

```
PACKAGING_INFORMATION{
package_name=パッケージ名
package_id=パッケージ識別ID
version_revision=バージョン/リビジョン
generation=世代番号
cabinet_name=キャビネット名
cabinet_id=キャビネット識別ID
package_code=コード種別
}
```

(2) 説明

package_name= パッケージ名

パッケージングするユーザプログラム，データの名前を設定します。50文字までのパッケージ名が設定できます。「¥」およびスペースは使用できません。

package_id= パッケージ識別 ID

パッケージごとのユニークな ID を付けます。JP1/NETM/DM は、この ID を基にパッケージを識別します。ID は 1 ~ 44 文字で指定してください。半角英数字（英字は大文字だけ）、「-」（ハイフン）、および「_」（アンダーバー）が使用できます。

version_revision= バージョン / リビジョン

パッケージのバージョン・リビジョンを設定します。6 けたまで設定でき、半角英数字（英字は大文字だけ）および「/」（スラッシュ）が使用できます。また、「¥増分値[:開始値]」を指定すると、dcmpack コマンド実行時に自動的にカウントアップさせることができます。この場合、「¥増分値」の直前に任意の半角英数字を指定できます。ただし、「¥増分値」部分にセットされる数字とのけた数の合計が 6 けたを超えないよう注意してください。

自動カウントアップの運用では、開始値からスタートして、登録に成功するまで（すでに登録されているパッケージとバージョン / リビジョンの数値が重ならなくなるまで）増分値ずつ加算されます。開始値を省略した場合は 0 からスタートします。値が 6 けたを超えるとエラーとなります。

パラメタファイルで自動カウントアップを指定した場合は、dcmpack コマンドでパッケージングを実行するたびに、「:」直後に次回開始値（登録した値 + 増分値）が上書きされます。開始値が 6 けたを超えると 0 にリセットされます。コマンドの引数で自動カウントアップを指定した場合は、開始値は毎回初期値にリセットされます。

generation= 世代番号

バージョン / リビジョンのほかに、世代番号を付けられます。世代番号によって、同一のバージョン / リビジョンを区分できます。

世代番号は、4 けたまでの半角英数字（英字は大文字だけ）で設定してください。また、「¥増分値[:開始値]」を指定すると、dcmpack コマンド実行時に自動的にカウントアップさせることができます。この場合、「¥増分値」の直前に任意の半角英数字を指定できます。ただし、「¥増分値」部分にセットされる数字とのけた数の合計が 4 けたを超えないよう注意してください。

自動カウントアップの運用では、開始値からスタートして、登録に成功するまで（すでに登録されているパッケージと世代番号の数値が重ならなくなるまで）増分値ずつ加算されます。開始値を省略した場合は 0 からスタートします。値が 4 けたを超えるとエラーとなります。

パラメタファイルで自動カウントアップを指定した場合は、dcmpack コマンドでパッケージングを実行するたびに、「:」直後に次回開始値（登録した値 + 増分値）が上書きされます。開始値が 4 けたを超えると 0 にリセットされます。コマンドの引数で自動カウントアップを指定した場合は、開始値は毎回初期値にリセットされます。

なお、UNIX のクライアントへ配布するパッケージの場合は、必ず 4 けたの値を指定してください。4 けたで指定しないと、パッケージングは成功しますが、リモートインストール時にエラーとなります。

cabinet_name= キャビネット名

キャビネット名をユニークに設定します。32 文字までのキャビネット名が設定できます。「¥」、「/」、「*」、「"」、「:」、「;」およびスペースは使用できません。

cabinet_id= キャビネット識別 ID

キャビネットごとにユニークな ID を、2 文字の半角英数字（英字は大文字だけ）で指定します。

package_code= コード種別

リモートインストールするパッケージが PC 用か WS 用かを「P」または「W」で指定します。コマンドの引数で指定する場合は、「/K」の直後に「P」または「W」を指定します。

deminst コマンド実行時にこのパラメタを省略すると、「P」（PC 用）が仮定されますが、UNIX のクラ

4. コマンド

インタートにもリモートインストールできます。なお、UNIX 版 JP1/NETM/DM で作成したパッケージをリモートインストールする場合は、「W」(WS 用)を指定する必要があります。dcmpkget コマンド実行時にこのパラメタを省略すると、「P」(PC 用)が仮定されます。dcmpkrm コマンドでは必ず指定します。dcmpack コマンドでは指定しても無効になります。

- P
PC 用のパッケージです。
- W
WS 用のパッケージです。

(3) 指定できる予約語

このタグでは、予約語として ¥CY, ¥CM, ¥CD, ¥CH, ¥CN, ¥CS, ¥BY, ¥BM, ¥BD, ¥BH, ¥BN, ¥BS, ¥VERSION, ¥PKGID, ¥FILE, ¥SIZE, ¥BASE が使用できます。ただし次の制限があります。

- 予約語が使用できるのは、このタグまたは引数を dcmpack コマンドで使用する場合だけです。dcmnst コマンド、dcmpkget コマンド、および dcmpkrm コマンドでは、予約語は使用できません。
- package_id (/I) に ¥VERSION および ¥PKGID は使用できません。
- version_revision (/v) に ¥VERSION は使用できません。
- version_revision (/v) および generation (/G) に「¥増分値」と予約語とを同時に指定することはできません。

(4) 注意事項

dcmnst コマンドおよび dcmpkget コマンドで複数のパッケージを指定する場合、一つの PACKAGING_INFORMATION タグ内に複数のパッケージのパラメタを指定できます。パッケージ情報ごとに括弧 ({ }) で囲んで指定してください。PACKAGING_INFORMATION タグに複数のパッケージを指定する例を次に示します。

```
PACKAGING_INFORMATION{
{*パッケージ1の情報
package_name=PACKAGE1
package_id=PACK01
:
}
{*パッケージ2の情報
package_name=PACKAGE2
package_id=PACK02
:
}
```

4.26.16 PACKAGING_SOURCE (パッケージングするファイルの指定)

PACKAGING_SOURCE タグでは、パッケージングするファイルまたはディレクトリを指定します。このタグは、dcmpack コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
file_path	パッケージ対象ファイル名	/P パッケージ対象ファイル名
base_fullpath	パッケージ基準ディレクトリパス	/B パッケージ基準ディレクトリパス

(1) 形式

```
PACKAGING_SOURCE{
```

```
file_path=パッケージング対象ファイル名
base_fullpath=パッケージング基準ディレクトリパス
}
```

(2) 説明

file_path= パッケージング対象ファイル名

パッケージングするファイルまたはディレクトリを、base_fullpath で指定したディレクトリからの相対パスで指定します。ただし、UNIX クライアントに配布するパッケージの場合は、階層の区切り文字には「¥」ではなく「/」を使用してください。パッケージのインストール時は、インストール先ディレクトリ下に base_fullpath からのディレクトリ構造が復元されます。

同一ディレクトリ（ルートディレクトリも含む）下の複数のファイル、またはサブディレクトリを指定する場合は各パスを「;」で区切るか、file_path を複数記述してください。

指定値にスペースを含めることもできますが、「;」の前後にスペースを指定するとリターンコード「2」のエラーとなります。また、指定値を「"」で囲って指定しないでください。ただし、コマンドの引数で指定する場合は、スペースを含む指定値は「"」で囲んでください。

file_path を指定しない場合は、base_fullpath に指定されたパス以下のファイルがすべてパッケージングされます。base_fullpath にファイルが指定されている場合は、指定されたファイルだけがパッケージングされます。

base_fullpath= パッケージング基準ディレクトリパス

パッケージングするファイルまたはディレクトリの基準となるディレクトリのフルパスを指定してください。

ドライブを指定する場合は、コロン（:）までを指定してください。例えば、A ドライブの FD の内容をすべてパッケージングするには、

```
base_fullpath = A:
```

と記述してください。

```
base_fullpath = A:¥
```

と記述するとエラーとなります。

4.26.17 SCHEDULE（リモートインストールのスケジュール指定）

SCHEDULE タグでは、リモートインストールのスケジュールなどを指定します。このタグは、dcmcoll コマンドおよび dcmpack コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
expiration_date	中継システムでのパッケージ保管期限	/x 中継システムでのパッケージ保管期限
expiration_days	中継システムでのパッケージ保管日数	/ed 中継システムでのパッケージ保管日数
installation_date_and_time	インストール日時	/d インストール日時
installation_timing	インストールタイミング	/tS または /tN

(1) 形式

```
SCHEDULE {
expiration_date=中継システムでのパッケージ保管期限
expiration_days=中継システムでのパッケージ保管日数
installation_date_and_time=インストール日時
```

4. コマンド

```
installation_timing=インストールタイミング  
}
```

(2) 説明

expiration_date= 中継システムでのパッケージ保管期限

パッケージを中継システムで保管する期限を「YYMMDD」の形式で指定します。

YY：西暦年の下2けた(00～35)

MM：月(01～12)

DD：日(01～31)

ここで指定した期限に達すると、中継システムで保管中のパッケージは自動的に削除されます。保管期限を過ぎたパッケージや当日期限のパッケージを配布すると、翌日削除されます。

実際の運用では、中継システム下のすべてのクライアントでインストールが完了するまで、パッケージを保管しておく必要があります。例えば、パッケージの配布とインストールに3週間必要であれば、3週間日以降の日を指定します。

このパラメタを省略すると、パッケージング時の日付にパッケージで指定された「中継システムでのパッケージ保管日数」の日数を加算した日付が設定されます。

(例)

条件1 パッケージング時の日付：2001年8月22日

条件2 「中継システムでのパッケージ保管日数」の設定：10日

この場合にパラメタに設定される値：2001年9月1日

なお、パッケージで値を指定していない場合は、90日後の日付が設定されます。

expiration_days= 中継システムでのパッケージ保管日数

保管日数を数値で指定します。指定できる範囲は、1～32,000です。指定した値が変換後に2035年12月31日以降になる場合、一律2035年12月31日に設定されます。

expiration_dateと同時に指定した場合は、expiration_dateが優先されexpiration_daysの指定は無視されます。

expiration_dateおよびexpiration_daysの指定がない場合、パッケージのデフォルトとして設定された日数になります。パッケージにデフォルトが指定されていない場合は、90日後が設定されます。指定できる範囲外の数値が指定された場合は、「コマンド入力値不正」のエラーとなり、イベントビューアにメッセージが出力されます。

installation_date_and_time= インストール日時

パッケージをリモートインストールする日時を「YYMMDDhh:mm」の形式で指定します。

YY：西暦年の下2けた(00～99)

MM：月(01～12)

DD：日(01～31)

hh：時(00～23)

mm：分(00～59)

installation_timing= インストールタイミング

demcoll コマンドで使用する場合はファイルを収集するタイミングを、dempack コマンドで使用する場合はパッケージをインストールするタイミングを、「S」(システム起動時)または「N」(システム稼働中)で指定します。コマンドの引数で指定する場合は、「/t」の直後に「S」または「N」を指定します。デフォルトは、「N」(システム稼働中)です。

- S (システム起動時)

クライアントのシステム起動時に、収集またはインストールされます。インストール日時を指定している場合は、指定した日時以降の最初のシステム起動時にパッケージがインストールされます。

- N (システム稼働中)

クライアントのシステム稼働中に、収集またはインストールされます。インストール日時を指定している場合は、指定した日時にパッケージがインストールされます。ただし、指定した日時にクライアントが起動していないときは、次のシステム起動時にインストールされます。

4.26.18 SCRIPTS (インストールスクリプトの指定)

SCRIPTS タグでは、ユーザが作成したインストールスクリプトファイル (User.sci) へのフルパスを指定します。コマンドから読み込むスクリプトファイルの名称は必ず「User.sci」としてください。

このタグは、dcmpack コマンドで使用します。ただし、UNIX のクライアントへ配布するパッケージの場合は指定できません。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
installation_script	インストールスクリプトのパス	/Z インストールスクリプトのパス

(1) 形式

```
SCRIPTS{
  installation_script=インストールスクリプトのパス
}
```

(2) 説明

installation_script= インストールスクリプトのパス

ユーザが作成したインストールスクリプトを使用する場合、そのパスをフルパスで指定します。なお、「;」および「=」を含むパスは指定できません。

インストールスクリプトを指定しない場合、自動作成されます。

4.26.19 SOFTWARE_CONDITIONS (ソフトウェア条件の指定)

SOFTWARE_CONDITIONS タグでは、リモートインストールの前提とするソフトウェアの条件を指定します。このタグは、dcmpack コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
condition	ソフトウェア条件	/I ソフトウェア条件

(1) 形式

```
SOFTWARE_CONDITIONS{
  condition=ソフトウェア条件
}
```

(2) 説明

condition= ソフトウェア条件

リモートインストールの前提とするソフトウェアの条件を、次の形式で指定します。

パッケージ識別 ID 等符号 比較バージョン / リビジョン : 比較世代番号

パッケージ識別 ID

リモートインストールの前提とするソフトウェアのパッケージ識別 ID を指定します。パッケージ識別 ID は、PACKAGING_INFORMATION タグの package_id で指定された ID を指定してくだ

4. コマンド

さい。
等符号
「=」「>」「>=」「<」「<=」「<>」の中から指定してください。

比較バージョン/リビジョン

比較対象となるバージョン/リビジョンを 8 けたまでの数字で指定します。

比較世代番号

比較対象となる世代番号を 4 けたまでの数字で指定します。

(3) 注意事項

- UNIX のクライアントへ配布するパッケージの場合、このタグは指定できません。
- ソフトウェア条件は複数指定できます。複数指定した場合は論理積 (AND) の条件となります。すべての条件を満たした場合にインストールが実行されます。
- ソフトウェア条件をコマンドの引数 (/I) で指定する場合は、システム条件 (/O) と合わせて 10 個まで指定できます。

(4) 指定例

```
condition=P-2412-3554>0500:0000
```

バージョンが「05-00」、世代番号が「0000」より大きいバージョンのパッケージ識別 ID が P-2412-3554 であるソフトウェアがインストールされている場合にインストールを実行します。

```
condition=P-2412-3554<>0510:0000
```

バージョンが「05-10」、世代番号が「0000」と異なるバージョンのパッケージ識別 ID が P-2412-3554 であるソフトウェアがインストールされている場合にインストールを実行します。

4.26.20 SYSTEM_CONDITIONS (システム条件の指定)

SYSTEM_CONDITIONS タグでは、リモートインストール時のインストール先ディレクトリ、およびインストールの前提となるクライアントのシステム条件を指定します。このタグは、dempack コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
directory	インストール先ディレクトリ	/D インストール先ディレクトリ
condition	システム条件	/O システム条件

(1) 形式

```
SYSTEM_CONDITIONS{  
  directory=インストール先ディレクトリ  
  condition=システム条件  
}
```

(2) 説明

directory= インストール先ディレクトリ

インストール先ディレクトリのパスを指定します。なお、「"」を含むパスは指定できません。指定例を次に示します。

(例 1) 配布先が PC のクライアントの場合

```
directory=C:¥temp¥data
```

(例2) 配布先が UNIX のクライアントの場合

```
directory=/temp/data
```

省略すると、パッケージ基準ディレクトリパス (PACKAGING_SOURCE タグの base_fullpath, またはコマンドの引数 /B で設定されたディレクトリ) が仮定されます。

condition= システム条件

配布先のクライアントのシステム条件を指定します。配布先が PC の場合に指定できます。システム条件の指定方法を条件ごとに (3) ~ (7) に示します。

(3) ハードディスクの空き容量を条件にする場合

ハードディスクの空き容量を条件にする場合のシステム条件の指定方法を次に示します。

condition= H: ドライブ名 等符号 容量

ドライブ名

ドライブを表す半角英数字 1 文字を指定します。

等符号

「=」「>」「>=」「<」「<=」のうち、条件に合うものを指定します。

容量

メガバイト単位で指定してください。

指定例

「C ドライブに 1 ギガバイトより大きい空き容量がある場合」という条件は次のように指定します。

```
condition=H:C> 1000
```

(4) CPU 種別を条件にする場合

CPU 種別を条件にする場合のシステム条件の指定方法を次に示します。

condition= C 等符号 CPU 種別

等符号

「=」または「<>」を指定します。

CPU 種別

次の文字列を指定してください。

- AMD64 または Intel EM64T の場合: 「AMD64/Intel EM64T」
- Intel i386 相当の場合: 「intel 80386」
- Intel i486 相当の場合: 「intel 80486」
- Intel Pentium 相当の場合: 「intel Pentium」
- COMPAQ Alpha または HP Alpha の場合: 「DEC Alpha」
- Intel IPF 相当の場合: 「Intel IPF」
- PowerPC の場合: 「PowerPC」

指定例

「CPU が Pentium 相当の場合」という条件は次のように指定します。

```
condition=C=intel Pentium
```

注意事項

- intel 80486 を Windows NT または Windows 98 で使用しているクライアントの場合、システム条件を指定できません。指定するとインストールがエラーになります。

(5) コプロセッサの有無を条件にする場合

コプロセッサの有無を条件にする場合、次のように指定してください。

コプロセッサがある場合

condition=E=Y

コプロセッサがない場合

condition=E=N

(6) 実メモリ、ユーザ利用可能メモリ、GDI システムリソース容量を条件にする場合

実メモリ、ユーザ利用可能メモリ、または GDI システムリソース容量を条件にする場合の、システム条件の指定方法を次に示します。

condition= 容量種別 等符号 容量

容量種別

R: 実メモリ容量

U: ユーザ利用可能メモリ容量

G: GDI システムリソース容量

等符号

「=」「>」「>=」「<」「<=」のうち、条件に合うものを指定します。

容量

実メモリ容量、およびユーザ利用可能メモリ容量の場合は、メガバイト単位で指定してください。GDI システムリソース容量の場合はキロバイト単位で指定してください。

指定例

「実メモリ容量が 16 メガバイト以上の場合」という条件は次のように指定します。

condition=R>=16

(7) OS バージョンを条件にする場合

OS バージョンを条件にする場合のシステム条件の指定方法を次に示します。

condition= O 等符号 OS バージョン

等符号

「=」「>」「>=」「<」「<=」のうち、条件に合うものを指定します。

OS

「Any」「Windows」「Windows8」「WindowsServer2012」「Windows7」

「WindowsServer2008R2」「WindowsServer2008」「WindowsVista」

「WindowsServer2003」「WindowsXP」「Windows2000」「WindowsNT」「WindowsMe」

「Windows98」「Windows95」「MSDOS」のうち、条件に合うものを指定します。「Any」は「すべての Windows」を意味します。

バージョン

OS のバージョン、リビジョン、世代番号を *vvrrt* の形式で 5 けたまでの数字で指定します。

vv

バージョン

rr

リビジョン

t

タイプ (V: 日本語版 MS-DOS, なし: 英語版 MS-DOS)

(例)

MS-DOS 6.2/V の場合、「0620V」になります。

Windows 95 の場合、「0400」になります。

指定例

「OS のバージョンが 4.00 以上の Windows の場合」という条件は次のように指定します。

```
condition=O>=Any 0400
```

(8) 注意事項

- UNIX クライアント用のパッケージを作成する場合は、次の点に注意してください。
- システム条件は指定できません。ディレクトリの指定は有効になりますが、ドライブは指定しても無視されます。
- インストール先ディレクトリは、半角 64 文字を超えない範囲で指定してください(ドライブ名および「:」を含む)。半角 64 文字を超えた場合、配布したパッケージはルートディレクトリの直下にインストールされます。
- システム条件は複数指定できます。複数指定した場合は論理積 (AND) の条件となります。すべての条件を満たした場合にインストールが実行されます。
- システム条件をコマンドの引数 (/O) で指定する場合は、ソフトウェア条件 (/I) と合わせて 10 個まで指定できます。

4.26.21 USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS (外部プログラムの指定)

USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS タグでは、インストール前後およびインストールエラー時にクライアントで起動させる外部プログラムを指定します。このタグは、dcmcoll コマンド、dcmpack コマンド、および dcmstsw コマンドで使用します。

指定できるパラメタ、およびコマンドの引数との対応を次の表に示します。

パラメタ	内容	コマンドの引数
external_program_executed_before_installation ¹	インストール前起動外部プログラム	/b インストール前起動外部プログラム
external_program_executed_after_installation	インストール後起動外部プログラム	/a インストール後起動外部プログラム
external_program_error_handler ²	インストールエラー時起動外部プログラム	/e インストールエラー時起動外部プログラム
external_program_handler	起動外部プログラム	/ep 起動外部プログラム
exit ²	外部プログラム処理結果の通知方式	/rbR, /rbM, /raR, /raM, /reR, /reM
action ²	処理結果エラー時の取り扱い	/ybC, /ybS, /yaC, /yaS
wait ²	監視方式	/wbU, /wbT, /wbG, /waU, /waT, /waG, /weU, /weY
timeout	<ul style="list-style-type: none"> • 監視時間 • 最大実行期間 (dcmstsw コマンドの場合) 	<ul style="list-style-type: none"> • /n 監視時間 • /wt 最大実行期間 (dcmstsw コマンドの場合)
wait_code	監視コード	/wc 監視コード

注 1

4. コマンド

UNIX のクライアントへ配布するパッケージの場合、SCHEDULE タグの `installation_date_and_time` パラメタと同時に指定すると、このパラメタは無視されます。

注 2

UNIX のクライアントへ配布するパッケージの場合、パラメタを指定しても無視されます。

起動する外部プログラムには、GUI を持たないプログラムを指定してください。GUI を持つプログラムを起動しても、GUI は表示されません。

また、外部プログラムには 16bit のアプリケーションを指定しないでください。Windows NT のクライアントに対して、外部プログラムに 16bit アプリケーションを指定したバックグラウンドインストールモードのパッケージをリモートインストールすると、クライアントがハングアップします。

(1) 形式

```
USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS{
{
external_program_executed_before_installation=
インストール前起動外部プログラム
exit=外部プログラム処理結果の通知方式
action=処理結果エラー時の取り扱い
wait=監視方式 (U, T, またはG)
}
}
external_program_executed_after_installation=
インストール後起動外部プログラム
exit=外部プログラム処理結果の通知方式
action=処理結果エラー時の取り扱い
wait=監視方式 (U, T, またはG)
}
}
external_program_error_handler=
インストールエラー時起動外部プログラム
exit=外部プログラム処理結果の通知方式
wait=監視方式 (U またはY)
timeout=監視時間
}
}
external_program_handler=
起動外部プログラム
timeout=最大実行期間
wait_code=監視コード
}
}
```

(2) 説明

`external_program_executed_before_installation=` インストール前起動外部プログラム
インストール (またはファイル収集) の直前に起動する外部プログラムのパスをフルパスで指定します。スペースを含むパス名を指定する場合は、値を「"」で囲んで指定してください。
外部プログラムのパスはインストールの場合は半角で 256 文字まで、ファイル収集の場合は半角で 128 文字まで指定できます。これらの文字数を超過して指定した場合は、リターンコード「2」のエラーとなります。

`external_program_executed_after_installation=` インストール後起動外部プログラム
インストール (またはファイル収集) の直後に起動する外部プログラムのパスをフルパスで指定します。スペースを含むパス名を指定する場合は、値を「"」で囲んで指定してください。
外部プログラムのパスはインストールの場合は半角で 256 文字まで、ファイル収集の場合は半角で 128 文字まで指定できます。これらの文字数を超過して指定した場合は、リターンコード「2」のエラーとなります。

`external_program_error_handler=` インストールエラー時起動外部プログラム

インストール（またはファイル収集）エラー時に起動する外部プログラムのパスをフルパスで指定します。スペースを含むパス名を指定する場合は、値を「"」で囲んで指定してください。

外部プログラムのパスはインストールの場合は半角で 256 文字まで、ファイル収集の場合は半角で 128 文字まで指定できます。これらの文字数を超過して指定した場合は、リターンコード「2」のエラーとなります。

external_program_handler= 起動外部プログラム

指定した実行状況になった時に起動する外部プログラムのパスをフルパスで指定します。スペースを含むパス名を指定する場合は、値を「"」で囲んで指定してください。

外部プログラムのパスは半角で 256 文字まで指定できます。256 文字を超過して指定した場合は、リターンコード「4」のエラーとなります。

exit= 外部プログラム処理結果の通知方式

外部プログラムの処理結果の通知方式を「R」（リターンコード）または「M」（メッセージ）で指定します。コマンドの引数で指定する場合は、「/rb」（インストール前起動プログラムの場合）、「/ra」（インストール後起動プログラムの場合）、または「/re」（インストールエラー時起動プログラムの場合）の直後に「R」または「M」を指定します。

デフォルトは、INSTALLATION_METHOD タグの installation_mode（またはコマンドの引数 /m）で指定されたインストールモードによって異なります。GUI インストールモードの場合は「M」、バックグラウンドインストールモードの場合は「R」になります。

- R
外部プログラムのリターンコードで通知します。
- M
外部プログラムが規定のメッセージを出すことで通知します。

action= 処理結果エラー時の取り扱い

外部プログラムの処理結果がエラーの場合に、インストールを続行するかどうかを「C」（続行する）または「S」（中止する）で指定します。コマンドの引数で指定する場合は、「/yb」（インストール前起動プログラムの場合）または「/ya」（インストール後起動プログラムの場合）の直後に「C」または「S」を指定します。デフォルトは「S」です。

- C
エラーであっても正常と見なし、インストールを続行します。
- S
インストールをエラーとし、インストール処理を中止します。

wait= 監視方式

外部プログラムが処理結果を通知するまでのインストール処理の取り扱いを「U」、「T」、「G」、または「Y」で指定します。コマンドの引数で指定する場合は、「/wb」（インストール前起動プログラムの場合）、「/wa」（インストール後起動プログラムの場合）、または「/we」（インストールエラー時起動プログラムの場合）の直後に「U」、「T」、「G」、または「Y」を指定します。デフォルトは「U」です。「T」、「G」、または「Y」を指定した場合、「監視時間」で外部プログラムの応答を監視する時間の上限値を指定してください。

- U
処理結果が通知されるまでインストール処理を中断します。
- T
中断時間が監視時間を経過した場合、インストールをエラーと見なし、インストール処理を中止します。
- G
中断時間が監視時間を経過した場合、正常と見なし、インストール処理を続行します。

- Y

中断時間が監視時間を経過した場合、インストールエラー時起動プログラムの処理を続行します。

timeout= 監視時間 (dcmstsw コマンドの場合は最大実行期間)

dcmpack コマンドの場合

外部プログラムの応答を監視する時間の上限値を指定します。監視時間は秒単位で、0 ~ 21,600 (6時間) の範囲で指定してください。応答を監視しない場合は「0」を指定します。デフォルトは「1」です。

監視時間の指定は、「インストール直前」、「インストール直後」、「インストールエラー」で起動するすべての外部プログラムに共通の値となります。なお、「監視方式」で「U」を指定した場合は指定が無効になります。

dcmstsw コマンドの場合

ジョブの実行状況を監視する最大実行期間を指定します。実行期間は秒単位で、1 ~ 10,000,000 の範囲で指定してください。デフォルトは 86,400 (1日) です。

wait_code= 監視コード

外部プログラムを起動する契機となる、ジョブ実行状態または保守コードを指定します。複数指定する場合は間を「,」(コンマ) で区切ってください。複数指定すると OR 条件で設定されます。

なお、ジョブ実行状態は、JP1/NETM/DM Manager の配布管理システムでだけ指定できます。

ジョブ実行状態を指定する場合

次の値の中から一つ以上を指定してください。デフォルトは「ERROR」です。

- NORMAL
正常終了した。
- TRANS_WAIT
配布管理システムで転送待ち状態。
- TRANSMITTED
クライアントへ転送中または実行中。
- REGISTERED
ID ジョブを ID 管理中継へ転送中。
- CLT_NOTREADY
起動に失敗した。
- CLT_SERVICE_OFF
JP1/NETM/DM が停止しているため、起動に失敗した。
- CLT_POWER_OFF
PC の電源がオフのため、起動が失敗した。
- CLT_NETWORK_ERR
ネットワーク障害のため、起動が失敗した。
- SUSPENDED
中継で中断指示があった。
- INST_WAIT
インストール / 収集待ち。
- HOLD_EXEC
ジョブが保留された。
- REJECTED
インストールが拒否された。
- ID_NOPKG
ID ジョブで中継保管パッケージが削除された。

- CANCEL
クライアントでジョブがキャンセルされた。
- CONNECT_ERROR
通信エラーが発生した。
- ERROR
ジョブ実行エラーが発生した。
- DELETING
中継するシステムまたはクライアントでジョブを削除中。

注

JP1/NETM/DM Manager のセットアップで、[サーバカスタマイズオプション] パネルの「起動失敗要因を細分化する」チェックボックスがオンの場合に指定できます。ただし、「CLT_NOTREADY」と同時に指定しても無視されます。

なお、チェックボックスがオフの場合は、これらの実行状態を指定しても、外部プログラムを起動できません。

保守コードを指定する場合

保守コードを 12 けたで指定してください。ワイルドカードを使用できます。

(例)

保守コードの左から 9 番目が 8, 10 番目が 2: "????????82??"

(3) 注意事項

- 「インストール前起動外部プログラム」、「インストール後起動外部プログラム」、「インストールエラー時起動外部プログラム」、および「起動外部プログラム」はそれぞれ一つまで指定できます。
- インストール前後に起動する外部プログラムを指定する場合、システム条件 (SYSTEM_CONDITIONS) またはソフトウェア条件 (SOFTWARE_CONDITIONS) を指定したときは、exit, action, wait の指定は無効になります。
- demcoll コマンドで使用する場合は、external_program_handler, exit, action, wait, および timeout の指定は無効になります。
- demstsw コマンドで使用する場合は、external_program_handler, timeout, wait_code 以外の指定は無効になります。

(a) UNIX クライアントで外部プログラムを起動する場合の注意事項

dcmpack コマンドで、UNIX クライアントへ配布するパッケージに外部プログラムの起動を設定する場合、次のことに注意してください。

- Windows クライアント向けパッケージと異なり、external_program_error_handler, exit, action, および wait パラメータは指定できません。
- external_program_executed_before_installation および external_program_executed_after_installation パラメータは、SCHEDULE タグの installation_date_and_time パラメータを指定したかどうかで外部プログラムのパスの指定方法が異なります。
- 「<」「>」「|」「&」「\$」などのシェルプログラムで特別な意味を持つ文字は使わないでください。指定方法の違いを次の表に示します。

4. コマンド

installation_date_and_time の指定	起動する外部プログラムのパス指定方法	
	external_program_executed_before_installation	external_program_executed_after_installation
あり	指定できません。	<ul style="list-style-type: none"> • 半角 40 文字以内で指定してください。 • スペースを含んだパスは指定できません。 • 後処理プログラムに引数が存在する場合は、パスと引数の全体を「"」(ダブルクォーテーション)で囲んでください。 • 引数がスペースを含む場合は、スペースを含む引数を「'」(シングルクォーテーション)で囲んでください。
なし	<ul style="list-style-type: none"> • external_program_executed_before_installation だけ指定する場合、半角 60 文字以内で指定してください。 • external_program_executed_after_installation だけ指定する場合、半角 64 文字以内で指定してください。 • external_program_executed_before_installation と external_program_executed_after_installation を両方指定する場合、合わせて半角 60 文字以内で指定してください。 • 文字列(引数)の数は最大 18 個指定できます。 • 複数の連続したスペースは 1 個の区切り文字として扱われます。 • 「'」(シングルクォーテーション)は引数として扱われません。 • シェル変数は文字列として扱われるため、無効になります。 • 応答待ちになる処理を指定しないでください。 	

また、dcmcoll コマンドで UNIX クライアントに対して外部プログラムの起動を設定する場合、次のことに注意してください。

- Windows クライアントの場合と異なり、external_program_error_handler パラメタは指定できません。
- 起動する外部プログラムのパスは、半角 64 文字以内で指定してください。65 文字以上を指定した場合は、先頭から 64 文字分が有効となります。
- 起動する外部プログラムのパスにスペースを含めることはできません。
- 起動する外部プログラムに引数は指定できません。

なお、パスの指定方法が間違っていた場合、パッケージングとジョブの実行はできますが、配布先の UNIX クライアントで外部プログラムは起動しません。このとき、ジョブはエラーにならず、正常終了しますのでご注意ください。

4.27 予約語の指定方法

JOB_ATTRIBUTE タグ、PACKAGING_INFORMATION タグ、およびこれに該当するコマンドの引数では、指定値として予約語を使用できます。コマンドは、予約語を実際の値に置換して処理します。

4.27.1 JP1/NETM/DM のコマンドで使用できる予約語

JP1/NETM/DM のコマンドで使用できる予約語と、置換後の値について次の表に示します。

表 4-45 JP1/NETM/DM のコマンドで使用できる予約語

予約語	置換後の値
¥CY	コマンド実行時点の西暦年の下 2 けた。
¥CM	コマンド実行時点の月 2 けた。
¥CD	コマンド実行時点の日 2 けた。
¥CH	コマンド実行時点の時 2 けた。
¥CN	コマンド実行時点の分 2 けた。
¥CS	コマンド実行時点の秒 2 けた。
¥BY	base_fullpath 指定値の最終更新時刻の、西暦年の下 2 けた。
¥BM	base_fullpath 指定値の最終更新時刻の月 2 けた。
¥BD	base_fullpath 指定値の最終更新時刻の日 2 けた。
¥BH	base_fullpath 指定値の最終更新時刻の時 2 けた。
¥BN	base_fullpath 指定値の最終更新時刻の分 2 けた。
¥BS	base_fullpath 指定値の最終更新時刻の秒 2 けた。
¥VERSION	PACKAGING_INFORMATION の version_revision に指定された一つ目の値。
¥GROUP	JOB_DESTINATION の group に指定された一つ目の値。group が空なら無視される。置換後の文字列に「¥」が含まれる場合は、さらに「¥」を除いた文字列に置換される。
¥HOST	JOB_DESTINATION の host_name に指定された一つ目の値。host_name が空なら無視される。置換後の文字列に「.」(ピリオド)が含まれる場合は、最初の「.」以降を除いた文字列に置換される。
¥DSTID	JOB_DESTINATION_ID の destination_id に指定された一つ目の値。destination_id が空なら無視される。
¥PKGID	PACKAGING_INFORMATION の package_id に指定された一つ目の値。
¥FILE	PACKAGING_SOURCE の file_path の一つ目の値から、相対ディレクトリ部分および「.」(ピリオド)以降を除いたファイル名称。file_path が空なら無視される。
¥SIZE	PACKAGING_SOURCE の file_path の一つ目の値のファイルサイズ。file_path が空なら無視される。file_path に存在しないファイルが指定されている場合はコマンドが失敗する。
¥BASE	PACKAGING_SOURCE の base_fullpath の値から、相対ディレクトリ部分および「.」(ピリオド)以降を除いたファイル名称。
¥ZDIR	FILE_COLLECTION の dmz_path の値から、相対ディレクトリ部分および「.」(ピリオド)以降を除いたファイル名称。

4.27.2 予約語を使用する場合の注意事項

パラメタファイルおよびコマンドの引数に、予約語を使用する場合の注意事項を次に示します。

置換後の文字列の長さがパラメタ（または引数）として指定できる最大けた数を超えないように指定してください。パラメタの最大けた数を超えた場合は、予約語または文字列の単位で切り捨てて処理されます。

(例)

ジョブ名称として「¥PKGID を中継システム ¥HOST まで配布」と指定した場合、置換後に、予約語以外の文字列だった部分（「中継システム」または「まで配布」）の途中で 32 バイトに達した場合は、その文字列の先頭からすべて切り捨てられます。つまり、ジョブ名は、置換前に「¥PKGID」だった部分まで、または「¥HOST」だった部分までとなります。

置換後に、予約語「¥HOST」だった部分の途中で 32 バイトに達した場合は、「XXXXXX を中継システム」までがジョブ名称となります。

置換後の文字列が、そのパラメタ（または引数）での使用禁止文字を含まないように指定してください。

4.27.3 予約語の使用例

予約語を使用して記述したパラメタファイルの例を次に示します。

(1) dcminst コマンドで使用するパラメタファイルの例

```
JOB_ATTRIBUTE{
job_generator=¥PKGID他を各部に配布
    *予約語置換後に32バイトを超えると"他"以降を切り捨てる
    *ジョブ格納フォルダに定義済みの名前の場合失敗する
job_folder=¥配布¥CM月¥CD日¥CH時
    *この例ではルートフォルダ下にフォルダ(1階層)を作成。
    *保存(/s)指定がないと実行後に新規作成の階層から削除
}
JOB_DESTINATION{
    *あて先はJOB_DESTINATIONまたはJOB_DESTINATION_IDどちらかで指定する
host_name=host1;host2;host3
host_name=host4;host5;host6
group=¥全社¥営業部;¥全社¥資材部;¥全社¥技術部
group=¥全社¥人事部
}

PACKAGING_INFORMATION{          *3個のパッケージを配布する場合の例
{
    *PACKAGING_INFORMATIONはほかのタグとは別のファイルに
    *書くことができる
    *またはdcmpackを先に実行し、その出力ファイルを指定できる
package_name=1
package_id=1
version_revision=1
generation=1
cabinet_name=CAB01
cabinet_id=01
package_code=P
}
package_name=2
package_id=2
version_revision=2
generation=2
cabinet_name=CAB01
cabinet_id=02
package_code=P
}
package_name=3
package_id=3
version_revision=3
generation=3
cabinet_name=CAB01
```

```

cabinet_id=03
package_code=P
}
}

```

(2) dcmpack コマンドで使用するパラメタファイルの例

```

PACKAGING_SOURCE{
file_path= pack1.txt;pack2.txt;pack 3.txt;pack4.txt
base_fullpath=C:¥dir1
}
PACKAGING_INFORMATION
{
package_name=¥FILE¥SIZEbytes¥CM月¥CD日¥CH時¥CN分
package_id=¥BASE-¥BM¥BD¥BH¥BM
version_revision=V0¥10:0
generation=G¥1
cabinet_name=¥PKGID
cabinet_id=¥CD
}
INSTALLATION_METHOD{
installation_mode=G
}
USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS{
{
external_program_executed_before_installation="C:¥test B.exe" "-B" bbb
exit=R
action=C
wait=T
}
{
external_program_executed_after_installation=C:¥testA.exe -c "a aa"
exit=R
action=C
wait=T
}
{
external_program_error_handler="C:¥test E.txt" -c "e e"
exit=R
wait=Y
}
}
timeout=404
}
SYSTEM_CONDITIONS{
directory=C:¥DestDir
condition=H:c>1000
condition=C=PowerPC
}
OPTION{
compress=Y
compress_type=H
restore=Y
}
FILE_PROPERTIES{
permission=N
}
SCHEDULE{
expiration_date=001231
installation_date_and_time=04020100:50
installation_timing=S
}

```

(3) dcmcoll コマンドで使用するパラメタファイルの例

```

JOB_ATTRIBUTE{
job_generator=¥ZDIRに¥HOSTから¥FILE収集
*サーバのジョブ格納フォルダに定義済みの場合は失敗する
job_folder=¥¥GROUP¥¥CM¥¥CD¥¥CH
*この例ではルートフォルダ下にフォルダ(4階層)を作成
*保存/s指定がないと実行後に新規作成の階層から削除
}
JOB_DESTINATION{
host_name=dmp492.soft.hitachi.co.jp
*JOB_ATTRIBUTE内の¥HOSTは"dmp492"に置換される
}

```

4. コマンド

```
host_name=dmp491
group = ¥グループ¥grp1
      *JOB_ATTRIBUTE内の¥GROUPは"グループgrp1"に置換される
group = ¥グループ¥grp2;¥グループ¥grp3
}
SCHEDULE{
installation_timing = S
}
OPTION{
compress=Y
}
USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITIONS{
      *スペースを含む文字列は必ず「」で囲む
external_program_executed_before_installation = "C:¥test B.exe"
external_program_executed_after_installation = C:¥testA.exe -x "a aa"
external_program_error_handler = "C:¥test E.exe"
}
FILE_COLLECTION{
source_path= C:¥tmp¥SD障害.dir
      *JOB_ATTRIBUTE内の¥FILEは"SD障害"に置換される
source_path= C:¥tmp¥SD障害2.dir;C:¥tmp¥SD障害3.dir
dmz_path= C:¥
      *JOB_ATTRIBUTE内の¥FILEは"ROOT"に置換される
}
```

4.28 レジストリ設定とログオフオプションによるログオフ時のコマンドの動作

コマンドをサービスから実行した場合、レジストリ (CmdLogoffContinue) の設定とログオフオプション (コマンド引数の「/LC」) の指定の組み合わせで、ログオフが発生したときの動作が異なります。また、コマンドを実行した PC の OS によっても動作が異なります。

次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合は、レジストリ設定とログオフオプションの指定の組み合わせでログオフが発生したときの動作が異なります。

- Windows NT 4.0
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (IPF) を除く)

これらの OS でログオフが発生したときの、レジストリ設定とログオフオプションの指定の組み合わせによるコマンドの動作を、次の表に示します。

表 4-46 レジストリ設定とログオフオプションの指定の組み合わせによるログオフ時のコマンドの動作

レジストリ設定		ログオフオプションの指定		
		指定なし	指定あり	
			ON	OFF
設定なし		強制終了	処理を継続	強制終了
設定あり	YES	処理を継続	処理を継続	強制終了
	NO	強制終了	処理を継続	強制終了

なお、次に示す OS でコマンドをサービスから実行した場合は、レジストリ設定およびコマンドのログオフオプションの指定に関係なく、Windows をログオフしてもコマンド処理は継続されます。

- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2012
- Windows 8

5

システムのメンテナンス

この章では、システムの運用開始後に必要となるメンテナンス作業について説明します。

-
- 5.1 システムの設定変更
 - 5.2 データベースのメンテナンス
 - 5.3 システムのバックアップと復元
 - 5.4 運用上のメンテナンス
-

5.1 システムの設定変更

ここでは、運用開始後の配布管理システムの設定変更について説明します。

5.1.1 配布管理システムのチューニング項目の設定変更

CPU、メモリ、ネットワークなどに関するチューニング項目については、サーバセットアップの [サーバカスタマイズオプション] パネルで設定できます。配布管理システムが動作する PC の性能やネットワーク構成、動作環境を考慮して、必要な項目を変更してください。

なお、リレーショナルデータベースに Embedded RDB を使用し、「同時に接続できる下位システム数」の設定を変更した場合は、次の操作が必要です。

1. Remote Install Server サービスを停止する。
2. JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリ ¥BIN 下に格納されている netmdb_setup.bat コマンドを実行する。
netmdb_setup.bat コマンドの終了時は、キー入力待ちの状態になります。キー入力なしでコマンドを終了させたい場合は、オプションに「/nopause」を指定してコマンドを実行してください。
3. Remote Install Server サービスを起動する。

[サーバカスタマイズオプション] パネルの詳細については、マニュアル「構築ガイド」の「4.2.4 [サーバカスタマイズオプション] パネル」を参照してください。

5.1.2 クラスタシステムの設定変更

クラスタシステム環境の JP1/NETM/DM Manager の設定を変更する場合、リレーショナルデータベースに Embedded RDB を使用しているときは、次に示す手順で、実行系サーバおよび待機系サーバの両方の設定を変更する必要があります。

1. 「Remote Install Server」の汎用サービスリソースの「レジストリの複製」の設定内容を削除する。
2. 次の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
 - 「Remote Install Server」
 - 「Asset Information Synchronous Service」
 - 「Microsoft Internet Information Services」
3. JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥BIN 下に格納されている netmdb_stop.bat コマンドを実行する。
Embedded RDB が停止したことをメッセージで確認してください。
4. 「HiRDB/ClusterService_JN1」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
5. JP1/NETM/DM Manager のセットアップを変更する。
6. JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥BIN 下に格納されている netmdb_setup.bat コマンドを実行する。
コマンド実行中にコマンドプロンプト画面に「KFPS01863-E」が出力されますが、「HiRDB/ClusterService_JN1」の汎用サービスリソースをオフライン状態にしているために表示されますので、問題はありません。
7. JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥BIN 下に格納されている netmdb_stop.bat コ

マンドを実行する。

Embedded RDB が停止したことをメッセージで確認してください。

8. 次の汎用リソースサービスをオンライン状態にする。
 - 「HiRDB/ClusterService_JN1」
 - 「Remote Install Server」
9. リモートインストールマネージャを開く。
リモートインストールマネージャが開けることを確認します。
10. リモートインストールマネージャを閉じる。
11. 「Remote Install Server」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
12. JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥BIN 下に格納されている netmdb_stop.bat コマンドを実行する。
Embedded RDB が停止したことをメッセージで確認してください。
13. 「HiRDB/ClusterService_JN1」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
14. クラスタシステムアドミニストレータでグループを移動し、所有者を待機系サーバにする。
15. 待機系サーバで、手順 5. から手順 13. を実施する。
16. クラスタシステムアドミニストレータでグループを移動し、所有者を実行系サーバにする。
17. 次の汎用サービスリソースをオンラインにする。
 - 「HiRDB/ClusterService_JN1」
 - 「Microsoft Internet Information Services」
 - 「Asset Information Synchronous Service」
 - 「Remote Install Server」
18. 「Remote Install Server」の汎用サービスリソースの「レジストリの複製」の設定を入力する。

注 「Asset Information Manager Limited」を使用している場合に必要な作業です。

運用開始後にホスト名を変更する方法

論理ホスト名を変更するときは、データベースの種類に関係なく、「セットアップの設定を変更する方法」の手順に従ってセットアップの [クラスタ設定] パネルで「論理ホスト名」を変更してください。また、データベースが Embedded RDB の場合、論理ホスト名または物理ホスト名を変更するときは、各種定義ファイルの編集が必要です。編集する定義ファイルおよび編集方法については、マニュアル「構築ガイド」の「7.3.1(1) 運用開始後のホスト名の変更」を参照してください。

5.2 データベースのメンテナンス

ここでは、JP1/NETM/DM で使用しているリレーショナルデータベースの種類ごとに必要なメンテナンス作業について説明します。また、Asset Information Manager Limited を使用している場合のメンテナンス作業についても説明します。

5.2.1 Embedded RDB のメンテナンス

データベースに Embedded RDB を使用している場合にメンテナンスとして必要となる作業について説明します。なお、データベースのバックアップおよびバックアップからの復元については、「5.3 システムのバックアップと復元」を参照してください。

データベースのメンテナンスには、データベースマネージャを使用します。データベースマネージャの起動手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.4 データベースマネージャの操作方法 (Embedded RDB の場合)」を参照してください。

(1) データベースのアップグレード

次に示す場合、データベースマネージャを使用してデータベースをアップグレードする必要があります。

- データベースを再編成してもデータベースの容量不足を示すメッセージが表示される場合 (データベースの容量を拡張する場合)
- JP1 Version 7i の JP1/NETM/DM Manager Embedded RDB Edition から、Embedded RDB を使用した JP1 Version 8 の JP1/NETM/DM Manager へ移行する場合
- JP1/NETM/DM Manager をバージョンアップする場合

データベースをアップグレードする手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.4.3 データベースをアップグレードする」を参照してください。

なお、リレーショナルデータベースをアップグレードする前に、リレーショナルデータベースのバックアップを取得しておくことをお勧めします。取得するバックアップについては、「5.3 システムのバックアップと復元」を参照してください。

(2) データベースの再編成

(a) データベース領域の使用率の確認

Embedded RDB では、レコードが削除された領域は再利用できない領域になります。データベース領域に再利用できない領域が増えると、データベース領域の使用率を圧迫することがあります。

このため、データベース領域の使用率が 80% 以上になった場合は、データベースを再編成して領域を再利用できるようにする必要があります。

データベースを再編成するには、データベースマネージャを使用する方法と、コマンドを使用する方法があります。それぞれの手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.4.6 データベースを再編成する」を参照してください。

なお、データベースを再編成してもデータベースの容量不足を示すメッセージが表示される場合は、データベースの容量を拡張する必要があります。「データベースをアップグレードする」から、データベース領域ファイルのサイズを大きくしてください。

データベース領域の使用率が 80% 以上かどうかは、イベントログに次の ID のメッセージが表示されるかどうかで判断できます。

- KFPA12300-I
- KFPH00211-I
- KFPH22037-W

メッセージの詳細については、マニュアル「HiRDB Version 8 メッセージ」を参照してください。メッセージに出力される RD エリアの名称、データベースを再編成する範囲、および拡張するデータベース領域ファイルの対応を次の表に示します。

表 5-1 メッセージ、再編成する範囲および拡張するデータベース領域ファイルの対応

メッセージの RD エリア名称 ¹	再編成する範囲 ²	拡張するデータベース領域ファイル ³
NETMDM_NETM_TABLES	全体	常駐表ファイル
NETMDM_NETM_INDEXES	全体	索引ファイル
NETMDM_COLLECT_SERVPATH NETMDM_EXECUTION_SITE_SYSINF NETMDM_EXECUTION_SYSINF NETMDM_JOBGEN_COLLECT_DIR NETMDM_JOBGEN_COLLECT_SCRPTF NETMDM_JOBGEN_COLLECT_SYSINF NETMDM_JOBGEN_PACK_ATTRINF NETMDM_JOBGEN_PACK_SCRPTF NETMDM_JOBGEN_SOFT_CONDF NETMDM_JOBSCRIPT_SCRPTF NETMDM_SYSTEMJOB_REQUESTFILE NETMDM_SYSTEMJOB_RESULTFILE NETMDM_MNGLIST_LIST NETMDM_SCHEDULE_SYSINF NETMDM_JOBGEN_MESSAGE	ジョブ	ジョブ関連バイナリオブジェクトファイル
NETMDM_CABINET_SYSINF NETMDM_PACKAGE_INF_SYSINF NETMDM_PACKAGE_PACKAGE NETMDM_PACKAGE_SCRPTF NETMDM_INSPACKAGE_SYSINF NETMDM_USERINVLIST_ITEMVALS NETMDM_USERINVLIST_SYSINF	パッケージ、インベントリ	資産情報関連バイナリオブジェクトファイル
NETMDM_NETM_MONITORING	稼働監視履歴	ソフトウェア稼働監視履歴ファイル
NETMDM_OSPATCH_FILE NETMDM_OSPATCH_SCRIPT	更新プログラム	更新プログラム管理ファイル
NETMDM_NETM_TEMP_TABLES NETMDM_NETM_TEMP_INDEXES NETMDM_T6_DIR _n ⁴ NETMDM_T6_SCRPTF _n ⁴ NETMDM_T7_CONDF _n ⁴ NETMDM_T11_ATTRINF _n ⁴ NETMDM_T11_SCRPTF _n ⁴ NETMDM_T12_UINVINF _n ⁴ NETMDM_T14_ITEMVALS _n ⁴ NETMDM_T15_ITEMVALS _n ⁴ NETMDM_T30_MESSAGE _n ⁴	全体	一時表ファイル

注 1

RD エリア名称の先頭の「NETMDM」部分は管理者ユーザ ID になります。管理者ユーザ ID はインストール時の [データベースの設定] ダイアログボックスの管理者ユーザ ID に指定した ID です。

注 2

データベースを再編成する際の設定項目です。

5. システムのメンテナンス

注 3

再編成しても容量が不足している場合に、データベースをアップグレードする際の設定項目です。

注 4

n には1～5の数字が入ります。

また、再編成を実施したあとでデータベースの使用状況を確認するには、使用できる RD エリアのサイズ、使用中の RD エリアのサイズ、および空の RD エリアのサイズを算出します。各 RD エリアのサイズを算出する手順を次に示します。手順を実施する場合、コマンドを実行するユーザに Administrator 権限が必要です。

1. コマンドプロンプトを起動する。
2. JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ¥NETMDB¥BIN に格納されている pdntcmd.bat コマンドを実行する。
3. コマンドで「set pduser= 管理者ユーザID/パスワード」を実行する。
4. コマンドで「pddbst -r RD エリア名称 -k logi -d」を実行する。
入力する RD エリア名称は、表 5-1 を参照してください。
セグメント数、セグメントサイズ、未使用のセグメント、および 1 ページのサイズが表示されます。表示例を次に示します。

Total Segment :	2624	Segment Size :	20 Pages
Unused Segment :	2563	Page Size :	4096 Bytes

5. 表示された内容から RD エリアの領域サイズを算出する。

それぞれの計算方法は次のとおりです。

使用できる RD エリアのサイズ (バイト) =

Total Segment × Segment Size × Page Size

使用中の RD エリアのサイズ (バイト) =

(Total Segment - Unused Segment) × Segment Size × Page Size

空の RD エリアのサイズ (バイト) =

Unused Segment × Segment Size × Page Size

データベース全体の使用状況を確認するには、表 5-1 に記載している RD エリア名称の数だけ、手順 4. と手順 5. を繰り返してください。

なお、リレーショナルデータベースの再編成する前に、リレーショナルデータベースのバックアップを取得しておくことをお勧めします。取得するバックアップについては、「5.3 システムのバックアップと復元」を参照してください。

- (b) データベースの再編成時に必要なデータベース領域ファイルの容量の確認

データベース領域ファイルの容量を確認し、データベース領域ファイルの容量不足によるデータベースの再編成失敗を防ぐことができます。

各データベース領域ファイルの容量を算出する手順を次に示します。

1. コマンドプロンプトを起動する。
2. JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ¥NETMDB¥BIN に格納されている pdntcmd.bat コマンドを実行する。
3. コマンドで「set pduser= 管理者ユーザ ID/ パスワード」を実行する。

4. コマンドで「pdfstats データベース領域ファイルのパス」を実行する。

入力するデータベース領域ファイルのパスは、データベース作成時にデータベースの詳細設定ダイアログで入力したパスを指定してください。

データベースの詳細設定ダイアログはマニュアル「構築ガイド」の「7.4.1 データベースを新規作成する」図 7-8 [データベースの詳細設定] ダイアログボックスを参照ください。

ユーザに割り当てられたデータベース領域ファイルの総容量のサイズ、ユーザに割り当てられたデータベース領域ファイルの未使用のサイズなどが表示されます。

表示例を次に示します。

user area capacity	246756[kB]
remain user area capacity	1508[kB]

上記例では、データベース領域ファイルの総容量 246756KB に対して、1508KB が未使用領域であることを示します。

データベースの再編成時に必要なデータベース領域ファイルの未使用サイズの目安をデータベース領域ファイルごとに以下に示します。

1. 常駐表ファイル(単位: バイト) = 102400
2. 索引ファイル(単位: バイト) = 102400
3. ジョブ関連バイナリオブジェクトファイル(単位: バイト) = 102400 + [2 × リモートインストールジョブで最も大きいインストールスクリプトファイルのサイズ] + ソフトウェア検索リストで最も大きい検索リストのサイズ
+ 「メッセージの通知」ジョブで最も大きいメッセージ内容のサイズ
4. 資産情報関連バイナリオブジェクトファイル(単位: バイト) = 102400 + [3 × ユーザインベントリ項目リストのなかで最も大きい選択項目の合計値] + パッケージの中で最も大きいパッケージ本体のサイズ
+ パッケージの中で最も大きいインストールスクリプトファイルのサイズ
5. ソフトウェア稼働監視履歴ファイル(単位: バイト) = 102400
6. 更新プログラム管理ファイル = パッチをインストールするために格納しているパッチデータとスクリプトファイルのそれぞれ最も大きいサイズの合計値
7. 一時表ファイル(単位: バイト) = 102400

注 ユーザー指定検索リストを作成していない場合は、標準検索リストのサイズである 12000 となります。ユーザー指定検索リストを作成している場合は、標準検索リストに登録されたファイル数とサイズを参考におおよそのサイズを算出してください。

(3) パスワードの変更

データベースのパスワードは、データベースマネージャを使用して定期的に変更してください。

データベースのパスワードの変更手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.4.7 データベースのパスワードを変更する」を参照してください。

(4) 不要なインベントリ情報の削除

ファイルを使ってシステム構成情報を更新した場合など、削除したホストのインベントリ情報が削除されないで、そのままデータベースに残ることがあります。このようなインベントリ情報は、JP1/NETM/DM で使用されることはなく、その分だけデータベースの空き領域が少なくなります。

これらの不要なインベントリ情報は、データベースマネージャから一括して削除できます。不要なインベ

ントリ情報の削除手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.4.8 データベース上の不要なインベントリ情報を削除する」を参照してください。

不要なインベントリ情報は次のような場合に発生します。

ファイルを作成してシステム構成を更新した場合に、ファイルに記述されていないホストが削除された。

[システム構成] ウィンドウでホストを削除した場合に、関連するインベントリ情報を削除しなかった。
システム構成にないホストからインベントリ情報が通知された。

大量のホストを削除した場合には、不要なインベントリ情報が多数残っているおそれがあります。このような場合には、不要なインベントリ情報を削除することをお勧めします。

なお、データベースマネージャを使って削除できるインベントリ情報は、システム構成上に存在しないホストについての、次の表に示すインベントリ情報です。

表 5-2 削除対象となるインベントリ情報

分類	インベントリ項目
システム情報	システム情報
	レジストリ情報
ソフトウェア情報	インストールパッケージ情報
	ソフトウェアインベントリ情報
	ウィルス対策製品情報
	Microsoft Office 製品情報
ユーザインベントリ情報	ユーザインベントリ情報

5.2.2 Microsoft SQL Server または Oracle のメンテナンス

データベースに Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合にメンテナンスとして必要となる作業について説明します。なお、データベースのバックアップおよびバックアップからの復元については、「5.3 システムのバックアップと復元」を参照してください。

データベースのメンテナンスには、データベースマネージャを使用します。データベースマネージャの起動手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.5 データベースマネージャの操作方法 (Microsoft SQL Server または Oracle の場合)」を参照してください。

(1) データベースのアップグレード

次に示す場合、データベースマネージャを使用してデータベースをアップグレードする必要があります。

- JP1/NETM/DM Manager をバージョンアップする場合

データベースをアップグレードする手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.5.4 データベースをアップグレードする」を参照してください。

なお、リレーショナルデータベースをアップグレードする前に、リレーショナルデータベースのバックアップを取得しておくことをお勧めします。取得するバックアップについては、「5.3 システムのバックアップと復元」を参照してください。

(2) データベースの再編成

管理情報の追加、変更または削除によってリレーショナルデータベースの断片化が進むと、データベース

へのデータの格納効率が低下します。効率良く運用するために、リレーショナルデータベースは定期的に再編成してください。

リレーショナルデータベースの断片化の確認および再編成の手順については、各 RDBMS のマニュアルを参照してください。

(3) データベースの回復 (Microsoft SQL Server)

JP1/NETM/DM Manager は、リレーショナルデータベースに障害が発生したときに、論理的に不整合なデータベースを修復し、障害から回復する機能を持ちます。

リレーショナルデータベースに障害が発生すると、通常はロールバックによって自動的に回復します。しかし、何らかの原因で自動的に回復しないときは、データベースマネージャを使用してリレーショナルデータベースを回復する必要があります。

なお、データベースマネージャを使用してデータベースを回復できるのは、リレーショナルデータベースが Microsoft SQL Server の場合です。

データベースを回復する手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.5.5 データベースを回復する (Microsoft SQL Server)」を参照してください。

(4) 不要なインベントリ情報の削除

ファイルを使ってシステム構成情報を更新した場合など、削除したホストのインベントリ情報が削除されないで、そのままデータベースに残ることがあります。このようなインベントリ情報は、JP1/NETM/DM で使用されることはなく、その分だけデータベースの空き領域が少なくなります。

これらの不要なインベントリ情報は、データベースマネージャから一括して削除できます。不要なインベントリ情報の削除手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.5.6 データベース上の不要なインベントリ情報を削除する」を参照してください。

不要なインベントリ情報は次のような場合に発生します。

ファイルを作成してシステム構成を更新した場合に、ファイルに記述されていないホストが削除された。

[システム構成] ウィンドウでホストを削除した場合に、関連するインベントリ情報を削除しなかった。

システム構成にないホストからインベントリ情報が通知された。

大量のホストを削除した場合には、不要なインベントリ情報が多数残っているおそれがあります。このような場合には、不要なインベントリ情報を削除することをお勧めします。

なお、データベースマネージャを使って削除できるインベントリ情報は、システム構成上に存在しないホストのインベントリ情報です。削除対象となるインベントリ情報を、次の表に示します。

表 5-3 削除対象となるインベントリ情報

分類	インベントリ項目
システム情報	システム情報
	レジストリ情報
ソフトウェア情報	インストールパッケージ情報
	ソフトウェアインベントリ情報
	ウイルス対策製品情報
	Microsoft Office 製品情報

分類	インベントリ項目
ユーザインベントリ情報	ユーザインベントリ情報

5.2.3 Asset Information Manager Limited のデータベースのメンテナンス

Asset Information Manager Limited を使用している場合にデータベースのメンテナンスとして必要となる作業について説明します。なお、データベースのバックアップおよびリストアについては、「5.3 システムのバックアップと復元」を参照してください。

データベースのメンテナンスには、データベースマネージャを使用します。データベースマネージャの起動手順については、マニュアル「構築ガイド」の「10.3 Asset Information Manager Limited のデータベースをセットアップする」を参照してください。

(1) データベースのアップグレード

次に示す場合、データベースマネージャを使用して「Asset Information Manager Limited」のデータベースをアップグレードする必要があります。

- 「Asset Information Manager Limited」コンポーネントをバージョンアップする場合

アップグレードの手順は、マニュアル「構築ガイド」の「10.3.2 データベースをアップグレードする」を参照してください。

(2) データベースの再編成

Embedded RDB では、レコードが削除された領域は再利用できない領域になります。データベース領域に再利用できない領域が増えると、データベース領域の使用率を圧迫することがあります。このため、データベースを再編成して領域を再利用できるようにする必要があります。

リレーショナルデータベースに Embedded RDB を使用している場合の再編成の手順については、マニュアル「構築ガイド」の「10.3.7 Embedded RDB 環境でデータベースを再編成する」を参照してください。

なお、リレーショナルデータベースに Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合のデータベースの再編成については、各 RDBMS のマニュアルを参照してください。

(3) Embedded RDB のサイズの変更

Embedded RDB のサイズを変更するには、Asset Information Manager Limited のデータベースを再作成する必要があります。ここでは、Asset Information Manager Limited のデータベースのサイズを変更する場合の手順を次に示します。この手順で、サイズを変更する前のデータを再作成後のデータベースに引き継ぎます。サイズを変更する前のデータを引き継がない場合は、手順 2. だけを実行して Asset Information Manager Limited のデータベースのサイズを変更してください。

1. CSV 形式で Asset Information Manager Limited のデータベースのバックアップを取得する。
CSV 形式で Asset Information Manager Limited のデータベースのバックアップを取得する方法については、マニュアル「構築ガイド」の「10.3.3 データベースを CSV 形式ファイルでバックアップする」を参照してください。
2. Asset Information Manager Limited のデータベースを作成する。
変更したいサイズを指定して、Asset Information Manager Limited のデータベースを作成します。

Asset Information Manager Limited のデータベースを作成する方法については、マニュアル「構築ガイド」の「103.1 データベースを新規作成する」を参照してください。

- Asset Information Manager Limited のデータベースのリストアを実行する。
手順 1. で取得した CSV 形式のバックアップファイルをリストアします。「バックアップフォルダ名」には、バックアップファイルのパスを指定します。Asset Information Manager Limited のデータベースをリストアする方法については、マニュアル「構築ガイド」の「10.3.6 Embedded RDB 環境でデータベースをリストアする」を参照してください。

(4) Embedded RDB のホスト名の変更

注意事項

Embedded RDB のホスト名を変更する前に、Asset Information Manager Limited のサーバで、Asset Information Manager Limited のサービス、コマンドおよびタスクをすべて停止してください。

Asset Information Manager Limited のサービスは次に示す順番で停止してください。

- World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
- Asset Information Synchronous Service , Asset Information Manager Limited のコマンド , およびタスク
- JP1/NETM/Client Security Control - Manager (JP1/NETM/CSC と連携している場合)

また、Embedded RDB のホスト名を変更したあとに Asset Information Manager Limited を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

Asset Information Manager Limited のデータベースが Embedded RDB の場合に、Embedded RDB のホスト名を変更する手順を次に示します。クラスタ環境で論理ホスト名を変更する場合も、この手順で変更できます。

- Embedded RDB を停止する。
Embedded RDB を停止する方法については、「(5) Embedded RDB の開始および停止」を参照してください。
- JP1/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ `¥jp1asset¥aimdb¥conf` に格納されている `pdsys` ファイルをテキストエディタで開く。
- `pdsys` ファイルの「`pdunit -x ホスト名 -u unt1 -d "JP1/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ ¥jp1asset¥aimdb"`」の「ホスト名」を変更する。
変更する際は、最終行以外の行の最後に「¥」を付けて、1 行が 80 バイトを超えないように記述してください。記述例を次に示します。
`pdunit -x ホスト名 -u unt1¥
-d "JP1/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ ¥jp1asset¥aimdb"`
- JP1/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ `¥jp1asset¥aimdb¥conf¥emb` に格納されている次のファイルをテキストエディタで開く。
 - HiRDB.ini
 - reorganization_al.bat
 - reorganization_tb.bat
- 各ファイルの「PDHOST=ホスト名」の「ホスト名」を変更する。
- JP1/NETM/DM のサーバセットアップの [AIM 関連] パネルで、「Asset Information Manager の URL(U)」の URL にホスト名をしている場合は、ホスト名を変更する。

7. OS のホスト名を変更する。
8. OS を再起動する。

(5) Embedded RDB の開始および停止

Embedded RDB を開始および停止する手順をそれぞれ次に示します。なお、64 ビットの OS で Asset Information Manager Limited のコマンドを実行する場合は、32 ビット用のコマンドプロンプトで実行する必要があります。実行手順については、マニュアル「構築ガイド」の「10.11 64 ビット版の OS で Asset Information Manager Limited を使用する際の注意事項」を参照してください。

1. Embedded RDB の開始

Administrators 権限を持つユーザで jamemb_dbstart.bat を実行すると、Embedded RDB を開始できます。

jamemb_dbstart.bat は次のフォルダに格納されています。

JP1/NETM/DM Managerのインストール先フォルダ¥jplasset¥exe

2. Embedded RDB の停止

Administrators 権限を持つユーザで jamemb_dbstop.bat を実行すると、Embedded RDB を停止できます。

jamemb_dbstop.bat は次のフォルダに格納されています。

JP1/NETM/DM Managerのインストール先フォルダ¥jplasset¥exe

5.2.4 クラスタシステム環境でのデータベースのメンテナンス

クラスタシステム環境でのデータベースのメンテナンスとして必要となる作業について説明します。なお、バックアップおよびリストアの方法については、「5.3 システムのバックアップと復元」を参照してください。

データベースのメンテナンスには、データベースマネージャを使用します。リレーショナルデータベースに Embedded RDB を使用している場合のデータベースマネージャの起動手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.4 データベースマネージャの操作方法 (Embedded RDB の場合)」を参照してください。また、リレーショナルデータベースに Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合のデータベースマネージャの起動手順については、マニュアル「構築ガイド」の「7.5 データベースマネージャの操作方法 (Microsoft SQL Server または Oracle の場合)」を参照してください。

(1) データベースの再編成 (クラスタシステム環境)

クラスタシステム環境の Embedded RDB を再編成する手順を次に示します。

1. 次の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
 - 「Asset Information Synchronous Service」
 - 「Microsoft Internet Information Services」
 - 「Remote Install Server」
2. データベースマネージャで、「データベースを再編成する」からデータベースの再編成を実行する。データベースマネージャの詳細については、マニュアル「構築ガイド」の「7.4.6 データベースを再編成する」を参照してください。
3. 次の汎用サービスリソースをオンライン状態にする。
 - 「Remote Install Server」
 - 「Microsoft Internet Information Services」

- 「Asset Information Synchronous Service」

注 「Asset Information Manager Limited」を使用している場合に必要な作業です。

なお、リレーショナルデータベースに Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合のデータベースの再編成については、各 RDBMS のマニュアルを参照してください。

(2) データベースのアップグレード (クラスタシステム環境)

クラスタシステム環境のデータベースをアップグレードする手順を次に示します。このとき、実行系サーバおよび待機系サーバのデータベースをアップグレードする必要があります。

- 次の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
 - 「Asset Information Synchronous Service」
 - 「Microsoft Internet Information Services」
- 「Remote Install Server」の汎用サービスリソースの「レジストリの複製」の設定内容を削除する。
- 「Remote Install Server」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
- データベースマネージャで、「データベースをアップグレードする」からデータベースのアップグレードを実行する。
[クラスタシステム環境の設定] ダイアログボックスでは、新規作成のときと同じ設定にします。
Microsoft SQL Server または Oracle の場合は、ここまですべて手順 14. に進んでください。手順 5. ~ 手順 13. は、Embedded RDB の場合に必要な作業です。
- JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ %BIN 下に格納されている netmdb_stop.bat コマンドを実行する。
Embedded RDB が停止したことをメッセージで確認してください。
- 「HiRDB/ClusterService_JN1」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
- JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリ %j1asset%exe 下に格納されている jamemb_dbstop.bat コマンドを実行する。
Embedded RDB が停止したことをメッセージで確認してください。
- 「HiRDB/ClusterService_AM1」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
- クラスタシステムアドミニストレータでグループを移動し、所有者を待機系サーバにする。
- 「HiRDB/ClusterService_JN1」の汎用サービスリソースをオンライン状態にする。
- 待機系サーバで、手順 4. から手順 8. を実施する。
- クラスタシステムアドミニストレータでグループを移動し、所有者を実行系サーバにする。
- 次の汎用サービスリソースをオンライン状態にする。
 - 「HiRDB/ClusterService_AM1」
 - 「HiRDB/ClusterService_JN1」
- 「Remote Install Server」の汎用サービスリソースをオンライン状態にする。
- 「Remote Install Server」の汎用サービスリソースの「レジストリの複製」の設定を入力する。
- 次の汎用サービスリソースをオンライン状態にする。
 - 「Microsoft Internet Information Services」
 - 「Asset Information Synchronous Service」

5. システムのメンテナンス

注 「Asset Information Manager Limited」を使用している場合に必要な作業です。

5.3 システムのバックアップと復元

JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) では、システム情報やソフトウェア情報、パッケージなどのさまざまな情報をデータベースで管理しています。そのため、このデータベースにトラブルが発生すると、これまでに蓄積した情報が消失することになります。

また、JP1/NETM/DM Manager (中継マネージャ) および JP1/NETM/DM Client (中継システムおよびクライアント) では、上位システムの情報やインストール済みのソフトウェアの情報などユーザ環境に依存する情報をファイルで保存しています。障害などによってこれらのファイルが消失してしまうと、正しく管理できなくなるおそれがあります。

情報の消失を防ぐために、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client について、バックアップを適宜取得してください。

なお、JP1/NETM/DM のバックアップおよび復元は、必ず次のサービスまたはプログラムを停止させてから実行してください。

JP1/NETM/DM Manager の場合

- 「Remote Install Server」サービス
- World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing (「Asset Information Manager Limited」を使用している場合)
- Asset Information Synchronous Service, 「Asset Information Manager Limited」のコマンドおよびタスク (「Asset Information Manager Limited」を使用している場合)
- JP1/NETM/Client Security Control - Manager (JP1/NETM/CSC と連携している場合)

JP1/NETM/DM Client の場合

クライアントマネージャで、クライアントを停止してください。

5.3.1 JP1/NETM/DM Manager の手動バックアップ

ここでは、JP1/NETM/DM Manager (マネージャまたは中継マネージャ) で、バックアップの取得が必要なデータについて説明します。

バックアップ対象のコンポーネントは、「サーバ」および「Asset Information Manager Limited」です。なお、各種データおよびファイルには関連があるため、同じタイミングでバックアップを取得してください。

(1) レジストリ (インストールおよびセットアップの情報)

レジストリのバックアップを取得するタイミングと取得方法について説明します。

なお、レジストリにはマシン固有の情報が含まれるため、PC リプレースなどで異なる環境に移行する場合は、移行元の各種設定内容を控えておいてください。

(a) 取得タイミング

インストール (インストールコンポーネント変更などの再インストールを含む) およびセットアップ (変更を含む) のあとに取得してください。定期的に取得する必要はありません。

(b) 取得方法

レジストリエディタで、次に示すレジストリをファイルにエクスポートします。

- OS が 32 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\NETM/DM

- OS が 64 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\HITACHI\NETM/DM

中継マネージャの場合は、次に示すレジストリをファイルにエクスポートしてください。

- OS が 32 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\NETM/DM/P

- OS が 64 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\HITACHI\NETM/DM/P

「Asset Information Manager Limited」を使用している場合は、次に示すレジストリをファイルにエクスポートしてください。

- OS が 32 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\JP1/Asset Information Manager

- OS が 64 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\HITACHI\JP1/Asset Information Manager

(2) JP1/NETM/DM Manager のデータベース

リレーショナルデータベースのバックアップを取得するタイミングと取得方法について説明します。

(a) 取得タイミング

業務終了後や夜間などに定期的に行うことを推奨します。

Microsoft SQL Server を使用している場合、システムデータベース (master データベース、msdb データベース) は sa などのユーザ情報が含まれるため、定期的を取得してください。

(b) 取得方法

Embedded RDB を使用している場合

データベースマネージャまたは netmdb_backup.bat コマンドを使用してバックアップを取得してください。詳細については、マニュアル「構築ガイド」の「7.4.4 データベースをバックアップする」を参照してください。

別のマシンや異なる環境へデータベースを移行する場合は、netmdb_unload.bat コマンドを使用してください。詳細については、「5.3.9(2) netmdb_unload.bat コマンド」を参照してください。

Microsoft SQL Server を使用している場合

Management Studio を使用するか、コマンドを実行してバックアップを取得してください。

Oracle を使用している場合

オフラインバックアップで取得してください。バックアップ対象は、制御ファイル、データファイル、Redo ログファイル、およびパラメタファイルの、すべてのデータベースファイルです。

なお、一部のデータはインポート/エクスポートの機能を利用してファイル単位でバックアップを取得できます。インポート/エクスポートできるデータについては、マニュアル「構築ガイド」の「付録 A.2(2) 移行できるデータ」を参照してください。

(3) 「Asset Information Manager Limited」

「Asset Information Manager Limited」を使用している場合に、バックアップを取得してください。

(a) 取得タイミング

業務終了後や夜間などに定期的に行うことを推奨します。

(b) 取得方法

「Asset Information Manager Limited」のデータベースマネージャの「データベースの CSV バックアップ」からバックアップを取得する場合は、マニュアル「構築ガイド」の「10.3.3 データベースを CSV 形式ファイルでバックアップする」を参照してください。

Embedded RDB を使用している場合、「Embedded RDB のバックアップ」からバックアップを取得するときは、マニュアル「構築ガイド」の「10.3.5 Embedded RDB 環境でデータベースをバックアップする」を参照してください。

(4) 各種ファイル

JP1/NETM/DM の各種ファイルでバックアップの取得が必要なファイルについて説明します。

(a) 取得タイミング

業務終了後や夜間などに定期的に行うことを推奨します。

ただし、ホスト識別子管理ファイルは、インストール後またはホスト識別子を使用する運用に変更した際に取得してください。定期的を取得する必要はありません。

(b) 取得方法

パッケージファイルおよび操作履歴ファイル

パッケージを登録している場合、および操作履歴を取得している場合にバックアップを取得します。

- Embedded RDB を使用しているとき
データベースのバックアップ時に、パッケージファイルおよび操作履歴ファイルのバックアップも取得できます。
- Microsoft SQL Server または Oracle を使用しているとき
netmfile_backup.bat コマンドを実行します。netmfile_backup.bat コマンドについては、「5.3.9(4) netmfile_backup.bat コマンド」を参照してください。

操作履歴ファイル（操作履歴退避ディレクトリ）

操作履歴ファイルを操作履歴退避ディレクトリに登録している場合にバックアップを取得します。

[サーバセットアップ] ダイアログボックスの [稼働監視] パネルで指定した、操作履歴退避ディレクトリ下にある操作履歴ファイルのバックアップを取得してください。

監査ログファイル

監査ログを取得している場合にバックアップを取得します。

[サーバセットアップ] ダイアログボックスの [監査ログ] パネルで指定した、監査ログの出力先ディレクトリ下にある監査ログファイルのバックアップを取得してください。

リモートコレクトファイル（中継マネージャの場合だけ）

中継マネージャがリモートコレクトしたファイルを収集している場合にバックアップを取得します。インストール時に [ワークディレクトリの設定] ダイアログボックスで指定した、リモートコレクトディレクトリ下にあるリモートコレクトファイルのバックアップを取得してください。指定したリモートコレクトディレクトリの値は、次のレジストリに設定されています。

- OS が 32 ビット版の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P¥CollectionSitePath
- OS が 64 ビット版の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi¥NETM/DM/

P¥CollectionSitePath

各種管理ファイル（中継マネージャの場合だけ）

次のディレクトリ下にある，管理ファイルのバックアップを取得してください。

- JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥MASTER¥DB
- JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥SITESRV

ホスト識別子管理ファイル（中継マネージャの場合だけ）

ホスト識別子を使用する運用の場合にバックアップを取得します。

Windows のインストール先ディレクトリ下にある，netmdmp.hid ファイルのバックアップを取得してください。

（5）環境変数（JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合）

JP1/NETM/DM のコマンドを実行する権限を持った JP1 ユーザ名を，システムの環境変数 NETM_USERID に登録している場合にバックアップを取得してください。

（a）取得タイミング

環境変数 NETM_USERID に JP1 ユーザ名を登録した場合，または変更，削除した場合にバックアップを取得します。定期的に取得する必要はありません。

（b）取得方法

環境変数 NETM_USERID に登録した JP1 ユーザ名をコマンドで確認し，控えておいてください。

5.3.2 JP1/NETM/DM Manager の自動バックアップ

JP1/NETM/DM Manager（マネージャおよび中継マネージャ）のバックアップとして取得するデータのうち，次に示す項目は，Windows のタスク機能や JP1/AJS を使用して自動で取得することもできます。

- JP1/NETM/DM Manager のデータベース
- 「Asset Information Manager Limited」（「Asset Information Manager Limited」を使用している場合だけ）
- 各種ファイル
 - パッケージファイルおよび操作履歴ファイル
 - 操作履歴ファイル（操作履歴退避ディレクトリ）
 - 監査ログファイル
 - リモートコレクトファイル（中継マネージャの場合だけ）
 - 各種管理ファイル（中継マネージャの場合だけ）

取得するデータについての詳細は，「5.3.1 JP1/NETM/DM Manager の手動バックアップ」を参照してください。

（a）取得タイミング

業務終了後や夜間に定期的に行うことを推奨します。また，データには関連があるため，同じタイミングでバックアップを取得してください。

（b）取得方法

一括してバックアップを取得するためのバッチファイルの作成例（Microsoft SQL Server の場合）を，次に示します。

```

rem *****
rem * JP1/NETM/DM Managerバックアップスクリプト *
rem * NETMBackUp.bat DMINSTALL_PATH BACKUP_PATH DATABASE_NAME *
rem * DMINSTALL_PATH : JP1/NETM/DMのインストール先を指定 *
rem * BACKUP_PATH : バックアップ取得先を指定 *
rem * DATABASE_NAME : JP1/NETM/DMのデータベース名を指定 *
rem *****

echo JP1/NETM/DM Managerのバックアップ開始 (%DATE% %TIME%)

rem JP1/NETM/DMインストール先ディレクトリの設定
set ARG1=%~1
set DMINSTALL_PATH=%ARG1%

rem バックアップ取得先の設定
set ARG2=%~2
set BACKUP_PATH=%ARG2%

rem データベース名の設定
set ARG3=%~3
set DATABASE_NAME=%ARG3%

:SERVICE_STOP
echo "Remote Install Server" サービスの停止
net stop "Remote Install Server"
IF %ERRORLEVEL%==0 goto DB_BACKUP
echo "Remote Install Server" サービスの停止に失敗しました
set BACKUP_RC=-1
goto BACKUP_EXIT

:DB_BACKUP
echo JP1/NETM/DM Managerのデータベースのバックアップ
echo (SQL Server の osqlコマンドでBACKUP DATABASE文を実行してデータベースのバックアップ
取得)
osql -U sa -P password -Q "BACKUP DATABASE %DATABASE_NAME% TO
DISK=' %BACKUP_PATH%\NETMDB.bak'"
IF %ERRORLEVEL%==0 goto FILE_BACKUP
echo JP1/NETM/DM Managerのデータベースのバックアップに失敗しました
set BACKUP_RC=-1
goto SERVICE_START

:FILE_BACKUP
echo JP1/NETM/DMのパッケージおよび操作履歴ファイルのバックアップ
call "%DMINSTALL_PATH%\bin\netmfile_backup.bat" /P /h /i "%DMINSTALL_PATH%" /b
%BACKUP_PATH% /o %BACKUP_PATH%\Backup.log
IF %ERRORLEVEL%==0 goto OPERATION_SAVEFILE_BACKUP
echo JP1/NETM/DMのパッケージおよび操作履歴ファイルのバックアップに失敗しました
set BACKUP_RC=-1
goto SERVICE_START

:OPERATION_SAVEFILE_BACKUP
echo JP1/NETM/DMの操作履歴ファイル(退避ディレクトリ)のバックアップ
echo (操作履歴を退避ディレクトリに退避している場合)
echo コピー元: [サーバセットアップ]の[稼働監視]パネルの[退避ディレクトリ]に指定した格納先
XCOPY C:\NETMDM\OPERATION_SAVE\* %BACKUP_PATH%\OPERATION_SAVE /I /S /E
IF %ERRORLEVEL%==0 goto AIM_DB_BACKUP
echo JP1/NETM/DMの操作履歴ファイル(退避ディレクトリ)のバックアップに失敗しました
set BACKUP_RC=-1
goto SERVICE_START

:AIM_DB_BACKUP
echo 「Asset Information Manager Limited」のバックアップ(CSV形式)
rem 「Asset Information Manager Limited」を使用している場合は、「Asset Information
Manager Limited」のバックアップ(CSV形式)を行ってください。
rem 「Asset Information Manager Limited」のバックアップするときは、次に示す順にサービ

```

5. システムのメンテナンス

スを停止してください。

```
rem 1. World Wide Web Publishing ServiceまたはWorld Wide Web Publishing
rem 2. Asset Information Synchronous Service, 「Asset Information Manager
Limited」のコマンドおよびタスク
rem 3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager (JP1/NETM/CSCと連携している場合)
call "%DMINSTALL_PATH%\jplasset\exe\jamdbexport.bat" %BACKUP_PATH%\AIMLimited
-rp
rem バックアップ取得後は停止時と逆の順でサービスを起動してください。
IF %ERRORLEVEL%==0 goto AUDIT_LOG
echo 「Asset Information Manager Limited」のバックアップ(CSV形式)に失敗しました
set BACKUP_RC=-1
goto SERVICE_START
```

```
:AUDIT_LOG
echo 監査ログのバックアップ
echo ( 監査ログを取得している場合 )
echo コピー元 : [ サーバセットアップ ] の [ 監査ログ ] パネルの [ 監査ログの出力ディレクトリ ] に指定
した格納先
XCOPY C:\NETMDM\AUDIT\* %BACKUP_PATH%\AUDIT
IF %ERRORLEVEL%==0 goto COLLECT_FILE
echo 監査ログのバックアップに失敗しました
set BACKUP_RC=-1
goto SERVICE_START
```

```
:COLLECT_FILE
echo リモートコレクトファイルのバックアップ ( 中継マネージャの場合 )
echo ( 中継までのリモートコレクトでファイルを収集している場合 )
echo コピー元 : インストール時の [ ワークディレクトリの設定 ] ダイアログボックスで指定したリモート
コレクトディレクトリ
echo 以下のレジストリにパス設定
echo HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\NETM/DM/P\CollectionSitePath
echo デフォルト : JP1/NETM/DMのインストール先ディレクトリ\DMP SITE\COLLECTION
XCOPY "%DMINSTALL_PATH%\DMP SITE\COLLECTION\*" %BACKUP_PATH%\COLLECTION /I /S /E
IF %ERRORLEVEL%==0 goto SITE_MNG_FILE1
echo リモートコレクトファイルのバックアップに失敗しました
set BACKUP_RC=-1
goto SERVICE_START
```

```
:SITE_MNG_FILE1
echo 各種管理ファイルのバックアップ ( 中継マネージャの場合 )
echo コピー元 : JP1/NETM/DMのインストール先ディレクトリ\MASTER\DB
echo JP1/NETM/DMのインストール先ディレクトリ\SITESRV
XCOPY "%DMINSTALL_PATH%\MASTER\DB\*" %BACKUP_PATH%\MASTER_DB /I /S /E
IF %ERRORLEVEL%==0 goto SITE_MNG_FILE2
echo 管理ファイルのバックアップに失敗しました
set BACKUP_RC=-1
goto SERVICE_START
```

```
:SITE_MNG_FILE2
XCOPY "%DMINSTALL_PATH%\SITESRV\*" %BACKUP_PATH%\SITESRV /I /S /E
IF %ERRORLEVEL%==0 goto SERVICE_START
echo 管理ファイルのバックアップに失敗しました
set BACKUP_RC=-1
```

```
:SERVICE_START
echo " Remote Install Server " サービスの開始
net start "Remote Install Server"
set BACKUP_RC=0
IF %ERRORLEVEL%==0 goto BACKUP_EXIT
echo " Remote Install Server " サービスの開始に失敗しました
set BACKUP_RC=-1
```

```
:BACKUP_EXIT
echo JP1/NETM/DM Managerのバックアップの終了 (%DATE% %TIME%)
exit /b %BACKUP_RC%
```

5.3.3 JP1/NETM/DM Client (中継システム) のバックアップ

ここでは、JP1/NETM/DM Client (中継システム) でバックアップの取得が必要なデータについて説明します。

(1) レジストリ (インストールおよびセットアップの情報)

レジストリのバックアップを取得するタイミングと取得方法について説明します。

なお、レジストリにはマシン固有の情報が含まれるため、PC リプレースなどで異なる環境に移行する場合は、移行元の各種設定内容を控えておいてください。

(a) 取得タイミング

インストール (インストールコンポーネント変更などの再インストールを含む) およびセットアップ (変更を含む) のあとに取得してください。定期的に取得する必要はありません。

(b) 取得方法

レジストリエディタで、次に示すレジストリをファイルにエクスポートします。

- OS が 32 ビット版の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\NETM/DM/P
```

- OS が 64 ビット版の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWAREWow6432Node\HITACHI\NETM/DM/P
```

(2) 各種ファイル

JP1/NETM/DM の各種ファイルでバックアップの取得が必要なファイルについて説明します。

(a) 取得タイミング

業務終了後や夜間などに定期的に行うことを推奨します。また、ここで説明する各種ファイルには関連があるため、同じタイミングでバックアップを取得してください。

ただし、ホスト識別子管理ファイルはインストール後またはホスト識別子を使用する運用に変更した際に取得してください。定期的に取得する必要はありません。

(b) 取得方法

パッケージファイル

パッケージを登録している場合にバックアップを取得します。

インストール時に [ワークディレクトリの設定] ダイアログボックスで指定した、中継パッケージ保管ディレクトリ下にあるパッケージファイルのバックアップを取得してください。指定した中継パッケージ保管ディレクトリの値は、次のレジストリに設定されています。

- OS が 32 ビット版の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\NETM/DM/P\ResourcePathName
```

- OS が 64 ビット版の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWAREWow6432Node\HITACHI\NETM/DM/P\ResourcePathName
```

リモートコレクトファイル

中継マネージャがリモートコレクトしたファイルを収集している場合にバックアップを取得します。インストール時に [ワークディレクトリの設定] ダイアログボックスで指定した、リモートコレクトディレクトリ下にあるリモートコレクトファイルのバックアップを取得してください。指定したリモートコレクトディレクトリの値は、次のレジストリに設定されています。

- OS が 32 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P¥CollectionSitePath

- OS が 64 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI¥NETM/DM/
P¥CollectionSitePath

各種管理ファイル

次のディレクトリ下にある，管理ファイルのバックアップを取得してください。

- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥MASTER¥DB
- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥SCHEDULE
- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥SERVER
- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥SITESRV

ホスト識別子管理ファイル

ホスト識別子を使用する運用の場合にバックアップを取得します。

Windows のインストール先ディレクトリ下にある，netmdmp.hid ファイルのバックアップを取得してください。

5.3.4 JP1/NETM/DM Client (クライアント) のバックアップ

ここでは，JP1/NETM/DM Client (クライアント) でバックアップの取得が必要なデータについて説明します。

(1) レジストリ (インストールおよびセットアップの情報)

レジストリのバックアップを取得するタイミングと取得方法について説明します。

なお，レジストリにはマシン固有の情報が含まれるため，PC リプレースなどで異なる環境に移行する場合は，移行元の各種設定内容を控えておいてください。

(a) 取得タイミング

インストール (インストールコンポーネント変更などの再インストールを含む) およびセットアップ (変更を含む) のあとに取得してください。定期的に取得する必要はありません。

(b) 取得方法

レジストリエディタで，次に示すレジストリをファイルにエクスポートします。

- OS が 32 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P

- OS が 64 ビット版の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI¥NETM/DM/P

(2) 各種ファイル

JP1/NETM/DM の各種ファイルでバックアップの取得が必要なファイルについて説明します。

(a) 取得タイミング

業務終了後や夜間などに定期的に行うことを推奨します。

ただし，ホスト識別子管理ファイルはインストール後またはホスト識別子を使用する運用に変更した際に取得してください。定期的に取得する必要はありません。

(b) 取得方法

各種管理ファイル

次のディレクトリ下にある，管理ファイルのバックアップを取得してください。

- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥MASTER¥DB

ホスト識別子管理ファイル

ホスト識別子を使用する運用の場合にバックアップを取得します。

Windows のインストール先ディレクトリ下にある，netmdmp.hid ファイルのバックアップを取得してください。

5.3.5 JP1/NETM/DM Manager の復元

ここでは，JP1/NETM/DM Manager（マネージャまたは中継マネージャ）について，バックアップしたデータの復元方法を説明します。

なお，各種データおよびファイルには関連があるため，同じタイミングで取得したバックアップファイルを復元してください。

(1) レジストリ（インストールおよびセットアップの情報）

エクスポートしたレジストリファイルを，レジストリエディタでインポートします。

ただし，レジストリにはマシン固有の情報が含まれるため，PC リプレースなどで異なる環境に移行する場合はインポートしないでください。

(2) JP1/NETM/DM Manager データベース

Embedded RDB を使用している場合

データベースマネージャまたは netmdb_backup.bat コマンドを使用して取得したバックアップファイルは，データベースマネージャの [データベースの復元] ダイアログボックスから復元してください。詳細については，マニュアル「構築ガイド」の「7.4.5 データベースをバックアップから復元する」を参照してください。

netmdb_unload.bat コマンドを使用して取得したバックアップファイルは，netmdb_reload.bat コマンドを使用して復元してください。詳細については，「5.3.9(3) netmdb_reload.bat コマンド」を参照してください。

Microsoft SQL Server を使用している場合

Management Studio を使用してバックアップファイルを復元してください。

Oracle を使用している場合

オフラインバックアップで取得したバックアップファイルから復元してください。対象は，制御ファイル，データファイル，Redo ログファイル，およびパラメタファイルの，すべてのデータベースファイルです。

(3) 「Asset Information Manager Limited」

CSV ファイルでバックアップを取得した場合，「Asset Information Manager Limited」のデータベースマネージャの「データベースの CSV リストア」からバックアップファイルを復元してください。詳細については，マニュアル「構築ガイド」の「10.3.4 データベースを CSV 形式ファイルからリストアする」を参照してください。

Embedded RDB を使用している場合，「Embedded RDB のバックアップ」からバックアップを取得した

ときは、マニュアル「構築ガイド」の「10.3.6 Embedded RDB 環境でデータベースをリストアする」を参照してください。

(4) 各種ファイル

JP1/NETM/DM の各種ファイルで復元が必要なファイルについて説明します。

(a) パッケージファイルおよび操作履歴ファイル

- Embedded RDB を使用している場合
データベースの復元時に、パッケージファイルおよび操作履歴ファイルもあわせてバックアップから復元できます。
- Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合
netmfile_restore.bat コマンドを実行します。netmfile_restore.bat コマンドについては、「5.3.9(5) netmfile_restore.bat コマンド」を参照してください。

(b) 操作履歴ファイル (操作履歴退避ディレクトリ)

操作履歴のバックアップファイルを、[サーバセットアップ] ダイアログボックスの [稼働監視] パネルで指定した、操作履歴退避ディレクトリ下に格納してください。

(c) 監査ログファイル

監査ログのバックアップファイルを、[サーバセットアップ] ダイアログボックスの [監査ログ] パネルで指定した、監査ログの出力先ディレクトリ下に格納してください。

(d) リモートコレクトファイル (中継マネージャの場合だけ)

リモートコレクトファイルのバックアップを、インストール時に [ワークディレクトリの設定] ダイアログボックスで指定した、リモートコレクトディレクトリ下に格納してください。指定したリモートコレクトディレクトリの値は、次のレジストリに設定されています。

- OS が 32 ビット版の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\NETM/DM/P\CollectionSitePath
- OS が 64 ビット版の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\HITACHI\NETM/DM/P\CollectionSitePath

(e) 各種管理ファイル (中継マネージャの場合だけ)

管理ファイルのバックアップを、次のディレクトリ下に格納してください。

- JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ \MASTER\DB
- JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ \SITESRV

(f) ホスト識別子管理ファイル (中継マネージャの場合だけ)

netmdmp.hid ファイルのバックアップを、Windows のインストール先ディレクトリ下に格納してください。

(5) 環境変数 (JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理している場合)

控えておいた JP1 ユーザ名を、システムの環境変数 NETM_USERID に登録してください。

5.3.6 JP1/NETM/DM Client (中継システム) の復元

ここでは、JP1/NETM/DM Client (中継システム) について、バックアップしたデータからの復元方法を説明します。

(1) レジストリ (インストールおよびセットアップの情報)

エクスポートしたレジストリファイルを、レジストリエディタでインポートします。

ただし、レジストリにはマシン固有の情報が含まれるため、PC リプレースなどで異なる環境に移行する場合は、復元できません。

(2) 各種ファイル

JP1/NETM/DM の各種ファイルで復元が必要なファイルについて説明します。なお、各種ファイルは関連性があるため、同じタイミングで取得したバックアップファイルを復元してください。

(a) パッケージファイル

パッケージファイルのバックアップを、インストール時に [ワークディレクトリの設定] ダイアログボックスで指定した、中継パッケージ保管ディレクトリ下に格納してください。指定した中継パッケージ保管ディレクトリの値は、次のレジストリに設定されています。

- OS が 32 ビット版の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\NETM/DM/P\ResourcePathName
```

- OS が 64 ビット版の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWAREWow6432Node\HITACHI\NETM/DM/P\ResourcePathName
```

(b) リモートコレクトファイル

リモートコレクトファイルのバックアップを、インストール時に [ワークディレクトリの設定] ダイアログボックスで指定した、リモートコレクトディレクトリ下に格納してください。指定したリモートコレクトディレクトリの値は、次のレジストリに設定されています。

- OS が 32 ビット版の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\NETM/DM/P\CollectionSitePath
```

- OS が 64 ビット版の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWAREWow6432Node\HITACHI\NETM/DM/P\CollectionSitePath
```

(c) 各種管理ファイル

管理ファイルのバックアップを、次のディレクトリ下に格納してください。

- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥MASTER¥DB
- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥SCHEDULE
- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥SERVER
- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥SITESRV

(d) ホスト識別子管理ファイル

netmdmp.hid ファイルのバックアップを、Windows のインストール先ディレクトリ下に格納してください。

5.3.7 JP1/NETM/DM Client (クライアント) の復元

ここでは、JP1/NETM/DM/Client (クライアント) について、バックアップしたデータからの復元方法を説明します。

(1) レジストリ (インストールおよびセットアップの情報)

エクスポートしたレジストリファイルを、レジストリエディタでインポートします。

ただし、レジストリにはマシン固有の情報が含まれるため、PC リブレースなどで異なる環境に移行する場合はインポートしないでください。

(2) 各種ファイル

JP1/NETM/DM の各種ファイルで復元が必要なファイルについて説明します。

(a) 各種管理ファイル

管理ファイルのバックアップを、次のディレクトリ下に格納してください。

- JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥MASTER¥DB

(b) ホスト識別子管理ファイル

netmdmp.hid ファイルのバックアップを、Windows のインストール先ディレクトリ下に格納してください。

5.3.8 クラスタシステムのバックアップと復元

ここでは、JP1/NETM/DM をフェールオーバーさせる場合の JP1/NETM/DM Manager (マネージャ) のバックアップおよび復元手順を説明します。

1. 「Remote Install Server」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
2. 「Asset Information Synchronous Service」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする(「Asset Information Manager Limited」を使用している場合)。
3. 「Remote Install Server」サービスを停止する。
4. JP1/NETM/DM のデータベースにアクセスしている製品を停止する。
 - World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing (「Asset Information Manager Limited」を使用している場合)
 - Asset Information Synchronous Service ,「Asset Information Manager Limited」のコマンドおよびタスク(「Asset Information Manager Limited」を使用している場合)
 - JP1/NETM/Client Security Control - Manager (JP1/NETM/CSC と連携している場合)
5. 実行系で次のデータのバックアップを取得する、またはバックアップデータから復元する。
 - レジストリ(インストールおよびセットアップ情報)
 - JP1/NETM/DM Manager のデータベース
 - 「Asset Information Manager Limited」(「Asset Information Manager Limited」を使用している場合)
 - 各種ファイル
パッケージファイルおよび操作履歴ファイル、操作履歴ファイル(操作履歴退避ディレクトリ)、および監査ログファイル

各データのバックアップ取得方法については、「5.3.1 JP1/NETM/DM Manager の手動バックアップ」を参照してください。

また、各データのバックアップからの復元方法については、「5.3.5 JP1/NETM/DM Manager の復元」を参照してください。
6. 「Remote Install Server」の汎用サービスリソースをオンライン状態にする。
7. 「Asset Information Synchronous Service」の汎用サービスリソースをオンライン状態にする(「Asset Information Manager Limited」を使用している場合)。

5.3.9 システムのバックアップと復元に使用するコマンド

ここでは、システムのバックアップと復元に使用するコマンドについて説明します。

(1) netmdb_backup.bat コマンド

Embedded RDB のバックアップを取得するコマンドです。このコマンドで取得したバックアップファイルからデータベースを復元するには、データベースマネージャを使用します。

コマンドの詳細についてはマニュアル「構築ガイド」の「7.4.4 データベースをバックアップする」を参照してください。

(2) netmdb_unload.bat コマンド

PC をリプレースする場合など、異なる環境にデータベースを新規に作成し直す必要があるときに、Embedded RDB の移行用のバックアップを取得するコマンドです。このコマンドで取得したバックアップファイルからデータベースを復元するには、netmdb_reload.bat コマンドを使用します。

このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥bin 下に格納されています。

なお、[操作ログ一覧] ウィンドウを使用する運用の場合、管理する操作ログの容量によってデータベースのバックアップに時間が掛かるときがあります。

このコマンドを実行するときは、あらかじめ、[コントロールパネル] の [管理ツール] - [サービス] で、JP1/NETM/DM Manager の「Remote Install Server」サービスを停止してください。

また、「Asset Information Manager Limited」を使用している場合は、「Asset Information Manager Limited」のサービスを次に示す順番で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service ,「Asset Information Manager Limited」のコマンドおよびタスク
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager (JP1/NETM/CSC と連携している場合)

なお、ODBC データソースで接続プールが設定されている場合、「Asset Information Manager Limited」の業務を停止させてから、接続プールで設定されているタイムアウトの時間が経過するまで接続状態になります。そのため、接続状態の解除を待ってから、コマンドを実行してください。

機能

データベースを移行するためのバックアップを取得します。パッケージファイルおよび操作履歴格納ディレクトリのバックアップも自動的に取得します。

形式

```
netmdb_unload.bat   ポート番号
                   管理者ユーザID
                   パスワード
                   /i JP1/NETM/DM Managerのインストール先ディレクトリ
                   /b 移行用バックアップファイル格納先ディレクトリ
                   /o 実行結果の出力先ファイル名
```

オプション

- ポート番号
データベースに接続するポート番号を指定します。
- 管理者ユーザ ID
データベースにログオンする管理者ユーザ ID を指定します。
- パスワード

データベースにログオンするためのパスワードを指定します。

- /i

JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリをフルパスで指定します。

- /b

移行用バックアップファイルの格納先ディレクトリをフルパスで指定します。格納先ディレクトリは 150 バイト以内で指定することをお勧めします。極端に長いパスで指定すると、ディレクトリの作成に失敗するおそれがあります。なお、格納先ディレクトリはローカルドライブを指定してください。また、格納先ディレクトリは、半角英数字、半角スペース、および次に示す記号で指定してください。

「:」、「.」、「¥」、「#」、「@」、「(」、「)」、「「」、「」」

- /o

実行結果を出力するファイル名をフルパスで指定します。

リターンコード

netmdb_unload.bat コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

リターンコード	内容
0	正常終了
-1	異常終了

注意事項

- このコマンドの BAT ファイルの内容を変更しないでください。変更した場合、コマンドが実行できなくなるおそれがあります。
- Administrator 権限を持ったユーザでコマンドを実行してください。
- netmdb_unload.bat コマンドおよび netmdb_reload.bat コマンドで設定する管理者ユーザ ID は、同じ管理者ユーザ ID を指定してください。
- データベースのアンロードを実行すると、格納先ディレクトリに、以下に示すファイルまたはフォルダが作成されます。
 - netmdbreplece ファイル
 - 「RESOURCE」フォルダ
 - 「MONITORING」フォルダ
 バックアップする場合、格納先ディレクトリに指定したパスに上記のファイルおよびフォルダがあるとき、これらは上書きされます。
- このコマンドのオプションは、形式で示した順序で設定してください。
- このコマンドを同時に複数実行しないでください。

実行例

Embedded RDB を使用している場合に、移行用バックアップを取得する例を説明します。

この実行例では、各ディレクトリを次のように指定しています。

- JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ
C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM
- 移行用バックアップファイル格納先ディレクトリ
C:¥NETMDB
- 実行結果の出力先ファイル名
C:¥NETMDB¥unload.txt

また、コマンドを実行する前に、移行用バックアップファイル格納先ディレクトリおよび実行結果の出力先ファイルの格納先ディレクトリを作成しておいてください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
netmdb_unload.bat ポート番号 管理者ユーザID パスワード /i "C:¥Program
```

```
Files¥Hitachi¥NETMDM" /b C:¥NETMDB /o C:¥NETMDB¥unload.txt
```

(3) netmdb_reload.bat コマンド

Embedded RDB を移行用のバックアップファイルから復元するコマンドです。

このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥bin 下に格納されています。

なお、[操作ログ一覧] ウィンドウを使用する運用の場合、管理する操作ログの容量によってデータベースの復元に時間が掛かるときがあります。

このコマンドを実行するときは、あらかじめ、[コントロールパネル] の [管理ツール] - [サービス] で、JP1/NETM/DM Manager の「Remote Install Server」サービスを停止してください。

また、「Asset Information Manager Limited」を使用している場合は、「Asset Information Manager Limited」のサービスを次に示す順番で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service ,「Asset Information Manager Limited」のコマンドおよびタスク
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager (JP1/NETM/CSC と連携している場合)

なお、ODBC データソースで接続プールが設定されている場合、「Asset Information Manager Limited」の業務を停止させてから、接続プールで設定されているタイムアウトの時間が経過するまで接続状態になります。そのため、接続状態の解除を待ってから、コマンドを実行してください。

機能

netmdb_unload.bat コマンドで取得した移行用バックアップからデータベースを復元します。パッケージファイルおよび操作履歴格納ディレクトリのバックアップも復元されます。

形式

```
netmdb_reload.bat   ポート番号
                   管理者ユーザID
                   パスワード
                   /i JP1/NETM/DM Managerのインストール先ディレクトリ
                   /b 移行用バックアップファイル格納先ディレクトリ
                   /o 実行結果の出力先ファイル名
```

オプション

- ポート番号
データベースに接続するポート番号を指定します。
- 管理者ユーザ ID
データベースにログオンする管理者ユーザ ID を指定します。
- パスワード
データベースにログオンするためのパスワードを指定します。
- /i
JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリをフルパスで指定します。
- /b
移行用バックアップファイルの格納先ディレクトリをフルパスで指定します。格納先ディレクトリはローカルドライブを指定してください。また、格納先ディレクトリは、半角英数字、半角スペース、および次に示す記号で指定してください。
「:」、「.」、「¥」、「#」、「@」、「(」、「)」、「「」、「」」
- /o
実行結果を出力するファイル名をフルパスで指定します。

リターンコード

netmdb_reload.bat コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

リターンコード	内容
0	正常終了
-1	異常終了

注意事項

- データベースをアップグレードする前に取得したバックアップファイルは、アップグレードが完了したあとはデータベースの構造が異なるため復元できません。データベースをアップグレードしたあと、再度バックアップを取得してください。
- このコマンドの BAT ファイルの内容を変更しないでください。変更した場合、コマンドが実行できなくなるおそれがあります。
- Administrator 権限を持ったユーザでコマンドを実行してください。
- netmdb_unload.bat コマンドおよび netmdb_reload.bat コマンドで設定する管理者ユーザ ID は、同じ管理者ユーザ ID を指定してください。
- このコマンドのオプションは、形式で示した順序で設定してください。
- このコマンドを同時に複数実行しないでください。

実行例

netmdb_unload.bat コマンドで取得した移行用バックアップから Embedded RDB を復元する例を説明します。

この実行例では、各ディレクトリを次のように指定しています。

- JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ
C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM
- 移行用バックアップファイル格納先ディレクトリ
C:¥NETMDB
- 実行結果の出力先ファイル名
C:¥NETMDB¥unload.txt

また、コマンドを実行する前に、実行結果の出力先ファイルの格納先ディレクトリを作成しておいてください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
netmdb_reload.bat ポート番号 管理者ユーザID パスワード /i "C:¥Program
Files¥Hitachi¥NETMDM" /b C:¥NETMDB /o C:¥NETMDB¥unload.txt
```

(4) netmfile_backup.bat コマンド

JP1/NETM/DM Manager のリレーショナルデータベースに Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合に、パッケージファイルおよび操作履歴ファイルのバックアップを取得するコマンドです。

このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥bin 下に格納されています。

このコマンドを実行するときは、あらかじめ [コントロールパネル] の [管理ツール] - [サービス] で、JP1/NETM/DM Manager の「Remote Install Server」サービスを停止してください。

機能

指定した格納先ディレクトリにパッケージファイルおよび操作履歴ファイルのバックアップを取得します。

形式

```
netmfile_backup.bat /P /h [/d]
/i JP1/NETM/DM Managerのインストール先ディレクトリ
```

/b バックアップファイル格納先ディレクトリ
/o 実行結果の出力先ファイル名

/P オプションと /h オプションについては、どちらか、または両方を必ず指定してください。

オプション

- /P

パッケージファイルをバックアップする場合に指定します。ただし、Microsoft SQL Server を使用している場合でパッケージをデータベースに格納しているときは、このオプションを指定しても無視されます。

このオプションを指定すると、格納先ディレクトリに「RESOURCE」フォルダが作成され、パッケージファイルのバックアップが格納されます。

- /h

操作履歴ファイルをバックアップする場合に指定します。

このオプションを指定すると、格納先ディレクトリに「MONITORING」フォルダが作成され、操作履歴ファイルのバックアップが格納されます。

- /d

バックアップファイルをコマンド実行日時ごとにフォルダを分けて格納する場合に指定します。このオプションを指定すると、コマンドの実行日時を YYYYMMDDhhmmss (年月日時分秒) の形式で示すフォルダをバックアップファイルの格納先ディレクトリの下に作成し、そこにバックアップファイルを取得します。

- /i

JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリをフルパスで指定します。

- /b

バックアップファイルの格納先ディレクトリをフルパスで指定します。格納先ディレクトリは 150 バイト以内で指定することをお勧めします。極端に長いパスで指定すると、ディレクトリの作成に失敗するおそれがあります。

- /o

実行結果を出力するファイル名をフルパスで指定します。結果出力ファイルがすでにある場合は上書きされます。

リターンコード

netmfile_backup.bat コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

リターンコード	内容	対処
0	正常終了	なし
-1	パラメタ不正	パラメタを見直してください。
-2	レジストリからの情報取得に失敗した	<ul style="list-style-type: none"> • コマンドを実行したユーザに、レジストリにアクセスする権限があるか確認してください。 • JP1/NETM/DM Manager が正しくインストールされているか確認してください。
-3	ファイルのコピーに失敗した	<ul style="list-style-type: none"> • 指定したパスが正しいか確認してください。 • コマンドを実行したユーザに、指定したディレクトリにアクセスする権限があるか確認してください。 • 結果出力ファイルの実行結果を確認してください。
-4	ネットワークドライブへのアクセスに失敗した	セットアップの [ネットワーク接続] パネルで指定した項目 (ログイン ID, パスワード, およびドメイン名) を見直してください。

リターンコード	内容	対処
-5	結果出力ファイルのオープンに失敗した	<ul style="list-style-type: none"> 指定したパスが正しいか確認してください。 コマンドを実行したユーザに、指定したディレクトリにアクセスする権限があるか確認してください。

注意事項

- このコマンドの BAT ファイルの内容を変更しないでください。変更した場合、コマンドが実行できなくなるおそれがあります。
- Administrator 権限を持ったユーザでコマンドを実行してください。
- このコマンドのオプションは、形式で示した順序で設定してください。
- このコマンドを同時に複数実行しないでください。
- /d オプションを指定しない場合、格納先ディレクトリに指定したパスに「RESOURCE」フォルダまたは「MONITORING」フォルダがすでにあるとき、これらは上書きされます。

実行例

Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合に、パッケージファイルおよび操作履歴ファイルのバックアップをコマンド実行日時のフォルダを作成して取得する例を説明します。この実行例では、各ディレクトリを次のように指定しています。

- JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ
C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM
- バックアップファイル格納先ディレクトリ
C:¥Backup
- 実行結果の出力先ファイル名
C:¥Backup¥Backup.txt

また、コマンドを実行する前に、バックアップファイル格納先ディレクトリおよび実行結果の出力先ファイルの格納先ディレクトリを作成しておいてください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
netmfile_backup.bat /P /h /d /i "C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM" /b
C:¥Backup /o C:¥Backup¥Backup.txt
```

(5) netmfile_restore.bat コマンド

JP1/NETM/DM Manager のリレーショナルデータベースに Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合に、バックアップファイルからパッケージファイルおよび操作履歴ファイルを復元するコマンドです。

このコマンドは、JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥bin 下に格納されています。

このコマンドを実行するときは、あらかじめ、[コントロールパネル]の[管理ツール] - [サービス]で、JP1/NETM/DM Manager の「Remote Install Server」サービスを停止してください。

機能

指定したディレクトリに格納されているバックアップファイルから、パッケージファイルおよび操作履歴ファイルを復元します。

形式

```
netmfile_restore.bat /P /h
/i JP1/NETM/DM Managerのインストール先ディレクトリ
/b バックアップファイル格納先ディレクトリ
/o 実行結果の出力先ファイル名
```

/P オプションと /h オプションについては、どちらか、または両方を必ず指定してください。

オプション

• /P

パッケージファイルを復元する場合に指定します。ただし、Microsoft SQL Server を使用している場合でパッケージをデータベースに格納しているときは、このオプションを指定しても無視されません。

このオプションを指定すると、バックアップファイルの格納先ディレクトリ下の「RESOURCE」フォルダにあるファイルからパッケージファイルが復元されます。

• /h

操作履歴ファイルを復元する場合に指定します。

このオプションを指定すると、バックアップファイルの格納先ディレクトリ下の「MONITORING」フォルダにあるファイルから操作履歴ファイルが復元されます。

• /i

JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリをフルパスで指定します。

• /b

バックアップファイルの格納先ディレクトリをフルパスで指定します。実行日時のフォルダを作成してバックアップを取得した場合は、実行日時のフォルダを指定してください。

• /o

実行結果を出力するファイル名をフルパスで指定します。結果出力ファイルがすでにある場合は上書きされます。

リターンコード

netmfile_restore.bat コマンド実行時のリターンコードを次の表に示します。

リターンコード	内容	対処
0	正常終了	なし
-1	パラメタ不正	パラメタを見直してください。
-2	レジストリからの情報取得に失敗した	<ul style="list-style-type: none"> コマンドを実行したユーザに、レジストリにアクセスする権限があるか確認してください。 JP1/NETM/DM Manager が正しくインストールされているか確認してください。
-3	ファイルのコピーに失敗した	<ul style="list-style-type: none"> 指定したパスが正しいか確認してください。 コマンドを実行したユーザに、指定したディレクトリにアクセスする権限があるか確認してください。 結果出力ファイルの実行結果を確認してください。
-4	ネットワークドライブへのアクセスに失敗した	セットアップの [ネットワーク接続] パネルで指定した項目 (ログイン ID, パスワード, およびドメイン名) を見直してください。
-5	結果出力ファイルのオープンに失敗した	<ul style="list-style-type: none"> 指定したパスが正しいか確認してください。 コマンドを実行したユーザに、指定したディレクトリにアクセスする権限があるか確認してください。

注意事項

- このコマンドの BAT ファイルの内容を変更しないでください。変更した場合、コマンドが実行できなくなるおそれがあります。
- Administrator 権限を持ったユーザでコマンドを実行してください。
- このコマンドのオプションは、形式で示した順序で設定してください。
- このコマンドを同時に複数実行しないでください。

実行例

Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合に、パッケージファイルおよび操作履歴ファイルを、バックアップ実行日時のフォルダ「20081217120030」下にあるバックアップファイルから復元する例を説明します。

この実行例では、各ディレクトリを次のように指定しています。

- JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ
C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM
- バックアップファイル格納先ディレクトリ
C:¥Backup¥200812170030
- 実行結果の出力先ファイル名
C:¥Backup¥Backup.txt

また、コマンドを実行する前に、実行結果の出力先ファイルの格納先ディレクトリを作成しておいてください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
netmfile_restore.bat /P /h /i "C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM" /b  
C:¥Backup¥200812170030 /o C:¥Backup¥Backup.txt
```

5.4 運用上のメンテナンス

ここでは、運用開始後の配布管理システムのメンテナンスについて説明します。

5.4.1 クラスタシステム環境での配布管理システムの起動と停止

クラスタシステム環境でリレーショナルデータベースに Embedded RDB を使用している場合の配布管理システムの停止と起動についての手順を次に示します。

1. 次の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
 - 「Asset Information Synchronous Service」
 - 「Microsoft Internet Information Services」
 - 「Remote Install Server」
2. JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥BIN 下に格納されている netmdb_stop.bat コマンドを実行する。
Embedded RDB が停止したことをメッセージで確認してください。
3. 「HiRDB/ClusterService_JN1」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
4. JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリ ¥jp1asset¥exe 下に格納されている jamemb_dbstop.bat コマンドを実行する。
Embedded RDB が停止したことをメッセージで確認してください。
5. 「HiRDB/ClusterService_AM1」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
6. クラスタシステムアドミニストレータでグループを移動し、所有者を待機系サーバにする。
7. 実行系サーバの OS を終了してください。
8. 待機系サーバの OS を終了してください。
9. 待機系サーバの OS を開始してください。
10. 実行系サーバの OS を開始してください。
11. クラスタシステムアドミニストレータでグループを移動し、所有者を実行系サーバにする。
12. 次の汎用サービスリソースをオンライン状態にする。
 - 「HiRDB/ClusterService_AM1」
 - 「HiRDB/ClusterService_JN1」
 - 「Remote Install Server」
 - 「Microsoft Internet Information Services」
 - 「Asset Information Synchronous Service」

注 「Asset Information Manager Limited」を使用している場合に必要な作業です。

また、クラスタシステム環境でリレーショナルデータベースに Embedded RDB を使用している場合に、運用を継続しながら、実行系、待機系サーバで OS を再起動する手順を次に示します。

1. 次の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
 - 「Asset Information Synchronous Service」
 - 「Microsoft Internet Information Services」
 - 「Remote Install Server」

2. JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ ¥BIN 下に格納されている netmdb_stop.bat コマンドを実行する。
Embedded RDB が停止したことをメッセージで確認してください。
3. 「HiRDB/ClusterService_JN1」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
4. JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリ ¥jp1asset¥exe 下に格納されている jamemb_dbstop.bat コマンドを実行する。
Embedded RDB が停止したことをメッセージで確認してください。
5. 「HiRDB/ClusterService_AM1」の汎用サービスリソースをオフライン状態にする。
6. クラスタシステムアドミニストレータでグループを移動し、所有者を待機系サーバにする。
7. 次の汎用サービスリソースをオンライン状態にする。
 - 「HiRDB/ClusterService_AM1」
 - 「HiRDB/ClusterService_JN1」
 - 「Remote Install Server」
 - 「Microsoft Internet Information Services」
 - 「Asset Information Synchronous Service」
8. 実行系サーバの OS を再起動してください。
9. 待機系サーバで、手順 1. から手順 5. を実施する。
10. クラスタシステムアドミニストレータでグループを移動し、所有者を実行系サーバにする。
11. 次の汎用サービスリソースをオンライン状態にする。
 - 「HiRDB/ClusterService_AM1」
 - 「HiRDB/ClusterService_JN1」
 - 「Remote Install Server」
 - 「Microsoft Internet Information Services」
 - 「Asset Information Synchronous Service」
12. 待機系サーバの OS を再起動してください。

5.4.2 不要な情報削除によるメンテナンス

長期間にわたり運用を続けると、インベントリ情報や稼働情報が蓄積されて、データベース容量を圧迫するだけでなく、データベースの検索や更新処理にも影響を及ぼし、システムの性能を低下させるおそれがあります。

次に示す項目はこのような性能低下を回避するために CSV 出力ユティリティなどを使用して、情報の登録数を定期的に確認して不要な情報を削除することをお勧めします。

CSV 出力ユティリティについては、マニュアル「運用ガイド 1」の「9.1.1 CSV 形式ファイルに出力できる項目」を参照してください。

なお、削除によるリレーショナルデータベースの断片化を解消するために、削除後にデータベースの再編成を行うこともお勧めします。

リレーショナルデータベースに Embedded RDB を使用している場合の再編成の手順については、「5.2.1(2) データベースの再編成」を参照してください。

また、リレーショナルデータベースに Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合のデータ

ベースの再編成については、各 RDBMS のマニュアルを参照してください。

(1) システム構成

システム構成情報

CSV 出力ユーティリティであて先属性を出力して登録数を確認できます。

不要なホストはシステム構成情報のメンテナンスで削除することができます。

システム構成情報のメンテナンスについては、マニュアル「導入・設計ガイド」の「2.10.4 システム構成情報のメンテナンス」を参照してください。

また不要な削除履歴の削除の詳細については、マニュアル「構築ガイド」の「9.6.4 削除履歴の削除」を参照してください。

(2) インベントリ情報

ソフトウェア情報

• インストールパッケージ

CSV 出力ユーティリティでインストール済みパッケージ情報を出力して登録数を確認できます。

インストールパッケージ情報の削除の詳細はマニュアル「運用ガイド 1」の「3.2.7 取得したソフトウェア情報の削除」を参照してください。

• ソフトウェアインベントリ

CSV 出力ユーティリティでソフトウェアインベントリを出力して登録数を確認できます。

ソフトウェアインベントリ辞書からのソフトウェアの削除は、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.2.5 ソフトウェアインベントリ辞書の編集」を参照してください。

なお、削除されたホストの不要なインベントリ情報はデータベースマネージャから一括して削除できます。

詳細はマニュアル「導入・設計ガイド」の「2.2.8(2) システム構成にないホストのインベントリ情報について」を参照してください。

(3) ジョブ

ジョブ定義

リモートインストールマネージャの [ジョブ定義] ウィンドウで登録数を確認できます。

またフォルダを作成することでジョブを管理しやすくなります。

詳細は、マニュアル「運用ガイド 1」の「8.3.2 保存したジョブおよびフォルダの管理」を参照してください。

ジョブの実行結果

CSV 出力ユーティリティでジョブ実行状況を出力して登録数を確認できます。

[ジョブ実行状況] ウィンドウからだけでなく、コマンドでもジョブの実行と削除ができます。

ジョブの削除については、マニュアル「運用ガイド 1」の「8.5.1 ジョブの削除」を参照してください。

なお、ジョブの実行結果の保存の設定で不要なジョブの実行結果を記録しないようにすることでディスク容量を削減できます。

詳細はマニュアル「構築ガイド」の「4.2.6 [結果記録オプション] パネル」を参照してください。

(4) パッケージ

CSV 出力ユーティリティでパッケージ属性を出力して登録数を確認できます。

[パッケージ] ウィンドウだけでなく、コマンドでもパッケージ登録と削除ができます。

パッケージの削除についてはマニュアル「運用ガイド 1」の「2.4.4 キャビネットおよびパッケージの削除」を参照してください。

(5) ソフトウェアの稼働情報

操作ログ

稼働情報の格納処理のログ (MONRST.LOG ファイル) で登録数を確認できます。

抑止履歴, 操作履歴および稼働時間といった稼働情報の格納, 削除の詳細は, マニュアル「運用ガイド 1」の「6.4 稼働情報を取得する」を参照してください。

稼働情報を自動で格納する設定の場合, 稼働情報の格納および削除は自動で行うので, 運用時の操作は不要です。

稼働情報を手動で格納する設定の場合, 稼働情報の格納および削除はコマンドで実行します。

なお, 不要な稼働情報の削除については, マニュアル「運用ガイド 1」の「2.6.5 稼働情報管理の運用例」を参照してください。

操作履歴退避ディレクトリ

セットアップの [稼働監視] パネルで下記項目を設定することでサイズを確認できます。

" しきい値に達した場合イベントビューアにメッセージを出力する "

詳細については, マニュアル「構築ガイド」の「4.2.14 [稼働監視] パネル」を参照してください。

(6) クライアントに適用するパッチ

リモートインストールマネージャの [更新プログラムの管理] ダイアログボックスで登録数を確認できます。

不要になった取得済みのパッチの削除の詳細については, マニュアル「運用ガイド 1」の「7.1.1 パッチを取得する」を参照してください。

6

トラブルシューティング

この章では、JP1/NETM/DM を使用中にトラブルが発生した場合の、トラブル情報の確認方法やトラブルへの対処方法について説明します。

-
- 6.1 トラブル発生時の対処方法
 - 6.2 ジョブのトラブルシューティング
 - 6.3 JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) のトラブルシューティング
 - 6.4 JP1/NETM/DM Client (クライアント) のトラブルシューティング
 - 6.5 インターネットオプションのトラブルシューティング
 - 6.6 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のトラブルシューティング
 - 6.7 Asset Information Manager Limited のトラブルシューティング
 - 6.8 保守資料の採取
-

6.1 トラブル発生時の対処方法

JP1/NETM/DM を使用中にトラブルが発生した場合は、次の手順で対処してください。

1. メッセージが表示されているかどうかを確認する。
 - ジョブがエラーになった場合は、[詳細情報] ダイアログボックスでエラーの内容を確認できます。「6.2 ジョブのトラブルシューティング」を参照し、対処方法に従って対処してください。
 - JP1/NETM/DM では、トラブルが発生した場合、ログが取得されます。ログの内容を確認し、対処してください。JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) のログの確認方法については「6.3.1 ログファイルの確認」を、JP1/NETM/DM Client (クライアント) のログの確認方法については「6.4.1 ログファイルの確認」を参照してください。
2. 「正常に動作しないときの対処」に挙げられている事象に当てはまるかどうかを確認する。

JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) での事象は「6.3.2 正常に動作しないときの対処」を、JP1/NETM/DM Client (クライアント) での事象は「6.4.2 正常に動作しないときの対処」を参照し、対処方法に従って対処してください。
3. 1 および 2 の対処で問題が解決しない場合は、保守資料を採取し、システム管理者に連絡する。

「6.8 保守資料の採取」を参照し、トラブルの要因を調べるための資料を採取してください。システム管理者は、採取した資料を基にトラブルの要因を調査し、対処してください。

ログファイルには、運用上のトラブルにはならない一時的なエラーなどもメッセージ出力されることがあります。内容の確認をお勧めするメッセージについては、「7.1.4 監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処」を参照してください。

6.2 ジョブのトラブルシューティング

JP1/NETM/DM で実行したジョブがエラーになった場合の、詳細情報の確認方法と対処方法を説明します。

6.2.1 エラージョブの詳細情報を確認する方法

JP1/NETM/DM で実行したジョブがエラーになった場合、リモートインストールマネージャの [ジョブ実行状況] ウィンドウから表示される [詳細情報] ダイアログボックスで、エラーの詳細情報を確認できます。

[ジョブ実行状況] ウィンドウでは、階層ごとにジョブの情報が表示されます。[詳細情報] ダイアログボックスを表示するには、[ジョブ実行状況] ウィンドウに最下層の情報を表示した状態で、右枠のジョブを選択したあと、[表示] - [ジョブの詳細情報の表示] を選択します。または、右枠のジョブをダブルクリックします。

例えば、リモートインストールするジョブの場合、次に示すように、最下層の情報であるパッケージ（業務プログラム）をダブルクリックすると、[詳細情報] ダイアログボックスが表示されます。

図 6-1 [ジョブ実行状況] ウィンドウ

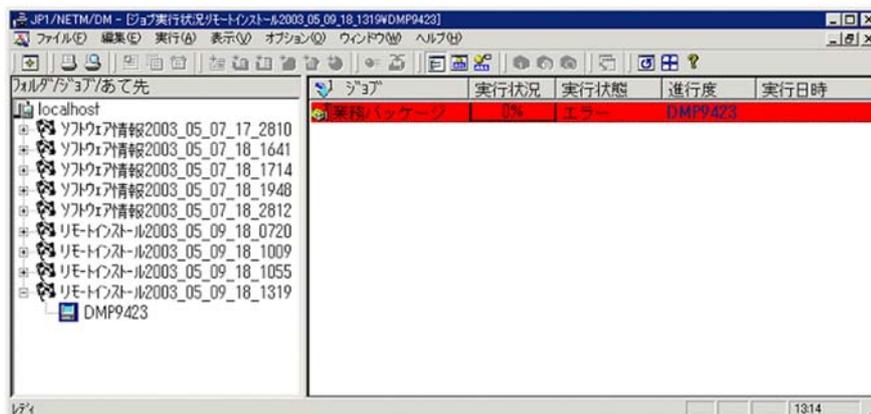
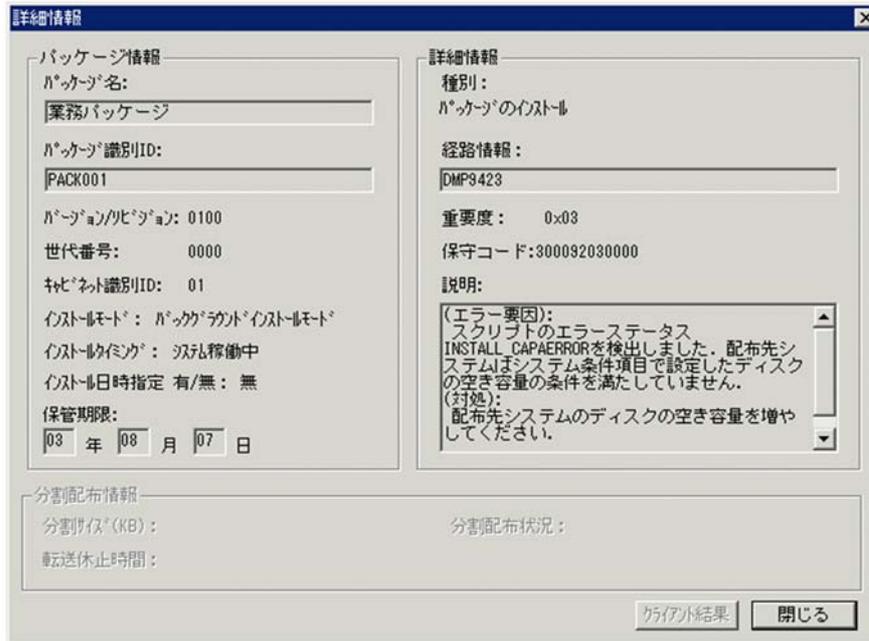


図 6-2 [詳細情報] ダイアログボックス



「説明」欄には、エラーの要因や対処方法が表示されます。また、エラーの原因は保守コードとして表示されます。保守コードについては、「6.2.3 保守コード一覧」を参照してください。

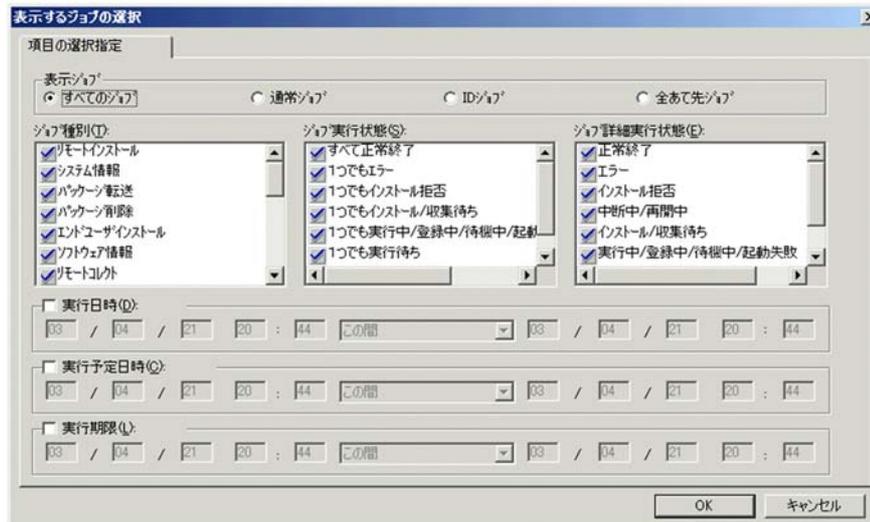
なお、「説明」欄の「エラー関数」に「UNIX」,「エラー理由」に番号が表示されている場合、この番号を4けたずつ区切ると、UNIXのクライアントであるJP1/NETM/DM/WまたはJP1/NETM/DM Clientから通知されたメッセージIDになります。メッセージIDの内容については、UNIX版JP1/NETM/DMのマニュアル「JP1/NETM/DM Client(UNIX(R)用)」,または「JP1 Version 5 統合ネットワーク管理システム/ソフトウェア配布管理支援/ワークステーション JP1/NETM/DM/W」を参照してください。

6.2.2 エラージョブを効率的に確認する方法

リレーショナルデータベースを使用している場合,[ジョブ実行状況]ウィンドウには、特定の実行状態のジョブだけを表示できます。次に、エラーのジョブだけを表示する方法を示します。

1. [ジョブ実行状況]ウィンドウで,[表示] - [すべてのジョブ詳細の表示]を選択する。
2. [ジョブ実行状況]ウィンドウで,[表示] - [ジョブの種類]を選択する。
[表示するジョブの選択]ダイアログボックスが表示されます。

図 6-3 [表示するジョブの選択] ダイアログボックス



3. 「ジョブ詳細実行状態」で「エラー」だけを選択する。

この設定によって、[ジョブ実行状況] ウィンドウには、選択した階層下のエラーの情報だけが表示されるようになり、エラーのジョブが確認しやすくなります。

エラーとなったジョブをダブルクリックすると、[詳細情報] ダイアログボックスが表示され、エラーの詳細情報を確認できます。

6.2.3 保守コード一覧

リモートインストールなどのジョブがエラーになった場合、エラーの原因が保守コードとして表示されます。[ジョブ実行状況] ウィンドウから表示される [詳細情報] ダイアログボックスで、保守コードを確認してください。

ここでは、保守コードごとに、エラーの原因および対処方法を説明します。

なお、保守コードの左から 9 番目と 10 番目の数字はユーザステータスで、JP1/NETM/DM のジョブの実行結果であるリターンコードや、JP1/NETM/DM 以外のインストーラや外部プログラムなどのリターンコードが表示されます。32 ビットの値がリターンコードとして返された場合は、下位 1 バイトが表示されます。JP1/NETM/DM 以外のリターンコードについては、インストーラや外部プログラムなどの開発元にお問い合わせください。

(1) 通常のリモートインストールが失敗した場合

通常のリモートインストールのジョブで返される主な保守コードの要因および対処方法を次の表に示します。

なお、あて先が UNIX のクライアントの場合、外部プログラムの処理に成功しリモートインストールのジョブが正常終了しても、ユーザステータスに「00」以外の値が表示されますが、これは無視して問題ありません。

表 6-1 リモートインストール時の保守コード

保守コード	要因	対処方法
300092020000	容量の大きいソフトウェアをリモートインストールしたため、クライアントで、インストールおよびその作業に必要なディスク容量が確保できません。	マニュアル「導入・設計ガイド」の「5.3.3 ディスク占有量」を参照して、リモートインストール時にクライアントに必要なハードディスク容量を算出してください。ハードディスクの容量に余裕がないPCにリモートインストールする場合は、不要なファイルを削除してから実行してください。 また、JP1/NETM/DM Client はハードディスクに余裕があるドライブにインストールしてください。
300093010000	リモートインストールするパッケージを、クライアントがサポートしていません。	リモートインストールするパッケージをサポートしているバージョンに、クライアントをバージョンアップしてください。
300097010000	次に示す原因によって、リモートインストールする対象のファイルが作成できません。 1. リモートインストール対象のファイルが使用されている。 2. 同一名称のディレクトリがある。 3. ファイルにアクセス権限がない。 4. 高圧縮のパッケージをサポートしていないバージョンのクライアントに配布した。 5. パッケージの暗号化キーとクライアントの暗号化キーが不一致である。	1. ~ 3. のそれぞれの要因を取り除いてください。 なお、クライアントで [スタートアップ] グループに登録されているプログラムに対し、「システム起動時インストール」のリモートインストールを実行すると、1. の理由でインストールが失敗します。スタートアップから起動しているプログラムなどは、[NETM_DM_P スタートアップ] フォルダに移動しておいてください。先にインストール処理をしてからプログラムを起動します。[NETM_DM_P スタートアップ] フォルダへの移動については、マニュアル「運用ガイド 1」の「11.2.2(2) スタートアッププログラムの移行」を参照してください。 4. の場合、高圧縮のパッケージを互換モード圧縮でパッケージングしてから配布してください。 5. の場合、JP1/NETM/DM Encryption Option で、パッケージとクライアントの暗号化キーを一致させてください。
300097050000	JP1/NETM/DM Encryption Option をインストールしていないクライアントに対して、暗号化パッケージをリモートインストールしました。	クライアントに JP1/NETM/DM Encryption Option をインストールしてください。
3000980E.xx00	前処理プログラムの起動に失敗しました。	なし。
3000980F0000	前処理プログラムから応答がないまま、外部プログラム監視時間が経過しました。	前処理プログラムを確認してください。また、外部プログラム監視時間が適切な値かどうかを確認してください。
30009A01.xx00	後処理プログラムの起動に失敗しました。	「xx」が「00」の場合は、外部プログラムのパスを確認してください。 また、「xx」が「00」以外の場合は、ユーザステータスを確認してください。
30009A060000	後処理プログラムから応答がないまま、外部プログラム監視時間が経過しました。	後処理プログラムを確認してください。また、外部プログラム監視時間が適切な値かどうかを確認してください。
30009F090000	パッケージのダウンロード中またはインストール中に、クライアントの PC の電源をオフにされたため、インストールが失敗しました。	なし。

保守コード	要因	対処方法
900090009000	<ul style="list-style-type: none"> インストールを実行しないでインストールが完了したことを配布管理システムに通知してくる場合リモートインストールしたパッケージと同じソフトウェアがクライアントシステムにインストールされています。 インストールが完了しているのにファイルができない場合クライアントシステム側にリモートインストールされているデータを削除してしまいました。 	ジョブの作成時に「同じパッケージがあったら上書き」を指定して実行すると、リモートインストール先に同じパッケージがあってもインストールできます。

注 xxは前処理プログラムまたは後処理プログラムのリターンコードです。

(2) 日立プログラムプロダクトのリモートインストールが失敗した場合

JP1/NETM/DM Client またはそのほかの日立プログラムプロダクトをリモートインストールした場合に返される保守コードの要因および対処方法を、表 6-2 ~ 表 6-3 に示します。

なお、3000AF00xx00 の形式で返される保守コードの、xxの部分はジョブ結果のリターンコードです。JP1/NETM/DM Client (クライアント) のリモートインストールが終了したあとは、クライアントの画面にもリターンコードが表示されます。

表 6-2 JP1/NETM/DM Client をリモートインストールしたときの保守コード

保守コード	要因	対処方法
300077030000	配布先 OS に対応していない JP1/NETM/DM Client (クライアント) が配布されたため、インストールに失敗しました。	配布先の OS と JP1/NETM/DM Client (クライアント) の適用 OS を確認し、配布先の OS に対応した JP1/NETM/DM Client (クライアント) をリモートインストールしてください。
3000AF000000	正常終了。	なし。
3000AF008000	インストール設定ファイル (setup.inf) の解析に失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
3000AF008100	媒体にインストールファイルがありません (PP ファイルなし)。	不正な媒体であるおそれがあります。システム管理者に連絡してください。
3000AF008200	アイコンの登録に失敗しました (インストール後の処理エラー)。	JP1/NETM/DM の動作環境が不正となっているおそれがあります。手動で上書きインストールを実行してください。
	リモートコントロールエージェントのプログラムフォルダがありません。	JP1/NETM/DM の動作環境が不正となっているおそれがあります。手動で上書きインストールを実行してください。
3000AF008300	リモートコントロールエージェントのレジストリ登録に失敗しました。	JP1/NETM/DM の動作環境が不正となっているおそれがあります。手動で上書きインストールを実行してください。
	リモートコントロールエージェントの許可マネージャの登録に失敗しました。	JP1/NETM/DM の動作環境が不正となっているおそれがあります。手動で上書きインストールを実行してください。
	レジストリにインストール先ディレクトリがありません。	JP1/NETM/DM の動作環境が不正となっているおそれがあります。手動で上書きインストールを実行してください。

6. トラブルシューティング

保守コード	要因	対処方法
	Microsoft Office 製品およびウイルス対策製品情報の検索に必要なモジュールの登録に失敗しました。	Windows ディレクトリ ¥Temp¥DMPINST.LOG に「COM Object Save Command Failed.」と出力されている場合があります。 次のどちらかの方法で対処してください。 <ul style="list-style-type: none"> • JP1/NETM/DM Client を再インストールする。 • コマンドプロンプトを起動して、次のコマンドを実行する。 REGSVR32 .EXE "JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリ¥BIN¥dmpComSW.dll"
3000AF008500	ファイルコピー中にエラーが発生しました（ディスクアクセスエラー）。	ハードディスクが正常に動作しているか確認してください。 ハードディスクが正常に動作している場合は、インストール先フォルダが使用中であることが考えられます。インストール先フォルダを使用しているアプリケーションを終了するか PC の再起動が必要です。
3000AF008500	JP1/NETM/DM Client（クライアント）の自身配布で、ファイルコピーのディレクトリ作成に失敗しました。	ハードディスクが正常に動作しているか確認してください。 ハードディスクが正常に動作している場合は、インストール先フォルダが使用中であることが考えられます。インストール先フォルダを使用しているアプリケーションを終了するか PC の再起動が必要です。
3000AF008600	インストール先ドライブの空き容量が不足しました。	ハードディスクの空き容量を増やした上で再度リモートインストールを実行するか、別のインストール先ドライブを指定して再度リモートインストールを実行する必要があります。
3000AF008600	実行ファイルのバックアップ作成に失敗しました。	ハードディスクの空き容量を確保して再インストールしてください。
3000AF008700	インストーラ用 DLL の読み込みに失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
	JP1/NETM/DM Client（クライアント）の自身配布で、ディスク交換を要求されました。	システム管理者に連絡してください。
	JP1/NETM/DM Client（クライアント）の自身配布で、ディスク番号に誤りがあります。	ディスク番号を確認しながら再度パッケージ直ししてください。
	インストールファイルの伸長でエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
	リモートコントロールエージェントで、インストール用 DLL の読み込みに失敗しました（ファイルオープンエラー）。	システム管理者に連絡してください。
3000AF008B00	総合インストーラフラグの設定に誤りがあります。	システム管理者に連絡してください。
3000AF008C00	次の中継システムの製品がインストールされているコンピュータに、JP1/NETM/DM Client（クライアント）をインストールしました。 <ul style="list-style-type: none"> • JP1/NETM/DM Client（中継システム） • JP1/NETM/DM SubManager • NETM/DM SubManager • NETM/DM の中継システム • NETM/DM/P-AF • Groupmax Remote Installation Client の中継システム 	次のどちらかの方法で対処してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 中継システムの製品をアンインストールする。 • 別のコンピュータに JP1/NETM/DM Client（クライアント）をインストールする。

保守コード	要因	対処方法
	NETM/DM light がすでにインストールされているコンピュータに JP1/NETM/DM Client (クライアント) をインストールしました。	NETM/DM light をアンインストールする、または別のコンピュータに JP1/NETM/DM Client (クライアント) をインストールしてください。
	総合インストーラの操作に誤りがあります。	システム管理者に連絡してください。
	インストール先の OS バージョンに誤りがあります (インストール拒否)。	インストールできないシステムにリモートインストールしたおそれがあります。インストール先の OS バージョンを確認してください。
	リモートコントロールエージェントの、インストール先の OS バージョンに誤りがあります。	インストールできないシステムにリモートインストールしたおそれがあります。インストール先の OS バージョンを確認してください。
	JP1/NETM/Remote Control Agent, JP1/Remote Control Agent, または JP1/NETM/DM Manager のリモートコントロールエージェントがインストールされている PC に、JP1/NETM/DM Client (クライアント) のリモートコントロールエージェントをインストールしました。	システム管理者に連絡してください。
3000AF009000	インストールコンポーネントに誤りがあります (「クライアント Web インストール」がインストールされている PC にリモートインストールしました)。	JP1 Version 7i のコンポーネント「クライアント Web インストール」がインストールされている PC の場合、手動でインストールしてください。
3000AF009200	JP1/NETM/DM Client (クライアント) が処理実行中です。	JP1/NETM/DM Client (クライアント) を再度、リモートインストールしてください。
3000AF009400	インストール前処理エラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。
	リモートコントロールエージェントのドライバ設定が失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
	リモートコントロールエージェントのダイアログボックスの読み込みに失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
	リモートコントロールエージェントのサービスの制御に失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
3000AF009500	Web ブラウザから、JP1/NETM/DM Client (クライアント) をインストールしようとしたが、クライアントおよびリモートコントロールエージェント以外のコンポーネントがすでにインストールされています。	クライアントとリモートコントロールエージェント以外のコンポーネントをアンインストールしてください。
	JP1/NETM/DM Manager (中継マネージャ) がインストールされている PC に、JP1/NETM/DM Client (クライアント) をリモートインストールしました。	JP1/NETM/DM Manager をアンインストールする、または別の PC に JP1/NETM/DM Client (クライアント) をインストールしてください。
	JP1/NETM/DM Manager がインストールされている PC に、JP1/NETM/DM Client (中継システム) をリモートインストールしました。	JP1/NETM/DM Manager をアンインストールする、または別の PC に JP1/NETM/DM Client (中継システム) をインストールしてください。
3000AF009600	中継システムの管理ファイルの移行に失敗しました。	リモートインストールを再実行してください。

6. トラブルシューティング

保守コード	要因	対処方法
3000AF009800	「スタートアップ機能支援ツール」がインストールされている PC に、JP1/NETM/DM Client (クライアント) をリモートインストールしました。	「スタートアップ機能支援ツール」がインストールされている PC の場合、手動でインストールしてください。
	「差分情報の取得」がインストールされている PC に、JP1/NETM/DM Client (中継システム) をリモートインストールしました。	「差分情報の取得」がインストールされている PC の場合、手動でインストールしてください。

表 6-3 そのほかの日立プログラムプロダクトをリモートインストールしたときの保守コード

保守コード	要因	対処方法
300077030000	配布先の OS に対応していない日立プログラムプロダクトが配布されたため、インストールに失敗しました。	配布先の OS と日立プログラムプロダクトの適用 OS を確認し、配布先の OD に対応した日立プログラムプロダクトをリモートインストールしてください。
3000AF008000 , 3000AF008100	インストールが異常終了しました。	システム管理者に連絡してください。
3000AF008200	インストール直後の外部処理プログラムでエラーが発生しました。 • アイコン追加処理で失敗 • グループ追加処理で失敗	パッケージング時に指定した、インストール後に実行するプログラムパスに誤りがないか確認してください。パスに誤りがない場合は、実行したプログラムが異常終了したことが考えられます。
3000AF008300	インストールが異常終了しました。	システム管理者に連絡してください。
3000AF008400	インストール時に必要な、メモリの容量が不足しています。	ほかのプログラムを終了させるなどしてメモリを確保してから、再度実行してください。
3000AF008500	ハードディスクのアクセスエラーが発生しました。	ハードディスクが正常に動作しているか確認してください。 ハードディスクが正常に動作している場合は、インストール先フォルダが使用中であることが考えられます。インストール先フォルダを使用しているアプリケーションを終了するか PC の再起動が必要です。
3000AF008600	ハードディスクの空き容量が不足しています。	ハードディスクの空き容量を確保してから、再度実行してください。
3000AF008700	インストールが異常終了しました。	システム管理者に連絡してください。
3000AF008800	起動パラメタが誤っています。 (例) 更新インストールが指示されたが、該当するプログラムがインストールされていない。	エラーの現象が、左の例と同じ場合は、新規インストールで再度実行してください。 そのほかの場合は、システム管理者に連絡してください。
3000AF008A00	プログラムプロダクトを新規インストールできません。	配布先に旧バージョンがすでにインストールされているため、更新インストールで再度リモートインストールし直してください。
3000AF008B00	インストールが異常終了しました。	システム管理者に連絡してください。
3000AF008C00	インストールが拒否されました。 (例) 前提プログラムがインストールされていない。	エラーの現象が、左の例と同じ場合は、前提となるプログラムをインストールしたあと、再度実行してください。 そのほかの場合は、システム管理者に連絡してください。
3000AF008D00 , 3000AF008E00 , 3000AF008F00	インストールが異常終了しました。	システム管理者に連絡してください。

保守コード	要因	対処方法
3000AF009000 ~ 3000AF009900 , 3000AF009A00 ~ 3000AF009F00	各日立プログラムプロダクト固有の理由で、インストールが異常終了しました。	インストールに失敗した各プログラムプロダクトの README またはリリースノートを参照してください。または、各プログラムプロダクトのシステム管理者に連絡してください。

(3) 他社ソフトウェアのリモートインストールが失敗した場合

他社ソフトウェアのリモートインストールジョブで返される保守コードの要因および対処方法を次の表に示します。

表 6-4 他社ソフトウェアのリモートインストール時の保守コード

保守コード	要因	対処方法
300091070000	<p>配布先システムでインストール中にエラーが発生しました。以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パッケージング時、レコーダファイルのディレクトリ指定フィールドにレコーダファイルが設定されていません。または、設定したファイルの拡張子が規定のものとは異なります。 • レコーダファイルまたは AIT ファイルが存在しません。 • AIT ファイルをサポートしていないクライアントに、AIT ファイルを使用したパッケージをリモートインストールしました。 	<p>[JP1/NETM/DM パッケージング] ダイアログボックスの [レコーダファイル設定] パネルを開き、レコーダファイルのディレクトリ指定フィールドにレコーダファイルが設定されていることを確認して実行してください。ファイルの拡張子は配布先の環境やインストール方法によって異なりますので注意してください。</p> <p>配布先システムが AIT ファイルをサポートしていることを確認してください。パッケージが壊れていないか確認してください。</p>
300094060000	<p>インストール定義ファイルのコピー処理でエラーが発生しました。</p>	<p>配布先システムのディスク空き容量を確認してください。</p> <p>再実行しても問題が発生する場合は、システム管理者に連絡してください。</p>
300097020000	<p>配布先システムが PC の場合 配布先システムでインストール中にエラーが発生しました。以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • レコーダファイルで、インストール定義ファイルに指定したインストーラのパスが不正です。 • AIT ファイルで、パッケージ情報に指定したインストーラのパスが不正です。 • システムエラー。 <p>配布先システムが UNIX の場合 インストールパスワードファイルが壊れています。</p>	<p>配布先システムが PC の場合 インストール定義ファイルで指定したインストーラのパスを確認してください。</p> <p>AIT ファイルのパッケージ情報で指定したインストーラのパスを確認してください。</p> <p>上記を確認しても問題が発生する場合は、システム管理者に連絡してください。</p> <p>配布先システムが UNIX の場合 インストールパスワードファイルを登録してから、再実行してください。</p>

保守コード	要因	対処方法
30009F070000	<p>配布先システムでインストール中にエラーが発生しました。以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • インストール先ディレクトリの不正。 • インストール先のディスク容量不足。 • レコーダファイルの実行中にエラーが発生しました。 • AIT ファイルの実行中にエラーが発生しました。 • Visual Test または Automatic Installation Tool のバージョン不正。 • 配布先システムに Visual Test による配布機能がインストールされていません。 • 配布先システムが Visual Test による配布機能をサポートしていません。 • 配布先システムに Windows Installer がインストールされていません。 	<ul style="list-style-type: none"> • インストール先ディレクトリの指定、および配布先システムのディスク容量とディレクトリを確認してください。 • レコーダファイルまたは AIT ファイルの実行結果を参照してください。保守コード中のユーザステータス（左から 9 番目と 10 番目）の値には、レコーダファイルまたは AIT ファイルの実行結果のリターンコードが格納されています。 • レコーダファイルを作成した Visual Test のバージョンを確認してください。 • AIT ファイルを作成した Automatic Installation Tool のバージョンを確認してください。 • 配布先システムに Visual Test による配布機能がインストールされていることを確認してください。 • 配布先システムに Windows Installer がインストールされているか確認してください。
30009F0B0000	<p>配布先システムでインストール中に、レコーダファイルまたは AIT ファイルの処理がタイムアウトしました。以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • レコーダファイルまたは AIT ファイルの処理の記述に誤りがあります。 • ソフトウェアの配布中に、クライアント側でユーザがインストーラの画面を操作しました。 	<ul style="list-style-type: none"> • パッケージまたはリモートインストールマネージャで設定したレコーダファイル監視時間または AIT ファイル監視時間が十分であることを確認してください。 • レコーダファイルまたは AIT ファイルを修正したら、再度パッケージングしてください。 • クライアント側でインストール画面が起動している場合は終了させて、再度ジョブを実行してください。
300099020000	<p>配布先システムが PC の場合 配布先システムでインストールスクリプト実行中にエラーが発生しました。以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Setup() 関数の処理に失敗しました。 • システムエラー。 <p>配布先システムが UNIX の場合 組み込み処理でエラーが発生しました。</p>	<p>配布先システムが PC の場合 GUI インストールモードで動作していることと、レコーダファイルまたは AIT ファイルの内容に誤りがないことを確認してください。</p> <p>上記を確認しても問題が発生する場合は、システム管理者に連絡してください。</p> <p>配布先システムが UNIX の場合 配布先システムのログファイルを参照して、原因を調査してください。</p>

(4) 「ソフトウェア情報の取得」ジョブが失敗した場合

「ソフトウェア情報の取得」ジョブの「Microsoft Office 製品を検索」または「ウイルス対策製品を検索」を実行したときに、返される保守コードの要因および対処方法を次の表に示します。

表 6-5 「ソフトウェア情報の取得」ジョブ実行時の保守コード

保守コード	要因	対処方法
3000EF200000	<p>配布先システムでソフトウェア情報の取得処理中にエラーが発生しました。以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メモリ不足 • ディスク I/O エラー 	<p>配布先システムで不要なファイルを削除し、ハードディスクの空き容量を増やしてください。また、不要なアプリケーションを停止してください。</p>
3000EF210000	<p>配布先システムでソフトウェア情報取得用のスクリプトの実行エラーが発生しました。以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スクリプトが不正 • クライアントのインストール状態が不正 	<p>ほかのスクリプトを実行しても同じエラーとなる場合は、クライアントを再インストールしてください。また、このスクリプトだけがエラーとなる場合は、システム管理者に連絡してください。</p>

保守コード	要因	対処方法
3000EF220000	配布先システムでソフトウェア情報の取得処理中にディスク容量不足が発生しました。	配布先システムで不要なファイルを削除し、ハードディスクの空き容量を増やして再実行してください。
3000EF230000	配布先システムでソフトウェア情報の取得処理中にメモリ不足が発生しました。	配布先システムで不要なアプリケーションを停止してから再実行してください。
3000EF240000	配布先システムでソフトウェア情報取得用のスクリプトの処理がタイムアウトしました。	実行したスクリプトに問題があります。システム管理者に連絡してください。
3000EF250000	配布先システムでソフトウェア情報取得用のスクリプトの実行に失敗しました。 Windows スクリプティングホストがインストールされていない、または正しくインストールされていないおそれがあります。	配布先システムで、Windows スクリプティングホストを再インストールしてください。 Windows スクリプティングホストを再インストールしても問題が解決しない場合は、クライアントを再インストールしてください。
3000EF300000	配布先システムで Windows Update Agent または MBSA によるパッチ情報の検出に失敗しました。 以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • 前提プログラムがインストールされていない。 • 権限がないユーザで実行された。 • Workstation サービスおよび Server サービスが停止している。 	前提プログラムがインストールされているか確認してください。 クライアントセットアップで以下の設定を有効にしてから再度ジョブを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 常駐の場合、[一般ユーザ権限で使用する] • 非常駐の場合、[非常駐でジョブ実行またはパッケージセットアップマネージャを使用する] Workstation サービスおよび Server サービスが停止していないか確認してください。

(5) 「ユーザインベントリ情報の転送」ジョブが失敗した場合

「ユーザインベントリ情報の転送」ジョブで返される保守コードの要因および対処方法を次の表に示します。

表 6-6 「ユーザインベントリ情報の転送」ジョブ実行時の保守コード

保守コード	要因	対処方法
300073002290 , 300093012290 , 3000e5012290 , 3000e7012290	ジョブの対象となる中継システムまたはクライアントが「ユーザインベントリ情報の転送」ジョブの実行をサポートしていません。	「ユーザインベントリ情報の転送」ジョブは、次に示すバージョンで使用できます。中継システムまたはクライアントを次のバージョンにしてください。 <ul style="list-style-type: none"> • NETM/DM SubManager Version 3.0 03-10 以降 • NETM/DM/W Version 3.0 03-10 以降 • NETM/DM Client Version 3.0 03-10 以降

(6) 「ソフトウェア稼働監視の制御」ジョブが失敗した場合

「ソフトウェア稼働監視の制御送」ジョブで返される保守コードの要因および対処方法を次の表に示します。

6. トラブルシューティング

表 6-7 「ソフトウェア稼働監視の制御」ジョブ実行時の保守コード

保守コード	要因	対処方法
300093010000	ジョブの対象となる中継システムまたはクライアントが「ソフトウェア稼働監視の制御」ジョブの実行をサポートしていません。	<p>「ソフトウェア稼働監視の制御」ジョブは、次に示すバージョンで使用できます。</p> <p>中継システムまたはクライアントを次のバージョンにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JP1/NETM/DM SubManager 07-50 以降 • JP1/NETM/DM Client 07-50 以降

6.3 JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) のトラブルシューティング

ここでは、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) にトラブルが発生した場合の、情報の確認方法やトラブルへの対処方法について説明します。また、トラブルに備えたバックアップの取得や復元についても説明します。

6.3.1 ログファイルの確認

JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) では、発生したイベントごとにログが取得されます。ユーザが確認できるログは、次の 9 種類です。

1. Windows NT のイベントログ
2. MAIN.LOG ファイル
3. RDBSRV.LOG ファイル
4. インベントリビューア関連のログ (INVODBC.log ファイル)
5. AMT 連携機能のログ (DCMAMT.LOG ファイル)
6. 稼働情報の格納処理のログ (MONRST.LOG ファイル)
7. クライアント機能の基本ログ (USER_CLT.LOG ファイル)
8. インストールスクリプト関連のログ (SCRIPT.LOG ファイル)
9. インストールスクリプトの LogFile 関数出力のログ (USER.LOG ファイル)

7, 8, 9 は、JP1/NETM/DM Manager (中継マネージャ) および JP1/NETM/DM Client (中継システム) のクライアント機能を使用している場合に取得されます。

Windows NT のイベントログは、Windows NT のイベントビューアから確認します。それ以外のログファイルは、JP1/NETM/DM Manager または JP1/NETM/DM Client (中継システム) のインストール先ディレクトリ ¥LOG 下に保存されますので、それらを確認する場合はテキストエディタを使用してください。ただし、中継マネージャの場合、2 ~ 4 のログファイルはインストール先ディレクトリ ¥LOG_S 下に保存されます。

また、PC 起動後など Microsoft SQL Server または Oracle のリレーショナルデータベースサーバが起動する前に、コマンド実行、GUI 操作および下位システムから接続要求をすると、Windows のイベントログ、MAIN.LOG および RDBSRV.LOG にエラーメッセージが出力されることがあります。

次に、各ログについて説明します。7, 8, 9 のログについては、「6.4.1 ログファイルの確認」を参照してください。

(1) Windows NT のイベントログを確認する

OS が Windows NT の場合、JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の使用中に取得されたイベントログは、イベントビューアを使って表示できます。イベントビューア中のソース欄に表示される次のイベントを確認してください。

- NETM/DM
JP1/NETM/DM Manager または JP1/NETM/DM Client (中継システム) の使用中に取得されたログです。
- Netmdm Utility
JP1/NETM/DM コマンドの実行結果を取得したログです。

6. トラブルシューティング

イベントビューアの [ログ] メニューから [コンピュータの選択] を選ぶことで、Windows NT の動作しているほかのホストのイベントも確認できます。イベントビューアの詳しい操作方法については、Windows NT のマニュアルまたはヘルプを参照してください。

イベントビューアのイベント欄に表示される数字 (イベント ID) は、メッセージ ID に相当します。数字の意味は、次のとおりです。

表 6-8 イベント ID とその意味 (JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の場合)

イベント ID	内容
0 ~ 999	Windows NT とのインターフェース関連
1000 ~ 1999	TCP/IP 関連
7000 ~ 7999	インストール関連
8000 ~ 8999	中継関連
10000 ~ 19999	配布管理システム関連
30000 ~ 39999	クライアントアラート関連

また、イベントビューアのウィンドウで各イベントをダブルクリックすると、イベントごとの詳しい説明が表示されます。この説明は、Windows NT の言語環境に合わせて日本語か英語で表示されます。例えば、配布管理システムまたは中継するシステムのディスク容量が不足し、システムエラーが発生したときは、イベントビューアのシステムログに、ディスク容量が不足したことを示すメッセージが出力されます。この場合、不要なファイルを削除するなどして、必要なディスク容量を確保してから、処理を再度実行してください。

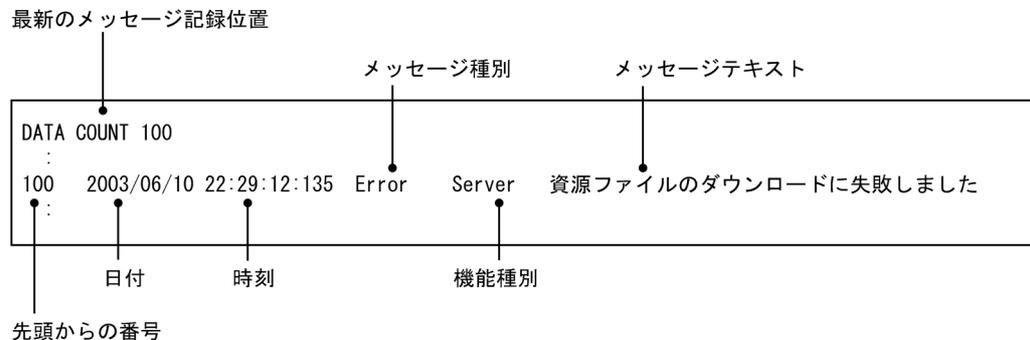
イベントによっては、イベントの詳細の中でメモリダンプ情報が出力される場合があります。JP1/NETM/DM のエラーに関して、弊社にお問い合わせのときは、この情報もお知らせください。

なお、JP1/NETM/DM が出力するイベントログメッセージについては、「7.1 イベントログメッセージ一覧」を参照してください。

(2) MAIN.LOG ファイルを確認する

JP1/NETM/DM は、MAIN.LOG ファイルにもログを取得します。ファイルの形式を次に示します。

図 6-4 MAIN.LOG ファイルの形式



MAIN.LOG ファイル中に表示される「メッセージ種別」および「機能種別」の意味は次のとおりです。

表 6-9 Main.log ファイルのメッセージ種別 (JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の場合)

メッセージ種別	意味
Informational	情報メッセージ
Warning	警告メッセージ
Error	エラーメッセージ

表 6-10 Main.log ファイルの機能種別 (JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) の場合)

機能種別	意味
Setup	JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) のセットアップ関連
TCP/IP	TCP/IP とのインターフェース
System	Windows NT とのインターフェース
Server	JP1/NETM/DM のイベント

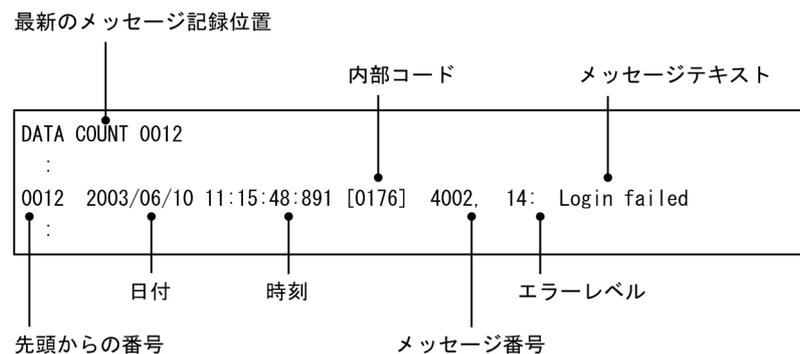
(3) RDBSRV.LOG ファイルを確認する

JP1/NETM/DM でリレーショナルデータベースを使用しているときは、RDBSRV.LOG ファイルにログが取得されます。リモートインストールマネージャを配布管理システムと別のホストに配置しているときは、どちらのホストでも、RDBSRV.LOG ファイルを確認できます。

ログ中のメッセージ番号およびエラーレベルについては、リレーショナルデータベースのシステム管理者のためのマニュアルを参照してください。

RDBSRV.LOG ファイルの形式を次に示します。

図 6-5 RDBSRV.LOG ファイルの形式



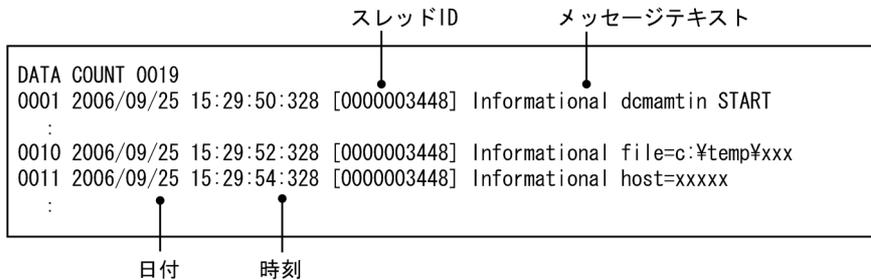
(4) インベントリレビューア関連のログを確認する

インベントリレビューアの使用中にエラーが発生した場合、RDBMS のエラーメッセージが INVODBC.log ファイルに出力されます。INVODBC.log ファイルは 400KB まで記録されると、INVODBC.log n (n は 1 または 2) という名称に変更され、新しいログファイルが作成されます。古いログファイルは 2 世代まで保存されます。ログファイル中のログの出力日時は、各行番号に続く日時で識別できます。

(5) AMT 連携機能のログを確認する

「AMT 連携機能」で使用する `dcmamtin` コマンド、`dcmamtwe` コマンド、または `dcmamtre` コマンドを実行すると、DCMAMT.LOG ファイルにログが取得されます。DCMAMT.LOG ファイルの形式を次に示します。

図 6-6 DCMAMT.LOG ファイルの形式



`dcmamtin` コマンドを実行した場合に、DCMAMT.LOG ファイルに出力されるメッセージテキストと意味を次の表に示します。

表 6-11 `dcmamtin` コマンドを実行した場合に、DCMAMT.LOG ファイルに出力されるメッセージテキスト

種別	メッセージ	意味
Informational	<code>dcmamtin START</code>	コマンドの実行を開始しました。
Informational	<code>file=xxx</code>	引数 /f に指定したシステム構成ファイルです。
Informational	<code>host=xxx</code>	引数 /H に指定したホスト名です。
Informational	<code>ipaddress=xxx</code>	引数 /I に指定した IP アドレスです。
Informational	<code>dcmamtin RETURN=xx END</code>	コマンドがリターンコード (xx) で終了しました。
Error	The input file can't be opened.	入力ファイルを開くことができません。引数に指定した入力ファイルを確認してください。
Error	The input file format is invalid.	入力ファイルが不正です。入力ファイルの記述形式を確認してください。
Error	Arguments are invalid.	コマンドの引数を確認してください。
Error	The output file can't be opened.	出力ファイルを開くことができません。引数に指定した出力ファイルを確認してください。
Error	System error occurred.	システムエラーが発生しました。コマンドの実行環境を確認してください。
Error	Access error occurred. Host=xxx	接続エラーが発生しました。指定したホストが AMT に対応していないか、ネットワーク上に存在しないおそれがあります。また、AMT の Provision モデルに「Enterprise」が指定されているおそれがあります。
Error	Authentication error occurred. Host=xxx	認証エラーが発生しました。指定したホストの AMT 管理ユーザ名とパスワードを確認してください。

`dcmamtwe` コマンドを実行した場合に、DCMAMT.LOG ファイルに出力されるメッセージテキストと意味を次の表に示します。

表 6-12 dcmamtwc コマンドを実行した場合に、DCMAMT.LOG ファイルに出力されるメッセージテキスト

種別	メッセージ	意味
Informational	dcmamtwc START	コマンドの実行を開始しました。
Informational	file=xxx	引数 /f に指定した CSV 出力コティリティの出力ファイル名を出力します。
Informational	profilename=xxx	引数 /n に指定した無線プロファイルの名称を出力します。
Informational	The profile is deleted.	引数 /r が指定されました。
Informational	mode=xxx	引数 /w に指定したモードです。
Informational	priority=xxx	引数 /p に指定した無線プロファイルの優先順位です。
Informational	SSID=xxx	引数 /i に指定した SSID です。
Informational	Communication Method=xxx	引数 /s に指定した通信方式です。
Informational	Encryption Method=xxx	引数 /e に指定した暗号化方式です。
Informational	Key=xxx	引数 /k に指定したキーです。
Informational	dcmamtwc RETURN=xx END	コマンドがリターンコード (xx) で終了しました。
Error	The input file can't be opened.	入力ファイルを開くことができません。引数に指定した入力ファイルを確認してください。
Error	The input file format is invalid.	入力ファイルが不正です。入力ファイルの記述形式を確認してください。
Error	Arguments are invalid.	コマンドの引数を確認してください。
Error	System error occurred.	システムエラーが発生しました。コマンドの実行環境を確認してください。
Error	Access error occurred. Host=xxx	接続エラーが発生しました。指定したホストが AMT に対応していないか、ネットワーク上に存在しないおそれがあります。また、AMT の Provision モデルに「Enterprise」が指定されているおそれがあります。
Error	Authentication error occurred. Host=xxx	認証エラーが発生しました。指定したホストの AMT 管理ユーザ名とパスワードを確認してください。

dcmamtrc コマンドを実行した場合に、DCMAMT.LOG ファイルに出力されるメッセージテキストと意味を次の表に示します。

表 6-13 dcmamtrc コマンドを実行した場合に、DCMAMT.LOG ファイルに出力されるメッセージテキスト

種別	メッセージ	意味
Informational	dcmamtrc START	コマンドの実行を開始しました。
Informational	host=xxx	引数 /h に指定したホスト名です。
Informational	ipaddress=xxx	引数 /i に指定した IP アドレスです。
Informational	BIOS configuration started.	クライアントの BIOS 設定を開始しました。
Informational	IDER session is opened.	クライアントの診断プログラムを開始しました。
Informational	dcmamtrc RETURN=xx END	コマンドがリターンコード (xx) で終了しました。
Error	Socket error occurred.	ソケットエラーが発生しました。クライアントに SOL ドライバがインストールされているか確認してください。

6. トラブルシューティング

種別	メッセージ	意味
Error	Failed to open IDER session.	IDE リダイレクト接続に失敗しました。 FD 内にファイルが取り込んでいるか確認してください。
Error	The SOL session has already been opened.	すでに SOL 接続が確立されているため、新たに SOL 接続を確立できません。
Error	The IDER session has already been opened	すでに IDE リダイレクト接続が確立されているため、新たに IDE リダイレクト接続を確立できません。
Error	Client PC is up	クライアントが起動中です。 クライアントの電源をオフにしてください。
Error	Arguments are invalid.	コマンドの引数を確認してください。
Error	System error occurred.	システムエラーが発生しました。コマンドの実行環境を確認してください。
Error	Access error occurred. Host=xxx	接続エラーが発生しました。指定したホストが AMT に対応していないか、ネットワーク上に存在しないおそれがあります。また、AMT の Provision モデルに「Enterprise」が指定されているおそれがあります。
Error	Authentication error occurred. Host=xxx	認証エラーが発生しました。指定したホストの AMT 管理ユーザ名とパスワードを確認してください。

(6) MONRST.LOG ファイルを確認する

JP1/NETM/DM で取得した稼働情報（抑止履歴および操作履歴）をデータベースに格納すると、MONRST.LOG ファイルにログが出力されます。MONRST.LOG ファイルの形式を次に示します。

図 6-7 MONRST.LOG ファイルの形式

	スレッドID	メッセージテキスト
DATA COUNT 0037		
0001 2009/09/01 12:00:01:000	[0000003450]	Information START:Store data at a specified time
:		
0010 2009/09/01 12:00:10:000	[0000003450]	Information xxxx/yyyy Directory=aaaa Inserted=1000
0011 2009/09/01 12:00:11:000	[0000003450]	Information Operation history from xxxx
:		

日付 時刻

JP1/NETM/DM で取得した稼働情報をデータベースに格納した場合、MONRST.LOG ファイルに出力されるメッセージテキストと意味を次の表に示します。

表 6-14 稼働情報をデータベースに格納した場合に、MONRST.LOG ファイルに出力されるメッセージテキスト

種別	メッセージ	意味
Information	START:Store data at a specified time	時間指定によるデータベースへの格納を開始しました。
Information	END:Store data at a specified time	時間指定によるデータベースへの格納を終了しました。
Information	START:Store data at a fixed interval	一定間隔でのデータベースへの格納を開始しました。
Information	END:Store data at a fixed interval	一定間隔でのデータベースへの格納を終了しました。
Information	START:dcmmonrst xx	引数 (xx) を指定したコマンドの実行を開始しました。

種別	メッセージ	意味
Information	END:dcmonrst <i>xx</i>	引数 (<i>xx</i>) を指定したコマンドの実行が終了しました。
Information	Time= <i>xx:xx</i> ¹	時間指定によるデータベースへの格納の開始時刻です。
Information	Interval= <i>xx</i> ¹	データベースに稼働情報を格納する間隔です。時間指定で格納する場合は、単位が「日」です。一定間隔で格納する場合は、単位が「時間」です。
Information	Preservation= <i>xx</i> ¹	データベースに格納された稼働情報の保存日数です。
Information	Start= <i>YYYYMMDD</i> ¹	引数 /s に指定した日付です。
Information	End= <i>YYYYMMDD</i> ¹	引数 /e に指定した日付です。
Information	Clear= <i>YYYYMMDD</i> ¹	引数 /c に指定した日付です。
Information	Directory= <i>xxxx</i> ¹	引数 /d に指定した操作履歴退避ディレクトリ名です。
Information	Host= <i>xxxx</i> ¹	引数 /H に指定したホスト名です。
Information	IPAddress= <i>xxx.xxx.xxx.xxx</i> ¹	引数 /I に指定した IP アドレスです。
Information	Operation history from <i>xxxx</i>	操作履歴格納ディレクトリ (<i>xxxx</i>) から、操作履歴の格納を開始しました。
Information	Suppress history from RDB	抑止履歴の格納を開始しました。
Information	<i>xxxx/yyyy</i> ²	格納処理の対象となるディレクトリおよびホストの総数 (<i>yyyy</i>) のうち、処理が完了したディレクトリおよびホスト数 (<i>xxxx</i>) です。
Information	Directory= <i>xxxx</i> ²	格納処理が完了したディレクトリ名です。
Information	Host= <i>xxxx</i> ²	格納処理が完了したホスト名です。
Information	Inserted= <i>xxxx</i> ²	新たに格納された操作ログの件数です。
Information	Total= <i>xxxx</i>	格納処理後に Microsoft SQL Server または Oracle に格納されている操作ログの件数です。
Information または Warning	Total= <i>xxxx/yyyy</i>	格納処理後に Embedded RDB に格納されている稼働情報の件数 (<i>xxxx</i>) と、データベースファイルのサイズを基に計算された格納できる稼働情報の件数の概算 (<i>yyyy</i>) です。 <i>xxxx</i> の値が <i>yyyy</i> の 80% 以上の場合「Warning」が表示されます。この場合は、データベースをアップグレードして、ソフトウェア稼働監視履歴ファイルの容量を拡張してください。拡張する容量は、既存の 10% 以上にしてください。また、データベースにアクセスできなくなることを防ぐため、データベースを再編成しないでください。
Error	STOP>Error occurred	格納処理中にエラーが発生しました。コマンドのリターンコードやイベントログを確認してください。

注 1
幾つかの組み合わせが一つのメッセージとして出力されます。

注 2
幾つかの組み合わせが一つのメッセージとして出力されます。

6.3.2 正常に動作しないときの対処

JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) を使用しているとき、正常に動

6. トラブルシューティング

作しない、エラーが発生するなどの現象が起こることがあります。次に、発生が考えられる現象とその対処について説明します。

なお、JP1/NETM/DM Manager (中継マネージャ) および JP1/NETM/DM Client (中継システム) のクライアント機能を使用している場合の、正常に動作しないときの対処方法については、「6.4.2 正常に動作しないときの対処」の (1) ~ (3) を参照してください。

(1) ジョブの実行が、0 ~ 50% の間そのまま進まない

ジョブの実行が、0% (配布管理システムの直下のシステムがジョブを受信しない) ~ 50% (中継までしかジョブが届かない状態) の間で進まない場合は、次に示すような原因が考えられます。

(a) 中継システムまたはクライアントの PC/WS が停止している

中継システムまたはクライアントのサービス (Client Install Service) が停止している場合があります。

(b) クライアントの自ホスト名に誤りがある

クライアントの自ホスト名の先頭には、数字を使用できません。

配布管理システムの直下にクライアントがある場合、自ホスト名は 64 文字を超えて設定できません。

配布管理システムのホスト名が 64 文字を超えている場合、この配布管理システムに対し中継システムはジョブ結果を返却できません。

ホスト名では大文字と小文字を区別しません。大文字と小文字で区別するホスト名 (「DMP011」と「dmp011」など) を付けていないか確認してください。

(c) 配布管理システムの hosts ファイルと下位システムの IP アドレスの値が異なっている

配布管理システムの hosts ファイルと下位システムの IP アドレスの値が一致していない場合、ジョブを実行できません。

(d) hosts ファイルに誤りがある

上位システムの IP アドレスがわからないため、リモートインストールできない場合があります。このような場合、次の点を確認してください。

- hosts ファイルに上位システムのホスト名が定義されているかどうか
- hosts ファイルの最終行に改行があるかどうか

(e) クライアントの自ホスト名と配布管理システムで指定したあて先が不一致

クライアントの名称が、配布管理システムのシステム構成やあて先で指定した名称と異なる場合、リモートインストールが終了しません。クライアントの名称が正しいかどうか確認してください。

(f) リモートインストール後の処理や、AIT ファイルまたはレコーダファイルの処理が正常に終了しない

リモートインストール後の処理や、AIT ファイルまたはレコーダファイルの処理が正常に終了しなかった場合、クライアント側のインストールは無限に待ち状態になります。

リモートインストールが完了しないときは、次の原因が考えられます。

- AIT ファイルまたはレコーダファイルで、終了時に RegisterWindowMessage を発行していない。
- インストールスクリプトで指定したプログラムの終了コードの設定方法に誤りがある。

(g) DNS 環境でのホスト名の指定に誤りがある

クライアントがドメインに属している場合、JP1/NETM/DM で管理するクライアントのホスト名は、「ホ

スト名・ドメイン名」になります。例えば、クライアントのホスト名が「client-111」、クライアントの属しているドメインの名称が「net02.abc.co.jp」の場合、JP1/NETM/DM で管理するクライアントのホスト名は、次のようになります。

client-111.net02.abc.co.jp

(h) ホスト識別子が異なるが重複したあて先が存在する

ホスト識別子を使用する運用で、クライアントが重複して存在している場合、異なるあて先にジョブが実行されているためにジョブが終了しないことがあります。

このような場合は、不要なクライアントを削除してからジョブを再実行してください。不要なクライアントの検索方法および削除方法については、マニュアル「構築ガイド」の「9.1.6(3) 重複しているクライアントを削除する例」を参照してください。

(2) ジョブの実行が 70% のまま進まない

クライアント側のインストールが完了していても、配布管理システム側ではジョブの実行が 70% になっているときは、インストール前後に起動するユーザプログラムが終了していないことが考えられます。

(3) ジョブが失敗する

リモートインストールなどのジョブがエラーになった場合、エラーの原因が保守コードとして表示されます。[ジョブ実行状況] ウィンドウから表示される [詳細情報] ダイアログボックスで、保守コードを確認してください。保守コードについては、「6.2.3 保守コード一覧」を参照してください。

(4) 中継システムにジョブはあるが、パッケージがない

中継システムで保管されているパッケージは、一定の期間が経過すると自動的に削除されます。パッケージング時、またはジョブの作成時に保管期限を指定しないと、リモートインストールの翌日に削除されます。また、指定していても、リモートインストールした翌日が休日だったり、クライアントの電源を何日も入れなかったりすると、パッケージが削除され、中継システムにジョブはあるが、パッケージがないという状況が発生します。

このような現象を回避するために、パッケージング時、またはジョブの作成時に指定するパッケージの保管期限を考慮して指定してください。ただし、あまり長い期間を指定すると中継システムのハードディスクを圧迫します。

表示される保守コードは次のとおりです。

保守コード：300097030000

(5) アイコンが登録できない

インストール時にアイコンの登録を設定しても、アイコンが登録されないことがあります。この場合は、クライアント PC の Windows Shell (Windows ではエクスプローラ) が、ユーザの業務プログラムなどと別プログラムになっていることが考えられます。

(6) ODBC ドライバのリモートインストールが必ず失敗する

日付の新しい英語版の ODBCINST.DLL が入っていた場合、画面が正しく表示されず、正常にインストールできないことがあります。この場合は、ODBCINST.DLL を削除してからリモートインストールを実行してください。

(7) システム情報の取得時のエラー

(a) コプロセッサの有無が正しく表示されない

使用している CPU によって、コプロセッサの有無が決定されます。

- i486DX, i486DX2, Pentium の場合
コプロセッサありとなります。
- i386SX, i386DX, i486SX の場合
コプロセッサなしとなります。

なお、コプロセッサを追加している場合には認識されません。また、Intel 互換 CPU については、正しく表示されることを保証していません。

(8) Embedded RDB 環境のエラー

(a) データベース領域が不足している

データベース領域が不足すると、JP1/NETM/DM が正常に動作できなくなるおそれがあります。Embedded RDB のデータベース領域が不足した場合は、データベースマネージャの「データベースのアップグレード」から、データベース領域のサイズを増やしてください。

(b) イベントリビューアおよび CSV 出力ユーティリティの操作中にデータベースへのアクセスがエラーになる

作業表領域が不足しているおそれがあります。CSVODBC.log や INVODBC.log に、次のメッセージが出力されていないか確認してください。

```
KFPA11713-E Unable to expand work file due to insufficient HiRDB file system area  
作業表領域のパス/rdsys03
```

作業表領域のパス

データベースの新規作成時に指定した、作業表領域のパスが出力されます。

このメッセージが出力されている場合は、データベースの作業表領域が不足しています。作業表領域のサイズを見積もり直して、データベースマネージャの「データベースのアップグレード」から、作業表領域のサイズを増やしてください。

現在割り当てられている作業表領域のサイズが、見積もりで算出したサイズと変わらない場合は、自動増分をする設定にしてください。

(c) データベースの RD エリアが閉塞している

データベースのメンテナンスでエラーが発生する、リモートインストールマネージャの画面が開けないなど、データベースへのアクセスでエラーが発生した場合、イベントログに、次のメッセージが出力されているか確認してください。

```
KFPH00306-E RDAREA "RDエリア名称" held due to エラー要因
```

```
KFPH00307-E RDAREA "RDエリア名称" HELD(CMD) due to エラー要因
```

このメッセージが出力されている場合は、「RD エリア名称」の RD エリアが閉塞しています。

次の手順で RD エリアの閉塞を解除してください。

1. データベースマネージャの「データベースをバックアップから復元する」を使用して、データベースマネージャまたは netmdb_backup.bat コマンドから取得したバックアップを復元します。
(KFPH00306-E が出力されている場合に必要です。)

注意事項

本手順はバックアップを取得していた場合にのみ適用可能です。

2. コマンドプロンプトを起動する。
3. JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ %NETMDB%\BIN に格納されている pdntcmd.bat コマンドを実行する。
4. 以下のコマンドを実行する。
 - KFPH00306-E が出力されている場合
「pdrels -r ALL -o」を実行する。
 - KFPH00307-E が出力されている場合
「pdrels -r RD エリア名称」を実行する。

コマンドが正常終了すると KFPH00110-I pdrels command completed が表示されてコマンドプロンプト表示に戻ります。

(9) Microsoft SQL Server 環境のエラー

- (a) リモートインストールマネージャの画面描画やジョブの作成時間が突然遅くなる

遅くなる直前にジョブを削除した場合は、バックグラウンドでジョブの削除処理が実行されているときがあります。JP1/NETM/DM Manager のセットアップで「ジョブを削除する時刻を指定する」チェックボックスをオンにし、業務に影響しない時間を設定してください。ただし、実行待ちのジョブについては、遅延ジョブ削除の設定があるかどうかに関係なく、ジョブの削除を指示すると即座に削除処理が実行されます。

また、バックグラウンドで業務プログラムが動作している場合もあります。

- (b) JP1/NETM/DM サーバおよびリモートインストールマネージャがハングアップする

データベースが破壊されているおそれがあります。次に示す DBCC ステートメントを実行して、データベースの状態を確認してください。

1. Microsoft SQL Server のプログラムグループから、クエリアナライザを起動する。
2. DBCC ステートメントでデータベースの整合性をチェックする。

```
DBCC CHECKDB(JP1/NETM/DMデータベース名)
```

エラーメッセージが出力された場合、データベースは破壊されています。バックアップからデータベースを回復するか、システム管理者に連絡してください。

- (c) リモートインストールマネージャの操作中に「管理データベースへのアクセスでエラーが発生しました」と表示される

JP1/NETM/DM の RDBSRV.LOG に、次のメッセージが出力されているか確認してください。

```
1105,17: 'セグメント名'セグメントがフルなので、データベース'データベース名'のオブジェクト'オブジェクト名'の領域を割り当てられませぬ。Syslogs で領域を使い果たしたときは、トランザクションログをダンプしてください。そうでなければ、ALTER DATABASE または sp_extendsegment を使ってセグメントのサイズを増加してください。
```

このメッセージが出力されている場合は、トランザクションログがいっぱいになっています。トランザクションログのダンプを実行してください。ログを削除するには、次の方法があります。

6. トラブルシューティング

Microsoft SQL Server 2012, Microsoft SQL Server 2008, および Microsoft SQL Server 2005 の場合
Management Studio でデータベースを右クリックして表示されるメニューから, [タスク] - [バックアップ] を選択し, [データベースのバックアップ] ダイアログボックスを表示します。[データベースのバックアップ] ダイアログボックスの [全般] タブから, トランザクションログのバックアップを取得してください。取得したバックアップ分のトランザクションログが切り捨てられます。

Microsoft SQL Server 2000 の場合

Enterprise Manager の [データベースのバックアップ] メニューからトランザクションログのバックアップを取得してください。取得したバックアップ分のトランザクションログが切り捨てられます。

Microsoft SQL Server 7.0 の場合

Enterprise Manager の [ログの切り捨て] メニューからトランザクションログを切り捨ててください。またはクエリアナライザで DUMP ステートメント (DUMP TRANSACTION データベース名 WITH NO_LOG) を記述してトランザクションログを削除してください。

トランザクションログのバックアップを定期的を取得する必要がない場合は, ログの切り捨てを自動実行させる方法もあります。自動実行の設定方法については, マニュアル「構築ガイド」の「7.3.2(8) トランザクションログの設定」を参照してください。

(d) パッケージで大容量のソフトウェアをパッケージングしたときにだけエラーが発生する

データベースの容量が不足しているおそれがあります。データベース容量を見積もり直し, 必要であればデバイスのサイズを拡大してください。

(10) Oracle 環境のエラー

(a) データベースサーバへの接続数がオーバーした場合

データベースサーバへの接続数がオーバーした場合, RDBSRV.LOG に次に示すメッセージが出力されません。

「maximum number of processes xxx exceeded」

「xxx」には, 現在の processes の値が出力されます。

この場合, 初期化パラメタファイル (INIT.ORA) に記述されている processes の値を変更し, ユーザ接続数を増やしてください。なお, 変更した値を有効にするには, Oracle のサービスを再起動する必要があります。

6.4 JP1/NETM/DM Client (クライアント) のトラブルシューティング

ここでは、JP1/NETM/DM Client (クライアント) にトラブルが発生した場合の、情報の確認方法やトラブルへの対処方法などについて説明します。

6.4.1 ログファイルの確認

トラブルが発生した場合は、JP1/NETM/DM Client (クライアント) にログが取得されます。ログの内容を確認して対処してください。ログの内容は PC ごとに確認できます。

JP1/NETM/DM Client (クライアント) に取得されるログは、次の 5 種類です。

- クライアントの基本ログ (USER_CLT.LOG ファイル)
- JP1/NETM/DM Client (クライアント) 全体のログ (Windows NT のイベントログおよび MAIN.LOG ファイル)
- インストールスクリプト関連のログ (SCRIPT.LOG ファイル)
- インストールスクリプトの LogFile 関数出力のログ (USER.LOG ファイル)
- 接続先の自動変更関連のログ (USER.LOG ファイル)

Windows NT のイベントログは、Windows NT のイベントビューアから確認します。それ以外のログファイルは、JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥LOG 下に保存されますので、それらを確認する場合はテキストエディタを使用してください。

次に、各ログについて説明します。

(1) クライアントの基本ログ

クライアントの動作に関する基本的なログメッセージは、PC ごとに USER_CLT.LOG ファイルに出力されます。クライアントの動作を確認する場合は、まずこのファイルを参照することをお勧めします。このファイルには、各処理の開始や終了についての簡単なメッセージが出力されます。処理が失敗した場合は、エラーの原因も出力されます。

USER_CLT.LOG ファイルへの出力対象となる動作を次に示します。

- 製品およびプロセスの起動と終了
- ログオンとログオフ
- ジョブの実行要求の受信
- ポーリング
- ジョブの受信と実行
- パッケージのダウンロード
- ファイルのアップロード
- システム構成情報への自動登録
- ID への登録と ID からの削除
- パッケージング
- 内部エラーとアプリケーション例外

ファイル形式の詳細とメッセージ内容については、「7.2 クライアントの基本ログメッセージ一覧」を参照してください。

(2) JP1/NETM/DM Client (クライアント) 全体のログ

JP1/NETM/DM Client (クライアント) 全体のログは、Windows NT のイベントログと、MAIN.LOG ファイルに取得されます。

(a) Windows NT のイベントログを確認する

OS が Windows NT の場合、JP1/NETM/DM Client (クライアント) の使用中に取得されたイベントログは、イベントビューアを使って表示できます。イベントビューア中のソース欄に、「NETM/DM/P」と表示されるイベントを確認してください。イベントビューアの [ログ] メニューから [コンピュータの選択] を選ぶことで、Windows NT が動作しているほかの PC のイベントも確認できます。イベントビューアの詳しい操作方法については、Windows NT のマニュアルまたはヘルプを参照してください。

イベントビューアのイベント欄に表示される数字 (イベント ID) は、メッセージ ID に相当します。数字の意味は、次のとおりです。

表 6-15 イベント ID とその意味 (JP1/NETM/DM Client (クライアント) の場合)

イベント ID	内容
0 ~ 999	Windows NT とのインターフェース
1000 ~ 1999	TCP/IP 関連
5000 ~ 5999	セットアップ関連
6000 ~ 6999	バッケーシング関連
7000 ~ 7999	インストール関連
60000 ~	ユーザ出力

また、イベントビューアのウィンドウで各イベントをダブルクリックすると、イベントごとの詳しい説明が表示されます。この説明は、Windows NT の言語環境に合わせて日本語か英語で表示されます。

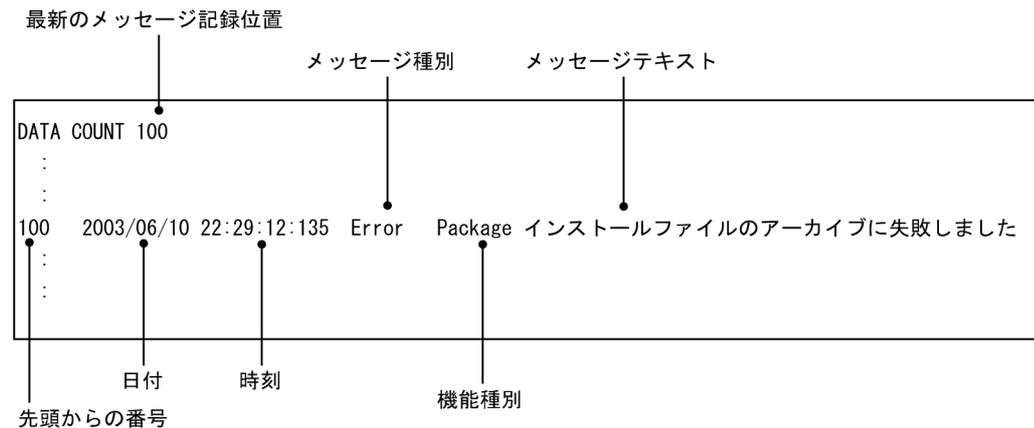
イベントによっては、イベントの詳細の中でメモリダンプ情報が出力される場合があります。JP1/NETM/DM Client (クライアント) のエラーに関して、弊社にお問い合わせのときは、この情報もお知らせください。

なお、JP1/NETM/DM が出力するイベントログメッセージについては、「7.1 イベントログメッセージ一覧」を参照してください。

(b) MAIN.LOG ファイルを確認する

JP1/NETM/DM Client (クライアント) は、PC ごとに MAIN.LOG ファイルにもログを取得します。ファイルの形式を次に示します。

図 6-8 MAIN.LOG ファイルの形式



MAIN.LOG ファイル中に表示される「メッセージ種別」および「機能種別」の意味は次のとおりです。

表 6-16 MAIN.LOG ファイルのメッセージ種別 (JP1/NETM/DM Client (クライアント) の場合)

メッセージ種別	意味
Informational	情報メッセージ
Warning	警告メッセージ
Error	エラーメッセージ

表 6-17 MAIN.LOG ファイルの機能種別 (JP1/NETM/DM Client (クライアント) の場合)

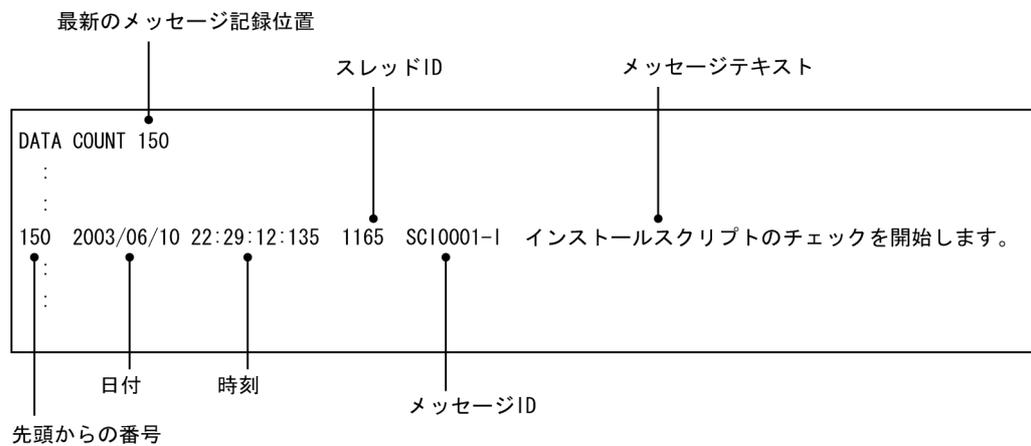
機能種別	意味
Package	パッケージング中 (JP1/NETM/DM Client 内でのエラー)
Install	インストール中 (JP1/NETM/DM Client 内でのエラー)
Setup	GUI インストールモードでのインストール中 (JP1/NETM/DM Client 内でのエラー)
TCP/IP	TCP/IP とのインターフェース
System	Windows NT とのインターフェース
User	ユーザログ (インストールスクリプトの LogFile 関数からの出力)
Server	中継中 (JP1/NETM/DM Client 内でのエラー)

(3) インストールスクリプト関連のログ

インストールスクリプトおよびコレクトスクリプトの、文法エラーや実行時のエラーは、PC ごとに SCRIPT.LOG ファイルに取得されます。このログの内容は、JP1/NETM/DM Client (クライアント) 全体のログ (MAIN.LOG ファイル) にも出力されるので、JP1/NETM/DM Client (クライアント) のログとの関連を調べるときは MAIN.LOG ファイルの方を参照してください。SCRIPT.LOG ファイルの形式は次のとおりです。

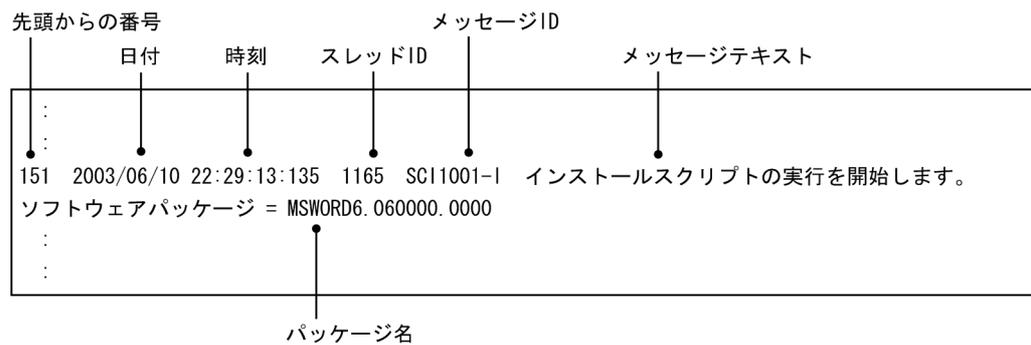
スクリプトの文法チェックの開始メッセージ

図 6-9 SCRIPT.LOG ファイルの形式 (スクリプトの文法チェックの開始メッセージ)



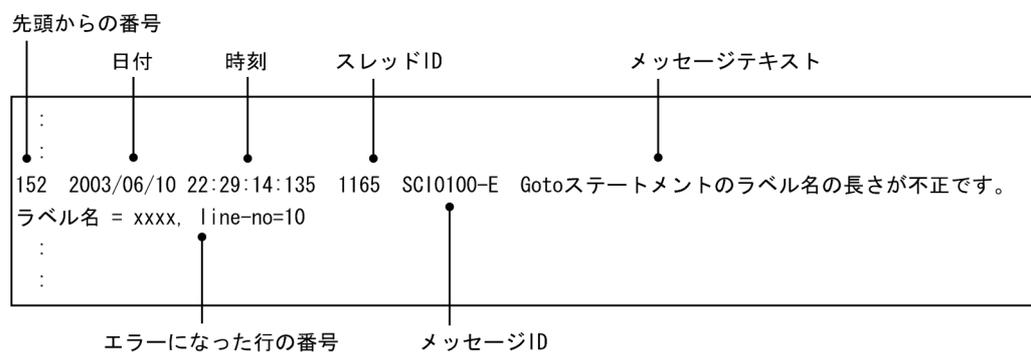
スクリプトの実行開始メッセージ

図 6-10 SCRIPT.LOG ファイルの形式 (スクリプトの実行開始メッセージ)



スクリプトの文法エラーメッセージ

図 6-11 SCRIPT.LOG ファイルの形式 (スクリプトの文法エラーメッセージ)

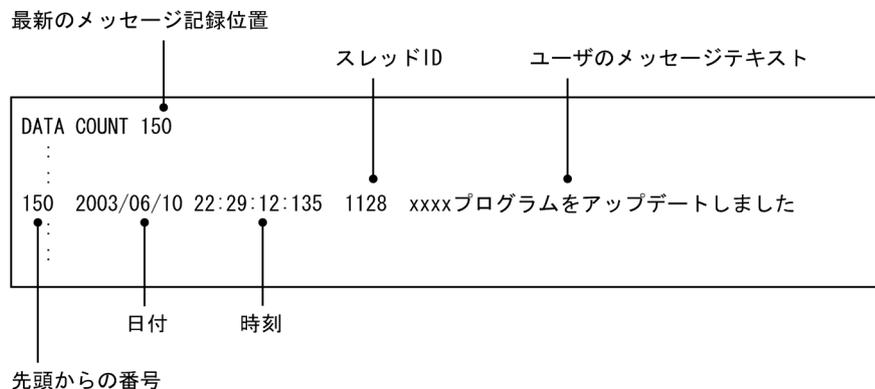


(4) インストールスクリプトの LogFile 関数出力のログ

ユーザが、インストールスクリプトの LogFile 関数を使ってログを出力すると、その内容は PC ごとに USER.LOG ファイルに取得されます。このログの内容は、JP1/NETM/DM Client (クライアント) 全体のログ (MAIN.LOG ファイル) にも出力されるので、JP1/NETM/DM Client (クライアント) のログと

の関連を調べる時は MAIN.LOG ファイルの方を参照してください。USER.LOG ファイルの形式は次のとおりです。

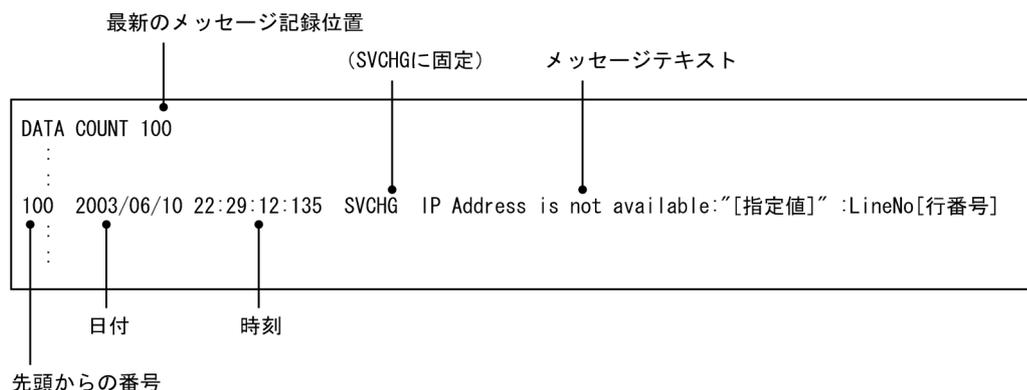
図 6-12 USER.LOG ファイルの形式



(5) 接続先の自動変更関連のログ

上位接続先情報ファイルによってクライアントの接続先が自動的に設定・変更されると、PC ごとにログが USER.LOG ファイルに取得されます。USER.LOG ファイルの形式を次に示します。

図 6-13 USER.LOG ファイルの形式



メッセージ中に表示される「メッセージテキスト」とその意味は次のとおりです。

メッセージ	意味
Match [最小の IP アドレス]-[最大の IP アドレス]:Change [旧接続先: 旧接続先の製品種別]->[新接続先: 新接続先の製品種別]	クライアントの接続先が、正常に変更されました。
Match [最小の IP アドレス]-[最大の IP アドレス]:No Changed [既存の接続先: 既存の接続先種別]	すでに設定されている接続先は、上位接続先情報ファイルの定義と一致しています。接続先は変更しません。
No Match IP Address List, No Changed [既存の接続先: 既存の接続先製品種別]	クライアントの IP アドレスは、上位接続先情報ファイルの定義範囲内にありません。接続先は変更しません。
Not exist No.[項目の順番] Value: LineNo[行番号]	上位接続先情報ファイルの [行番号] 行目で、[項目の順番] 番目の項目が指定されていません。この行の定義は無効です。

メッセージ	意味
IP Address is not available:"[指定値]" :LineNo[行番号]	上位接続先情報ファイルの [行番号] 行目に、無効な値の IP アドレスが指定されています。この行の定義は無効です。
Higher manager value is over 64 character:"[指定値]" :LineNo[行番号]	上位接続先情報ファイルの [行番号] 行目に、接続先として半角 65 文字以上の値が指定されています。この行の定義は無効です。
Connection type value is not "netmdm" or "netmdmw":"[指定値]" :LineNo[行番号]	上位接続先情報ファイルの [行番号] 行目に、接続先の製品種別として「netmdm」および「netmdmw」以外の値が指定されています。この行の定義は無効です。
Match [最小の IP アドレス]-[最大の IP アドレス]:Change Multicast IP Address [旧マルチキャストアドレス]->[新マルチキャストアドレス]	クライアントのマルチキャストアドレスが、正常に変更されました。
Match [最小の IP アドレス]-[最大の IP アドレス]:No Changed Multicast IP Address [マルチキャストアドレス]	すでに設定されているマルチキャストアドレスは、上位接続先情報ファイルの定義と一致しています。マルチキャストアドレスは変更しません。
Multicast IP Address is not available:"[マルチキャストアドレス]" :LineNo[行番号]	上位接続先情報ファイルの [行番号] 行目に、無効な値のマルチキャストアドレスが指定されています。この行の定義は有効ですが、マルチキャストアドレスの設定だけ無効になります。
Multicast IP Address is under 224.0.0.0:"[指定値]" :LineNo[行番号]	上位接続先情報ファイルの [行番号] 行目に、224.0.0.0 より小さい値のマルチキャストアドレスが指定されています。この行の定義は有効ですが、マルチキャストアドレスの設定だけ無効になります。
Multicast IP Address is over 239.255.255.255:"[指定値]" :LineNo[行番号]	上位接続先情報ファイルの [行番号] 行目に、239.255.255.255 より大きい値のマルチキャストアドレスが指定されています。この行の定義は有効ですが、マルチキャストアドレスの設定だけ無効になります。
Use Option "MultiBoard Environment": Not Execution	クライアントセットアップで「複数のネットワークアダプタを設定する」を選択しているため、接続先の自動変更はできません。
Use Option "Auto Change higher manager by instructions to execute job": Not Execution	クライアントセットアップで「実行要求を送信した上位システムを接続先として自動設定する」を選択しているため、接続先の自動変更はできません。

6.4.2 正常に動作しないときの対処

JP1/NETM/DM Client (クライアント) を使用しているとき、正常に動作しない、エラーが発生するなどの現象が起こることがあります。次に、発生が考えられる現象とその対処について説明します。

(1) services, hosts などのファイルを編集したいがどこにあるのかわからない

(a) Windows NT の場合

Windows のデフォルトインストール先ディレクトリが「¥WINNT」の場合の、hosts ファイルおよび services ファイルの位置は次のとおりです。

¥WINNT¥system32¥drivers¥etc

ホスト名の設定方法

Windows Server 2003 および Windows XP の場合

1. [コントロールパネル] - [システム] を選択する。
2. [コンピュータ名] パネルの [変更] ボタンをクリックする。
3. [コンピュータ名の変更] ダイアログボックスの「コンピュータ名」を入力する。

Windows 2000 の場合

1. [コントロールパネル] - [システム] を選択する。
2. [ネットワーク ID] パネルで [プロパティ] ボタンをクリックする。
3. [識別の変更] ダイアログボックスの「コンピュータ名」を入力する。

Windows NT 4.0 の場合

1. [コントロールパネル] - [ネットワーク] を選択する。
2. [プロトコル] パネルの「ネットワークプロトコル」から「TCP/IP プロトコル」を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする。
3. [TCP/IP のプロパティ] ダイアログボックスの [DNS] パネルで「ホスト名」を入力する。

(b) Windows Me または Windows 98 の場合

hosts ファイルおよび services ファイルは、Windows のインストール先ディレクトリにあります。デフォルトインストール先ディレクトリは「C:\WINDOWS」です。

IP アドレスの通常の設定方法、および DNS を使用する場合の設定方法を次に示します。

通常の設定方法

1. [コントロールパネル] - [ネットワーク] を選択する。
2. [ユーザ情報] パネルで設定する。

DNS を使用する場合の設定方法

1. [コントロールパネル] - [ネットワーク] を選択する。
2. [ネットワークの設定] パネルの「TCP/IP」を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする。
3. [DNS 設定] パネルで DNS 設定をする。

(2) 上位システムと通信できていない

ジョブがエラーとなるような場合、クライアントが上位システムと正常に通信できていないおそれがあります。次に示す方法で、通信環境が正しく設定されているか確認してください。

(a) Windows NT の場合

- 現在の TCP/IP 通信環境の設定を確認する場合
コマンドプロンプトから IPCONFIG /ALL コマンドを実行する
- ホスト名だけを確認する場合
コマンドプロンプトから HOSTNAME コマンドを実行する

(b) Windows Me または Windows 98 の場合

現在の TCP/IP 通信環境の設定を確認するには、コマンドプロンプトから WINIPCFG コマンドを実行します。

(3) インストールやパッケージングに失敗する

パッケージのインストールやパッケージングに失敗する場合は、ディスク容量が足りているかどうかを確認してください。必要なディスク容量については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「5.3.3(4) パッケージのインストール」および「5.3.3(6) パッケージング」を参照してください。

(4) ネットワークハードウェアに LAN ケーブルの接続不良などのトラブルが発生すると、JP1/NETM/DM Client (クライアント) がハングアップしてしまう

(a) Windows NT の場合

TCP/IP 環境のキーブアライブの設定を確認してください。確認する設定値はレジストリの次の値です。

6. トラブルシューティング

「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters」キーでの「KeepAliveTime」値

この設定値は、エラーを検知するまでの時間です。設定範囲およびデフォルトは次のとおりです。

設定範囲

1 ~ 0xFFFFFFFF

デフォルト

7,200,000 ミリ秒 (2 時間)

エラー検知までの時間を短くする場合には、値を小さくしてください。ただし、すべての TCP/IP アプリケーションが影響を受けます。値が小さすぎると、不当に通信エラーになることもあります。詳細については、Windows NT のリソースキットに関する書籍を参照してください。

また、「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\アダプタ名\Parameter\Tcpip」キーのキープアライブの設定が有効であるかどうかを確認してください。

(b) Windows Me または Windows 98 の場合

TCP/IP 環境のキープアライブの設定を確認してください。確認する設定値はレジストリの次の値です。

「HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\VxD\MSTCP」キーでの「KeepAliveTime」値

この設定値は、エラーを検知するまでの時間です。設定範囲およびデフォルトは次のとおりです。

設定範囲

1 ~ 0xFFFFFFFF

デフォルト

7,200,000 ミリ秒 (2 時間)

エラー検知までの時間を短くする場合には、値を小さくしてください。ただし、すべての TCP/IP アプリケーションが影響を受けます。値が小さすぎると、不当に通信エラーになることもあります。詳細については、ご使用の OS のリソースキットに関する書籍などを参照してください。

(5) AMT 連携機能が正常に動作しない

AMT 連携機能を利用しても、クライアントの再インストール時にホスト識別子が復元されない場合は、次の要因が考えられます。

(a) AMT が存在しないコンピュータである

クライアントのコンピュータが AMT に対応しているかどうかを確認してください。コンピュータが AMT に対応していない場合、システム情報の「AMT ファームウェアバージョン」の項目には「N/A」が表示されます。

(b) Provision モデルの設定が誤っている

AMT の Provision モデルに「Small Business」が設定されているか確認してください。Provision モデルの設定が誤っている場合、システム情報の「AMT ファームウェアバージョン」の項目には「N/A」が表示されます。

(c) AMT に設定したユーザ名またはパスワードが誤っている

AMT に設定したユーザ名とパスワードが正しいか確認してください。ユーザ名とパスワードが誤っている場合、システム情報の「AMT ファームウェアバージョン」の項目には「N/A」が表示されます。

(d) AMT の不揮発性メモリが初期設定されていない

クライアントの初回インストールの前に AMT の不揮発性メモリを初期設定していない場合、ホスト識別子が保管されないため、クライアント再インストール時にホスト識別子を AMT の不揮発性メモリから復元できません。

AMT の不揮発性メモリを初期設定していない場合、システム情報の「AMT ファームウェアバージョン」の項目にはバージョンが表示されます。

(e) ホスト識別子の復元に失敗した

ホスト識別子の復元に失敗した場合、インストール時に生成されたホスト識別子で、AMT の不揮発性メモリに保管されているホスト識別子が書き換えられます。上位システムには、生成されたホスト識別子が通知されます。

この場合、配布管理システムで重複ホストを検索し、重複ホストが存在する場合は削除してください。

6.5 インターネットオプションのトラブルシューティング

Internet Gateway および HTTP Gateway にトラブルが発生した場合の、情報の確認方法とイベントログメッセージについて説明します。

6.5.1 ログファイルの確認

Internet Gateway および HTTP Gateway は、情報の種類別にログファイルを出力しますので、トラブル発生時の分析に役立てることができます。

ログファイルはテキスト形式で、インストール先ディレクトリ ¥log に出力されます。ただし、Windows Server 2003、Windows XP、および Windows 2000 の場合は、OS のインストールドライブの次に示すディレクトリに出力されます。

- Internet Gateway のログファイル
¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥hitachi¥dmgwsvr
- HTTP Gateway のログファイル
¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥hitachi¥dmhttpgw

起動時に同種のログファイルが 5 個ずつ作成され、ファイル名には、ログの種類を示す名称に 01 ~ 05 の連番が付けられます。拡張子は .txt です。5 ファイルすべてが規定の行数になったら、番号 01 のファイルから上書きされます。最新のログは、ログファイルの各行先頭のタイムスタンプで確認してください。

ログの種類ごとに、出力内容を説明します。

Internet Gateway と HTTP Gateway 共通のログファイル

ログファイル名	出力内容
env	Internet Gateway または HTTP Gateway の起動時に、次の動作環境情報を出力します。env ログファイルはほかのログファイルと異なり、1 ファイルだけ出力され、毎回更新されます。 OS、OS バージョン、OS バッチ情報、CPU タイプ、実メモリ容量、利用可能ユーザメモリ容量、空きハードディスク容量、Microsoft Internet Explorer および Microsoft Internet Information Services のバージョン情報、レジストリ設定値
err	エラー発生時のセッションの状態を出力します。

Internet Gateway のログファイル

ログファイル名	出力内容
client	上位システムと Internet Gateway 間の通信状況を出力します。
cltproto	上位システムと Internet Gateway 間の、JP1/NETM/DM の同期プロトコルを出力します。

HTTP Gateway のログファイル

ログファイル名	出力内容
main	プログラムの開始および停止の情報を出力します。プログラム開始時には HTTP Gateway のバージョン情報が、停止時には、その要因が出力されます。 OS が Windows NT の場合、同じ内容はイベントログにも出力されます。イベントログはイベントビューアを使って表示できます。イベントビューアの操作方法については、Windows NT のマニュアルまたはヘルプを参照してください。

ログファイル名	出力内容
server	HTTP Gateway と下位システム間の、JP1/NETM/DM の同期プロトコルを出力します。
http	HTTP Gateway と Internet Gateway 間の、HTTP リクエストおよびレスポンスの状態を出力します。

6.5.2 HTTP Gateway のイベントログメッセージ

HTTP Gateway が出力するイベントログメッセージを次に示します。

イベント ID	メッセージ 種別	メッセージテキスト
4096	Information	JP1/NETM/DM HTTP Gateway Service を開始しています。Ver.xx
4097	Information または Error	JP1/NETM/DM HTTP Gateway Service は停止しました。要因：xx

(凡例) xx : 任意の文字列

注

サービスの停止要因がセッションエラーの場合は Error として、それ以外の場合は Information として出力されません。

6.6 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のトラブルシューティング

ここでは、JP1 Version 7i の Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client にジョブを実行した場合のエラーコードの内容と、クライアントでトラブルが発生した場合の対処について説明します。

6.6.1 ジョブを実行した場合のエラーコード一覧

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をインストールした PDA に対して、ジョブを実行した場合の処理について説明します。

(1) ジョブを実行したときの処理

ジョブ種別によってはジョブがエラーになります。ご注意ください。

ジョブ種別	結果	保守コード
パッケージのインストール	ジョブを実行する	900090109000 または 900090009000 ¹
中継システムまでパッケージ転送	未サポートのためエラー	300093010000
中継システムのパッケージ一括削除		
クライアントユーザによるインストール		
リモートコレクト	ジョブを実行する	900030100000 ²
中継までのリモートコレクト	未サポートのためエラー	300093010000
中継サーバからのコレクトファイル収集		
中継サーバのコレクトファイル削除		
システム情報の取得	ジョブを実行する	9000e0000000
ソフトウェア情報の取得	未サポートのためエラー	300093010000
ユーザインベントリ情報の転送		
システム構成情報の取得		
ユーザインベントリ情報の取得		
中継サーバからの結果通知保留		
中継サーバの結果通知保留解除		
レジストリ項目の転送		
ファイル転送の中断		
ファイル転送の再開		
メッセージの通知		
ソフトウェア稼働監視の制御		
ソフトウェア稼働情報の取得		

注 1

900090109000 : 初回インストール時または強制インストールした場合
900090009000 : インストール済みパッケージを再インストールした場合

注 2

正常終了した場合は、90003010.XX00 になります。XXはジョブ作成時の詳細オプションの指定によって異なります。

す。組み合わせを次に示します。

圧縮指定	XX
あり	30
なし	20

(2) [ジョブの作成] ダイアログボックスで指定した項目に対する処理

[ジョブの作成] ダイアログボックスでの指定で、項目ごとの処理とエラーが発生した場合の主な保守コードを、パネル単位に説明します。

(a) [あて先] パネル

正常に処理されます。

(b) [パッケージ] パネル

[パッケージ] パネルから表示される [インストール条件の変更] ダイアログボックスの各パネルの処理を次に示します。

[パッケージング情報] パネル

詳細項目	処理	保守コード	
パッケージ種別	ユーザプログラム, データ	左欄の設定に従って処理される	なし
	日立プログラムプロダクト	左欄の設定に従って処理される	300077030000
	他社ソフトウェア	エラーとして処理される	300093010000

[システム条件] パネル

詳細項目	処理	保守コード	
インストール先ディレクトリ	ドライブ	指定ドライブが 'A' ~ 'Z' の場合, エラー。そのほかの場合は, 左欄の設定に従って処理される	300097010000
	ディレクトリ	左欄の設定に従って処理される	なし
	同じパッケージがあったら上書き	左欄の設定に従って処理される	なし
システム条件	システム条件の作成	左欄の設定を無視するが, 正常として処理される	なし
	システム条件の取り込み (パッケージの場合だけ)	エラーとして処理される	300091010000 300097010000

[ソフトウェア条件] パネル

詳細項目	処理	保守コード
ソフトウェア条件	左欄の設定を無視するが, 正常として処理される	なし

[アイコン作成] パネル

詳細項目	処理	保守コード
アイコン作成	左欄の設定を無視するが, 正常として処理される	なし

6. トラブルシューティング

[外部プログラム] パネル

詳細項目		処理	保守コード	
インストール直前	パスの指定	左欄の設定に従って処理される	300098040000	
	外部プログラム用詳細設定		外部プログラムの時間監視	300098040000
			外部プログラム処理結果の取得方法	300098040000 または 30009804XX00 ¹
			処理結果エラー時の取り扱い	なし
インストール直後	パスの指定	左欄の設定に従って処理される	30009a040000	
	外部プログラム用詳細設定		外部プログラムの時間監視	30009a040000
			外部プログラム処理結果の取得方法	30009a040000 または 30009a04XX00 ²
			処理結果エラー時の取り扱い	なし
インストールエラー		左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし	
外部プログラム監視時間		左欄の設定に従って処理される	なし	

(凡例)

XX: リターンコード

注 1

300098040000 : 外部プログラムのパスが不正の場合

30009804XX00 : 外部プログラムのリターンコードが 0 以外の場合

注 2

30009a040000 : 外部プログラムのパスが不正の場合

30009a04XX00 : 外部プログラムのリターンコードが 0 以外の場合

[インストール方法] パネル

詳細項目		処理	保守コード
インストールモード	GUI インストールモード	バックグラウンドインストールモードとして処理される	なし
	バックグラウンドモード	左欄の設定に従って処理される	なし
日立プログラムプロダクトのインストール		左欄の設定に従って処理される	300077030000

[スケジュール] パネル

詳細項目		処理	保守コード
中継システムのパッケージ保管期限	Windows CE のクライアントを指定して作成しようとした場合は、あて先エラーでジョブを作成できない		なし
	あて先を手入力で作成した場合は、Windows CE のクライアントで未サポートエラーとして処理される		300093010000
インストール日時	エラーとして処理される		300077020000

詳細項目		処理	保守コード
インストールタイミング	通常インストール	左欄の設定に従って処理される	なし
	システム起動時インストール	エラーとして処理される	300077020000
	システム停止時インストール	エラーとして処理される	300077020000

[オプション] パネル

詳細項目		処理	保守コード
パッケージデータを圧縮する		左欄の設定に従って処理される	なし
インストール時障害が発生した場合、バックアップからリストアを行う ([JP1/NETM/DM パッケージング] ダイアログボックスの「バージョンアップ時リストア対象とする」に相当)		左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし
インストール後コンピュータを再起動する		左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし
処理中ダイアログの表示		左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし
パッケージの説明		左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし

注

「高圧縮」の場合だけ有効。「互換モード圧縮」の場合、保守コード「300097060000」のエラーになる。

[ファイル属性] パネル (パッケージャの場合だけ)

詳細項目		処理	保守コード
ファイル属性		左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし

[インストールスクリプト] パネル

詳細項目		処理	保守コード
スクリプトの内容		エラーとして処理される	300091010000 300097010000
外部プログラム監視		エラーとして処理される	300091010000 300097010000

(c) [コレクトファイル] パネル

項目	処理	保守コード
収集対象	先頭に設定された収集対象だけ収集する	300021000000 300025000000 300028000000
収集ファイル格納ディレクトリ名	左欄の設定に従って処理される	なし
収集タイミング	左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし
圧縮指定	圧縮なしが仮定され、正常として処理される	300022000000 または 30002200.XX00 ¹

6. トラブルシューティング

項目	処理	保守コード	
クライアントでの外部プログラム起動	収集直前	左欄の設定に従って処理される	なし
	収集直後	左欄の設定に従って処理される	300023000000 または 30002300.XX00 ²
	収集エラー	左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし

(凡例)

XX: リターンコード

注 1

300022000000: 外部プログラムのパスが不正の場合

30002200.XX00: 外部プログラムのリターンコードが0以外の場合

注 2

300023000000: 外部プログラムのパスが不正の場合

30002300.XX00: 外部プログラムのリターンコードが0以外の場合

(d) [スケジュール] パネル

項目	処理	保守コード
サーバでのジョブ実行日時	左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし
クライアントでのジョブ実行日時	エラーとして処理される	300077020000

(e) [オプション] パネル

項目	処理	保守コード
システム情報	常に「すべての情報を取得する」として処理される	なし
レジストリ情報	左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし

(f) [クライアント制御] パネル

項目	処理	保守コード
クライアントを起動させる	起動されない	なし
ジョブ実行後クライアントをシャットダウンさせる	左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし

(g) [ジョブの配布属性] パネル

項目	処理	保守コード
中断中のあて先への配布	左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし
配布の方式	常に「ユニキャスト配布」として処理される	なし
分割配布の設定	左欄の設定を無視するが、正常として処理される	なし

6.6.2 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client が正常に動作しないときの対処

この項では、Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client に障害が発生した場合の、情報の確認方法、障害への対処方法などについて説明します。

(1) Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の障害情報の確認

障害が発生した場合は、Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client にログが取得されます。ログの内容を確認して対処してください。ログの内容は PDA ごとに確認できます。

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client が取得するログを示します。また、各ログは Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をインストールしたディレクトリの次に示すディレクトリに格納されます。

ログの内容	ディレクトリ名
クライアントの処理結果	LOG¥CLIENT.txt
クライアントと上位サーバ間の通信プロトコル結果	LOG¥CLTPROTO.txt

(2) Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client が正常に動作しないときの対処

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client を使用しているとき、正常に動作しないエラーが発生するなどの現象が起こることがあります。ここでは発生が考えられる現象とその対処方法について説明します。

(a) ネットワークの設定を編集したいがどこにあるかわからない

次に示す方法で、ネットワークを設定してください。

1. プログラム切り替えボタンから [設定] - [コントロールパネル] をタップする。
2. [コントロールパネル] で [ネットワークとダイヤルアップ接続] をタップする。
3. 使用するアダプタを選択する。
4. ネットワークを設定する。
通常の IP アドレスを使用する場合と DNS を使用する場合で、設定内容は異なります。

通常の設定方法 (IP アドレスを使用)

[IP アドレス] を選択し、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、および「デフォルトゲートウェイ」を設定する

DNS を使用する場合の設定方法

[ネームサーバー] を選択し、「プライマリ DNS」と、必要であれば「セカンダリ DNS」を設定する

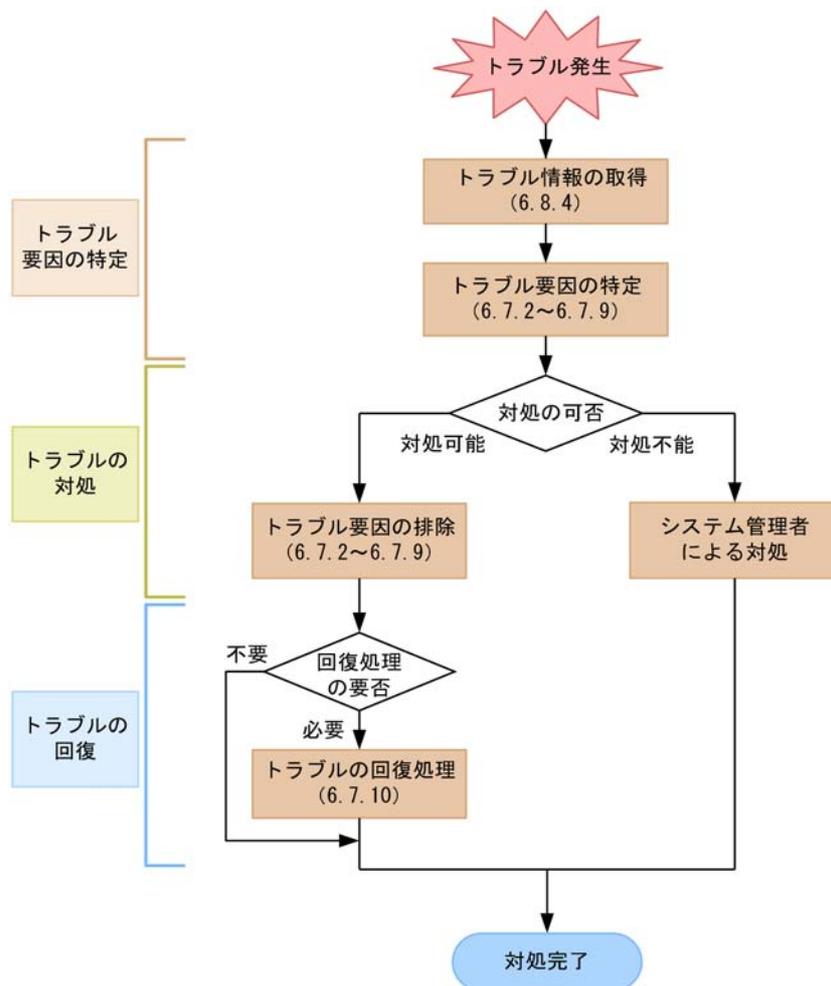
6.7 Asset Information Manager Limited のトラブルシューティング

Asset Information Manager Limited の使用時にトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

6.7.1 トラブルシューティングの流れ

ここでは、Asset Information Manager Limited の使用時にトラブルが発生した場合の対処の流れについて説明します。トラブルごとの主な要因と対処は 6.7.2~6.7.9 で説明します。

図 6-14 トラブル発生時の対処の流れ (Asset Information Manager Limited)



トラブル情報の取得

トラブルが発生したら、まず、トラブル情報を取得してください。トラブル情報を取得する方法については、「6.8.4 「Asset Information Manager Limited」のトラブル情報の採取」を参照してください。

トラブル要因の特定

エラーメッセージおよび発生した現象からトラブル要因を特定します。

トラブル要因の排除

発生したトラブルに対処できる場合は、トラブルの要因を取り除きます。

システム管理者による対処

発生したトラブルに対処できない場合は、システム管理者がトラブルの要因を取り除きます。

トラブルの回復処理

必要に応じて、トラブルの回復処理をします。

トラブルに対処する前に、別の処理が実行中でないことを確認してください。Asset Information Manager Limited のトランザクション処理については、「6.7.3 Asset Information Manager Limited のトランザクション」を参照してください。

6.7.2 トラブル要因の特定

トラブルが発生した場合、その対処方法を見つけるためには、メッセージや現象から、そのトラブルの要因を特定する必要があります。ここでは、メッセージの確認方法とメッセージの見方について説明します。また、Asset Information Manager Limited でトラブルが発生した場合に制限される機能についても説明します。

(1) トラブル要因の特定方法

Asset Information Manager Limited のサーバおよび Web ブラウザでのトラブルの確認方法について、次に説明します。

(a) Asset Information Manager Limited のサーバでのトラブル確認方法

1. メッセージログファイルからトラブル発生時の出力メッセージの有無を確認します。
2. メッセージが出力されている場合、次の要因のどれかに特定します。
 - Asset Information Manager Limited のデータベースに対するトラブル
 - Asset Information Manager Limited と連携するプログラムのトラブル
 - Microsoft Internet Information Services のトラブル
3. Asset Information Manager Limited のデータベースに対するアクセスエラーの場合は、メッセージログを確認します。
4. Asset Information Manager Limited と連携するプログラムのトラブルの場合は、メッセージログファイルの内容を見て、プログラムの連携に異常がないか確認します。
5. Microsoft Internet Information Services のトラブルの場合は、Microsoft Internet Information Services のログの内容を見て、通信シーケンスに異常がないか確認します。
なお、通信シーケンスで異常が確認されなかった場合は、Microsoft Internet Information Services と Web ブラウザの間でのトラブルと考えられます。

(b) Web ブラウザでのトラブル確認方法

ランタイムエラーが発生した場合は、Microsoft Internet Explorer のバージョンが古いことがあります。Microsoft Internet Explorer のバージョン、および必要なサービスパックがインストールされているか確認してください。Microsoft Internet Explorer のバージョンについては、マニュアル「構築ガイド」の「1.1.2(1) JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント」を参照してください。

(2) メッセージの確認

トラブルが発生した場合、まず、イベントログ、標準出力または Asset Information Manager Limited のサーバが作成するログファイルにエラーメッセージが出力されているかどうかを確認してください。

エラーメッセージが出力されているときは、エラーメッセージのメッセージ種別からエラーが発生しているプログラム、トラブルの要因が特定できます。エラーメッセージの詳細については、「(3) メッセージの見方」を参照してください。

6. トラブルシューティング

Asset Information Manager Limited の重度のトラブルに関するエラーメッセージは、イベントログファイルに出力されます。イベントログファイルを確認してください。

また、Asset Information Manager Limited のサーバが出力するエラーメッセージは、ファイルとして出力されます。エラーメッセージが出力されるファイルの格納先を次に示します。

JP1/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ ¥jplasset¥log

log フォルダは、Asset Information Manager をインストールしたときに、デフォルトで作成されます。log フォルダの下に Asset Information Manager Limited が出力するメッセージログファイルを次の表に示します。

表 6-18 log フォルダに作成されるファイル

ファイル名	説明
ASTCIM n .LOG	<ul style="list-style-type: none">データベースアクセス用の API のメッセージログを出力します。
ASTMES n .LOG	<ul style="list-style-type: none">Asset Information Manager Limited のサーバの起動・停止などの情報メッセージ、プログラムのトラブル、通信トラブル、データベースのトラブルなどの警告メッセージおよびエラーメッセージを出力します。メッセージログは、Asset Information Manager Limited の運用状況の確認に利用できます。

(凡例)

n は、1 ~ 9 のファイル名の通番を示します。

現在のファイルにログを出力していき、出力できるログの上限を超えた場合に、番号を一つ繰り上げたログファイルが作成されます。ただし、番号が 9 まで設定された場合は、1 に戻ります。最新のログファイルは、ファイル属性 (日付・時間) で見分けてください。

なお、JP1/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ ¥jplasset¥log¥exp.def は変更しないでください。

(3) メッセージの見方

ここでは、標準出力のメッセージログ、およびメッセージログファイルに出力されるメッセージの見方について説明します。

(a) 標準メッセージログの見方

Asset Information Manager Limited のサーバで出力されるメッセージログは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。

メッセージの形式

KDAM $nnnn$ - m メッセージテキスト

KDAM

メッセージを出力したプログラムが Asset Information Manager Limited のサーバであることを表します。

$nnnn$

メッセージを出力したコンポーネントコード (いちばん左の n) + 通番を表します。表示されるコンポーネントコードを次に示します。

- 7: コマンド
- 8: インポートおよびエクスポート

m

メッセージの種別を表します。各種別を説明します。

- E (ERROR)
プログラムを終了させなければならない、致命的なエラーが発生したことを通知するメッセージです。
- W (WARNING)
プログラムを終了させる必要はありませんが、一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージです。
- Q (QUESTION)
ユーザが応答する必要があるメッセージです。
- K (WORKING)
処理の継続を通知するメッセージです。
- I (INFORMATION)
情報を通知するメッセージです。

(b) メッセージログファイルの見方

Asset Information Manager Limited のサーバで出力されるメッセージログファイルは、メッセージ出力時間、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。

メッセージの形式

yyyymmddhhmmss.ttt pid(tid) KDAM nnnn-m メッセージテキスト

yyyymmddhhmmss.ttt

メッセージを出力した日時を表します。

pid

メッセージを出力したプロセス ID を表します。

tid

メッセージを出力したスレッド ID を表します。

KDAM

メッセージを出力したプログラムが Asset Information Manager Limited のサーバであることを表します。

nnnn

メッセージを出力したコンポーネントコード (いちばん左の *n*) + 通番を表します。表示されるコンポーネントコードを次に示します。

- 0 : インストールおよびセットアップ
- 1 : Asset Information Manager Limited のサーバ
- 2 , 3 : エクステンション
- 4 , 5 : データベースアクセス DLL
- 6 : Asset Information Manager Limited の LIB ファイルおよび DLL ファイル
- 7 : コマンド
- 8 : インポートおよびエクスポート
- 9 : 共通 DLL

m

メッセージの種別を表します。各種別を説明します。

- E (ERROR)
プログラムを終了させなければならない、致命的なエラーが発生したことを通知するメッセージです。
- W (WARNING)

6. トラブルシューティング

プログラムを終了させる必要はありませんが、一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージです。

- Q (QUESTION)
ユーザが応答する必要のあるメッセージです。
- K (WORKING)
処理の継続を通知するメッセージです。
- I (INFORMATION)
情報を通知するメッセージです。

(4) トラブル発生後に制限される機能

Asset Information Manager Limited でトラブルが発生した場合、Asset Information Manager Limited のサーバからメッセージの種別「E」のメッセージが出力されます。トラブルの発生によって、制限される Asset Information Manager Limited の機能を次に説明します。

(a) 緊急・重度のシステムトラブルが発生した場合

トラブルの回復が望めない、または稼働し続けることで情報を破壊するおそれがあるなどの緊急・重度のシステムトラブルが発生した場合、Asset Information Manager Limited のすべてのサービスが閉塞されます。

緊急・重度のシステムトラブルを次に示します。

- 環境定義ファイルの設定誤りまたは読み込みエラー
- メタ定義・制御テーブル破壊の検出
- 一般保護例外などのプログラム例外
- プログラムの内部エラー

(b) 緊急・重度以外のシステムトラブルが発生した場合

トラブルの回復には時間が掛かりますが、稼働を続けても情報が破壊されるおそれはないなどの緊急・重度以外のシステムトラブルが発生した場合、トラブルが検出された実行中の処理が打ち切られます。

緊急・重度以外のシステムトラブルを次に示します。

- Web ブラウザからのメッセージ形式の不正
- メッセージログ出力不可
- DBMS からデータベース接続切断
- Asset Information Manager Limited と連携するプログラムで発生したトラブルの通知
- 資産情報の追加、変更および削除時のアクセスエラー通知（ただし、キーとなるプロパティのデータがない場合は除く）
- プログラムの内部エラー

(c) 運用上のトラブルが発生した場合

次に示す Asset Information Manager Limited の運用上のトラブルが発生した場合、Asset Information Manager Limited のサービスなどの閉塞はありません。

- ユーザ ID およびパスワードの入力誤りによるログイン時のエラー
- Asset Information Manager Limited で稼働中のインベントリ情報取り込み時のトラブル

(d) 一時的なトラブルが発生した場合

時間を置いてから再度実行することで回復できる可能性のある一時的なトラブルが発生した場合、トラブルが検出された実行中の処理が打ち切れ、セッションが解放されます。

一時的なトラブルの例を次に示します。

- メモリアロケーション不可またはデータベースへの接続エラー
- データベースに対するロックエラー
- Asset Information Manager Limited で稼働中のインベントリ情報取り込み時のトラブル

6.7.3 Asset Information Manager Limited のトランザクション

Asset Information Manager Limited のトランザクション処理について説明します。

(1) Web ブラウザ実行時のトランザクション

Asset Information Manager Limited は、Web ブラウザからの要求を一つの処理単位としますが、トランザクションを管理する機能はありません。DBMS のトランザクション管理機能を利用して、Asset Information Manager Limited のデータベースへの出力アクセス時や複数の関連テーブルの追加・更新操作を一つのトランザクションとします。これによって、Asset Information Manager Limited のデータベーステーブル間の不整合を防止するとともに、Asset Information Manager Limited のサーバでトラブルが発生した場合、実行中のトランザクションを破棄できます。

例えば、Web ブラウザ側にエラーが通知された場合でも、Asset Information Manager Limited のデータベースのトランザクションは破棄されません。Web ブラウザ側でタイムアウトや通信トラブルが発生した場合には、トラブルが発生した直前の処理を再入力してください。

6.7.4 Asset Information Manager Limited のトラブルの主な要因と対処

Asset Information Manager Limited の環境設定時に、トラブルが発生した場合、[サーバセットアップ] ダイアログの設定や DBMS の設定に問題がないかを確認してください。

Asset Information Manager Limited の環境設定時およびログインしたあとの操作中に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を示します。

(1) Asset Information Manager Limited のデータベース作成時のトラブル

Asset Information Manager Limited のデータベースの作成時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

- (a) 「環境情報に設定した値が正しくありません。」といったメッセージが出力される

[サーバセットアップ] ダイアログでの設定が実行されていないおそれがあります。[サーバセットアップ] ダイアログで設定を実行してください。

- (b) 「資産管理システムの初期データの作成に失敗しました。」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTCIM n .LOG ファイル、または ASTMES n .LOG ファイルが出力されます。

「データソース名および指定された既定のドライバが見つかりません。」(Microsoft SQL Server または Embedded RDB の場合)

「サービス名を解決できませんでした。」(ORACLE の場合)

これは、[サーバセットアップ] ダイアログの「データベース情報」の「サービス名」が正しく設定されていないおそれがあります。

データベース接続の設定を確認してください。また、[サーバセットアップ] ダイアログの「サービス名」

6. トラブルシューティング

に次を指定してください。

- Microsoft SQL Server の場合
データソースまたはネット・サービスの作成で指定したデータソース名
- Embedded RDB の場合
Asset Information Manager Limited のデータベースを初回に作成したときにサーバセットアップで指定したサービス名
- ORACLE の場合
ネット・サービス名

(c) 「資産管理システムの初期データの作成に失敗しました。」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTMES_n.LOG ファイルが出力されます。

「SQL Server が存在しないか、アクセスが拒否されました。」(Microsoft SQL Server の場合)

「リスナーがありません。」(ORACLE の場合)

次に示す内容を確認してください。

- データベース接続の設定時に作成したサービスが正しく作成されていないおそれがあります。
サービスが正しく作成されているか確認してください。また、テスト機能で接続を確認してください。
- DBMS が起動していないおそれがあります。
DBMS を起動してください。

(d) 「資産管理システムの初期データの作成に失敗しました。」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTCIM_n.LOG ファイル、または ASTMES_n.LOG ファイルが出力されます。

「ユーザー xxxx はログインできませんでした。」(Microsoft SQL Server の場合)

注 ユーザ名

「Invalid password for authorization identifier HiRDB」(Embedded RDB の場合)

「invalid username/password: logon denied」(ORACLE の場合)

これは、[サーバセットアップ] ダイアログの「データベース情報」の「ログイン ID」とパスワードが正しく設定されていないおそれがあります。[サーバセットアップ] ダイアログの「データベース情報」の「ログイン ID」とパスワードを正しく設定してください。

(e) 「すでにキーが存在したため追加できません。」といったメッセージが出力される

すでにデータベースが作成されているおそれがあります。

Asset Information Manager Limited のデータベースの作成を一度実行したあとで再度実行した場合にこのメッセージが出力されますが、データベースに影響はありません。テーブルを再作成する場合は、テーブルおよびビューをすべて削除してから、Asset Information Manager Limited のデータベースの作成を実行してください。

(f) エラーが発生して終了してしまう (Embedded RDB の場合)

データベース作成時に指定した Embedded RDB の容量が満杯になっているおそれがあります。

Asset Information Manager Limited をアンインストールしてから再度インストールしてください。インストールするディスクには、インストール時に設定したデータベース容量に加えて、Embedded RDB が自動的に割り当てる管理領域分の容量が必要です。管理領域の容量はリリースノートを参照してください。

(2) Asset Information Manager Limited へのログイン時のトラブル

Asset Information Manager Limited へのログイン時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(a) ログイン画面が表示されない

- Asset Information Manager Limited のインストール後に Microsoft Internet Information Services をインストールしたおそれがあります。
Microsoft Internet Information Services のインストール後、再度 Asset Information Manager Limited をインストールしてください。
- World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing が起動していないおそれがあります。World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing が起動しているかどうかを確認してください。
- Microsoft Internet Explorer の設定で、「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっているおそれがあります。インターネットオプションの「セキュリティ」タブで、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックすると表示される [セキュリティの設定] ダイアログの「アクティブスクリプト」の設定を確認してください。
- Windows Server 2012, Windows Server 2008 または Windows Server 2003 を Asset Information Manager のサーバとして使用している場合、Asset Information Manager Limited をインストールすると作成される jplasset という名前の Web サービス拡張を誤って削除してしまったおそれがあります。jplasset という名前の Web サービス拡張がないときは、再度作成してください。Web サービス拡張の作成方法については、「(4) Web サービス拡張「jplasset」の再作成」を参照してください。

(b) 「サーバが起動中のためしばらくしてからログインしてください。」といったメッセージが出力され、しばらくしても同じ状態のままである

- DBMS に接続できないおそれがあります。DBMS の稼働状態を確認してください。
- 次の三つの要因が考えられます。
 - Asset Information Manager Limited のデータベースが作成されていない。
 - Asset Information Manager Limited のデータベースに接続できない。
 - Microsoft SQL Server の場合に、データソースを「ユーザ DSN」で作成している。

Asset Information Manager Limited のデータベースが作成されていることを確認してください。また、接続時に指定したユーザ ID またはパスワードが正しいかを確認してください。さらに、Microsoft SQL Server の場合は、データソースを「システム DSN」で作成してください。

- Microsoft Internet Information Services の設定に誤りがあるおそれがあります。インターネットインフォメーションサービスマネージャから仮想ディレクトリの設定内容を確認してください。

(c) ログイン画面が表示されるが、ログインできない

- Asset Information Manager Limited のサーバが Asset Information Manager Limited のデータベースと接続できていないおそれがあります。データベースの接続に必要なデータソースまたはネット・サービスの作成については、マニュアル「構築ガイド」の「10.3.8 データソースまたはネット・サービスを作成する」を参照してください。
- Microsoft Internet Explorer の設定で、「セッションごとの Cookie の使用許可」または「暗号化されていないフォームデータの送信」が、「無効にする」になっているおそれがあります。インターネットオプションで、「セッションごとの Cookie の使用許可」または「暗号化されていないフォームデータの送信」の設定を確認してください。
- Embedded RDB の場合、Asset Information Manager Limited のデータベースが作成されていないおそれがあります。
必ず、事前に [サーバセットアップ] ダイアログを起動して、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を入力して、[OK] ボタンをクリックしてください。ログイン ID やサービス名は、

6. トラブルシューティング

予約語を避けてください。予約語は JP1/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ ¥jp1asset に格納されている RESWORDS.TXT を参照してください。そのあとで、Asset Information Manager Limited のデータベースを作成してください。

(d) ユーザ認証に失敗する

- DBMS に接続できないおそれがあります。DBMS の稼働状態を確認してください。
- ユーザ ID およびパスワードが登録されていないおそれがあります。ユーザ ID およびパスワードを登録してください。
- ユーザ ID およびパスワードの入力ミスのおそれがあります。正しいユーザ ID およびパスワードを入力してください。

(e) 「製品バージョンとデータベースバージョンが異なるため、ログインに失敗しました。」といったメッセージが出力される

Asset Information Manager Limited のデータベースを移行していないおそれがあります。Asset Information Manager Limited のデータベースをアップグレードしてください。

(f) 「利用ユーザ数の上限に達しました。」といったメッセージが出力される

Asset Information Manager Limited を同時に利用できるログインユーザ数の上限を超えたおそれがあります。Asset Information Manager Limited を利用していないユーザをログアウトさせるか、[サーバセットアップ] ダイアログの「セッション情報の設定」の「同時利用ログイン数」で設定した値を変更してください。

(3) Asset Information Manager Limited 操作時のトラブル

Asset Information Manager Limited にログインしたあとの操作中に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(a) 操作画面から [CSV] ボタンまたは [PDF] ボタンをクリックしても、何も出力されない

- Microsoft Internet Information Services のロックダウンツールを適用した場合、中間ファイルを作成するフォルダへのアクセス権が変更されているおそれがあります。
Asset Information Manager Limited のサーバの仮想ディレクトリ ¥csv のアクセス権の設定を確認して、「Web Anonymous Users」に「書き込み」権限を与える設定にしてください。Asset Information Manager Limited のサーバの仮想ディレクトリは、デフォルトでは C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM¥jp1asset¥wwwroot です。
- Windows Server 2012、Windows Server 2008 または Windows Server 2003 の場合、ダウンロードするファイルの拡張子が、MIME 登録されていないおそれがあります。ダウンロードするファイルの拡張子を MIME 登録してください。仮想ディレクトリの設定方法については、マニュアル「構築ガイド」の「10.4 仮想ディレクトリを設定する」を参照してください。

(b) 業務メニュー「ロガー一覧」からファイル名のアンカーをクリックしても、何も出力されない

Windows Server 2012、Windows Server 2008 または Windows Server 2003 の場合、拡張子「.log」が MIME 登録されていないおそれがあります。再度、Microsoft Internet Information Services に、Asset Information Manager の仮想ディレクトリを設定してください。仮想ディレクトリの設定方法については、マニュアル「構築ガイド」の「10.4 仮想ディレクトリを設定する」を参照してください。

(4) Web サービス拡張「jp1asset」の再作成

Windows Server 2012、Windows Server 2008 または Windows Server 2003 上で Asset Information Manager Limited のサーバを運用する場合、Asset Information Manager をインストールすると、自動的に jp1asset という名前で Web サービス拡張が登録されます。誤ってこの Web サービス拡張を削除してし

まった場合は、Web サービス拡張「jp1asset」を再作成したあと、アプリケーションプールを作成してください。アプリケーションプールの作成手順については、次に示す説明箇所を参照してください。

- Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用する場合
マニュアル「構築ガイド」の「10.6.1(1) アプリケーションプールの作成」
- Microsoft Internet Information Services 7.0 を使用する場合
マニュアル「構築ガイド」の「10.6.2(2) アプリケーションプールの作成」

Windows Server 2003 の場合を例に、Web サービス拡張「jp1asset」の作成手順を次に示します。

1. インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。
2. Asset Information Manager Limited のサーバの「Web サービス拡張」を選択する。
3. 「拡張」タブが選択されていることを確認して、「新しい Web サービス拡張を追加」を選択する。
[新しい Web サービス拡張] ダイアログが表示されます。
4. 「拡張名」に任意の名称を指定する。
「拡張名」には、例えば「aim」のような名称を指定します。
5. [追加] ボタンをクリックする。
[ファイルの追加] ダイアログが表示されます。
6. [参照] ボタンをクリックすると表示されるダイアログで、ファイルを指定して、[開く] ボタンをクリックする。
Asset Information Manager Limited のサーバの仮想ディレクトリに格納された次のファイルをすべて追加してください。
 - jamwscript.dll
 - bin¥jamlogin.dll
 - jamentter.dll
 - jamfile.dll
 - jamhtmlfile.dll
 Asset Information Manager Limited のサーバの仮想ディレクトリは、デフォルトでは C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM¥jp1asset¥wwwroot です。
7. 「拡張の状態を許可済みに設定する」のチェックボックスをチェックする。
8. [OK] ボタンをクリックする。
[新しい Web サービス拡張] ダイアログが閉じて、「Web サービス拡張」一覧に、任意に指定した拡張名で Web サービスが追加されます。

Windows Server 2012、Windows Server 2008 での Web サービス拡張「jp1asset」の作成手順については、マニュアル「構築ガイド」の「10.6.2(4) ISAPI の制限の設定」を参照してください。

(5) 仮想ディレクトリの再設定

Microsoft Internet Information Services を再構築した場合、仮想ディレクトリを再設定する必要があります。仮想ディレクトリの設定方法については、マニュアル「構築ガイド」の「10.4 仮想ディレクトリを設定する」を参照してください。

6.7.5 Web サーバのトラブルの主な要因と対処

トラブルが発生した場合、システムリソースが不足していないか、Microsoft Internet Information Services に異常を示すイベントログが出力されていないかを確認してください。

同じ Microsoft Internet Information Services 上で、アプリケーション保護設定が「低 (IIS プロセス)」または「中 (プール)」のほかのプログラムを利用している場合には、利用しているプログラム側に問題があるおそれがあります。

また、ネットワークでトラブルが発生していないか、Microsoft Internet Information Services にトラブルが発生していないかも確認してください。Microsoft Internet Information Services 6.0 以降を使用している場合は、マニュアル「構築ガイド」の「10.6 Microsoft Internet Information Services 6.0 以降を使用する場合の設定」を参照して、Web サーバの設定が正しいかを確認してください。

6.7.6 DBMS のトラブルの主な要因と対処

トラブルが発生した場合、Asset Information Manager Limited が使用する DBMS のクライアントライブラリにトラブルはないかを確認してください。また、Embedded RDB の場合は、Embedded RDB 特有のトラブルの発生要因があるので、「(2) Embedded RDB 特有のトラブル」も参照してください。

(1) DBMS 共通のトラブル

DBMS の発生トラブル別に、その要因および調査方法を次に示します。

(a) DBMS の環境が誤っているか、または破壊されている

- 次の四つの要因が考えられます。
 - DBMS クライアントの DLL が読み込まれない。
 - DBMS ドライバがない。
 - DBMS がネットワーク上の Asset Information Manager Limited のサーバへ到達していない。
 - DBMS への同時接続数が超過している。

設定した内容が正しいか確認してください。また、Asset Information Manager Limited のサーバと Asset Information Manager Limited のデータベースサーバを分散している場合、DBMS のクライアント環境がインストールされているか確認してください。

- ネットワークの設定が、DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっているおそれがあります。

DBMS サーバへの通信路を確認してください。

(b) Asset Information Manager Limited のデータベースへの接続がエラーになる

- DBMS サーバが起動されていない、閉塞中、または停止仕掛かり中であるおそれがあります。DBMS が正しく運用されているかを確認してください。
- ネットワークの設定が、DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっているおそれがあります。DBMS サーバへの通信路を確認してください。
- 接続時に指定したユーザ ID またはパスワードに誤りがあるおそれがあります。ユーザ ID またはパスワードが正しいかを確認してください。
- DBMS サーバのトラブルによるタイムアウト、リソース不足などのおそれがあります。DBMS の稼働状態を確認してください。

(c) スクリプトの実行でエラーになる

- ディスクが満杯であるおそれがあります。ディスクスペースを割り当てたドライブの空き容量または増分の有無と上限値を確認してください。
- トランザクションログが満杯であるおそれがあります。Asset Information Manager Limited のログにトランザクションログの満杯を示すメッセージが出力されている場合には、DBMS のトランザクションログの設定を確認してください。この場合、トランザ

クションログの取得を中止するか、または定期的にバックアップを取得する運用にすることをお勧めします。

- 排他制御によるロックエラーまたはデータベース接続のタイムアウトのおそれがあります。DBMS の稼働状態を確認してください。
- 次の五つの要因が考えられます。
 - 要求内容の権限に誤りがある
 - スクリプトのバッファのオーバーフローが発生している
 - スクリプトの構文が誤っている
 - ディスクの I/O エラーが発生している
 - 対象のテーブルが存在しない

カスタマイズ前の環境に戻してください。

(2) Embedded RDB 特有のトラブル

Embedded RDB の場合は、「(1) DBMS 共通のトラブル」の内容に加えて、Embedded RDB 特有の要因も考慮してください。

発生するトラブル別に、主な要因および対処を次に示します。

- (a) Asset Information Manager Limited のデータベースの作成時に、エラーが発生して実行が停止する

データベース格納先のディスク容量、またはデータベース作成時に指定した Embedded RDB の容量が満杯になっているおそれがあります。

データベース作成時に表示される、データベースの詳細設定のダイアログの「サイズ」、「管理領域」および「動作領域」の分だけ容量に空きがあるディスクに、Asset Information Manager Limited のデータベースを再作成してください。

- (b) ログイン画面は表示されるが、「ページを表示できません」といったメッセージが表示されて、ログインできない

Asset Information Manager Limited のデータベースが作成されていないおそれがあります。

必ず、事前に [サーバセットアップ] ダイアログを起動して、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を入力して、[OK] ボタンをクリックしてください。

ログイン ID やサービス名は、予約語を避けてください。予約語は JP1/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ %jp1asset に格納されている RESWORDS.TXT を参照してください。

そのあとで、Asset Information Manager Limited のデータベースを作成してください。

- (c) データベース接続の認証に失敗する

次の文字列で始まるエラーメッセージが、ログに出力されます。

KDAM5001-E[HY000] (状況に応じて出力される文字列) KFPA11561-E

これは、Asset Information Manager Limited の稼働後に、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」のどちらかを変更したおそれがあります。

[サーバセットアップ] ダイアログを起動して、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を、Asset Information Manager Limited のデータベースを作成したときの状態に戻してください。

運用中に、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を別の値には変更できません。

(d) データベース通信エラーが発生しているか、またはデータベース内でエラーが発生している

次の文字列で始まるエラーメッセージが、ログに出力されます。

KDAM5001-E[HY000] (状況に応じて出力される文字列) KFPA11723-E

KDAM5001-E[HY000] (状況に応じて出力される文字列) KFPA11728-E

これは、DBMS サーバが起動中、閉塞中または停止中のおそれがあります。次に示す内容を確認してください。

- サービス「HiRDB/EmbeddedEdition_AM1」が起動しているかを確認して、停止している場合は起動してください。完全に起動してから、World Wide Web Publishing Service を再起動してください。ログの詳細については、マニュアル「HiRDB Version 8 メッセージ」を参照してください。
- ネットワークケーブルが Asset Information Manager Limited のサーバに対して確実に接続されていることを確認してください。ネットワークケーブルがサーバから抜かれた場合、Embedded RDB と Asset Information Manager Limited 間の通信ができなくなります。

(e) データベース容量不足が発生している

次の文字列で始まるエラーメッセージが、ログに出力されます。

KDAM5001-E[HY000] (状況に応じて出力される文字列) KFPA11756-E

これは、データベース領域がページ不足になっているおそれがあります。

Asset Information Manager Limited のデータベースを再編成してください。再編成してもエラーメッセージが出力される場合は、Asset Information Manager Limited のデータベースを再作成して、サイズを変更してください。

Asset Information Manager Limited のデータベースを再編成する手順については、マニュアル「構築ガイド」の「10.3.7 Embedded RDB 環境でデータベースを再編成する」を参照してください。また、Asset Information Manager Limited のデータベースのサイズを変更する手順については、「5.2.3(3) Embedded RDB のサイズの変更」を参照してください。

(f) Asset Information Manager Limited のデータベースを作成したドライブの空き容量が減少している

Embedded RDB の作業表用ファイル (SQL 文を実行するときに必要とする一時的な情報を格納するファイル) の容量が、自動拡張された影響によることがあります。

作業表用ファイルの容量は、大量の検索結果を出力したときに自動拡張されます。Asset Information Manager Limited のデータベースを作成したドライブの空き容量が圧迫された際には、jamemb_workcomp.exe を実行することで、作業表用ファイルで自動拡張された領域を解放できます。

ここでは、Embedded RDB の作業表用ファイルで、自動拡張された領域を解放する jamemb_workcomp.exe の機能、形式、戻り値およびコマンド実行時の注意事項について説明します。

jamemb_workcomp.exe は次のフォルダに格納されています。

JPl/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ ¥jplasset¥exe

機能

Embedded RDB の作業表用ファイルで、自動拡張された領域を解放します。

形式

jamemb_workcomp.exe

戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了
11	オプションの書式に誤りがあります。
101 以上	そのほかのエラーで終了しました。

コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamemb_workcomp.exe を実行してください。

6.7.7 Web ブラウザのトラブルの主な要因と対処

トラブルが発生した場合、Asset Information Manager Limited が使用する Web ブラウザの実行環境にトラブルはないかを確認してください。

Web ブラウザで発生するトラブル別に、主な要因および対処を次に示します。

(1) Web ブラウザが異常終了しているかまたはハングアップしている

- Web ブラウザの実行環境に誤りがあるか、またはレジストリや前提となる DLL が破壊されているおそれがあります。
正しい環境に戻すか、または Web ブラウザを再インストールしてください。
- Web ブラウザのバージョンに問題があるおそれがあります。
Microsoft Internet Explorer 6 SP1 以降、Windows Internet Explorer 7、または Windows Internet Explorer 8 を使用してください。
- プラグインに障害が発生している、またはプラグインに問題があるおそれがあります。
対策版がリリースされていたら、対策版の Web ブラウザをインストールしてください。
- コンテンツに含まれるコントロールに障害が発生している、またはコンテンツに含まれるコントロールに問題があるおそれがあります。
対策版がリリースされていたら、対策版の Web ブラウザをインストールしてください。
- スクリプトに障害が発生している、またはスクリプトに問題があるおそれがあります。
稼働状態を確認してください。また、対策版がリリースされていたら、対策版の Web ブラウザをインストールしてください。
- Web ブラウザに問題があるおそれがあります。
対策版がリリースされていたら、対策版の Web ブラウザをインストールしてください。

(2) 通信上のトラブルが発生している

- ルーティングテーブル破壊、またはほかのソフトウェアと通信ポートの競合によるネットワーク障害が発生しているおそれがあります。
ルーティングテーブルを破壊される前の状態に戻すか、またはほかのソフトウェアと競合しないように通信ポートを再設定してください。
- Microsoft Internet Information Services、またはプロキシサーバが停止しているか、またはエラーが発生しているおそれがあります。
正しく運用しているかを確認してください。

(3) GUI が正しく表示されない

- Asset Information Manager Limited のデータベースへ不正に直接アクセスすることによる情報書き換え、論理データベース構造の破壊などによって、Asset Information Manager Limited のデータベースが破壊されているおそれがあります。

バックアップデータを取得している場合、取得しているバックアップデータを使用して、元の状態に戻してください。

バックアップデータを取得していない場合、Asset Information Manager Limited のデータベースを初期化して、再作成してください。

- 「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっているおそれがあります。
Microsoft Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックすると表示される [セキュリティの設定] ダイアログの「アクティブスクリプト」を有効にしてください。
- 「バイナリビヘイピアとスクリプトビヘイピア」が「無効にする」になっているおそれがあります (Windows Server 2003 SP1 以降および Windows XP SP2 以降の場合)。
Microsoft Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックすると表示される [セキュリティの設定] ダイアログの「バイナリビヘイピアとスクリプトビヘイピア」を有効にしてください。

(4) ログイン画面が表示できない

- World Wide Web Publishing Service が起動していないおそれがあります。
World Wide Web Publishing Service が起動しているかどうか確認してください。
- 「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっているおそれがあります。
Microsoft Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックすると表示される [セキュリティの設定] ダイアログの「アクティブスクリプト」を有効にしてください。

(5) ログインできない

- 「セッションごとの Cookie の使用許可」が「無効にする」になっているおそれがあります。
「セッションごとの Cookie の使用許可」を有効にしてください。
- 「暗号化されていないフォームデータの送信」が「無効にする」になっているおそれがあります。
「暗号化されていないフォームデータの送信」を有効にしてください。
- 「ページの自動読み込み」が「無効にする」になっているおそれがあります (Windows Server 2003 の場合)。
「ページの自動読み込み」を有効にしてください。
- Asset Information Manager Limited のサーバが Asset Information Manager Limited のデータベースと接続できていないおそれがあります。
Asset Information Manager Limited のサーバが Asset Information Manager Limited のデータベースと接続できているか確認してください。

(6) ファイルをダウンロードできない

- ダウンロードするファイルの拡張子が、MIME 登録されていないおそれがあります (Windows Server 2012, Windows Server 2008 または Windows Server 2003 の場合)。
ダウンロードするファイルの拡張子を MIME 登録してください。
- Microsoft Internet Explorer の設定で、「ファイルのダウンロード」が「無効にする」になっているおそれがあります。
「ファイルのダウンロード」を有効にしてください。

(7) グラフを表示できない

- Microsoft Office Web コンポーネントがインストールされていない可能性があります。グラフを表示するユーザの PC に、Microsoft Office Web コンポーネントをインストールしてください。
Microsoft Office Web コンポーネントは、Microsoft Office 2003 以前をインストールするか、Microsoft 社のホームページからダウンロードしてください。
- 「ActiveX コントロールとプラグインの実行」が「無効にする」になっている可能性があります。

「ActiveX コントロールとプラグインの実行」を有効にしてください。

6.7.8 配布管理システムとの連携時のトラブルの主な要因と対処

配布管理システムとの連携時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(1) インベントリ情報取り込み時のトラブル

配布管理システムのインベントリ情報の取り込み時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

- (a) 「コマンドの実行中にエラーが発生しました。詳細はログファイルを参照してください」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTCIMn.LOG ファイルが出力されます。

「データソース名および指定された既定のドライバが見つかりません。」(Microsoft SQL Server の場合)

「SQL Server が存在しないか、アクセスが拒否されました。」(Microsoft SQL Server の場合)

「接続に失敗しました。」(Microsoft SQL Server の場合)

「Invalid password for authorization identifier HiRDB」(Embedded RDB の場合)

「サービス名を解決できませんでした。」(ORACLE の場合)

「リスナーがありません。」(ORACLE の場合)

「invalid username/password; logon denied」(ORACLE の場合)

次に示す内容を確認してください。

- [サーバセットアップ] ダイアログの、次に示す項目のどれかが正しく設定されていないおそれがあります。
 - 「データベース情報」の「ログイン ID」とパスワード
 - 「データベース情報」の「サービス名」
 - 「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」とパスワード
 - 「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」
- 各項目を正しく設定してください。また、データベース接続の設定を確認してください。
- Asset Information Manager Limited のデータベースが正しく作成された場合は、[サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」が正しく設定されていないおそれがあります。

[サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。
 - データベース接続の設定時に作成したサービスが正しく作成されていないおそれがあります。

サービスが正しく作成されているか確認してください。また、テスト機能で接続を確認してください。
 - DBMS が起動していないおそれがあります。

DBMS を起動してください。

- (b) 「接続に失敗しました。」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTMESn.LOG ファイルが出力されます。

「接続に失敗しました。」(Microsoft SQL Server の場合)

「Invalid password for authorization identifier HiRDB」(Embedded RDB の場合)

6. トラブルシューティング

「invalid username/password: logon denied」(ORACLE の場合)

次に示す内容を確認してください。

- DBMS サーバが起動されていない、DBMS サーバが閉塞中、または DBMS サーバ停止仕掛かり中のおそれがあります。
DBMS が正しく運用されているかを確認してください。
- 接続時に指定したユーザ ID またはパスワードが誤っているおそれがあります。
キー入力に誤りはないかを確認してください。
- DBMS サーバのトラブルによるタイムアウトのおそれがあります。
DBMS の稼働状態を確認してください。
- [サーバセットアップ] ダイアログでの設定が実行されていないおそれがあります。
[サーバセットアップ] ダイアログで設定を実行してください。
- 接続先が JP1/NETM/DM のデータベースではないおそれがあります。
データベースの接続の設定、および [サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。

- (c) 「資産番号に自動採番は設定できません。」といった内容の ASTMESn.LOG ファイルが log フォルダに出力される

[サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「資産情報の引き当てキー」に「資産番号を使用する」を設定している場合、資産番号に「自動採番」は設定できません。

インベントリ情報の引き当て画面から資産番号の設定を変更するか、「資産情報の引き当てキー」を「運用キーに従う」に変更してください。

- (d) 「初期化に失敗しました。」といった内容の ASTMESn.LOG ファイルが log フォルダに出力される

Asset Information Manager Limited の動作環境が壊れているおそれがあります。

Asset Information Manager Limited をインストールし直してください。

(2) インベントリ情報参照時のトラブル

[機器詳細] ダイアログの「インベントリ」タブを選択して、インベントリ情報を参照するときに想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

- (a) 「対応する機器が JP1/NETM/DM 上に存在しません」といったメッセージが表示されて、インベントリ情報が表示されない
- 配布管理システムから取り込んだ機器の情報ではないおそれがあります。配布管理システムから取り込んだ機器の情報でなければ表示されません。
 - 配布管理システムのデータベース上に、該当する機器の情報が存在しないおそれがあります。JP1/NETM/DM のリモートインストールマネージャを使用して、その機器のシステム構成情報およびシステム情報が存在するかどうかを確認してください。
- (b) 「インベントリ情報を表示できません」といったメッセージが表示されて、インベントリ情報が表示されない

接続先が配布管理システムとは別のデータベースになっているか、または接続の設定が間違っているおそれがあります。

データベース接続の設定、および [サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」、「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。

(3) ソフトウェア配布時のトラブル

ソフトウェア配布時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

- (a) ソフトウェア適用状況画面でパッケージを追加する際に、「JP1/NETM/DM のパッケージを表示できません」といったエラーメッセージが出力される
- 接続先が配布管理システムとは別のデータベースになっているか、または接続の設定が間違っているおそれがあります。
データベース接続の設定、および [サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」、「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。
 - 配布管理システムのデータベースへの接続障害が発生したおそれがあります。データベースおよびネットワークの状況を確認してください。
- (b) [キャビネット選択] ダイアログで、キャビネットの内容を表示する際に、「JP1/NETM/DM のパッケージを表示できません」といったエラーメッセージが出力される
- 接続先が配布管理システムとは別のデータベースになっているか、または接続の設定が間違っているおそれがあります。
データベース接続の設定、および [サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」、「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。
 - 配布管理システムのデータベースへの接続障害が発生したおそれがあります。データベースおよびネットワークの状況を確認してください。
- (c) 業務メニュー「配布状況」を選択した際、または配布状況画面で各ジョブの実行状況を参照する際に、「配布状況を表示できません」といったエラーメッセージが出力される
- 接続先が配布管理システムとは別のデータベースになっているか、または接続の設定が間違っているおそれがあります。
データベース接続の設定、および [サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」、「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。
 - 配布管理システムのデータベースへの接続障害が発生したおそれがあります。データベースおよびネットワークの状況を確認してください。
- (d) ソフトウェア適用状況画面で、ソフトウェアの配布を実行できない

接続先が配布管理システムのデータベースではないおそれがあります。データベース接続の設定、および [サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」とパスワード、ならびに「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。

また、KDAM2G15-E で始まる、「JP1/NETM/DM の dmAPIOpenEx() でエラーが発生しました。JP1/NETM/DM のログを参照してください。」といったメッセージがログに出力される場合は、Asset Information Manager Limited のサーバにリモートインストールマネージャをインストールして、リモートインストールマネージャを構築してください。詳細は、マニュアル「構築ガイド」の「2.2 リモートインストールマネージャをインストールする」を参照してください。

エラーの詳細については「4.10 dcmnst.exe (ジョブの作成, 実行)」、「4.11 dcmjbrm.exe (ジョブの削除)」、および「4.19 dcmrtry.exe (ジョブの再実行)」を参照してください。

- (e) 配布状況画面で、ジョブを削除または再実行できない

接続先が配布管理システムのデータベースではないおそれがあります。データベース接続の設定、および

[サーバセットアップ] ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」とパスワード、および「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。

エラーの詳細については「4.10 dcminst.exe (ジョブの作成, 実行)」、「4.11 dcmjbrm.exe (ジョブの削除)」、および「4.19 dcmrtry.exe (ジョブの再実行)」を参照してください。

(4) 操作ログ取得時のトラブル

操作ログ取得時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

- (a) 「SQL 発行時にエラーが発生しました。(netmdm_monitoring_security:15)」といったメッセージがログに出力される

操作ログの参照先である配布管理システムのデータベースのバージョンが古いことがあります。

配布管理システムのデータベースを 08-00 以降にバージョンアップしてください。

- (b) 「検索条件のカラム名が無効です。(netmdm_monitoring_security)」といったメッセージがログに出力される

配布管理システムのデータベースのバージョンが 08-50 より前の場合に、操作ログ一覧画面で次のどれかの条件で検索すると、このメッセージが表示されます。

- 「表示するログ」で「ファイル操作」を選択し、「種別」で「印刷」、「印刷抑止」または「印刷抑止解除」を指定する。
- 「表示するログ」で「ファイル操作」を選択し、「ドキュメント名 (JP1/NETM/DM)」を指定する。
- 「表示するログ」で「Web アクセス」を選択する。
- 「表示するログ」で「外部メディア操作」を選択する。

これらの検索条件の指定を解除してください。

(5) リモートインストールマネージャから [操作ログ一覧] ウィンドウを起動した場合のトラブル

ここでは、Asset Information Manager Limited の [操作ログ一覧] ウィンドウの使用時にトラブルが発生した場合に、考えられる要因とその対処方法について説明します。

表 6-19 Asset Information Manager Limited のトラブルの要因と対処

トラブル	要因	対処
[操作ログ一覧] ウィンドウが表示されない。	JP1/NETM/DM のセットアップの [AIM 関連] パネルで指定した URL に誤りがある。	URL を確認し、設定し直してください。
	接続先サーバの World Wide Web Publishing Service が停止している。	World Wide Web Publishing Service を起動してください。
	ブラウザの設定で、「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっている。	「有効にする」に設定してください。
	ブラウザの設定で、「セッションごとの Cookie の使用許可」が「無効にする」になっている。	「有効にする」に設定してください。
	ブラウザの設定で、「暗号化されていないフォームデータの送信」が「無効にする」になっている。	「有効にする」に設定してください。

トラブル	要因	対処
	ブラウザの設定で、「ページの自動読み込み」が「無効にする」になっている (Windows Server 2003 の場合)。	「有効にする」に設定してください。
	ブラウザの設定で、「パイナリビハイピアとスクリプトビハイピア」が「無効にする」になっている (Windows Server 2003 の場合)。	「有効にする」に設定してください。
[操作ログ一覧] ウィンドウに、「利用ユーザ数の上限に達しました。」とメッセージが表示される。	[操作ログ一覧] ウィンドウに接続するセッションが 300 を超えた。	しばらく経ってから、もう一度 [操作ログ一覧] ウィンドウを起動してください。
[操作ログ一覧] ウィンドウで、「KDAM3208-E サーバとの接続が解除されました。」とメッセージが表示される。	[操作ログ一覧] ウィンドウに接続するセッションが破棄された。	[操作ログ一覧] ウィンドウは、1 時間操作しない状態が続くと、すべてのセッションを切断します。リモートインストールマネージャから、[操作ログ一覧] ウィンドウを起動し直してください。
	OS が Windows Server 2003 の場合に、Microsoft Internet Information Services の設定で「規定の Web サイト」 - 「jp1asset」仮想ディレクトリで使用するアプリケーションプールの設定が間違っている。	Microsoft Internet Information Services の設定方法については、マニュアル「構築ガイド」の「2.3 Asset Information Manager Limited をインストールする」を参照してください。
[操作ログ一覧] ウィンドウで、「製品バージョンとデータベースバージョンが異なるため、画面を表示できません。」とメッセージが表示される。	Asset Information Manager Limited のバージョンアップまたは修正パッチを適用後に、データベースをバージョンアップしていない。	Asset Information Manager Limited のデータベースをバージョンアップしてから、[操作ログ一覧] ウィンドウを起動し直してください。
[操作ログ一覧] ウィンドウで、検索結果が表示されない。	JP1/NETM/DM のセットアップの [AIM 関連] パネルで指定した URL に誤りがある。	URL を確認し、設定し直してください。

6.7.9 配布管理システムとの連携時のトラブルの主な要因と対処

配布管理システム以外の JP1 製品との連携時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を、製品ごとに次に示します。

(1) JP1/ 秘文との連携時のトラブル

JP1/ 秘文の秘文ログ参照時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(a) DBMS の環境が誤っている

- 次の四つの要因が考えられます。
 - DBMS クライアントの DLL が読み込まれない。
 - DBMS ドライバがない。
 - DBMS がネットワーク上の Asset Information Manager Limited のサーバへ到達していない。
 - DBMS への同時接続数が超過している。

設定した内容が正しいか確認してください。また、Asset Information Manager Limited のサーバと Asset Information Manager Limited のデータベースサーバを分散している場合、DBMS のクライアント環境がインストールされているか確認してください。

- ネットワークの設定が、DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっているおそれがあります。

DBMS サーバへの通信路を確認してください。

6. トラブルシューティング

(b) JP1/ 秘文サーバのデータベースへの接続がエラーになる

- DBMS サーバが起動されていない、閉塞中、または停止仕掛けり中であるおそれがあります。DBMS が正しく運用されているかを確認してください。
- ネットワークの設定が、DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっているおそれがあります。DBMS サーバへの通信路を確認してください。
- 接続時に指定したユーザ ID またはパスワードに誤りがあるおそれがあります。ユーザ ID またはパスワードが正しいかを確認してください。
- DBMS サーバのトラブルによるタイムアウト、リソース不足などのおそれがあります。DBMS の稼働状態を確認してください。

(c) スクリプトの実行でエラーになる

- 排他制御によるロックエラーまたはデータベース接続のタイムアウトのおそれがあります。DBMS の稼働状態を確認してください。
 - 次の五つの要因が考えられます。
 - 要求内容の権限に誤りがある
 - スクリプトのバッファのオーバーフローが発生している
 - スクリプトの構文が誤っている
 - ディスクの I/O エラーが発生している
 - 対象のテーブルが存在しない
- カスタマイズ前の環境に戻してください。

6.7.10 トラブルの回復

ここでは、Asset Information Manager Limited で発生したトラブルの回復方法について説明します。トラブル情報の取得方法については、「6.8.4 「Asset Information Manager Limited」のトラブル情報の採取」を参照してください。

(1) Asset Information Manager Limited のトラブル発生時の回復方法

取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあと、Asset Information Manager Limited のサーバが閉塞状態のときには、Microsoft Internet Information Services を再起動します。

(2) Asset Information Manager Limited のサーバのトラブル発生時の回復方法

Microsoft Internet Information Services にトラブルが発生した場合の回復方法は次のとおりです。

(a) Web サーバにトラブルが発生した場合

取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあと、Microsoft Internet Information Services を再起動します。再度トラブルが発生する場合は、データベースが破壊されているおそれがあるため、データベースのバックアップデータをリストアして、Microsoft Internet Information Services を再起動します。

(b) Web サーバが応答しなくなった場合

Microsoft Internet Information Services を停止後、取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあと、Microsoft Internet Information Services を再起動します。再度、応答しない状態になる場合は、データベースが破壊されているおそれがあるため、データベースのバックアップデータをリストアして、Microsoft Internet Information Services を再起動します。

(3) DBMS のトラブル発生時の回復方法

DBMS にトラブルが発生した場合の回復方法は次のとおりです。

(a) DBMS にトラブルが発生した場合

取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあと、DBMS を再起動します。

起動された場合は、データベースが破壊されていないかを確認し、必要に応じてバックアップデータをリストアしてデータベースを回復してください。

起動されない場合は、DBMS の環境を構築し直してください。

(b) DBMS が破壊された場合

Microsoft Internet Information Services を停止し、DBMS の環境を構築し直してください。DBMS を再起動し、バックアップデータをリストアしてデータベースを回復したあと、Microsoft Internet Information Services を再起動します。

(4) Web ブラウザのトラブル発生時の回復方法

Web ブラウザにトラブルが発生した場合の回復方法は次のとおりです。

(a) Web ブラウザが異常終了した場合

Web ブラウザを再起動して、再度ログインして直前の業務処理内容を確認し、完了していない場合は再度業務を実行します。

なお、再度、Web ブラウザからの応答がない場合は、Web ブラウザの画面のハードコピーを採取します。同時に直前の操作内容および入力データの説明を添付して、システム管理者に調査依頼します。

(b) Web ブラウザ表示不正の場合

いったん Web ブラウザからログアウトし、再度ログインしてトラブルが発生した業務を実行します。再度同じ現象となる場合は、システム管理者に調査依頼します。

(5) コマンド実行中のトラブル発生時の回復方法

取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認し、トラブルを取り除きます。

6.8 保守資料の採取

「6.2 ジョブのトラブルシューティング」,「6.3 JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム)のトラブルシューティング」, および「6.4 JP1/NETM/DM Client (クライアント)のトラブルシューティング」に従って対処しても問題が解決しない場合は, 次の保守資料を採取して, システム管理者に連絡してください。ここでは, 保守資料の採取方法について説明します。

- ログ情報
- JP1/NETM/DM の設定情報
- JP1/NETM/DM のトラブル情報
- Asset Information Manager Limited のトラブル情報
- ディレクトリ情報
- 通信設定の情報
- WMI 情報

6.8.1 ログ情報の採取

JP1/NETM/DM のインストール先ディレクトリ ¥log 下のログファイルを採取します。JP1/NETM/DM には, 情報の種類別に数種類のログファイルがあります。必要なログファイルを採取してください。JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム) のログの種類については「6.3.1 ログファイルの確認」を, JP1/NETM/DM Client (クライアント) のログの種類については「6.4.1 ログファイルの確認」を参照してください。

なお, JP1/NETM/DM をデフォルトのディレクトリにインストールしている場合, ログファイルは次のディレクトリに格納されています。

製品名	ログファイル格納ディレクトリ
JP1/NETM/DM Manager (マネージャ)	C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM¥log
JP1/NETM/DM Manager (中継マネージャ)	C:¥Program Files¥Hitachi¥NETMDM¥log_s
JP1/NETM/DM Client (中継システム)	C:¥Program Files¥HITACHI¥NETMDMP¥log
JP1/NETM/DM Client (クライアント)	C:¥Program Files¥HITACHI¥NETMDMP¥log

注 OS が Windows Server 2003 (x64) の場合, 「Program Files」が「Program Files (x86)」になります。

6.8.2 JP1/NETM/DM の設定情報の採取

JP1/NETM/DM の設定情報を採取する方法を説明します。

1. Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択する。
2. 「名前」に「regedit」と入力し, [OK] ボタンをクリックする。
[レジストリエディタ] が起動します。
3. 「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI」(OS が 32 ビット版の場合) または「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI」(OS が 64 ビット版の場合) 下の, 製品に対応したサブキーを選択する。
製品に対応したサブキーは, 次の表のとおりです。

製品名	サブキー名
JP1/NETM/DM Manager (マネージャ)	¥NETM/DM
JP1/NETM/DM Manager (中継マネージャ)	¥NETM/DM, ¥NETM/DM/P
JP1/NETM/DM Client (中継システム)	¥NETM/DM/P
JP1/NETM/DM Client (クライアント)	¥NETM/DM/P

4. [レジストリ] - [レジストリファイルの書き出し]を選択する。
JP1/NETM/DM の設定情報が出力されます。

6.8.3 JP1/NETM/DM のトラブル情報の採取

JP1/NETM/DM のトラブルに関する情報は、製品提供のバッチファイルを実行して一括取得してください。

バッチファイルを実行してトラブル情報を取得する手順を次に示します。トラブル情報の取得は、トラブルが発生したマシン上で実行してください。

1. Administrator 権限で Windows にログインする。

2. SDTRBL.BAT を実行する。

SDTRBL.BAT は、JP1/NETM/DM のインストール先フォルダ ¥BIN 下に格納されています。

バッチファイルを実行すると、出力先として指定したフォルダに、その時点のトラブル情報が出力されます。

トラブル情報取得 (SDTRBL.BAT) バッチファイルの形式

SDTRBL.BAT の形式を次に示します。

```
SDTRBL.BAT "インストール先フォルダ名" "出力先フォルダ名"
```

インストール先フォルダ名

JP1/NETM/DM のインストール先フォルダ名をフルパスで指定します。インストール先フォルダ名は必ず指定してください。

出力先フォルダ名

取得したトラブル情報の出力先となるフォルダ名を、フルパスまたは相対パスで指定します。出力先フォルダ名は必ず指定してください。

トラブル情報取得 (SDTRBL.BAT) バッチファイルを実行してトラブル情報を取得できるのは、JP1/NETM/DM Manager だけです。

6.8.4 「Asset Information Manager Limited」のトラブル情報の採取

「Asset Information Manager Limited」のトラブルに関する情報は、製品提供のバッチファイルを実行して一括取得してください。

バッチファイルを実行してトラブル情報を取得する手順を次に示します。トラブル情報の取得は、「Asset Information Manager Limited」を運用しているマシン上で実行してください。

1. Administrator の権限で配布管理システムにログインする。

2. ASTTRBL.BAT を実行する。

6. トラブルシューティング

ASTTRBL.BAT は、JP1/NETM/DM Manager のインストール先フォルダ ¥jp1asset¥exe 下に格納されています。
バッチファイルを実行すると、出力先として指定したフォルダに、その時点のトラブル情報が出力されます。

トラブル情報取得 (ASTTRBL.BAT) バッチファイルの形式

ASTTRBL.BAT の形式を次に示します。

```
ASTTRBL.BAT "出力先フォルダ名"
```

出力先フォルダ名

取得したトラブル情報の出力先となるフォルダ名を、フルパスまたは相対パスで指定します。出力先フォルダ名は、必ず指定してください。

6.8.5 ディレクトリ情報の採取

JP1/NETM/DM のディレクトリ情報を採取するには、コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。ここでは、JP1/NETM/DM が C:¥Program Files¥Hitachi¥netmdmp にインストールされており、ディレクトリ情報を filed.txt ファイルに出力すると仮定しています。

```
> c:  
> cd Program Files¥Hitachi¥netmdmp  
> dir /s /on > filed.txt
```

6.8.6 通信設定の情報の採取

通信設定の情報を採取する方法を説明します。

Windows NT の場合

コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
ipconfig /all > [任意のファイル名]
```

Windows Me, Windows 98 の場合

1. Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択する。
2. 「名前」に「winipcfg」を入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[IP 設定] ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細] ボタンをクリックし、[IP 設定] ダイアログボックスのハードコピーを採取する。

6.8.7 WMI 情報の採取

WMI 情報の採取には、手動で採取する方法とリモートで採取する方法があります。

以降で、それぞれの採取方法について説明します。

(1) 手動で採取する

WMI 情報を手動で採取するには、次に示す製品がクライアントにインストールされている必要があります。

- JP1/NETM/DM Client
- JP1/NETM/DM Client - Base
- JP1/NETM/DM Manager

注 中継マネージャとしてインストールされている場合だけ有効です。

以降では、上記の製品を「JP1/NETM/DM 製品」と呼びます。

WMI 情報を手動で採取する方法を次に示します。なお、手動で採取する場合は、該当する PC 上で実行してください。

1. JP1/NETM/DM 製品のインストール先ディレクトリ¥BIN を開く。
2. dmpwmitl.vbs を選択し、ダブルクリックする。
dmpwmitl.vbs は、JP1/NETM/DM 製品のインストール先ディレクトリ¥BIN 下に格納されています。dmpwmitl.vbs をダブルクリックすると、WMI 情報の採取が開始されます。終了すると、終了を示すダイアログボックスが表示されます。
3. [OK] ボタンをクリックする。
WMI 情報は、JP1/NETM/DM 製品のインストール先ディレクトリ¥LOG 下に、次に示す名前で格納されます。

WMI 情報（出力ファイル）

WMIGETINFO_YYYYMMDD_hhmmss.txt

注 YYYYMMDD にはこのファイルが作成された日付が設定され、hhmmss には時刻が設定されます。

(2) リモートで採取する

WMI 情報を自動で採取する方法を次に示します。

1. リモートインストールマネージャを起動する。
2. リモートコレクトを実行するジョブを作成する。
ジョブの作成については、マニュアル「運用ガイド 1」の「5.1.1 リモートコレクトの実行」を参照してください。
3. コレクトファイルを指定する。
[コレクトファイル] パネルでは、次のように指定してください。

収集対象

次に示すパスを指定してください。

%NETMDMP%¥LOG¥WMIGETINFO.txt

収集ファイル格納ディレクトリ

任意のディレクトリを指定してください。

4. [コレクトファイル] パネルの [詳細] ボタンをクリックする。
[リモートコレクトの詳細オプション] ダイアログボックスが表示されます。
5. 外部プログラムを指定する。
「クライアントでの外部プログラム起動」で、次のように指定してください。

収集直前

```
cscript "JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ¥BIN¥dmpwmitl.vbs" /
remote
```

「remote」は、すべて小文字で指定してください。

6. トラブルシューティング

「収集直前」以外の項目については、任意に指定してください。

6. そのほかのパネルを設定する。

手順 4 および手順 5 で指定した項目以外を設定します。

各パネルの設定については、マニュアル「運用ガイド 1」の「5.1.1 リモートコレクトの実行」の各パネルの説明を参照してください。

7. [実行] ボタンをクリックし、WMI 情報を採取する PC に対して、リモートコレクトを実行する。

リモートコレクトが終了すると、「収集ファイル格納先ディレクトリ」で設定したディレクトリ下に、WMI 情報が次に示す名前で格納されます。

WMIGETINFO.txt

7

メッセージ

この章では、JP1/NETM/DM の使用中に発生するイベントログメッセージ、およびクライアントの基本ログ (USER_CLT.LOG) について説明します。

7.1 イベントログメッセージ一覧

7.2 クライアントの基本ログメッセージ一覧

7.1 イベントログメッセージ一覧

Windows NT のイベントビューアなどで監視できるイベントログメッセージを次に示します。JP1/NETM/DM HTTP Gateway のイベントログメッセージについては、「6.5.2 HTTP Gateway のイベントログメッセージ」を参照してください。

7.1.1 JP1/NETM/DM Manager のイベントログメッセージ

JP1/NETM/DM Manager が出力するイベントログメッセージを次に示します。

(1) Windows NT とのインターフェース関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
0	Error	Windows NT への要求処理でエラーが発生しました .Request: <i>xx</i> , Error: <i>yy</i>

(凡例) *xx* , *yy* : 任意の文字列

(2) 配布管理システム関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
10000	Error	RDBMS への最大接続数を越えました .
10004	Error	RDBMS との通信でエラーが発生しました .
10007	Error	RDBMS へのアクセスでタイミングエラーが発生しました .
10008	Error	データベースフォーマットが一致していません .
10009	Error	RDBMS へのログインに失敗しました。データソース名称 : <i>xx</i>
10010	Error	指定されたデータソース名称に誤りがあります。データソース名称 : <i>xx</i>
10011	Error	トランザクションログが一杯のため RDBMS へのアクセスに失敗しました .
10012	Error	データベースの容量が不足しているため RDBMS へのアクセスに失敗しました .
10101	Error	システムエラーが発生しました .
10106	Error	ファイルのクローズに失敗しました .
11002	Error	ファイル転送サーバでシステムエラーが発生しました .
11003	Error	ファイル転送サーバで処理矛盾が発生しました .
11004	Error	ファイル転送サーバへの処理要求シーケンスが不正です .
11005	Error	ファイル転送サーバへの処理要求が不正です .
11006	Error	配布管理サーバ起動中にメモリ不足が発生しました .
11007	Error	ファイル転送サーバでディレクトリの作成に失敗しました .
11010	Error	例外が発生しました .
11011	Error	指定したファイルはありません .
11012	Error	指定したファイルは不正です .
11017	Error	管理ファイルにファイル障害が発生しました .
11020	Error	動作環境の設定が不正です .

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
11022	Error	資源格納庫が破壊されています。
11023	Error	xx から不正な差分指令ファイルを受信しました。
11024	Error	xx から不正な状態通知ファイルを受信しました。
11025	Error	xx から不正なインベントリ情報ファイルを受信しました。
11026	Warning	クライアント (xx) のファイル (yy) は不正です。
11027	Warning	xx からホスト名が不正な yy ファイルを受信しました。
11028	Warning	不正なホスト名の xx から接続要求がありました。
11029	Error	クライアント (xx) のオフラインマシン情報ファイル (yy) は他のプロセスが更新中です。
12013	Error	資源管理ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。
12014	Error	資源属性ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。
12015	Error	実行管理ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。
12016	Error	資源状態ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。
12017	Error	資源管理ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。
12018	Error	資源属性ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。
12019	Error	実行管理ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。
12020	Error	資源状態ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。
12032	Error	管理ファイルが満杯でこれ以上書き込みができません。
12033	Error	管理ファイル索引の生成に失敗しました。
12034	Error	管理ファイルの交代キー索引の生成に失敗しました。
12035	Error	索引へのキー登録に失敗しました。
12036	Error	索引への文字登録に失敗しました。
12037	Error	索引の分割に失敗しました。
12038	Information	システム中断中の為、ダウンロード要求を拒否しました。
13003	Information	配布管理サーバが起動しました。
13004	Information	配布管理サーバが終了しました。
14004	Error	起動処理中にシステムエラーが発生しました。
14010	Error	NETM/DM Manager への接続要求が不正です。
14018	Error	接続先ホスト名が設定されていません。
14033	Information	サーバは接続拒否状態のため、接続を拒否しました。
14035	Information	サーバは接続可能状態にします。
14036	Information	NETM*Cm2/NNM のシンボル追加に失敗しました。Node=xx, Label=yy.
14037	Error	JP1/NETM/DM Manager のプロセスがダウンしました。
14039	Error	JP1/IM Server または Agent がインストールされていません。
14040	Error	JP1/IM イベントサーバへのイベント通知に失敗しました。

7. メッセージ

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
14042	Warning	稼働監視結果の JP 1 イベント通知に失敗しました。 JP1/Base の設定を確認してください。 -- 稼働監視結果 JP1 イベント通知情報 -- ZZ
14051	Error	JP1/Base からユーザ権限が取得できませんでした。
14052	Error	環境変数 NETM_USERID に指定されたユーザには、当該コマンドを実行する権限がありません。
14053	Error	環境変数 NETM_USERID に指定されたユーザは、JP1/Base に登録されていません。
14081	Error	監査ログの出力でエラーが発生しました
14082	Information	新しい監査ログファイルが生成されました。
16001	Warning	指定した条件に該当するインベントリ情報は存在しません。
16002	Error	インベントリ情報検索中にエラーが発生しました。
16003	Error	xx のインベントリ情報が不正です。
16004	Information	xx のインベントリ情報更新を中断します。
16005	Error	インベントリ情報処理中にシステムエラーが発生しました。
16006	Error	システムエラーが発生しました。
16007	Warning	インベントリ情報のデータ移行が完了していないので、新しいインベントリ情報は記録されません。
16008	Warning	セットアップでインベントリ情報のデータ移行を行ってください。
16009	Warning	ユーザインベントリ情報を記録するデータベースの指定がありません。
16010	Warning	ユーザインベントリ情報を記録するテーブルの指定がありません。
16012	Warning	ユーザインベントリ情報を記録するテーブル (xx) が存在しません。
16013	Warning	クライアント (xx) からのユーザインベントリ情報に不正があります。
16014	Warning	クライアント (xx) からのユーザインベントリ情報の処理中に DB アクセスエラーが発生しました。
16015	Warning	クライアント (xx) からのアラート情報の CSV ファイルへの出力に失敗しました。
16016	Error	操作履歴格納ディレクトリにアクセスできません。
16017	Error	操作履歴退避ディレクトリにアクセスできません。
16018	Error	操作履歴格納ディレクトリの容量が不足しているため、操作履歴を保存できません。
16019	Error	操作履歴退避ディレクトリの容量が不足しているため、操作履歴を退避できません。
16020	Error	操作履歴退避ディレクトリの容量がしきい値に達しました。
16021	Information	稼働監視履歴のデータベースへの格納を開始します。
16022	Information	稼働監視履歴のデータベースへの格納が完了しました。
16023	Error	稼働監視履歴のデータベースへの格納処理でシステムエラーが発生しました。
16024	Error	稼働監視履歴のデータベースへの格納処理で RDB アクセスエラーが発生しました。
16025	Warning	サーバの停止要求を受信した為、稼働監視履歴のデータベースへの格納処理を中断しました。
16026	Warning	コマンドからの解除要求を受信した為、稼働監視履歴のデータベースへの格納処理を中断しました。

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
16027	Warning	コマンドが稼働監視履歴をデータベースへ格納処理中の為、格納処理を行いませんでした。
16028	Warning	コマンドから格納した稼働監視履歴をデータベースに保持中の為、格納処理を行いませんでした。
16029	Warning	クライアント (<i>xx</i>) の稼働監視履歴は日時 (<i>YYYYMMDDhhmmss</i>) が格納範囲外です。
16030	Error	操作ログのアクセスでネットワークドライブ接続に失敗しました： <i>xx</i>
16031	Warning	dcommonrst コマンドを /x を指定して実行し、データベースへ未格納の操作履歴を格納してください。
18000	Error	サービス :netmdmelt/udp が定義されていません。
18001	Error	自ホスト名の取得に失敗しました。自ホストの定義が行われていない可能性があります。
18002	Error	ソケットの取得に失敗しました。
18003	Error	配布先 <i>xx</i> を認識できません。
18004	Error	<i>xx</i> への配布起動要求に失敗しました。
18005	Error	配布起動サーバの起動に失敗しました。
18006	Error	<i>xx</i> の配布起動処理でエラーが発生しました。
18008	Information	配布起動サーバを開始しました。
18010	Error	電文サイズが不正です。
18011	Error	サービス :netmdmelt/tcp が定義されていません。
19001	Information	ジョブスケジュールサーバが起動しました。
19002	Information	ジョブスケジュールサーバが終了しました。
19003	Warning	<i>xx</i> が存在しないためにスケジュール実行できないため、スケジュール情報を削除しました。ジョブ定義名： <i>yy</i> 、ジョブ番号： <i>nn</i> 、スケジュール実行日時： <i>mm</i>

(凡例)

xx, *yy*, *nn*, *mm* : 任意の文字列*zz* : 通知しようとした JP1 イベントの属性*YYYYMMDDhhmmss* : 日時

注 監視をお勧めするメッセージです。メッセージの要因と対処方法については、「7.1.4 監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処」を参照してください。

(3) クライアントアラート関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
30000	Warning	クライアント (<i>xx</i>) は、危険な状態 (<i>yyyyyy</i>) です。
30001	Warning	クライアント (<i>xx</i>) は、警告 (<i>yyyyyy</i>) を通知しました。
30002	Information	クライアント (<i>xx</i>) は、正常 (<i>yyyyyy</i>) になりました。

(凡例)

xx : 任意の文字列*yyyyyy* : アラートメッセージ

(4) ユーザインベントリ項目のインポートとエクスポート関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
7	Error	ファイル書き込みに失敗しました
99	Error	例外事象が発生しました: <i>xx</i> コマンド処理は失敗しました
132	Error	インポートに失敗しました: <i>xx</i>
139	Error	パラメタファイルで指定した項目名称 (<i>xx</i>) で指定したラベルは既に入力済みの他の項目で使われています
140	Error	パラメタファイルで指定した項目名称 (<i>xx</i>) で既に存在する上位管理項目または共通管理項目を更新しようとしています. 上位管理項目または共通管理項目は更新できません
141	Error	パラメタファイルで指定した項目名称 (<i>xx</i>) で insert パラメタの指定がありますが, select パラメタの指定がありません. insert パラメタの指定は select パラメタの指定も必要です
142	Error	パラメタの指定が重複しています. もしくは括弧の外にパラメタが指定されています. : <i>xx</i>
143	Error	項目名称のパラメタ (item) の指定で使用できない文字 (半角の ¥/*" ; ; , & タブ文字) が使われているか, 指定可能な文字数 64 文字をオーバーしています. 指定した値: <i>xx</i>
144	Error	ラベルのパラメタ (label) の指定で使用できない文字 (半角の ¥/*" ; ; , & タブ文字) が使われているか, 指定可能な文字数 64 文字をオーバーしています. 指定した値: <i>xx</i>
145	Error	コメントのパラメタ (comment) の指定で使用できない文字 (半角の ¥/*" ; ; , & タブ文字) が使われているか, 指定可能な文字数 255 文字をオーバーしています. 指定した値: <i>xx</i>
146	Error	必須入力を指定するパラメタ (require) の指定で使用できない文字 (Y (y) または N (n) 以外) が使われているか, または指定方法に誤りがあります. 指定した値: <i>xx</i>
147	Error	選択入力を指定するパラメタ (insert) の指定で使用できない文字 (Y (y) または N (n) 以外) が使われているか, または指定方法に誤りがあります. 指定した値: <i>xx</i>
148	Error	パラメタファイルに不正なパラメタが指定されています. : <i>xx</i>
149	Error	選択項目の指定のパラメタ (select) が括弧の外に指定されています. : <i>xx</i>
150	Error	パラメタファイルで指定した項目名称 (<i>xx</i>) の選択項目の指定のパラメタ (select) で使用できない文字 (半角の ¥/*" ; ; , & タブ文字) が使われているか, または指定方法に誤りがあります.
151	Error	パラメタファイルで指定した項目名称 (<i>xx</i>) の選択項目の指定のパラメタ (select) で 201 文字以上の選択項目が指定されています.
152	Error	パラメタファイルで指定した項目名称 (<i>xx</i>) の選択項目の指定のパラメタについて, 上限サイズ (select の場合は 51254 バイト, selectable の場合は, upper_select との合計値で 102509 バイト) を超える選択項目が指定されています.
153	Error	パラメタファイルで指定した項目名称 (<i>xx</i>) の選択項目の指定のパラメタ (select) で重複する選択項目が指定されています.
154	Error	パラメタファイルのフォーマットに誤りがあります. 「L. 行番号」の指す当該行もしくは当該行以前の行にフォーマット不正が無いかを確認してください. : <i>xx</i>
155	Error	パラメタファイルで項目名称 (item) の指定がされていません. 項目名称の指定は必須です. : <i>xx</i>
156	Error	パラメタファイルで項目名称 (item) の指定がされていない箇所があります. 「L. 行番号」の指す当該行もしくは当該行以前の行の指定内容を確認してください. 項目名称の指定は必須です. : <i>xx</i>
157	Error	項目数が上限の 255 に達しています. 既存の項目数を確認してください. 項目数が上限に達していない場合は当該項目のパラメタの内容に誤りがあるので内容を確認してください. 追加に失敗した項目名称: <i>xx</i>
158	Error	USER_INVENTORY タグが 2 重に指定されています. パラメタファイルで USER_INVENTORY タグは 1 回しか指定できません. : <i>xx</i>

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
159	Error	ファイルのオープンに失敗しました。ファイルの状態を確認してください。: xx
160	Error	ファイルの読み込みに失敗しました。ファイルの状態を確認してください。: xx
161	Error	ファイルの書き込みに失敗しました。ファイルの状態を確認してください。: xx
166	Error	上位項目パラメタ (upper_item) に指定された項目がありません。項目名称: xx
168	Error	階層化項目として選択入力以外の項目が指定されました。階層化項目の項目設定は選択入力で行わなければならない。項目名称: xx
169	Error	関連づけのパラメタ (upper_select または selectable) の設定に誤りがあります。「L. 行番号」の指す当該行の指定内容を確認してください。: xx
170	Error	関連づけのパラメタ (upper_select または selectable) の指定で使えない文字 (半角の ¥/ *'' ; , & タブ文字) が使われています。指定した値: xx
171	Error	関連づけのパラメタ (upper_select または selectable) に、文字数の上限 200 を超えた選択項目があります。項目名称: xx
172	Error	項目数が上限の 255 を超えました。項目名称: xx
173	Error	関連づけのパラメタ (upper_select または selectable) の設定で重複値が指定されました。項目名称: xx
176	Error	選択可能項目のパラメタ (selectable) が不正な位置で設定されています。「L. 行番号」の指す当該行の設定内容を確認してください。: xx
177	Error	上位項目のパラメタ (upper_item) の指定で使えない文字 (半角の ¥/ *'' ; , & タブ文字) が使われているか、設定文字数が上限の 64 を超えています。パラメタ内容を確認してください。指定した値: xx
178	Error	select パラメタ, upper_select, または selectable パラメタが指定されていません。パラメタ内容を確認してください。項目名称: xx
179	Error	選択項目パラメタ (select) に指定されていない値が選択可能項目パラメタ (selectable) に指定されています。パラメタ内容を確認してください。項目名称: xx
180	Error	すでに下位項目が存在する上位項目 (%2) に対して新たに下位項目を関連づけようとした。
181	Error	項目数が上限の 255 を超えたか、階層化項目の階層数が上限の 10 を超えました。既存の項目数、階層数、およびパラメタの内容を確認してください。項目名称: xx
183	Error	必須パラメタ (require) に指定した値が上位項目の設定値と異なります。項目名称: xx
184	Error	最上位項目、または中間位項目の選択項目を追加または削除しようとした。インポートによる最上位項目および中間位項目の選択項目の追加および削除はできません。select パラメタの内容を確認してください。項目名称: xx
185	Error	上位項目の関連づけられていない選択項目、または存在しない選択項目に対して下位項目の選択項目を関連づけようとした。上位選択項目パラメタ (upper_select) の内容を確認してください。項目名称: xx
186	Error	最上位項目、または中間位項目の項目の関連づけを変更しようとした。最上位項目、および中間位項目の項目の関連づけは変更できません。項目名称: xx
187	Error	最上位項目、または中間位項目の選択項目の関連づけ内容を変更しようとした。インポートによる最上位項目および中間位項目の選択項目の関連づけ内容の変更はできません。upper_select パラメタ、および selectable パラメタの内容を確認してください。項目名称: xx
1003	Error	サーバで内部矛盾が発生しました
1006	Error	サーバで未定義の値が指定されました
1008	Error	ジョブ定義名称、ジョブの宛先またはパッケージが重複指定されました
1010	Error	指定された値がサーバに見つかりませんでした

7. メッセージ

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
1014	Error	サーバに定義されていない値が指定されました
1016	Error	システムコールエラー
1017	Error	コマンド内部矛盾 (サーバアクセスシーケンス不正)
1051	Error	変更 / 削除対象が存在しません
1053	Error	他のプロセスがデータベースを更新中です
1054	Error	RDB サーバへの接続数が最大同時接続数を超過しました
1055	Error	RDB サーバへのアクセスでエラーが発生しました
1066	Error	サーバでマージ処理を実行中です.
2001	Error	メモリ確保失敗
2003	Error	コマンド入力値が見つからないあるいは値が不正です
2004	Error	サーバへの接続に失敗しました. 稼動状態と設定を確認してください
2006	Error	コマンドライン文法不正

(凡例) *xx* : 任意の文字列

(5) コマンド関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
1	Error	path op 指定された入力ファイルが存在しません
2	Error	path op パッケージの作成, または内部ファイルの作成に失敗しました. JP1/NETM/DM のログファイルを確認してください. パッケージングするファイル / ディレクトリを指定したパスを確認してください, またはパッケージング対象のファイル / ディレクトリ数を減らしてください. 詳細情報: <i>xx</i>
4	Error	path op ファイルの読み込みに失敗しました
5	Error	path op サーバ接続エラー
7	Error	path op ファイル書き込みに失敗しました
12	Error	path op 環境不正
13	Error	path op システムエラー
98	Error	path op 登録数オーバー又は DM 内部処理不整合
99	Error	path op 例外事象が発生しました: <i>xx</i> コマンド処理は失敗しました
100	Error	path op パッケージを登録しましたがパラメタファイルの更新に失敗しました
101	Error	path op <i>xx</i> を解凍できませんでした. 終了します
102	Error	path op 収集するファイルの有効な定義がありません
103	Error	path op 動作環境が不正です
104	Error	path op 該当するデータはありません
105	Error	path op DLL のロード失敗のためパッケージ内容を出力できません
106	Error	path op パッケージ内容の出力に失敗しました. パッケージの管理ファイルに異常が無いかが又はメモリや HD の空き容量などに問題が無いかが確認してください.
107	Error	path op ODBC 環境設定が不正です
108	Error	path op マネージャのバージョンが不正です

イベントID	メッセージ種別	メッセージテキスト
109	Error	path op クエリー生成失敗
112	Error	path op 該当するデータが多すぎるため出力できません
113	Error	path op レジストリ情報の取得に失敗しました
114	Error	path op 一時ファイルのオープンに失敗しました
115	Error	path op 引数の数が足りません . コマンドフォーマットを確認してください
116	Error	path op /par 引数が 2 重に指定されています . コマンドフォーマットを確認してください
117	Error	path op /csv 引数が 2 重に指定されています . コマンドフォーマットを確認してください
118	Error	path op /o 引数が 2 重に指定されています . コマンドフォーマットを確認してください
119	Error	path op 結果出力ファイル名の指定が不正です . コマンドフォーマットを確認してください
120	Error	path op /i 引数が 2 重に指定されています . コマンドフォーマットを確認してください
121	Error	path op パラメタファイル名の指定が不正です . コマンドフォーマットを確認してください
122	Error	path op テンプレートキーが 2 重に指定されています . または , 不正な引数が指定されています . コマンドフォーマットを確認してください
123	Error	path op テンプレートキーが不正です . または , 不正な引数が指定されています . コマンドフォーマットを確認してください
124	Error	path op 結果出力ファイル名の長さが長すぎます . コマンドフォーマットを確認してください
125	Error	path op パラメタファイル名の長さが長すぎます . コマンドフォーマットを確認してください
126	Error	path op /par 引数で指定できないテンプレートキーを設定しています . コマンドフォーマットを確認してください
127	Error	path op 結果出力ファイル名の指定がありません . コマンドフォーマットを確認してください
128	Error	path op 結果出力ファイル名の指定がありません . コマンドフォーマットを確認してください
129	Error	path op パラメタファイル名の指定がありません . コマンドフォーマットを確認してください
130	Error	path op パラメタファイル名の指定がありません . コマンドフォーマットを確認してください
131	Error	path op パッケージの復元に失敗しました : xx
133	Error	path op パッケージ又はキャビネットのバックアップに失敗しました : xx
134	Error	path op xx.pkg , xx.sci , xx.dpf の中に不正なファイルがありパッケージの復元ができませんでした
135	Error	path op 外部プログラムの起動に失敗しました : xx
136	Error	path op 最大実行期間として指定した時間が経過しました . 監視していたジョブは終了しませんでした . : xx
137	Error	path op 入力データが不正です : xx
138	Error	path op パッケージのバックアップ中にエラーが発生しました : xx
162	Error	path op CSV ファイルデータに誤りがあります . 「L. 行番号」の指す当該行のデータ内容を確認してください . : xx
163	Error	path op CSV ファイル形式不正 : xx
167	Error	path op 指定したポリシーがありません : xx
188	Error	path op ID ジョブおよび全あて先ジョブのすべてのあて先を監視することはできません .
189	Error	path op 他のプロセスがデータベースを更新中です . しばらく待って再実行してください .
190	Error	path op 指定されたジョブ [xx] が見つかりませんでした .

7. メッセージ

イベント ID	メッセージ 種別	メッセージテキスト
191	Error	path op 簡易データベース環境で、監視コードにジョブ実行状態が指定されました。
192	Error	path op 監視時間間隔に、最大実行期間より大きな値が指定されました。
1000	Error	path op サーバ上の管理ファイルが見つかりません
1003	Error	path op サーバで内部矛盾が発生しました
1004	Error	path op 他のプロセスが資源を使用しています
1006	Error	path op サーバで未定義の値が指定されました
1007	Error	path op サーバで定義可能な値域ではない値が指定されました
1008	Error	path op ジョブ定義名称、ジョブの宛先またはパッケージが重複指定されました
1009	Error	path op ジョブ作成が未完です
1010	Error	path op 指定された値がサーバに見つかりませんでした
1011	Error	path op ディスク容量不足
1014	Error	path op サーバに定義されていない値が指定されました
1016	Error	path op システムコールエラー
1017	Error	path op コマンド内部矛盾（サーバアクセスシーケンス不正）
1018	Error	path op サーバに接続できません。稼動状態と設定を確認してください。
1019	Error	path op サーバに接続できません。ホスト名が不正です。
1020	Error	path op ソケット（メモリ）が不足しています
1021	Error	path op サーバが稼動していません
1024	Error	path op サーバ接続が失敗しました。稼動状態と設定を確認してください。
1025	Error	path op インストールコンポーネントにバージョン不整合があります
1026	Error	path op サーバ環境不整合。稼動状態と設定を確認してください。
1032	Error	path op あて先指定がないためジョブ定義編集に失敗しました
1033	Error	path op 有効なパッケージ指定がないためジョブ定義編集に失敗しました
1035	Error	path op 使用できないあて先が指定されました
1036	Error	path op コマンドに有効なあて先が 1 つも入力されていません
1037	Error	path op コマンドに無効なパッケージが指定されています
1038	Error	path op コマンド入力に有効なパッケージ定義がありません
1040	Error	path op 指定されたジョブは、再実行条件を満たさないため再実行されませんでした
1045	Error	path op 使用できないあて先またはパッケージがあります
1048	Error	path op システム定義がありません。
1051	Error	path op 変更 / 削除対象が存在しません
1052	Error	path op キャビネットが一杯です
1054	Error	path op RDB サーバへの接続数が最大同時接続数を超えました
1055	Error	path op RDB サーバへのアクセスでエラーが発生しました。
1057	Error	path op RDB サーバ名称不正またはサーバ停止中です。
1058	Error	path op RDB が破壊されているか存在しません。
1060	Error	path op RDB との接続が解除されました。

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
1061	Error	path op データベースへのアクセス権がありません。
1063	Error	path op ログイン名またはパスワードが不正です。
1064	Error	path op ODBC ドライバのバージョンが不正です。
1067	Error	path op ソフトウェア稼働監視履歴をデータベースに格納する設定ではありません。
1068	Error	path op 指定された退避ディレクトリは存在しない、またはアクセスできません： <i>退避ディレクトリ名</i>
1069	Error	path op 指定されたディレクトリは退避ディレクトリではない、またはアクセスできません： <i>退避ディレクトリ名</i>
1070	Information	path op コマンド処理は正常終了しました。
1072	Warning	path op 解除要求を受信した為、コマンド処理を中断しました。
1073	Error	path op コンピュータグループが作成（継承）されていません。
1074	Error	path op 指定したグループが存在しない、または使用できない文字が含まれているか最大長を超えています。
1075	Error	path op 他のプロセスが WSUS サーバに対して処理中です。
1076	Error	path op WSUS サーバ（WSUS 連携機能）に接続できませんでした。
1077	Error	path op WSUS サーバ（WSUS 連携機能）との通信中にエラーが発生しました。
1078	Error	path op WSUS サーバ（WSUS 連携機能）で処理中にエラーが発生しました。
1079	Error	path op ジョブ定義に指定された稼働監視ポリシーが存在しなかったためジョブの登録はできませんでした。ジョブ定義の稼働監視ポリシーの指定を訂正するか、指定した稼働監視ポリシーを作成してください。
1080	Warning	path op リモートインストールマネージャでソフトウェア稼働監視ポリシーの編集を行っているか、サーバがソフトウェア稼働監視の制御ジョブを行っているため、ソフトウェア稼働監視制御ジョブを登録できませんでした。しばらく待ってから実行してください。
1081	Error	path op ソフトウェア稼働監視履歴を自動で格納しない設定であるため、/s を指定した格納、もしくは /r を指定した保持状態の解除、または格納を中止することはできません。
1082	Error	path op ソフトウェア稼働監視履歴を自動で格納する設定であるため、/x を指定した格納、もしくは /z を指定して再格納できるようにすることはできません。
1083	Error	path op オフラインマシン情報ファイル格納ディレクトリのアクセスでエラーが発生しました。
1084	Error	path op オフラインマシン情報ファイル (<i>xx</i>) のアクセスでエラーが発生しました。
1085	Error	path op <i>xx</i> は不正なオフラインマシン情報ファイルです。
1086	Error	path op 他のプロセスが処理中のため、オフラインマシン情報ファイル (<i>xx</i>) の入力処理はスキップしました。
2001	Error	path op メモリ確保失敗
2002	Error	path op コマンド入力形式に不正があります
2003	Error	path op コマンド入力値が見つからないあるいは値が不正です
2004	Error	path op サーバへの接続に失敗しました。稼働状態と設定を確認してください
2005	Error	path op 出力ファイルをオープンできません
2006	Error	path op コマンドライン文法不正
2007	Error	path op コマンドライン文法不正： <i>xx</i>
2008	Error	path op パラメタファイル、またはマップファイルの解析でエラーが発生しました。： <i>xx</i>

7. メッセージ

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
2009	Error	path op コマンドが二重起動されたので処理を中断します。 : xx
2010	Error	path op Active Directory と連携しない設定となっているので、処理を中断しました。
2011	Error	path op Active Directory からの情報取得に失敗しました。 : xx
2012	Error	path op Active Directory から取得した情報の格納に失敗しました。 : xx
2013	Error	path op Active Directory との連携に失敗しました。
2014	Error	path op システムエラー : xx
2015	Error	path op Active Directory のリストアを検知したため、処理を中断しました。
2016	Error	path op 引き当てキーの変更を検知したため、処理を中断しました。
2017	Information	path op Active Directory から取り込んだデータが上限値を超えたため、切り捨てました。
2018	Information	path op Active Directory との連携が成功しました。
2021	Error	path op ユーザによるログオフを検知したため、処理を中断しました : xx

(凡例)

path : コマンド実行パス
 op : コマンド実行オプション
 xx : 任意の文字列

7.1.2 JP1/NETM/DM Client (中継システム) のイベントログメッセージ

JP1/NETM/DM Client (中継システム) が出力するイベントログメッセージを次に示します。

(1) Windows NT とのインターフェース関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
0	Error	Windows NT への要求処理でエラーが発生しました .Request: xx, Error: yy

(凡例) xx, yy : 任意の文字列

(2) TCP/IP 関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
1002	Error	TCP/IP(Windows Sockets Interface) のエラーが発生しました .xx/yy

(凡例) xx, yy : 任意の文字列

(3) 中継システムの処理関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
7008	Information	サーバからの処理要求を受信したので、リモートインストーラを起動しました。
7009	Error	サーバからの処理要求を受信しましたが、リモートインストーラの起動に失敗しました。
8001	Error	中継サーバでメモリ不足を検知しました。

イベントID	メッセージ種別	メッセージテキスト
8002	Error	中継サーバでシステムエラーが発生しました。
8003	Information	NETM/DM SubManager を起動しました。
8004	Information	NETM/DM SubManager が停止しました。
8005	Error	ジョブ情報の受信中にエラーが発生しました (ホスト名称 :xx)。
8006	Error	NETM/DM SubManager にシステムエラーが発生しました。
8007	Error	配布指示された資源ファイルがありません。
8008	Error	ジョブ実行指示されたスクリプトファイルがありません。
8009	Error	ジョブ情報の宛先に誤りがあります。
8010	Error	実行要求を受けたホストと接続エラーが発生しました。(xx/yy)
8012	Error	パイプの生成に失敗しました。
8013	Error	パイプの接続に失敗しました。
8014	Error	メッセージの読み込みに失敗しました。
8015	Error	メッセージの書き込みに失敗しました。
8016	Error	メッセージのオペランド内容に不正があります。
8017	Error	メッセージの順序に不正があります。
8018	Information	サーバからの処理要求はありません。
8019	Error	xx の削除に失敗しました。
8020	Success	xx の削除を行いました。
8021	Information	パッケージ [xx] を保管します。
8022	Information	パッケージ [xx] のスクリプトファイルを更新します。
8023	Error	上位の配布管理システムまたは中継システムはバージョンが古いいため接続できません。 (ホスト名 : xx)
8024	Error	ハードディスク容量不足のためパッケージをダウンロードすることができません。
8025	Error	ハードディスク容量不足のためスクリプトファイルをダウンロードすることができません。
8026	Error	パッケージ保管ディレクトリ容量不足のためパッケージを保管することができません。
8027	Error	ジョブ情報の送信先のホスト名の定義がありません (ホスト名 : xx)。
8028	Error	パッケージ保管ディレクトリの初期化に失敗しました。
8029	Information	パッケージ保管ディレクトリを初期化しました。
8030	Error	資源ファイルダウンロード中にエラーが発生しました。
8031	Error	スクリプトファイルダウンロード中にエラーが発生しました。
8032	Error	ジョブの中継処理中に通信エラーが発生しました (ホスト名称 :xx)。
8034	Information	中断要求を受けました。
8035	Information	再開要求を受けました。
8036	Information	コレクトファイル保管ディレクトリを初期化しました。
8037	Error	コレクトファイル保管ディレクトリの初期化に失敗しました。
8038	Information	コレクトファイル保管ディレクトリ上のコレクトファイルの送信を行いました。
8039	Error	コレクトファイル保管ディレクトリ上のコレクトファイルの送信に失敗しました。
8040	Error	ID 枠追加に失敗しました (ID 名称 : xx)。

7. メッセージ

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
8041	Information	ID 枠を追加しました (ID 名称: <i>xx</i>) .
8042	Error	ID 枠に所属するクライアントの削除に失敗しました (クライアント名称: <i>xx</i>) .
8043	Error	ID 枠削除に失敗しました (ID 名称: <i>xx</i>) .
8044	Information	ID 枠を削除しました (ID 名称: <i>xx</i>) .
8045	Error	ID 枠のパスワード変更に失敗しました (ID 名称: <i>xx</i>) .
8046	Information	ID 枠のパスワードを変更しました (ID 名称: <i>xx</i>) .
8047	Information	ID 枠に所属するクライアントを削除しました (クライアント名称: <i>xx</i>) .
8048	Error	ID 編集のリクエストが不正です (リクエスト: <i>xx</i>) .
8049	Error	ID ファイルの転送に失敗しました .
8050	Error	接続先システムで設定したホスト (<i>xx</i>) 以外のホスト (<i>yy</i>) から ID ジョブのリクエストを受けました .
8051	Information	システム管理情報ファイルの転送を行いました .
8052	Error	システム管理情報ファイルの転送に失敗しました .
8060	Information	中継サーバの初期化処理を開始しました .
8061	Information	中継サーバの初期化処理を完了しました .
8064	Information	ホスト (<i>xx</i>) との接続を確立しました .
8065	Information	ホスト (<i>xx</i>) からファイル (<i>yy</i>) を受信しました . (<i>bb</i>)
8066	Information	ホスト (<i>xx</i>) から受信したジョブ (<i>n1</i>) を中継しました . (<i>n2</i>)
8067	Information	ホスト (<i>xx</i>) から受信したジョブ (<i>n1</i>) を再実行しました . (<i>n2</i>)
8068	Information	ホスト (<i>xx</i>) へファイル (<i>yy</i>) を送信しました . (<i>bb</i>)
8069	Information	ホスト (<i>xx</i>) との接続を解除しました .

(凡例) *xx*, *yy*, *bb*, *n1*, *n2*: 任意の文字列

注 監視をお勧めするメッセージです。メッセージの要因と対処方法については、「7.1.4 監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処」を参照してください。

(4) 配布管理システム関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
10101	Error	システムエラーが発生しました .
10106	Error	ファイルのクローズに失敗しました .
11002	Error	ファイル転送サーバでシステムエラーが発生しました .
11003	Error	ファイル転送サーバで処理矛盾が発生しました .
11004	Error	ファイル転送サーバへの処理要求シーケンスが不正です .
11005	Error	ファイル転送サーバへの処理要求が不正です .
11006	Error	配布管理サーバ起動中にメモリ不足が発生しました .
11010	Error	例外が発生しました .
11011	Error	指定したファイルはありません .
11017	Error	管理ファイルにファイル障害が発生しました .
11020	Error	動作環境の設定が不正です .

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
11022	Error	資源格納庫が破壊されています。
11023	Error	xx から不正な差分指令ファイルを受信しました。
11024	Error	xx から不正な状態通知ファイルを受信しました。
11025	Error	xx から不正なインベントリ情報ファイルを受信しました。
12013	Error	資源管理ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。
12014	Error	資源属性ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。
12015	Error	実行管理ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。
12016	Error	資源状態ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。
12017	Error	資源管理ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。
12018	Error	資源属性ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。
12019	Error	実行管理ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。
12020	Error	資源状態ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。
12032	Error	管理ファイルが満杯でこれ以上書き込みができません。
12033	Error	管理ファイル索引の生成に失敗しました。
12034	Error	管理ファイルの交代キー索引の生成に失敗しました。
12035	Error	索引へのキー登録に失敗しました。
12036	Error	索引への文字登録に失敗しました。
12037	Error	索引の分割に失敗しました。
12038	Information	システム中断中の為、ダウンロード要求を拒否しました。
13003	Information	配布管理サーバが起動しました。
13004	Information	配布管理サーバが終了しました。
14004	Error	起動処理中にシステムエラーが発生しました。
14010	Error	NETM/DM Manager への接続要求が不正です。
14018	Error	接続先ホスト名が設定されていません。
14033	Information	サーバは接続拒否状態のため、接続を拒否しました。
14035	Information	サーバは接続可能状態にします。
14036	Information	NETM* Cm2/NNM のシンボル追加に失敗しました。Node=xx, Label=yy.
14038	Error	JP1/NETM/DM SubManager のプロセスがダウンしました。
14039	Error	JP1/IM Server または Agent がインストールされていません。
14040	Error	JP1/IM イベントサーバへのイベント通知に失敗しました。
16003	Error	xx のインベントリ情報が不正です。
16004	Information	xx のインベントリ情報更新を中断します。
16005	Error	インベントリ情報処理中にシステムエラーが発生しました。
16006	Error	システムエラーが発生しました。
16007	Warning	インベントリ情報のデータ移行が完了していないので、新しいインベントリ情報は記録されません。
16008	Warning	セットアップでインベントリ情報のデータ移行を行ってください。

7. メッセージ

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
16015	Warning	クライアント (<i>xx</i>) からのアラート情報の CSV ファイルへの出力に失敗しました .
18000	Error	サービス :netmdmclt/udp が定義されていません .
18001	Error	自ホスト名の取得に失敗しました . 自ホストの定義が行われていない可能性があります .
18002	Error	ソケットの取得に失敗しました .
18003	Error	配布先 <i>xx</i> を認識できません .
18004	Error	<i>xx</i> への配布起動要求に失敗しました .
18005	Error	配布起動サーバの起動に失敗しました .
18006	Error	<i>xx</i> の配布起動処理でエラーが発生しました .
18008	Information	配布起動サーバを開始しました .
18010	Error	電文サイズが不正です .
18011	Error	サービス :netmdmclt/tcp が定義されていません .
19001	Information	ジョブスケジュールサーバが起動しました .
19002	Information	ジョブスケジュールサーバが終了しました .
19003	Warning	<i>xx</i> が存在しないためにスケジュール実行できないため、スケジュール情報を削除しました . ジョブ定義名 : <i>yy</i> , ジョブ番号 : <i>nn</i> , スケジュール実行日時 : <i>mm</i>

(凡例) *xx* , *yy* , *nn* , *mm* : 任意の文字列

注 監視をお勧めするメッセージです。メッセージの要因と対処方法については、「7.1.4 監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処」を参照してください。

(5) クライアントアラート関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
30000	Warning	クライアント (<i>xx</i>) は、危険な状態 (<i>yyyyyy</i>) です .
30001	Warning	クライアント (<i>xx</i>) は、警告 (<i>yyyyyy</i>) を通知しました .
30002	Information	クライアント (<i>xx</i>) は、正常 (<i>yyyyyy</i>) になりました .

(凡例)

xx : 任意の文字列

yyyyyy : アラートメッセージ

(6) コマンド関連

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
1	Error	path op 指定された入力ファイルが存在しません
2	Error	path op パッケージの作成、または内部ファイルの作成に失敗しました . JPI/NETM/DM のログファイルを確認してください . パッケージングするファイル / ディレクトリを指定したパスを確認してください、 またはパッケージング対象のファイル / ディレクトリ数を減らしてください . 詳細情報 : <i>xx</i>
4	Error	path op ファイルの読み込みに失敗しました
5	Error	path op サーバ接続エラー
7	Error	path op ファイル書き込みに失敗しました

イベントID	メッセージ種別	メッセージテキスト
12	Error	path op 環境不正
13	Error	path op システムエラー
99	Error	path op 例外事象が発生しました : xx コマンド処理は失敗しました
100	Error	path op パッケージを登録しましたがパラメタファイルの更新に失敗しました
101	Error	path op xx を解凍できませんでした . 終了します
102	Error	path op 収集するファイルの有効な定義がありません
131	Error	path op パッケージの復元に失敗しました : xx
133	Error	path op パッケージ又はキャビネットのバックアップに失敗しました : xx
134	Error	path op xx.pkg , xx.sci , xx.dpf の中に不正なファイルがありパッケージの復元ができませんでした
135	Error	path op 外部プログラムの起動に失敗しました : xx
136	Error	path op 最大実行期間として指定した時間が経過しました . 監視していたジョブは終了しませんでした . : xx
137	Error	path op 入力データが不正です : xx
138	Error	path op パッケージのバックアップ中にエラーが発生しました : xx
188	Error	path op ID ジョブおよび全て先ジョブのすべてのあて先を監視することはできません .
190	Error	path op 指定されたジョブ [xx] が見つかりませんでした .
192	Error	path op 監視時間間隔に , 最大実行期間より大きな値が指定されました .
193	Error	path op JP1/NETM/DM SubManager で , 監視コードにジョブ実行状態が指定されました .
1003	Error	path op サーバで内部矛盾が発生しました
1004	Error	path op 他のプロセスが資源を使用しています
1006	Error	path op サーバで未定義の値が指定されました
1007	Error	path op サーバで定義可能な値域ではない値が指定されました
1008	Error	path op ジョブ定義名称 , ジョブの宛先またはパッケージが重複指定されました
1009	Error	path op ジョブ作成が未完です
1010	Error	path op 指定された値がサーバに見つかりませんでした
1011	Error	path op ディスク容量不足
1014	Error	path op サーバに定義されていない値が指定されました
1016	Error	path op システムコールエラー
1017	Error	path op コマンド内部矛盾 (サーバアクセスシーケンス不正)
1032	Error	path op あて先指定がないためジョブ定義編集に失敗しました
1033	Error	path op 有効なパッケージ指定がないためジョブ定義編集に失敗しました
1035	Error	path op 使用できないあて先が指定されました
1036	Error	path op コマンドに有効なあて先が1つも入力されていません
1037	Error	path op コマンドに無効なパッケージが指定されています
1038	Error	path op コマンド入力に有効なパッケージ定義がありません
1040	Error	path op 指定されたジョブは , 再実行条件を満たさないため再実行されませんでした
1045	Error	path op 使用できないあて先またはパッケージがあります

7. メッセージ

イベント ID	メッセージ種別	メッセージテキスト
1051	Error	path op 変更 / 削除対象が存在しません
1052	Error	path op キャビネットが一杯です
2001	Error	path op メモリ確保失敗
2002	Error	path op コマンド入力形式に不正があります : xx
2003	Error	path op コマンド入力値が見つからないあるいは値が不正です
2004	Error	path op サーバへの接続に失敗しました . 稼動状態と設定を確認してください
2005	Error	path op 出力ファイルをオープンできません
2006	Error	path op コマンドライン文法不正
2007	Error	path op コマンドライン文法不正 : xx
2021	Error	path op ユーザによるログオフを検知したため、処理を中断しました : xx

(凡例)

- path : コマンド実行パス
- op : コマンド実行オプション
- xx : 任意の文字列

7.1.3 JP1/NETM/DM Client (クライアント) のイベントログメッセージ

JP1/NETM/DM Client (クライアント) が出力するイベントログメッセージを次に示します。

イベント ID	メッセージ種別	対応する機能	メッセージテキスト
0	Error	共通処理	Windows NT への要求処理でエラーが発生しました .Request: xx, Error: yy
5	Error	コマンド関連	path op サーバ接続エラー
7	Error	コマンド関連	path op ファイル書き込みに失敗しました
99	Error	コマンド関連	path op 例外事象が発生しました : xx コマンド処理は失敗しました
100	Error	コマンド関連	path op パッケージを登録しましたがパラメタファイルの更新に失敗しました
1001 ¹	Error	TCP/IP 関連	サーバからの実行要求の受信でエラーが発生しました .
1002 ¹	Error	TCP/IP 関連	TCP/IP(Windows Sockets Interface) のエラーが発生しました . xx/yy
1003	Error	TCP/IP 関連	WinSockAPI でエラーが発生しました . エラー原因 : xx, 付加情報 : yy.
2001	Error	コマンド関連	path op メモリ確保失敗
2002	Error	コマンド関連	path op コマンド入力形式に不正があります : xx
2003	Error	コマンド関連	path op コマンド入力値が見つからないあるいは値が不正です
2005	Error	コマンド関連	path op 出力ファイルをオープンできません
2006	Error	コマンド関連	path op コマンドライン文法不正

イベント ID	メッセージ種別	対応する機能	メッセージテキスト
2021	Error	コマンド関連	path op ユーザによるログオフを検知したため、処理を中断しました : xx
5012 ¹	Error	インストール関連	次の処理でエラーが発生しました。エラー原因 : xx, 付加情報 : yy
6001 ¹	Error	パッケージ関連	次の処理でエラーが発生しました。エラー原因 : xx, 付加情報 : yy
7002	Information	サービス関連	NETM/DM クライアントサービスが停止しました。(xx/yy)
7003	Information	サービス関連	NETM/DM クライアントサービスを起動しました。Ver=xx
7004 ¹	Error	インストール関連	サーバからの指示情報の参照でエラーが発生しました。(Windows NT のファイルシステムが異常な可能性があります)
7008	Information	実行要求関連	サーバからの処理要求を受信したので、リモートインストーラを起動しました。
7009 ¹ 2	Error	実行要求関連	サーバからの処理要求を受信しましたが、リモートインストーラの起動に失敗しました。
7010	Information	実行要求関連	サーバからの処理要求を受信したので、xx を起動しました。
7011	Error	実行要求関連	サーバからの処理要求を受信しましたが、xx の起動に失敗しました。
7012	Information	実行要求関連	実行要求受信サービスを停止しました。停止中はサーバからの処理要求は受信できません。
7013	Error	クライアント全般	次の処理でエラーが発生しました。付加情報 : xx
7014 ¹	Error	その他	プログラムでエラーが発生しました。エラー原因 : xx, 付加情報 : yy
7015	Information	ジョブ情報関連	xx
7016	Information	ID 登録関連	xx
7017	Information	システム構成登録関連	xx
7018 ¹	Error	その他	自ホスト名の取得に失敗しました。自ホスト名の長さが制限を超えています。
20000 ¹	Error	共通処理	次の処理でエラーが発生しました。エラー原因 : xx, 付加情報 : yy

(凡例)

path : コマンド実行パス

op : コマンド実行オプション

xx, yy : 任意の文字列

注 1 監視をお勧めするメッセージです。メッセージの要因と対処方法については、「7.1.4 監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処」を参照してください。

注 2 JP1/NETM/DM Client (クライアント) のバージョンが 09-50 以降の場合は、出力されません。

7.1.4 監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処

JP1/NETM/DM が出力するイベントログメッセージのうち、監視をお勧めするメッセージの要因と対処方法について説明します。

(1) メッセージの説明形式

ここでは、次に示す形式でメッセージを説明します。

XXXXX(イベントID) <YYYYY(メッセージ種別)> <Z(システム種別)>

メッセージテキスト

要因

メッセージが出力された要因と、メッセージテキスト中の変数を説明します。

対処

対処方法を説明します。

<YYYYY>

メッセージの種別を示します。

<Z>

イベントログメッセージが出力されるシステム種別を表します。システム種別は、次の表に示す省略記号で記載しています。

プログラム	システム種別	省略記号
JP1/NETM/DM Manager	マネージャ	M
	中継マネージャ	R
JP1/NETM/DM Client	中継システム	S
	クライアント	C

(2) 監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処

監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処方法を次に示します。

1001 <Error> <R, S, C>

サーバからの実行要求の受信でエラーが発生しました。

要因

メモリ不足のため、システムが不安定な状態になっているおそれがあります。

対処

中継マネージャの場合

メモリ不足を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール]-[サービス]で、JP1/NETM/DM Managerのサービス(Remote Install Server)を再起動してください。

中継システムまたはクライアントの場合

メモリ不足を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

1002 <Error> <R, S, C>

TCP/IP(Windows Sockets Interface)のエラーが発生しました。xx/yy

要因

ネットワーク環境が不正であるか、通信障害が発生したおそれがあります。

xx：エラーが発生した関数名

yy：ソケットエラーのエラーコード

対処

中継マネージャの場合

ネットワーク環境または通信設定の問題を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール] - [サービス]で、JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) を再起動してください。

中継システムまたはクライアントの場合

ネットワーク環境または通信設定の問題を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

1003 <Error> <R, S, C>

WinSockAPI でエラーが発生しました。エラー原因: xx, 付加情報: yy

要因

ネットワーク環境が不正であるか、通信障害が発生したおそれがあります。

xx: ソケットエラーのエラーコード

yy: エラーが発生した関数名

対処

中継マネージャの場合

ネットワーク環境または通信設定の問題を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール] - [サービス]で、JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) を再起動してください。

中継システムまたはクライアントの場合

ネットワーク環境または通信設定の問題を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

5012 <Error> <R, S, C>

次の処理でエラーが発生しました。エラー原因: xx, 付加情報: yy

要因

パッケージのインストール中にエラーが発生しました。

xx: C 言語のランタイムエラーまたは Win32 API エラーのエラーコード

yy: エラーが発生した関数名

対処

エラーコードおよびエラーが発生した関数名を基に、エラーの原因を取り除いてから、ジョブを再実行してください。

6001 <Error> <R, S, C>

次の処理でエラーが発生しました。エラー原因: xx, 付加情報: yy

要因

パッケージング中にエラーが発生しました。

xx: C 言語のランタイムエラーまたは Win32 API エラーのエラーコード

yy: エラーが発生した関数名

対処

エラーコードおよびエラーが発生した関数名を基に、エラーの原因を取り除いてから、パッケージングを再実行してください。

7004 <Error> <R, S, C>

サーバからの指示情報の参照でエラーが発生しました。(Windows NT のファイルシステムが異常な可能性があります)

要因

ファイル破壊, またはディスク障害のおそれがあります。

対処

中継マネージャの場合

スキャンディスクを実行し, ファイルまたはディスクの問題を解消してから, [コントロールパネル] の [管理ツール] - [サービス] で, JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) を再起動してください。

中継システムまたはクライアントの場合

スキャンディスクを実行し, ファイルまたはディスクの問題を解消してから, クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

7009 <Error> <R, S, C>

サーバからの処理要求を受信しましたが, リモートインストーラの起動に失敗しました。

要因

メモリ不足のため, システムが不安定な状態になっているおそれがあります。

対処

中継マネージャの場合

メモリ不足を解消してから, [コントロールパネル] の [管理ツール] - [サービス] で, JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) を再起動してください。

中継システムまたはクライアントの場合

メモリ不足を解消してから, クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

7014 <Error> <R, S, C>

プログラムでエラーが発生しました。エラー原因: xx, 付加情報: yy

要因

パッケージの登録処理でエラーが発生しました。

xx: C 言語のランタイムエラーまたは Win32 API エラーのエラーコード

yy: エラーが発生した関数名

対処

エラーコードおよびエラーが発生した関数名を基に, エラーの原因を取り除いてから, パッケージングを再実行してください。

7018 <Error> <R, S, C>

自ホスト名の取得に失敗しました。自ホスト名の長さが制限を超えています。

要因

自ホスト名が 65 文字以上で設定されています。

対処

自ホスト名を 64 文字以下で設定し直してください。

8001 <Error> <R, S>

中継サーバでメモリ不足を検知しました。

要因

メモリ不足のため、システムが不安定な状態になっているおそれがあります。

対処**中継マネージャの場合**

メモリ不足を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール]-[サービス]で、JP1/NETM/DM Managerのサービス(Remote Install Server)を再起動してください。

中継システムの場合

メモリ不足を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

8023 <Error> <R, S>

上位の配布管理システムまたは中継システムはバージョンが古いため接続できません。(ホスト名: xx)

要因

上位システムのバージョンが古いおそれがあります。

xx: セットアップで指定した接続先またはジョブ実行要求送信元の、ホスト名またはIPアドレス

対処

上位システムのバージョンを確認してください。バージョンが古い場合は、上位システムをバージョンアップしてください。

8024 <Error> <R, S>

ハードディスク容量不足のためパッケージをダウンロードすることができません。

要因

ハードディスクの空き容量が不足しています。

対処

ハードディスクの空き容量を確保してから、ジョブを再実行してください。必要なハードディスクの空き容量については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「5.3.3 ディスク占有量」を参照してください。

8025 <Error> <R, S>

ハードディスク容量不足のためスクリプトファイルをダウンロードすることができません。

要因

ハードディスクの空き容量が不足しています。

対処

ハードディスクの空き容量を確保してから、ジョブを再実行してください。必要なハードディスクの空き容量については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「5.3.3 ディスク占有量」を参照してください。

8026 <Error> <R, S>

パッケージ保管ディレクトリ容量不足のためパッケージを保管することができません。

要因

ハードディスクの空き容量が不足しています。

対処

ハードディスクの空き容量を確保してから、ジョブを再実行してください。必要なハードディスクの空き容量については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「5.3.3 ディスク占有量」を参照してください。

8050 <Error> <S>

接続先システムで設定したホスト (xx) 以外のホスト (yy) から ID ジョブのリクエストを受けました。

要因

接続先の設定が誤っているおそれがあります。

xx : セットアップで指定した接続先のホスト名または IP アドレス

yy : ID の編集を実行した上位システムのホスト名または IP アドレス

対処

[中継システムセットアップ] ダイアログボックスの [接続先] パネルで、上位システムの設定を確認してください。[接続先] パネルについては、マニュアル「構築ガイド」の「5.2.1 [接続先] パネル」を参照してください。

10000 <Error> <M, R>

RDBMS への最大接続数を越えました。

要因

リレーショナルデータベースに同時に接続できるユーザ接続数が不足しています。

対処

リレーショナルデータベースのサーバに Microsoft SQL Server を使用している場合は user connections の設定を、Oracle を使用している場合は processes の設定を確認し、リレーショナルデータベースに同時に接続できるユーザ接続数を増やしてください。

10008 <Error> <M, R>

データベースフォーマットが一致していません。

要因

リレーショナルデータベースと JP1/NETM/DM のバージョンが一致していません。

対処

データベースマネージャを使用して、リレーショナルデータベースをアップグレードしてください。

10009 <Error> <M, R>

RDBMS へのログインに失敗しました。データソース名称 : xx

要因

リレーショナルデータベースを使用するための設定が誤っています。

xx : 使用しているリレーショナルデータベースの種類

- NETM_MSSQL : Microsoft SQL Server
- NETM_ORACLE : Oracle

対処

[サーバセットアップ] ダイアログボックスの [データベース環境] パネルの設定を確認してください。[データベース環境] パネルについては、マニュアル「構築ガイド」の「4.2.1(2) [データベース環境] パネル (Microsoft SQL Server または Oracle の場合)」を参照してください。

10010 <Error> <M, R>

指定されたデータソース名称に誤りがあります。データソース名称：xx

要因

リレーショナルデータベースの名称の指定が誤っています。

xx：使用しているリレーショナルデータベースの種類

- NETM_MSSQL：Microsoft SQL Server
- NETM_ORACLE：Oracle

対処

[サーバセットアップ] ダイアログボックスの [データベース環境] パネルの設定を確認してください。[データベース環境] パネルについては、マニュアル「構築ガイド」の「4.2.1(2) [データベース環境] パネル (Microsoft SQL Server または Oracle の場合)」を参照してください。

10011 <Error> <M, R>

トランザクションログが一杯のため RDBMS へのアクセスに失敗しました。

要因

リレーショナルデータベースのトランザクションログの空き領域が不足しています。

対処

リレーショナルデータベースのトランザクションログの空き領域を確保してください。

10012 <Error> <M, R>

データベースの容量が不足しているため RDBMS へのアクセスに失敗しました。

要因

リレーショナルデータベースの空き領域が不足しています。

対処

リレーショナルデータベースの空き領域を確保してください。

11006 <Error> <M, R, S>

配布管理サーバ起動中にメモリ不足が発生しました。

要因

メモリ不足のため、システムが不安定な状態になっているおそれがあります。

対処

マネージャまたは中継マネージャの場合

メモリ不足を解消してから、[コントロールパネル] の [管理ツール] - [サービス] で、JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) を再起動してください。

中継システムの場合

メモリ不足を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

11020 <Error> <M, R, S>

動作環境の設定が不正です。

要因

JP1/NETM/DM の設定が誤っているおそれがあります。

対処

マネージャまたは中継マネージャの場合

[サーバセットアップ]ダイアログボックスの[サーバカスタマイズオプション]パネルの設定を確認してください。[サーバカスタマイズオプション]パネルについては、マニュアル「構築ガイド」の「4.2.4 [サーバカスタマイズオプション]パネル」を参照してください。

中継システムの場合

[中継システムセットアップ]ダイアログボックスの[中継システムカスタマイズオプション]パネルの設定を確認してください。[中継システムカスタマイズオプション]パネルについては、マニュアル「構築ガイド」の「5.2.4 [中継システムカスタマイズオプション]パネル」を参照してください。

11022 <Error> <M, R, S>

資源格納庫が破壊されています。

要因

JP1/NETM/DMのパッケージ格納ディレクトリが破壊されているおそれがあります。

対処

メンテナンスウィザードの「修正」を選択して、JP1/NETM/DMのサービスを再インストールしてください。パッケージ格納ディレクトリが、修復および初期化されます。メンテナンスウィザードについては、マニュアル「構築ガイド」の「1.3 インストール内容を変更する」を参照してください。

12013 <Error> <M, S>

資源管理ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。

要因

JP1/NETM/DMのキャビネット情報格納ディレクトリが破壊されているおそれがあります。

対処

メンテナンスウィザードの「修正」を選択して、JP1/NETM/DMのサービスを再インストールしてください。キャビネット情報格納ディレクトリが、修復および初期化されます。メンテナンスウィザードについては、マニュアル「構築ガイド」の「1.3 インストール内容を変更する」を参照してください。

12014 <Error> <M, S>

資源属性ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。

要因

JP1/NETM/DM Managerのパッケージ情報格納ディレクトリが破壊されているおそれがあります。

対処

メンテナンスウィザードの「修正」を選択して、JP1/NETM/DMのサービスを再インストールしてください。パッケージ情報格納ディレクトリが、修復および初期化されます。メンテナンスウィザードについては、マニュアル「構築ガイド」の「1.3 インストール内容を変更する」を参照してください。

12015 <Error> <M, S>

実行管理ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。

要因

JP1/NETM/DMのジョブ詳細情報格納ディレクトリが破壊されているおそれがあります。

対処

メンテナンスウィザードの「修正」を選択して、JP1/NETM/DM のサービスを再インストールしてください。ジョブ詳細情報格納ディレクトリが、修復および初期化されます。メンテナンスウィザードについては、マニュアル「構築ガイド」の「1.3 インストール内容を変更する」を参照してください。

12016 <Error> <M, S>

資源状態ファイルアクセスサーバの動作環境が破壊されています。

要因

JP1/NETM/DM のインストールパッケージ情報格納ディレクトリが破壊されているおそれがあります。

対処

メンテナンスウィザードの「修正」を選択して、JP1/NETM/DM のサービスを再インストールしてください。インストールパッケージ情報格納ディレクトリが、修復および初期化されます。メンテナンスウィザードについては、マニュアル「構築ガイド」の「1.3 インストール内容を変更する」を参照してください。

12017 <Error> <M, S>

資源管理ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。

要因

メモリ不足のため、システムが不安定な状態になっているおそれがあります。

対処

マネージャの場合

メモリ不足を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール] - [サービス]で、JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) を再起動してください。

中継システムの場合

メモリ不足を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

12018 <Error> <M, S>

資源属性ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。

要因

メモリ不足のため、システムが不安定な状態になっているおそれがあります。

対処

マネージャの場合

メモリ不足を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール] - [サービス]で、JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) を再起動してください。

中継システムの場合

メモリ不足を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

12019 <Error> <M, S>

実行管理ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。

要因

メモリ不足のため、システムが不安定な状態になっているおそれがあります。

対処

マネージャの場合

メモリ不足を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール]-[サービス]で、JP1/NETM/DM Managerのサービス(Remote Install Server)を再起動してください。

中継システムの場合

メモリ不足を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

12020 <Error> <M, S>

資源状態ファイルアクセスサーバの動作環境の生成に失敗しました。

要因

メモリ不足のため、システムが不安定な状態になっているおそれがあります。

対処

マネージャの場合

メモリ不足を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール]-[サービス]で、JP1/NETM/DM Managerのサービス(Remote Install Server)を再起動してください。

中継システムの場合

メモリ不足を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

14004 <Error> <M, R, S>

起動処理中にシステムエラーが発生しました。

要因

メモリ不足のため、システムが不安定な状態になっているおそれがあります。

対処

マネージャまたは中継マネージャの場合

メモリ不足を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール]-[サービス]で、JP1/NETM/DM Managerのサービス(Remote Install Server)を再起動してください。

中継システムの場合

メモリ不足を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

14037 <Error> <M, R>

JP1/NETM/DM Managerのプロセスがダウンしました。

要因

JP1/NETM/DMが異常を検知しました。JP1/NETM/DM Managerのサービス(Remote Install Server)が停止しているおそれがあります。

対処

[コントロールパネル]の[管理ツール]-[サービス]で、Remote Install Serverの状態を確認してください。「開始」または「一時停止」の場合は、Remote Install Serverを再起動してください。空欄(停止中)の場合は、Remote Install Serverを開始してください。

14038 <Error> <S>

JP1/NETM/DM SubManagerのプロセスがダウンしました。

要因

JP1/NETM/DM が異常を検知しました。JP1/NETM/DM Client (中継システム) のサービス (Client Install Service) が停止しているおそれがあります。

対処

クライアントマネージャでクライアントの状態を確認してください。「起動中」の場合は、クライアントを再起動してください。「停止中」、「起動又は停止処理中」、または「非常駐」の場合は、クライアントを起動してください。「非常駐」の場合の起動方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「11.1.2(2) クライアントの非常駐」を参照してください。

16016 <Error> <M, R>

操作履歴格納ディレクトリにアクセスできません。

要因

ファイル破壊、またはディスク障害のおそれがあります。

対処

スキャンディスクを実行し、ファイルまたはディスクの問題を解消してから、[コントロールパネル] の [管理ツール] - [サービス] で、JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) を再起動してください。

16017 <Error> <M, R>

操作履歴退避ディレクトリにアクセスできません。

要因

ファイル破壊、またはディスク障害のおそれがあります。

対処

スキャンディスクを実行し、ファイルまたはディスクの問題を解消してから、[コントロールパネル] の [管理ツール] - [サービス] で、JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) を再起動してください。

16018 <Error> <M, R>

操作履歴格納ディレクトリの容量が不足しているため、操作履歴を保存できません。

要因

ハードディスクの空き容量が不足しています。

対処

ハードディスクの空き容量を確保してください。必要なハードディスクの空き容量については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「5.3.3 ディスク占有量」を参照してください。

16019 <Error> <M, R>

操作履歴退避ディレクトリの容量が不足しているため、操作履歴を退避できません。

要因

ハードディスクの空き容量が不足しています。

対処

ハードディスクの空き容量を確保してください。必要なハードディスクの空き容量については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「5.3.3 ディスク占有量」を参照してください。

16020 <Error> <M, R>

操作履歴退避ディレクトリの容量がしきい値に達しました。

要因

操作履歴退避ディレクトリの容量がセットアップで指定したしきい値に達しています。

対処

[コントロールパネル]の[管理ツール]-[サービス]で、JP1/NETM/DM Managerのサービス(Remote Install Server)を停止して、セットアップで指定した操作履歴退避ディレクトリ以下のバックアップを取得してください。バックアップを取得したら、退避ディレクトリ以下を削除して容量を確保し、JP1/NETM/DM Managerのサービス(Remote Install Server)を起動してください。

16023 <Error> <M, R>

稼働監視履歴のデータベースへの格納処理でシステムエラーが発生しました。

要因

稼働監視履歴をデータベースに格納する際、JP1/NETM/DMが異常を検知しました。

対処

「6.8 保守資料の採取」を参照し、トラブルの要因を調査するための資料を採取し、サポートサービスまたは販売元にお問い合わせください。

16024 <Error> <M, R>

稼働監視履歴のデータベースへの格納処理でRDBアクセスエラーが発生しました。

要因

稼働監視履歴をデータベースに格納する際、JP1/NETM/DMが異常を検知しました。

対処

「6.8 保守資料の採取」を参照し、トラブルの要因を調査するための資料を採取し、サポートサービスまたは販売元にお問い合わせください。

16030 <Error> <M, R>

操作ログのアクセスでネットワークドライブ接続に失敗しました：ネットワークドライブへの接続パス

要因

認証情報の設定またはネットワークドライブへの接続パスが誤っているおそれがあります。

対処

マネージャのセットアップで、[ネットワーク接続]パネルに正しいログインID、パスワードおよびドメイン名を指定してください。

また、ネットワークドライブへの接続パスを確認してください。操作履歴格納ディレクトリへの接続パスが誤っている場合は、上書きインストールを実行して[ソフトウェア操作履歴格納ディレクトリの設定]ダイアログボックスで正しいパスを指定してください。操作履歴退避ディレクトリが誤っている場合はセットアップの[稼働監視]タブで正しいパスを指定してください。

16031 <Warning> <M, R>

dcmonrst コマンドを /x を指定して実行し、データベースへ未格納の操作履歴を格納してください。

要因

データベースに未格納で、ファイルサイズが20MB以上の操作履歴が、操作履歴格納ディレクトリにあります。

対処

引数に /x を指定した dcmmmonrst コマンドを実行して、データベースに未格納の操作履歴を格納してください。

20000 <Error> <R, S, C>

次の処理でエラーが発生しました。エラー原因：xx, 付加情報：yy

要因

ネットワーク環境が不正であるか、通信障害が発生したおそれがあります。

xx：ソケットエラーのエラーコード

yy：エラーが発生した関数名

対処

中継マネージャの場合

ネットワーク環境または通信設定の問題を解消してから、[コントロールパネル]の[管理ツール] - [サービス]でJP1/NETM/DM Managerのサービス(Remote Install Server)を再起動してください。

中継システムまたはクライアントの場合

ネットワーク環境または通信設定の問題を解消してから、クライアントマネージャでクライアントを再起動してください。

7.2 クライアントの基本ログメッセージ一覧

クライアントの基本ログメッセージは、USER_CLT.LOG ファイルで確認できます。USER_CLT.LOG ファイルの形式と、メッセージの内容を説明します。なお、メッセージは英語で出力されます。

7.2.1 USER_CLT.LOG ファイルの形式

USER_CLT.LOG ファイルは、次に示す形式で出力されます。

図 7-1 USER_CLT.LOG ファイルの形式

行番号	最新のメッセージ記録位置	日付	時刻	スレッドID	機能種別	処理	メッセージID	メッセージテキスト
DATA COUNT	0081							
0001		2002/07/17	11:15:48.891	[0000000596]	serv	START	KDSF0001-I	JP1/NETM/DM Client version=0671 started. OS=Microsoft Windows 2000.
0002		2002/07/17	11:15:55.090	[0000001436]	serv	SERV_REQUEST	KDSF0040-I	Ready to receive jobs. Protocol=TCP/UDP. Port number=30002
0003		2002/07/17	11:20:45.077	[0000000624]	cltm	LOGON	KDSF0010-I	k92f951 logged on. User permission=Administrator
0004		2002/07/17	11:40:13.804	[0000001844]	cltm	POLLING	KDSF0050-I	Polling to dmp109 (netmdm) started.
0005		2002/07/17	11:40:13.809	[0000001844]	cltm	POLLING	KDSF0051-I	Polling to dmp109 (netmdm) from dmp109 (172.16.94.110. #G1RB730VR10D4L
								⋮
								ID key for operations=0x01

USER_CLT.LOG ファイルの 1 行目には、最新のメッセージが記録された行の番号が出力され、各メッセージは 2 行目以降に出力されます。日付、時刻、メッセージ ID、およびメッセージテキストを参照し、クライアントの動作を確認してください。2 行目以降は、項目によって出力位置（カラム）が固定されています。各項目の出力位置は、次のとおりです。

- 行番号：0 ~ 3 カラム
- 日付：6 ~ 15 カラム
- 時刻（時：分：秒：ミリ秒）：17 ~ 28 カラム
- スレッド ID：30 ~ 41 カラム
- 機能種別：43 ~ 50 カラム
- 処理：52 ~ 67 カラム
- メッセージ ID：69 ~ 78 カラム
- メッセージテキスト：80 ~ 189 カラム

なお、クライアントの OS が Windows 8、Windows Server 2012、Windows 7、Windows Server 2008、または Windows Vista の場合、各項目の出力位置は、次のとおりです。

- 行番号：0 ~ 3 カラム
- 日付：5 ~ 14 カラム
- 時刻（時：分：秒：ミリ秒）：16 ~ 27 カラム
- スレッド ID：29 ~ 52 カラム
- 機能種別：54 ~ 61 カラム
- 処理：63 ~ 78 カラム
- メッセージ ID：80 ~ 89 カラム
- メッセージテキスト：91 ~ 189 カラム

7.2.2 メッセージの説明形式

ここでは、次に示す形式でメッセージを説明します。

KDSFXXXX·M(メッセージ ID)

メッセージテキストです。

波括弧({})で囲まれた箇所は、ストローク(|)で区切られた項目のうちのどれかが出力されます。また、角括弧([])で囲まれた箇所は、出力される場合とされない場合があります。

要因

メッセージが出力された要因と、メッセージテキスト中の変数の説明です。

なお、メッセージ中の「指令番号」は、ジョブの詳細な処理単位を表すユニークな番号です。「指令番号」が合致した複数メッセージは、同一の処理に関するログを示しています。例えば、一つのジョブで二つのパッケージを配布した場合、パッケージごとに、ジョブの受信や成功を示すメッセージが出力されます。このとき、メッセージ中のジョブ番号は同じですが、指令番号はパッケージごとにユニークとなっています。片方のパッケージに関する受信や成功を調べたい場合は、「指令番号」が合致した一連のメッセージを参照します。

また、メッセージ中の「保守情報」は、問い合わせ時に必要な情報です。ユーザが保守情報の内容を調査する必要はありません。

対処

対処方法の説明です。対処が不要なメッセージの場合は記載していません。

なお、メッセージ ID 末尾の *M* には、次に示すメッセージ種別の記号が表示されます。

- I : 情報メッセージ
- W : 警告メッセージ
- E : エラーメッセージ

7.2.3 メッセージ一覧

各メッセージの内容と対処方法を次に示します。

KDSF0001-I

```
xxxxxxx version=vvrss started. OS=oooooooo, Resident client={YES|NO}, Run without Administrator
permissions={YES|NO}
```

要因

次に示す状態で、製品 xxxxxxxx が起動しました。

xxxxxxx : JP1/NETM/DM の製品名

vvrss : JP1/NETM/DM のバージョン / リビジョン

oooooooo : OS の名称およびバージョン

Resident client={YES|NO} : クライアントの常駐の有無

YES : 常駐

NO : 非常駐

Run without Administrator permissions={YES|NO} : 「一般ユーザ権限でのインストール機能」使用の有無

YES : 「一般ユーザ権限でのインストール機能」を使用する

NO : 「一般ユーザ権限でのインストール機能」を使用しない

この設定は、Windows NT のクライアントが対象です。Windows Me および Windows 98 のクライアントの場合、常に NO が出力されます。

KDSF0002-W

xxxxxxx version=vvrrss cannot start because * is specified for the connection destination. OS=oooooooo

要因

接続先にアスタリスク (*) が指定されているため、製品 xxxxxxxx が起動できません。JP1/NETM/DM Client がプレインストールされたままで接続先が未設定のおそれがあります。

xxxxxxx : JP1/NETM/DM の製品名 (「JP1/NETM/DM Client」, 「JP1/NETM/DM Client - Base」, または「JP1/NETM/DM Client Light Edition」が表示されます)

vvrrss : JP1/NETM/DM のバージョン / リビジョン

oooooooo : OS の名称およびバージョン

対処

セットアップで接続先を設定し、JP1/NETM/DM を再起動してください。

KDSF0003-E

A process pppppppp failed to start in xxxxxxxx version=vvrrss. OS=oooooooo, {Win32|Socket|Runtime} error, Code=mm[: nnnnnn][, zzzzzzzz]

要因

プロセスの起動に失敗しました。

pppppppp : 起動に失敗したプロセスの名称

xxxxxxx : JP1/NETM/DM の製品名

vvrrss : JP1/NETM/DM のバージョン

oooooooo : OS の名称およびバージョン

{Win32|Socket|Runtime} : エラーの種別

Win32 : Win32 API エラー

Socket : ソケットエラー

Runtime : C 言語のランタイムエラー

mm : エラーコード

nnnnnn : エラーコード「mm」の説明 (日本語で出力されます)

zzzzzzzz : 保守情報

対処

サービスまたは OS を再起動してください。

KDSF0004-W

A question mark (?) is specified for the connection destination, so the product xxxxxxxx version=vvrrss will start but only Local System Viewer and the system monitoring facility will be available. OS=oooooooo

要因

接続先にクエスチョンマーク (?) が指定されているため、製品 xxxxxxxx は起動しますが、ローカルシステムビューアとシステム監視機能以外動作しません。

xxxxxxx : JP1/NETM/DM の製品名 (「JP1/NETM/DM Client」, 「JP1/NETM/DM Client - Base」, または「JP1/NETM/DM Client Light Edition」が表示されます)

vvrrss : JP1/NETM/DM のバージョン / リビジョン

oooooooo : OS の名称およびバージョン

対処

セットアップで接続先を設定し、JP1/NETM/DM を再起動してください。

KDSF0010-I

uuuuuuuu(SessionID=sss) logged on. User permission={Administrator|Ordinary user}

要因

ユーザがログオンしました。

uuuuuuuuu : ログオンユーザ名

sss : セッション ID (OS が Windows Vista 以降の場合に出力されます)

{Administrator|Ordinary user} : ログオンユーザの権限

Administrator : Administrator 権限

Ordinary user : 一般ユーザ権限

KDSF0020-I

A {logoff|shutdown} request was issued from OS[,SessionID=sss].

要因

OS から、ログオフまたはシャットダウン要求がありました (クライアントの常駐を設定した場合だけ表示されます)。

{logoff|shutdown} : OS からの要求内容

logoff : ログオフ

shutdown : シャットダウン

sss : セッション ID (OS が Windows Vista 以降の場合に出力されます)

KDSF0030-I

xxxxxxx terminated normally.

要因

製品 xxxxxxxx が正常終了しました。

xxxxxxx : JP1/NETM/DM の製品名

KDSF0031-W

A process down was detected in xxxxxxxx. Process name=pppppppp

要因

プロセスダウンを検知しました。

xxxxxxx : JP1/NETM/DM の製品名

pppppppp : 対象のプロセス名

対処

クライアントマネージャでクライアントが「起動中」になっているかを確認し、「起動中」でない場合は、クライアントを起動するか OS を再起動してください。「起動中」の場合は、対処の必要はありません。

なお、この現象が多発する場合は、システム管理者にお問い合わせください。

KDSF0032-W

The process pppppppp was forcibly terminated by a timeout.

要因

製品の終了処理中に、一定時間内に終了しないプロセスが存在したため、プロセスを強制終了しました。

pppppppp : 対象のプロセス名

KDSF0040-I

Ready to receive jobs. Protocol={TCP|UDP|TCP/UDP}, Port number=yyyyyyyyy

要因

ジョブの受信準備が完了しました。

{TCP|UDP|TCP/UDP} : 使用するプロトコル

TCP : TCP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

TCP/UDP : TCP プロトコルおよび UDP プロトコル

yyyyyyyyy : 使用するポート番号 (10 進数)

KDSF0041-E

Preparation for receiving jobs failed. {Win32|Socket|Runtime} error, Code=*mm*[: *nnnnnn*][, *zzzzzzzz*]

要因

ジョブの受信準備が失敗しました。

{Win32|Socket|Runtime} : エラーの種別

Win32 : Win32 API エラー

Socket : ソケットエラー

Runtime : C 言語のランタイムエラー

mm : エラーコード

nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明 (日本語で出力されます)

zzzzzzzz : 保守情報

対処

JP1/NETM/DM を再起動してください。再起動後も再現する場合は、エラーコードの説明を参考に環境を見直してください。

KDSF0042-I

A job execution request was received from xxxxxxxx (*yyy.yyy.yyy.yyy*, *zzzzzz*). Protocol={TCP|UDP}, ID key for operations=0x*nn*

要因

次に示す状態で、上位システムからジョブの実行要求を受信しました。

xxxxxxx : 上位システムのホスト名

yyy.yyy.yyy.yyy : 上位システムの IP アドレス

zzzzzz : 上位システムの製品種別

netmdm : JP1/NETM/DM Manager

netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)

{TCP|UDP} : 実行要求を受信したプロトコル

TCP : TCP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

0x*nn* : 上位システムの運用キー

0x01 : ホスト名
0x02 : IP アドレス

KDSF0050-I

Polling to xxxxxxxx (yyyyyyyy) started.

要因

ポーリングを開始しました。
 xxxxxxxx : ポーリング先のホスト名または IP アドレス
 yyyyyyyy : ポーリング先の製品種別
 netmdm : JP1/NETM/DM Manager
 netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)

KDSF0051-I

Polling to xxxxxxxx (yyyyyyyy) from hhhhhhhh (iii.iii.iii, dddddddd) is completed. ID key for operations=0xnn

要因

ポーリングが完了しました。
 xxxxxxxx : ポーリング先のホスト名または IP アドレス
 yyyyyyyy : ポーリング先の製品種別
 netmdm : JP1/NETM/DM Manager
 netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)
 hhhhhhhh : ローカルホスト名
 iii.iii.iii : ローカルホストの IP アドレス
 dddddddd : ローカルホストのホスト識別子
 0xnn : 上位システムの運用キー
 0x01 : ホスト名
 0x02 : IP アドレス
 0x03 : ホスト名 (ホスト識別子を使用)
 0x04 : IP アドレス (ホスト識別子を使用)
 0xff : 運用キーの情報が不正

KDSF0052-W

Polling to xxxxxxxx (yyyyyyyy) from hhhhhhhh (iii.iii.iii, dddddddd) failed. ID key for operations=0xnn, {Win32|Socket|Runtime|Protocol} error, Code=mm[: nnnnnn][, zzzzzzzz]

要因

エラーのため、ポーリングが失敗しました (一時的なエラーも含まます)。
 xxxxxxxx : ポーリング先のホスト名または IP アドレス
 yyyyyyyy : ポーリング先の製品種別
 netmdm : JP1/NETM/DM Manager
 netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)
 hhhhhhhh : ローカルホスト名
 iii.iii.iii : ローカルホストの IP アドレス
 dddddddd : ローカルホストのホスト識別子
 0xnn : 上位システムの運用キー

7. メッセージ

0x01 : ホスト名
0x02 : IP アドレス
0x03 : ホスト名 (ホスト識別子を使用)
0x04 : IP アドレス (ホスト識別子を使用)
0xff : 運用キーの情報が不正

{Win32|Socket|Runtime|Protocol} : エラーの種類

Win32 : Win32 API エラー
Socket : ソケットエラー
Runtime : C 言語のランタイムエラー
Protocol : JP1/NETM/DM プロトコルエラー

mm : エラーコード
nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明 (日本語で出力されます)
zzzzzzzz : 保守情報

対処

ポーリング先のホスト名または IP アドレスと製品種別の設定に間違いがないか確認してください。
設定に間違いがなければ、ポーリング先の上位システムが起動しているか確認してください。

KDSF0053-I

Searching the local host for a package to be installed started. Cause={BOOT|SCHEDULE}

要因

ローカルホスト内にダウンロードされた、インストール予定のパッケージの検索を開始しました。

Cause={BOOT|SCHEDULE} : 検索のタイミングと内容

BOOT : システム起動時に、システム起動時インストールの対象となるパッケージを検索する
SCHEDULE : インストール日時が指定されたパッケージを受信していた場合、指定されたインストール日時に対象パッケージを検索する

KDSF0054-I

Searching the local host for a package to be installed was completed.

要因

ローカルホスト内にダウンロードされた、インストール予定のパッケージの検索が完了しました。

KDSF0055-W

A fatal error occurred during job processing.

要因

ジョブの処理中に致命的なエラーが発生しました。

対処

OS を再起動してください。

KDSF0060-I

A job was received. Job type=yyyyyyyy, Job number=jjjjjjj, Instruction number=cccccccc, Installation timing=zzzzzzzz (0xaa+0xbb), Replace existing package={YES|NO}, Installation date/time=tttttttttt {, Installation mode={BG|GUI}, Package information=d.cc.pppppp.vvvv.ssss, Package name=nnnnnnnn, fffffff | Software to be Searched=sssssss[, Drive to be Searched=xxxxxxx [:vvvvvvv]]}

要因

ジョブを受信しました。ジョブ実行中に配布管理システム側でジョブを削除したことによって、クライアントがジョブの削除指示を受信した場合も、このメッセージが出力されます。

yyyyyyyy : ジョブ種別

Install package : 「パッケージのインストール」ジョブ

Get system information from client : 「システム情報の取得」ジョブ

Get software information from client : 「ソフトウェア情報の取得」ジョブ

Collect files from client : 「リモートコレクト」ジョブ

Send package, allow client to choose : 「クライアントユーザによるインストール」ジョブ

Transfer user inventory schema to client : 「ユーザインベントリ情報の転送」ジョブ

Transfer registry collection definition : 「レジストリ取得項目の転送」ジョブ

Report message : 「メッセージの通知」ジョブ

Set the software monitoring policy : 「ソフトウェア稼働監視の制御」ジョブ

Get software monitoring information from the client : 「ソフトウェア稼働情報の取得」ジョブ

Delete job : ジョブの削除指示 (配布管理システム側でジョブを削除したとき、クライアントに送信されるジョブの削除指示です。ジョブではありません)

iiiiiii : ジョブ番号

ccccccc : 指令番号

zzzzzzzz : 実行タイミング

Normal installation : 通常インストール

Install when system starts : システム起動時インストール

Install when system stops : システム停止時インストール

0xaa+0xbb : 実行タイミングに関する保守情報

Replace existing package={YES|NO} : 「同じパッケージがあったら上書き」の指定の有無

YES : 同じパッケージがあったら上書きする

NO : 同じパッケージがあったら上書きしない

tttttttttt : インストール日時 (年月日時分)

次に示す情報は、「パッケージのインストール」ジョブまたは「クライアントユーザによるインストール」ジョブの場合に出力されます。

{BG|GUI} : インストールモード

BG : バックグラウンドインストールモード

GUI : GUI インストールモード

d.cc.pppppp.vvvv.ssss : パッケージの情報

- *d* : パッケージの種類

- C : UNIX のパッケージ (資源登録システム) から登録したパッケージ

- D : Windows のパッケージから登録したパッケージ

- *cc* : キャビネット識別 ID

- *pppppp* : パッケージ識別 ID

- *vvvv* : バージョン / リビジョン

- *ssss* : 世代番号

nnnnnnnn : パッケージ名

ffffff : パッケージの保守情報

次に示す情報は、「ソフトウェア情報の取得」ジョブの場合に出力されます。

7. メッセージ

ssssssss : 検索対象ソフトウェア

- Search software installed by Software Distribution : JP1/NETM/DM でインストールしたソフトウェアを検索
- Search all software : すべてのソフトウェアを検索
- Search for software in "Add/Remove Programs" : アプリケーションの追加と削除のソフトウェアを検索
- Search for a file : ファイルを検索
- Search for Microsoft Office products : Microsoft Office 製品を検索
- Search for anti-virus products : ウィルス対策製品を検索

次に示す情報は、「検索対象ソフトウェア」が「Search all software」または「Search for a file」の場合に出力されます。

xxxxxxx : 検索対象ドライブの種別

- All Fixed drives : 全固定ドライブ
- All Fixed drives and Network drives : 全固定ドライブとネットワークドライブ
- Specified drives : 検索対象ドライブを指定

次に示す情報は、「検索対象ドライブの種別」が「Specified drives」の場合に出力されます。

vvvvvvvv : 検索対象ドライブ

検索対象ドライブ名を A ~ Z のアルファベット、または 1 ~ 9 の数字で表示します。複数のドライブを指定した場合、各ドライブ名は「;」で区切られて表示されます。例えば、「A」「C」「1」「2」と指定した場合は、次のように表示されます。

A;C;1;2

KDSF0061-I

The local host reported to the managing server that the status of a job on the local host has changed. Instruction number=ccccccc, Maintenance code=kkkkkkkkkkkkk[: sssssss]

要因

ローカルホスト側でジョブのステータスが変更されたことを、配布管理システムに通知しました。

ccccccc : 指令番号

kkkkkkkkkkkkkk : 保守コード (リモートインストールマネージャと同じ)

ssssssss : 保守コードの説明 (日本語で出力されます)

KDSF0070-I

Downloading a file by unicasting was started. *ffffff*, Unicasting from *hhhhhhhh*

要因

ユニキャスト配布によるファイルのダウンロードを開始しました。

ffffff : 保守情報

hhhhhhhh : 上位システム (ユニキャスト配布元) のホスト名または IP アドレス

KDSF0071-I

Downloading a file by multicasting was started. *ffffff*, Multicasting from *hhhhhhhh* (multicast address=*iii.iii.iii*)

要因

マルチキャスト配布によるファイルのダウンロードを開始しました。

ffffff : 保守情報
hhhhhhhh : 上位システム (マルチキャスト配布元) のホスト名または IP アドレス
iii.iii.iii.iii : 上位システム (マルチキャスト配布元) で設定しているマルチキャストアドレス

KDSF0072-I

The file was normally downloaded by unicasting. *ffffff*, Size=*yyyyyyyy* bytes, Unicasting from *hhhhhhhh*

要因

ユニキャスト配布によるファイルのダウンロードが成功しました。
ffffff : 保守情報
yyyyyyyy : ダウンロードしたファイルのサイズ (単位 : バイト)
hhhhhhhh : 上位システム (ユニキャスト配布元) のホスト名または IP アドレス

KDSF0073-I

The file was normally downloaded by multicasting. *ffffff*, Size=*yyyyyyyy* bytes, Multicasting from *hhhhhhhh*
(multicast address=*iii.iii.iii.iii*)

要因

マルチキャスト配布によるファイルのダウンロードが成功しました。
ffffff : 保守情報
yyyyyyyy : ダウンロードしたファイルのサイズ (単位 : バイト)
hhhhhhhh : 上位システム (マルチキャスト配布元) のホスト名または IP アドレス
iii.iii.iii.iii : 上位システム (マルチキャスト配布元) で設定しているマルチキャストアドレス

KDSF0074-W

An error occurred in downloading a file by unicasting. *ffffff*, Unicasting from *hhhhhhhh*,
{Win32|Socket|Runtime|Protocol} error, Code=*mm*[: *nnnnnn*][, *zzzzzzzz*]

要因

ユニキャスト配布によるファイルのダウンロードが失敗しました。
ffffff : 保守情報
hhhhhhhh : 上位システム (ユニキャスト配布元) のホスト名または IP アドレス
{Win32|Socket|Runtime|Protocol} : エラーの種別
Win32 : Win32 API エラー
Socket : ソケットエラー
Runtime : C 言語のランタイムエラー
Protocol : JP1/NETM/DM プロトコルエラー
mm : エラーコード
nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明 (日本語で出力されます)
zzzzzzzz : 保守情報

対処

通常は、ユーザが対処する必要はありません。JP1/NETM/DM は、セットアップの [通信リトライ] パネルの「通信エラー」に設定した内容に従って、自動的にリトライします。リトライアウトした場合は、次回ポーリング時に再度リトライします。
ただし、JP1/NETM/DM の新規導入時にこの現象が多発する場合は、ネットワーク環境に問題があるおそれがあります。その場合は、ネットワーク環境の設定を見直してください。

KDSF0075-W

An error occurred in downloading a file by multicasting. {Win32|Socket|Runtime|Protocol} error, Code=*mm*[:
nnnnnn][, *zzzzzzzz*]

要因

マルチキャスト配布によるファイルのダウンロードが失敗しました。

{Win32|Socket|Runtime|Protocol} : エラーの種別

Win32 : Win32 API エラー

Socket : ソケットエラー

Runtime : C 言語のランタイムエラー

Protocol : JP1/NETM/DM プロトコルエラー

mm : エラーコード

nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明（日本語で出力されます）

zzzzzzzz : 保守情報

対処

通常は、ユーザが対処する必要はありません。JP1/NETM/DM は自動的にリトライし、リトライアウトした場合は、ユニキャスト配布で再度リトライします。

ただし、JP1/NETM/DM の新規導入時にこの現象が多発する場合は、ネットワーク環境に問題があるおそれがあります。その場合は、ネットワーク環境の設定を見直してください。

KDSF0076-W

Downloading by multicasting terminated abnormally. This package will be downloaded by unicasting. *ffffff*,
 Multicasting from *hhhhhhh* (multicast address=*iii.iii.iii*)

要因

マルチキャスト配布によるパッケージのダウンロードが、正常に完了しませんでした。このパッケージは、ユニキャストでダウンロードします。

ffffff : 保守情報

hhhhhhh : 上位システム（マルチキャスト配布元）のホスト名または IP アドレス

iii.iii.iii.iii : 上位システム（マルチキャスト配布元）で設定しているマルチキャストアドレス

対処

複数のクライアントでこのメッセージが頻繁に出力される場合は、マルチキャスト配布元のセットアップの [マルチキャスト配布] タブで、ジョブのパケットサイズを小さく設定してください。

KDSF0077-W

The multicast address does not match between the higher system and client. This package will be downloaded by unicasting. Multicasting from *hhhhhhh*, Local multicast address=*lll.lll.lll.lll*

要因

ローカルホストに設定したマルチキャストアドレスが、上位システム（マルチキャスト配布元）のものとは異なります。このパッケージは、ユニキャストでダウンロードします。

hhhhhhh : 上位システム（マルチキャスト配布元）のホスト名または IP アドレス

lll.lll.lll.lll : ローカルホストに設定しているマルチキャストアドレス

対処

マルチポーリング環境の場合で、マルチキャスト配布元が通常の接続先として設定している上位システムでない場合は、このメッセージを無視してください。通常の接続先として設定している上位システムの場合は、上位システムとクライアントで使用するマルチキャストアドレスが一致するように設定してください。

KDSF0080-I

Uploading to *hhhhhhh* was started. *ffffff*, Size=*yyyyyyyy* bytes

要因

ファイルのアップロードを開始しました。
hhhhhhh : アップロード先のホスト名または IP アドレス
ffffff : 保守情報
yyyyyyyy : アップロードするファイルのサイズ (単位 : バイト)

KDSF0081-I

The file was normally uploaded to *hhhhhhh*. *ffffff*, Size=*yyyyyyyy* bytes

要因

ファイルのアップロードが成功しました。
hhhhhhh : アップロード先のホスト名または IP アドレス
ffffff : 保守情報
yyyyyyyy : アップロードしたファイルのサイズ (単位 : バイト)

KDSF0082-W

An error occurred in uploading to *hhhhhhh*. *ffffff*, {Win32|Socket|Runtime|Protocol} error, Code=*mm*[: *nnnnnn*][, *zzzzzzzz*]

要因

ファイルのアップロードが失敗しました。
hhhhhhh : アップロード先のホスト名または IP アドレス
ffffff : 保守情報
 {Win32|Socket|Runtime|Protocol} : エラーの種別
 Win32 : Win32 API エラー
 Socket : ソケットエラー
 Runtime : C 言語のランタイムエラー
 Protocol : JP1/NETM/DM プロトコルエラー
mm : エラーコード
nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明 (日本語で出力されます)
zzzzzzzz : 保守情報

対処

通常は、ユーザが対処する必要はありません。JP1/NETM/DM は、セットアップの [通信リトライ] パネルの「上位システムへの未送信通知ファイル」に設定した内容に従って、自動的にリトライします。リトライアウトした場合は、次回ポーリング時に再度リトライします。ただし、JP1/NETM/DM の新規導入時にこの現象が多発する場合は、ネットワーク環境に問題があるおそれがあります。その場合は、ネットワーク環境の設定を見直してください。

KDSF0090-I

A job started. Job type=*jjjjjjj*, Job number=*xxxxxxx*, Instruction number=*yyyyyyyy* {, Package information=*d.c.pppppp.vvvv.ssss*, Package name=*nnnnnnnn*, *ffffff* | Software to be Searched=*ssssssss* [, Drive to be Searched=*kkkkkkkk*[:*vvvvvvvv*] , Retrieve list=*rrrrrrr.llllll* Bytes(*eeeeeeee* Entries)}

要因

ジョブの実行を開始しました。

iiiiiii : ジョブ種別

Install package : 「パッケージのインストール」ジョブ

Get system information from client : 「システム情報の取得」ジョブ

Get software information from client : 「ソフトウェア情報の取得」ジョブ

Collect files from client : 「リモートコレクト」ジョブ

Send package, allow client to choose : 「クライアントユーザによるインストール」ジョブ

xxxxxxxx : ジョブ番号

yyyyyyyy : 指令番号

次に示す情報は、「パッケージのインストール」ジョブまたは「クライアントユーザによるインストール」ジョブの場合に出力されます。

d.cc.pppppp.vvvv.ssss : パッケージの情報

• *d* : パッケージの種類

C : UNIX のパッケージ (資源登録システム) から登録したパッケージ

D : Windows のパッケージから登録したパッケージ

• *cc* : キャビネット識別 ID

• *pppppp* : パッケージ識別 ID

• *vvvv* : バージョン / リビジョン

• *sss* : 世代番号

nnnnnnnn : パッケージ名

ffffff : パッケージの保守情報

次に示す情報は、「ソフトウェア情報の取得」ジョブの場合に出力されます。

sssssss : 検索対象ソフトウェア

- Search software installed by Software Distribution : JP1/NETM/DM でインストールしたソフトウェアを検索
- Search all software : すべてのソフトウェアを検索
- Search for software in "Add/Remove Programs" : アプリケーションの追加と削除のソフトウェアを検索
- Search for a file : ファイルを検索
- Search for Microsoft Office products : Microsoft Office 製品を検索
- Search for anti-virus products : ウィルス対策製品を検索

次に示す情報は、「検索対象ソフトウェア」が「Search all software」または「Search for a file」の場合に出力されます。

kkkkkkkk : 検索対象ドライブの種類

- All Fixed drives : 全固定ドライブ
- All Fixed drives and Network drives : 全固定ドライブとネットワークドライブ
- Specified drives : 検索対象ドライブを指定

次に示す情報は、「検索対象ドライブの種類」が「Specified drives」の場合に出力されます。

vvvvvvvv : 検索対象ドライブ

検索対象ドライブ名を A ~ Z のアルファベット, または 1 ~ 9 の数字で表示します。複数のドライブを指定した場合, 各ドライブ名は「;」で区切られて表示されます。例えば, 「A」「C」「1」

「2」と指定した場合は、次のように表示されます。

A;C;1;2

rrrrrrrr : 検索リストの種別

- SERVER : 上位システムから送信された検索リスト
- CLIENT : クライアントに存在する検索リスト

llllllll : 検索に使用する検索リストのサイズ (単位: バイト)

eeeeeeee : 検索に使用する検索リストのエントリ数

KDSF0091-I

The job is completed. Job type=*jjjjjjj*, Job Number=*xxxxxxx*, Instruction number=*yyyyyyyy*[, Package information=*d.cc.pppppp.vvvv.ssss*, Package name=*nnnnnnnn*, *ffffff*, Installation path=*zzzzzzzz*]

要因

ジョブの実行に成功しました。

jjjjjjj : ジョブ種別

Install package : 「パッケージのインストール」ジョブ

Get system information from client : 「システム情報の取得」ジョブ

Get software information from client : 「ソフトウェア情報の取得」ジョブ

Collect files from client : 「リモートコレクト」ジョブ

Send package, allow client to choose : 「クライアントユーザによるインストール」ジョブ

xxxxxxx : ジョブ番号

yyyyyyyy : 指令番号

次に示す情報は、「パッケージのインストール」ジョブまたは「クライアントユーザによるインストール」ジョブの場合に出力されます。

d.cc.pppppp.vvvv.ssss : パッケージの情報

- *d* : パッケージの種別

C : UNIX のパッケージ (資源登録システム) から登録したパッケージ

D : Windows のパッケージから登録したパッケージ

- *cc* : キャビネット識別 ID
- *pppppp* : パッケージ識別 ID
- *vvvv* : バージョン / リビジョン
- *ssss* : 世代番号

nnnnnnnn : パッケージ名

ffffff : パッケージの保守情報

zzzzzzzz : インストール先パス名 (ただし、日立プログラムプロダクトにデフォルトインストール先を指定してインストールした場合は、正確な値は表示されません)

KDSF0092-E

An error occurred in a job. Job type=*jjjjjjj*, Job number=*xxxxxxx*, Instruction number=*yyyyyyyy*, [Package information=*d.cc.pppppp.vvvv.ssss*, Package name=*nnnnnnnn*, *ffffff*, Installation path=*iiiiiii*,]Cause={The installer *ccccccc*, Code=*0xdd*, *zzzzzzzz*}An external program *aaaaaaa*, Code=*0xdd*, *zzzzzzzz*}An error occurred in unarchiving or archiving a file, *eeeeeee* error, Code=*mm*[: *nnnnnn*][, *zzzzzzzz*}An installation conditions error occurred: *pppppppp*, *zzzzzzzz*). Maintenance code=*kkkkkkkkkkkkkk*[: *sssssss*]

要因

ジョブの実行に失敗しました。

iiiiiii : ジョブ種別

Install package : 「パッケージのインストール」ジョブ

Get system information from client : 「システム情報の取得」ジョブ

Get software information from client : 「ソフトウェア情報の取得」ジョブ

Collect files from client : 「リモートコレクト」ジョブ

Send package, allow client to choose : 「クライアントユーザによるインストール」ジョブ

xxxxxxx : ジョブ番号

yyyyyyy : 指令番号

[Package information=*d.cc.pppppp.vvvv.ssss*, Package name=*nnnnnnnn*, *ffffff*, Installation path=*iiiiii*,]

この部分は、「パッケージのインストール」ジョブまたは「クライアントユーザによるインストール」ジョブの場合に出力されます。

d.cc.pppppp.vvvv.ssss : パッケージの情報

- *d* : パッケージの種類

C : UNIX のパッケージ (資源登録システム) から登録したパッケージ

D : Windows のパッケージから登録したパッケージ

- *cc* : キャビネット識別 ID

- *pppppp* : パッケージ識別 ID

- *vvvv* : バージョン / リビジョン

- *ssss* : 世代番号

nnnnnnnn : パッケージ名

ffffff : パッケージの保守情報

iiiiii : インストール先パス名 (ただし、日立プログラムプロダクトにデフォルトインストール先を指定してインストールした場合は、正確な値は表示されません)

Cause : 実行に失敗した原因。次の 5 種類のどれかが出力されます。

- The installer *ccccccc*, Code=*0xdd*, *zzzzzzzz*

日立プログラムプロダクトまたは他社ソフトウェアの、インストーラが原因で実行に失敗しました。

ccccccc : インストーラに起きた現象

- was not started because of an error : インストーラの起動失敗

- resulted in an error : インストーラのエラー終了

- terminated by a timeout : インストーラがタイムアウトによって終了

0xdd : エラーコード

zzzzzzzz : 保守情報

- An external program *aaaaaaaa*, Code=*0xdd*, *zzzzzzzz*

外部プログラムが原因で実行に失敗しました。

aaaaaaaa : 外部プログラムに起きた現象

- was not started because of an error : 外部プログラムの起動失敗

- resulted in an error : 外部プログラムのエラー終了

- terminated by a timeout : 外部プログラムがタイムアウトによって終了

0xdd : エラーコード

zzzzzzzz : 保守情報

- An error occurred in unarchiving or archiving a file, *eeeeeeee* error, Code=*mm*[: *nnnnnn*][, *zzzzzzzz*]

ファイルの展開またはアーカイブのエラーが原因で実行に失敗しました。

eeeeeeee : エラーの種別

Win32 : Win32 API エラー

Socket : ソケットエラー

Runtime : C 言語のランタイムエラー

mm : エラーコード

nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明（日本語で出力されます）

zzzzzzzz : 保守情報

- An installation conditions error occurred: *pppppppp*, *zzzzzzzz*

インストール条件のエラーが原因で実行に失敗しました。

pppppppp : エラーとなったインストール条件（システム条件またはソフトウェア条件）

zzzzzzzz : 保守情報

- An information acquisition conditions error occurred

システム情報の取得またはソフトウェア情報の取得時に、配布先システムが条件を満たさなかったため実行に失敗しました。

kkkkkkkkkkkkkk : 保守コード（リモートインストールマネージャと同じ）

ssssssss : 保守コードの説明（日本語で出力されます）

対処

ssssssss に出力される保守コードの説明を参照して対処してください。また、Cause= に出力されるエラー原因に対応して、次の対処をしてください。

- Cause=The installer *ccccccc*, Code=0x*dd*, *zzzzzzzz* の場合
ssssssss に特に説明が出力されない場合は、Code=0x*dd* が返却される原因を、日立プログラムプロダクトまたは他社ソフトウェアのドキュメントで確認する。
- Cause=An external program *aaaaaaaa*, Code=0x*dd*, *zzzzzzzz* の場合
ssssssss に特に説明が出力されない場合は、Code=0x*dd* が返却される原因を、外部プログラムのドキュメントで確認するか、外部プログラムの作成元に問い合わせる。
- Cause=An error occurred in unarchiving or archiving a file, *eeeeeeee* error, Code=*mm*[: *nnnnnn*][, *zzzzzzzz*] の場合
nnnnnn に出力されるエラーコードの説明を参照して対処する。
- Cause=An installation conditions error occurred: *pppppppp*, *zzzzzzzz* の場合
pppppppp に出力されるインストール条件が妥当であるか確認する。
- An information acquisition conditions error occurred の場合
配布先システムで、「システム情報の取得」または「ソフトウェア情報の取得」ジョブの前提条件を確認する。

KDSF0093-I

Job number=*xxxxxxx*, Instruction number=*yyyyyyy*, Program path=*zzzzzzzz*. The installer started. Package information=*d.cc.pppppp.vvvv.ssss*, Package name=*nnnnnnnn*, Timeout=*mm*

要因

インストーラが起動しました。

xxxxxxx : ジョブ番号

yyyyyyy : 指令番号

zzzzzzzz : 起動したプログラムのパス名
d.cc.pppppp.vvvv.ssss : パッケージの情報

- *d* : パッケージの種類
C : UNIX のパッケージ (資源登録システム) から登録したパッケージ
D : Windows のパッケージから登録したパッケージ
- *cc* : キャビネット識別 ID
- *pppppp* : パッケージ識別 ID
- *vvvv* : バージョン / リビジョン
- *ssss* : 世代番号

nnnnnnnn : パッケージ名
mm : 監視時間 (単位 : 秒) 。 「 0 」 の場合 , 無限に監視する設定を示します。

KDSF0094-I

Job number=*xxxxxxx*, Instruction number=*yyyyyyy*, Program path=*zzzzzzz*. The external program started.
Timing=*ttttttt*, Monitor=*wwwwwww*, Result notification=*eeeeeee*, Error action={Abort|Continue}, Timeout=*mm*

要因

外部プログラムが起動しました。
xxxxxxx : ジョブ番号
yyyyyyy : 指令番号
zzzzzzz : 起動したプログラムのパス名

ttttttt : 外部プログラム起動のタイミング
Before installation : インストール直前
After installation : インストール直後
Installation error : インストールエラー時

wwwwwww : 外部プログラムの監視時間設定の有無と , 監視時間経過時の取り扱い
No timeout : 監視時間を設定しないで , 無限に外部プログラムの応答を待つ
Error after timeout : 設定した監視時間を経過したらエラーにする
Continue after timeout : 設定した監視時間を経過してもエラーにしない

eeeeeee : 外部プログラム処理結果の取得方法
Windows : 外部プログラムの Windows Message で通知する
Return code : 外部プログラムの終了コードで通知する

{Abort|Continue} : 処理結果エラー時の取り扱い
Abort : エラーとして処理を中断する
Continue : エラーにしないで処理を続行する

mm : 外部プログラム監視時間 (単位 : 秒) 。 「 0 」 の場合 , 無限に監視する設定を示します。

KDSF0095-I

Job number=*xxxxxxx*, Instruction number=*yyyyyyy*, Program path=*zzzzzzz*. The {installer|external program} terminated normally.

要因

インストーラまたは外部プログラムが正常終了しました。
xxxxxxx : ジョブ番号
yyyyyyy : 指令番号
zzzzzzz : 正常終了したプログラムのパス名

{installer|external program} : 正常終了したプログラムの種類

installer : インストーラ

external program : 外部プログラム

KDSF0096-W

Job number=xxxxxxx, Instruction number=yyyyyyy, Program path=pppppppp. The {installer|external program} {was not started because of an error. eeeeeeee error, Code=mm[: nnnnnn][, zzzzzzzz]|resulted in an error. Return code=0xzz, Extend return code=0xcxxxxxxx|terminated by a timeout}.

要因

インストーラまたは外部プログラムが異常終了またはタイムアウトしました。

xxxxxxx : ジョブ番号

yyyyyyy : 指令番号

pppppppp : 外部プログラムのパス名

{installer|external program} : 終了したプログラムの種類

installer : インストーラ

external program : 外部プログラム

{was not started because of an error. eeeeeeee error, Code=mm[: nnnnnn][, zzzzzzzz]|resulted in an error. Return code=0xzz|, Extend return code=0xcxxxxxxx|terminated by a timeout} : 終了原因。次の3種類のどれかが出力されます。

- was not started because of an error. eeeeeeee error, Code=mm[: nnnnnn][, zzzzzzzz]
起動に失敗しました。

eeeeeeee : エラーの種類

Win32 : Win32 API エラー

Socket : ソケットエラー

Runtime : C 言語のランタイムエラー

Protocol : JP1/NETM/DM プロトコルエラー

mm : エラーコード

nnnnnn : エラーコード「mm」の説明（日本語で出力されます）

zzzzzzzz : 保守情報

- resulted in an error. Return code=0xzz, Extend return code=0xcxxxxxxx
エラーによって終了しました。

0xzz : 外部プログラムが返却したリターンコード（1バイト表示）

0xcxxxxxxx : 外部プログラムが返却したリターンコード（4バイト表示）

- terminated by a timeout

タイムアウトによって終了しました。

対処

終了した原因に対応して次の対処をしてください。

- 起動に失敗した場合
外部プログラムのパス名が誤っていないか確認する。
- エラーによって終了した場合
出力されたリターンコードを返却する条件を確認する。
- タイムアウトによって終了した場合
監視時間の設定に誤りがないか確認する。また、外部プログラムが監視時間内に終了しない原因を確認する。

KDSF0097-I

An attempt to detect information about patches by using the Windows Update Agent was successful.

要因

WUA によるパッチ情報の検出に成功しました。

KDSF0098-W

An attempt to detect information about patches by using the Windows Update Agent could not be executed because {the OS does not support the Windows Update Agent | the Windows Update Agent was unavailable | the database file for the Windows Update Agent was not found}.

要因

WUA によるパッチ情報の検出が実行されませんでした。

{the OS does not support the Windows Update Agent | the Windows Update Agent was unavailable | the database file for the Windows Update Agent was not found} : 原因の種類。次の 3 種類のどれかが出力されます。

- the OS does not support the Windows Update Agent : OS が WUA をサポートしていない
- the Windows Update Agent was unavailable : WUA を使用できない
- the database file for the Windows Update Agent was not found : WUA 用のデータベースファイルがない

対処

- WUA を使用できない場合
WUA をインストールしてください。
- WUA 用のデータベースファイルがない場合
WUA 用のデータベースファイルをクライアントのインストール先ディレクトリ %CLIENT%\WUA に格納してください。

KDSF0099-E

An attempt to detect information about patches by using the Windows Update Agent failed due to {a timeout | an unexpected error}.

要因

WUA によるパッチ情報の検出に失敗しました。

{a timeout | an unexpected error} : 失敗の原因

a timeout : 処理がタイムアウトした

an unexpected error : 予期しないエラーが発生した

対処

処理がタイムアウトした場合は、しばらく待ってからジョブを再実行してください。

KDSF0100-I

The automatic registration of *hhhhhhh (iii.iii.iii.iii, ddddddd)* to the managing server started. Old managing server: *vvvvvvv* -> New managing server: *xxxxxxx*

要因

配布管理システムが管理するシステム構成情報へ、ローカルホストの自動登録を開始しました。

hhhhhhh : ローカルホスト名

iii.iii.iii.iii : ローカルホストの IP アドレス

ddddddd : ローカルホストのホスト識別子。システム構成情報に設定されない場合、アスタリスク

(*) が出力されます。

vvvvvvvv : 旧登録先のホスト名または IP アドレス 。新規にシステム構成情報へローカルホストを登録する場合は、アスタリスク (*) が出力されます。

xxxxxxx : 登録先のホスト名または IP アドレス

注

ローカルホストの IP アドレスやホスト名を変更した場合など、配布管理システムが変更されない場合もこのメッセージは出力されます。その場合、Old managing server と New managing server には同じ値が出力されます。

KDSF0101-I

The automatic registration of *hhhhhhh* (*iii.iii.iii*, *ddddddd*) to the managing server was completed. Old managing server: *vvvvvvv* -> New managing server: *xxxxxxx*

要因

配布管理システムが管理するシステム構成情報へ、ローカルホストの自動登録が完了しました。

hhhhhhh : ローカルホスト名

iii.iii.iii : ローカルホストの IP アドレス

ddddddd : ローカルホストのホスト識別子。システム構成情報に設定されない場合、アスタリスク (*) が出力されます。

vvvvvvvv : 旧登録先のホスト名または IP アドレス 。新規にシステム構成情報へローカルホストを登録する場合は、アスタリスク (*) が出力されます。

xxxxxxx : 登録先のホスト名または IP アドレス

注

ローカルホストの IP アドレスやホスト名を変更した場合など、配布管理システムが変更されない場合もこのメッセージは出力されます。その場合、Old managing server と New managing server には同じ値が出力されます。

KDSF0102-W

The automatic registration of *hhhhhhh* (*iii.iii.iii*, *ddddddd*) to the managing server failed. Old managing server: *vvvvvvv* -> New managing server: *xxxxxxx*, {Win32|Socket|Runtime|Protocol} error, Code=*mm*[: *nnnnn*][, *zzzzzzz*]

要因

配布管理システムが管理するシステム構成情報への、ローカルホストの自動登録が失敗しました。

hhhhhhh : ローカルホスト名

iii.iii.iii : ローカルホストの IP アドレス

ddddddd : ローカルホストのホスト識別子。システム構成情報に設定されない場合、アスタリスク (*) が出力されます。

vvvvvvvv : 旧登録先のホスト名または IP アドレス 。新規にシステム構成情報へローカルホストを登録しようとした場合は、アスタリスク (*) が出力されます。

xxxxxxx : 登録先のホスト名または IP アドレス

{Win32|Socket|Runtime|Protocol} : エラーの種別

Win32 : Win32 API エラー

Socket : ソケットエラー

Runtime : C 言語のランタイムエラー

Protocol : JP1/NETM/DM プロトコルエラー

7. メッセージ

mm : エラーコード
nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明 (日本語で出力されます)
zzzzzzzz : 保守情報

注

ローカルホストの IP アドレスやホスト名を変更した場合など、配布管理システムが変更されない場合もこのメッセージは出力されます。その場合、Old managing server と New managing server には同じ値が出力されます。

対処

JP1/NETM/DM は、次回ポーリング時にリトライします。システム起動時にポーリングするよう設定している場合は、OS を再起動してください。

リトライしても自動登録に失敗する場合は、エラーコードの説明を確認してください。

KDSF0103-I

Inventory information was reported because a system modification was detected.

要因

システムの変更を検知したので、インベントリ情報を通知しました。

KDSF0110-I

ID group processing started. ID group=xxxxxxx, Operation={ADD|EXECUTE|DELETE}, Relay managing the ID=hhhhhhh (*iiiiii*)

要因

ID 関連の処理を開始しました。

xxxxxxx : 対象 ID 名

{ADD|EXECUTE|DELETE} : 処理の種類

ADD : 対象 ID へのローカルホストの登録

EXECUTE : 対象 ID あてに実行された ID ジョブの実行要求 (ID へローカルホストを登録するときに、自動的に起こる動作です。ID 管理中継にすでに保存されている ID ジョブを実行するよう要求します)

DELETE : 対象 ID からのローカルホストの削除

hhhhhhh : ID 管理中継

iiiiii : ID 管理中継の製品種別

netmdm : JP1/NETM/DM Manager

netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)

KDSF0111-I

ID group processing was completed. ID group=xxxxxxx, Operation={ADD|EXECUTE|DELETE}, Relay managing the ID=hhhhhhh (*iiiiii*)

要因

ID 関連の処理が完了しました。

xxxxxxx : 対象 ID 名

{ADD|EXECUTE|DELETE} : 処理の種類

ADD : 対象 ID へのローカルホストの登録

EXECUTE : 対象 ID あてに実行された ID ジョブの実行要求 (ID へローカルホストを登録するときに、自動的に起こる動作です。ID 管理中継にすでに保存されている ID ジョブを実行するよ

う要求します)
 DELETE : 対象 ID からのローカルホストの削除
hhhhhhhh : ID 管理中継
iiiiiii : ID 管理中継の製品種別
 netmdm : JP1/NETM/DM Manager
 netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)

KDSF0112-E

An error occurred in IP group processing. ID group=xxxxxxx, Operation={ADD|EXECUTE|DELETE}, Relay managing the ID=*hhhhhhhh* (*iiiiiii*), {Win32|Socket|Runtime|Protocol} error, Code=*mm*[: *nnnnnn*][, *zzzzzzzz*]

要因

ID 関連の操作がエラーとなりました。

xxxxxxx : 対象 ID 名

{ADD|EXECUTE|DELETE} : 処理の種類

ADD : 対象 ID へのローカルホストの登録

EXECUTE : 対象 ID あてに実行された ID ジョブの実行要求 (ID へローカルホストを登録するときに、自動的に起こる動作です。ID 管理中継にすでに保存されている ID ジョブを実行するよう要求します)

DELETE : 対象 ID からのローカルホストの削除

hhhhhhhh : ID 管理中継

iiiiiii : ID 管理中継の製品種別

netmdm : JP1/NETM/DM Manager

netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)

{Win32|Socket|Runtime|Protocol} : エラーの種類

Win32 : Win32 API エラー

Socket : ソケットエラー

Runtime : C 言語のランタイムエラー

Protocol : JP1/NETM/DM プロトコルエラー

mm : エラーコード

nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明 (日本語で出力されます)

zzzzzzzz : 保守情報

対処

エラーコードの説明を参照し、ID 管理中継の指定が誤っていないか、または通信障害が発生していないかを確認してください。

KDSF0120-I

Packaging started. Package information=D.cc.pppppppp.vvvv.ssss, Save to=*hhhhhhhh* (*iiiiiii*)

要因

パッケージングを開始しました。

D.cc.pppppp.vvvv.ssss : パッケージの情報

- D : パッケージの種類です。Windows のパッケージから登録したパッケージを表す「D」が常に出力されます。
- cc : キャビネット識別 ID
- pppppp : パッケージ識別 ID

7. メッセージ

- *vvvv* : バージョン / リビジョン
- *ssss* : 世代番号

hhhhhhhh : パッケージ登録先の配布管理システムのホスト名または IP アドレス

iiiiiii : パッケージ登録先の配布管理システムの製品種別

netmdm : JP1/NETM/DM Manager

netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)

KDSF0121-I

Packaging terminated normally. Package information=D.cc.pppppppp.vvvv.ssss, Save to=hhhhhhhh (iiiiiii)

要因

パッケージングが成功しました。

D.cc.pppppppp.vvvv.ssss : パッケージの情報

- D : パッケージの種類です。Windows のパッケージから登録したパッケージを表す「D」が常に出力されます。
- cc : キャビネット識別 ID
- pppppppp : パッケージ識別 ID
- vvvv : バージョン / リビジョン
- ssss : 世代番号

hhhhhhhh : パッケージ登録先の配布管理システムのホスト名または IP アドレス

iiiiiii : パッケージ登録先の配布管理システムの製品種別

netmdm : JP1/NETM/DM Manager

netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)

KDSF0122-E

Packaging failed. Package information=d.cc.pppppppp.vvvv.ssss, Save to=hhhhhhhh (iiiiiii),
{Win32|Socket|Runtime|Protocol} error, Code=mm[: nnnnnn][, zzzzzzzz]

要因

パッケージングが失敗しました。

D.cc.pppppppp.vvvv.ssss : パッケージの情報

- D : パッケージの種類です。Windows のパッケージから登録しようとしたパッケージを表す「D」が常に出力されます。
- cc : キャビネット識別 ID
- pppppppp : パッケージ識別 ID
- vvvv : バージョン / リビジョン
- ssss : 世代番号

hhhhhhhh : パッケージ登録先の配布管理システムのホスト名または IP アドレス

iiiiiii : パッケージ登録先の配布管理システムの製品種別

netmdm : JP1/NETM/DM Manager

netmdmw : JP1/NETM/DM Client (中継システム)

{Win32|Socket|Runtime|Protocol} : エラーの種類

Win32 : Win32 API エラー

Socket : ソケットエラー

Runtime : C 言語のランタイムエラー
 Protocol : JP1/NETM/DM プロトコルエラー

mm : エラーコード

nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明 (日本語で出力されます)

zzzzzzzz : 保守情報

対処

配布管理システムのホスト名または IP アドレスが誤っていないか、また、通信障害が発生していないかを確認してください。

KDSF0123-E

Creation of the package failed. (information = TablNum[xxxxxxx], limit = [65535])

要因

対応情報の合計値 が上限値「65535」を超過したため、パッケージの作成に失敗しました。

xxxxxxx : 対応情報数

注

対応情報とは、パッケージ対象の固有の情報です。次の情報に +4 した値が対応情報の合計値となります。

- パッケージ対象のフォルダまたはファイルの総数
- パッケージ対象のフォルダまたはファイルのショートファイルの総数

対処

対象情報の合計値が上限値 (65,535) 以下になるように、パッケージの対象を減らして再実行してください。

KDSF0130-E

An error occurred in a process *pppppppp*. {Win32|Socket|Runtime} error, Code=*mm*[: *nnnnnn*][:, *zzzzzzzz*]

要因

プロセス *pppppppp* でエラーが発生しました。

pppppppp : 対象プロセス名

{Win32|Socket|Runtime} : エラーの種別

Win32 : Win32 API エラー

Socket : ソケットエラー

Runtime : C 言語のランタイムエラー

mm : エラーコード

nnnnnn : エラーコード「*mm*」の説明 (日本語で出力されます)

zzzzzzzz : 保守情報

対処

エラーコードの説明を確認し、対応する処置をしてください。

KDSF0140-E

An application exception occurred in process *pppppppp*.

要因

プロセス *pppppppp* でアプリケーション例外が発生しました。

pppppppp : 対象プロセス名

7. メッセージ

対処

必要に応じて、弊社に調査を依頼してください。なお、調査を依頼する場合は DUMPLLOG を採取してください。

付録

付録 A Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client の機能

付録 B 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の機能

付録 C Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の機能

付録 D セキュリティ PC へのリモートインストール

付録 E 秘文連携機能を使用した JP1/ 秘文および秘文の管理

付録 F EUR を使ったインベントリ管理帳票の作成

付録 G 監査ログの出力

付録 H 各バージョンの変更内容

付録 I 用語解説

付録 A Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client の機能

Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client は、OS が Windows 8、Windows Server 2012、Windows 7、Windows Server 2008 または Windows Vista のコンピュータを、JP1/NETM/DM システムのクライアントとして管理するために必要なプログラムです。このマニュアルでは、特に断らないかぎり、Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版を「8・2012・7・2008・Vista 版」と呼びます。

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client をインストールすることで、OS が Windows 8、Windows Server 2012、Windows 7、Windows Server 2008 または Windows Vista のコンピュータに対して、JP1/NETM/DM の機能を使用できます。

また、8・2012・7・2008・Vista 版の JP1/NETM/DM Client - Base も、OS が Windows 8、Windows Server 2012、Windows 7、Windows Server 2008 または Windows Vista のコンピュータに対して、JP1/NETM/DM の機能を使用できます。

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client は、JP1/NETM/DM Client と次に示す差異がありません。

ハードウェアに関する見積もり

前提となる CPU 性能、メモリ所要量、およびディスク占有量が異なります。ハードウェアに関する見積もりについては、「付録 A.2 ハードウェアに関する見積もり」を参照してください。

使用できるコンポーネントと機能

使用できるコンポーネントと機能が異なります。使用できるコンポーネントと機能については、「付録 A.3 使用できるコンポーネントと機能差異」を参照してください。

インストール手順

インストールの手順が一部異なります。インストール手順については、「付録 A.4 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のインストール」を参照してください。

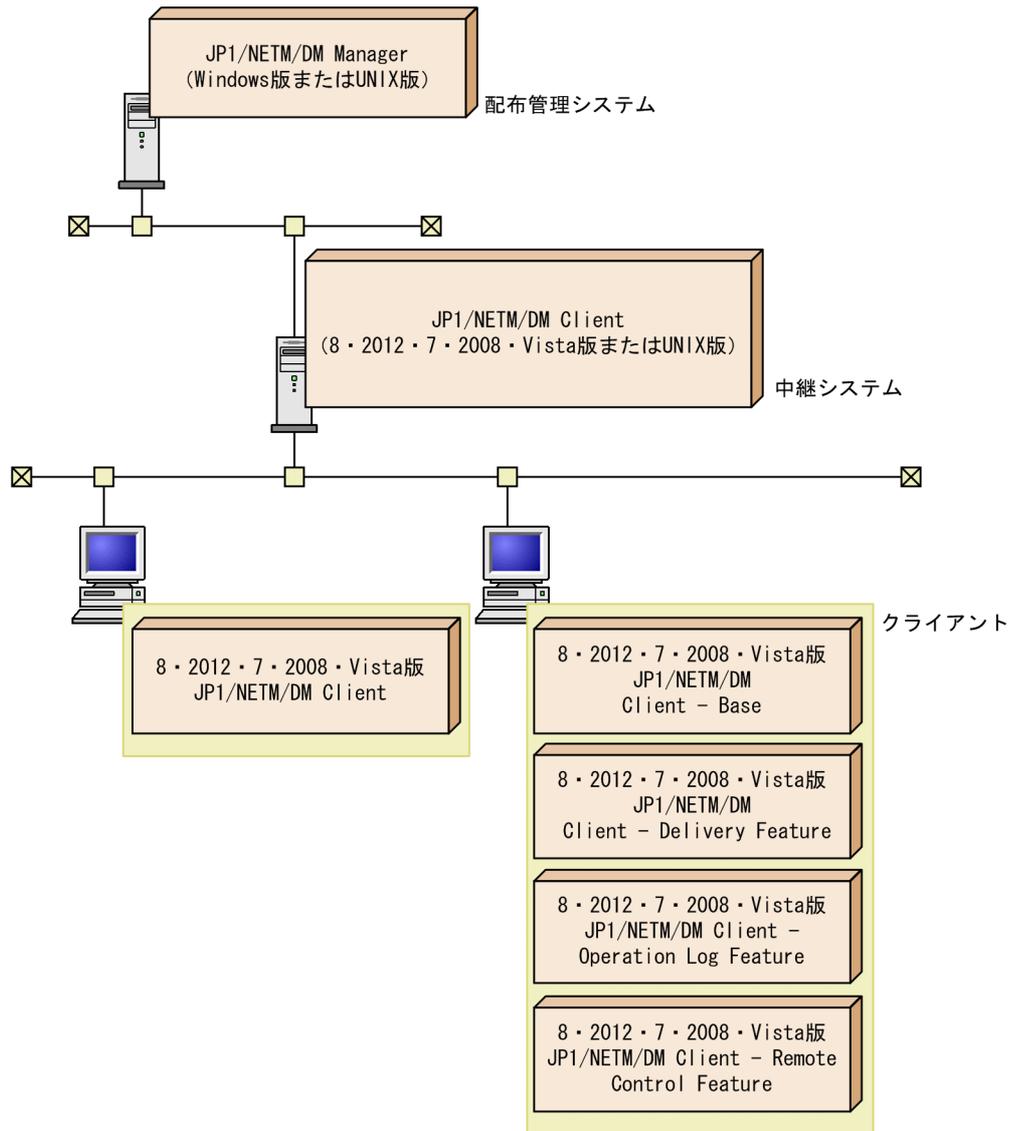
セットアップ手順

セットアップの手順が一部異なります。セットアップ手順については、「付録 A.5 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のセットアップ」を参照してください。

付録 A.1 システム構成

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のシステム構成例を次の図に示します。

図 A-1 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のシステム構成例



付録 A.2 ハードウェアに関する見積もり

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client の各コンポーネントを動作させるために必要な CPU 性能、およびメモリ所要量について説明します。また、各コンポーネントのディスク占有量についても説明します。

(1) CPU 性能

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client の各コンポーネントを動作させるために必要な CPU 性能を次の表に示します。

表 A-1 各コンポーネントに必要な CPU 性能

コンポーネント	CPU 性能
クライアント	300 メガヘルツ以上 (推奨は 1 ギガヘルツ以上)
パッケージャ	

コンポーネント	CPU 性能
リモートコントロールエージェント	

(2) メモリ所要量

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client の各コンポーネントのメモリ所要量を次の表に示します。

表 A-2 各コンポーネントの所要メモリ

コンポーネント	メモリ所要量 (メガバイト)
クライアント	13 以上
パッケージ	10 以上
リモートコントロールエージェント	$8 + a + b + c + d + e$ 以上

注

- a: 描画用の一時バッファ (標準的なアプリケーションの場合 5 メガバイト)
- b: ファイル転送中の一時バッファ (2 メガバイト)
- c: 接続用のバッファ (1 メガバイト × 接続コントローラ数)
- d: チャットサーバ用のバッファ ($2 + (0.1 \times \text{接続数})$ メガバイト)
- e: チャットクライアント用のバッファ ($2 + (0.2 \times \text{接続数})$ メガバイト)

(3) ディスク占有量

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client の各コンポーネントのディスク占有量を次の表に示します。

表 A-3 各コンポーネントのディスク占有量

コンポーネント	ディスク占有量 (メガバイト)	
クライアント	クライアント	16
	付加機能	3
	パッケージセットアップマネージャ	2
パッケージ	6	
リモートコントロールエージェント	10	
オンラインヘルプ	6	
JP1/NETM/DM Client が共通に使用する領域	8	

付録 A.3 使用できるコンポーネントと機能差異

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client で使用できるコンポーネントおよび機能差異について説明します。

(1) 使用できるコンポーネント

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client で使用できるコンポーネントについて次の表に示します。

表 A-4 使用できるコンポーネント

コンポーネント		使用の可否
クライアント	クライアント	
	付加機能	
	パッケージセットアップマネージャ	
	Visual Test 6.0 による配布機能	×
パッケージャ		
リモートコントロールエージェント	リモートコントロールエージェント	
	チャット	
Automatic Installation Tool		
スタートアップキット機能支援ツール		
オンラインヘルプ		

(凡例) : 使用できる × : 使用できない

(2) 使用できる機能の差異

次に示す機能は、JP1/NETMDM システムでクライアントが 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client の場合は使用できません。

- 暗号化されたパッケージのリモートインストール
- Visual Test で作成したレコーダファイルのリモートインストール
- 秘文連携機能 (OS が Windows 8, Windows Server 2012, Windows Server 2008 の場合だけ)
- ローカルシステムビューアの「システム監視の開始」および「システム監視の停止」

次に示す機能は、複数のユーザが OS にログインしている場合でも、複数のユーザが同時に実行することはできません。

- ID への登録
- クライアントマネージャ
- サーバへの通知
- ジョブの実行
- [JP1/NETM/DM ユーザ情報設定] ダイアログボックスからの通知
- ローカルシステムビューア
- パッケージセットアップマネージャ
- パッケージャ

なお、取得できるソフトウェア情報およびレジストリ情報については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「2.2.1 システム情報の取得」を参照してください。

付録 A.4 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のインストール

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client を新規にインストールする場合の手順および OS をバージョンアップしてから 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client をインストールする場合の手順について説明します。

インストール内容の変更については、マニュアル「構築ガイド」の「1.3 インストール内容を変更する」

を参照してください。

(1) 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client を新規にインストールする

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client を新規にインストールする手順は、JP1/NETM/DM Client をインストールする場合の手順とほぼ同じです。

ただし、8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client をインストールする場合は、次に示す差異があります。

- 対応する情報が設定されていないため、[ユーザ登録] ダイアログボックスが非表示になります。
- GUI モードインストーラは必ず作成されるため、[プログラムフォルダの選択] ダイアログボックスの「GUI モードインストーラの作成」チェックボックスが非表示になります。
- 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client は、常に一般ユーザ権限で使用するため、[オプションの設定] ダイアログボックスの「一般ユーザ権限で使用する」チェックボックスが非表示になります。

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client をインストールする場合の手順は、マニュアル「構築ガイド」の「3. JP1/NETM/DM Client をインストールする」を参照してください。

(2) OS をバージョンアップしてから 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client をインストールする

JP1/NETM/DM がインストールされているコンピュータの OS を初期化してからバージョンアップする場合は、バックアップを取得し、いったん JP1/NETM/DM Client をアンインストールする必要があります。

また、バックアップの取得時および復元時は、クライアントマネージャからクライアントを停止して、JP1/NETM/DM のサービスを停止してください。

バージョンアップの対象となる OS が Windows XP の場合だけ、OS の上書きインストールができます。

OS を上書きしてバージョンアップする場合は、OS を初期化してからバージョンアップする際の手順 2 が不要です。また、アンインストールする際に、上位システムが管理するホストの情報を削除しないでください。

OS を初期化、およびバージョンアップしてから 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client をインストールする手順を次に示します。

1. JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ下のバックアップを取得する。
次に示すディレクトリのバックアップを取得してください。
 - CLIENT
 - DMAMT
 - MASTER¥DB
 - USERINV
2. Windows フォルダ下のバックアップを取得する。
次に示すディレクトリのバックアップを取得してください。
 - NETMDMP.HID
3. JP1/NETM/DM Client をアンインストールする。
アンインストールの方法については、マニュアル「構築ガイド」の「1.4 JP1/NETM/DM をアンインストールする」を参照してください。
4. OS をバージョンアップする。

5. 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client をインストールする。
インストールの手順については、マニュアル「構築ガイド」の「3. JP1/NETM/DM Client をインストールする」を参照してください。
6. クライアントマネージャでクライアントを停止する。
7. バックアップを復元する。

付録 A.5 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のセットアップ

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のセットアップ手順は、JP1/NETM/DM Client をセットアップする手順と同じです。ただし、8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のセットアップには、次の差異があります。

- 常に一般ユーザ権限で使用するため、[権限] パネルが非表示になります。
- 常にクライアントを常駐するため、[クライアント常駐・ポーリング] パネルの「クライアントを常駐する」チェックボックスがすでにチェックされ、非活性になります。

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のセットアップ方法については、マニュアル「構築ガイド」の「5. JP1/NETM/DM Client (中継システム) をセットアップする」および「6. JP1/NETM/DM Client (クライアント) をセットアップする」を参照してください。

なお、セットアップ後に [プログラムの互換性アシスタント] ダイアログボックスが表示された場合は、「このプログラムは正しくインストールされました」を選択してください。

付録 A.6 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client を使用する ときの注意事項

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client を使用する時の注意事項について説明します。

(1) マネージャ側の注意事項

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client を使用する時のマネージャ側の注意事項を次に示します。

OS が Windows Vista の場合に 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のレジストリ情報を取得するときは、OS 種別について、次の点に注意してください。

- バージョンが 08-02 以前のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「すべての OS」を選択してください。
- バージョンが 08-10 以降のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「Windows Vista」または「すべての OS」を選択してください。

OS が Windows Server 2008 の場合に 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のレジストリ情報を取得するときは、OS 種別について、次の点に注意してください。

- バージョンが 08-11 以前のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「すべての OS」を選択してください。
- バージョンが 08-50 以降のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「Windows Server 2008」または「すべての OS」を選択してください。

OS が Windows Server 2008 R2 の場合に 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のレジストリ情報を取得するときは、OS 種別について、次の点に注意してください。

- バージョンが 09-00 以前のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「すべての OS」を選択してください。
- バージョンが 09-01 以降のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「Windows Server 2008 R2」または「すべての OS」を選択してください。

OS が Windows 7 の場合に 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のレジストリ情報を取得するときは、OS 種別について、次の点に注意してください。

- バージョンが 09-00 以前のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「すべての OS」を選択してください。
- バージョンが 09-01 以降のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「Windows 7」または「すべての OS」を選択してください。

OS が Windows 8 の場合に 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のレジストリ情報を取得するときは、OS 種別について、次の点に注意してください。

- バージョンが 09-50 以前のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「すべての OS」を選択してください。
- バージョンが 09-51 以降のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「Windows 8」または「すべての OS」を選択してください。

OS が Windows Server 2012 の場合に 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のレジストリ情報を取得するときは、OS 種別について、次の点に注意してください。

- バージョンが 09-50 以前のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「すべての OS」を選択してください。
- バージョンが 09-51 以降のマネージャの場合は、[項目設定] ダイアログボックスの「OS 種別」で「Windows Server 2012」または「すべての OS」を選択してください。

Windows のリソースとして保護されているファイルおよびレジストリを変更するジョブはエラーになります。

次に示すディレクトリまたはファイルにシンボリックリンク、ハードリンク、およびジャンクションを設定しないでください。

- パッケージング時またはリモートインストール時に指定する、インストール先ディレクトリ
- リモートコレクトの対象となるディレクトリおよびファイル

上記のディレクトリおよびファイルにシンボリックリンク、ハードリンク、およびジャンクションが設定されている場合、パッケージング、リモートインストール、およびリモートコレクトの処理の対象になりません。

8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client がオフラインマシンの場合、バージョンが 08-10 以降の JP1/NETM/DM Manager でインストールおよびインベントリ取得のための媒体を作成してください。バージョンが 08-02 以前の JP1/NETM/DM で作成した媒体を 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client で実行した場合はエラーとなります。

(2) クライアント側の注意事項

OS が Windows 8、Windows 7 または Windows Vista の場合に 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client を使用する際のクライアント側の注意事項を次に示します。

なお、クライアントを使用する際の全般的な注意事項については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「2.13.7 クライアントを使用する場合の注意事項」を参照してください。

OS が Windows 8 の場合、タスクマネージャーからスタートアッププログラムを無効にすることができませんが、JP1/NETM DM Client (中継システム) が登録しているプログラムを決して無効にしないでください。

ださい。

次に示す動作を実行する場合は、[ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスが表示されます。動作を実行する場合はプログラムの実行を許可してください。動作を実行しない場合は、プログラムの実行をキャンセルしてください。

- クライアントのインストール
- クライアントセットアップの起動
- パッケージの起動
- クライアントマネージャの起動
- オフラインによるインベントリ情報の取得
- オフラインインストールの実行

注

OS の管理権限を持たないユーザが実行する場合は、OS の管理権限を持つユーザに昇格してから実行してください。

シフト JIS に変換できない文字は、「?」または「??」で表示されます。なお、JIS コード第 3 水準および第 4 水準の文字を入力した場合は、文字が「?」として入力されます。

ユーザの簡易切り替え機能を使用して、複数のユーザで 8・2012・7・2008・Vista 版 JP1/NETM/DM Client のアプリケーションを同時に実行することはできません。

付録 B 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の機能

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client は、OS が Windows Server 2003 (IPF) のコンピュータを、JP1/NETM/DM システムのクライアントとして管理するために必要なプログラムです。64 ビット版 JP1/NETM/DM Client をインストールすることで、OS が Windows Server 2003 (IPF) のコンピュータに対して、リモートインストールやインベントリの管理などの JP1/NETM/DM の機能を使用できます。

なお、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client はクライアントとしてだけ使用できます。中継システムとしては使用できません。64 ビット版の JP1/NETM/DM Client - Base はありません。

ここでは、OS が 32 ビット版の Windows のコンピュータにインストールできる JP1/NETM/DM Client を、32 ビット版 JP1/NETM/DM Client と呼びます。

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client は、同じバージョンの 32 ビット版 JP1/NETM/DM Client と次に示す差異があります。

ハードウェアに関する見積もり

前提となる CPU 性能、メモリ所要量、およびディスク占有量が異なります。ハードウェアに関する見積もりについては、「付録 B.2 ハードウェアに関する見積もり」を参照してください。

使用できるコンポーネントと機能

使用できるコンポーネントと機能が異なります。使用できるコンポーネントと機能については、「付録 B.3 使用できるコンポーネントと機能差異」を参照してください。

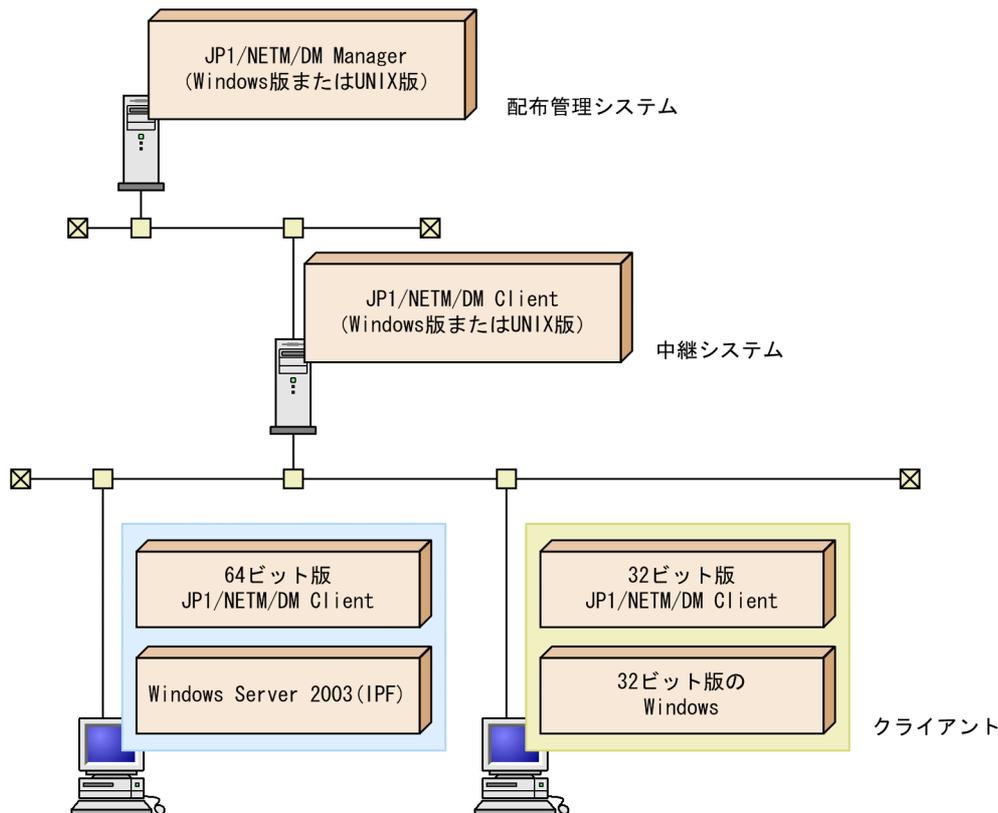
インストール手順

インストール手順が一部異なります。インストール手順については、「付録 B.4 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール」を参照してください。

付録 B.1 システム構成

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client が混在する場合の JP1/NETM/DM のシステム構成例を次の図に示します。

図 B-1 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client が混在するシステム構成例



64 ビット版 JP1/NETM/DM Client を使用することで、OS が Windows Server 2003 (IPF) のコンピュータを、32 ビット版 JP1/NETM/DM Client と同様にクライアントとして管理できます。

付録 B.2 ハードウェアに関する見積もり

ここでは、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の各コンポーネントを動作させるために必要な CPU 性能、およびメモリ所要量について説明します。また、各コンポーネントのディスク占有量についても説明します。

(1) CPU 性能

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の各コンポーネントを動作させるために必要な CPU 性能を次の表に示します。

表 B-1 各コンポーネントに必要な CPU 性能

コンポーネント	CPU 性能
クライアント	Itanium 2 733 メガヘルツ以上
パッケージャ	
リモートコントロールエージェント	

(2) メモリ所要量

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の各コンポーネントのメモリ所要量を次の表に示します。

表 B-2 各コンポーネントのメモリ所要量

コンポーネント	メモリ所要量 (メガバイト)
クライアント	168 以上
パッケージ	149 以上
リモートコントロールエージェント	a + b + c + d + e 以上

注

- a: 描画用の一時バッファ (標準的なアプリケーションの場合, 5 メガバイト)
- b: ファイル転送中の一時バッファ (2 メガバイト)
- c: 接続用のバッファ (1 メガバイト × 接続コントローラ数)
- d: チャットサーバ用のバッファ (2 + (0.1 × 接続数) メガバイト)
- e: チャットクライアント用のバッファ (2 + (0.2 × 接続数) メガバイト)

(3) ディスク占有量

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の各コンポーネントのディスク占有量を次の表に示します。

表 B-3 各コンポーネントのディスク占有量

コンポーネント		ディスク占有量 (メガバイト)
クライアント	クライアント	25
	付加機能	6
	パッケージセットアップマネージャ	3
パッケージ		17
リモートコントロールエージェント		26
オンラインヘルプ		1
JP1/NETM/DM Client が共通に使用する領域		13

付録 B.3 使用できるコンポーネントと機能差異

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client は, 32 ビット版 JP1/NETM/DM Client と比べて, 使用できるコンポーネントや機能に差異があります。ここでは, 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client で使用できるコンポーネントと機能差異について説明します。

(1) 使用できるコンポーネント

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client で使用できるコンポーネントについて次の表に示します。

表 B-4 使用できるコンポーネント

コンポーネント		使用の可否
クライアント	クライアント	
	付加機能	
	パッケージセットアップマネージャ	
	Visual Test 6.0 による配布機能	×
パッケージ		
リモートコントロールエージェント	リモートコントロールエージェント	

コンポーネント		使用の可否
	チャット	
Automatic Installation Tool		×
スタートアップキット機能支援ツール		×
オンラインヘルプ		

(凡例) : 使用できる × : 使用できない

(2) 使用できる機能の差異

次に示す機能は、JP1/NETM/DM システムでクライアントが 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の場合は使用できません。

AIT ファイルまたはレコーダファイルを使用したリモートインストール

暗号化されたパッケージのリモートインストール

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のパッケージング時でのコンポーネントの選択

パッケージデータの暗号化

Microsoft Office 製品・ウイルス対策製品の検索

パッチ情報の取得

オフラインマシンからのインベントリ情報と稼働情報の取得

オフラインインストール

ソフトウェアの稼働状況の監視

コンピュータに適用されていないパッチの検出

クライアントへのメッセージ通知

更新されたインベントリ情報の上位システムへの自動通知

収集ファイルの暗号化

「クライアント Web インストール」および「スタートアップキット機能支援ツール」がインストールされている PC に対してのインストール制限

パッケージの上書きインストール時にエラーが発生した場合の、インストール済みパッケージの情報の保管

注

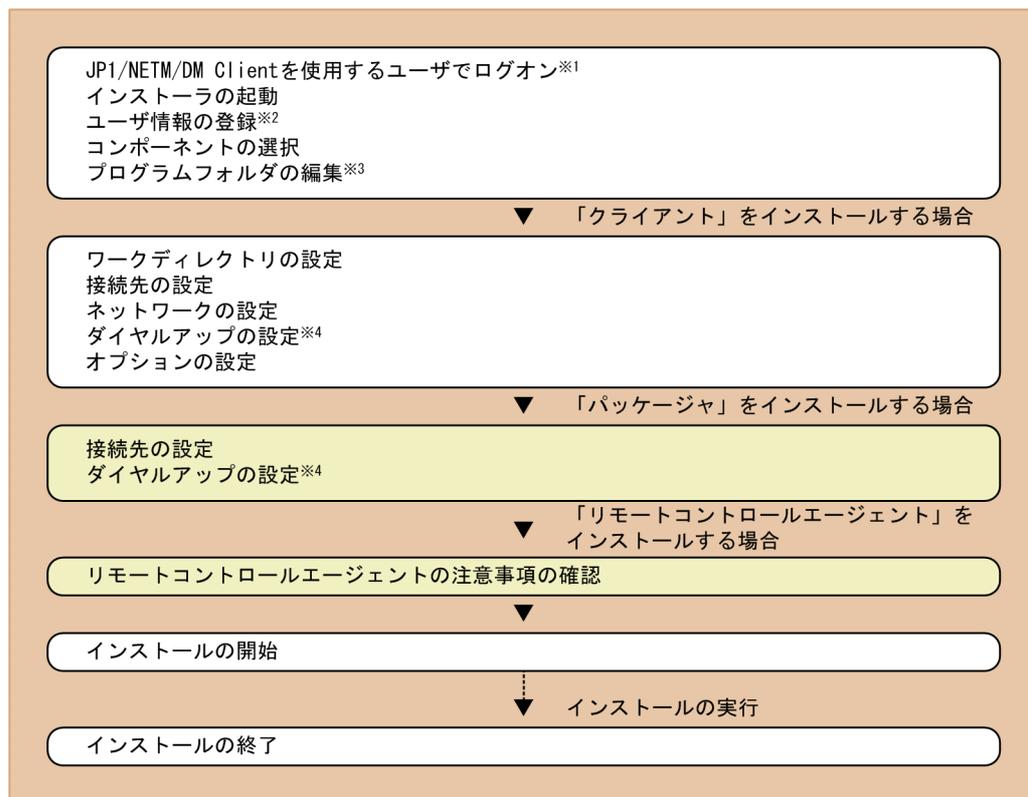
64 ビット版 JP1/NETM/DM Client をパッケージングする場合、[コンポーネントの選択] パネルは表示されません。

付録 B.4 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール

ここでは、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール手順について説明します。

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール手順を次の図に示します。

図 B-2 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール手順



(凡例)

- : 「クライアント」のインストール手順
- : オプションのコンポーネントをインストールする場合に必要な設定

注 1
「一般ユーザ権限でのインストール機能」を使用すれば、インストールしたユーザ以外でも 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client を使用できます。

注 2
新規インストールの場合だけ表示されます。

注 3
新規インストールの場合、またはプログラムフォルダを作成していない環境への上書きインストールの場合だけ表示されます。

注 4
「接続先の設定」で、「ダイヤルアップ接続」を選択した場合だけ表示されます。

JP1/NETM/DM Client のプレインストール機能を使うと、1 台のコンピュータでクライアント環境を作成し、そのハードディスクをコピーするだけでインストールを完了できます。JP1/NETM/DM Client のプレインストール機能を使ったインストール方法については、マニュアル「構築ガイド」の「1.2.3 プレインストール機能を使用した JP1/NETM/DM Client (クライアント) のインストール方法」を参照してください。

次に、各手順を説明します。

(1) ログオン

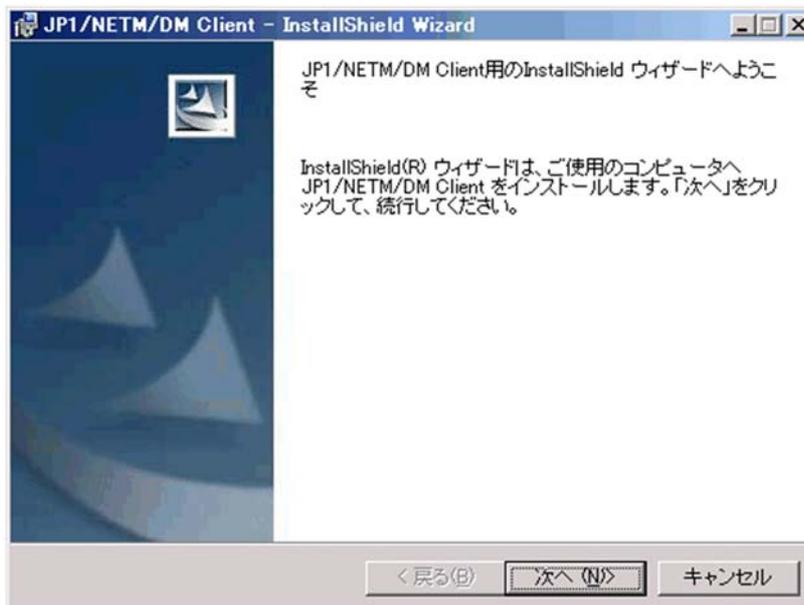
インストールするときは、Administrator 権限を持ったユーザでコンピュータにログオンしてください。このユーザが 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client を操作するユーザになります。ただし、インストールしたあとセットアップ時に「一般ユーザ権限で使用する」の設定を有効にした場合は、インストールしたユーザ以外のユーザでも 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client を使用できます。

(2) インストーラの起動

提供媒体を CD-ROM ドライブに入れ、起動したインストーラの指示に従ってインストールを進めます。インストーラが起動されない場合は、DISK1 ディレクトリ下にある jp1dmclt.msi を起動してください。

インストーラを起動すると、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストールプログラムが起動し、[ようこそ] ダイアログボックスが表示されます。

図 B-3 [ようこそ] ダイアログボックス



[次へ] ボタンをクリックするとインストールを続行します。インストールを中止するときは [キャンセル] ボタンをクリックします。また、以降のダイアログボックスで [戻る] ボタンをクリックすると、一つ前のダイアログボックスに戻ります。

(3) ユーザ情報の登録

ユーザの名前と所属を [ユーザ情報] ダイアログボックスで登録します。

図 B-4 [ユーザ情報] ダイアログボックス



ユーザ名

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client を使用するユーザ名を、全角、半角の区別なく、80 文字以内で指定します。省略した場合は、OS のインストール時に設定したユーザ名が指定されます。

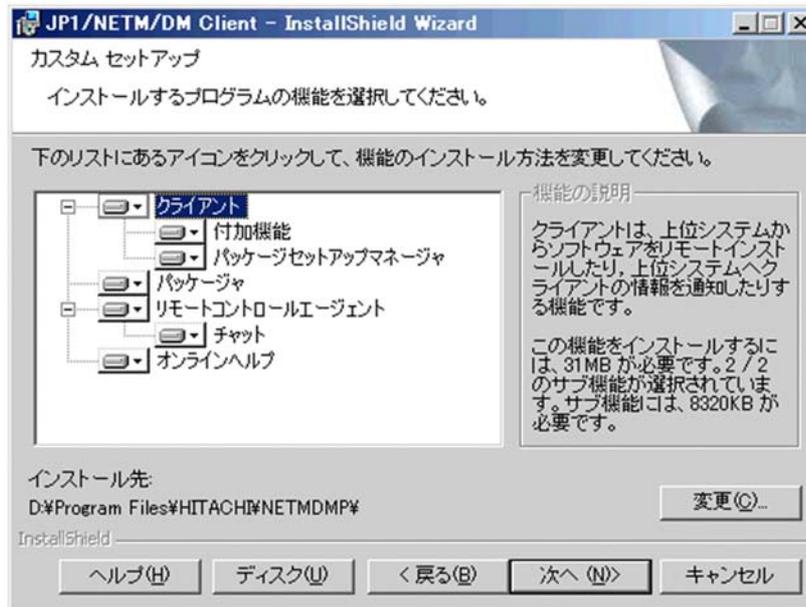
所属

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client を使用するユーザの所属を、全角、半角の区別なく、50 文字以内で指定します。省略した場合は、OS のインストール時に設定した所属が指定されます。

(4) コンポーネントの選択

インストールするコンポーネントおよびサブコンポーネントを選択します。また、インストール先のフォルダを変更できます。

図 B-5 [カスタム セットアップ] ダイアログボックス



(a) コンポーネントの選択

インストールするコンポーネントおよびサブコンポーネントを選択します。サブコンポーネントは、コンポーネント名の下にツリー形式で表示されます。「クライアント」を選択しないと、「クライアント」のサブコンポーネントは選択できません。選択できるコンポーネントおよびサブコンポーネントについての説明を次の表に示します。

表 B-5 選択できるコンポーネントおよびサブコンポーネント

コンポーネントおよびサブコンポーネント	説明
クライアント	JP1/NETM/DM システムのクライアントとして管理するために必要な機能です。
付加機能	ユーザが作成したプログラムを使って、クライアントを操作するための機能です。通常はインストール不要です。
パッケージセットアップマネージャ	配布管理システムから配布されたソフトウェアを、クライアント側からの指示でリモートインストールする機能です。
パッケージャ	リモートインストールするソフトウェアをパッケージングする機能を提供します。
リモートコントロールエージェント	リモートコントロールでの、エージェントの機能を提供します。
チャット	リモートコントロールでのチャット機能です。
オンラインヘルプ	JP1/NETM/DM Client のオンラインヘルプを提供します。

コンポーネントの選択方法について確認したい場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

インストールに必要なディスク容量、および現在使用できる空きディスク容量を確認したい場合は、[ディスク] ボタンをクリックしてください。

コンポーネント選択時の注意事項を次に示します。

オンラインヘルプだけのインストールはできません。

64 ビット版 JP1/NETM/Remote Control Agent がインストールされているコンピュータに対しては、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のリモートコントロールエージェントをインストールできません。

64 ビット版 JP1/NETM/Remote Control Agent をアンインストールしてからインストールしてください。

バージョンアップ時は、インストールされていないコンポーネントおよびサブコンポーネントを追加できますが、すでにインストールされているコンポーネントおよびサブコンポーネントは削除できません。

(b) インストール先フォルダの変更

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール先のフォルダを変更したい場合は、[変更] ボタンをクリックしてください。

インストール先フォルダの変更時の注意事項を次に示します。

インストール先フォルダは、新規インストールの場合だけ変更できます。

インストール先フォルダにネットワークドライブを設定しないでください。ネットワークドライブを設定した場合、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の動作は保証されません。

(5) プログラムフォルダの編集

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のアイコンの登録先となるプログラムフォルダを作成するかどうかを選択します。このダイアログボックスは、新規インストールの場合、またはプログラムフォルダを作成していない環境への上書きインストールの場合だけ表示されます。プログラムフォルダが作成済みの環境へ上書きインストールする場合は、既存のプログラムフォルダが自動で使用されます。

図 B-6 [プログラムフォルダの編集] ダイアログボックス



デフォルトでは、「作成する」が選択されています。「作成する」を選択した場合、[JP1_NETM_DM Client] グループにアイコンが登録されます。

「作成しない」を選択した場合、GUI インストールモードのパッケージはインストールできなくなります。プログラムフォルダを作成しないで GUI インストールモードのパッケージをインストールするには、次のどちらかで対処してください。

「GUI モードインストーラの作成」チェックボックスをオンにする

この項目を選択すると、GUI インストールモードが使用できます。「クライアント」をインストールす

ると、「GUI モードインストーラの作成」を選択できます。

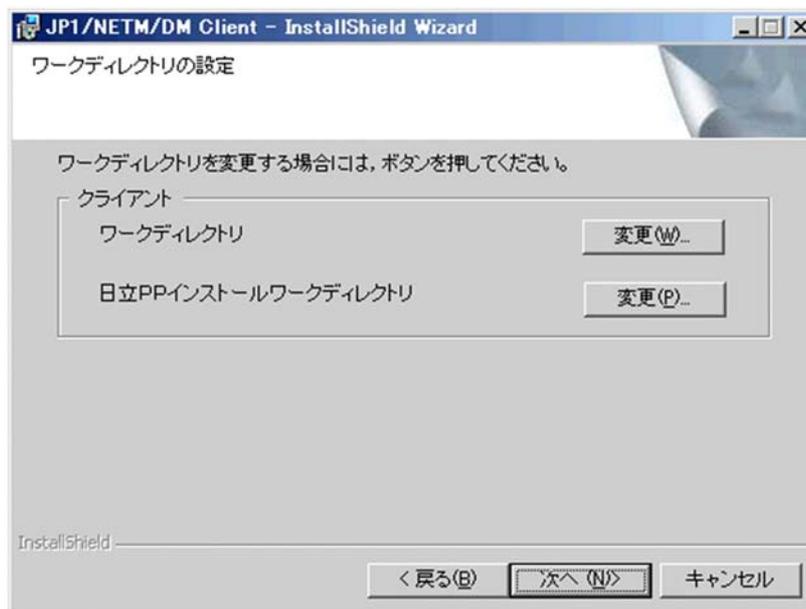
なお、「GUI モードインストーラの作成」を選択した場合、プログラムフォルダは作成されませんが、[NETM_DM_P スタートアップ] フォルダが作成される場合があります。[NETM_DM_P スタートアップ] フォルダの作成については、「(10) オプションの設定」を参照してください。

インストール終了後に、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール先ディレクトリ ¥BIN 下の dmpsetup.exe を起動する

(6) ワークディレクトリの設定

このダイアログボックスは、「クライアント」をインストールする場合に表示されます。各項目の右側の [変更] ボタンをクリックすると、それぞれのワークディレクトリを変更できます。

図 B-7 [ワークディレクトリの設定] ダイアログボックス



(a) ワークディレクトリの変更

クライアントがリモートインストールするとき使用する、各デフォルトワークディレクトリを変更できます。設定後に、[OK] ボタンをクリックすると、[ワークディレクトリの設定] ダイアログボックスに戻ります。

図 B-8 ワークディレクトリを変更するダイアログボックス



インストールワークディレクトリ

クライアントがパッケージをインストールするときに使用するディレクトリのフルパスを、半角 127 文字（全角 63 文字）以内で指定します。

インストールワークディレクトリには、インストールするパッケージと同じ容量が必要です。空き容量が 50 メガバイト以上のドライブを指定することをお勧めします。

インストール失敗時のリストア用バックアップディレクトリ

クライアントがリモートインストールするソフトウェアのバックアップを保存するディレクトリのフルパスを、半角 127 文字（全角 63 文字）以内で指定します。

(b) 日立 PP インストールワークディレクトリの変更

日立プログラムプロダクトのインストールワークディレクトリ（NETMDMWK ディレクトリ）のドライブを変更できます。設定後に [OK] ボタンをクリックすると、[ワークディレクトリの設定] ダイアログボックスに戻ります。

図 B-9 日立 PP インストールワークディレクトリを変更するダイアログボックス



日立 PP インストールワークディレクトリ作成ドライブ

日立プログラムプロダクトのインストールに使用するワークディレクトリを作成するドライブを選択

してください。ネットワークドライブは指定しないでください。ネットワークドライブを指定した場合、動作は保証されません。

「日立 PP インストール時に作成・削除する」チェックボックス

日立プログラムプロダクトをインストールしたあと、そのディレクトリを削除するかどうかを選択できます。ディレクトリを削除する場合は、「日立 PP インストール時に作成・削除する」チェックボックスをオンにします。デフォルトはチェックボックスがオンです。

「日立 PP インストール時に作成・削除する」チェックボックスをオンにした場合の注意事項を次に示します。

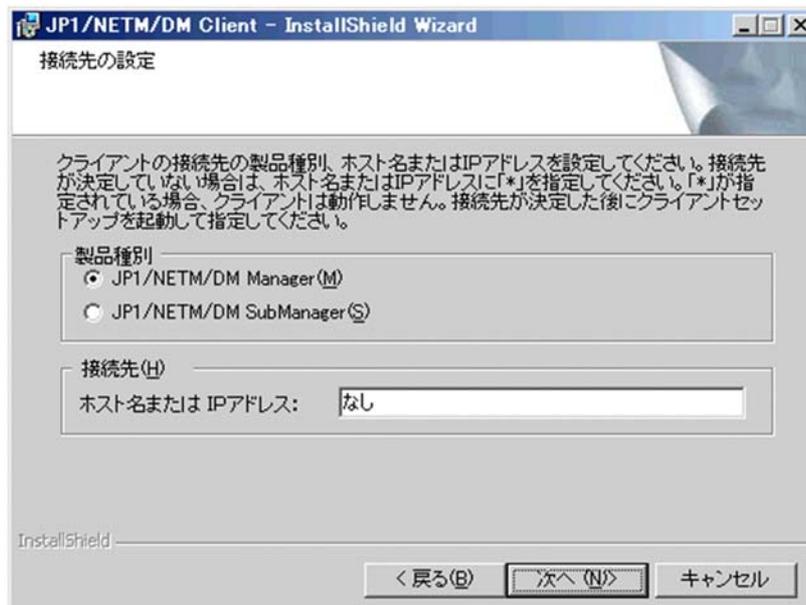
- 作成したドライブに対して、「読み取り」、「書き込み」、および「削除」のアクセス権が必要です。これらのアクセス権が設定されていないと日立プログラムプロダクトのインストールが失敗します。
- 「日立 PP インストール時に作成・削除する」チェックボックスをオンにしても、インストール後に NETMDMWK ディレクトリが残る場合があります。その場合は、コンピュータの再起動時、またはポーリング時に削除されます。

(7) クライアントの接続先の設定

クライアントが接続する上位システムを設定します。このダイアログボックスは、「クライアント」をインストールする場合に表示されます。

なお、接続先はセットアップ時に変更できます。

図 B-10 [接続先の設定] ダイアログボックス



製品種別

クライアントが接続する上位システムの製品種別を、「JP1/NETM/DM Manager」と「JP1/NETM/DM SubManager」から選択します。

32 ビット版 JP1/NETM/DM Client の中継システムに接続する場合は、「JP1/NETM/DM SubManager」を選択してください。

接続先

クライアントの接続先のホスト名または IP アドレスを、半角 64 文字以内で指定します。

接続先が未定の場合は「？」を指定してください。「？」を指定したクライアントでは、ローカルシステムビューアとシステム監視機能だけが使用できます。ほかの機能は、上位システムへの接続が必要な

ため使用できません。

また、プレインストール機能による 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストールで、ハードディスクのコピー元となるコンピュータ環境を作成する場合は、接続先に「*」を指定してください。接続先に「*」を指定すると、クライアントは動作しません。

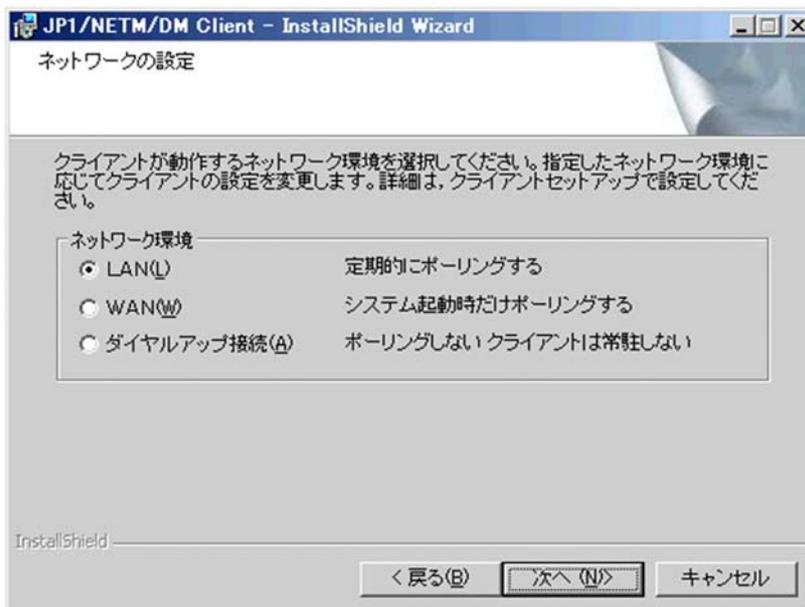
接続先を設定してから上書きインストールをする場合、「?」は指定できますが「*」は指定できません。「*」を指定したい場合は、アンインストールするか、セットアップで接続先を「*」に変更してからインストールし直してください。

(8) ネットワークの設定

クライアントが動作するネットワーク環境を選択します。選択したネットワーク環境に応じて、上位システムへのポーリングのタイミングが設定されます。このダイアログボックスは、「クライアント」をインストールする場合に表示されます。

ポーリングのタイミングの設定は、セットアップ時に変更できます。

図 B-11 [ネットワークの設定] ダイアログボックス



LAN

30 分ごとにポーリングするように設定されます。

WAN

クライアントを起動したときだけポーリングするように設定されます。

ダイヤルアップ接続

ポーリングしないように設定されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、「ダイヤルアップ接続」を選択した場合だけ [ダイヤルアップの設定] ダイアログボックスに進みます。「LAN」または「WAN」を選択した場合は、[オプションの設定] ダイアログボックスに進みます。

(9) ダイヤルアップの設定

クライアントがダイヤルアップ接続する場合に使用する認証情報を設定します。

なお、この設定はセットアップ時に変更できます。

図 B-12 [ダイヤルアップの設定] ダイアログボックス



「ユーザ名」、「パスワード」、および「ドメイン」を設定してください。

(10) オプションの設定

処理中ダイアログの表示、および一般ユーザ権限でのクライアント使用の可否について設定します。このダイアログボックスは、「クライアント」をインストールする場合に表示されます。

なお、この設定はセットアップ時に変更できます。

図 B-13 [オプションの設定] ダイアログボックス



処理中ダイアログ

クライアントで、ダウンロードやインストールなどを実行している間、実行処理中であることを示す

ダイアログボックスを表示させるかどうかを選択します。デフォルトは「処理中ダイアログを表示する」チェックボックスがオンです。

一般ユーザ権限

クライアントをインストールしたユーザ以外でも、パッケージをインストールできるように設定できます。

「一般ユーザ権限で使用する」チェックボックスをオンにすると、クライアントをインストールしたユーザ以外がログオンした状態でも、GUI インストールモードのパッケージをインストールできます。そのため、Administrator 権限を持たないユーザ（一般ユーザ）でも、パッケージをインストールできます。デフォルトは、「一般ユーザ権限で使用する」チェックボックスがオンです。

一般ユーザ権限でのインストールの詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「11.2.3 Windows NT の一般ユーザ権限でのインストール」を参照してください。

NETM_DM_P スタートアップ

[NETM_DM_P スタートアップ] フォルダを作成するかどうかを選択します。

[NETM_DM_P スタートアップ] フォルダには、Windows の [スタートアップ] グループに登録されたプログラムを移動できます。そのため、Windows の起動時に、[スタートアップ] グループに登録されたプログラムの起動と、64 ビット版 JP1/NETM/DM によるシステム起動時インストールが重複し、リモートインストールに失敗することを避けられます。

[NETM_DM_P スタートアップ] フォルダを作成する場合は、「NETM_DM_P スタートアップフォルダを作成する」チェックボックスをオンにしてください。デフォルトは、「NETM_DM_P スタートアップフォルダを作成する」チェックボックスがオフです。

スタートアッププログラムの移動の詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「11.2.2 システム起動時インストールのための準備」を参照してください。

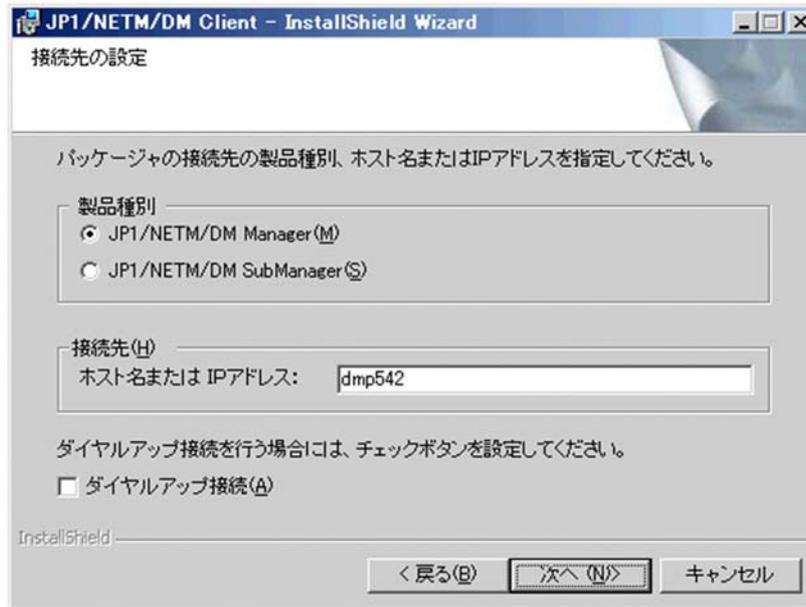
なお、[プログラムフォルダの選択] ダイアログボックスでプログラムフォルダの作成について「作成しない」を選択し、かつ、「GUI モードインストーラの作成」を選択しなかった場合、

[NETM_DM_P スタートアップ] フォルダは作成できません。

(11) パッケージの接続先の設定

パッケージの接続先を設定します。このダイアログボックスは、「パッケージ」をインストールする場合に表示されます。

図 B-14 [接続先の設定] ダイアログボックス



製品種別

パッケージの接続先の製品種別を、「JP1/NETM/DM Manager」と「JP1/NETM/DM SubManager」から選択します。

32 ビット版 JP1/NETM/DM Client の中継システムに接続する場合は、「JP1/NETM/DM SubManager」を選択してください。

接続先

パッケージの接続先のホスト名または IP アドレスを、半角 64 文字以内で指定してください。

ダイヤルアップ接続

パッケージがダイヤルアップ接続を使用して上位システムに接続する場合は、「ダイヤルアップ接続」チェックボックスをオンにしてください。

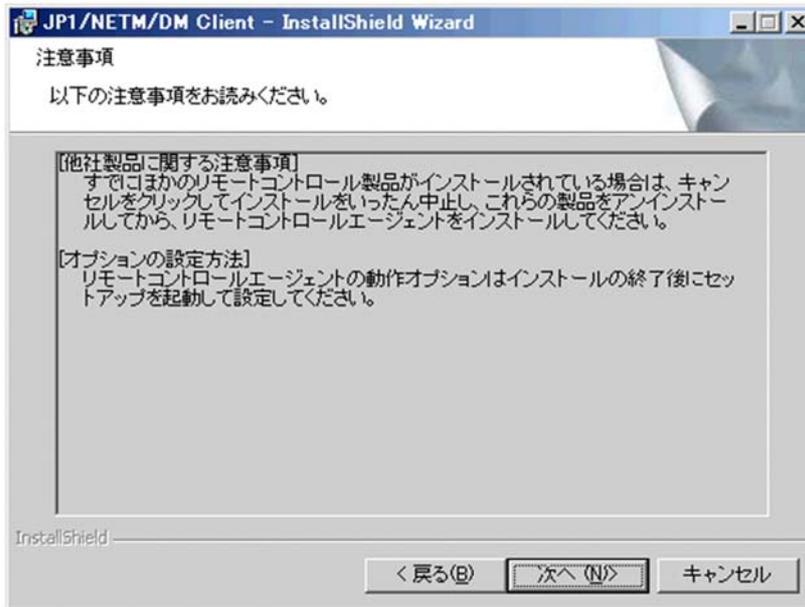
なお、この設定は、[JP1/NETM/DM パッケージ] ウィンドウの [JP1/NETM/DM ログオン] ダイアログボックスで変更できます。

[次へ] ボタンをクリックするとインストールを続行します。ただし、「ダイヤルアップ接続」を選択した場合だけ、次の設定に進む前に [ダイヤルアップの設定] ダイアログボックスが表示されます。内容は、「クライアント」がダイヤルアップ接続する場合の設定画面と同じです。詳細は「(9) ダイヤルアップの設定」を参照してください。なお、クライアントのダイヤルアップ接続とパッケージのダイヤルアップ接続は別々に設定します。どちらか一方をダイヤルアップ接続にしてもかまいません。

(12) リモートコントロールエージェントの注意事項の確認

新規に「リモートコントロールエージェント」をインストールする場合、[注意事項] ダイアログボックスが表示されます。

図 B-15 [注意事項] ダイアログボックス

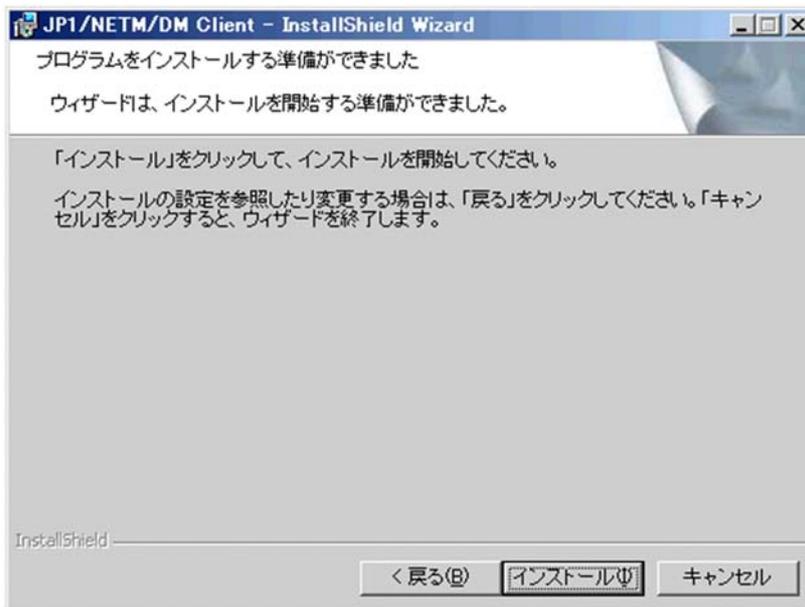


注意事項の詳細は、マニュアル「JP1/NETM/Remote Control」を参照してください。

(13) インストールの開始

インストールの開始を確認する [インストールの開始] ダイアログボックスが表示されます。

図 B-16 [インストールの開始] ダイアログボックス



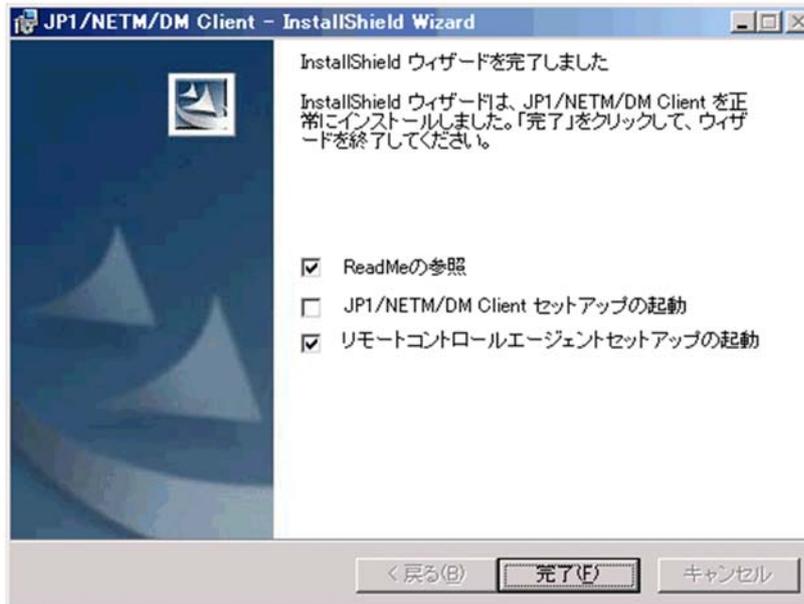
インストール内容の確認および変更が必要な場合は、[戻る] ボタンをクリックして、該当するダイアログボックスを表示します。

確認および変更が必要でなければ、[インストール] ボタンをクリックします。インストール状況を示すダイアログボックスが表示されて、インストールが開始されます。

(14) インストールの終了

インストールが終了すると、[インストールの終了] ダイアログボックスが表示されます。

図 B-17 [インストールの終了] ダイアログボックス



「ReadMeの参照」、「JP1/NETM/DM Client セットアップの起動」および「リモートコントロールエージェントセットアップの起動」から、インストール終了後にやりたい操作のチェックボックスをオンにし、[完了] ボタンをクリックしてください。インストールが終了します。

「リモートコントロールエージェント」をインストールした場合は、再起動を要求するダイアログボックスが表示されます。CD-ROM ドライブから提供媒体を取り出して、すぐに再起動するかあとで再起動するかを選択してください。

付録 B.5 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のインストール内容の変更

インストールしたコンポーネントを追加または削除するには、メンテナンスウィザードを使用します。メンテナンスウィザードを使用すると、前回インストールした設定での再インストールや、JP1/NETM/DM Client のアンインストールもできます。

メンテナンスウィザードを起動するには、インストール済みの製品の CD-ROM からインストーラを起動してください。同一バージョンのインストーラで上書きインストールすると、メンテナンスウィザードが起動します。[ようこそ] ダイアログボックスで [次へ] ボタンをクリックすると、[プログラムの保守] ダイアログボックスが表示されます。

図 B-18 [プログラムの保守] ダイアログボックス



「変更」、「修復」、または「削除」を選択します。それぞれの操作について説明します。

変更

新しいコンポーネントを追加したい場合や、インストール済みコンポーネントの一部を削除したい場合に選択します。

「変更」を選択して[次へ]ボタンをクリックすると、[カスタムセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。以降のダイアログボックスで、種別やインストールコンポーネントを変更し、新規インストールの場合と同様にインストールを進めてください。インストールが終了すると、[メンテナンスの完了]ダイアログボックスが表示されます。

修復

前回インストールしたすべてのコンポーネントを再インストールしたい場合に選択します。

「修復」を選択して[次へ]ボタンをクリックすると、[インストールの開始]ダイアログボックスが表示されます。[インストール]ボタンをクリックすると、再インストールが開始されます。再インストールが終了すると、[メンテナンスの完了]ダイアログボックスが表示されます。

削除

すべてのコンポーネントを削除し、JP1/NETM/DM Client をアンインストールしたい場合に選択します。

「削除」を選択して[次へ]ボタンをクリックすると、[プログラムの削除]ダイアログボックスが表示されます。[プログラムの削除]ダイアログボックスについては、「付録 B.6(2) アンインストールの手順」を参照してください。アンインストールが終了すると、[メンテナンスの完了]ダイアログボックスが表示されます。

付録 B.6 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のアンインストール

ここでは、64 ビット版 JP1/NETM/DM Client をアンインストールするときの注意事項と、アンインストール方法について説明します。

(1) アンインストールする前に

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client をアンインストールするときの注意事項を次に示します。

アンインストールする場合は、Administrator 権限、またはアンインストールするプログラムをインストールした管理者ユーザ名でログオンしてください。

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のプログラムを終了させてから、アンインストールを実行してください。アイコングループから起動する 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client のプログラム実行時にアンインストールを実行すると、異常終了する場合があります。

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client がインストールされたマシンで、1 台のマシンに複数のユーザが各ユーザ ID でログオンしている場合、セットアップで「NETM_DM_P スタートアップフォルダを作成する」チェックボックスをオンにすると、ユーザごとに [NETM_DM_P スタートアップ] フォルダが作成されます。64 ビット版 JP1/NETM/DM Client をアンインストールしたときは、アンインストールを実行したユーザの [NETM_DM_P スタートアップ] フォルダだけが削除されます。そのほかのユーザは、各自で [NETM_DM_P スタートアップ] フォルダを削除してください。

アンインストール時に、「上位システムが管理するシステム構成情報から、このホストの情報を削除します。」に対して「はい」を選択した場合、そのホストのホスト識別子管理ファイルが削除されるため、ホスト識別子が無効になります。

(2) アンインストールの手順

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client をアンインストールするには次の二つの方法があります。

メンテナンスウィザードの「削除」を選択してアンインストールする
[プログラムの削除] ダイアログボックスが表示されます。

図 B-19 [プログラムの削除] ダイアログボックス



[削除] ボタンをクリックすると、アンインストールが開始されます。アンインストールが終了すると、[メンテナンスの完了] ダイアログボックスが表示されます。

[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] からアンインストールする
64 ビット版 JP1/NETM/DM Client を削除するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。
[はい] ボタンをクリックすると、アンインストールが開始されます。

「クライアント」がインストールされている場合、上位システムに登録されているクライアントの情報を削除するかどうか選択するダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスで [はい] をクリック

した場合、アンインストール中に [キャンセル] ボタンをクリックしても、上位システムに登録されているクライアントの情報は削除されません。

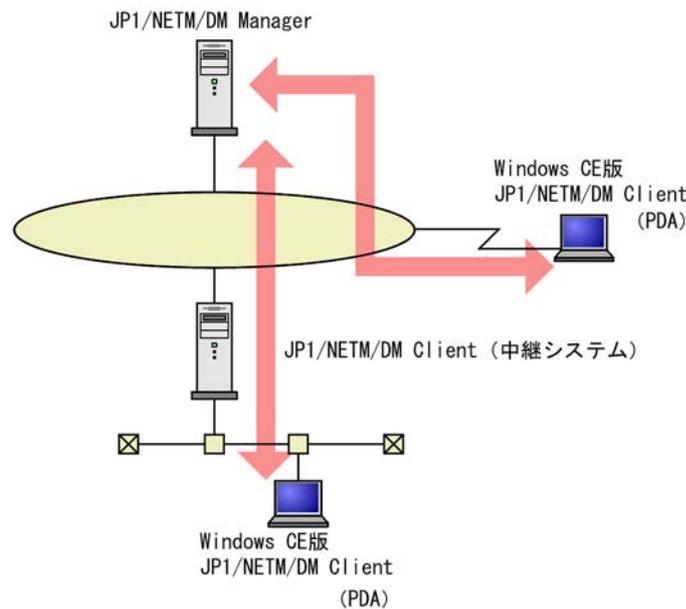
付録 C Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の機能

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の機能について説明します。

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client は、PDA を JP1/NETM/DM のクライアントとして利用するための、JP1 Version 7i のプログラムです。PDA に Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をインストールすると、これらの携帯情報端末へジョブを実行したり、これらからインベントリ情報を収集したりできます。

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のシステム構成を次の図に示します。

図 C-1 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のシステム構成



付録 C.1 サポートするハードウェアと OS

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client がサポートするハードウェアと搭載 OS を次に示します。

ハードウェア	搭載 OS
日立 NPD-20JWL	Windows CE .NET 4.1

付録 C.2 接続できる上位システムのバージョン

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client が接続できる上位システムのプログラムのバージョンを次に示します。

- Windows 版 JP1/NETM/DM Manager 07-00 以降
- Windows 版 JP1/NETM/DM SubManager 07-00 以降

付録 C.3 メモリおよびディスク占有量

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のメモリ所要量およびディスク占有量を次に示します。

(1) メモリ所要量

機能	メモリ所要量
クライアント	<ul style="list-style-type: none"> 実行時 850 キロバイト

(2) ディスク占有量

機能	ディスク占有量
クライアント	950 キロバイト
クライアント管理情報の保管	クライアント内パッケージ数 × 1.0 (単位: キロバイト)
パッケージ (ユーザデータ, ユーザプログラム) のインストール	「(3) パッケージのインストール時のディスク占有量」を参照してください。
リモートコレクト (ジョブ実行時に一時的に使用する)	「(4) リモートコレクト時のディスク占有量」を参照してください。

(3) パッケージのインストール時のディスク占有量

パッケージをインストールするときのディスク占有量の計算式を次に示します。算出式に使用する値はクラスタサイズで切り上げてください。

$$\text{ディスク占有量 (単位: バイト)} = \text{PCn} \times (944 + 2500) + (\text{RPSz}) + \text{MAX}(\text{RPSz}) + (\text{APSz}) + \text{PCn} \times 300$$

PCn

同時にリモートインストールするパッケージ数

RPSz

パッケージのサイズ。次の式で算出してください。

(パッケージ対象のファイル数 + ディレクトリ数) × 80 + リモートインストールするプログラムプロダクトの媒体内でのサイズ

APSz

インストール後のプログラムプロダクトのサイズ。バージョンアップ版を配布する場合は、旧バージョンとの差分のサイズになります。

(RPSz)

RPSz の合計値

(APSz)

APSz の合計値

MAX(RPSz)

RPSz の最大値

(4) リモートコレクト時のディスク占有量

リモートコレクト時のディスク占有量の計算式を次に示します。

$$\text{ディスク占有量 (単位: バイト)} = \text{PCn} \times (944 + 2500) + \text{MAX}(\text{RPSz}) + 944$$

PCn

同時に収集するファイル数

RPSz

1 ジョブで収集するアーカイブ後のデータのサイズ。次の式で算出してください。

(収集するファイル数 + ディレクトリ数) × 80 + 1 ジョブで収集するファイルの合計サイズ
MAX(RPSz)
RPSz の最大値

付録 C.4 サポートする機能一覧

クライアントのマシンが PDA の場合、JP1/NETM/DM Client で収集できる情報や JP1/NETM/DM Client で使用できる機能に制限があります。ここでは、Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client で使用できる機能、および Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をインストールした PDA に対して上位システムから実行できる機能について説明します。

次の機能は使用できません。

パッケージによるパッケージング

リモートコントロール機能

Web ブラウザを利用した JP1/NETM/DM Client のインストールとセットアップ (クライアント Web インストール)

JP1/NETM/DM Administrator Kit を利用した JP1/NETM/DM Client のインストールとセットアップ
暗号化されたパッケージのリモートインストール

(1) Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client で使用できる機能

JP1/NETM/DM Client の機能のうち、Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client で使用できる機能を表 C-1 ~ 表 C-3 に示します。

表 C-1 クライアント基本機能

機能名	項目	内容	使用の可否
システム構成情報	運用キー	ホスト名の運用	
		IP アドレスの運用	
		ホスト識別子の運用	
	システム構成の自動登録	新規インストール時のシステム構成自動登録	
		設定変更時のシステム構成自動登録	
		システム構成の削除	
ネットワーク関連	接続形態	LAN	
		WAN	×
		自動ダイヤリング	×
	ポーリング 形態	手動ポーリング	
		定期ポーリング (起動時 1 回)	×
		定期ポーリング (一定間隔)	×
		定期ポーリング (1 日 1 回設定時刻)	×
	マルチポーリング	定期ポーリング (1 日 1 回起動時)	×
		ホットスタンバイ (障害時に待機の中継システムに切り替え)	
		マルチホスト (複数の中継システムへのポーリング)	

機能名	項目	内容	使用の可否
	接続対象	JP1/NETM/DM Manager (PC)	
		JP1/NETM/DM SubManager (PC)	
		JP1/NETM/DM Manager (UNIX)	×
		JP1/NETM/DM SubManager (UNIX)	×
	サーバからの 起動要求	TCP プロトコルによる起動要求	×
		UDP プロトコルによる起動要求	×
	複数 LAN 接続対応	ネットワークアダプタが複数存在する環境での運用	×
接続先の自動設定	実行要求の送信による接続先の自動設定	×	
	上位接続先情報ファイル (dmhost.txt) による接続先の自動設定	×	
ID	ID 登録 (GUI)	ユーザによる ID への登録	×
	ID ジョブ	ID ジョブの実行制御	
クライアント制御	常駐 / 非常駐切替	クライアントが常駐する / しないの切り替え	×
	ジョブ制御	ユーザ主導によるジョブ実行 (GUI)	
		ユーザによるジョブの保留・キャンセル	×
	インベントリ情報の自動通知	更新されたインベントリ情報の上位システムへの自動通知	×
	クライアントの起動・終了	クライアントマネージャ (GUI) によるクライアントの起動・終了	×
	スタートアップ移行	[スタートアップ] グループのプログラムを [NETM_DM_P スタートアップ] フォルダに移動	×
	一般ユーザ権限	一般ユーザ権限でのクライアント操作	×
	PC の再起動	インストール後のクライアント PC の自動再起動	×
	差分通知の抑止	ジョブのインストール / 収集待ち通知の抑止	×
	クライアント制御	クライアント制御によるリモート起動とシャットダウン	×
障害関連	ログ出力	ログファイル	
		イベントビューア	×
	リトライ処理	接続時, 通信エラー時のリトライ	
		ジョブ実行失敗の場合のリトライ	×
未送信通知ファイルの送信		×	
ダンプ機能	プロトコルダンプ		
デスクトップ関連	処理中ダイアログ	処理中ダイアログの表示	
		ダイアログのカスタマイズ	×
		サーバ主導の処理中ダイアログの表示	×
バックアップ / リストア	バックアップ	リモートインストール前に旧バージョンをバックアップ	×
	リストア	バックアップした旧バージョンをリストア	×
配布方法	分割配布	分割されたパッケージの受信	×
	マルチキャスト配布	マルチキャスト配布されたジョブの受信	×
圧縮	圧縮方式	互換モード圧縮 圧縮	×

機能名	項目	内容	使用の可否
		解凍	×
	高圧縮	圧縮	×
		解凍	
ジョブの中断・再開	中断	ジョブの中断	×
	再開	ジョブの再開	×
	中断中の配布	中断中のジョブ配布	×
システム監視とアラート通知	システム監視	ハードウェアの異常を監視	×
	アラート通知	ハードウェアの異常を上位システムに通知	×
	ローカルシステムビューア	クライアント情報の表示とシステム監視の条件設定	×

(凡例) : 使用できる × : 使用できない

注

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の場合のマルチボーリングは、ボーリングのしかたが JP1/NETM/DM Client とは異なります。詳細については、「付録 C.8 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client でのマルチボーリング」を参照してください。

表 C-2 インストールとセットアップ

機能名	項目	内容	使用の可否
インストール	InstallShield	InstallShield スクリプトによるインストール制御	×
	コンポーネントのインストール	クライアントのインストール対象ファイルをコピー	
	サブコンポーネント	サブコンポーネント単位のインストール	×
	システム構成の自動登録	インストール終了時にシステム構成を自動登録	
アンインストール	コンポーネント	インストールしたファイルを削除	
	サブコンポーネント	サブコンポーネント単位のアンインストール	×
	システム構成の削除通知	アンインストール開始時にシステム構成の削除通知を発行	
セットアップ	セットアップ	上位接続先の設定	
		詳細設定	
	セットアップの保護	パスワードによるセットアップ情報の保護	×

(凡例) : 使用できる × : 使用できない

表 C-3 コマンド

機能名	内容	使用の可否
バックアップファイルの確認	dmpbklst コマンド	×
バックアップファイルの削除	dmpbkdel コマンド	×
リストアの再試行	dmprevry コマンド	×

(凡例) × : 使用できない

(2) 上位システムから実行できる機能

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をインストールした PDA に対して、上位システムから実行できる機能について表 C-4 ~ 表 C-7 に示します。

なお、Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client 用にパッケージを作成する場合、Windows 版のバージョン 07-00 以降のパッケージを使用してください。

表 C-4 ソフトウェアの配布機能（リモートインストール）

機能名	項目	内容		使用の可否
PUSH 型	リモートインストール	サーバ主導によるリモートインストール		×
		ユーザ主導（ポーリング）によるリモートインストール		
	オフラインインストール	ネットワークを介さないインストール		×
PULL 型	クライアントインストール	パッケージセットアップマネージャ（GUI）		×
	インストール方法	自動		×
		手動		×
配布設定	システム条件	上書インストールの可否		
		ハードディスクの空き容量		×
		CPU 種別		×
		コプロセッサ有無		×
		実メモリ容量		×
		ユーザ利用可能メモリ容量		×
		GDI システムリソース容量		×
		OS バージョン		×
		ドライブ（A ~ Z）		×
		ドライブ（1 ~ 9）		
	ディレクトリ ¹			
	ソフトウェア条件	指定パッケージのインストール状態		×
		指定パッケージのバージョンチェック		×
アイコン作成	アイコン、ショートカットの作成		×	
外部プログラム起動 ²	インストール直前に起動	パスの指定		
		外部プログラム用詳細設定	外部プログラムの時間監視	
			外部プログラムの処理結果の取得	
			処理結果エラー時の取り扱い	
	インストール直後に起動	パスの指定		
		外部プログラム用詳細設定	外部プログラムの時間監視	
外部プログラムの処理結果の取得				

機能名	項目	内容	使用の可否
		処理結果エラー時の取り扱い	
		インストールエラー時に起動	×
		外部プログラム監視時間	
	パッケージ種別	日立プログラムプロダクト（標準仕様）	×
		日立プログラムプロダクト（Groupmax 関連）	×
		日立プログラムプロダクト（InstallShield 対応）	×
		日立プログラムプロダクト（クライアント自身の配布）	
		日立プログラムプロダクト（OpenTP1）	×
		差分パッケージ	×
		他社ソフトウェア	×
		ユーザデータ	
	インストール方法 ³	GUI インストールモード	×
		バックグラウンドインストールモード	×
	インストールタイミング	通常インストール	
		システム起動時インストール	×
		システム停止時インストール	×
	インストール日時	指定日時のインストール実行	×

（凡例） : 使用できる × : 使用できない

注 1

インストール先ディレクトリのパスの合計は半角 64 文字以内です。

注 2

外部プログラムのパスを指定する場合、次に示す注意事項があります。

- 指定できるパスの長さには次の制限があります。パスの長さは、パスと引数の合計になります。

インストール直前の 外部プログラム	インストール直後の外部プログラム	
	あり	なし
あり	直後 + 直前のパスの合計が半角 62 文字以内	半角 60 文字以内
なし	半角 64 文字以内	パスの指定は不要

- パッケージまたはリモートインストールマネージャから外部プログラムのパスを指定する場合は、パスの長さがチェックされません。
- Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client 用にパッケージを作成し、かつ外部プログラムのパスに仮想ドライブ文字（例：1:¥）を使う場合は、外部プログラムのパス全体を「」で囲んでください。

（例）

"1:¥temp¥abc.exe"

"1:¥temp¥abc.exe" / 引数（ユーザ指定）

注 3

指定しても無視されます。「バックグラウンドインストールモード」が仮定されます。

表 C-5 インベントリ情報の管理機能

機能名	項目	内容	使用の可否	
ハードウェアインベントリ	システム情報	すべてのハードウェア情報の取得		
		変更部分のハードウェア情報だけ取得	×	
	レジストリ収集	レジストリ収集項目の転送	×	
		レジストリ情報の送信	×	
ユーザインベントリ	ユーザ情報設定	ユーザ情報設定ダイアログ (GUI)	×	
	ユーザ情報取得	ユーザ情報設定項目の転送	×	
		ユーザ情報の送信	×	
ソフトウェア情報	JP1/NETM/DM でインストールしたソフトウェアを検索	JP1/NETM/DM によって配布されたソフトウェアの検索	×	
	すべてのソフトウェアを検索	デフォルトリストによる検索	×	
		ユーザ指定の検索リストによる検索	×	
		検索対象ディレクトリの指定	×	
		適用されているパッチの情報、および適用されていないパッチの情報の取得	×	
	「アプリケーションの追加と削除」のソフトウェアを検索	[アプリケーションの追加と削除] または [プログラムの追加と削除] で表示されるソフトウェアだけの検索	×	
	ファイルを検索	検索対象ディレクトリ/ファイルの指定	×	
		検索除外ディレクトリ/ファイルの指定	×	
		全検索結果の通知	×	
		検索結果の差分通知	×	
	ソフトウェア情報管理	配布パッケージの管理		
		ソフトウェア検索結果の管理	×	
		ファイル検索結果の管理	×	
		Microsoft Office 製品とウイルス対策製品の管理	×	
	実行制御	実行間隔	毎日実行	×
			毎週実行	×
毎月実行			×	
実行日時		実行日時の指定	×	
実行タイミング		システム稼働中実行		
		システム起動時実行	×	
		システム停止時実行	×	
情報収集方法		オフラインマシンからのインベントリ取得	×	

(凡例) : 使用できる × : 使用できない

注

システム情報として取得できる情報については、「(3) 取得できるシステム情報」を参照してください。

表 C-6 ファイル収集機能 (リモートコレクト)

機能名	項目	内容	使用の可否
リモートコレクト	収集対象 ¹	リモートコレクトの対象として設定したファイルまたはディレクトリ	
	収集ファイル格納ディレクトリ	リモートコレクトしたファイルをどのディレクトリに格納するかを指定	
	収集タイミング ²	クライアント稼働中	×
		クライアント起動時	×
	圧縮指定 ³	圧縮有無	×
	クライアントでの外部プログラム起動 ⁴	収集直前	
		収集直後	
収集エラー時		×	
許可	リモートコレクト許可サーバの設定	×	

(凡例) : 使用できる x : 使用できない

注 1

収集対象のパスを指定する場合は、次の点に注意してください。

- パッケージまたはリモートインストールマネージャから外部プログラムのパスを指定する場合は、パスの長さがチェックされません。
- 指定できるパスの長さは半角 63 文字以内です。64 文字以上を指定した場合は先頭から 63 文字が有効となります。
- 収集対象ファイルまたはディレクトリは一つだけ指定できます。複数指定した場合、先頭の指定だけ有効になります。

注 2

指定しても無視されます。「クライアント稼働中」が仮定されます。

注 3

指定しても無視されます。「圧縮なし」が仮定されます。

注 4

外部プログラムのパスを指定する場合は、次の点に注意してください。

- パスの長さは、パスと引数の合計になります。収集前および収集後共に半角 63 文字以内で指定してください。
- パッケージまたはリモートインストールマネージャから外部プログラムのパスを指定する場合は、パスの長さがチェックされません。
- Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client 用にパッケージを作成し、かつ外部プログラムのパスに仮想ドライブ文字 (例: 1:¥) を使う場合は、外部プログラムのパス全体を「"」で囲ってください。

(例)

"1:¥temp¥abc.exe"

"1:¥temp¥abc.exe" / 引数 (ユーザ指定)

表 C-7 クライアントの管理機能

機能名	内容	使用の可否
クライアントへのメッセージ通知	管理者からクライアントへメッセージを通知する	×
ソフトウェアの稼働状況の監視	ソフトウェアの稼働監視	×

(凡例) × : 使用できない

(3) 取得できるシステム情報

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をインストールした PDA から取得できるシステム情報を、次の表に示します。

表 C-8 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client から取得できるシステム情報

取得できるシステム情報	取得の可否
クライアントバージョン	
コンピュータ名	
マシン種別	×
OS	
OS ファミリー名	×
OS バージョン	
OS サブバージョン	×
OS ビルド番号 / OS パッチ情報	
OS ライセンス情報	×
WMI	×
Windows Installer	×
MBSA	×
Windows Update Agent	×
ドメイン種別	×
会社名	
所有者名	
CPU タイプ	
コプロセッサ	
CPU クロック数	×
プロセッサ数	
実メモリ容量 ¹	
利用可能ユーザメモリ容量 ²	
利用可能システムリソース容量	×
製造元	×
モデル	×
ドライブの種類	×
空きハードディスク容量	
全ディスク容量	

取得できるシステム情報	取得の可否
ビデオドライバ	×
ビデオチップ	×
VRAM 容量	×
画面情報	
ネットワークアダプタ	×
サブネットマスク	×
デフォルトルータアドレス	×
MAC アドレス	×
コンピュータの説明	×
インターネットエクスプローラバージョン	×
IE パッチ情報	×
ドメイン/ワークグループ	×
ログオンユーザ名	×
ユーザフルネーム	×
ユーザの説明	×
OS シリアルナンバー	×
ロケール	
OS の言語	
現在のタイムゾーン	
OS インストール日時	×
最終起動日時	×
ブートデバイス	×
Windows ディレクトリ	×
システムディレクトリ	×
CPU 外部クロック数	×
メモリスロットの容量	×
物理メモリの空き容量	×
仮想メモリの全容量	×
仮想メモリの空き容量	×
ページファイルの容量	×
マシン UUID	×
マシンシリアルナンバー	×
BIOS 製造元	×
BIOS リリース日時	×
BIOS バージョン	×
BIOS バージョン (SMBIOS)	×
AMT ファームウェアバージョン	×
プライマリバス種別	×
セカンダリバス種別	×

取得できるシステム情報	取得の可否
キーボード	×
マウス	×
マウスのボタン数	×
ファイルシステム	×
ハードディスクのモデル	×
ハードディスクの容量	×
ハードディスクのインターフェース	×
ハードディスクのパーティション数	×
CD-ROM ドライブ	×
モニタ種別	×
サウンドカード製造元	×
サウンドカード製品名	×
IP アドレス	
プライマリ DNS サーバアドレス	×
セカンダリ DNS サーバアドレス	×
DHCP	×
DHCP サーバアドレス	×
DHCP リース期限日時	×
DHCP リース取得日時	×
WINS サーバアドレス	×
プリンタ名	×
プリンタドライバ	×
プリンタ用紙サイズ	×
プリンタ種別	×
プリンタ共有名	×
プリンタサーバ名	×
プリンタポート	×
モニタの電源を切る (AC)	×
モニタの電源を切る (DC)	×
プロセッサ調整 (AC)	×
プロセッサ調整 (DC)	×
ハードディスクの電源を切る (AC)	×
ハードディスクの電源を切る (DC)	×
システムスタンバイ/スリープ (AC)	×
システムスタンバイ/スリープ (DC)	×
システム休止状態 (AC)	×
システム休止状態 (DC)	×

(凡例) : 取得できる × : 取得できない

注 1

リモートインストールマネージャのシステム情報に表示される実メモリ容量は、NPD-20JWL のプログラム実行用メモリの値です。プログラム実行用メモリの値は、プログラム切り替えボタンから [設定] - [コントロールパネル] を選択し、[システム] の [メモリ] を選択して表示される画面で確認できます。

注 2

リモートインストールマネージャのシステム情報に表示される利用可能ユーザメモリ容量は、実メモリ容量中でユーザが実際に利用できる値が表示されます。

(4) ドライブ文字の指定方法

Windows CE には、「C:」「D:」など、英字のドライブ文字の概念がありません。したがって、外部記憶装置に対応するドライブにデータをインストールするには、JP1/NETM/DM で使用している「1:」「2:」などの仮のドライブ文字を使用してください。

次に Windows CE でのドライブの指定方法を示します。

(a) 仮のドライブ文字を指定する方法

Windows CE のクライアントでは、仮のドライブ文字を指定すると次のように認識されます。

仮のドライブ文字	Windows CE でのディレクトリ	表示されるディレクトリ名
1:	オブジェクトストア	¥
2:	マルチメディアカードまたは SD カード	MMC_SD Card
3:	PC カードまたは CF カード	メモリ カード

注

NPD-20JWL では、マルチメディアカードおよび SD カードのスロットが共通のため、どちらか一つを使用できます。また、PC カードと CF カードも、どちらか一つを使用できます。

通常、NPD-20JWL にマルチメディアカードまたは SD カードを差し込むと、「MMC_SD Card」の名称でディレクトリが作成されます。しかし、NPD-20JWL の利用者がすでに「MMC_SD Card」というディレクトリを作成したあとにマルチメディアカードまたは SD カードを差し込んだ場合、名称が「MMC_SD Card」にならないことがあります。このような場合は、上の表のとおり認識されないことがあります。

付録 C.5 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のインストール

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をインストールするには、ユーザインストールとリモートインストールの二つの方法があります。

ユーザインストール

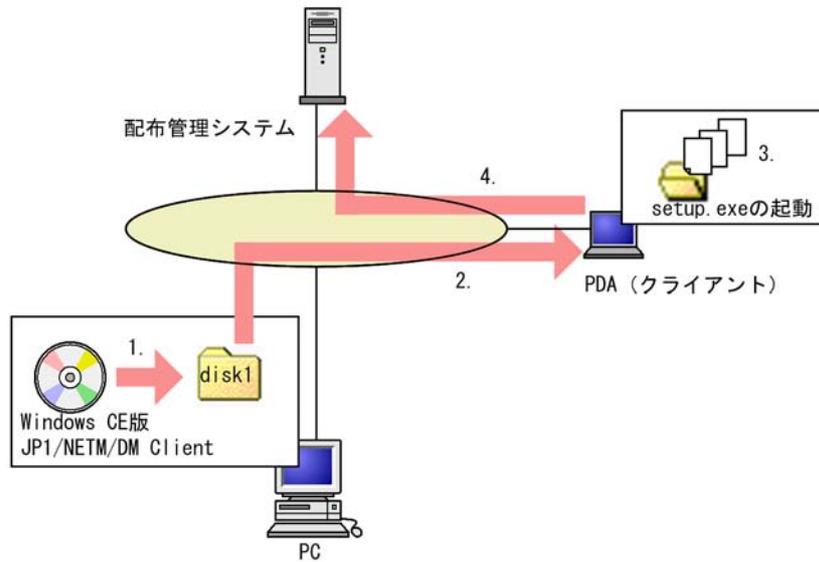
作成したインストール媒体を PDA へコピーし、直接インストールを実行する方法です。

リモートインストール

作成したインストール媒体をパッケージングし、クライアントに配布する方法です。

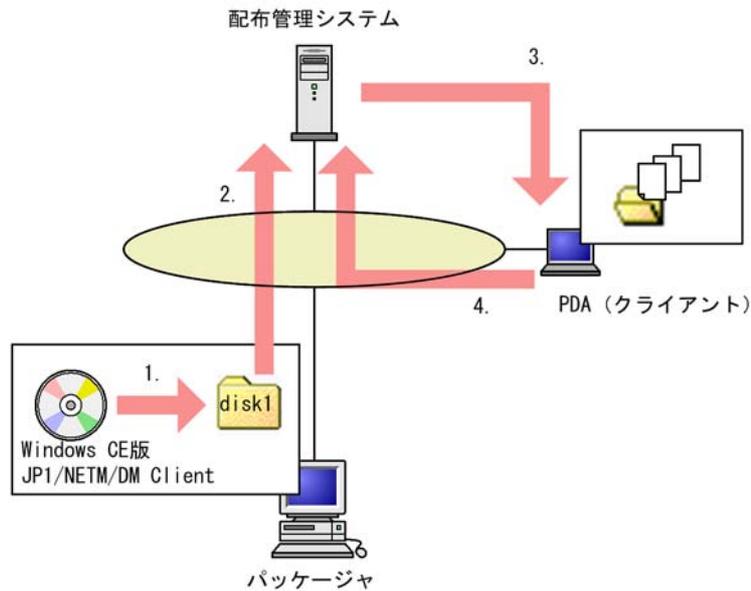
各インストールの手順を図 C-2 および図 C-3 に示します。

図 C-2 ユーザインストールの手順



1. Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のインストール媒体を作成する。
インストール媒体の作成方法については、「(1) インストール媒体の作成」を参照してください。
2. 作成したインストール媒体をクライアントとする PDA にコピーする。
コピーについては、「(2) インストール媒体のコピー（ユーザインストールの場合）」を参照してください。
3. インストールおよびセットアップを実行する。
実行方法については、「(4) ユーザインストールの場合のインストールとセットアップ」および「(6) セットアップ情報ファイルの設定方法」を参照してください。
4. システム構成を自動登録する。
インストールおよびセットアップの完了後、システム構成を自動登録します。登録方法については、「(7) システム構成の自動登録」を参照してください。

図 C-3 リモートインストールの手順



1. Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のインストール媒体を作成する。
インストール媒体の作成方法については、「(1) インストール媒体の作成」を参照してください。
2. 作成したインストール媒体をパッケージングする。
パッケージングについては、「(3) インストール媒体のパッケージング (リモートインストールの場合)」を参照してください。
3. パッケージを配布 (リモートインストール) する。
インストールとセットアップについては、「(5) リモートインストールの場合のインストールとセットアップ」を参照してください。
4. システム構成を自動登録する。
リモートインストールの完了後、システム構成を自動登録します。登録方法については、「(7) システム構成の自動登録」を参照してください。

以降、Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のインストール方法を説明します。

(1) インストール媒体の作成

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のインストール媒体作成方法について説明します。

(a) インストーラの起動

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client は、CD-ROM で提供しています。CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れてください。Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のインストールプログラムが起動し、[JP1/NETM/DM Client Windows CE 用インストール媒体作成] ダイアログボックスが表示されます。

図 C-4 [JP1/NETM/DM Client Windows CE 用インストール媒体作成] ダイアログボックス



[次へ] ボタンをクリックすると、インストール媒体の作成を続行します。インストール媒体の作成を中止する場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

(b) プログラムの説明

プログラムの説明が表示されます。

図 C-5 [プログラムの説明] ダイアログボックス



[次へ] ボタンをクリックすると、インストール媒体の作成を続行します。インストール媒体の作成を中止する場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

(c) 作成領域の選択

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client インストール媒体の作成先フォルダを指定します。

図 C-6 [作成領域の選択] ダイアログボックス



インストール媒体の作成先フォルダは変更できます。インストール媒体の作成先フォルダを変更する場合の注意事項を次に示します。

インストール媒体の作成先フォルダの最後に、「¥」を付けしないでください。

インストール媒体の作成先フォルダに、ドライブ名だけを指定しないでください。

[次へ] ボタンをクリックすると、インストール媒体の作成を続行します。ここで指定したフォルダ下に disk1 フォルダが作成され、必要なファイルが格納されます。これがインストール媒体となります。すでに disk1 フォルダが存在する場合は、既存の disk1 フォルダを削除してから disk1 フォルダを再作成します。指定したフォルダに媒体を作成するのに十分な空き容量がない場合は、[次へ] ボタンをクリックすると警告メッセージが表示されます。インストール媒体の作成先フォルダを指定し直してください。

(d) 媒体内容の確認

インストール媒体作成先フォルダ、およびインストールコンポーネントを確認します。

図 C-7 [媒体内容の確認] ダイアログボックス



確認後、変更が必要な場合は [戻る] ボタンをクリックします。[次へ] ボタンをクリックすると、ファイ

ルのコピーが開始されます。

(e) インストール媒体作成の完了

ファイルのコピーが終了すると、[JP1/NETM/DM Client Windows CE 用インストール媒体作成の完了] ダイアログボックスが表示されます。

図 C-8 [JP1/NETM/DM Client Windows CE 用インストール媒体作成の完了] ダイアログボックス



[完了] ボタンをクリックすると、インストール媒体の作成が終了します。

(2) インストール媒体のコピー（ユーザインストールの場合）

ユーザインストールの場合、作成したインストール媒体（disk1 フォルダ）を PDA にコピーします。コピーには、グレードルや各種のメモ리카ードを使用してください。

(3) インストール媒体のパッケージング（リモートインストールの場合）

リモートインストールの場合、作成したインストール媒体（disk1 フォルダ）をパッケージングします。また、作成したパッケージを配布するためにジョブを作成・実行します。パッケージングの方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.1 パッケージングの方法」を参照してください。ジョブの作成・実行については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.3 リモートインストールの実行」を参照してください。

(4) ユーザインストールの場合のインストールとセットアップ

ユーザインストールの場合、インストール、セットアップとも手動で実行します。ただし、次の場合はインストールが中断されるのでご注意ください。

空き容量がない

インストーラまたはアンインストーラが起動中

クライアントが起動中

手動によるインストールとセットアップの方法を次に示します。インストールのあと、続けてセットアップが開始されます。

1. disk1 フォルダ下の Setup.exe をタップする。

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のインストールが開始されます。インストールが正常に終了す

ると、セットアップ情報ファイル (NETMDMP.TXT) が開きます。

2. セットアップ情報ファイルに、クライアントの動作に必要なパラメタを設定する。
「HostName」は必ず設定してください。それ以外のパラメタは、必要に応じて設定します。セットアップ情報ファイルの内容と設定方法については、「(6) セットアップ情報ファイルの設定方法」を参照してください。
3. セットアップ情報ファイルを上書き保存する。
セットアップ情報ファイルの設定内容が Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client 環境に反映されます。

なお、セットアップ情報は、インストール時に設定したあとでも変更できます。セットアップ情報の変更方法については、「付録 C.7(2)(b) セットアップ情報を変更する」を参照してください。

(5) リモートインストールの場合のインストールとセットアップ

リモートインストールの場合は、ポーリングすることで Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のインストールとセットアップが自動的に実行されます。ただし、次の場合はインストールが中断されるのでご注意ください。

空き容量がない

インストーラまたはアンインストーラが起動中

クライアントが起動中 (リモートインストールの場合、クライアントが停止するまで待機となります)

リモートインストールでは、セットアップ情報は自動設定されるので、インストール時には設定内容を変更できません。インストール後にセットアップ情報を変更する方法については、「付録 C.7(2)(b) セットアップ情報を変更する」を参照してください。

(6) セットアップ情報ファイルの設定方法

セットアップ情報ファイル (NETMDMP.TXT) には、クライアントの動作に必要なパラメタを設定します。各パラメタは「パラメタ名=値」の形式で指定します。先頭に「#」を付けた行はコメントになります。パラメタの内容については、各パラメタ行の上の日本語コメント行を参照してください。

セットアップ情報ファイルの各パラメタは、デフォルトの値が入力された状態でコメント行になっています。デフォルト以外の値を設定したい場合は、先頭の「#」を削除した上で、必要な値を設定してください。デフォルトのまま使用したい場合は、「#」が付いた状態でかまいません。

なお、「HostName」は必ず設定してください。それ以外のパラメタは、必要に応じて設定します。

セットアップ情報ファイルを次に示します。

```
# セットアップ情報
# '#' で始まる行は、コメント行です

# デフォルトの接続先システム名称
# (DNS または WINS を使用しない場合、ホスト名は指定不可。IP アドレスだけ指定可)
HostName=10.1.1.11

# デフォルトの接続先の種別
# (netmdm(JP1/NETM/DM Manager)/netmdmw(JP1/NETM/DM SubManager))
ServiceName=netmdmw
```

```
# システム構成の自動登録 (YES/NO)
#SystemEntryOption=YES

# ログ出力の有無 (YES/NO)
#LogOption=YES

# ダンプ出力の有無 (YES/NO)
#DumpOption=NO

# ログ行数 (0 ~ 9999)
#MAINLOGCount=500
#USERLOGCount=500
#FUNCLOGCount=500
#COMPOLOGCount=500
#LONGLOGCount=500

# ログ世代数 (0 ~ 999)
#LogGenCount=0

# 通信バッファサイズ (512 ~ 4096 バイト)
#I/OBuffer=4096

# netmdm,netmdmw,netmdmclt サービスのポート番号 (5001 ~ 65535)
#PortNonetmdm=30000
#PortNonetmdmw=30001
#PortNonetmdmclt=30002

# 通信ソフトの応答待ち時間 (0 ~ 120 分)
#ConnectOutTime=5

# コネクション失敗時のリトライ回数 (0 ~ 100 回)
#ConnectRetryCount=0

# コネクション失敗時のリトライ間隔 (1 ~ 1800 秒)
#ConnectRetryInterval=3

# サーバ接続拒否時のリトライ回数 (0 ~ 100 回)
#CONNECTNRetryCount=0

# サーバ接続拒否時のリトライ間隔 (1 ~ 1800 秒)
```

```
#CONNECTNRetryInterval=1

# ダウンロードリトライ回数 (0 ~ 999)
#DeliveryRetryCount=5

# ダウンロードリトライ間隔 (1 ~ 7200)
#DeliveryRetryInterval=5

# ダイナミックインベントリ取得有無 (YES/NO)
#DynInventryOpt=YES

# 処理中ダイアログの表示有無 (YES/NO)
#GaugeDialog=YES

# ダイアログの表示有無 (ダウンロード中)(YES/NO)
#GaugeDialogDownLoad=YES

# ダイアログの表示有無 (インストール中)(YES/NO)
#GaugeDialogInstall=YES

# 収集時のリトライ回数 (0 ~ 100 回)
#UnArchiveRetryCount=10

# 収集時のリトライ間隔 (0 ~ 3600 秒)
#UnArchiveRetryInterval=1

# マルチポーリング (YES/NO)
#MultiServerOption=NO

# マルチポーリングの形態 (1: ホットスタンバイ /2: マルチホスト)
#MultiPollingKey=1

# ホットスタンバイ時の復旧ポーリングの設定有無 (YES/NO)
#RecoveryPolling=YES

# 優先順位 2 ~ 8 までの上位接続先の設定
# (DNS または WINS を使用しない場合, ホスト名は不可。IP アドレスだけ指定可)
#HostName2=1.1.1.1
#HostName3=1.1.1.1
#HostName4=1.1.1.1
#HostName5=1.1.1.1
```

```
#HostName6=1.1.1.1
#HostName7=1.1.1.1
#HostName8=1.1.1.1

# 優先順位 2 ~ 8 までの上位接続先の種別
# (netmdm(JP1/NETM/DM Manager)/netmdmw(JP1/NETM/DM SubManager))
#ServiceName2=netmdmw
#ServiceName3=netmdmw
#ServiceName4=netmdmw
#ServiceName5=netmdmw
#ServiceName6=netmdmw
#ServiceName7=netmdmw
#ServiceName8=netmdmw
```

セットアップ情報ファイルのパラメタを編集する場合の注意事項を次に示します。

次に示す場合では、設定項目は反映されないで前回の設定値が残ります。前回は未設定の場合は、デフォルト値になります。

- デフォルトの設定項目を変更していた行に、再度「#」を付けてコメント扱いにした場合（一度設定した値は、コメント扱いにしても設定が残ります）
- 設定項目のつづりを間違えて入力した場合
- 設定項目を全角文字で入力した場合

文書を保存する場合の保存形式は、必ず「テキストのみ」を選択してください。

セットアップ情報ファイル（netmdmp.txt）を編集したあとは、必ず上書き保存してください。文書の保存によって設定項目が反映されます。

（7）システム構成の自動登録

インストールが正常に終了すると、配布管理システムへ自動的にシステム構成が通知されます。これで、クライアントとして認識されるようになります。

（8）インストール時のエラーコード一覧

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をインストールしたときのリターンコードを次の表に示します。

表 C-9 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をインストールしたときのリターンコード

コード	意味	対処方法
00	正常終了。	なし。
80	インストール設定ファイル（setup.inf）の解析に失敗した。	システム管理者に連絡してください。
81	インストールファイルが媒体にない（PP ファイルなし）。	不正な媒体であるおそれがあります。システム管理者に連絡してください。
81	CAB ファイルが媒体にない。	不正な媒体であるおそれがあります。システム管理者に連絡してください。
82	インストール後の処理エラー。	JP1/NETM/DM の動作環境が不正になっているおそれがあります。手動で上書きインストールを実行してください。

コード	意味	対処方法
83	レジストリにインストール先ディレクトリがない。	JP1/NETM/DM の動作環境が不正になっているおそれがあります。手動で上書きインストールを実行してください。
85	ファイルコピー中にエラーが発生。	インストール先フォルダが使用中であることが考えられます。インストール先フォルダを使用しているアプリケーションを終了してください。
85	JP1/NETM/DM Client の自身配布で、ファイルコピーのディレクトリ作成に失敗した。	インストール先フォルダが使用中であることが考えられます。インストール先フォルダを使用しているアプリケーションを終了してください。
86	インストール先ドライブの容量が不足した。	オブジェクトストアの空き容量を増やした上で、再度リモートインストールを実行する必要があります。
88	起動パラメタのエラー。	システム管理者に連絡してください。
8C	コンポーネントの不正。	不正な媒体であるおそれがあります。システム管理者に連絡してください。
92	JP1/NETM/DM Client が処理実行中。	JP1/NETM/DM Client を再度、リモートインストールしてください。
94	インストール前処理エラーが発生した。	システム管理者に連絡してください。

付録 C.6 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のアンインストール

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client をアンインストールするには、「アプリケーションの削除」を使用します。アンインストール方法を次に示します。

1. プログラム切り替えボタンをタップする。
2. [設定] - [コントロールパネル] の「アプリケーションの削除」をタップする。
3. 「アプリケーションの削除」で「HITACHI JP1_NETM_DM Client」を選択し、[削除] ボタンをタップする。

付録 C.7 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client を使用する

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client を使用するための準備と、使用方法を説明します。

(1) Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client を使用するための準備

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client は、画面のスタイルをデスクトップにした状態で使用します。NPD-20JWL の画面のスタイルは、デフォルトではサークルメニューのため、Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client を使用する前にデスクトップに変更する必要があります。

画面のスタイルをサークルメニューからデスクトップに変更する手順を次に示します。

1. NPD-20JWL を起動し、サークルメニュー画面の左上のプルダウンメニュー表示アイコンをタップする。
プルダウンメニューが表示されます。
2. [カテゴリ切り替え] - [ユーティリティ] をタップする。
ユーティリティ画面が表示されます。
3. [コントロールパネル] をタップする。
[コントロールパネル] のメニュー一覧が表示されます。
4. [ホームのデザイン] をタップする。

[ホームのデザイン] ダイアログボックスが表示されます。

5. [スタイル] タブで、「デスクトップ」を選択し、[OK] をタップする。
画面のスタイルがデスクトップに変更されます。

(2) Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の使用方法

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client は非常駐であるため、使用するには JP1/NETM/DM Client のメニューを選択します。メニューを選択することで、上位接続先から配布されたジョブを実行したり、セットアップ情報を変更したりできます。これらの方法について次に説明します。

(a) ジョブを実行する

上位接続先から配布されたジョブを実行するには、次の操作をします。

1. 画面の左下のプログラム切り替えボタンをタップし、[プログラム] - [JP1_NETM_DM Client] - [ジョブ実行] をタップする。
Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client が上位接続先にポーリングし、配布されたジョブがあればバックグラウンドで実行します。
実行できるジョブは次のとおりです。
 - パッケージのインストール
インストールできるパッケージは、ユーザデータと Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client 自体です。
 - リモートコレクト
 - 中継までのリモートコレクト
 - システム情報の取得

(b) セットアップ情報を変更する

セットアップ情報を変更するには、次の操作をします。

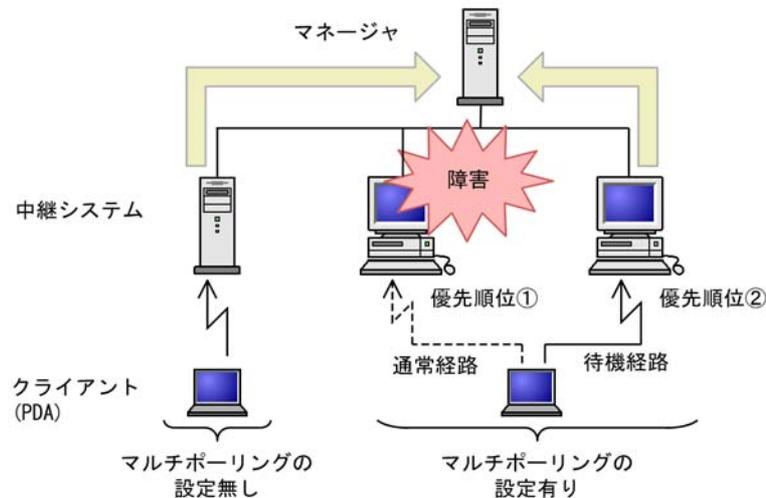
1. 画面の左下のプログラム切り替えボタンをタップし、[プログラム] - [JP1_NETM_DM Client] - [セットアップ実行] をタップする。
セットアップ情報ファイル (NETMDMP.TXT) が開きます。
2. セットアップ情報ファイルに、クライアントのパラメタを設定する。
3. セットアップ情報ファイルを上書き保存する。
セットアップ情報ファイルに設定したパラメタが有効になります。

セットアップ情報ファイルの内容と設定方法については、「付録 C.5(6) セットアップ情報ファイルの設定方法」を参照してください。

付録 C.8 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client でのマルチポーリング

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client にも、上位接続先に障害が発生した場合、あらかじめ登録しておいた別の中継システムへ接続し直す機能があります。この機能をマルチポーリングと呼びます。Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client でのマルチポーリングの概要を次の図に示します。

図 C-9 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client でのマルチポーリング



マルチポーリングの接続方式には次の 2 種類があります。

ホットスタンバイ

マルチホスト

マルチポーリングでの Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の動作を次の表に示します。

表 C-10 マルチポーリングでの Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の動作

設定		動作
マルチポーリングを使う	ホットスタンバイ	復旧ポーリングの指定無し
		復旧ポーリングの指定有り
	マルチホスト	
マルチポーリングを使わない		

動作説明:

- ホットスタンバイ / 復旧ポーリングの指定無し: ポーリング対象システムからポーリングする。接続に失敗した場合、優先順位に従ってポーリングする。
- ホットスタンバイ / 復旧ポーリングの指定有り: ポーリング対象システムからポーリングする。接続に失敗した場合、優先順位に従ってポーリングする。ジョブ終了後、現在のポーリング対象システムより優先順位の高い接続先がある場合は、そのシステムへポーリングする。接続に成功した場合、ポーリング対象システムを変更する。
- マルチホスト: 設定されたすべての接続先へポーリングする。
- マルチポーリングを使わない: 一つの接続先だけへポーリングする。

次にそれぞれの方式について説明します。

(1) ホットスタンバイ

複数の上位接続先のうち、最も優先順位を高く設定した上位接続先を「ポーリング対象システム」と呼びます。

障害発生によってポーリング対象システムに接続できなくなった場合、優先順位の高い順の上位接続先へポーリングし、接続ができた経路の上位接続先が新しいポーリング対象システムとして設定されます。

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のクライアントは非常駐であるため、ジョブ実行処理後に、現在のポーリング対象システムより優先順位の高い上位接続先が存在する場合、順位設定に従ってポーリングし、接続できた接続先を新しいポーリング対象システムとして切り替えます。

このポーリング対象システムを切り替える機能はセットアップ情報ファイルの設定によって、使用するかどうかを設定できます。項目名称は、復旧ポーリング (RecoveryPolling) です。

(2) マルチホスト

設定されている複数の上位接続先のすべてに対してポーリングします。ポーリングの順序は設定された優先順位に従います。

(3) マルチポーリング使用時のシステム構成の自動登録

システム構成の自動登録は、ホットスタンバイおよびマルチホストのどちらの場合でも、最も優先順位の高い上位接続先に対してだけ有効になります。システム構成の自動登録が実行される契機を次に示します。

セットアップで最上位の接続先が変更された場合

ホスト識別子運用で、上位接続先からホスト識別子が未登録と通知された場合

(4) マルチポーリングの設定方法

セットアップ情報ファイルで設定します。ポーリング方法の選択、複数の上位接続先の情報（接続先名称、接続先の種別、優先順位など）を設定できます。設定の詳細については、「付録 C.5(6) セットアップ情報ファイルの設定方法」を参照してください。

接続できる上位接続先の最大数は、8 台です。また、上位接続先の設定および上位接続先の種別の優先順位は、間に抜けがあっても無視されます。

(5) マルチポーリング環境での注意事項

マルチポーリング環境で運用する場合の注意事項を次に示します。

マルチポーリング環境で動作するクライアントの場合、ID は優先順位が 1 位の中継システムにだけ登録できます。

付録 D セキュリティ PC へのリモートインストール

セキュリティ PC は、ハードディスクや FD などの外部記憶装置を持たない、最低限の機能だけを備えた PC です。セキュリティ PC で動作するプログラムを更新するために、弊社が提供するセキュリティ PC 用のアップデートデータを使用します。アップデートデータは、JP1/NETM/DM を使ってセキュリティ PC にリモートインストールできます。

ここでは、セキュリティ PC にアップデートデータをリモートインストールする方法について説明します。

付録 D.1 セキュリティ PC へのリモートインストールに必要な条件

セキュリティ PC にアップデートデータをリモートインストールするには、次に示す条件を満たす必要があります。

(1) マネージャ

Windows 版 JP1/NETM/DM Manager 06-72 以降 (リレーショナルデータベースを使用)、または JP1/NETM/DM Manager Embedded RDB Edition 07-50 以降である。

ホスト識別子を使用して JP1/NETM/DM システムを運用している。

セキュリティ PC とネットワークで接続されていて、セキュリティ PC がシステム構成情報に登録されている。

(2) パッケージ

Windows 版 JP1/NETM/DM 07-53 以降のパッケージである。

(3) 中継するシステム

中継マネージャを経由してセキュリティ PC にリモートインストールする場合、中継マネージャが Windows 版 JP1/NETM/DM Manager 06-72 以降 (リレーショナルデータベースを使用)、または JP1/NETM/DM Manager Embedded RDB Edition 07-50 以降である。

中継システムを経由してセキュリティ PC にリモートインストールする場合、中継システムが Windows 版 JP1/NETM/DM SubManager 06-72 以降である。

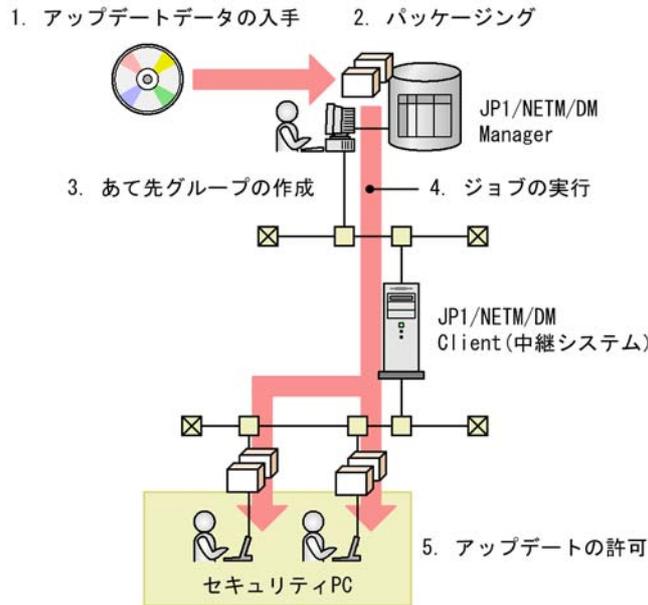
(4) セキュリティ PC

システムランチャで、リモートインストール用の接続先の上位システムに、マネージャまたは中継するシステムを指定している。

付録 D.2 セキュリティ PC へのリモートインストールの流れ

セキュリティ PC へのリモートインストールの流れを次の図に示します。

図 D-1 セキュリティ PC へのリモートインストールの流れ



1. 弊社が提供する、セキュリティ PC 用のアップデートデータを入手する。
2. パッケージャで、アップデートデータをパッケージングする。
アップデートデータのパッケージング方法については、「付録 D.3 アップデートデータをパッケージングする」を参照してください。
3. JP1/NETM/DM Manager で、セキュリティ PC だけを含めたあて先グループを作成する。
セキュリティ PC だけを含めたあて先グループの作成方法については、「付録 D.4 セキュリティ PC だけを含めたあて先グループを作成する」を参照してください。
4. JP1/NETM/DM Manager で、2. で作成したパッケージをリモートインストールするジョブを、3. で作成したあて先グループに対して実行する。
ジョブの作成、実行方法については、「付録 D.5 アップデートデータをリモートインストールするジョブを実行する」を参照してください。
5. セキュリティ PC で、起動時にアップデートを許可する。
アップデートデータがセキュリティ PC にインストールされます。なお、アップデートデータのインストール時には、セキュリティ PC が 2 回以上再起動されます。

付録 D.3 アップデートデータをパッケージングする

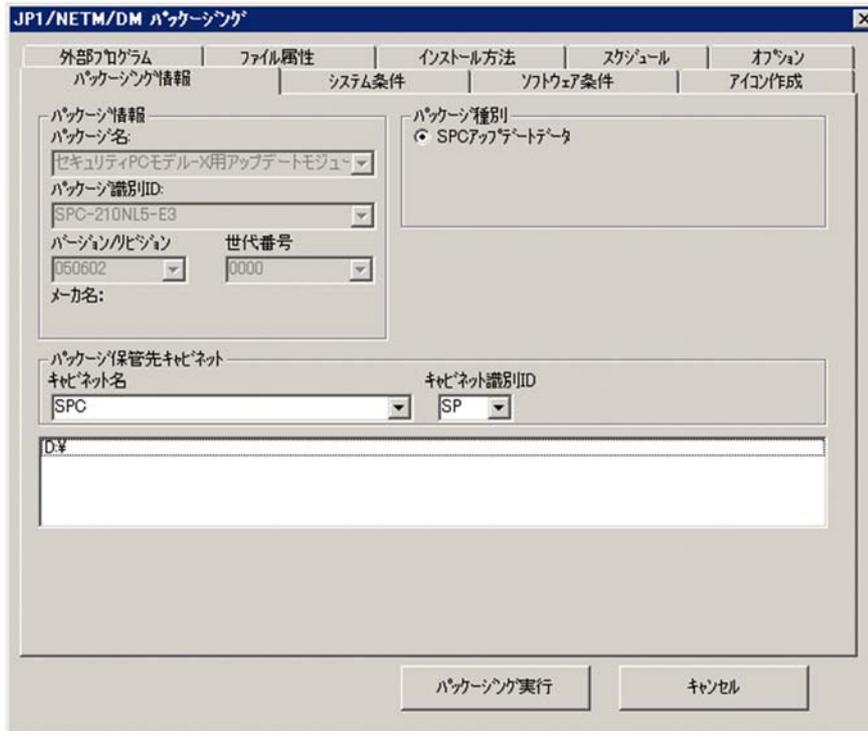
アップデートデータをパッケージングする場合は、[JP1/NETM/DM パッケージング] ダイアログボックスで次の項目だけを指定できます。

- [パッケージング情報] パネルの「キャビネット名」と「キャビネット識別 ID」
- [スケジュール] パネルの「中継システムでのパッケージ保管期限」
- [オプション] パネルの「パッケージデータを圧縮する」と「圧縮方法」

これらの項目の指定方法を含めて、アップデートデータのパッケージング方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.1 パッケージングの方法」を参照してください。

なお、アップデートデータをパッケージングすると、パッケージ種別は「SPC アップデートデータ」となります。

図 D-2 [JP1/NETM/DM パッケージング] ダイアログボックス



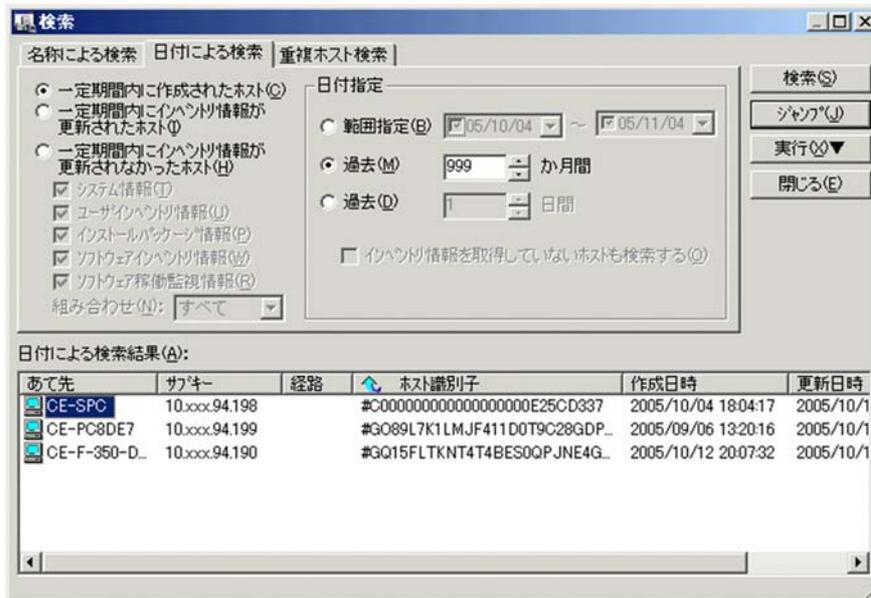
付録 D.4 セキュリティ PC だけを含めたあて先グループを作成する

アップデートデータはセキュリティ PC だけにリモートインストールできます。そこで、セキュリティ PC だけをジョブのあて先に指定できるように、次の手順であて先グループを作成してください。

1. リモートインストールマネージャの [あて先] ウィンドウを表示し、[ファイル] - [グループの新規作成] を選択する。
[あて先グループの作成] ダイアログボックスが表示されます。
2. 「あて先グループの作成」を選択し、作成するあて先グループの名称を指定したら、[実行] ボタンをクリックする。
指定した名称のあて先グループが作成されます。[終了] ボタンをクリックして、[あて先グループの作成] ダイアログボックスを閉じてください。
3. リモートインストールマネージャの [システム構成] ウィンドウを表示し、[オプション] - [検索] を選択する。
[検索] ダイアログボックスが表示されます。
4. [日付による検索] パネルで、次のように指定する。
 - 「一定期間内に作成されたホスト」を選択
 - 「範囲指定」を選択して、システム構成情報にセキュリティ PC を初めて登録した日時から、現在の日時を指定
セキュリティ PC を初めて登録した日時がわからない場合は、「過去」を選択して「999 か月間」を指定してください。
5. [検索] ボタンをクリックする。
検索が開始され、下部の「日付による検索結果」リストに検索結果が表示されます。
6. 「日付による検索結果」リストの列見出し「ホスト識別子」をクリックする。

検索結果のホストが、ホスト識別子の昇順にソートされます。ホスト識別子の先頭が「#C000000000000000」で始まるホストがセキュリティ PC です。

図 D-3 [日付による検索] パネル



- ホスト識別子の先頭が「#C000000000000000」で始まるホストをすべて選択して右クリックし、[コピー]メニューを選択する。
- リモートインストールマネージャの [あて先] ウィンドウに戻り、2. で作成したあて先グループを選択して右クリックし、[貼り付け]メニューを選択する。
選択したあて先グループに、7. で選択したホストが貼り付けられます。これで、セキュリティ PC だけを含めたあて先グループが作成されます。

なお、アップデートデータをセキュリティ PC にリモートインストールする際には、毎回この手順であて先グループを作成し直すことをお勧めします。前回のあて先グループをそのまま使用すると、前回のあて先グループ作成後に追加されたセキュリティ PC があて先に含まれません。

付録 D.5 アップデートデータをリモートインストールするジョブを実行する

「パッケージのインストール」ジョブを実行して、セキュリティ PC だけを含めたあて先グループにアップデートデータのパッケージをリモートインストールします。

(1) ジョブの作成と実行

ジョブを作成し実行する手順を次に示します。

- リモートインストールマネージャで、[パッケージ] ウィンドウおよび [あて先] ウィンドウを表示する。
- [パッケージ] ウィンドウに表示されているアップデートデータのパッケージのアイコンをドラッグして、[あて先] ウィンドウに表示されているセキュリティ PC だけを含めたあて先グループのアイコンにドロップする。
[ジョブ定義の新規作成] ダイアログボックスが表示されます。

3. 「パッケージのインストール」ジョブを選択し、[OK] ボタンをクリックする。
 [ジョブの作成] ダイアログボックスが表示されます。
 「パッケージのインストール」以外のジョブは選択しないでください。セキュリティ PC には実行できません。
4. [ジョブの作成] ダイアログボックスで、各パネルの項目を設定する。
 各パネルの設定内容を次に示します。

パネル	設定内容
[ジョブ] パネル	任意のジョブ名を指定します。
[あて先] パネル	セキュリティ PC だけを含むあて先グループが設定されていることを確認します。セキュリティ PC 以外のクライアントには、アップデートデータをリモートインストールできません。
[パッケージ] パネル	アップデートデータのパッケージが設定されていることを確認します。アップデートデータ以外のパッケージは、セキュリティ PC にリモートインストールできません。 [変更] ボタンをクリックすると [インストール条件の変更] ダイアログボックスが表示され、次の設定を変更できます。 • [システム条件] パネルの「同じパッケージがあったら上書き」 • [スケジュール] パネルの「中継システムでのパッケージ保管期限」
[ジョブの配布属性] パネル	設定は不要です。セキュリティ PC へのリモートインストール時には、常に「中断中のあて先へは配布しない」、「ユニキャスト配布」、「分割配布しない」という設定でジョブが実行されます。
[スケジュール] パネル	サーバでのジョブ実行日時を設定できます。クライアントでのジョブ実行日時は設定しても無視されます。
[クライアント制御] パネル	設定は不要です。セキュリティ PC へのリモートインストール時には、クライアント制御を利用できません。

5. [実行] または [保存 & 実行] ボタンをクリックして、ジョブを実行する。
 ジョブが実行されると、セキュリティ PC の起動時に、アップデートの実行を確認するダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで [はい] ボタンをクリックすると、セキュリティ PC の再起動後に、パッケージのダウンロードとインストールを開始します。

(2) ジョブがエラーになった場合の保守コード

セキュリティ PC へのジョブがエラーになった場合、エラーの原因が保守コードとして表示されます。
 [ジョブ実行状況] ウィンドウから表示される [詳細情報] ダイアログボックスで、保守コードを確認してください。

セキュリティ PC で認証できなかったためにジョブがエラーになった場合の、保守コードを次に示します。これらの保守コードは、Windows 版 JP1/NETM/DM Manager 07-53 以降で表示されます。これら以外の保守コードについては、「6.2.3 保守コード一覧」を参照してください。

保守コード	要因	対処
300097078100	認証できませんでした。認証データが改ざんされています。	システム管理者に連絡してください。
300097078200	メモリ不足が発生しました。	不要なアプリケーションを停止させてください。
300097078300	認証デバイスに証明書がありません。	新しい証明書を発行してください。
300097078400	認証デバイスに有効期限内の証明書がありません。	新しい証明書を発行してください。
300097078500	認証デバイスの証明書が失効しています。	新しい証明書を発行してください。
300097078600	証明局証明書がありません。	システム管理者に連絡してください。
300097078700	内部エラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。

保守コード	要因	対処
300097079100	PKI 認証を行うための環境が不正です。	システム管理者に連絡してください。
30009707FF00	そのほかのエラー。	システム管理者に連絡してください。

付録 E 秘文連携機能を使用した JP1/ 秘文および秘文の管理

秘文連携機能を使用すると、JP1/ 秘文または秘文のインストールや導入後の管理を効率良く実施できます。秘文連携機能には、次に示す機能があります。なお、ここでは、JP1/ 秘文と秘文をあわせて秘文製品と呼びます。

インストール済み秘文製品の詳細情報の取得

すでに秘文製品が導入されている場合、クライアントにインストールされている秘文製品の詳細な名称とバージョン情報を取得できます。

秘文製品のインストールチェック

クライアントに秘文製品をインストールする場合、事前にクライアントのインストール環境をチェックできます。

秘文製品のインストール

クライアントに秘文製品をインストールする場合、事前にクライアントのインストール環境をチェックし、インストール条件を満たしたクライアントだけインストールできます。

秘文製品の内部ログの収集

秘文製品でエラーが発生した場合に、原因調査のためのログを JP1/NETM/DM で収集できます。

秘文連携機能では、JP1/NETM/DM が提供する AIT ファイルを使用します。

付録 E.1 秘文連携機能を使用する前に

ここでは、秘文連携機能を使用する場合のクライアントの前提 OS と秘文製品のバージョン、条件、および注意事項について説明します。

(1) クライアントの前提 OS と秘文製品のバージョン

秘文連携機能を使用する場合のクライアントの前提 OS を次に示します。

Windows 7 Enterprise

Windows 7 Professional

Windows 7 Ultimate

Windows Vista Business Edition

Windows Vista Enterprise Edition

Windows Vista Ultimate Edition

Windows XP Home Edition

Windows XP Professional

Windows 2000 Professional

秘文連携機能を使用できる秘文製品のバージョンを製品ごとに次の表に示します。

表 E-1 秘文連携機能を使用できる秘文製品とバージョン

製品名	バージョン
JP1/ 秘文 IC	07-50, 07-51, 07-52, 07-60, 07-80, 08-01, 08-02, 09-00, 09-10, 09-50, 10-00

製品名	バージョン
JP1/ 秘文 IF	07-50, 07-51, 07-52, 07-60, 07-80, 08-01, 08-02, 09-00, 09-10, 09-50, 10-00
JP1/ 秘文 IF Mail Option	07-50, 07-51, 07-52, 07-60, 07-80, 08-01, 08-02, 09-00, 09-10, 09-50, 10-00
JP1/ 秘文 IS	-
秘文 IC	07-50, 07-51, 07-60, 07-80, 08-01, 08-02, 09-00, 09-10, 09-50, 10-00
秘文 IF	07-50, 07-51, 07-60, 07-80, 08-01, 08-02, 09-00, 09-10, 09-50, 10-00
秘文 IF Mail Option	07-50, 07-51, 07-60, 07-80, 08-01, 08-02, 09-00, 09-10, 09-50, 10-00
秘文 IS	-

(凡例) - : 値なし

注 JP1/ 秘文 IS は, JP1/ 秘文 IC または JP1/ 秘文 IF に同梱されます。秘文 IS は, 秘文 IC または秘文 IF に同梱されます。

(2) 条件

Administrator 権限のあるユーザで, JP1/NETM/DM にログオンしてください。Administrator 権限を持たないユーザがログオンしているクライアントから詳細情報やログを収集したり, インストールチェックしたりする場合は, クライアントのセットアップで次の設定が必要です。

- [権限] パネルの「一般ユーザ権限で使用する」チェックボックスをオンにする。

クライアントで, Windows にログオンしておく必要があります。

秘文製品をインストールするクライアントは, [クライアントセットアップ] ダイアログボックスの [ジョブオプション] パネルで次に示す設定をしておいてください。

- 「運用管理者の指示でコンピュータをシャットダウンまたは再起動する」チェックボックスをオンにする。

(3) 注意事項

秘文連携機能を使用する場合は, 次の点に注意してください。

クライアントが JP1/NETM/DM Client - Base を使用している場合, 秘文連携機能を使用するには, JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature もインストールする必要があります。

クライアントの OS が 64 ビット版の Windows 7 の場合, インストール済み秘文製品の詳細情報の取得機能, または秘文製品の内部ログの収集機能を使用したときは, 次のどちらかをインストールする必要があります。

- JP1/NETM/DM Client 09-50 以降
- JP1/NETM/DM Client - Base 09-50 以降および JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature 09-50 以降

秘文製品のインストールチェックやインストールを実行中に, クライアントをシャットダウンしたり, 起動中のジョブを強制終了したりといった操作をしないでください。

識別用ファイルをパッケージングするとき, [システム条件] パネルの「インストール先ディレクトリ」に次に示す内容が設定されます。この設定内容は秘文連携機能では使用しないため, 無視してください。

秘文連携機能	ドライブ	ディレクトリ
インストール済み秘文製品の詳細情報の取得	C:	¥HIBUN_REG
秘文製品のインストールチェック	C:	¥HIBUNCHK
秘文製品のインストール	C:	¥HIBUNINS
秘文製品の内部ログの収集	C:	¥HIBUN_LOG

JP1/ 秘文 IC または秘文 IC は、ほかの秘文製品に比べてインストールに時間が掛かります。JP1/ 秘文 IC または秘文 IC の新規インストールまたは追加インストールをする前にインストールチェックを実行し、エラー要因を取り除いておくことをお勧めします。

JP1/ 秘文 IC または秘文 IC のインストールでドライブを暗号化する場合、インストールが完了するまでに時間が掛かります。夜間にインストールを実行するなど、導入計画を立てて実施してください。

秘文製品のインストールでエラーが発生した場合、次の操作を実行しないでください。実行した場合、ファイルの損失などが発生するおそれがあります。

- エラー要因を取り除く目的以外でプログラムをインストールする。または、ファイルやフォルダを操作する。
- 秘文製品のインストール先フォルダを削除する。
- ドライブレターを変更する。

付録 E.2 インストール済み秘文製品の詳細情報の取得

クライアントにインストール済みの秘文製品のソフトウェア情報を取得すると、どの秘文製品の場合でも「JP1-HIBUN-AE」と表示されてしまいます。JP1/NETM/DM で提供している AIT ファイルをパッケージングし、ジョブを実行することで、クライアントのレジストリ情報からインストール済み秘文製品の詳細情報を取得します。

取得した秘文製品の詳細情報（製品名およびバージョン）は、クライアントごとに詳細を確認したり、製品ごとに集計したりできます。

インストール済み秘文製品の詳細情報を取得する手順を次の図に示します。

図 E-1 インストール済み秘文製品の詳細情報を取得する手順



次に、各手順を説明します。

(1) 識別用ファイルのパッケージング

秘文製品の詳細情報を取得するための識別用ファイルが格納されているディレクトリを選択し、パッケー

ジグリングします。識別用ファイル (HIBUNREG.BIN) は JP1/NETM/DM に標準添付され、次に示すディレクトリに格納されています。

クライアントのインストール先ディレクトリ ¥MASTER¥DMAIT¥HIBUNREG_Key

パッケージングの方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.1 パッケージングの方法」を参照してください。

秘文製品の詳細情報を取得するためのパッケージ名は、AIT-HIBUN-REG になります。

識別用ファイルについては、マニュアル「Automatic Installation Tool ガイド」の「付録 B JP1/NETM/DM で提供する AIT ファイル」を参照してください。

(2) 「パッケージのインストール」ジョブの作成・実行

(1) で作成したパッケージをクライアントへ配布するため、リモートインストールを指示するジョブを作成・実行します。

ジョブ作成時のジョブ種別は、「パッケージのインストール」を選択します。

「パッケージのインストール」ジョブが実行されると、インストール済み秘文製品の詳細情報が、クライアントの次のレジストリパスに格納されます。

- OS が 32 ビット版の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P
- OS が 64 ビット版の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi¥NETM/DM/P

リモートインストールを指示するジョブの作成・実行については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.3 リモートインストールの実行」を参照してください。

(3) レジストリ取得項目の作成

クライアントの秘文製品のレジストリ情報を取得するには、配布管理システムでレジストリ取得項目を作成する必要があります。レジストリ取得項目は、[項目設定] ダイアログボックスで設定します。

図 E-2 [項目設定] ダイアログボックス



[項目設定] ダイアログボックスに設定する内容を次に示します。

項目	設定内容								
項目名称	取得する秘文製品の名称を設定								
ルートキー	「HKEY_LOCAL_MACHINE」を選択								
パス	<ul style="list-style-type: none"> OS が 32 ビット版の場合 ¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P OS が 64 ビット版の場合 ¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi¥NETM/DM/P 								
レジストリ名	<table border="1"> <tr> <td>JP1/ 秘文 IC および秘文 IC の場合</td> <td>秘文 IC</td> </tr> <tr> <td>JP1/ 秘文 IF および秘文 IF の場合</td> <td>秘文 IF</td> </tr> <tr> <td>JP1/ 秘文 IF Mail Option および秘文 IF Mail Option の場合</td> <td>秘文 IFMO</td> </tr> <tr> <td>JP1/ 秘文 IS および秘文 IS の場合</td> <td>秘文 IS</td> </tr> </table>	JP1/ 秘文 IC および秘文 IC の場合	秘文 IC	JP1/ 秘文 IF および秘文 IF の場合	秘文 IF	JP1/ 秘文 IF Mail Option および秘文 IF Mail Option の場合	秘文 IFMO	JP1/ 秘文 IS および秘文 IS の場合	秘文 IS
JP1/ 秘文 IC および秘文 IC の場合	秘文 IC								
JP1/ 秘文 IF および秘文 IF の場合	秘文 IF								
JP1/ 秘文 IF Mail Option および秘文 IF Mail Option の場合	秘文 IFMO								
JP1/ 秘文 IS および秘文 IS の場合	秘文 IS								
OS 種別	「選択する」を選択し、「Windows2000」、「Windows XP」、「Windows Vista」および「Windows 7」のチェックボックスをオン								

なお、レジストリ取得項目を作成する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.2 レジストリ情報の取得方法」を参照してください。

(4) 「レジストリ取得項目の転送」ジョブの作成・実行

(3) で作成したレジストリ取得項目を、クライアントへ配布します。配布するには、「レジストリ取得項目の転送」ジョブを作成・実行します。これによって、クライアントから秘文製品のレジストリ情報が取得

できるようになります。

「レジストリ取得項目の転送」ジョブを作成・実行する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.2 レジストリ情報の取得方法」を参照してください。

(5) 「システム情報の取得」ジョブの作成・実行

レジストリ情報をクライアントから取得するために、リモートインストールマネージャから「システム情報の取得」ジョブを実行します。(4) で配布されたレジストリ取得項目に基づいて、クライアントのレジストリ情報が取得されます。

「システム情報の取得」ジョブを実行する前に、(2) で実行した「パッケージのインストール」ジョブと、(4) で実行した「レジストリ取得項目の転送」ジョブが正常に終了している必要があります。

「システム情報の取得」ジョブを作成・実行する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.1 システム情報の取得手順」を参照してください。

(6) 取得した秘文製品の詳細情報の確認

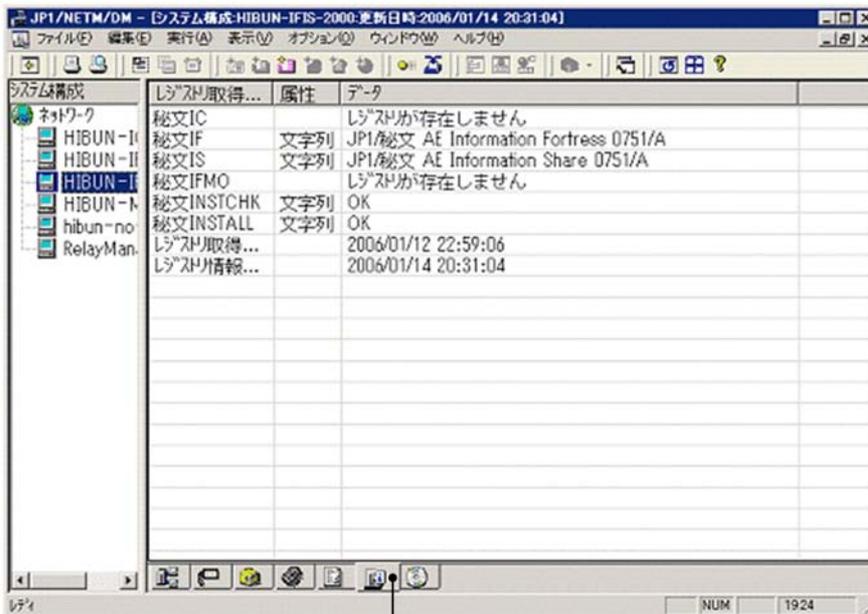
取得した秘文製品の詳細情報は、次のように確認および集計できます。

- クライアントごとにインストール済み秘文製品の詳細情報を確認する。
- 秘文製品ごとにクライアント台数を集計する。

(a) クライアントごとにインストール済み秘文製品の詳細情報を確認する

[システム構成] ウィンドウの [レジストリ情報] タブを選択し、詳細情報を確認したいクライアントを選択します。クライアントにインストールされた秘文製品の詳細名称とバージョンを確認できます。

図 E-3 [システム構成] ウィンドウ (レジストリ情報)



[レジストリ情報] タブ

[レジストリ情報] タブに表示されるレジストリ情報の取得結果を次の表に示します。

表 E-2 レジストリ情報の取得結果

レジストリ取得項目	製品	取得結果(「データ」欄)
秘文 IC	JP1/ 秘文 IC の場合	JP1/ 秘文 AE Information Cypher <i>VVRRSS</i> (09-50 以前) 秘文 AE Information Cypher <i>VVRRSS</i> (10-00 以降)
	秘文 IC の場合	秘文 AE Information Cypher <i>VVRRSS</i>
秘文 IF	JP1/ 秘文 IF の場合	JP1/ 秘文 AE Information Fortress <i>VVRRSS</i> (09-50 以前) 秘文 AE Information Fortress <i>VVRRSS</i> (10-00 以降)
	秘文 IF の場合	秘文 AE Information Fortress <i>VVRRSS</i>
秘文 IFMO	JP1/ 秘文 IF Mail Option の場合	JP1/ 秘文 AE Information Fortress Mail Option <i>VVRRSS</i> (09-50 以前) 秘文 AE Information Fortress Mail Option <i>VVRRSS</i> (10-00 以降)
	秘文 IF Mail Option の場合	秘文 AE Information Fortress Mail Option <i>VVRRSS</i>
秘文 IS	JP1/ 秘文 IS の場合	JP1/ 秘文 AE Information Share <i>VVRRSS</i> (09-50 以前) 秘文 AE Information Share <i>VVRRSS</i> (10-00 以降)
	秘文 IS の場合	秘文 AE Information Share <i>VVRRSS</i>
-	-	レジストリが存在しません

(凡例)

- : JP1/ 秘文製品がインストールされていない

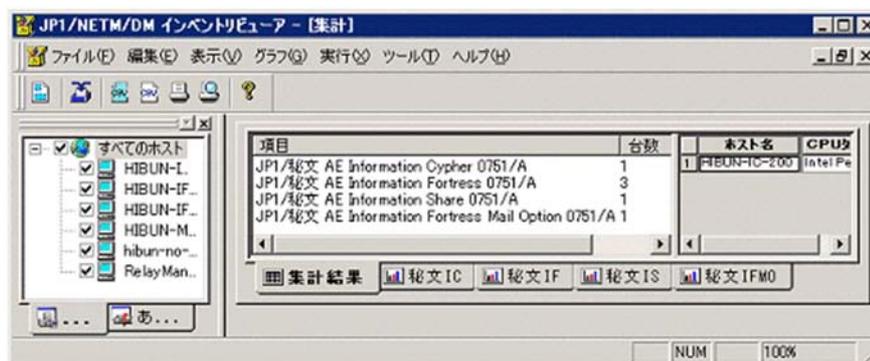
VVRRSS : バージョン情報

取得したレジストリ情報を [システム構成] ウィンドウで確認する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.5 取得したシステム情報の確認」を参照してください。

(b) 秘文製品ごとにクライアント台数を集計する

インベントリビューアで、秘文製品名を条件に設定し、集計します。秘文製品がインストールされたクライアントの台数が、製品別に集計されます。集計した結果の例を次に示します。

図 E-4 [集計] ウィンドウ



インベントリビューアで集計する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「4.2 インベントリ情報を集計する」を参照してください。

付録 E.3 秘文製品のインストールチェック

クライアントに秘文製品をインストールする前に、クライアントがインストール条件を満たしているかどうかチェックできます。

秘文製品のインストール媒体と JP1/NETM/DM で提供している AIT ファイルをパッケージングし、ジョブを実行することで、秘文製品のインストールチェックを実行します。

秘文製品をインストールチェックする手順を次の図に示します。

図 E-5 秘文製品をインストールチェックする手順



次に、各手順を説明します。

(1) 秘文製品のインストール媒体の作成

秘文製品をクライアントにインストールするためのインストール媒体を作成します。

インストール媒体の作成方法については、マニュアル「JP1/ 秘文 セットアップガイド (管理者用)」を参照してください。

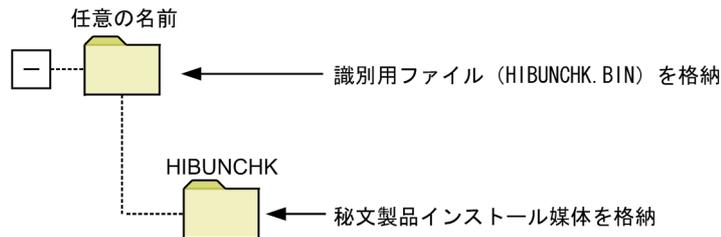
(2) 識別用ファイルとインストール媒体のパッケージング

秘文製品のインストールチェックを実行するための識別用ファイルと、(1) で作成したインストール媒体をパッケージングします。

パッケージングの手順を次に示します。

1. パッケージング用のディレクトリを、次の図に示す構成で作成する。

図 E-6 パッケージング用のディレクトリ構成



2. ルートディレクトリに識別用ファイルを格納する。
 ルートディレクトリに、JP1/NETM/DM に標準添付された識別用ファイル (HIBUNCHK.BIN) を、コピーします。
 標準添付された識別用ファイル (HIBUNCHK.BIN) は、次に示すディレクトリに格納されています。
 クライアントのインストール先ディレクトリ ¥MASTER¥DMAIT¥HIBUNCHK_Key

3. ルートディレクトリ下に、HIBUNCHK フォルダを作成する。

(1) で作成した秘文製品のインストール媒体を格納します。

4. ファイルを格納したディレクトリを指定してパッケージングする。

パッケージングの方法の詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.1 パッケージングの方法」を参照してください。

秘文製品のインストールチェックを実行するためのパッケージ名は、AIT-HIBUN-INSTCHK になります。

識別用ファイルについては、マニュアル「Automatic Installation Tool ガイド」の「付録 B JP1/NETM/DM で提供する AIT ファイル」を参照してください。

(3) 「パッケージのインストール」ジョブの作成・実行

(2) で作成したパッケージをクライアントへ配布するため、リモートインストールを指示するジョブを作成・実行します。

ジョブ作成時のジョブ種別は、「パッケージのインストール」を選択します。

リモートインストールを指示するジョブの作成・実行については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.3 リモートインストールの実行」を参照してください。

「パッケージのインストール」ジョブが実行されると、インストール媒体に格納されたインストールチェックコマンドが実行され、秘文製品のインストール可否が判定されます。

ジョブの実行結果は、[ジョブ実行状況] ウィンドウの「実行状態」で確認できます。

図 E-7 [ジョブ実行状況] ウィンドウ



正常終了

秘文製品をインストールできる状態です。

エラー

秘文製品をインストールできない状態です。エラー原因には次の 2 種類があります。

- ジョブの実行そのものでエラーが発生した。
- インストールチェックでエラーが発生した。

どちらが原因で発生したエラーなのかを、[ジョブ実行状況] ウィンドウの [詳細情報] ダイアログボックスに表示される保守コードで判断できます。

[詳細情報] ダイアログボックスの表示方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「8.4.4 ジョブの実行状況の表示方法」を参照してください。

表示される保守コードは次のとおりです。

保守コード	意味	対処
30009f070800	インストールチェックの実行でエラーが発生した。	「(8) インストールチェック時に発生したエラーの対処」を参照して、エラー原因を調査してください。
上記以外の保守コード	ジョブがそのほかの要因でエラーになった。	[詳細情報] ダイアログボックスの「説明」欄の (対処) に従ってください。

注 対処方法の詳細については、「6.2.3 保守コード一覧」を参照してください。

(4) レジストリ取得項目の作成

秘文製品のインストールチェック結果を確認するため、クライアントのレジストリ情報を取得します。

インストールチェック結果を格納したレジストリ情報を取得するには、配布管理システムでレジストリ取得項目を作成する必要があります。レジストリ取得項目は、[項目設定] ダイアログボックスで設定します。

図 E-8 [項目設定] ダイアログボックス

[項目設定] ダイアログボックスに設定する内容を次に示します。

項目	設定内容
項目名称	任意の値を設定
ルートキー	「HKEY_LOCAL_MACHINE」を選択
パス	<ul style="list-style-type: none"> OS が 32 ビット版の場合 ¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P OS が 64 ビット版の場合 ¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi¥NETM/DM/P
レジストリ名	秘文 INSTCHK
OS 種別	「選択する」を選択し、「Windows2000」、「Windows XP」、「Windows Vista」および「Windows 7」のチェックボックスをオン

レジストリ取得項目を作成する方法の詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.2 レジストリ情報の取得方法」を参照してください。

(5) 「レジストリ取得項目の転送」ジョブの作成・実行

(4) で作成したレジストリ取得項目を、クライアントへ配布します。配布するには、「レジストリ取得項目の転送」ジョブを作成・実行します。これによって、クライアントのインストールチェック結果のレジストリ情報が、取得できるようになります。

「レジストリ取得項目の転送」ジョブを作成・実行する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.2 レジストリ情報の取得方法」を参照してください。

(6) 「システム情報の取得」ジョブの作成・実行

レジストリ情報をクライアントから取得するために、リモートインストールマネージャから「システム情報の取得」ジョブを実行します。(5) で配布されたレジストリ取得項目に基づき、クライアントのレジストリ情報が取得されます。

「システム情報の取得」ジョブを実行する前に、(3) で実行した「パッケージのインストール」ジョブと、(5) で実行した「レジストリ取得項目の転送」ジョブが正常に終了している必要があります。

「システム情報の取得」ジョブを作成・実行する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.1 システム情報の取得手順」を参照してください。

(7) インストールチェック結果の確認

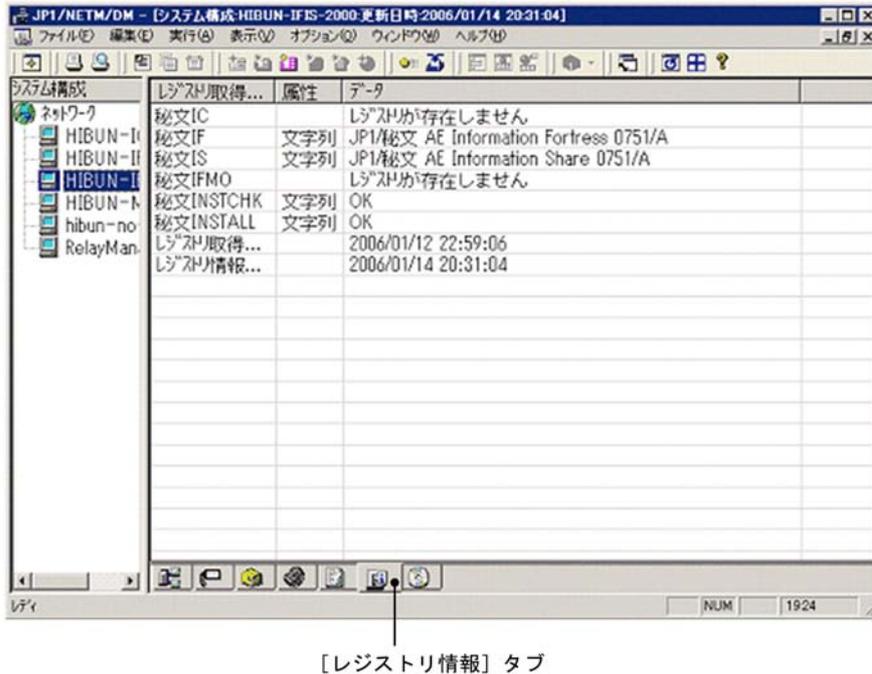
取得したレジストリ情報を使って、インストールチェック結果を次のように確認および集計できます。

- クライアントごとにインストールチェック結果を確認する。
- インストールチェック結果を集計する。

(a) クライアントごとにインストールチェック結果を確認する

[システム構成] ウィンドウの [レジストリ情報] タブを選択し、インストールチェック結果を確認したいクライアントを選択します。

図 E-9 [システム構成] ウィンドウ (レジストリ情報)



[レジストリ情報] タブに表示されるレジストリ情報の取得結果を次の表に示します。

表 E-3 レジストリ情報の取得結果

レジストリ取得項目	取得結果 (「データ」 欄)	内容
秘文 INSTCHK	OK	インストールチェックが正常終了した
	NG	インストールチェックでエラーが発生した

取得したレジストリ情報を [システム構成] ウィンドウで確認する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.5 取得したシステム情報の確認」を参照してください。

(b) インストールチェック結果を集計する

インベントリビューアで、インストールチェック結果を条件として設定し、集計します。

インストールチェックの実行結果は、次の 2 種類があります。

- OK
秘文製品のインストールチェックが正常に終了した
- NG
秘文製品のインストールチェックでエラーが発生した

インベントリビューアで集計する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「4.2 インベントリ情報を集計する」を参照してください。

(8) インストールチェック時に発生したエラーの対処

インストールチェックを実行し、エラーが発生した場合は、そのエラー要因がチェック結果ファイルに出力されます。チェック結果ファイルは、クライアントの次の場所へ出力されます。

Windows のインストール先ディレクトリ ¥HIBUN¥INSTCHK¥ コンピュータ名 .csv

チェック結果ファイルの内容を確認して、エラー要因を取り除いてください。

チェック結果ファイルの出力フォーマットや出力内容については、マニュアル「JP1/ 秘文 セットアップガイド（管理者用）」のインストールチェックについて記述された箇所を参照してください。

付録 E.4 秘文製品のインストール

秘文製品のインストールチェックを実行し、正常終了の場合は続けてクライアントへサイレントインストールできます。これによって、インストール条件を満たしたクライアントだけに、秘文製品をリモートインストールできます。

秘文製品のインストール媒体と JP1/NETM/DM で提供している AIT ファイルをパッケージングし、ジョブを実行することで、秘文製品をインストールします。

秘文製品をインストールする手順を次の図に示します。

図 E-10 秘文製品をインストールする手順



次に、各手順を説明します。

(1) 秘文製品のインストール媒体の作成

秘文製品をクライアントにインストールするためのインストール媒体を作成します。

インストール媒体の作成方法については、マニュアル「JP1/ 秘文 セットアップガイド（管理者用）」を参照してください。

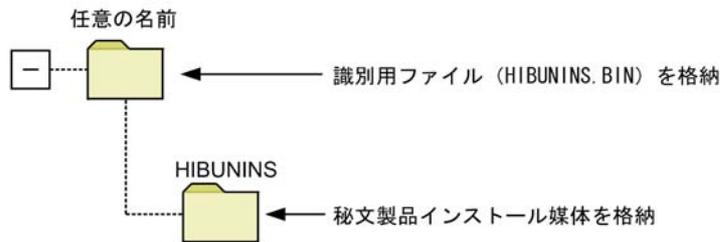
(2) 識別用ファイルとインストール媒体のパッケージング

秘文製品をインストールするための識別用ファイルと (1) で作成したインストール媒体をパッケージングします。

パッケージングの手順を次に示します。

1. パッケージング用のディレクトリを、次の図に示す構成で作成する。

図 E-11 パッケージング用のディレクトリ構成



2. ルートディレクトリに識別用ファイルを格納する。
 ルートディレクトリに、JP1/NETM/DM に標準添付された識別用ファイル (HIBUNINS.BIN) をコピーします。標準添付された識別用ファイル (HIBUNINS.BIN) は、次に示すディレクトリに格納されています。
 クライアントのインストール先ディレクトリ ¥MASTER¥DMAIT¥HIBUNINS_Key
3. ルートディレクトリ下に、HIBUNINS フォルダを作成する。
 (1) で作成した秘文製品のインストール媒体を格納します。
4. ファイルを格納したディレクトリを指定してパッケージングする。
 パッケージング時には、[JP1/NETM/DM パッケージング] ダイアログボックスの [オプション] パネルで「インストール後コンピュータを再起動する」チェックボックスをオンにしてください。

パッケージングの方法の詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.1 パッケージングの方法」を参照してください。

秘文製品をインストールするパッケージ名は、AIT-HIBUN-INST になります。

識別用ファイルについては、マニュアル「Automatic Installation Tool ガイド」の「付録 B JP1/NETM/DM で提供する AIT ファイル」を参照してください。

(3) 「パッケージのインストール」ジョブの作成・実行

(2) で作成したパッケージをクライアントへ配布するため、リモートインストールを指示するジョブを作成・実行します。

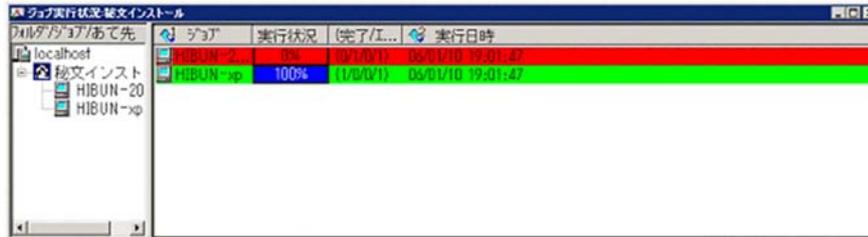
ジョブ作成時のジョブ種別は、「パッケージのインストール」を選択します。

リモートインストールを指示するジョブの作成・実行については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.3 リモートインストールの実行」を参照してください。

「パッケージのインストール」ジョブが実行されると、インストール媒体に格納されたインストールチェックコマンドが実行され、秘文製品をインストールできるクライアントに対してサイレントインストールが実行されます。

ジョブの実行結果は、[ジョブ実行状況] ウィンドウの「実行状態」で確認できます。

図 E-12 [ジョブ実行状況] ウィンドウ

**正常終了**

秘文製品をインストールできる状態です。

エラー

秘文製品をインストールできない状態です。エラー原因には次の 2 種類があります。

- ジョブの実行そのものでエラーが発生した。
- インストールでエラーが発生した。

どちらが原因で発生したエラーなのかを [ジョブ実行状況] ウィンドウの [詳細情報] ダイアログボックスに表示される保守コードで判断できます。

[詳細情報] ダイアログボックスの表示方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「8.4.4 ジョブの実行状況の表示方法」を参照してください。

表示される保守コードは次のとおりです。

保守コード	意味	対処
30009f070800	インストールチェックの実行またはインストールの実行でエラーが発生した。	「(8) インストール時に発生したエラーの対処」を参照して、エラー原因を調査してください。
上記以外の保守コード	ジョブがそのほかの要因でエラーになった。	[詳細情報] ダイアログボックスの「説明」欄の (対処) に従ってください。

注 対処方法の詳細については、「6.2.3 保守コード一覧」を参照してください。

(4) レジストリ取得項目の作成

秘文製品のインストール結果を確認するため、クライアントのレジストリ情報を取得します。

インストール結果を格納したレジストリ情報を取得するには、取得する情報をレジストリ取得項目に設定します。レジストリ取得項目は、[項目設定] ダイアログボックスで設定します。

図 E-13 [項目設定] ダイアログボックス



[項目設定] ダイアログボックスに設定する内容を次に示します。

項目	設定内容
項目名称	任意の値を設定
ルートキー	「HKEY_LOCAL_MACHINE」を選択
パス	<ul style="list-style-type: none"> OS が 32 ビット版の場合 ¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P OS が 64 ビット版の場合 ¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi¥NETM/DM/P
レジストリ名	秘文 INSTALL
OS 種別	「選択する」を選択し、「Windows2000」、「Windows XP」、「Windows Vista」および「Windows 7」のチェックボックスをオン

レジストリ取得項目を作成する方法の詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.2 レジストリ情報の取得方法」を参照してください。

(5) 「レジストリ取得項目の転送」ジョブの作成・実行

(4) で作成したレジストリ取得項目を、クライアントへ配布します。配布するには、「レジストリ取得項目の転送」ジョブを作成・実行します。これによって、クライアントのインストール結果のレジストリ情報が、取得できるようになります。

「レジストリ取得項目の転送」ジョブを作成・実行する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.2 レジストリ情報の取得方法」を参照してください。

(6) 「システム情報の取得」ジョブの作成・実行

レジストリ情報をクライアントから取得するために、リモートインストールマネージャから「システム情

報の取得」ジョブを実行します。(5) で配布されたレジストリ取得項目に基づき、クライアントのレジストリ情報が取得されます。

「システム情報の取得」ジョブを実行する前に、(3) で実行した「パッケージのインストール」ジョブと、(5) で実行した「レジストリ取得項目の転送」ジョブが正常に終了している必要があります。

「システム情報の取得」ジョブを作成・実行する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.1 システム情報の取得手順」を参照してください。

(7) インストール結果の確認

取得したレジストリ情報を使って、インストール結果を次のように確認および集計できます。

- クライアントごとにインストール結果を確認する。
- インストールの結果を集計する。

(a) クライアントごとにインストール結果を確認する

[システム構成] ウィンドウの [レジストリ情報] タブを選択し、秘文製品のインストール結果を確認したいクライアントを選択します。

[レジストリ情報] タブに表示されるレジストリ情報の取得結果を次の表に示します。

表 E-4 レジストリ情報の取得結果

レジストリ取得項目	取得結果	内容
秘文 INSTALL	OK	インストールが正常終了した
	INSTCHK_NG	インストールチェックでエラーが発生した
	NG	インストールでエラーが発生した

取得したレジストリ情報を [システム構成] ウィンドウで確認する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.1.5 取得したシステム情報の確認」を参照してください。

(b) インストールの結果を集計する

インベントリビューアで、インストールの実行結果を条件として設定し、集計します。

図 E-14 [集計] ウィンドウ



インストールの実行結果は、次の 3 種類があります。

- OK
秘文製品のインストールが正常終了した
- INSTCHK_NG
インストールチェックでエラーが発生した

- NG

秘文製品のインストールでエラーが発生した

インベントリビューアで集計する方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「4.2 インベントリ情報を集計する」を参照してください。

(8) インストール時に発生したエラーの対処

インストールを実行し、エラーが発生した場合は、そのエラー要因がチェック結果ファイルに出力されます。チェック結果ファイルは、クライアントの次の場所に出力されます。

Windows のインストール先ディレクトリ ¥HIBUN¥INSTCHK¥ コンピュータ名 .csv

チェック結果ファイルの内容を確認して、エラー要因を取り除いてください。

チェック結果ファイルの出力フォーマットや出力内容については、マニュアル「JP1/ 秘文 セットアップガイド (管理者用)」のインストールチェックについて記述された個所を参照してください。

付録 E.5 秘文製品の内部ログの収集

秘文製品を使用中にエラーが発生した場合、JP1/NETM/DM を使って秘文製品のログをクライアントから収集できます。秘文製品のログは、リモートコレクトまたはリモートコントロールマネージャの機能を使って収集できます。

秘文製品の内部ログを収集する手順を次の図に示します。

図 E-15 秘文製品の内部ログを収集する手順



次に、各手順を説明します。

(1) 識別用ファイルのパッケージング

秘文製品のログを収集するための識別用ファイルが格納されているディレクトリを選択し、パッケージングします。識別用ファイル (HIBUNLOG.BIN) は JP1/NETM/DM に標準添付され、次に示すディレクトリに格納されています。

クライアントのインストール先ディレクトリ ¥MASTER¥DMAIT¥HIBUNLOG_Key

パッケージングの方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.1 パッケージングの方法」を参照してください。

秘文製品のログを収集するためのパッケージ名は、AIT-HIBUN-LOG になります。

識別用ファイルについては、マニュアル「Automatic Installation Tool ガイド」の「付録 B JP1/NETM/DM で提供する AIT ファイル」を参照してください。

(2) 「パッケージのインストール」ジョブの作成・実行

(1) で作成したパッケージをクライアントへ配布するため、リモートインストールを指示するジョブを作成・実行します。

ジョブ作成時のジョブ種別は、「パッケージのインストール」を選択します。

「パッケージのインストール」ジョブが実行されると、収集された秘文製品のログが、クライアントの次の場所に格納されます。

クライアントのインストール先ディレクトリ ¥HIBUN¥LOG_CAB

リモートインストールを指示するジョブの作成・実行については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.3 リモートインストールの実行」を参照してください。

(3) 取得した内部ログの収集

クライアントの秘文製品のログを管理者が確認するためには、クライアントのログを収集する必要があります。ログを収集する方法には、次の 2 種類があります。

- リモートコレクト機能を使用する。
- リモートコントロール機能を使用する。

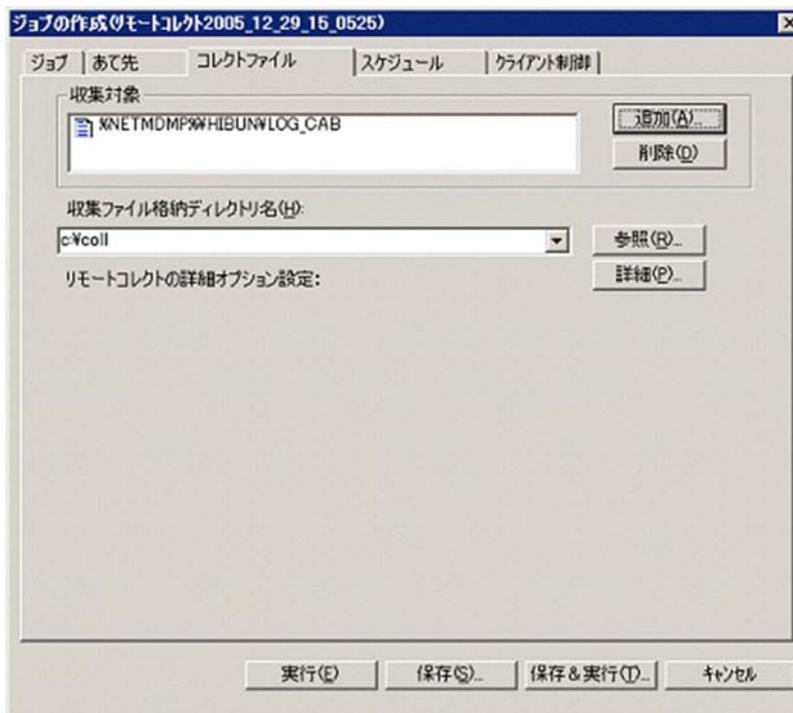
どちらの方法を使用しても、収集されるログの内容は同じです。

(a) リモートコレクト機能を使用する

「パッケージのインストール」ジョブが正常に終了したことを確認したあと、「リモートコレクト」ジョブを作成・実行します。

[ジョブの作成] ダイアログボックスの [コレクトファイル] パネルで、収集するファイルおよび収集したファイルを格納するディレクトリを設定します。

図 E-16 [コレクトファイル] パネル



収集対象

次の場所にあるクライアントの秘文製品のログファイルを指定します。

クライアントのインストール先ディレクトリ ¥HIBUN¥LOG_CAB

注 環境変数の「%NETMDMP%」も指定できます。

収集ファイル格納ディレクトリ名

クライアントから収集したファイルを格納するディレクトリを指定します。

設定が完了したら、「リモートコレクト」ジョブを実行します。リモートコレクトのジョブの作成・実行については、マニュアル「運用ガイド 1」の「5.1.1 リモートコレクトの実行」を参照してください。

ログファイルを収集したあと、クライアントのログファイルは削除してください。リモートコレクトのジョブを実行するときにログファイルを削除する場合は、[コレクトファイル]パネルの[詳細]ボタンをクリックして表示される[リモートコレクトの詳細オプション設定]ダイアログボックスで、「収集直後」に次に示す設定をしてください。

```
cmd.exe /C "RD /S /Q "クライアントのインストール先ディレクトリ ¥HIBUN""
```

リモートコレクトされたファイルはアーカイブされているので、アンアーカイバを使用して復元する必要があります。ファイルの復元方法については、マニュアル「運用ガイド 1」の「5.1.2 収集ファイルの復元」を参照してください。

(b) リモートコントロール機能を使用する

リモートコントロールマネージャの[ファイル転送]ウィンドウで、クライアントのログファイルをマネージャへファイル転送できます。転送するファイルとして、次の場所にあるログファイルを指定します。

クライアントのインストール先ディレクトリ ¥HIBUN¥LOG_CAB

マネージャへのファイル転送が完了したあと、クライアントのログファイルは削除してください。

リモートコントロール機能の詳細については、マニュアル「JP1/NETM/Remote Control」を参照してください。

付録 F EUR を使ったインベントリ管理帳票の作成

「日立エンドユーザ帳票作成機能 EUR」は、帳票を設計したり出力したりできるプログラムです。JP1/NETM/DM の CSV 出力機能と EUR の帳票フォームを連携させることで、JP1/NETM/DM が管理するインベントリ情報を容易に帳票に印刷することができます。

付録 F.1 EUR と JP1/NETM/DM の連携

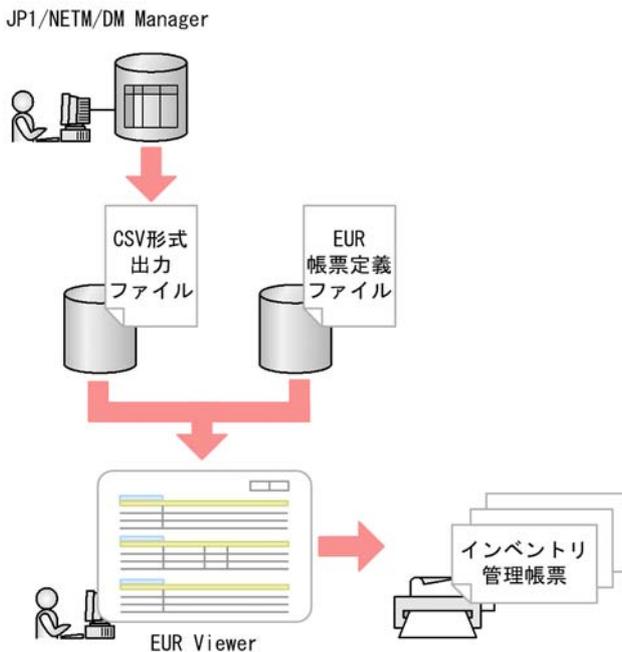
EUR は、JP1/NETM/DM で作成したインベントリ情報の CSV 形式ファイルを読み込んで、帳票を印刷するための帳票フォーム（帳票定義ファイル）を提供しています。帳票定義ファイルで作成できる帳票は次の 9 種類があります。

- システム情報詳細
- システム情報サマリー一覧
- ストレージ情報一覧
- ネットワーク情報一覧
- ディスプレイ情報一覧
- クライアント情報一覧
- インストールパッケージ一覧
- ソフトウェアインベントリ一覧
- ソフトウェアライセンス一覧

これらの帳票の印刷には、「EUR Viewer」または「EUR Print Service」が必要です。さらに、帳票のカスタマイズには、「EUR Professional Edition」が必要になります。

EUR と JP1/NETM/DM の連携の概要を次の図に示します。

図 F-1 EUR と JP1/NETM/DM の連携



付録 F.2 EUR 連携の動作環境

(1) 必要なプログラム

帳票を印刷するには、次のプログラムが必要です。

JP1/NETM/DM Manager 06-71 以降

バージョン 7 の EUR Viewer またはバージョン 7 の EUR Print Service

帳票定義ファイルを編集して帳票をカスタマイズする場合には、次のプログラムが必要です。

バージョン 7 の EUR Professional Edition

(2) CSV 出力ユティリティのテンプレートと帳票定義ファイルの関係

帳票を作成するためには、JP1/NETM/DM が管理しているインベントリ情報を CSV 形式ファイルに変換して出力しておく必要があります。CSV 形式ファイルの出力には、CSV 出力ユティリティまたは dcmcsvu コマンドを使用します。CSV 出力ユティリティまたは dcmcsvu コマンドで出力する情報はテンプレートごとに異なります。CSV 出力ユティリティまたは dcmcsvu コマンドのテンプレートと帳票定義ファイルの関係を次に示します。

CSV 出力ユティリティのテンプレート名 (dcmcsvu コマンドのテンプレート名)	帳票定義ファイル (ファイル名)
システム情報 (SYS_INFO)	システム情報詳細 (SystemInfo.fms)
システム情報 (SYS_INFO)	システム情報サマリー一覧 (SystemSummary.fms)
システム情報 (SYS_INFO)	ストレージ情報一覧 (Storage.fms)
システム情報 (SYS_INFO)	ネットワーク情報一覧 (Network.fms)
	ディスプレイ情報一覧 (Display.fms)
	クライアント情報一覧 (Client.fms)
インストール済みパッケージ情報 (INSTLD_PKG)	インストールパッケージ情報一覧 (InstallPackage.fms)
ソフトウェアインベントリ (SOFT_INV)	ソフトウェアインベントリ一覧 (SoftwareInventory.fms)
ライセンス管理 (LICENSE)	ソフトウェアライセンス一覧 (SoftwareLisence.fms)

なお、インベントリビューアから出力した CSV 形式ファイルは、提供する帳票定義ファイルを使った帳票の作成はできません。

(3) 各帳票の印刷項目

各帳票で印刷される項目について示します。各帳票は JP1/NETM/DM Manager のコンポーネントのサーバ (リレーショナルデータベース版) と一緒にインストールされます。このため各帳票は、JP1/NETM/DM Manager のインストール先ディレクトリ (%NETMDM%) ¥REPORT¥EUR¥FORMS ディレクトリにあります。

(a) システム情報詳細

ホストごとのシステム情報の詳細についての帳票です。この帳票で出力される項目を次に示します。

コンピュータ名, 所有者名, 会社名, OS 名, OS バージョン, OS サブバージョン, OS パッチ情報, OS ライセンス情報, ドメイン種別, CPU タイプ, CPU クロック数, CPU 数, 物理メモリ容量, 製造元, モデル, 利用可能ユーザメモリ容量, 利用可能システムメモリ容量, 論理ドライブ名, ドライブデバイス名,

ドライブ空き容量，ドライブ容量，空きディスク容量，ディスク容量合計，ビデオドライバ，ビデオチップ，VRAM 容量，画面情報，ホスト名，IP アドレス，MAC アドレス，ネットワークアダプタ，デフォルトルータアドレス，クライアントバージョン，ホスト識別子

(b) システム情報サマリー一覧

ホストごとのシステム情報の要約を一覧にした帳票です。この帳票で出力される項目を次に示します。

ホスト名，IP アドレス，製造元，モデル，OS 名，OS バージョン，OS サブバージョン，CPU タイプ，CPU クロック数，物理メモリ容量，空きディスク容量，ディスク容量

(c) ストレージ情報一覧

ホストごとのストレージ情報を一覧にした帳票です。この帳票で出力される項目を次に示します。

ホスト名，IP アドレス，論理ドライブ名，ドライブデバイス名，ドライブ空き容量，ドライブ容量，空きディスク容量，ディスク容量

(d) ネットワーク情報一覧

ホストごとのネットワーク情報を一覧にした帳票です。この帳票で出力される項目を次に示します。

ホスト名，IP アドレス，MAC アドレス，ネットワークアダプタ，デフォルトルータアドレス，サブネットマスク

(e) ディスプレイ情報一覧

ホストごとのディスプレイ情報を一覧にした帳票です。この帳票で出力される項目を次に示します。

ホスト名，IP アドレス，ビデオドライバ，ビデオチップ，VRAM 容量，画面情報

(f) クライアント情報一覧

ホストごとのクライアント情報を一覧にした帳票です。この帳票で出力される項目を次に示します。

ホスト名，IP アドレス，クライアントバージョン，ホスト識別子

(g) インストールパッケージ一覧

ホストごとのインストールパッケージを一覧にした帳票です。この帳票で出力される項目を次に示します。

ホスト名，IP アドレス，パッケージ名，インストールステータス，パッケージバージョン，パッケージ世代番号，インストール日時/ソフトウェア検索日時

(h) ソフトウェアインベントリ一覧

ホストごとのソフトウェアインベントリを一覧にした帳票です。この帳票で出力される項目を次に示します。

ホスト名，IP アドレス，ソフトウェア名称，ソフトウェアバージョン，ソフトウェアの会社名，ソフトウェアの説明

(i) ソフトウェアライセンス一覧

各ソフトウェアのライセンスを管理する帳票です。この帳票で出力される項目を次に示します。

ソフトウェア名称，ソフトウェアバージョン，インストール台数，所有ライセンス数，警告ライセンス数，警告状態

付録 F.3 EUR を使った帳票の作成方法

帳票は、JP1/NETM/DM Manager の [CSV 出力ユーティリティ] または CSV 出力コマンドが出力した CSV 形式ファイルを、EUR が提供する帳票定義ファイル (*.fms) に入力して作成します。帳票を作成するためには大きく分けて次の作業を実施する必要があります。

JP1/NETM/DM による CSV 形式ファイルの出力

EUR による帳票の作成

次に JP1/NETM/DM の CSV 出力ユーティリティを使った CSV 形式ファイルの作成方法を示します。

JP1/NETM/DM の demcsvu コマンドを使った CSV 形式ファイルの作成方法については、「4.5 demcsvu.exe (CSV 出力)」を参照してください。

(1) CSV 出力ユーティリティでの CSV 形式ファイルの出力

JP1/NETM/DM の CSV 出力ユーティリティを使って出力したい帳票に対応したテンプレートと項目を指定して、CSV 形式ファイルを作成します。

! 注意事項

Unicode の CSV 形式ファイルを作成した場合は、このファイルに対して BOM (Byte Order Mark) を追加してください。

Unicode の CSV 形式ファイルに BOM を追加するスクリプトの例を次に示します。

```
Dim inFileName
inFileName = "instld_pkg.csv" '入力ファイル名
Dim outFileName
outFileName = "BOM_" + inFileName '出力ファイル名

Dim strm
Set strm = CreateObject("ADODB.Stream")
strm.type = 2
strm.charset = "utf-8"
strm.open
strm.LoadFromFile inFileName
strm.SaveToFile outFileName
strm.Close
```

このスクリプト例では、JP1/NETM/DM が出力した Unicode の CSV 形式ファイル (instld_pkg.csv) を入力ファイルとし、BOM を追加した Unicode の CSV 形式ファイル (BOM_instld_pkg.csv) を出力します。

CSV 出力ユーティリティの使用方法を次に示します。

(a) テンプレートの設定

Windows の [スタート] メニューから [プログラム] - [JP1_NETM_DM Manager] グループの [CSV 出力ユーティリティ] アイコンをクリックすると、[テンプレートの設定] ダイアログボックスが表示されます。

図 F-2 [テンプレートの設定] ダイアログボックス

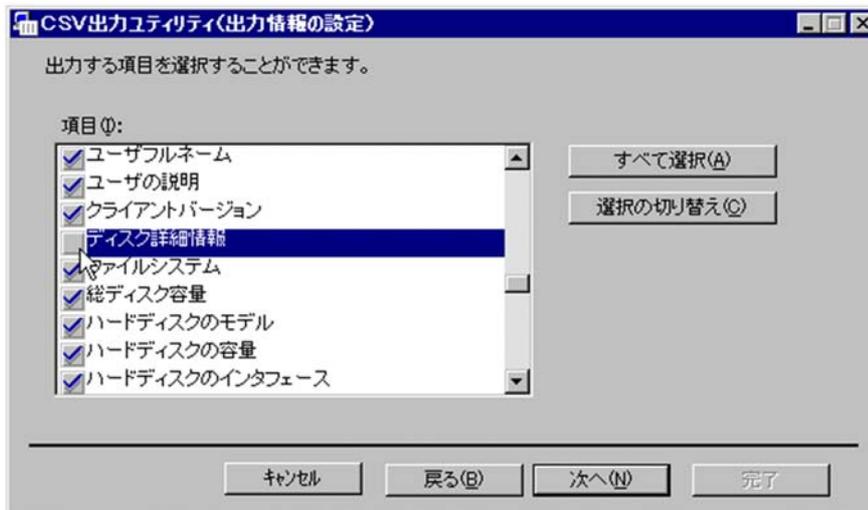


このダイアログボックスの [テンプレート名称] に、作成したい帳票に対応する CSV 出力ユーティリティのテンプレートの名称を選択してください。

(b) 出力情報の設定

ファイルに出力する項目を設定します。このダイアログボックスは、テンプレートに「システム情報」または「インストール済みパッケージ情報」を選択した場合に表示されます。

図 F-3 [出力情報の設定] ダイアログボックス



このダイアログボックスの [項目] で、各帳票に必要な項目にチェックし、不要な項目のチェックを外してください。

なお、「システム情報」を選択して、かつ次の帳票定義ファイルを作成する場合、ファイルに出力する項目のうち、「ディスク詳細情報」のチェックは必ず外してください。

システム情報サマリー一覧 (SystemSummary.fms)

ネットワーク情報一覧 (Network.fms)

ディスプレイ情報一覧 (Display.fms)

クライアント情報一覧 (Client.fms)

(c) 出力項目の条件設定

ファイルに出力する情報の出力条件を設定します。このダイアログボックスは、テンプレートに「システム情報」または「インストール済みパッケージ情報」を選択した場合に表示されます。

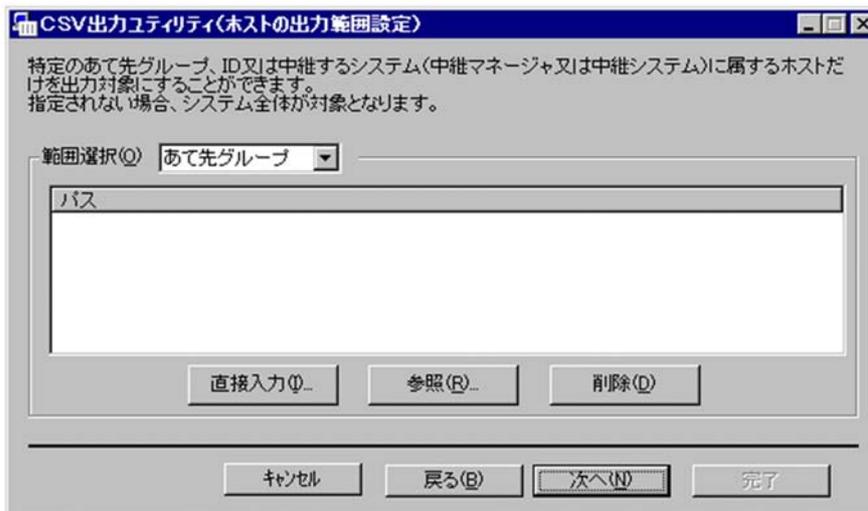
図 F-4 [出力項目の条件設定] ダイアログボックス



(d) ホストの出力範囲の設定

特定のあて先グループ、ID またはシステム構成に属するホストだけを出力対象にする場合に設定します。このダイアログボックスは、テンプレートに「システム情報」、「インストール済みパッケージ情報」、「ソフトウェアインベントリ」を選択した場合に表示されます。

図 F-5 [ホストの出力範囲の設定] ダイアログボックス

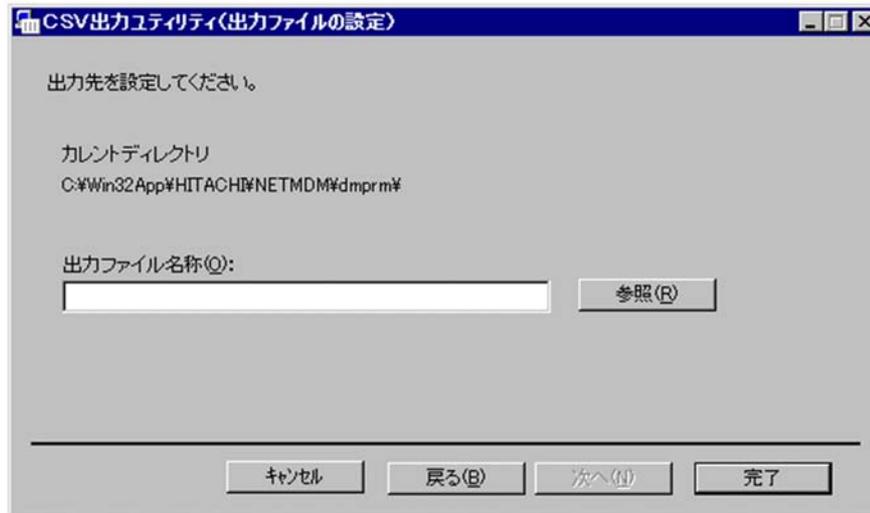


一度に多くのホストの情報を出力すると、出力に時間が掛かり、管理も複雑になります。このため、出力範囲は 300 件程度に絞り込んでください。

(e) CSV 形式ファイルの出力

出力するファイルの名称を設定します。

図 F-6 [出力ファイルの設定] ダイアログボックス



名称を設定して [完了] ボタンをクリックすると、CSV 形式ファイルが作成されます。作成した CSV 形式ファイルを使って、EUR で帳票を作成します。

(2) EUR による帳票の作成

EUR を使った帳票の作成方法には、次の種類があります。

EUR Viewer による帳票の表示と印刷方法

EUR Professional Edition による帳票の表示と印刷方法

EUR Print による帳票の印刷方法

次に、それぞれについて説明します。

(a) EUR Viewer による帳票の表示と印刷方法

EUR Viewer は、JP1/NETM/DM の CSV 出力ユーティリティで作成した CSV 形式ファイルを読み出して帳票形式に表示し、印刷するプログラムです。

次に EUR Viewer による帳票の表示と印刷方法を示します。

1. EUR Viewer の aprprt コマンドで使用する「オプション記述ファイル」を作成する。
aprprt コマンドと「オプション記述ファイル」の詳細については、マニュアル「帳票作成機能 EUR EUR 帳票出力」を参照してください。
2. テキストエディタを起動して、[Hitachi EUR] セクションの [MappingDataFile] エントリに作成した CSV 形式ファイルのファイルパスを記述して、適当なフォルダに保存する。
「オプション記述ファイル」の記述例を次に示します。
[Hitachi EUR]
MappingDataFile="c:\temp\SystemInfo.csv"
3. EUR Viewer のインストール先フォルダ下の PROGRAM フォルダの aprprt コマンド (aprprt.exe) を実行して帳票を表示する。
4. 帳票に対応した帳票定義ファイル (*.fms) のパス、/l オプションに「view」と、/k オプションに手順 1. で作成した「オプション記述ファイル」のパスを指定して実行する。
aprprt コマンドの実行例を次に示します。

```
> apgrpt.exe c:\¥forms¥SystemInfo.fms /l view /k c:\¥temp¥option.ini
```

apgrpt コマンドを実行した EUR Viewer に帳票が表示されます。

表示した帳票を印刷するには、EUR Viewer の [ファイル] メニューから [印刷] を選択して [印刷] ダイアログボックスから実行します。また、apgrpt コマンドの /l オプションに「print」を指定し、/p オプションにプリンタ名を指定すると、プリンタに直接印刷することもできます。

(b) EUR Professional Edition による帳票の表示と印刷方法

EUR Professional Edition は、帳票を設計し、帳票の表示および出力もできるプログラムです。

次に EUR Professional Edition を使って帳票を表示して印刷する方法について示します。

1. EUR Professional Edition を起動して、[ファイル] メニューから [開く] を選択する。
2. [ファイルを開く] ダイアログボックスの「ファイルの種類」の「フォームシートファイル (*.fms)」を選択して、帳票に対応した帳票定義ファイル (*.fms) を開く。
3. [表示] メニューから [マッピングデータウィンドウ] を選択する。
[マッピングデータ] ウィンドウがアクティブになります。
4. [データ] メニューから [データファイル指定] を選択し、[データファイルの指定] ダイアログボックスから JP1/NETM/DM で作成した CSV 形式ファイルを開く。
このとき、[データのプロパティ] ダイアログボックスの [区切り情報] パネルで、「1 行目のデータをフィールド名として扱う」がチェックされていることを確認してください。また、データウィンドウのフィールド定義で、フィールド名の変更やフィールド属性などを設定してください。

EUR Professional Edition に帳票が表示されたら、[ファイル] メニューの [印刷] を選択して、表示された [印刷] ダイアログボックスから帳票を印刷できます。

なお、EUR Professional Edition では上記の方法以外に、「(a) EUR Viewer による帳票の表示と印刷方法」と同様に apgrpt コマンドで帳票を表示および印刷することもできます。

EUR Professional Edition による帳票の表示と印刷方法の詳細については、マニュアル「帳票作成機能 EUR EUR 帳票設計」を参照してください。

(c) EUR Print Service による帳票の印刷方法

EUR Print Service は、大量データの帳票を出力するためのプログラムです。帳票のデータ量（レコード件数）が増えてもメモリが増加することなく、大量の帳票を出力できます。

EUR Print Service を使って帳票を印刷する方法を次に示します。

1. EUR Print Service のインストール先フォルダ下の「PROGRAM」フォルダの eurps コマンド (eurps.exe) を実行して帳票を印刷する。
/p オプションにプリンタ名を指定し、帳票に対応した帳票定義ファイル (*.fms) のパスと、JP1/NETM/DM で作成した CSV 形式ファイルのパスをコンマ「,」で区切って指定し、実行してください。
次に eurps コマンドの実行例を示します。

```
> eurps.exe /p printer c:\¥forms¥SystemInfo.fms,c:\¥temp¥SystemInfo.csv
```

EUR Print Service による帳票の印刷方法の詳細については、マニュアル「帳票作成機能 EUR EUR Print Service 帳票出力」を参照してください。

付録 F.4 帳票フォームのカスタマイズ

EUR が提供する帳票フォーム自体をユーザ環境に合わせてカスタマイズすることもできます。例えば、システム情報を出力する帳票では、マシンをホスト名と IP アドレスの組み合わせで区別しています。しかし、ホスト名と IP アドレスが単なる通番であるなど、意味を持たない名称やアドレスが付けられているユーザ環境では、マシンを正しく区別することができないため、インベントリ情報を厳密に管理できません。このような場合、帳票をカスタマイズすると便利です。

EUR のプログラム「EUR Professional Edition」と、JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報の取得機能を使用して、マシンを実際の実用者名で区別する帳票の作成方法を説明します。ここではシステム情報サマリー一覧を例にカスタマイズしていますが、ほかの帳票でも同じようにカスタマイズできます。

1. マシンの実用者名を取得する。

JP1/NETM/DM から「ユーザインベントリ情報の取得」ジョブを実行して、マシンの実用者名を取得してください。

ユーザインベントリ項目に実用者の項目を設定すれば、その情報をシステム情報と一緒に CSV 形式ファイルに出力することができます。ユーザインベントリ情報の取得手順については、マニュアル「運用ガイド 1」の「3.3 ユーザインベントリ情報を取得する」を参照してください。

ここでは、マシンの実用者の項目名（ラベル名）を「実用者」として説明します。

2. CSV 形式ファイルを出力する。

JP1/NETM/DM の [CSV 出力ユーティリティ] を起動して、[テンプレートの選択] ダイアログボックスで「ユーザ管理情報」を選択してください。

「ユーザ管理情報」テンプレートには、手順 1. で設定した「実用者」の項目とシステム情報の両方が一つの CSV 形式ファイルに出力されます。

図 F-7 [テンプレートの設定] ダイアログボックス



3. 帳票定義ファイルを開く。

EUR Professional Edition を起動し、[ファイル] メニューから [開く] を選択して、[ファイルを開く] ダイアログボックスの [ファイルの種類] に「フォームシートファイル (*.fms)」を選択して、システム情報サマリー一覧ファイルの帳票定義ファイル (SystemSummary.fms) を開きます。

4. CSV 形式ファイルを指定する。

手順 2. で出力した CSV 形式ファイルを EUR Professional Edition にマッピングデータファイルとして読み込んでください。

EUR Professional Edition の [表示] メニューから [マッピングデータウィンドウ] を選択して、
[マッピングデータ] ウィンドウをアクティブにします。
[データ] メニューから [データファイル指定] を選択して、[データファイルの指定] ダイアログボックスで CSV 形式ファイルを指定して、CSV 形式ファイルを読み込みます。
このとき、[データのプロパティ] ダイアログボックスの [区切り情報] パネルで、「1 行目のデータをフィールド名として扱う」チェックボックスを必ずオンにしてください。

図 F-8 [データのプロパティ] ダイアログボックス



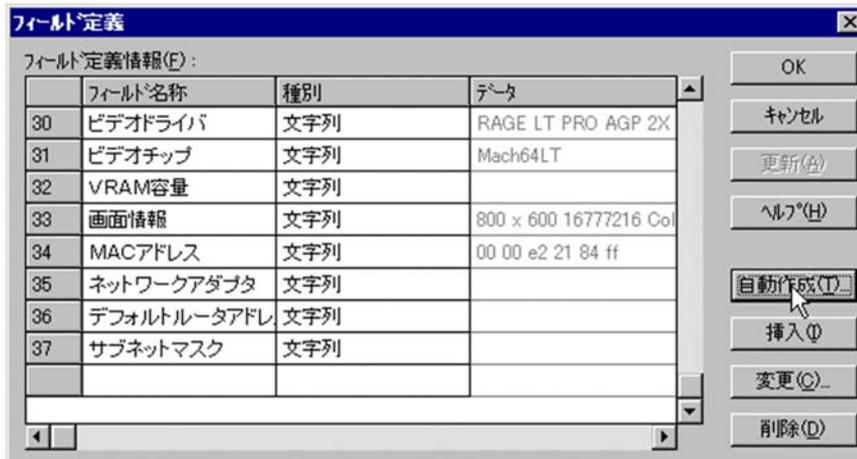
5. フィールド定義を再作成する。

システム情報サマリー一覧の帳票定義ファイルは、[CSV 出力ユーティリティ] でシステム情報テンプレートに出力した CSV 形式ファイルのフィールド定義で作成されています。そのため、ユーザ管理情報テンプレートで出力した CSV 形式ファイルを読み込むためには、フィールド定義を再作成する必要があります。

EUR Professional Edition の [表示] メニューから [マッピングデータウィンドウ] を選択して、
[マッピングデータ] ウィンドウをアクティブにし、[データ] メニューから [フィールド定義] を選択してください。

[フィールド定義] ダイアログボックスの [自動作成] ボタンをクリックすると、フィールド定義が再作成されます。

図 F-9 [フィールド定義] ダイアログボックス



[フィールド定義] ダイアログボックスの [フィールド名称] に「使用者」が追加されていることを確認してください。また、すべてのフィールドの [種別] が文字列になっていることも確認してください。

6. 項目名を変更する。

EUR Professional Edition の [帳票] ウィンドウを選択して、[帳票] ウィンドウをアクティブにします。ツールボックスの矢印アイコンをクリックして、選択モードにしてから、[文字] のチェックボックスだけをオンにしてください。

図 F-10 [帳票] ウィンドウのツールボックス



[帳票] ウィンドウの「ホスト名称」の項目をダブルクリックして、項目の名称を「使用者氏名」に変更します。

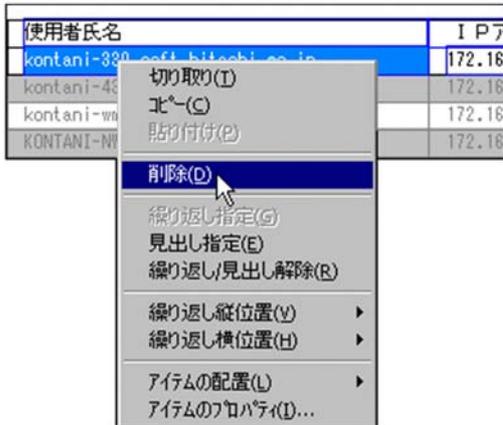
図 F-11 項目名の変更

項目名	IPアドレス
[使用者しめし]	
kontani-330.soft.hitachi.co.jp	172.18
kontani-430.soft.hitachi.co.jp	172.18
kontani-wm7.soft.hitachi.co.jp	172.18
KONTANI-NW3	172.18

7. 項目を変更する。

項目名を変更したら、その項目名のすぐ下のデータ部分を削除してください。

図 F-12 項目データの削除



[マッピングデータ] ウィンドウの「使用者」項目の 1 行目のデータを , [帳票] ウィンドウの削除した部分にドラッグ & ドロップします。

図 F-13 項目データのコピー



ドロップしたら , アイテムを適当に整形し , アイテムに [繰り返し指定] を設定します。

図 F-14 [繰り返し指定] の設定



以上で , ホスト名から使用者によるマシンの管理帳票が完成します。

付録 G 監査ログの出力

JP1/NETM/Audit・Manager と連携するための監査ログの出力情報について説明します。

付録 G.1 監査ログに出力される事象の種別

監査ログを出力する対象となる事象の種別、および JP1/NETM/DM が監査ログを出力する契機を次の表に示します。事象の種別とは、監査ログに出力される事象を分類するための識別子です。

表 G-1 監査ログに出力される事象の種別

事象の種別	説明	JP1/NETM/DM が出力する契機
StartStop	ソフトウェアの起動および終了を示す事象。	<ul style="list-style-type: none"> JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) の起動および停止 GUI を持つプログラムの起動および停止 バッチコマンドの実行および停止
Authentication	管理者が認証に、成功または失敗したことを示す事象。	GUI を持つプログラムでの認証の実行
Failure	ソフトウェアの異常を示す事象。	JP1/NETM/DM Manager のサービス (Remote Install Server) の異常終了
ContentAccess	JP1/NETM/DM で管理しているファイル、レジストリ、およびデータベースのデータへのアクセスに、成功または失敗したことを示す事象。	<ul style="list-style-type: none"> ジョブの実行および実行結果 コマンドの実行および実行結果 データベースマネージャの操作による異常終了

付録 G.2 監査ログの保存形式

監査ログの保存形式について説明します。監査ログは、NETMAuditManager n .LOG に出力されます。ログファイルが一定の容量に達すると、ファイル名を変更して保存したあと、変更前と同じ名称のファイルを作成して新たにログを書き込みます。一定の容量に達してログファイルが切り替わる際、NETMAuditManager1.LOG を、NETMAuditManager2.LOG に変更して保存し、新たに NETMAuditManager1.LOG を作成して、ログを書き込みます。再び NETMAuditManager1.LOG が一定量に達すると、保存済みの NETMAuditManager2.LOG を NETMAuditManager3.LOG に変更したあと、NETMAuditManager1.LOG を NETMAuditManager2.LOG に変更して保存します。

このように、保存済みのログファイルは、新たにファイルが作成されるごとにファイル名末尾の数値 +1 をしたファイル名称に変更されます。つまり、数値が大きいログファイルほど古いログファイルとなります。なお、ファイル数が設定値を超えると、古いログファイルから削除されます。

ファイルごとのログの出力量やログファイルの出力先は、セットアップで設定できます。監査ログ出力の設定方法については、マニュアル「構築ガイド」の「4.2.21 [監査ログ]パネル」を参照してください。

付録 G.3 監査ログの出力形式

監査ログの出力形式、出力先、出力項目、および出力例について説明します。

(1) 監査ログの出力形式

監査ログの出力形式は、監査ログのフォーマットであることを示す「CALFHM」、監査ログのリビジョン番号、該当する出力項目の順で出力されます。

監査ログの出力形式を次の図に示します。

図 G-1 監査ログの出力形式

CALFHM X.X, 出力項目1=値1, 出力項目2=値2, . . . , 出力項目n=値n

(2) 監査ログの出力先

監査ログは、JP1/NETMDM Manager のセットアップ時に [監査ログ] パネルで指定したディレクトリに出力されます。

[監査ログ] パネルで監査ログの出力先を指定する方法については、マニュアル「構築ガイド」の「4.2.21 [監査ログ] パネル」を参照してください。

(3) 出力項目

出力項目は、共通出力項目と固有出力項目の 2 種類あります。それぞれについて説明します。

共通出力項目

監査ログを出力する JP1 製品で共通して出力される項目です。

固有出力項目

監査ログを出力する JP1 製品ごとに、出力される項目です。

(a) 共通出力項目

共通出力項目に出力される値および内容を次の表に示します。

表 G-2 監査ログの共通出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	共通仕様識別子	-	「CALFHM」	監査ログのフォーマットであることを示す識別子
2	共通仕様リビジョン番号	-	X.X	監査ログを管理するためのリビジョン番号
3	通番	seqnum	通番	監査ログの通し番号
4	メッセージ ID	msgid	KDSDxxx-x	製品ごとのメッセージ ID
5	日付・時刻	date	YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD ¹	監査ログの取得日時およびタイムゾーン
6	発生プログラム名	progid	「JP1/NETM/DM」	事象が発生したプログラム名

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
7	発生コンポーネント名	compid	[JP1_NETM_DM Manager] フォルダのメニュー名 <ul style="list-style-type: none"> • JP1_DM_SERVICE Remote install Server • JP1_DM_SETUP セットアップ • JP1_DM_DBMANAGER データベースマネージャ • JP1_DM_NETMDM リモートインストールマネージャ • JP1_DM_DMIVVW イベントリビューア • JP1_DM_DMCSVUTY CSV 出力ユーティリティ • JP1_DM_DMUNARC アンアーカイバ • JP1_DM_DMPACK パッケージャ 	事象を検出した [JP1_NETM_DM Manager] フォルダのメニュー名, ウィンドウ名, およびコマンド名

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
			ウィンドウ名 • JP1_DM_DMDRYSTP ホスト探索 • JP1_DM_DMSMID ソフトウェア稼働情報 • JP1_TEMPLATEVIEW テンプレート管理 • JP1_DM_DPTVIEW 更新プログラムの管理 ²	
			コマンド名 • JP1_DM_DCMCOLL ファイルの収集 • JP1_DM_DCMCSVU CSV 出力 • JP1_DM_DCMDICE ソフトウェアインベントリ辞書のエクスポート • JP1_DM_DCMDICI ソフトウェアインベントリ辞書のインポート • JP1_DM_DCMGPMNT あて先グループへのポリシーの一括反映 • JP1_DM_DCMHSTWO JP1/NETM/DM 未導入ホストの検出 • JP1_DM_DCMINST ジョブの作成, 実行 • JP1_DM_DCMJBRM ジョブの削除 • JP1_DM_DCMJEXE ジョブの実行 • JP1_DM_DCMMONRST 稼働情報のデータベースへの格納 • JP1_DM_DCMPACK パッケージングの実行 • JP1_DM_DCMFKGET パッケージのバックアップの取得 • JP1_DM_DCMFKPUT パッケージのバックアップからの復元 • JP1_DM_DCMPKRM パッケージの削除	

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
			<ul style="list-style-type: none"> • JP1_DM_DCMRMGEN ジョブ定義の削除 • JP1_DM_DCMRTRY ジョブの再実行 • JP1_DM_DCMSTAT ジョブの実行状況の取得 • JP1_DM_DCMSTDIV オフラインマシン情報の入力 • JP1_DM_DCMSTSW ジョブの実行状況の監視 • JP1_DM_DCMSUSP ファイル転送の中断と再開 • JP1_DM_DCMUIDI ユーザインベントリの一括入力 • JP1_DM_DCMWSUS WSUS コンピュータグループの登録 / 同期 実行 • JP1_DM_DCMADSYNC ディレクトリ連携 <p>バッチコマンド名</p> <ul style="list-style-type: none"> • JP1_DM_NETMDB_UNLOAD データベースの移行用バックアップの取得 • JP1_DM_NETMDB_RELOAD データベースの移行用バックアップからの 復元 • JP1_DM_NETMDB_START データベースの起動 • JP1_DM_NETMDB_STOP データベースの停止 • JP1_DM_NETMDB_BACKUP データベースのバックアップの取得 • JP1_DM_NETMDB_REORGANIZATION データベースの再編成 • JP1_DM_NETMDB_RECLAIM データベースの使用中空きページの解放 • JP1_DM_NETMFILE_BACKUP 操作履歴およびパッケージファイルのバック アップの取得 • JP1_DM_NETMFILE_RESTORE 操作履歴およびパッケージファイルのバック アップからの復元 	
8	発生プロセス ID	pid	プロセスの ID	事象が発生を検出した プロセスの ID
9	発生場所	ocp:host	ホスト名	事象が発生したホスト のホスト名 なお、ホスト名を取得 できない場合は、「-」 (ハイフン) が出力され ます。
10	事象の種別	ctgry	<ul style="list-style-type: none"> • StartStop • Authentication • Failure • ContentAccess 	監査ログに出力される 事象を分類するため識 別子

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
11	事象の結果	result	<ul style="list-style-type: none"> • Success (成功) • Failure (失敗) • Occurrence (成功または失敗の分類がない事象の発生) 	発生した事象の結果
12	サブジェクト識別情報 ³	subj:uid	JP1 ユーザの ID	事象を発生させたユーザの情報
		subj:pid	プロセス ID	事象を発生させたプロセス情報

(凡例)

- : 属性名は出力されない

注 1

YYYYは年, MMは月, DDは日, hhは時間, mmは分, ssは秒, sssはミリ秒です。

Tは日付と時刻の区切りです。

TZDはタイムゾーン指定子です。次のどれかが出力されます。

+hh:mm: 世界共通の標準時刻から hh:mm だけ進んでいることを示す。

-hh:mm: 世界共通の標準時刻から hh:mm だけ遅れていることを示す。

Z: 世界共通の標準時刻と同じであることを示す。

注 2

タスクスケジューラから実行された操作については、監査ログは出力されません。

注 3

事象がユーザに関連しない場合、またはユーザ管理の機能を使用しない場合は、プロセス ID が出力されます。

(b) 固有出力項目

固有出力項目に出力される値および内容を次の表に示します。

表 G-3 監査ログの固有出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	動作情報	op	<ul style="list-style-type: none"> • DMPK_REG パッケージの登録 • DMPKJOB_ACT 「パッケージのインストール」 または「クライアントユーザによるインストール」ジョブの実行 	事象を発生させたユーザの動作の情報 なお、値に該当しない動作の情報は、出力されません。
2	権限情報	auth	<ul style="list-style-type: none"> • JP1_DM_Admin システム管理者 • JP1_DM_Deploy 配布管理ユーザ • JP1_DM_Inventory 資産管理ユーザ • JP1_DM_Observe システム監視ユーザ • JP1_DM_Collect 収集管理ユーザ • JP1_DM_Guest 参照ユーザ 	JP1/Baseへユーザの認証を実行したユーザの権限 なお、値に該当しない動作の情報は、出力されません。
3	自由記述	msg	任意のメッセージ	事象の内容を示すメッセージ

(4) 監査ログの出力例

JP1/NETM/DM Manager でリモートインストールマネージャを起動して、ホストを作成した場合の監査ログの出力例を示します。

ホストを作成する際に実行した操作は次のとおりです。

1. リモートインストールマネージャを起動した。
2. ユーザ認証を実行した。
3. ホストを新規に作成した。
4. リモートインストールマネージャを終了した。

監査ログの内容を次に示します。

図 G-2 監査ログの内容

操作1	CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KDSD10001-I, date=2007-01-24T15:50:28.538+09:00, progid=JP1/NETM/DM, compid=JP1_DM_NETMDM, pid=316, ocp:host=JP1_HOSTNAME, ctgry=StartStop, result=Success, subj:pid=316, msg="起動しました。"
操作2	CALFHM 1.0, seqnum=2, msgid=KDSD10003-I, date=2007-01-24T15:50:36.710+09:00, progid=JP1/NETM/DM, Compid=JP1_DM_NETMDM, pid=316, ocp:host=JP1_HOSTNAME, Ctgry=Authentication, result=Success, subj:uid=admin1, auth=JP1_DM_Admin, msg="認証に成功しました。"
操作3	CALFHM 1.0, seqnum=3, msgid=KDSD4001-I, date=2007-01-24T15:50:50.428+09:00, progid=JP1/NETM/DM, compid=JP1_DM_NETMDM, pid=316, ocp:host=JP1_HOSTNAME, ctgry=ContentAccess, result=Success, subj:uid=admin1, auth=JP1_DM_Admin, msg="ホストを作成しました。"
操作4	CALFHM 1.0, seqnum=4, msgid=KDSD10002-I, date=2007-01-24T15:50:56.600+09:00, progid=JP1/NETM/DM, compid=JP1_DM_NETMDM, pid=316, ocp:host=JP1_HOSTNAME, ctgry=StartStop, result=Success, subj:uid=admin1, auth=JP1_DM_Admin, msg="終了します。"

付録 G.4 監査ログを出力するための設定

監査ログを出力するための設定は、セットアップで実行します。「サーバ本体機能」とパッケージを別の PC で運用している場合は、パッケージでも監査ログの出力を設定する必要があります。

監査ログを出力するための設定を次に示します。

セットアップでの設定

セットアップの [監査ログ] パネルで、「監査ログを出力する」チェックボックスをオンにします。
[監査ログ] パネルでの設定方法の詳細については、マニュアル「構築ガイド」の「4.2.21 [監査ログ] パネル」を参照してください。

パッケージでの設定

[JP1/NETM/DM パッケージ] ウィンドウの [オプション] - [デフォルト値のカスタマイズ] を選択し、[デフォルト値のカスタマイズ] ダイアログボックスを表示します。ダイアログボックスの [監査ログ] パネルで「監査ログを出力する」チェックボックスをオンにします。
[監査ログ] パネルでの設定方法の詳細については、マニュアル「運用ガイド 1」の「2.2.16(4) [監査ログ] パネル」を参照してください。

付録 H 各バージョンの変更内容

(1) 09-50 の変更内容

「Automatic Installation Tool」がインストールされている JP1/NETM/DM Client (中継システム) に、JP1/NETM/DM Client (中継システム) をリモートインストールした場合、「Automatic Installation Tool」を除くコンポーネントが更新されるようにした。

ソフトウェア情報として取得できる Microsoft Office 製品を追加した。

また、Microsoft Office 製品の情報を詳細化した。

ソフトウェア情報として取得できるウィルス対策製品を追加した。

仮想化環境で稼働監視する場合に同時にログオンするユーザ数のサポート上限を、60 ユーザに変更した。これに伴い、ハードウェアに関する見積もりを変更した。

ソフトウェアの起動が抑止された場合に、アラートとして JP1 イベントを通知できるようにした。

印刷が抑止された場合に、アラートとして JP1 イベントを通知できるようにした。

サーベセットアップの次のパネルの内容を変更した。

- [稼働監視] パネル
- [AIM 関連] パネル

「Asset Information Manager Limited」でインベントリ情報を管理する場合、ユーザに分掌を割り当てることで、一人のユーザが複数の部署の情報を管理できるようにした。

データベースが Embedded RDB の場合、リレーショナルデータベースのテーブル netmdm_ospatch_patchinf に、最大 1,840 メガバイトのパッチデータを格納できるようにした。

コマンドに引数 /LC を設定することで、Windows からログオフしても、コマンド処理が継続されるようにした。

CSV 出力ユーティリティまたは CSV 出力コマンド (dcmcsvu.exe) で、Unicode の CSV 形式ファイルを出力できるようにした。

更新プログラム管理ファイルの最小値を 130 メガバイトに変更した。

クライアントセットアップの [障害関連] パネルでメッセージをイベントビューアに出力するかどうかを選択できるようにした。

次のログファイルが出力されるようにした。

- DPTExpt.log
- DPTInpt.log

Embedded RDB をアップグレードする場合に、更新プログラム管理機能で取得したパッチを移行するかどうか選択できるようにした。

DPTInpt.exe (データベースへのパッチ格納) を追加し、Embedded RDB に更新プログラム管理機能で取得したパッチを移行できるようにした。

稼働監視結果のバックアップ機能を追加した。これに伴い、dmTRUtil.exe コマンドでバックアップファイルを CSV 形式ファイルに出力できるようにした。

クライアントセットアップのリモート設定に、次に示すクライアントセットアップ項目を追加した。

- ホスト名または IP アドレス
- 製品種別

- システム変更時にインベントリ情報を上位システムへ通知する

イベント ID「2021」のメッセージを追加した。

イベント ID が 7009 の JP1/NETM/DM Client (クライアント) のイベントログメッセージを出力しないようにした。

クライアントの基本ログメッセージ「KDSF0123-E」を追加した。

秘文連携機能の「インストール済み秘文製品の詳細情報の取得」および「秘文製品の内部ログの収集」について、64 ビット版の Windows 7 でも使用できるようにした。

(2) 09-12 の変更内容

システム情報「スクリーンセーバー パスワードの保護機能」について、「スクリーンセーバー」の指定が「無効」の場合でも、取得できるようにした。

ソフトウェア情報として取得できるウイルス対策製品を追加した。

クライアントにインストールされている Microsoft Office 2010 の情報を、ソフトウェア情報として取得できるようにした。

システム情報として暗号化情報を取得できる JP1/ 秘文 IC, 秘文 IC, および秘文 FDE のバージョンに 09-10 を追加した。

次に示すデバイスに対して使用を抑止できるようにした。また、接続履歴、切断履歴、接続許可履歴、および接続抑止履歴を取得できるようにした。

- Bluetooth デバイス
- イメージングデバイス

次に示すデバイスに対して書き込みだけを抑止できるようにした。また、接続抑止履歴を取得できるようにした。

- 内蔵 CD/DVD ドライブ
- 内蔵 FD ドライブ
- IEEE1394 接続デバイス
- 内蔵 SD カード

Windows XP Mode 環境での JP1/NETM/DM Client (クライアント) の運用をサポートした。

次に示すデバイスに対して使用を抑止している場合、デバイスがクライアント PC に接続されたときに、操作が抑止されていることを示すメッセージをクライアント PC に表示できるようにした。また、アラートとして JP1 イベントを JP1/IM に通知できるようにした。

- 内蔵 CD/DVD ドライブ
- 内蔵 FD ドライブ
- IEEE1394 接続デバイス
- 内蔵 SD カード
- Bluetooth デバイス
- イメージングデバイス

サーバセットアップの次のパネルの内容を変更した。

- [稼働監視] パネル
- [AIM 関連] パネル

Microsoft SQL Server 2008, または Microsoft SQL Server 2005 の機能であるデータパーティションを使用して稼働監視履歴を格納できるようにした。

Microsoft SQL Server および Oracle のデータベースに必要なディスク容量を見積もるための算出式を

変更した。

リレーショナルデータベーステーブルの「netmdm_ospatch_patchinf」について、次の列のサイズを変更した。

- dm_title
- dm_kbarticle

クライアントセットアップの [ジョブオプション] パネルに「ソフトウェア検索時パッケージ識別 ID の重複を抑制する」チェックボックスを追加し、パッケージ識別 ID の重複を抑制できるようにした。

INVENTORY.LOG を FUNC ログに移動することで、ログエントリ数を変更した。

Asset Information Manager Limited で Active Directory と連携して、ログイン認証できるようにした。また、Active Directory のユーザ情報を取得できるようにした。

7 けたの数値のホットフィックス番号に対応した。

CSV 出力ユーティリティまたは dcmcsvu コマンドで CSV 形式ファイルに出力できる項目として、次を追加した。

- レジストリパス (レジストリ取得項目テンプレート)
- ソフトウェア識別 ID (Microsoft Office 製品テンプレート)
- ソフトウェア識別 ID (ウィルス対策製品テンプレート)

リモートインストールを利用して、JP1/NETM/DM Client (クライアント) のクライアントセットアップでの設定内容を変更できるようにした。

クライアントで操作履歴が消失した場合に、アラートとして JP1 イベントを通知できるようにした。

イベント ID 「16031」のメッセージを追加した。

次の ID のメッセージを、監査をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処に追加した。

- 16023
- 16024
- 16031

クライアントの基本ログメッセージ「KDSF0055-W」を追加した。

秘文連携機能を使用できる秘文製品のバージョンとして、09-10 を追加した。

これに伴い、クライアントの OS が 64 ビット版の Windows 7 の場合の注意事項を追加した。

(3) 09-10 の変更内容

次に示すインベントリ情報 (システム情報) を収集できるようにした。

- JP1/ 秘文 IC および秘文 IC によるドライブ (ハードディスク) 暗号化情報
- 秘文 FDE によるドライブ (ハードディスク) 暗号化情報

ソフトウェア情報として取得できるウィルス対策製品を追加した。

仮想化環境の稼働状況を監視できるようにした。

USB 接続メディアへのアクセス抑制で、抑制対象からの除外条件を設定している場合に、次の履歴を取得できるようにした。

- 接続許可履歴
- 接続抑制履歴

操作が抑制されている USB 接続メディアがクライアント PC に接続された場合に、アラートとして JP1 イベントを通知できるようにした。

取得できるシステム情報の CPU 種別を追加した。

UNIX 版 JP1/NETM/DM との設定項目の対応について、説明を追加した。

JP1/NETM/DM Manager のセットアップの説明に、次の内容の説明を移動した。

- OS 名を表示するためのレジストリの設定

レジストリを設定することで、Windows からログオフしても、コマンド処理が継続されるようにした。

「Asset Information Manager Limited」の [サーバセットアップ] ダイアログボックスについて、「JP1/NETM/DM 連携」の設定に「取り込み対象」を追加した。これによって、すべての機器からインベントリ情報を取り込む選択や、ホスト識別子があるインベントリ情報だけを取り込む選択のほかに、システム情報があるインベントリ情報を取り込む選択ができるようにした。

「Asset Information Manager Limited」の [サーバセットアップ] ダイアログボックスについて、「JP1/NETM/DM 連携」の設定に「インベントリ取り込み方式」を追加した。これによって、インベントリ情報の取り込み方式として「マルチスレッド方式」を選択できるようにした。

「Asset Information Manager Limited」の [サーバセットアップ] ダイアログボックスについて、「JP1/NETM/DM 連携」の設定に「インベントリ取り込み多重度」を追加した。これによって、マルチスレッド方式でインベントリ情報を取り込む場合の多重度を設定できるようにした。

配布管理システムの起動と停止について、説明を追加した。また同個所に、次の内容の説明を移動した。

- リレーショナルデータベースに Embedded RDB を使用する場合のシステム停止手順

システムのメンテナンスとして実施する作業について、説明を追加した。また同個所に、次の内容の説明を移動した。

- クラスタシステム環境での、JP1/NETM/DM Manager の設定変更の方法
- データベースの各種メンテナンス作業を実施するタイミング
- システムのバックアップと復元の手順

ID 管理中継からの自動通知が遅延した場合の対処を追加した。

クラスタシステム環境でのバージョンアップ方法およびデータの移行方法について、説明を追加した。

ターミナルサーバ上の Citrix XenApp (公開デスクトップ) での JP1/NETM/DM Client (クライアント) の操作をサポートした。

リモートインストール先が UNIX 版 JP1/NETM/DM Client の場合に、アクセス権設定ファイルを作成することで、インストール先ディレクトリと同様のアクセス権および所有者をインストール後のファイルに引き継げるようにした。

リモートインストールマネージャでソフトウェア情報の表示名が短縮されるホットフィックスに、「Security Update for Microsoft Office system 2007」を追加した。また、ホットフィックス番号として認識される頭文字に、「kb」を追加した。

USB 接続メディアの抑止に対する除外条件をデバイス インスタンス ID で設定する場合に、次の機能を追加した。

- 除外条件として、USB コントローラでのデバイス インスタンス ID を設定できるようにした。
- 設定した条件文字列との比較方法を選択できるようにした。

オフラインインストールの場合に設定できない環境変数や無効になる項目について、説明を追加した。

クライアントの基本ログメッセージ「KDSF0010-I」および「KDSF0020-I」の内容を変更した。

(4) 09-01 の変更内容

適用 OS に Windows 7 および Windows Server 2008 R2 を追加した。

Linux のディストリビューションのインベントリ情報を収集できるようにした。

BitLocker のインベントリ情報を収集できるようにした。

ソフトウェア情報として取得できるウイルス対策製品を追加した。

Active Directory からディレクトリ情報として取得できる情報に、グループを追加した。また、ディレクトリ情報を取得するコマンド (dcmadsync.exe) に引数 /d を追加して、取得済みのディレクトリ情報を削除できるようにした。

OS が Windows Vista または Windows Server 2008 の場合に、ネットワーク共有プリンタを使用する環境で印刷履歴の取得および印刷抑止の機能を利用できるようにした。

ディレクトリ情報とシステム構成情報の関係について、説明を追加した。

JP1/NETM/DM の各製品およびコンポーネントを動作させるのに必要な CPU 性能の最小値および推奨値を変更した。

配布管理システムのメモリ所要量について、リレーショナルデータベースに Embedded RDB を使用する場合の説明を追加した。

[上位通知] パネルで、上位システムへ稼働監視履歴を中継する場合、上位システムに通知される情報を選択できるようにした。

ポート番号 / プロトコルが「30002/udp」の場合のファイアウォールの通過方向を変更した。

「収集パス名」として使用できる文字数の上限を半角 63 文字から半角 256 文字に変更した。

稼働情報をデータベースへ格納するコマンド (dcmmmonrst.exe) に引数 /n を追加して、格納処理の状況を確認できるようにした。また、格納処理の状況を確認するためのログファイル「MONRST.LOG」を追加した。

「Asset Information Manager Limited」の [サーバセットアップ] ダイアログボックスについて、次の項目を追加した。

- 「基本情報」の設定に「変更履歴情報管理」を追加して、タスク「履歴情報の削除」の実行時に、管理対象とする機器の初回の変更履歴を管理するかどうかを選択できるようにした。
- 「JP1/NETM/DM 連携」の設定に「JP1/NETM/CSC 通知件数」を追加して、JP1/NETM/DM のインベントリ情報の取り込み時に JP1/NETM/Client Security Control に通知するタイミングを設定できるようにした。

資産情報として管理できる情報に、「DM システム構成更新日付」、「DM レジストリ更新日付」を追加した。

[インストールパッケージ] パネルおよび [ソフトウェアインベントリ] パネルに表示されるホットフィックスの表示方法を変更した。

[ソフトウェア稼働情報] ウィンドウについて、退避した操作履歴が 56 万件を超えるクライアントについてはソフトウェアの操作履歴が表示されない旨の注意事項を追加した。

demstdiv.exe を追加して、オフラインマシン情報の入力をコマンドで実行できるようにした。

WMI 情報を採取できるようにした。

次に示すイベント ID のメッセージを追加した。

- 1081

- 1082
- 1083
- 1084
- 1085
- 1086
- 11029

秘文連携機能を利用できる秘文製品のバージョンに 08-02, 09-00 を追加した。

(5) 09-00 の変更内容

リモートインストールマネージャの [システム構成] ウィンドウ, [あて先] ウィンドウ, および [ディレクトリ情報] ウィンドウの, [属性] パネルに表示される次の情報を, ソフトウェア稼働監視の制御ジョブを実行したタイミングで更新するようにした。

- 適用済みソフトウェア稼働監視ポリシー
- 適用済みソフトウェア稼働監視ポリシーバージョン

リレーショナルデータベースのプログラムに Microsoft SQL Server 2008 を使用できるようにした。

ソフトウェア情報として取得できるウィルス対策製品を追加した。

特定の USB 接続メディアを抑止対象から除外できるようにした。また, 抑止中の USB 接続メディアがクライアント PC に接続された場合, 抑止中であることを示すメッセージを表示できるようにした。

稼働情報を自動で格納していない場合, 引数 /x を指定して dcmmnrst コマンドを実行することで稼働情報をデータベースに格納できるようにした。

日立統合 CD-ROM に格納された統合形名 (複数の製品で構成された形名) 製品をパッケージングできるようにした。

Embedded RDB がイベントログに出力するメッセージのうち, 運用上必要のないものについては出力を抑止できるようにした。

システム構成情報からホストを削除する場合, ID からホストを削除できるようにした。

JP1/NETM/DM Manager のリモートインストールマネージャで, あて先グループまたはホストをファイルから追加できるようにした。

「Asset Information Manager Limited」の [サーバセットアップ] ダイアログボックスについて, 次の項目を変更した。

- 「セッション情報」の設定「無通信監視時間」で指定できる値の最小値を 5 分に変更した。
- 「基本情報」の設定に「保有機器検索画面の機器状態」を追加して, 保有機器集計画面および保有機器一覧画面で表示される検索条件「機器状態」に表示する機器の状態を選択できるようにした。

タスクスケジューラを利用してパッチを自動取得する場合, 次に示す機能を使用できるようにした。

- パッケージング後に更新プログラムを削除する
- パッケージングしたことのある更新プログラムをダウンロードしない

「Asset Information Manager Limited」の一括変更画面の検索条件に, 「ユーザ名」, 「ホスト名」および「IP アドレス」を指定できるようにした。

「Asset Information Manager Limited」の管理クラス「VariousInfo」に含まれる項目に「Text_Title (ダイアログタイトル表示情報)」を追加し, 操作画面の画面名を変更できるようにした。

保守コード「3000AF008300」のイベントログメッセージに要因と対処を追加した。

リレーショナルデータベースに Microsoft SQL Server または Oracle を使用している場合に, パッケージ

ジファイルおよび操作履歴ファイルをバックアップするコマンド，および復元するコマンドを追加した。

- netmfile_backup.bat
- netmfile_restore.bat

(6) 08-52 の変更内容

次に示すインベントリ情報を取得できるようにした。

- ハードディスクの電源を切る (AC)
- ハードディスクの電源を切る (DC)
- システムスタンバイ / スリープ (AC)
- システムスタンバイ / スリープ (DC)
- システム休止状態 (AC)
- システム休止状態 (DC)

また，省電力設定にしていないクライアントを対策する運用例と，クライアントをシャットダウンさせる運用例を追加した。

オフラインマシンに対して，媒体を利用して稼働監視機能を使えるようにした。

ソフトウェア情報として取得できるウィルス対策製品を追加した。

中継システムで管理するジョブ数が増えた場合でも，ジョブ処理のスループットの低下を回避できるように，中継システムのセットアップで管理ファイルのキャッシュ上限サイズを指定できるようにした。

64 ビットバージョン JP1/NETM/DM Client の名称を 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client に変更した。

JP1/NETM/DM Client のインストールに失敗した場合，自動的に再インストールするようになった。また，再インストールに失敗した場合に実行する InstallShield 環境削除ツールの格納場所を掲載した。

クラスタシステム環境の JP1/NETM/DM Manager を上書きインストールおよび再インストールする場合の手順を追加した。

中継システムで ID ジョブがデフォルトで再実行できるように，中継システムのセットアップの「ID ジョブのクライアントの実行結果を記録する」チェックボックスの状態に関係なく，ジョブの実行結果を記録するようになった。

JP1/NETM/DM Manager のデータベースに Embedded RDB を使用する場合，作業表領域のサイズを自動で増やせるようになった。

Embedded RDB を使用して「Asset Information Manager Limited」のデータベースを作成する際，データベースのサイズを自動拡張できるようにした。

jamdbexport.bat を実行することで，「Asset Information Manager Limited」のデータベースのバックアップを CSV 形式で取得できるようにした。

Embedded RDB 環境で「Asset Information Manager Limited」のデータベースのバックアップファイルを取得する，jamemb_backup.bat の説明を追加した。

Embedded RDB 環境で「Asset Information Manager Limited」のデータベースの再編成を実行する，jamemb_reorganization.bat の説明を追加した。

リモートインストールマネージャでソフトウェア情報の表示名が短縮されるホットフィックスに，次の種類を追加した。

- Windows XP Application Compatibility Update
- Internet Explorer 7 ホットフィックス

- Internet Explorer 7 セキュリティ更新
- Step by Step Interactive Training

検索パターンを使用して操作ログを全件出力する jamTakeOperationLog.bat について、オプションで、「部署」、「ユーザ名」および「設置場所」の情報を CSV 形式ファイルに出力できるようにした。

次に示すイベント ID のイベントログメッセージを追加した。

- 8060
- 8061
- 8064
- 8065
- 8066
- 8067
- 8068
- 8069

(7) 08-51 の変更内容

JP1/NETM/DM Manager の一部のコンポーネントを、Windows Vista で利用できるようにした。

次に示すインベントリ情報を取得できるようにした。

- モニタの電源を切る (AC)
- モニタの電源を切る (DC)
- プロセッサ調整 (AC)
- プロセッサ調整 (DC)

ディレクトリ情報から取得する情報の詳細および取得する際の引き当て方法を明記した。

「Asset Information Manager Limited」のカレンダーで、前月および翌月の月をボタンから表示できるようにした。

コマンドのパラメタファイルで使用する JOB_DESTINATION_ID タグで、ジョブの実行対象となる ID 管理中継を指定できるようにした。

(8) 08-50 の変更内容

Active Directory の情報を配布管理システムに取り込んで、ジョブのあて先に指定したり、インベントリレビューから参照したりできるようにした。

ソフトウェアの稼働情報として、Web アクセスログ、印刷操作および外部メディア操作の履歴を取得できるようにした。また、印刷操作および外部メディア操作を抑止できるようにした。

AMT に対応したコンピュータをクライアントとして使用している場合に、クライアントの BIOS をリモートコントロールできるようにした。また、配布管理システムにセットされた FD から、クライアントに対して診断プログラムを実行できるようにした。

適用 OS に Windows Server 2008 を追加した。

ソフトウェア情報として取得できるウイルス対策製品を追加した。

マネージャと中継マネージャで、下位システムから通知された稼働情報を保存するかどうかを選択できるようにした。また、中継マネージャに通知された稼働情報を、上位システムに通知するかどうかを選択できるようにした。

稼働監視ポリシーをファイルに出力できるようにした。また、出力したファイルを読み込んで、稼働監視ポリシーを追加できるようにした。

OS が 64 ビット版の Windows Vista のクライアントに対して稼働監視機能を使えるようにした。

WSUS 3.0 と連携できるようにした。また、階層化構成の WSUS と連携する場合に、最上位の WSUS と下位の WSUS の同期、および下位の WSUS コンピュータグループへのクライアント登録を実行できるようにした。

Windows のリモートデスクトップでの操作をサポートした。

ソフトウェアインベントリ情報の更新日時を協定世界時 (UTC) で管理できるようにした。

Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client を中継システムとしても運用できるようにした。

(9) 08-12 の変更内容

OS が Windows Vista のクライアントに対して秘文連携機能を使えるようにした。また、秘文連携機能を利用できる秘文製品のバージョンに 07-80, 08-01 を追加した。

(10) 08-11 の変更内容

WUA 3.0 を利用して、クライアントのパッチ情報を取得できるようにした。

「Asset Information Manager Limited」から、業務目的に合わせてインベントリ情報を集計できるようにした。

Microsoft .NET Framework 3.0 に対応し、無線 LAN 環境のクライアントに対して「AMT 連携機能」を使用できるようにした。

取得できるシステム情報に、セキュリティ関連の項目を追加した。

ソフトウェア情報として取得できるウイルス対策製品を追加した。また、各ウイルス対策製品で常駐 / 非常駐が判定される機能を記載した。

ソフトウェア情報の取得時に、日立プログラムプロダクトの情報を「アプリケーションの追加と削除のソフトウェアを検索」で取得できるようにした。

OS が Windows Vista のクライアントから、ファイル操作の操作履歴を取得できるようにした。

操作履歴の格納先および退避先のディレクトリに、ネットワークドライブを使用できるようにした。

秘文で取得した操作ログを、[操作ログ一覧] ウィンドウで管理できない旨を削除した。

パッチを取得する機能で使用するデータベースの領域を、データベースマネージャで作成できるようにした。また、パッチを取得できるプログラムの種類に、Windows Mail を追加した。

Embedded RDB の、データベースの領域サイズのデフォルト値、最小値および最大値を変更した。また、データベースマネージャで、Embedded RDB の作業表領域のサイズを指定できるようにした。

Embedded RDB のデータベース見積もり式に、稼働監視履歴の計算式を追加した。

Microsoft SQL Server のデータベース見積もり式に、レジストリ取得項目の計算式を追加した。

対象製品にバンドル版の JP1/NETM/DM Client を追加した。

インストール完了時に Readme を表示するチェックボックスを削除した。

ログの世代管理数およびエントリ数を設定できないログファイルを記載した。

次に示す Embedded RDB 用のコマンドで、リターンコードが出力されるようにした。

- netmdb_backup.bat
- netmdb_reload.bat

- netmdb_reorganization.bat
- netmdb_unload.bat

JP1/NETM/DM 未導入ホストを検出する機能で、VPN 環境などの探索経路上に SNMP に応答しないルータがある場合にも、ホストを探索できるようにした。

「Asset Information Manager Limited」のバックアップ手順を記載した。

ソフトウェア情報の取得時に、[アプリケーションの追加と削除] または [プログラムの追加と削除] に登録されているソフトウェアについては、インストール日時を取得できるようにした。

テキスト入力のユーザインベントリ項目の場合に、「'」を入力できるようにした。

あて先グループの自動メンテナンスを使用して、ユーザインベントリ情報を基にあて先グループを作成する場合に、あて先グループ名として使用できる文字数の上限を、半角で 32 文字（全角 16 文字）に修正した。

JP1/NETM/DM にトラブルが発生した場合に、コマンドでトラブル情報を取得できるようにした。

次に示すイベント ID のイベントログメッセージを追加した。

- 11026
- 11027
- 11028
- 16029
- 16030

また、監視をお勧めするイベントログメッセージに、イベント ID 「16030」のイベントログメッセージを追加した。

メッセージ ID 「KDSF0098-W」の対処方法を変更した。

(11)08-10 の変更内容

JP1/Base と連携して、JP1/NETM/DM を使用するユーザを管理できる機能を追加した。

ソフトウェアの稼働状況の監視機能で、クライアントでのソフトウェアの稼働時間を取得できるようにした。また、取得した稼働時間を [ソフトウェア稼働状況] ウィンドウで集計する機能を追加した。

[ファイル操作トレース] ウィンドウで、操作ログを追跡調査できるようにした。

Microsoft 社から提供される更新プログラムや Service Pack などのパッチを取得できる機能を追加した。

クライアントへ HTML 形式のメッセージを通知する機能を追加した。

JP1/NETM/DM Manager の操作を監査ログとして出力できる機能を追加した。

[操作ログ集計] ウィンドウで、部署ごとに操作ログを集計できるようにした。

Windows Vista に対応した次のプログラムを対象製品に追加した。

- JP1/NETM/DM Client
- JP1/NETM/DM Client - Base
- JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature
- JP1/NETM/DM Client - Remote Control Feature

ソフトウェア情報として取得できるウィルス対策製品を追加した。

稼働監視ポリシーにバージョンおよび世代番号を付けて、どのバージョンの稼働監視ポリシーが適用されているかわかるようにした。

中継システムに直接接続できるクライアント数の説明を変更した。

データベース容量を見積もるための算出式の説明を、計算対象が明確になるように改善した。

クライアントの基本ログメッセージ「KDSF0096-W」の内容を変更した。

AIT ファイル作成時に、パッケージ情報ツールから PP 識別情報ファイルを生成できるようにした。

AIT ファイル編集時のメッセージ「AITG123-E」「AITG124-E」「AITG125-E」を追加した。

(12)08-02 の変更内容

AMT に対応したコンピュータをクライアントとして使用している場合に、次の機能を利用できるようにした。

- AMT の電源制御の機能を利用したクライアントの制御
- AMT 不揮発性メモリへのホスト識別子の保管

秘文連携機能でサポートする秘文についての説明を追加した。

ソフトウェア情報として取得できるウイルス対策製品を追加した。

[操作ログ一覧] ウィンドウから JP1/ 秘文の操作ログを参照できる対象製品として、JP1/ 秘文 CG Pro を追加した。

あて先グループおよび ID の自動メンテナンスのポリシー情報が記述されたテキスト形式ファイルを入力できるようにした。

ID の自動メンテナンスのポリシー種別に、ユーザインベントリ項目を追加した。

「Asset Information Manager Limited」のセットアップおよびデータベースの作成方法を変更した。

Embedded RDB の一部のデータベース項目についてデータ型を変更し、作成されるデータベース容量を削減した。

運用キーにホスト名を使用したクライアントが接続先の上位システムを名前解決できない場合に、受信した実行要求情報の IP アドレスを基に上位システムを名前解決して接続できる機能を追加した。

JP1/NETM/DM Client をリモートインストールするときに、インストール中のダイアログを表示しないようにする設定を追加した。

(13)08-00 の変更内容

リレーショナルデータベースのプログラムに Microsoft SQL Server 2005 を使用できるようにした。

JP1/NETM/DM Manager が標準提供するリレーショナルデータベースとして、「Embedded RDB」を使用できるようにした。また、簡易データベースを未サポートとした。

[検索] ダイアログボックスで、ホスト名または IP アドレスをキーにホストを検索できるようにした。

あて先グループの自動メンテナンス機能で、クライアントの OS のサブバージョンごとにグルーピングできるようにした。

ソフトウェアの稼働監視機能で、指定したソフトウェアおよびパスの起動を許可するか抑止するかを選択できるようにした。また、指定した項目以外のすべてのソフトウェアの起動を許可するか抑止するかを選択できるようにした。

ソフトウェアの稼働監視機能で、ファイル操作時の履歴を取得できるようにした。

クライアントの稼働情報を [操作ログ一覧] ウィンドウで参照できるようにした。

WUA 2.0 を使用して適用済みパッチ情報を取得できるようにした。

ソフトウェア情報として取得できるウイルス対策製品を追加した。また、英語版のクライアントが混在する場合、英語版の Microsoft Office 製品およびウイルス対策製品の情報も同時に取得できるようにした。

秘文連携機能を使って JP1/ 秘文または秘文をリモートインストールしたり、インストール済みの JP1/ 秘文または秘文の詳細情報を取得したりできるようにした。

[あて先の追加] ダイアログボックス, [パッケージの追加] ダイアログボックス, および [ジョブの保存] ダイアログボックスのサイズを変更できるようにした。

ユーザインベントリ項目の選択項目の上限を、255 個から合計サイズ 51,254 バイトへ変更した。また、階層化されたユーザインベントリ項目の場合は、上位の項目と合わせて 102,509 バイトの上限も追加した。

パッケージの分割配布で、中継システムから下位のシステムへの実行状況を上位システムで確認できるようにした。

クライアントの接続先を自動で変更するタイミングに、ポーリング時を追加した。

JP1/NETM/Client Security Control との連携時にクライアントセキュリティ管理を設定する機能を追加した。

Web ブラウザからの JP1/NETM/DM の管理機能、および Web ブラウザからのクライアントインストール機能を未サポートとした。

差分情報の配布機能を未サポートとした。

(14) 07-53 の変更内容

WUA 2.0 を使用して未適用パッチ情報を取得できるようにした。

WSUS と連携して、更新プログラムを管理できるようにした。

適用 OS に Windows Server 2003 (x64) を追加した。

インストール先ディレクトリおよびワークディレクトリに「(」および「)」を指定できるようにした。

システム構成情報に重複して登録されているホストを検索して、更新日時が古いホストを削除できるようにした。

クライアントがポーリングを開始するタイミングを遅延させるオプションを追加した。

ファイアウォール環境で JP1/NETM/DM Manager Embedded RDB Edition を使用する設定についての説明を追加した。

取得できるシステム情報の CPU 種別を追加した。

ソフトウェア情報の取得時に、標準検索リストを使用するかどうかを選択できるようにした。

UNIX のクライアントにパッケージを配布した場合で、外部プログラムを起動させたときに、外部プログラムの終了コードをサーバで参照できるようにした。

JP1/NETM/DM からセキュリティ PC に、セキュリティ PC 用のアップデートデータをインストールできるようにした。

情報を取得できるウイルス対策製品を追加した。

[ジョブの作成] ダイアログボックスの [オプション] パネルの「検索除外ディレクトリ」、および [コレクトファイル] パネルの「収集パス名」に指定できる環境変数の説明を追加した。

リモートインストールマネージャでソフトウェア情報として表示されるときに、形式が変換されるホットフィックスの名称を追加した。

クライアントの基本ログメッセージ「KDSF0060-I」「KDSF0090-I」の内容を変更した。

クライアントの基本ログメッセージに「KDSF0097-I」「KDSF0098-W」「KDSF0099-E」を追加した。

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client Light Edition を追加した。

(15)07-52 の変更内容

リモートインストールマネージャの [ジョブ実行状況] ウィンドウに、JP1/NETM/CSC から実行した「メッセージの通知」ジョブを格納するフォルダを作成するようにした。

ホスト探索時にホスト名を取得するかどうかを選択できるようにした。また、ホストの情報を取得する範囲を選択できるようにした。

オフラインマシンから Microsoft Office 製品およびウイルス対策製品のインベントリ情報を取得できるようにした。

抑止履歴および操作履歴のバックアップを取得する方法についての説明を追加した。

イベント ID 「19003」のイベントログメッセージを追加した。

(16)07-50 の変更内容

JP1/NETM/Client Security Control と連携して、システムのセキュリティ対策を強化できるようにした。

「ソフトウェア情報の取得」ジョブで、コンピュータに適用されていないパッチの情報を取得できるようにした。それに伴って、コンピュータに適用されていないパッチの情報をリモートインストールマネージャで表示できるようにした。

また、保守コード「3000EF300000」のイベントログメッセージを追加した。

クライアントのソフトウェアの稼働状況を監視して、ソフトウェアの起動を抑止したり、操作履歴を取得したりできるようにした。それに伴って、抑止履歴および操作履歴をリモートインストールマネージャで表示できるようにした。

また、イベント ID 「16016」～「16020」のメッセージを追加した。

管理者からクライアントへ、メッセージを通知できるようにした。

クライアントで更新されたインベントリ情報が、自動的に上位システムへ通知されるようにした。

ID にポリシーを設定することで、新規に追加されたクライアントを自動的に ID へ登録できる、ID の自動メンテナンス機能を追加した。

JP1/NETM/DM Manager Embedded RDB Edition を追加した。

ネットワーク上に存在するホストを探索して、JP1/NETM/DM 未導入ホストを検出できるようにした。

JP1/NETM/Asset Information Manager がインベントリ情報の更新を監視するための情報を、データベースのテーブルに追加した。

ソフトウェア情報として取得できるウイルス対策製品を追加した。また、適用 OS が Linux でバージョンが 07-50 以降のクライアントから、ウイルス対策製品の情報を取得できるようにした。

リモートインストールマネージャで、ソフトウェア情報として表示されるホットフィックスの形式を改善した。

監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処を追加した。

クライアントの基本ログメッセージ「KDSF0103-I」を追加した。

クライアントの基本ログメッセージ「KDSF0060-I」および「KDSF0092-E」の内容を変更した。

JP1/NETM/DM が提供する AIT ファイルを追加した。

(17)07-11 の変更内容

JP1/NETM/DM Client がインストールされている PC に、ネットワークを介さないでソフトウェアをインストールできるようにした。

インストールセットを使用して JP1/NETM/DM Client を上書きインストールできるようになったため、インストールセットを使用する場合と Web ブラウザからインストールする場合の違いを示す表から、上書きインストールについての記述を削除した。

また、JP1/NETM/DM Client のセットアップ情報の設定方法に、インストールセットを使用して上書きインストールする場合の記述を追加した。

ネットワーク内に存在するホストの情報が記述された CSV 形式ファイルを読み込むことで、JP1/NETM/DM がインストールされていないホスト (JP1/NETM/DM 未導入ホスト) を検出できるようにした。

取得できるシステム情報の CPU タイプに、7 種類の CPU を追加した。

ターミナルサービス環境での JP1/NETM/DM の運用方法についての説明を追加した。

JP1/NETM/DM のクラスタシステムの OS として、Microsoft Windows Server 2003, Enterprise Edition が対応していることを追加した。

「ソフトウェア情報の取得」ジョブで、コンピュータに適用されているパッチの情報を取得できるようにした。

また、リモートインストールマネージャおよびパッケージセットアップマネージャで、取得したパッチの情報を表示できるようにした。

ソフトウェア情報として取得できるウイルス対策製品を追加した。

ユーザインベントリ項目の作成時に、コメント欄に指定できない半角記号を「;」(セミコロン) だけにした。

「ユーザインベントリ情報の転送」ジョブ作成時に、クライアントでユーザインベントリを設定するダイアログボックスのキャンセルの可否、およびクライアントでユーザインベントリを設定したあとの動作を設定できるようにした。

取得した Microsoft Office 製品およびウイルス対策製品の情報を、CSV 形式ファイルに出力できるようにした。

AIT ファイルを作成および使用する場合の注意事項を追加した。

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の機能についての説明を追加した。

JP1/NETM/DM が提供する AIT ファイルを追加した。

(18)07-10 の変更内容

JP1/NETM/Asset Information Manager の操作画面から、ソフトウェアの配布および配布状況の確認ができることを追加した。

「クライアント Web インストール」および「スタートアップキット機能支援ツール」がインストールされた PC に対しては、JP1/NETM/DM Client をインストールできないようにした。

Administrator 権限を持たないユーザがログインしている JP1/NETM/DM SubManager でもリモートインストールができるようにした。

パッケージを上書きインストールしようとしてエラーが発生した場合に、上書きされる側のインストー

ル済みパッケージの情報を保管できるようにした。

ネットワークアダプタの優先順位の設定に従って、クライアントの IP アドレスを上位システムに通知できるようにした。

システム構成に含まれていないホストのインベントリ情報を削除できるようにした。

取得できるシステム情報に、Intel IPF シリーズの「Intel IPF CPU」および「Intel Itanium 2」を追加した。

取得できるシステム情報に、Windows Installer のバージョン情報「Windows Installer」を追加した。また、インベントリビューアで「Windows Installer」を集計できるようにした。

JP1/NETM/DM のクラスタシステムの OS として、Microsoft Windows Server 2003, Enterprise Edition を追加した。

リモートインストールマネージャから、登録したツールを起動できるようにした。

Windows Installer を使用してインストールするプログラムをサイレントインストールできるようにした。

UNIX 版 JP1/NETM/DM Client 07-10 以降に対して、パッケージのインストール後に、クライアントマシンを自動的に再起動するかどうか指定できるようにした。

[ジョブ定義] ウィンドウで、[F5] キーを押して選択したジョブを実行したとき、確認ダイアログボックスが表示されるようにした。

CPU クロック数の取得方式を変更した。

ソフトウェア情報として取得できる Microsoft Office 製品を追加した。

ソフトウェア情報として取得できるウイルス対策製品を追加した。

リモートインストールマネージャで、ソフトウェア情報として表示されるホットフィックスの形式を改善した。

インベントリビューアで、「OS の言語」を集計できるようにした。

次のコマンドを JP1/NETM/DM SubManager で実行できるようにした。

dcmcoll.exe, dcminst.exe, dcmjbrm.exe, dcmjexe.exe, dcmpkrm.exe, dcmrmgen.exe, dcmrtry.exe, dcmstat.exe, dcmstsw.exe

保守コード「300097140000」および「30009F070000」のイベントログメッセージの要因と対処を変更した。

監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対処を記載した。

JP1/NETM/DM Manager と JP1/NETM/DM SubManager の機能差異についての記述を追加した。

Windows Installer のモジュールを配布するための AIT ファイルを提供した。

(19)07-00 の変更内容

Windows 95 を JP1/NETM/DM Client の適用 OS 外とした。ただし、07-00 より前のバージョンの JP1/NETM/DM Client もバージョン 07-00 の上位システムに接続できるため、OS が Windows 95 の場合の説明をマニュアルに記載している。

「ソフトウェア情報の取得」ジョブの検索対象ソフトウェアに、「Microsoft Office 製品を検索」と「ウイルス対策製品を検索」が追加された。また、これらの製品名、ウイルス定義ファイルのバージョン、およびウイルス対策製品の常駐設定別に、ホストの台数を集計できるようにした。

ソフトウェアのインストーラに自動応答するスクリプトファイル, AIT ファイルが作成できるようになった。AIT ファイルは, 配布するソフトウェアとともにパッケージングしてリモートインストールすると, ソフトウェアを自動インストールできる。

差分情報の取得および差分情報のパッケージングは, 07-00 以降の JP1/NETM/DM では未サポートとした(なお, 07-00 より前のバージョンの JP1/NETM/DM で作成した差分パッケージを使用することはできる)。

クライアントの情報をローカルシステムビューアで確認できるようにした。

クライアントのシステム監視をして, 異常発生時にアラートをローカル PC や上位システムへ通知できるようにした。

クライアントから通知されたアラートを, 上位システムのアラート情報ファイル, イベントビューア, JP1/IM で確認できるようにした。

クライアントセットアップのデフォルト値を変更した。

[リモートインストール クライアント] アイコンおよび [リモートインストール ログオンマネージャ] アイコンを, Windows の [スタートアップ] グループに作成しないようにした。

[NETM_DM_P スタートアップ] フォルダの作成を選択できるようにした。

接続先が未定の場合も, 「?」を設定することで JP1/NETM/DM Client が動作するようにした。

ジョブの中断と再開について, 以下のことをできるようにした。

- ファイル転送の中断ジョブおよびファイル転送の再開ジョブのあて先に, 中継マネージャを指定できるようにした。
- JP1/NETM/DM Manager のリモートインストールマネージャで, 自システムとその下位システムとのファイル転送を中断および再開できるようにした。
- UNIX 版の下位システムとの間で中断および再開できるようにした。
- ファイル転送を中断および再開する `dcmsusp` コマンドを追加した。

[ジョブの配布属性] パネルで, ファイル転送が中断中でもジョブを配布するかどうか設定できるようにした。

クライアントが非常駐の場合でも, 一般ユーザ権限でログオンしたときに, クライアントでインストールできなかったパッケージをインストールできるようにした。

JP1/NETM/DM の Version 7i へのアップグレードと同時にリレーショナルデータベースをアップグレードする場合の手順を追加した。

ソフトウェア検索リストにバージョンを設定しない場合で, 検索対象ファイルのバージョンリソースからバージョンを取得できなかったときは, バージョンに「0000」が設定されるようにした。

ソフトウェア検索リストを使用した検索時に, サイズが 0 バイトのファイルも検索できるようにした。

[ジョブ実行状況] ウィンドウからインベントリビューアを起動し, あて先の詳細情報を表示できるようにした。

[システム構成] および [あて先] ウィンドウから集計を実行したとき, ホストおよびあて先グループの選択状態が, インベントリビューアの [対象選択] ウィンドウに反映されるようにした。また, [システム構成] および [あて先] ウィンドウから, テンプレートを指定して集計を実行できるようにした。

[JP1/NETM/DM アンアーカイバ], [JP1/NETM/DM パッケージ], および [Package Setup Manager] ウィンドウのフォントを設定できるようにした。

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client を, Windows CE .NET 4.1 で利用できるようにした。

付録I 用語解説

(数字)

64 ビット版 JP1/NETM/DM Client

JP1/NETM/DM システムで、OS が Windows Server 2003 (IPF) のコンピュータを、クライアントとして管理するために必要なプログラムです。

64 ビット版 JP1/NETM/Remote Control Agent

OS が Windows Server 2003 (IPF) のコンピュータを使用する場合に、リモートコントロールされる側にインストールするプログラムです。JP1 Version 7i の JP1/NETM/DM Client のリモートコントロールエージェントと同等の機能を持っています。

(英字)

AIT ファイル

専用のインストーラなどを使用して対話形式でソフトウェアをインストールするときの手順を記録したファイルで、Automatic Installation Tool を使用して作成します。JP1/NETM/DM では、一部の他社ソフトウェア用の AIT ファイルを提供しています。また、ユーザが AIT ファイルを作成することもできます。

Asset Information Manager Limited

JP1/NETM/DM で取得したインベントリ情報および操作ログを、目的に合わせて集計、検索できる GUI を提供するコンポーネントです。

「Asset Information Manager Limited」をインストールすることで、リモートインストールマネージャからソフトウェアの稼働情報を管理するウィンドウを起動することもできます。

JP1/NETM/Client Security Control と連携する場合の、クライアントセキュリティ管理用の GUI も提供します。

Embedded RDB

JP1/NETM/DM Manager が提供する、組み込み型のリレーショナルデータベースです。JP1/NETM/DM Manager のインストール時に Embedded RDB を使用するかどうか選択できます。

ID

複数のクライアントあてにリモートインストールをするために、クライアントをグルーピングする方法の一つです。ID に所属するクライアントは、クライアントまたは配布管理システムで登録します。

ID 管理中継

ID ジョブおよび ID に属するクライアントを管理中継マネージャまたは中継システムです。ID ジョブが実行されると、ID 管理中継は ID ジョブを自システムに保管し、この ID に属するクライアントに対してジョブを実行します。

ID ジョブ

あて先に ID を指定して実行するジョブです。

InstallShield 環境削除ツール

インストール環境を初期化するツールです。JP1/NETM/DM Client のインストール中にエラーが発生しインストールが中止された場合、再インストールする前に実行します。

JP1/AJS

JP1/AJS は、業務を自動的に運用するためのプログラムです。処理を順序付けて定期的に行ったり、特定の事象が発生したときに処理を開始したりできます。

JP1/Base

JP1/IM の基盤機能を提供するプログラムです。

JP1 イベントの送受信や、ユーザの管理、起動の制御などをします。また、JP1/IM システムのエージェントとしての役割も持ちます。

JP1/Base は、JP1/IM - Manager の前提プログラムです。

JP1/Cm2 または HP NNM

ネットワークの障害管理、構成管理および性能管理を実現するプログラムの総称です。JP1/Cm2 連携機能を使用すれば、バージョン 8 以前の JP1/Cm2/NNM またはバージョン 7.5 以前の HP NNM の監視画面から、JP1/NETM/DM のインベントリ情報やジョブの実行状況を管理できます。

JP1/IM

JP1/IM は、分散システムを集中的に監視するためのプログラムです。分散システム内での業務の実行状況や障害などの情報は、JP1 イベントとして、JP1/IM に送られます。JP1/IM は、JP1 イベントを登録、管理し、システム管理者の端末に表示します。

JP1/NetInsight II -PortDiscovery

ネットワークに接続している機器の情報を収集し、ネットワークの構成の一覧を作成するプログラムです。ネットワークに接続されている機器の種別や IP アドレスなどの情報を一覧形式で確認できます。また、定期的にネットワークの構成情報を収集したり、不正な接続を監視したりすることもできます。

JP1/NETM/Asset Information Manager

ネットワーク装置を含めたハードウェア情報、ソフトウェア情報、契約情報などをデータベースに一元管理することで、資産の導入、ソフトウェアのライセンス管理、機器の保守などに伴う IT 資産管理業務の合理化および管理コストの低減を支援するプログラムです。

JP1/NETM/Audit - Manager

内部統制の有効性を評価するために必要な証拠記録を一元管理し、内部統制の報告書作成や監査業務を支援するプログラムです。ユーザ情報やシステム構成の変更などの証拠記録を利用して、業務の正当性を確認したり、リソースへの操作やアクセス状況を監査したりできます。

JP1/NETM/DM システム

JP1/NETM/DM がインストールされたホストで構成されるネットワーク全体のことで。

JP1/NETM/DM 未導入ホスト

JP1/NETM/DM がインストールされていないホストです。

JP1/ 秘文 CG Pro

Microsoft Office 文書を暗号化して専用の USB メモリに格納し、持ち出した Microsoft Office 文書を USB メモリにインストールされた専用ツールでしか閲覧・編集できないようにする製品です。JP1/ 秘文 CG Pro を使用することで、外部に持ち出した USB メモリからの情報流出を防止できます。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合、管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/ 秘文 IC

データを暗号化する製品です。JP1/ 秘文の操作ログを取得する場合、管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/ 秘文 IF

データを外部媒体に格納して持ち出すことを禁止（または許可）する製品です。JP1/ 秘文の操作ログを取得する場合、管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/ 秘文 IS

ファイルサーバと連携して、ファイルサーバ上の共有機密フォルダに対するアクセスを制御する製品です。JP1/ 秘文の操作ログを取得する場合、管理対象のクライアントにインストールします。

JP1 イベント

システム内で何らかの事象が発生した際に、その事象に関して JP1/Base に通知される情報です。

JP1 ユーザ

JP1/Base と連携してユーザ管理をする場合に、JP1/NETM/DM のユーザ認証に使用するアカウントの名称です。JP1/Base がインストールされた認証サーバで設定します。JP1 ユーザは、JP1/IM や JP1/AJS でのユーザ認証にも使用されています。

Microsoft SQL Server

Windows NT 上で動作する、Microsoft 社のリレーショナルデータベース管理システムです。JP1/NETM/DM の情報を管理するリレーショナルデータベース管理システムとして、Microsoft SQL Server が使用できます。

RD エリア

Embedded RDB で表およびインデックスを格納する論理的なエリアです。

SQL

リレーショナルデータベース用の言語の一種です。構造化照会言語とも呼ばれます。

Visual Test

Windows 環境で動作するアプリケーションプログラムのデバッグ作業を支援するプログラムです。

Wake on LAN

Wake on LAN は LAN で接続されたネットワーク上のマシンに対して、ネットワーク経由でほかのマシンからリモートで起動するための規格です。

Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client

JP1/NETM/DM システムで、OS が Windows 8、Windows Server 2012、Windows 7、Windows Server 2008 および Windows Vista のコンピュータを、クライアントとして管理するために必要なプログラムです。また中継システムとしても使用できます。

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client

JP1/NETM/DM システムで、OS が Windows CE の PDA を、クライアントとして管理するために必要なプログラムです。

(ア行)

アーカイブ

複数のファイルを一つにまとめることです。

あて先グループ

複数のクライアントあてにリモートインストールするためにクライアントをグルーピングする方法の一つです。業務や組織ごとなど配布目的に合わせ、配布管理システムからホストをグルーピングします。

アプリケーションゲートウェイ方式

ファイアウォール実現方式の一つです。パケットの中継を禁止して、アプリケーションゲートウェイでアクセスを制御します。外部から内部にアクセスする場合には、ゲートウェイのログインとパスワードを入力させ、内部に直接アクセスできないようにします。

アラート通知

「アラート」とは、プログラムから表示されるメッセージの一つです。ユーザの操作によって、何らかの問題や重大なエラーが発生するおそれのある場合、ユーザに対して注意を促したり警告を与えたりするために表示されます。JP1/NETM/DM では、クライアントのシステム監視中にハードウェアの異常などを検知した場合に、ポップアップメッ

セージなどでユーザに通知することを「アラート通知」と呼びます。

アンアーカイバ

リモートコレクト時に、アーカイブされたファイルや、圧縮されたファイルを元の形式に復元するためのプログラムです。

インストールスクリプト

インストール処理の手順を記述したスクリプトで、クライアントで実行します。パッケージを作成するときに、自動的に生成されます。ユーザ独自のインストールスクリプトを作成してユーザ固有の処理をすることもできます。

インストールソフトウェア情報

「Asset Information Manager Limited」で、各機器にインストールされているソフトウェアを管理するための情報です。

インストールソフトウェア情報は、配布管理システムで管理しているインベントリ情報などを「Asset Information Manager Limited」のデータベースに取り込んで利用するための情報です。

そのため、ソフトウェアの名称およびバージョンは、JP1/NETM/DM など、情報の取り込み先で管理されている内容となります。

インストールソフトウェアリスト

「Asset Information Manager Limited」で、各機器にインストールされているソフトウェアの名称を管理するための情報です。また、インストールソフトウェアに対する各種設定を管理するためにも使用します。

インストールタイミング

パッケージをクライアントにインストールするタイミングです。クライアントの起動時にインストールする「システム起動時インストール」、またはパッケージがクライアントに転送された時点でインストールする「通常インストール」を選択できます。

インストールモード

クライアントでのパッケージのインストール方法です。インストーラを使用する「GUIインストールモード」、インストーラを使用しないでファイルのコピーだけでインストールする「バックグラウンドインストールモード」の2種類があります。

インベントリ情報

クライアントでのハードウェアの使用状況やインストールされているソフトウェアの種類など、クライアントの管理に必要な情報です。インベントリ情報は、配布管理システムからジョブを実行して取得します。

インベントリビューア

クライアントから取得したインベントリ情報の表示や集計ができるウィンドウで、多様なレポート機能を持っています。JP1/NETM/DM Manager で使用できます。

オフラインインストール

インストール媒体を使用することで、ネットワークを介さずにソフトウェアをインストールする機能です。

オフラインフォルダ

オフラインマシンから取得したインベントリ情報および稼働情報を管理するフォルダです。[システム構成]ウィンドウおよび[あて先]ウィンドウに、「{OFFLINE}」という名称で表示されます。

オフラインマシン

JP1/NETM/DM のシステム構成情報に登録していない、Windows のクライアントです。例えば、次のような PC です。

- スタンドアロンで使用していて、JP1/NETM/DM Client (クライアント) をインストールしている PC
- ネットワーク内で JP1/NETM/DM Client (クライアント) をインストールしているが、JP1/NETM/DM のシステム構成情報に登録していない PC

なお、オフラインマシンからもインベントリ情報と稼働情報を取得できます。また、オフラインマシンにソフトウェアをインストールすることもできます。

オフラインマシン情報

オフラインマシンから取得したインベントリ情報と稼働情報のことです。

(カ行)

外部メディア操作

稼働監視対象の一つです。USB 接続メディア、内蔵 CD/DVD ドライブ、内蔵 FD ドライブ、IEEE 1394 接続メディア、および内蔵 SD カードスロットを介した書き込みまたは読み出しを、外部メディア操作として抑止します。なお、バージョンが 08-50 から 09-10 までのクライアントが対象です。

また、これらの外部メディアの接続および切断（取り外し）を、外部メディア操作の履歴として取得します。ただし、内蔵 FD ドライブの操作は履歴取得の対象外となります。

稼働監視ポリシー

ソフトウェアの稼働状況を監視する場合に設定する条件です。起動を抑止するソフトウェアや、履歴を取得する操作を設定します。

監査ログ

JP1 製品が共通で出力するログです。「だれが」、「いつ」、「どのような操作を実行したか」を示します。出力された監査ログは JP1/NETM/Audit - Manager で管理され、システムの内部統制の評価と監査に利用されます。

キャビネット

配布管理システムにあるパッケージを保管するための領域です。

業務フィルター

「Asset Information Manager Limited」で、ユーザ権限に応じて、操作画面から実行できる処理を制限する機能です。各操作画面の構成要素（ボタン、検索条件、編集項目など）を、ユーザ権限に応じて変更します。

クライアント

JP1/NETM/DM Client（クライアント）がインストールされたマシン、または JP1/NETM/DM Manager または JP1/NETM/DM Client（中継システム）のクライアント機能がインストールされたマシンのことです。配布管理システムから直接、または中継するシステムを介してリモートインストールされるソフトウェアを受信し、自システムにインストールしたり、インストール結果を配布管理システムへ通知したりできます。

クライアント制御

ネットワーク経由で、手元の PC から離れた場所にある PC を起動したり、シャットダウンしたりする機能です。この機能を使って、JP1/NETM/DM では、深夜や休日などの電源が入っていない状態の PC に対してソフトウェアをリモートインストールできます。クライアント制御を利用するには、PC が AMT または Wake on LAN に対応し、さらに自動シャットダウンに対応していることが必要です。

検索パターン

[操作ログ一覧] ウィンドウで操作ログを検索するための検索条件を保存したものです。主な検索目的に使用する検索パターンは、デフォルトで登録されています。また、デフォルトで登録されている検索パターンを編集したり、新規に登録したりすることもできます。

更新プログラム

Microsoft Update で提供される、OS や Microsoft Office 製品などの更新プログラムです。JP1/NETM/DM で適用情報を収集できる「パッチ」も、更新プログラムに含まれます。

コレクトスクリプト

クライアントが実行するリモートコレクト処理の手順を記述したスクリプトです。Windows の上位システムからリモートコレクトする場合は、ジョブ作成時に自動的に作成されます。UNIX の上位システムからリモートコレクトする場合は、クライアント側のユーザが独自にコレクトスクリプトを作成することによって、ユーザ固有の処理をさせることができます。

コレクトファイル

クライアントからリモートコレクトで収集したファイルです。

(サ行)

削除ソフトウェア管理テーブル

ソフトウェアインベントリ辞書から削除したソフトウェアの情報が登録される内部テーブルです。「ファイルを検索」を指定して「ソフトウェア情報の取得」ジョブを実行した場合は、各ホストから通知されるソフトウェア情報が削除ソフトウェア管理テーブルに登録されているときは、ソフトウェアインベントリ辞書には追加されません。また、各ホストのソフトウェアインベントリ情報にも追加されません。

資源登録システム

リモートインストールするソフトウェアを配布管理システムに登録するプログラムです。Windows の JP1/NETM/DM システムのパッケージに相当します。UNIX の JP1/NETM/DM の用語です。

資産情報

「Asset Information Manager Limited」で、ハードウェアおよびソフトウェアを管理するための情報です。

システム監視

あらかじめ設定した条件に従って、クライアントが特定のハードウェアの状態を監視する機能です。システム監視中は、ローカルシステムビューアの [システム監視の状態] パネルに監視対象の状態が表示されます。また、監視対象に異常が発生した場合は、アラートメッセージやアイコンの変化によってユーザにアラートを通知します。クライアントが上位システムに接続している場合は、上位システムへアラートを通知することもできます。

[システム監視] アイコン

タスクバーの通知領域に表示されるアイコンです。アイコンの状態から、システム監視機能の状態とアラート通知の有無が確認できます。また、[システム監視] アイコンをダブルクリックすると、ローカルシステムビューアを起動できます。

[システム監視] アイコンを表示するには、クライアントセットアップの [システム監視] パネルで、「システム監視アイコンをタスクバーの通知領域に表示する」を選択します。

システム情報

JP1/NETM/DM システムを構成するホストのハードウェアの情報です。配布管理システムからジョブを実行して取得します。

自動メンテナンスポリシーファイル

あて先グループおよび ID の自動メンテナンスのポリシーが記述されたテキスト形式ファイルです。

集計

JP1/NETM/DM Manager で管理している情報の種類ごとに、該当するホストの数を表示する機能です。リレーショナルデータベースで情報を管理しているときに使用できます。

上位システムアドレス格納ファイル

ホスト名と IP アドレスの対応が記述された設定ファイルです。ホスト名運用のクライアントが上位システムを名前解決できないときに、上位システムの IP アドレスを認識するために使用されます。

ジョブ

JP1/NETM/DM の機能の実行単位です。ジョブには次の 21 種類があります。

- パッケージのインストール
- 中継システムまでのパッケージ転送
- 中継システムのパッケージ一括削除
- リモートコレクト
- 中継までのリモートコレクト
- 中継サーバからのコレクトファイル収集

- 中継サーバのコレクトファイル削除
- クライアントユーザによるインストール
- システム構成情報の取得
- システム情報の取得
- ソフトウェア情報の取得
- ユーザインベントリ情報の転送
- ユーザインベントリ情報の取得
- レジストリ取得項目の転送
- 中継サーバからの結果通知保留
- 中継サーバの結果通知の保留解除
- ファイル転送の中断
- ファイル転送の再開
- メッセージの通知
- ソフトウェア稼働監視の制御
- ソフトウェア稼働情報の取得

セキュリティ PC

ハードディスクや FD などの外部記憶装置を持たない、最低限の機能だけを備えた PC です。エージェントに接続してアプリケーションソフトやファイルをリモートコントロールできます。セキュリティ PC 用のアップデートデータは、JP1/NETM/DM を使ってリモートインストールできます。

全あて先

あて先の種類の一つです。マネージャから中継マネージャ配下のホストすべてに対してジョブを実行するときに指定します。

操作履歴

クライアントで操作されるソフトウェアおよびファイルの情報です。操作履歴には、次の種類があります。

- プロセスの起動
- プロセスの停止
- キャプションの変更
- アクティブウィンドウの変更
- マシンの起動 / 停止
- ログオン / ログオフ
- ファイル操作
- Web アクセス
- 印刷操作
- 外部メディア操作
- デバイス操作

操作ログ

JP1/NETM/DM で取得した抑止履歴、操作履歴、および JP1/ 秘文 LogManager のデータベースに格納されているユーザ操作ログを、[操作ログ一覧] ウィンドウで確認する際、表示される情報をまとめて操作ログと呼びます。

[操作ログ一覧] ウィンドウ

配布管理システムで取得したクライアントの稼働情報のうち、ソフトウェアの起動や印刷操作の抑止履歴、およびソフトウェアやファイルの操作履歴を、さまざまな条件で抽出し、参照できる画面です。

ソフトウェアインベントリ辞書

JP1/NETM/DM で管理するソフトウェアを設定する辞書です。「ファイルの検索」で取得したソフトウェアの中から、管理対象とするソフトウェアを選択できます。また、インベントリレビューでライセンスを管理する場合に必要な、ライセンス情報を設定できます。

ソフトウェア検索リスト

ソフトウェア情報の取得に使用するリストです。JP1/NETM/DM が標準提供する「標準検索リスト」と、ユーザが任意に編集できる「ユーザ指定検索リスト」があります。

ソフトウェア情報

JP1/NETM/DM システムを構成するホストにインストールされているソフトウェアの情報です。配布管理システムからジョブを実行して取得します。

(夕行)

ターミナルサーバ

このマニュアルでは、次に示すサーバを「ターミナルサーバ」と呼んでいます。

- OS が Windows Server 2012, Windows Server 2008 R2 で、「リモート デスクトップ サービス」の「リモート デスクトップ セッション ホスト役割サービス」がインストールされているサーバ
- OS が Windows Server 2008 または Windows Server 2003 で、「ターミナル サービス」の「ターミナル サーバー 役割サービス」がインストールされているサーバ
- OS が Windows 2000 Server で、「ターミナル サービス」が「アプリケーション サーバー モード」でインストールされているサーバ

中継システム

配布管理システムとクライアントの間で、リモートインストールやインベントリ情報の収集などのジョブを中継する JP1/NETM/DM Client のことです。

中継するシステム

配布管理システムとクライアントの間で、リモートインストールやインベントリ情報の収集などのジョブを中継するプログラムの総称です。

中継マネージャ

配布管理システムを階層化したシステムで、最上位の配布管理システム（マネージャ）の配下に位置する JP1/NETM/DM Manager のことです。配布管理システムとクライアントの間で、リモートインストールやインベントリ情報の収集などのジョブを中継できます。

重複ホスト

ホスト識別子を使用して運用している場合に、ホスト識別子が再生成されたためにシステム構成情報に重複して登録された、同一のホストのことです。

ディレクトリ情報

Active Directory から取得するユーザ情報やコンピュータ情報のことです。取得したディレクトリ情報は、ジョブのあとに先に指定したり、インベントリビューアでクライアントの情報を参照するために使用したりできます。

データベースマネージャ

データベースマネージャには、JP1/NETM/DM Manager 用と「Asset Information Manager Limited」コンポーネント用の 2 種類があります。

JP1/NETM/DM Manager 用のデータベースマネージャは、JP1/NETM/DM Manager のコンポーネントの一つで、JP1/NETM/DM で使用するリレーショナルデータベースを作成したり、メンテナンスをしたりできます。

「Asset Information Manager Limited」コンポーネント用のデータベースマネージャは、「Asset Information Manager Limited」のサブコンポーネントで、「Asset Information Manager Limited」のリレーショナルデータベースを作成したり、メンテナンスをしたりできます。

デバイス操作

稼働監視対象の一つです。USB ストレージデバイス、内蔵 CD/DVD ドライブ、内蔵 FD ドライブ、IEEE 1394 接続デバイス、内蔵 SD カード、Bluetooth デバイス、およびイメージングデバイスを介した書き込みまたは読み出しを、デバイス操作として抑止します。なお、バージョンが 09-12 以降のクライアントが対象です。

また、これらのデバイスの接続および切断（取り外し）を、デバイス操作の履歴として取得します。

ドメイン

ネットワーク内のホストおよびユーザを管理する単位です。

(ナ行)

認証サーバ

JP1/Base を使用した、JP1 ユーザのアクセス権限を管理するサーバです。一つのユーザ認証圏に1台設置する必要があります。このサーバを利用してJP1 ユーザを一括で管理します。JP1/Base と連携してJP1/NETM/DM のユーザを管理する場合、JP1 ユーザをこのサーバに登録する必要があります。

ネットワーク構成情報ファイル

ネットワークに接続されているホストのIPアドレス、MACアドレス、サブネットマスクなどの情報を記述したCSV形式ファイルです。

ネットワーク情報

「Asset Information Manager Limited」で、各機器のネットワーク上の位置を管理するための情報です。ネットワーク情報は、「IPアドレス」、「MACアドレス」、「ノード名」、「コンピュータ名」などを表します。

(ハ行)

配布管理システム

リモートインストールするソフトウェアを保管し、リモートインストールの実行を指示するプログラムです。リモートインストールの状況や結果、各ホストにインストールしてあるソフトウェアなどを確認できます。

パケットフィルタリング方式

ファイアウォールを通過するパケットを制限する、ファイアウォール実現方式の一つです。内部から外部へのアクセスは許可して、外部から内部へのアクセスは禁止するといった運用ができます。また、インターネットにアクセスする端末を限定できます。

パッケージ

リモートインストールをするソフトウェアの単位です。パッケージは、配布管理システムのキャビネットに保管されます。

パッケージ種別

パッケージの種類を示します。「ユーザプログラム、データ」、「日立プログラムプロダクト」、および「他社ソフトウェア」の3種類があります。

パッケージセットアップマネージャ

配布管理システム、または中継システムから受け取ったソフトウェアを、クライアント側で任意に選択してインストールするための機能です。インストールを拒否したり、インストール先のディレクトリを変更したりできます。

パッケージャ

リモートインストールするソフトウェアを配布管理システムに登録するプログラムです。

パッケージング

パッケージャを使用して、パッケージを作成することです。

パッチ情報ファイル

Microsoft 社のサーバからパッチを取得するための情報が記載されたファイルです。JP1/NETM/DM でパッチを取得する場合に必要です。パッチ情報ファイルは、JP1/NETM/DM が日立 Web サーバに接続して取得します。Microsoft 社からのパッチの提供状況に応じて更新されます。

日立 Web サーバ

Microsoft 社からパッチを取得するために必要な、パッチ情報ファイルを提供するサーバです。日立 Web サーバは、弊社サポートサービスが提供しています。日立 Web サーバへの接続には、弊社サポートサービスの契約による認証情報が必要です。

秘文連携機能

AIT ファイルを使用して、インストール済み JP1/ 秘文および秘文の詳細情報を取得したり、JP1/ 秘文および秘文のインストール可否をチェックしたりする機能です。また、JP1/ 秘文および秘文関連のログも収集できます。

ファイアウォール

インターネットと内部システムの境界に設置して、外部からの不正なアクセスが内部システムへ侵入することを防ぐものです。

複数 LAN 接続

複数の LAN で構成されたシステムに対応する JP1 の機能です。この機能を使うと、複数の LAN に接続されたホスト上で、JP1 の通信に使う LAN を設定できます。システムやほかのアプリケーションとは別に JP1 独自に通信設定できるので、多様なネットワーク構成や運用方法に柔軟に対応できます。なお、複数の LAN に接続したホストを、マルチホームホストや複数 NIC のホストと呼ぶこともあります。

JP1/NETM/DM では、次の複数 LAN 接続の環境での運用をサポートしています。

- 複数のネットワークに分かれている環境
- ネットワークが多重化されている環境

部署情報

「Asset Information Manager Limited」で、資産管理システムを利用する部門など、組織を管理するための情報です。部署情報は、「部署名」、「部署コード」、「原価コード」などを表します。

分割配布

ネットワークに負荷を掛けないためにユーザが指定したサイズで分割して転送し、かつ転送と転送の間にインターバル（転送休止時間）を置きながら配布する方法です。サイズは、セットアップ時とジョブの作成時、さらにパッケージの転送途中の中継地点でも指定できます。大容量のパッケージを配布する場合に有効です。

分掌

「Asset Information Manager Limited」で、部署の業務として、ほかの部署を管理するための情報です。分掌は部署ごとに複数設定できます。分掌をユーザに割り当てることで、そのユーザは分掌に設定された部署（分掌部署）の情報も管理できます。

分掌情報

「Asset Information Manager Limited」で、分掌に設定されている部署の情報です。

変更履歴

「Asset Information Manager Limited」で、機器のメモリサイズやディスク容量の変更を管理するための情報です。

CPU、メモリ、ディスクが物理的に不当に変更されていないかどうかを確認できます。変更履歴は、「変更日付」、「ディスク容量」、「メモリサイズ」、「CPU」などを表します。

ホスト

JP1/NETM/DM での操作の対象となる、ネットワークを構成する PC または WS です。

ホスト識別子

システム内でホストを一意に識別できるキーです。ネットワーク構成に左右されないため、システム管理者がホストを管理する負担を軽減できます。ホスト識別子を利用するにはリレーショナルデータベースが必要です。

ホスト探索

指定したネットワークの範囲内に存在するホストを探索する機能です。JP1/NETM/DM 未導入ホストを検出するときに実行します。

ポリシー

システム構成情報の自動反映機能によって新規にシステム構成に追加されたホストを、自動的にあて先グループまたは ID に振り分けるために、あらかじめ設定しておく条件です。

(マ行)

マネージャ

配布管理システムを階層化しているシステムで、システムの最上位に位置する JP1/NETM/DM Manager のことです。

マルチキャストアドレス

各マルチキャストグループに固有の IP アドレスです。マルチキャスト配布の送信側と受信側のセットアップで設定します。

マルチキャストグループ

マルチキャスト配布をするとき、ジョブの配布先となる概念上のグループです。マルチキャストアドレスというグループ固有の IP アドレスを持っています。上位システムがマルチキャストグループにジョブのパケットを送信すると、そのグループに所属している各クライアントに、パケットが配信されます。

マルチキャスト配布

ジョブの配布方式の一つです。IP マルチキャストプロトコルを利用して、上位システムから特定多数のクライアントへパケットを送信します。クライアントの数に関係なく、上位システムはマルチキャストグループ 1 か所だけにジョブのパケットを送信すればよいため、通信量を削減できます。

未適用パッチ情報

クライアントに適用されていないパッチの情報です。JP1/NETM/DM では、次の情報を未適用パッチ情報として扱いません。

- Microsoft Update によって提供されるセキュリティに関する更新プログラムのうち、クライアントに適用されていない更新プログラムの情報
- MBSA の mbsacli.exe コマンドを実行したスキャン結果のうち、最新のパッチが見つからなかった情報（スキャン結果で「NOT Found」と表示される情報）

(ヤ行)

ユーザインベントリ項目

ユーザインベントリ情報の入力項目です。配布管理システムで作成したユーザインベントリ項目は、ジョブを実行してクライアントに配布します。

ユーザインベントリ情報

クライアント独自の情報（氏名や PC の製造番号など）です。配布管理システムからジョブを実行して取得します。

ユニキャスト配布

ジョブの配布方式の一つです。上位システムからクライアントへ 1 対 1 でパケットを送信します。上位システムは、送信先のクライアントごとにジョブのパケットを送信する必要があるため、パケットの送信数は、クライアント数の増加に対応して増大します。

抑止履歴

クライアントで、ソフトウェアの起動、および印刷が抑止された履歴です。

(ラ行)

リモートインストール

パッケージングされたソフトウェアを、配布管理システムからクライアントシステムに転送し、インストールする機能です。

リモートインストールマネージャ

配布管理システムの GUI 部分のプログラムです。

リモートコレクト

クライアントにあるファイルを、配布管理システムに収集する機能です。配布管理システムから指示します。

リモートコントロール

配布管理システムから、クライアントを遠隔操作する機能です。

リモートコントロールエージェント

リモートコントロールで、リモートコントロールマネージャから遠隔操作される側の PC で実行させるプログラムです。

リモートコントロールマネージャ

リモートコントロールで、リモートコントロールエージェントの遠隔操作を指示する側のプログラムです。

リモートデスクトップ

このマニュアルでは、次に示す機能を「リモートデスクトップ」と呼んでいます。

- Windows Server 2012, Windows Server 2008, Windows Server 2003, Windows 8, Windows 7, Windows Vista, または Windows XP の「管理用リモート デスクトップ」または「リモート デスクトップ」
- Windows 2000 Server の「ターミナル サービス」

リレーショナルデータベース

JP1/NETM/DM Manager の情報の管理に使用するデータベースです。Embedded RDB, Microsoft SQL Server, または Oracle を使用できます。

レコーダファイル

専用のインストーラなどを使用して対話形式でソフトウェアをインストールするときの手順を記録したファイルです。JP1/NETM/DM では、一部の他社ソフトウェア用のレコーダファイルを提供しています。また、ユーザがレコーダファイルを作成することもできます。

ローカルシステムビューア

クライアントのハードウェアやソフトウェアに関する情報が参照できるウィンドウで、システム監視の状態、アラート履歴、システム情報、およびインストールされたソフトウェアが表示されます。これらの情報は、クライアントが上位システムと接続していなくても閲覧できるため、クライアントユーザによるローカルなシステム管理に利用できます。

索引

数字

- 32 ビット版 JP1/NETM/DM Client 368
- 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client〔用語解説〕 476
- 64 ビット版 JP1/NETM/DM Client の機能 368
- 64 ビット版 JP1/NETM/Remote Control Agent〔用語解説〕 476

A

- action 183
- AIT ファイル〔用語解説〕 476
- AMT 連携機能のログを確認する 250
- Asset Information Manager Limited〔用語解説〕 476
- Asset Information Manager Limited のデータベースのメンテナンス 204
- Asset Information Manager Limited のトラブルシューティング 276
- 「Asset Information Manager Limited」のトラブル情報の採取 299

B

- base_fullpath 176

C

- cabinet_id 174
- cabinet_name 174
- client_shutdown 142
- client_wake_up 142
- compress 148
- compress_type 148
- condition (システム条件) 180
- condition (ソフトウェア条件) 179
- condition (比較条件) 151
- CSV 出力ユティリティの差異 (JP1/Base 連携) 7
- CSV 出力ユティリティのテンプレートと帳票定義ファイルの関係 (EUR 連携) 442

D

- DBMS のトラブルの主な要因と対処〔Asset Information Manager Limited〕 286
- dcmcoll.exe 53
- dcmcsvu.exe 61
- dcmdice.exe 66
- dcmdici.exe 69

- dcmgpmnt.exe 73
- dcmhstwo.exe 75
- dcminst.exe 77
- dcmjbrm.exe 83
- dcmjexe.exe 86
- dcmmonrst.exe 89
- dcmpack.exe 95
- dcmpkget.exe 102
- dcmpkput.exe 106
- dcmpkrm.exe 108
- dcmrmgen.exe 110
- dcmrtry.exe 113
- dcmstat.exe 116
- dcmstdiv.exe 120
- dcmstsw.exe 122
- dcmsusp.exe 126
- dcmuidi.exe 130
- dcmwsus.exe 133
- destination_id 145
- directory 180
- directory_com 143
- directory_group 143
- directory_ou 143
- dmz_path 139

E

- Embedded RDB〔用語解説〕 476
- Embedded RDB のメンテナンス 198
- encipher 148
- EUR Print Service による帳票の印刷方法 448
- EUR Professional Edition による帳票の表示と印刷方法 448
- EUR Viewer による帳票の表示と印刷方法 447
- EUR と JP1/NETM/DM の連携 441
- EUR 連携の動作環境 442
- EUR を使ったインベントリ管理帳票の作成 441
- EUR を使った帳票の作成方法 444
- exit 183
- expiration_date 177
- expiration_days 177
- external_program_error_handler 183
- external_program_executed_after_installation 183
- external_program_executed_before_installation 183
- external_program_handler 183

F

FILE_COLLECTION 139
 file_path 176
 FILE_PROPERTIES 139
 format 150

G

generation 174
 group 143
 group_membership 151

H

host_name 143
 HP NNM から JP1/NETM/DM を管理する 23
 HP NNM と連携する場合に必要なソフトウェア 25
 HP NNM と連携する場合のシステム構成 24
 HTTP Gateway のイベントログメッセージ 269

I

ID〔用語解説〕 476
 ID 管理中継〔用語解説〕 476
 ID ジョブ〔用語解説〕 476
 installation_date_and_time 177
 INSTALLATION_METHOD 140
 installation_mode 140
 installation_script 179
 installation_timing 177
 InstallShield 環境削除ツール〔用語解説〕 476

J

JOB_ATTRIBUTE 141
 JOB_CLIENT_CONTROL 142
 JOB_DESTINATION 143
 JOB_DESTINATION_ID 145
 job_entry_date 146
 job_execution_date 146
 job_expiration_date 146
 job_folder 141
 job_generator 141
 JOB_SCHEDULE 146
 JOB_SPLIT_DELIVERY 147
 jobno 141
 JP1/AJS〔用語解説〕 476
 JP1/AJS と連携した自動運用の概要 43
 JP1/Base〔用語解説〕 477
 JP1/Base と連携して JP1/NETM/DM のユーザを管理する 1

JP1/Base と連携する場合のシステム構成 2
 JP1/Cm2/NNM と連携する場合に必要なソフトウェア 25
 JP1/Cm2/NNM と連携する場合のシステム構成 24
 JP1/Cm2 から JP1/NETM/DM を管理する 23
 JP1/Cm2 または HP NNM〔用語解説〕 477
 JP1/Cm2 連携機能を使用する場合の注意事項 28
 JP1/IM〔用語解説〕 477
 JP1/IM から JP1/NETM/DM を管理する 13
 JP1/IM との権限の共有 (JP1/Base 連携) 12
 JP1/NetInsight II -PortDiscovery〔用語解説〕 477
 JP1/NETM/Asset Information Manager〔用語解説〕 477
 JP1/NETM/Audit - Manager〔用語解説〕 477
 JP1/NETM/DM Client (クライアント) 全体のログ 260
 JP1/NETM/DM Client (クライアント) のイベントログメッセージ 320
 JP1/NETM/DM Client (クライアント) のトラブルシューティング 259
 JP1/NETM/DM Client (クライアント) のバックアップ 216
 JP1/NETM/DM Client (クライアント) の復元 219
 JP1/NETM/DM Client (中継システム) のイベントログメッセージ 314
 JP1/NETM/DM Client (中継システム) のバックアップ 215
 JP1/NETM/DM Client (中継システム) の復元 218
 JP1/NETM/DM Inventory Viewer の構成 (JP1/Cm2 連携) 34
 JP1/NETM/DM Job Viewer の構成 (JP1/Cm2 連携) 38
 JP1/NETM/DM Manager のイベントログメッセージ 304
 JP1/NETM/DM Manager の自動バックアップ 212
 JP1/NETM/DM Manager の手動バックアップ 209
 JP1/NETM/DM Manager のトラブルシューティング 247
 JP1/NETM/DM Manager の復元 217
 JP1/NETM/DM が NNM に通知する情報 33
 JP1/NETM/DM システム〔用語解説〕 477
 JP1/NETM/DM の運用を開始するまでの流れ (JP1/Base 連携) 10
 JP1/NETM/DM のシンボル (JP1/Cm2 連携) 31
 JP1/NETM/DM の設定情報の採取 298
 JP1/NETM/DM のトラブル情報の採取 299
 JP1/NETM/DM 未導入ホスト〔用語解説〕 477
 JP1/ 秘文 CG Pro〔用語解説〕 477
 JP1/ 秘文 IC〔用語解説〕 477
 JP1/ 秘文 IF〔用語解説〕 477

JP1/ 秘文 IS〔用語解説〕 477
 JP1 イベント〔用語解説〕 478
 JP1 イベントの拡張属性 (JP1/IM 連携) 19
 JP1 イベントの基本属性 (JP1/IM 連携) 19
 JP1 イベントの種類 (JP1/IM 連携) 17
 JP1 イベントの属性 (JP1/IM 連携) 18
 JP1 権限レベル 4
 JP1 ユーザ〔用語解説〕 478
 JP1 ユーザに設定できる権限と機能差異 (JP1/Base
 連携) 4
 JP1 ユーザの設定方法 (JP1/Base 連携) 10

L

lower_clients 143

M

MAIN.LOG ファイルを確認する (JP1/NETM/DM
 Client (クライアント)) 260
 MAIN.LOG ファイルを確認する (JP1/NETM/DM
 Manager および JP1/NETM/DM Client (中継シス
 テム)) 248
 Microsoft SQL Server〔用語解説〕 478
 Microsoft SQL Server または Oracle のメンテナンス
 202
 MONRST.LOG ファイルを確認する 252

O

OPTION 148
 OUTPUT_CONSTRAINTS 150

P

package_code 174
 package_id 174
 package_name 174
 PACKAGING_INFORMATION 174
 PACKAGING_SOURCE 176
 permission 140
 processing_dialog 148

R

RDBSRV.LOG ファイルを確認する 249
 RD エリア〔用語解説〕 478
 reboot 148
 restore 148
 row 151

S

SCHEDULE 177
 SCRIPTS 179
 SOFTWARE_CONDITIONS 179
 source_path 139
 split_size 147
 SQL〔用語解説〕 478
 SYSTEM_CONDITIONS 180

T

template 150
 timeout 183

U

unarc_path 139
 unicode 151
 unsuspended 141
 USER_CLT.LOG ファイルの形式 334
 USER_PROGRAM_INSTALLATION_CONDITION
 S 183

V

version_revision 174
 Visual Test〔用語解説〕 478

W

wait 183
 wait_code 183
 wait_time 147
 Wake on LAN〔用語解説〕 478
 Web サーバのトラブルの主な要因と対処〔Asset
 Information Manager Limited〕 285
 Web ブラウザのトラブルの主な要因と対処〔Asset
 Information Manager Limited〕 289
 Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・
 Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/
 NETM/DM Client〔用語解説〕 478
 Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・
 Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/
 NETM/DM Client の機能 360
 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client〔用語解説〕
 478
 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client が正常に動作
 しないときの対処 275
 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client でのマルチ
 ポーリング 412
 Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client の機能 389

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client のトラブル
シューティング 270

Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client を使用する
411

Windows NT のイベントログを確認する (JP1/
NETM/DM Client (クライアント)) 260

Windows NT のイベントログを確認する (JP1/
NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM
Client (中継システム)) 247

WMI 情報の採取 300

あ

アーカイブ〔用語解説〕 478

アップデートデータをパッケージングする 416

アップデートデータをリモートインストールするジョ
ブを作成, 実行する 418

あて先グループ〔用語解説〕 478

アプリケーションゲートウェイ方式〔用語解説〕 478

アラート通知〔用語解説〕 478

アンアーカイバ〔用語解説〕 479

アンインストール (64 ビット版 JP1/NETM/DM
Client) 386

アンインストール (Windows CE 版 JP1/NETM/DM
Client) 411

い

イベントログメッセージ一覧 304

インストール (64 ビット版 JP1/NETM/DM Client)
371

インストール (Windows 8・Windows Server 2012・
Windows 7・Windows Server 2008・Windows
Vista 版 JP1/NETM/DM Client) 363

インストール (Windows CE 版 JP1/NETM/DM
Client) 401

インストールスクリプト〔用語解説〕 479

インストールスクリプト関連のログ 261

インストールスクリプトの LogFile 関数出力のログ
262

インストール済み秘文製品の詳細情報の取得 423

インストールソフトウェア情報〔用語解説〕 479

インストールソフトウェアリスト〔用語解説〕 479

インストールタイミング〔用語解説〕 479

インストール内容の変更 (64 ビット版 JP1/NETM/
DM Client) 385

インストールモード〔用語解説〕 479

インベントリ情報〔用語解説〕 479

インベントリレビューア〔用語解説〕 479

インベントリレビューア関連のログを確認する 249

う

運用上のメンテナンス 229

え

エラーコード一覧 (Windows CE 版 JP1/NETM/DM
Client) 270

エラージョブの詳細情報を確認する方法 235

エラージョブを効率的に確認する方法 236

エラー発生時のシンボルへの反映 (JP1/Cm2 連携)
33

お

オフラインインストール〔用語解説〕 479

オフラインフォルダ〔用語解説〕 479

オフラインマシン〔用語解説〕 479

オフラインマシン情報〔用語解説〕 480

か

外部メディア操作〔用語解説〕 480

各拠点のファイルを収集し, 加工して再配布する
(JP1/AJS 連携) 44

各バージョンの変更内容 460

稼働監視印刷抑止アラートイベントの拡張属性の詳細
情報 21

稼働監視操作履歴削除アラートイベントの拡張属性の
詳細情報 21

稼働監視ソフトウェア起動抑止アラートイベントの拡
張属性の詳細情報 21

稼働監視不正デバイス接続アラートイベントの拡張属
性の詳細情報 20

稼働監視ポリシー〔用語解説〕 480

監査ログ〔用語解説〕 480

監査ログに出力される事象の種別 453

監査ログの出力 453

監査ログの出力形式 453

監査ログの保存形式 453

監査ログを出力するための設定 459

監視をお勧めするイベントログメッセージの要因と対
処 321

き

機能差異 (64 ビット版 JP1/NETM/DM Client) 370

機能差異 (Windows 8・Windows Server 2012・
Windows 7・Windows Server 2008・Windows
Vista 版 JP1/NETM/DM Client) 362

キャビネット〔用語解説〕 480

業務フィルター〔用語解説〕 480

 く

クライアント〔用語解説〕 480
 クライアントアラートイベント (JP1/IM 連携) 18
 クライアントアラートイベントの拡張属性の詳細情報 (JP1/IM 連携) 20
 クライアント制御〔用語解説〕 480
 クライアントの基本ログ 259
 クライアントの基本ログメッセージ一覧 334
 クライアントのシンボル (JP1/Cm2 連携) 32
 クラスタシステム環境でのデータベースのメンテナンス 206
 クラスタシステム環境での配布管理システムの起動と停止 229
 クラスタシステムの設定変更 196
 クラスタシステムのバックアップと復元 220

 け

結果出力ファイル 49
 検索パターン〔用語解説〕 480

 こ

更新プログラム〔用語解説〕 480
 コマンド 41
 コマンド実行時の入出力情報 (JP1/AJS 連携) 48
 コマンドのエラー情報の確認方法 (JP1/AJS 連携) 49
 コマンドの種類 (JP1/AJS 連携) 46
 コマンドの入力形式 (JP1/AJS 連携) 49
 コマンドを実行するための設定 (JP1/Base 連携) 11
 コレクトスクリプト〔用語解説〕 480
 コレクトファイル〔用語解説〕 481

 さ

サーバダウンイベント (JP1/IM 連携) 18
 削除ソフトウェア管理テーブル〔用語解説〕 481

 し

資源登録システム〔用語解説〕 481
 資産情報〔用語解説〕 481
 システム監視〔用語解説〕 481
 [システム監視]アイコン〔用語解説〕 481
 システム構成 (64 ビット版 JP1/NETM/DM Client) 368
 システム構成 (JP1/Base 連携) 2
 システム構成 (Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client) 360

システム情報〔用語解説〕 481
 システムの設定変更 196
 システムのバックアップと復元 209
 システムのバックアップと復元に使用するコマンド 221
 システムのメンテナンス 195
 実行できるコマンドの差異 (JP1/Base 連携) 8
 実行できるジョブの差異 (JP1/Base 連携) 7
 自動メンテナンスポリシーファイル〔用語解説〕 481
 集計〔用語解説〕 481
 上位システムアドレス格納ファイル〔用語解説〕 481
 上位接続先情報ファイル 263
 障害情報の確認 (Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client) 275
 使用するときの注意事項 (Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client) 365
 使用できる機能 (Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client) 391
 使用できるコンポーネント (64 ビット版 JP1/NETM/DM Client) 370
 使用できるコンポーネント (Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client) 362
 使用できる操作の差異 (JP1/Base 連携) 5
 ジョブ〔用語解説〕 481
 ジョブ完了イベント (JP1/IM 連携) 17
 ジョブ結果のリターンコード 239
 ジョブのトラブルシューティング 235
 指令完了イベント (JP1/IM 連携) 17
 指令完了イベントの拡張属性の詳細情報 (JP1/IM 連携) 20
 シンボルの確認方法 (JP1/Cm2 連携) 29
 シンボルの削除のタイミング (JP1/Cm2 連携) 32
 シンボルの追加のタイミング (JP1/Cm2 連携) 32

 す

ステータス・イベントブラウザからの確認 (JP1/Cm2 連携) 40

 せ

正常に動作しないときの対処 (JP1/NETM/DM Client (クライアント)) 264
 正常に動作しないときの対処 (JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム)) 253
 正常に動作しないときの対処 (Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client) 275
 セキュリティ PC〔用語解説〕 482

セキュリティ PC だけを含めたあて先グループを作成する 417
 セキュリティ PC へのリモートインストール 415
 セキュリティ PC へのリモートインストールに必要な条件 415
 セキュリティ PC へのリモートインストールの流れ 415
 接続先の自動変更関連のログ 263
 設定できる権限 (JP1/Base 連携) 4
 セットアップ (Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client) 365
 全あて先〔用語解説〕 482

そ

操作履歴〔用語解説〕 482
 操作ログ〔用語解説〕 482
 [操作ログ一覧] ウィンドウ〔用語解説〕 482
 そのほかの日立プログラムプロダクトをリモートインストールしたときの保守コード 242
 ソフトウェアインベントリ辞書〔用語解説〕 482
 ソフトウェア検索リスト〔用語解説〕 482
 ソフトウェア情報〔用語解説〕 483
 「ソフトウェア情報の取得」ジョブ実行時の保守コード 244

た

ターミナルサーバ〔用語解説〕 483
 タグの指定方法 (JP1/AJS 連携) 138
 タグの種類 (JP1/AJS 連携) 137
 他社ソフトウェアのリモートインストール時の保守コード 243

ち

中継システム〔用語解説〕 483
 中継システムのシンボル (JP1/Cm2 連携) 32
 中継するシステム〔用語解説〕 483
 中継ダウンイベント (JP1/IM 連携) 18
 中継マネージャ〔用語解説〕 483
 帳票フォームのカスタマイズ (EUR 連携) 449
 重複ホスト〔用語解説〕 483

つ

通信設定の情報の採取 300

て

ディレクトリ情報〔用語解説〕 483

ディレクトリ情報の採取 300
 データベースのメンテナンス 198
 データベースマネージャ〔用語解説〕 483
 デバイス操作〔用語解説〕 483

と

ドメイン〔用語解説〕 483
 ドライブ文字の指定方法 (Windows CE 版 JP1/NETM/DM Client) 401
 トラブルシューティング 233
 トラブルシューティングの流れ〔Asset Information Manager Limited〕 276
 トラブルの回復〔Asset Information Manager Limited〕 296
 トラブル発生時の対処方法 234
 トラブル要因の特定〔Asset Information Manager Limited〕 277

に

認証サーバ〔用語解説〕 484
 認証サーバでのユーザ設定 (JP1/Base 連携) 10

ね

ネットワーク構成情報ファイル〔用語解説〕 484
 ネットワーク情報〔用語解説〕 484

の

ノードサブマップからの確認 (JP1/Cm2 連携) 38

は

ハードウェアに関する見積もり (64 ビット版 JP1/NETM/DM Client) 369
 ハードウェアに関する見積もり (Windows 8・Windows Server 2012・Windows 7・Windows Server 2008・Windows Vista 版 JP1/NETM/DM Client) 361
 配布管理システム〔用語解説〕 484
 配布管理システムとの連携時のトラブルの主な要因と対処〔Asset Information Manager Limited〕 291, 295
 配布管理システムのチューニング項目の設定変更 196
 パケットフィルタリング方式〔用語解説〕 484
 パッケージ〔用語解説〕 484
 パッケージ種別〔用語解説〕 484
 パッケージセットアップマネージャ〔用語解説〕 484
 パッケージャ〔用語解説〕 484

パッケージング〔用語解説〕 484
 パッチ情報ファイル〔用語解説〕 484
 パラメタファイル (JP1/AJS 連携) 49
 パラメタファイルの形式 (JP1/AJS 連携) 137
 パラメタファイルの作成 (JP1/AJS 連携) 137

ひ

日立 Web サーバ〔用語解説〕 484
 必要なプログラム (JP1/Base 連携) 2
 秘文製品のインストール 433
 秘文製品のインストールチェック 428
 秘文製品の内部ログの収集 438
 秘文連携機能〔用語解説〕 485
 秘文連携機能を使用した JP1/ 秘文および秘文の管理
 421
 秘文連携機能を使用する前に 421

ふ

ファイアウォール〔用語解説〕 485
 ファイルの更新を検知して自動的にリモートインス
 トールする (JP1/AJS 連携) 43
 複数 LAN 接続〔用語解説〕 485
 部署情報〔用語解説〕 485
 不要な情報削除によるメンテナンス 230
 分割配布〔用語解説〕 485
 分掌〔用語解説〕 485
 分掌情報〔用語解説〕 485

へ

変更履歴〔用語解説〕 485

ほ

ポーリング対象システム 413
 保守コード一覧 237
 保守資料の採取 298
 ホスト〔用語解説〕 485
 ホスト識別子〔用語解説〕 485
 ホスト探索〔用語解説〕 485
 ポリシー〔用語解説〕 485

ま

マネージャ〔用語解説〕 486
 マネージャまたは中継マネージャのシンボル (JP1/
 Cm2 連携) 31
 マルチキャストアドレス〔用語解説〕 486
 マルチキャストグループ〔用語解説〕 486
 マルチキャスト配布〔用語解説〕 486

マルチポーリングでの Windows CE 版 JP1/NETM/
 DM Client の動作 413

み

未適用パッチ情報〔用語解説〕 486

め

メッセージ 303
 メンテナンスウィザード (64 ビット版 JP1/NETM/
 DM Client) 385

ゆ

ユーザインストール (Windows CE 版 JP1/NETM/
 DM Client) 401
 ユーザインベントリ項目〔用語解説〕 486
 ユーザインベントリ情報〔用語解説〕 486
 「ユーザインベントリ情報の転送」ジョブ実行時の保
 守コード 245
 ユーザ認証が必要になる機能 (JP1/Base 連携) 4
 ユニキャスト配布〔用語解説〕 486

よ

用語解説 476
 抑止履歴〔用語解説〕 486
 予約語の指定方法 (JP1/AJS 連携) 189
 予約語の使用例 (JP1/AJS 連携) 190
 予約語を使用する場合の注意事項 (JP1/AJS 連携)
 189

り

リモートインストール〔用語解説〕 486
 リモートインストール (Windows CE 版 JP1/NETM/
 DM Client) 401
 リモートインストール時の保守コード 238
 リモートインストールのエラーを検知しリトライする
 (JP1/AJS 連携) 43
 リモートインストールマネージャ〔用語解説〕 486
 リモートインストールマネージャの起動 (JP1/IM 連
 携) 14
 リモートインストールマネージャの差異 (JP1/Base
 連携) 6
 リモートインストールマネージャを起動するための環
 境設定 (JP1/IM 連携) 14
 リモートコレクト〔用語解説〕 487
 リモートコントロール〔用語解説〕 487
 リモートコントロールエージェント〔用語解説〕 487
 リモートコントロールマネージャ〔用語解説〕 487

リモートデスクトップ〔用語解説〕 487

リレーショナルデータベース〔用語解説〕 487

れ

レコーダファイル〔用語解説〕 487

ろ

ローカルシステムビューア〔用語解説〕 487

ログ情報の採取 298

ログファイルの確認 (JP1/NETM/DM Client (クライアント)) 259

ログファイルの確認 (JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client (中継システム)) 247

ログファイルの確認 (インターネットオプション) 268